高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２３年６月

沼津工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・　2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５
基準３　教員及び教育支援者等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
基準４　学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３１
基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４７
基準６　教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８９
基準７　学生支援等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２５
基準８　施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５１５
基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３９
基準10　財務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５７３
基準11　管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８９

Ⅰ　対象高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）対象校名　沼津工業高等専門学校

（２）所 在 地　静岡県沼津市大岡3600

（３）学科等構成

学　科：機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科，物質工学科

専攻科：機械・電気システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，応用物質工学専攻

（４）学生数及び教職員数（平成23年５月１日現在）

学 生 数：準学士課程1,047名，専攻科課程62名

教職員数：教員　81名（校長含む）

職員　47名

２　特徴

沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，産業界からの強い要望に応えるため，昭和 37 年４月に２学科（機械工学科，電気工学科）で創設された。以後，時代の要請に伴い，昭和 41 年に工業化学科を設置，昭和 61 年に電子制御工学科を設置，平成元年に工業化学科を物質工学科に改組，平成４年に機械工学科の１学級を制御情報工学科に改組，平成８年に専攻科（３専攻）を設置，平成 11 年に電気工学科を電気電子工学科に名称変更し，準学士課程５学科，専攻科課程３専攻として現在に至っている。

本校では，創設以来，「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」との教育理念の下，静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として，地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ，時代の変化に即応しながら，豊かな人間性を形成する教養教育に力を入れ，専門教育においては，実験・実習及び情報技術を重視した体験的早期専門教育を行い，幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成することを目的に教育を行っている。

この教育理念及び目的に基づき，(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うとともに，(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者，(3)実験・実習及び情報技術を重視し，社会の要請に応え得る実践的技術者，(4)教員の活発な研究活動を背景に，創造的技術者の養成を教育方針に掲げ，「進取の気風に富み，幅の広い豊かな教養と質の高い専門の工業技術の知識を身に付け，新たな発想の下に，技術革新を担うことができ，企業から信頼される指導的な実践的技術者の養成」を実践することにより，工業系を中心とした産業界に有益な人材を輩出してきた。

準学士課程においては，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的として，一般科目と専門科目を楔形に編成し，５年間一貫教育で効果的な専門教育を実施している。また，準学士課程の成果を基礎としてさらに高度な知識と技術の習得を目指す専攻科課程においては，研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に，創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに，産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い，地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的として，実践的・創造的教育を行っている。

一方，本校の特徴の一つに，前述の教育方針にも掲げた「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うこと」があり，入学後２年間の学生寮入寮を原則義務付けている。寮生の生活指導には，専任の寮監を配置し，全教員の輪番による宿直とともに，寮務担当教員と学生課寮務係の職員が当たり，また，寮生が組織する「寮生会」の自治も効果的に機能し，共同生活による学生の社会性の向上に寄与している。

また，平成16年度に設置された地域共同テクノセンターを核として，産業界や地域社会との連携を強化し，ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者を養成するために，地域企業との共同研究・受託研究が活発に行われている。共同研究・受託研究のテーマが卒業研究・専攻科研究のテーマとして学生の教育の一環として進められることにより，総合開発能力の育成及びプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の育成に成果を挙げている。

平成21年度に採択された文部科学省科学技術振興調整費事業（地域再生人材創出拠点の形成）「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は，静岡県が沼津市を中心とする県東部地域に展開している「ファルマバレープロジェクト」の推進による地域再生計画を人材育成面から支援している。沼津高専が中心となり東海大学開発工学部、ファルマバレーセンター、地域医療機関、産業界及び行政と連携して、中小企業技術者を医用機器開発の中核となるエンジニアに養成している本プログラムは、異分野融合による高専教育の分野の拡大を具現化するものであり各界から注目されている。

Ⅱ　目的

沼津工業高等専門学校の使命

本校は「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」を教育理念として掲げ、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた社会から信頼される、指導力ある実践的・創造的技術者を養成し、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として地域の文化と産業の進展に寄与し、ひいては日本の産業界に有為な貢献をなす人材を世に送り出すことを使命とする。

教育研究活動の目的、方針、学習・教育目標、養成すべき人材像

１．教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

２．教育方針

（１）低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。

（２）コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。

（３）実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。

（４）教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

３．学習・教育目標

本校は、学習・教育目標として、学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

（１）技術者の社会的役割と責任を自覚する態度

（２）自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力

（３）工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力

（４）豊かな国際感覚とコミュニケーション能力

（５）実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

４．養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

学科・専攻科等ごとの目的、目標

上記の教育目的、学習・教育目標は準学士課程全体に共通であり、さらに教養科、専門学科ごとに目的を以下のように設定している。専攻科では、上記の教育目的、学習・教育目標を基盤に、より具体化した高い目的、教育目標を設定している。

１．準学士課程

○ 教 養 科

専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

○ 専門学科

（１）**機械工学科**

機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（２）**電気電子工学科**

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（3）**電子制御工学科**

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（4）**制御情報工学科**

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（5）**物質工学科**

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

２．専攻科課程

高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

この目的を実現するため、本校の学習・教育目標を基礎において、より具体化した高い教育目標を以下のように設けている。

（1）社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力（工学倫理の自覚と多面的考察力）

（2）数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）

（3）工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）

（4）コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）

（5）産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

専攻ごとの目的は以下のとおりである。

（1）**機械・電気システム工学専攻**

機械工学、電気電子工学を中心に深く学修し、さらに制御工学、コンピュータ工学、材料工学、および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

（2）**制御・情報システム工学専攻**

制御工学、コンピュータ工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、材料工学、および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

（3）**応用物質工学専攻**

材料工学、生物工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、制御工学、およびコンピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校は，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，豊かな教養と専門の工学とを身につけた有為な実践的技術者の育成を使命とした高等教育機関として，静岡県東部地域産業界の強い要請と期待を背景に昭和37年に創設された。幅広い産業分野を抱える静岡県東部地域において，産業界との連携を強く持ち，地域の文化と産業の進展に寄与することができる人材を養成することを特色とする。その使命を果たすため，学則第１条において高等専門学校一般に求められる本校の目的を定め（資料１－１－①－１），それを核にして，本校の教育理念，教育目的，教育方針，学習教育目標，養成すべき人材像を定めている。

資料１－１－①－１

沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第１章　本校の目的

第１条　本校は，教育基本法の精神にのっとり，学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　本校公式ウェブサイト、本校規則集）

平成 20 年５月に「沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則」を制定し，本校の教育理念，教育目的，教育方針，学習教育目標，養成すべき人材像，教養科・各専門学科の教育目的，本校の学生受入方針を明確に定めている（資料１－１－①－２）。

資料１－１－①－２

沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則

○沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則

（平成 20.5.14 制定）

第１条　本規則は，教育基本法（昭和２２年法律第２５号），学校教育法（昭和２２年法律第２６号）及び高等専門学校設置基準(昭和３６年文部省令第２３号)等関係法令の規定に基づき，沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育理念等について定め，もって教育活動の適正かつ円滑な運営を図ることを目的とする。

第２条　本校の教育理念は，次のとおりとする。

（１）人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。

第３条　本校の教育目的は，次のとおりとする。

（１）豊かな人間性を備え，社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い，もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

第４条　本校の教育方針は，次のとおりとする。

（１）低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて，全人教育を行う。

（２）コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。

（３）実験・実習及び情報技術を重視し，社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。

（４）教員の活発な研究活動を背景に，創造的な技術者の養成を行う。

第５条　本校は，学習・教育目標として，学生が以下の能力，態度，姿勢を身に付けることを目標とする。

（１）技術者の社会的役割と責任を自覚する態度

（２）自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力

（３）工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力

（４）豊かな国際感覚とコミュニケーション能力

（５）実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

第６条　本校の養成すべき人材像は，次のとおりとする。

（１）社会から信頼される，指導力ある実践的技術者

第７条　教養科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ，健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

第８条　機械工学科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）機械の開発・設計・製造の分野において，自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第９条　電気電子工学科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において，自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第１０条　電子制御工学科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において，自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第１１条　制御情報工学科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において，自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第１２条　物質工学科の教育目的は，次のとおりとする。

（１）化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において，自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

第１３条　本校の学生受入方針は，次のとおりとする。

（１）科学技術に興味を持ち，入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人

（２）自ら学習し，科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人

（３）科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人

（４）他人の言うことをよく聞き，自分の意見をはっきりと言える人

附　則

この規則は，平成２０年５月１４日から施行し，平成２０年４月１日から適用する。

（出典　本校公式ウェブサイト、本校規則集）

専攻科の目的は学則の第 45 条に定められ，本校の教育目的を基盤に研究指導を通じて人材育成を行うことをもって地域社会の産業と文化の進展に寄与するとしている。その目的を実現するための教育目標を学則第 46 条の４に明確に定めている（資料１－１－①－３）。さらに，専攻科の教育目標を実践するための指針として，具体的達成目標を「沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針」として定めている（資料１－１－①－４）。各専攻の目的（資料１－１－①－５）は平成 23 年２月にスローガンとして定め，本校公式ウェブサイトに開示した。

資料１－１－①－３

沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第４５条　専攻科は，高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ，研究指導を通じ工学に関する深い専門性を基に，創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに，産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い，もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

第４６条の４　専攻科は，第４５条の目的を実現するため，次の各号に掲げる教育目標の達成に努めなければならない。

(1)　社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力（工学倫理の自覚と多面的考察力）

(2)　数学，自然科学及び情報技術を応用し，活用する能力を備え，社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）

(3)　工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）

(4)　コミュニケーション能力を備え，国際社会に発信し，活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）

(5)　産業の現場における実務に通じ，与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

（出典　本校公式ウェブサイト、本校規則集）

資料１－１－①－４

専攻科　学習・教育目標の実践指針

学習・教育目標の実践指針

本専攻科の学習・教育目標は沼津高専学則 第 46 条の 4 に定める″A～E″である。これらの目標を理解し実践するために，各項目に分項目“1～4”等を付して実践指針とする。

A. 社会的責任の自覚と，地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。

（工学倫理の自覚と多面的考察力）

１．技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し,技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。

２．最近の工学倫理上の事例を挙げ,問題点と課題を理解し，技術者として適切に対応する方法について提案することができる。

３．二つ以上の異なる文化，価値観に基づく，工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し，説明できる。

４．これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

B. 数学，自然科学，情報技術を応用し，活用する能力を備え，社会の要求に応える姿勢を身につける。

（社会要請に応えられる工学基礎学力）

１．代表的な物理・化学現象を，数学または情報処理の知識を用いて解析し，その応用例を示すことができる。

２．ワープロ，表計算ソフト，データベースソフト，プレゼンソフトを活用して，学習・研究上の資料を処理し，管理することができる。

３．実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し，そこから現象の法則性を抽出することができる。

４．自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として，シミュレーションすることができる。

C. 工学的な解析・分析力，及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。

（工学専門知識の創造的活用能力）

１．工学技術の基礎的な知識・技術を統合し，創造性を発揮して課題を探求し，組み立て，解決することができる。

２．自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ，いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，その重要性を説明・説得することができる。

３．自己の取り組む研究課題に関して，工学技術上の機能的評価のみならず，安全性，経済性，環境負荷を考慮した社会的評価ができる。

４．社会のニーズを工学技術に反映させる過程で，必要とされるデザイン能力について理解し，説明できる。 ここで，デザイン能力とは，単なる設計図面制作の能力ではなく，構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み，実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

D. コミュニケーション能力を備え，国際社会に発信し，活躍できる能力を身につける。

（国際的な受信・発信能力）

１．日本語で，自己の学習・研究活動の経過を報告し，質問に答えることができる。

２．自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E. 産業の現場における実務に通じ，与えられた制約の下で実務を遂行する能力，および自主的，継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。

（産業現場における実務への対応能力と，自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

１．指定された期限内に，課題を提出できる。

２．工学技術に関する課題について，チームで取り組み，その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。

３．自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を，定期的・継続的に読むことができる。

４．自主的なゼミ・研究会を組織して，学習・研究活動を行うことができる。

（出典　本校公式ウェブサイト、専攻科規則集）

資料１－１－①－５

専攻科各専攻の目的

●機械・電気システム工学専攻

機械工学，電気電子工学を中心に深く学修し，さらに制御工学，コンピュータ工学，材料工学，および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

●制御・情報システム工学専攻

制御工学，コンピュータ工学を中心に深く学修し，さらに機械工学，電気電子工学，材料工学，および生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

●応用物質工学専攻

材料工学，生物工学を中心に深く学修し，さらに機械工学，電気電子工学，制御工学，およびコンピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成される能力を身につけた技術者を育成する。

（出典　本校公式ウェブサイト、専攻科概要）

（分析結果とその根拠理由）

学校教育法に基づき目的を定め，それの実現のために，本校の教育理念，教育目的，教育方針，学習教育目標，養成すべき人材像，教養科・各専門学科及び，専攻科の目的，教育目標，教育目標の実践指針，各専攻の目的を資料に示すとおり全て明確に定めている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教職員に対しては，学生便覧（資料１－２－①－１）の配布と本校公式ウェブサイト（資料１－２－①－２）により周知し，特に新任教職員に対しては，本校概要（資料１－２－①－３）及び新任教職員オリエンテーション（資料１－２－①－４）で説明し周知している。学生に対しては，学生便覧（資料１－２－①－１）の配布と，特に新入生に対しては新入生オリエンテーション（資料１－２－①－５）で説明し周知している。本校の教育理念と学習・教育目標が日常的に教職員及び学生の目に触れるようにし周知度の向上を図る目的で，平成22年度末にパネル（資料１－２－①－６）を作成し校内の主だった場所に掲示した。

資料１－２－①－１

教育理念等を掲載した学生便覧表紙裏面



教　育　理　念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教　育　目　的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教　育　方　針

1　低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2　コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3　実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4　教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする
1　技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2　自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3　工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4　豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5　実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

（出典　平成 23 年度学生便覧表紙裏面）

資料１－２－①－２

教育理念等を掲載した本校公式ウェブサイトの該当部分

NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

POLICY

－沼津工業高等専門学校教育理念、教育方針等－

教育理念

「人柄のよい優秀な技術者となって
世の期待にこたえよ」

教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与すること。

教育方針

一、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
一、コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
一、実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
一、教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。
一、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
一、自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
一、工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
一、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
一、実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

学生受入方針

一、科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
一、自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
一、科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
一、他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料１－２－①－３

教育理念等を掲載した沼津高専概要の該当ページ

独立行政法人国立高等専門学校機構　沼津工業高等専門学校
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY



- 所在地　静岡県沼津市大岡3600
- 創　立　昭和37年4月1日
- 学　科　・機械工学科
  ・電気電子工学科
  ・電子制御工学科
  ・制御情報工学科
  ・物質工学科
- 修業年限　5年
- 専攻科　・機械・電気システム工学専攻
  ・制御・情報システム工学専攻
  ・応用物質工学専攻
- 修業年限　2年
- 学生定員　1,040名
- 施　設　・敷地　89,599㎡
  ・建物　35,538㎡

教育理念　人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教育方針

1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。
1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢



養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

各科教育目的

教養科
専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成すること。

機械工学科
機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

電気電子工学科
電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

電子制御工学科
電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

制御情報工学科
コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

物質工学科
化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

学生受入方針

1 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
2 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
3 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
4 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

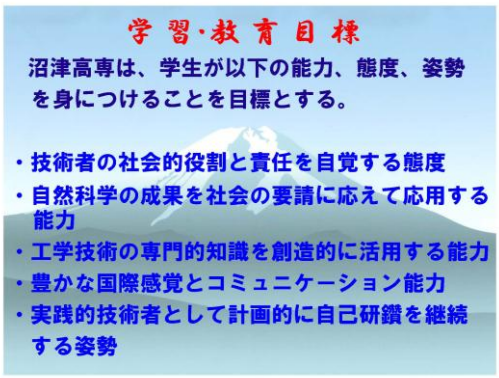
2

（出典　平成 23 年度 沼津工業高等専門学校概要 P. 2）

資料１－２－①－４

新任教職員オリエンテーションでの教育理念等の周知

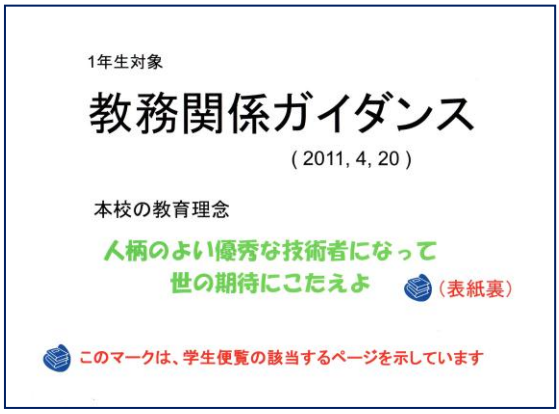


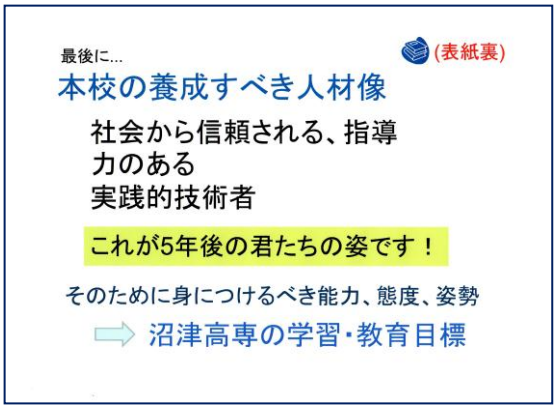


（出典　平成 23 年度 新任教職員オリエンテーション スライド資料）

資料１－２－①－５

新入生オリエンテーションでの教育理念等の周知





（出典　平成 23 年度 新入生オリエンテーション スライド資料）

資料１－２－①－６

教育理念，学習・教育目標，専攻科教育目標掲示パネル





各学科等の教育目的は，学生便覧（資料１－２－①－７）に学科等の概要紹介とともに掲載している。本校公式ウェブサイトの学科案内（資料１－２－①－８）で各学科の概要紹介を掲載し，その中にも各学科等の目的を説明している。

資料１－２－①－７

学科の教育目的

１．学科の教育目的と概要

教　養　科

（教育目的）専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

（概要）沼津高専には５つの学科がありますが、どの学科に属する学生でも共通で学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。一般科目には大きく分けて２つの目的があります。ひとつは所属する学科の科目（専門科目）を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。

教育内容は、高等学校および大学の教養課程において教えられるほとんどの教科を含んでいます。工学の基礎としての数学と、国際的なコミュニケーション能力を養うための語学には多くの授業時間が充てられていますが、これら以外にも、理科、国語、社会、芸術、保健体育などの科目が、第１学年から第５学年までに、専門科目とのバランスを考えながら機能的に配置されています。

授業内容の特徴としては、知識の習得にとどまらず、実際に役に立てる力を身につけることに重点をおいています。そのため、作業、実習、実験、レポートによる報告等を多く採用しています。さらに専門科目の基礎としての性格の強い数学、物理、化学では、専門科目の学習へスムーズに移行できるよう配慮しています。

一般科目を主に担当している教員の組織が教養科です。高度な専門知識に裏付けられた確かな教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術そして的確な判断力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

機 械 工 学 科

（教育目的）機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を育成することを目的とする。

（概要）機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

低学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また全学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした主要科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学

(83)

（出典　平成 23 年度 学生便覧 P. 83）

資料１－２－①－８

学科の目標等を掲載したウェブサイトの該当部分（機械工学科の例）

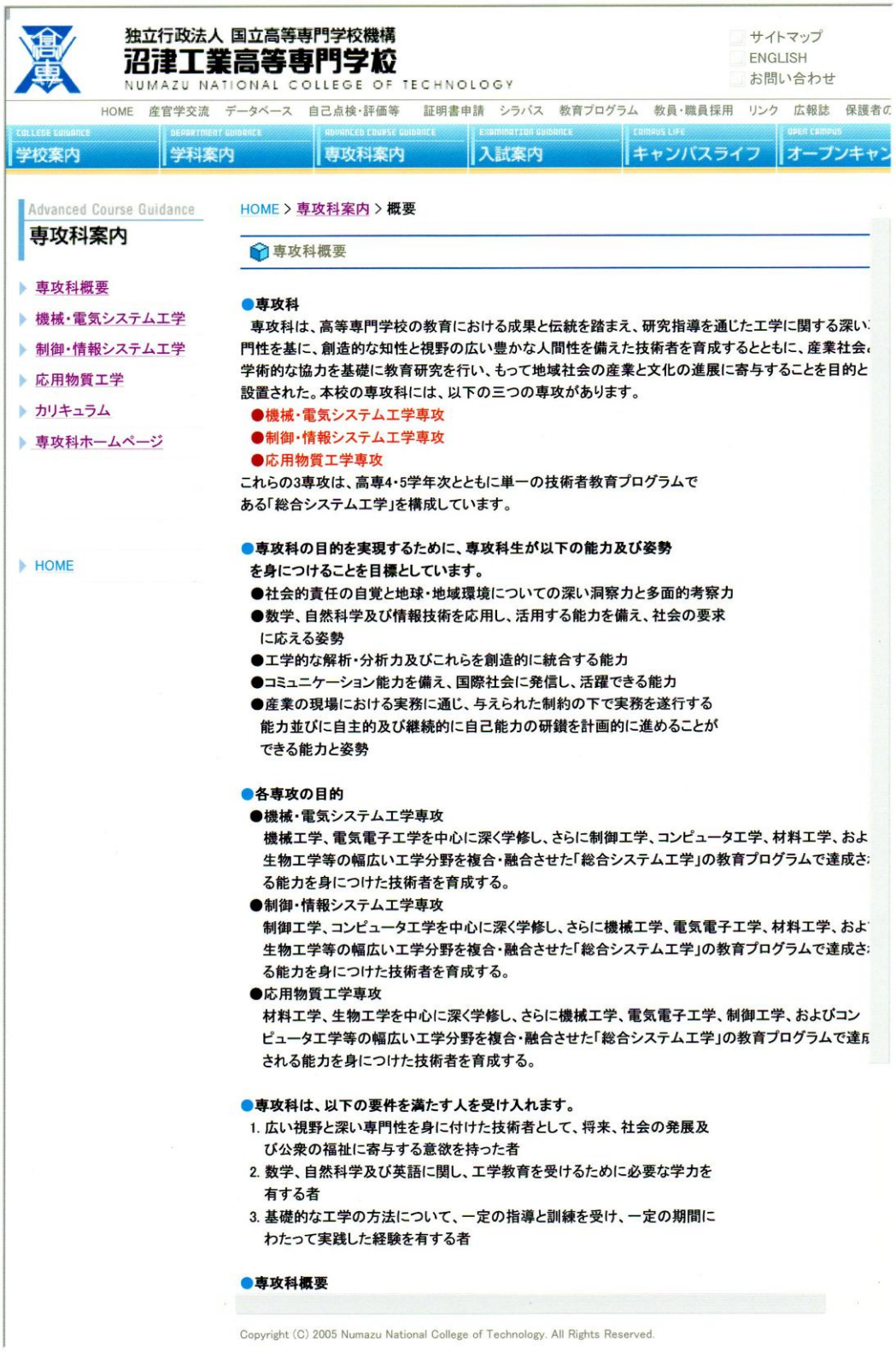


（出典　本校公式ウェブサイト）

専攻科の目標，各専攻の目的等は本校公式ウェブサイトに公開し（資料１－２－①－９），パネルに作成したものを専攻科棟の主要個所に掲示して周知を図っている（前出資料１－２－①－６）。教育目標の実践指針は学生便覧に掲載し周知している（資料１－２－①－10）。

資料１－２－①－９

専攻科の目標，各専攻の目的を掲載したウェブサイト



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

サイトマップ
ENGLISH
お問い合わせ

HOME　産官学交流　データベース　自己点検・評価等　証明書申請　シラバス　教育プログラム　教員・職員採用　リンク　広報誌　保護者の

学校案内　学科案内　専攻科案内　入試案内　キャンパスライフ　オープンキャン

Advanced Course Guidance
専攻科案内

- 専攻科概要
- 機械・電気システム工学
- 制御・情報システム工学
- 応用物質工学
- カリキュラム
- 専攻科ホームページ
- HOME

HOME > 専攻科案内 > 概要

専攻科概要

●専攻科
専攻科は、高等専門学校の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い
門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会
学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的と
設置された。本校の専攻科には、以下の三つの専攻があります。
●機械・電気システム工学専攻
●制御・情報システム工学専攻
●応用物質工学専攻
これらの3専攻は、高専4・5学年次とともに単一の技術者教育プログラムで
ある「総合システム工学」を構成しています。

●専攻科の目的を実現するために、専攻科生が以下の能力及び姿勢
を身につけることを目標としています。
●社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
●数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求
に応える姿勢
●工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
●コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力
●産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する
能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることが
できる能力と姿勢

●各専攻の目的
●機械・電気システム工学専攻
機械工学、電気電子工学を中心に深く学修し、さらに制御工学、コンピュータ工学、材料工学、およ
生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成さ
る能力を身につけた技術者を育成する。
●制御・情報システム工学専攻
制御工学、コンピュータ工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、材料工学、およ
生物工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成さ
る能力を身につけた技術者を育成する。
●応用物質工学専攻
材料工学、生物工学を中心に深く学修し、さらに機械工学、電気電子工学、制御工学、およびコン
ピュータ工学等の幅広い工学分野を複合・融合させた「総合システム工学」の教育プログラムで達成
される能力を身につけた技術者を育成する。

●専攻科は、以下の要件を満たす人を受け入れます。
1. 広い視野と深い専門性を身に付けた技術者として、将来、社会の発展及
び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
2. 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を
有する者
3. 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間に
わたって実践した経験を有する者

●専攻科概要

Copyright (C) 2005 Numazu National College of Technology. All Rights Reserved.

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料１－２－①－10

専攻科教育目標の実践指針の掲載部分（抜粋）

１．沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針

専攻科の教育目標は沼津高専学則第 46 条の４に定める次の“A～E”である（学則第 46 条の(1)～(5)は以下のA～Eに対応する）。これらの目標を理解し実践するために、各項目に分項目“１～４”等を付して実践指針とする。

A．社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。（工学倫理の自覚と多面的考察力）

1．技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。

2．最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。

3．二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。

4．これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

B．数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。（社会要請に応えられる工学基礎学力）

1．代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。

2．ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。

3．実験／計算／フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。

4．自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

C．工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。（工学専門知識の創造的活用能力）

1．工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。

2．自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な

(51)

（出典　平成 23 年度学生便覧 P. 51）

平成 22 年度末（平成 23 年２月）に，教職員（非常勤講師を含む）と準学士課程及び専攻科課程の学生に対して，目的等の周知状況等についてアンケート調査を実施した。アンケート実施の数週間前に教育理念，学習・教育目標掲示パネル（前出資料１－２－①－６）を校内に掲示したが，それ以外にはアンケートに先立ち学生達に事前情報を与えることなく実施した。同アンケートでは，目的の周知度の他に，シラバスの活用状況，成績評価方法等の周知度，学修単位科目の周知度も併せて調査し，教職員に対してはアドミッションポリシーの周知度も加えて調査した。回答数は，準学士課程学生 972（１年 206，２年 191，３年 204，４年 198，５年 173），専攻科課程学生 55，教職員 116（常勤教員 48，非常勤講師 33，技術職員 12，事務職員 23）である。それぞれに対する質問内容は（資料１－２－①－11～13）に示す。「Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査」について，準学士課程学生に

対する設問４は「学習・教育目標」，専攻科課程学生に対する設問４は「専攻科教育目標」，教職員に対する設問４は「学習・教育目標」，設問５は「専攻科教育目標」について問うている。

資料１－２－①－11

目的の周知度等調査アンケートの質問　［準学士課程学生用］

平成２３年２月 14 日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【本科学生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し、学級担任教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。
＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について学生便覧やシラバス等を見て知っていますか。
（設問１１）進級・卒業認定の基準について学生便覧等を見て知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）学修単位科目は自学自修を含め 45 時間の学修で１単位とする科目であることを知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）学修単位科目について自学自修を実行していますか。
＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料１－２－①－12

目的の周知度等調査アンケートの質問　［専攻科課程学生用］

平成２３年２月 14 日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【専攻科生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し専攻科研究指導担当教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」と「専攻科の目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。
＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について知っていますか。
（設問１１）専攻科の修了要件を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）専攻科の授業科目は自学自修を含め 45 時間の学修で１単位とすることを知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）自学自修を実行していますか。
＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料１－２－①－13

目的の周知度等調査アンケートの質問　［教職員用］

平成２３年２月 14 日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート　【教職員（非常勤講師含む）用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いいたします。マークシートに回答をご記入の上、平成２３年２月２８日（月）までに教務係へご提出ください。

以下の（設問１）～（設問１２）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
（設問６）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

＜回答＞
１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．本校のアドミッションポリシーの周知度に関する調査

（設問７）本校の「アドミッションポリシー」を知っていますか。

＜回答＞
１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

（設問８）本校専攻科の「入学者受入れ方針」を知っていますか。

＜回答＞
１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

裏面に続きます。

Ⅲ．シラバスの活用状況に関する調査（常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問９）授業運営の中でシラバスを利用していますか。

＜回答＞

１．全く利用しない　２．まれに利用する　３．よく利用する

（設問１０）授業運営の中でどのような目的でシラバスを利用していますか。

＜回答＞　複数回答可

１．授業の目的や概要を学生に知らせるため
２．年間の授業計画を学生に知らせるため
３．教科書や参考書について学生に知らせるため
４．次回の授業内容を学生に知らせるため
５．予習・復習を学生に促すため
６．宿題や課題について学生に指示するため
７．成績の評価方法や評価基準を学生に知らせるため
８．授業の進度管理のため
９．その他

Ⅳ．学修単位科目に関する調査（学修単位科目を担当している常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問１１）学修単位科目は履修単位科目と異なり、自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とする科目であることを学生に説明していますか。

＜回答＞

１．説明していない　２．説明している

（設問１２）学修単位科目について学生の自学自修の実施状況をどのように把握していますか。

＜回答＞複数回答可

１．特に把握していない
２．自学自修課題の解答を提出させることで把握している
３．自学自修の実施記録を提出させることで把握している
４．小テスト等で自学自修の成果を測ることで把握している
５．その他

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

上記アンケートによる「本校の目的の周知度に関する調査結果」を以下に示す。

１．教育理念の周知度（資料１－２－①－14）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，教職員は平均してほぼ 80%，専攻科学生は 65%，準学士課程学生は約 45%であった。「見聞きしたことはある」まで含めれば，準学士課程学生以外はほぼ 100%である。準学士課程学生も 80%が知っていることになるが，内容まで理解していない者が多いことがうかがえる。

２．教育目的の周知度（資料１－２－①－15）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，事務職員を除く教職員はほぼ 75%，事務職員は 44%，専攻科学生は 62%，準学士課程学生は 24%である。平成 22 年度までの学生便覧には記載されていなかったが，平成 23 年度のものから記載するように改めた。

３．教育方針の周知度（資料１－２－①－16）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，事務職員を除く教職員はほぼ 75%，事務職員は 48%，専攻科学生は 60%，準学士課程学生は 23%である。「全く知らない」と答えた者の割合が，準学士課程学生は 30% 近くあり，周知度の向上を図る必要がある。教員でも 6～8% あることがわかった。

４．学習・教育目標の周知度（資料１－２－①－17）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，常勤教員は 85%，非常勤講師は 70%，技術職員は 75%，事務職員は 43%，準学士課程学生は 24%である。「全く知らない」と答えた者の割合が，準学士課程学生では 30% 近くあり、周知度の向上を図る必要がある。

５．養成すべき人材像の周知度（資料１－２－①－18）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，常勤教員は 83%，非常勤講師は 67%，技術職員は 58%，事務職員は 48%，専攻科学生は 78%，準学士課程学生は 45%である。

６．専攻科教育目標の周知度（資料１－２－①－19）

「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，常勤教員は 75%，非常勤講師は 55%，技術職員は 33%，事務職員は 48%，専攻科学生は 66%である。「見聞きしたことはある」まで含めれば，知っている専攻科学生はほぼ 100%に近い。教職員では専攻科に関わらない者がいるため，他の項目に比べ周知度が少し低くなっている。

全項目に関して，準学士課程学生に対する周知度が低い結果であった。「見聞きしたことはある」まで含めれば70～80%であり，存在は周知されているということになるが，内容の周知と理解を促すことが必要であることがわかった。そのため，平成23年４月から全ホームルームに教育理念等を記載したパネル（資料１－２－①－20）を掲示し学級担任を通じて改めて周知を図った。

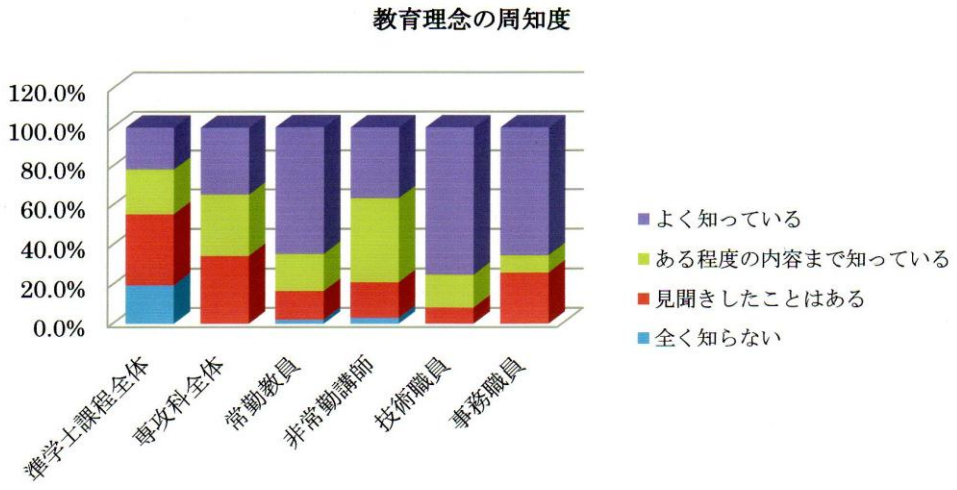
資料１－２－①－14

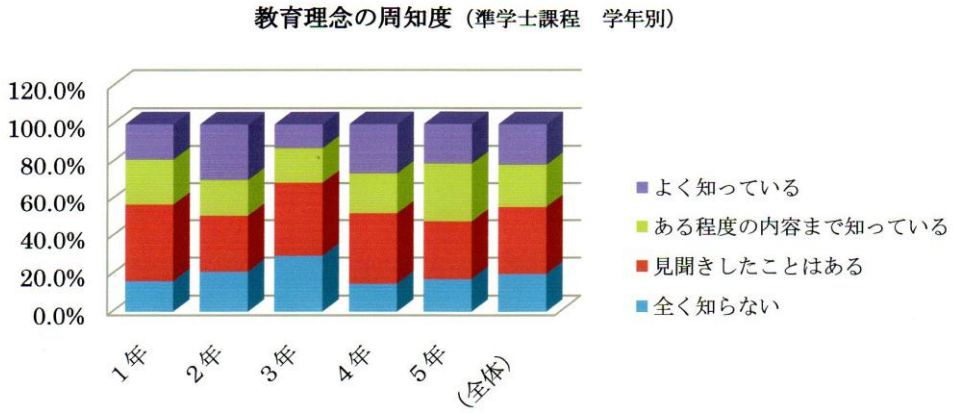
教育理念の周知度調査結果

教育理念の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	19.7%	35.8%	22.8%	21.7%
専攻科全体	0.0%	34.5%	30.9%	34.5%
常勤教員	2.1%	14.6%	18.8%	64.6%
非常勤講師	3.0%	18.2%	42.4%	36.4%
技術職員	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%
事務職員	0.0%	26.1%	8.7%	65.2%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	16.0%	40.8%	24.3%	18.9%
2年	20.9%	29.8%	19.4%	29.8%
3年	29.4%	39.2%	18.6%	12.7%
4年	14.6%	37.4%	21.7%	26.3%
5年	17.1%	30.6%	31.2%	21.2%
(全体)	19.7%	35.8%	22.8%	21.7%





（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

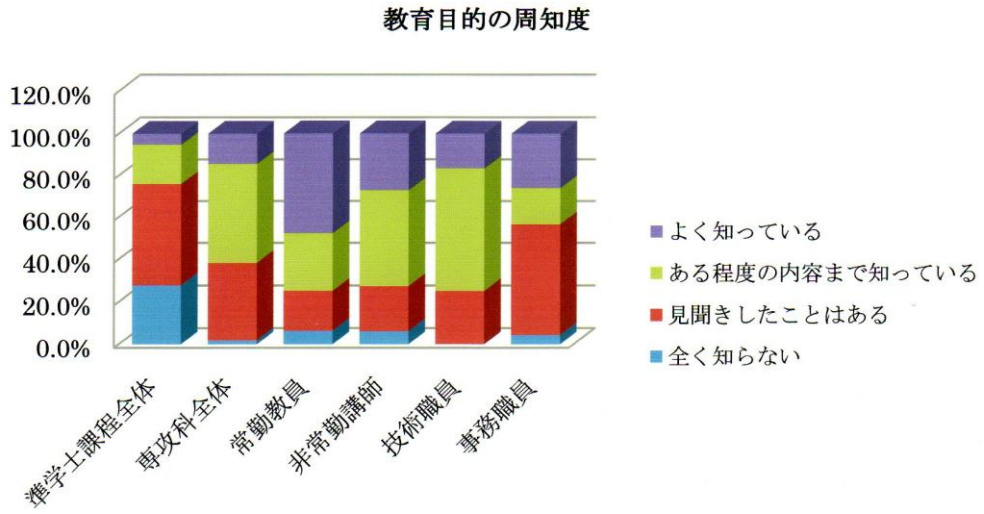
資料１－２－①－15

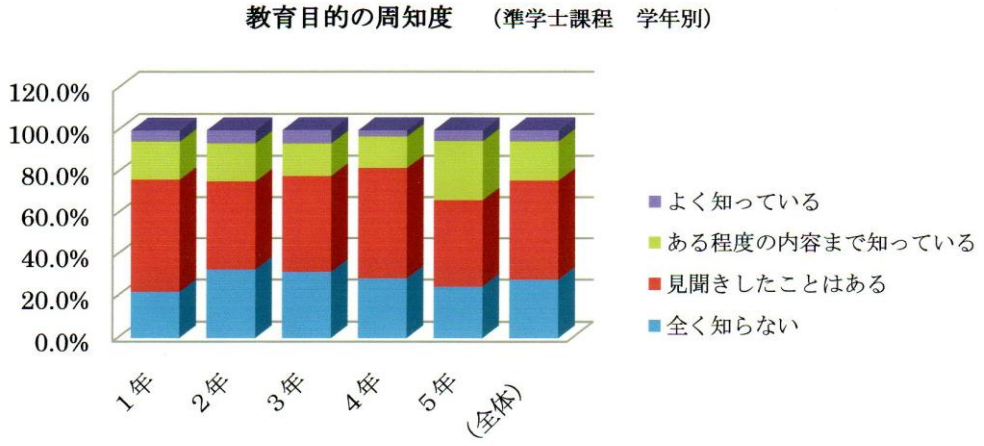
教育目的の周知度調査結果

教育目的の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	27.7%	48.1%	18.9%	5.3%
専攻科全体	1.8%	36.4%	47.3%	14.5%
常勤教員	6.3%	18.8%	27.1%	47.9%
非常勤講師	6.1%	21.2%	45.5%	27.3%
技術職員	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
事務職員	4.3%	52.2%	17.4%	26.1%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	21.8%	54.4%	18.4%	5.3%
2年	32.5%	42.9%	18.3%	6.3%
3年	31.4%	46.6%	15.7%	6.4%
4年	28.3%	53.5%	15.2%	3.0%
5年	24.4%	41.9%	28.5%	5.2%
(全体)	27.7%	48.1%	18.9%	5.3%





(出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料)

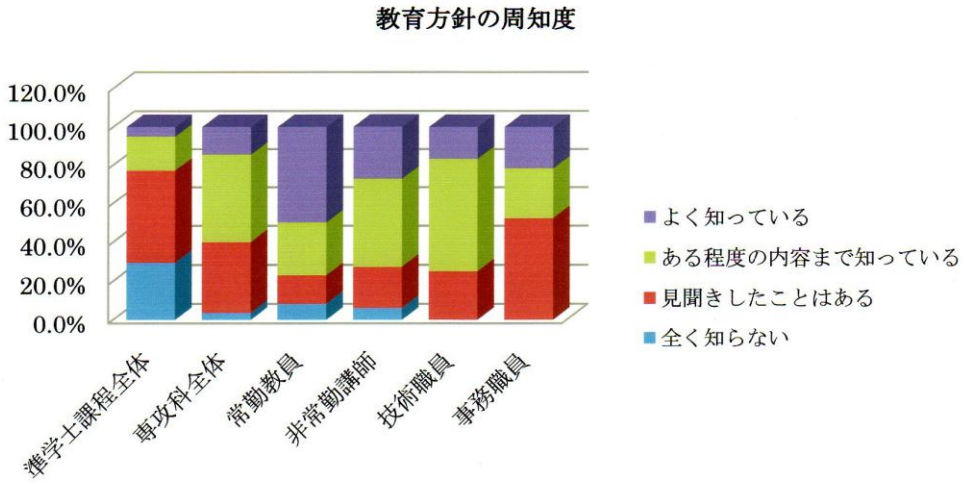
資料１－２－①－16

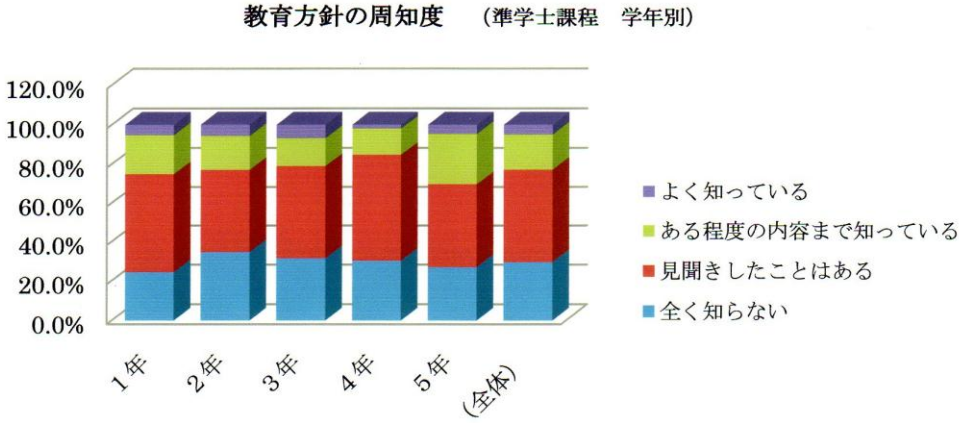
教育方針の周知度調査結果

教育方針の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%
専攻科全体	3.6%	36.4%	45.5%	14.5%
常勤教員	8.3%	14.6%	27.1%	50.0%
非常勤講師	6.1%	21.2%	45.5%	27.3%
技術職員	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
事務職員	0.0%	52.2%	26.1%	21.7%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	24.3%	50.5%	19.9%	5.3%
2年	34.6%	42.4%	17.3%	5.8%
3年	31.4%	47.5%	14.2%	6.9%
4年	30.1%	54.6%	13.3%	2.0%
5年	26.9%	42.7%	25.7%	4.7%
(全体)	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%





(出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料)

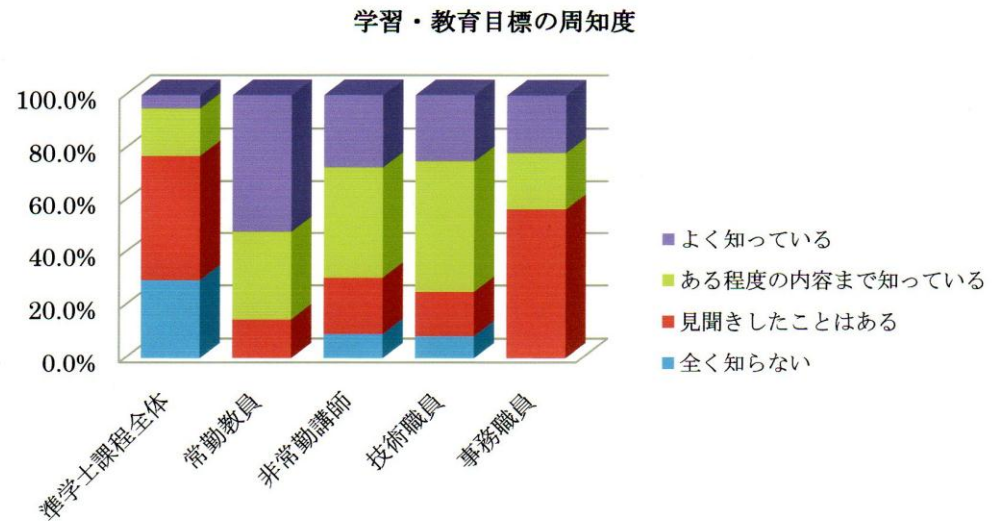
資料１－２－①－17

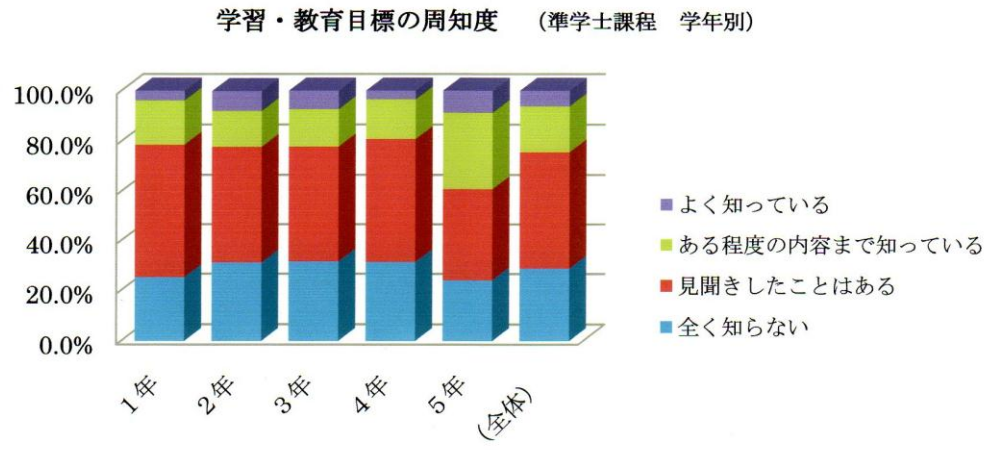
学習・教育目標の周知度調査結果

学習・教育目標の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	29.4%	47.7%	17.9%	5.0%
常勤教員	0.0%	14.6%	33.3%	52.1%
非常勤講師	9.1%	21.2%	42.4%	27.3%
技術職員	8.3%	16.7%	50.0%	25.0%
事務職員	0.0%	56.5%	21.7%	21.7%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
1年	25.2%	53.4%	17.5%	3.9%
2年	31.1%	46.6%	14.2%	7.9%
3年	31.5%	46.3%	14.8%	7.4%
4年	31.3%	49.5%	15.7%	3.5%
5年	24.0%	36.8%	30.4%	8.8%
(全体)	28.7%	46.9%	18.2%	6.2%





(出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料)

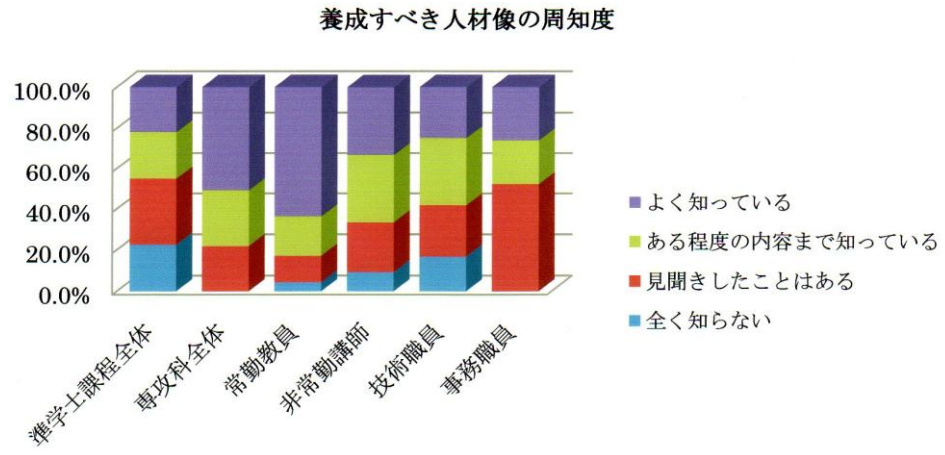
資料１－２－①－18

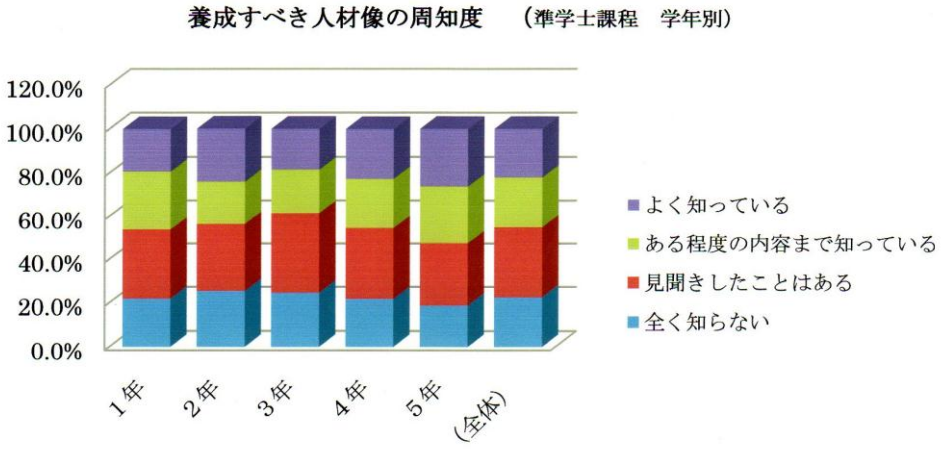
養成すべき人材像の周知度調査結果

養成すべき人材像の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
準学士課程全体	22.5%	32.4%	23.0%	22.1%
専攻科全体	0.0%	21.8%	27.3%	50.9%
常勤教員	4.3%	12.8%	19.1%	63.8%
非常勤講師	9.1%	24.2%	33.3%	33.3%
技術職員	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%
事務職員	0.0%	52.2%	21.7%	26.1%

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
１年	21.8%	32.0%	26.7%	19.4%
２年	25.3%	31.1%	19.5%	24.2%
３年	24.5%	36.8%	20.1%	18.6%
４年	21.7%	32.8%	22.7%	22.7%
５年	18.7%	28.7%	26.3%	26.3%
（全体）	22.5%	32.4%	23.0%	22.1%





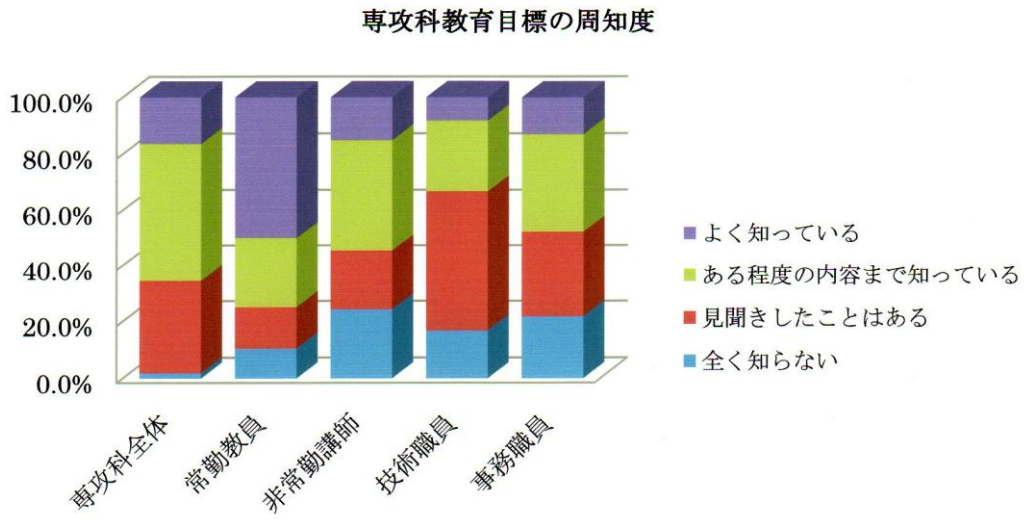
（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料１－２－①－19

専攻科教育目標の周知度調査結果

専攻科教育目標の周知度調査結果

	全く知らない	見聞きしたことはある	ある程度の内容まで知っている	よく知っている
専攻科全体	1.8%	32.7%	49.1%	16.4%
常勤教員	10.4%	14.6%	25.0%	50.0%
非常勤講師	24.2%	21.2%	39.4%	15.2%
技術職員	16.7%	50.0%	25.0%	8.3%
事務職員	21.7%	30.4%	34.8%	13.0%



（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料１－２－①－20

教育理念等のホームルームへの掲示



（分析結果とその根拠理由）

学生便覧，概要，ホームページ等へ掲載し，さらに常に目に触れるようパネルを作成して校内の主要個所に掲示するなどして周知を図っている。特に年度当初には新入生，新任教職員にはオリエンテーションを通じて周知を図っている。平成23年２月に行った周知度調査アンケートの結果によれば，教育理念，教育目的，教育方針，学習・教育目標（専攻科は専攻科教育目標）について「よく知っている」「ある程度の内容まで知っている」と答えた者の割合は，教職員は平均して70～80%，専攻科学生は60～70%であることから，周知されていると判断する。準学士課程学生については「見聞きしたことはある」まで含めれば70～80%であり，それらの存在は周知されているが，内容の理解を促すために全ホームルームに教育理念等を記載したパネルを掲示し担任教員を通じて周知を徹底したことにより，周知されたと判断する。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校公式ウェブサイトに，教育理念・教育目的等（前出資料１－２－①－２），及び専攻科の目標等（前出資料１－２－①－９）を掲載し社会に広く公表している。

印刷物では，本校学校概要（前出資料１－２－①－３）を就職関連企業からの来訪者，来客，進学説明会，１日体験入学，中学校訪問等で広く配布している。その他，入試広報資料（資料１－２－②－１，２）にも教育理念・教育目的・教育方針等を記載し，県内外の中学校への送付，中学校訪問，進学説明会，１日体験入学，個別対応のオープンキャンパス，公開講座，出前授業等を通じて広く配布している。平成22年度より，入試広報リーフレット（イントロダクション）は静岡県内全中学校の３年生全員に配布している。進学説明会，１日体験入学，個別対応のオープンキャンパス等では資料の配布と併せて，スライドを用いて説明している（資料１－２－②－３）。入学者募集要項にも明記している（資料１－２－②－４～６）。これら資料の配布部数等は（資料１－２－②－７）に示す。

入試広報リーフレット（イントロダクション）　　資料１－２－②－１

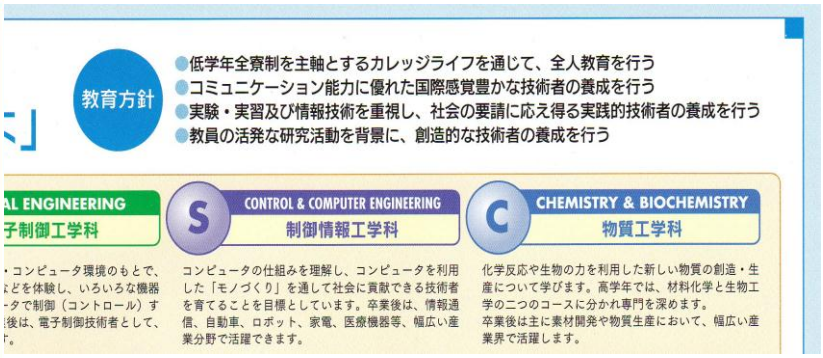


（出典　NCT Today INTRODUCTION 2011）

資料１－２－②－２

入試広報リーフレット





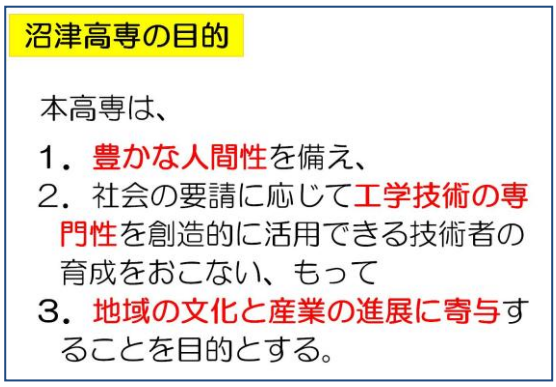
（出典　NCT Today 2010）

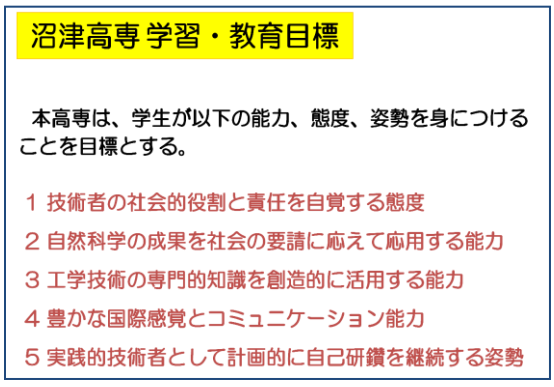
資料１－２－②－３

進学説明会用スライド資料





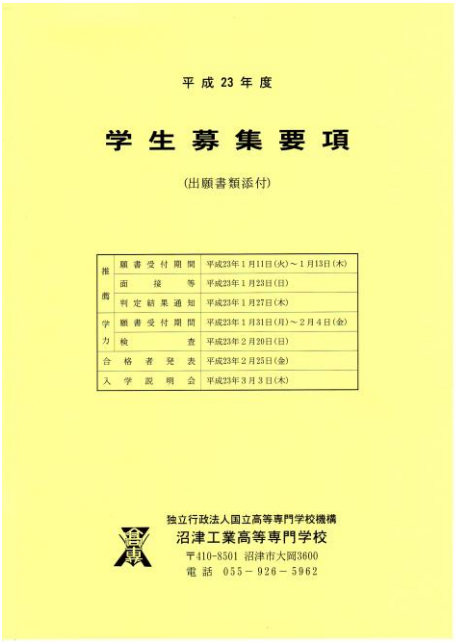




（出典　平成 22 年度進学説明会用「学校紹介と入試制度」スライド）

資料１－２－②－４

準学士課程学生募集要項



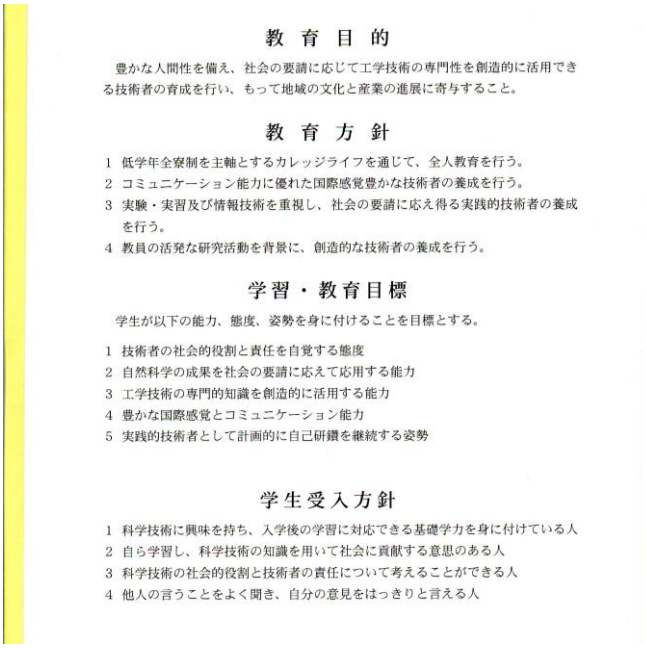
平成 23 年度

学生募集要項

（出願書類添付）

推薦	願書受付期間	平成23年1月11日(火)～1月13日(木)
	面接等	平成23年1月23日(日)
	判定結果通知	平成23年1月27日(木)
学力	願書受付期間	平成23年1月31日(月)～2月4日(金)
	検査	平成23年2月20日(日)
	合格者発表	平成23年2月25日(金)
	入学説明会	平成23年3月3日(木)

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
電話 055－926－5962



教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教育方針

1 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2 コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

1 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

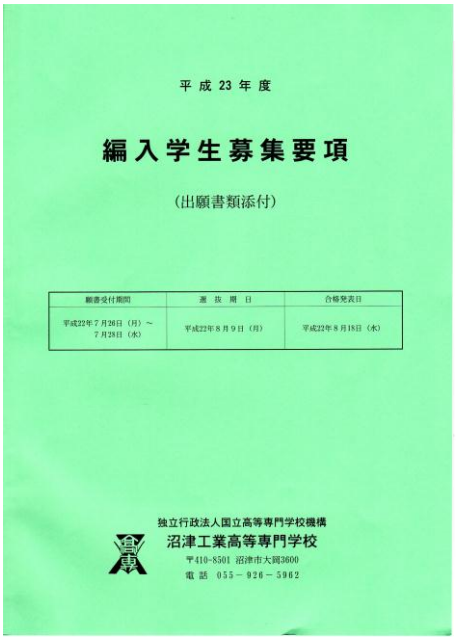
学生受入方針

1 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
2 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
3 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
4 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

（出典　平成 23 年度 学生募集要項）

資料１－２－②－５

編入学生募集要項



平成 23 年度

編入学生募集要項

（出願書類添付）

願書受付期間	選抜期日	合格発表日
平成22年7月26日（月）～7月28日（水）	平成22年8月9日（月）	平成22年8月18日（水）

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
電話 055－926－5962

入学案内

工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」ことを目的とし、豊かな教養と専門の技術を身につけた実践的な技術者の育成を使命としており、中学校卒業程度を入学資格とする５年制の一貫教育を行う国立の高等教育機関（大学等）です。

本校では、理論的な基礎とともに、実験・実習を重視し、実践的エンジニアを養成しており、卒業生は希望にかなった会社へ就職でき、また、更に深く勉強したい人には、大学の３学年への編入学、高専専攻科への道が開かれています。

１．沼津工業高等専門学校編入学生受け入れ方針

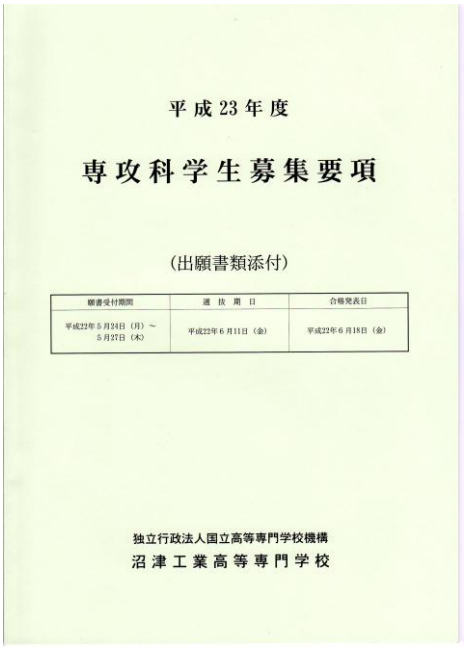
本校は以下の条件を満たす有資格者の高専４学年又は３学年への編入学を受け入れます。

(1) 技術者になるという明確な意志があること。
(2) 将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
(3) 科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
(4) 数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。
(5) 高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
(6) 社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

（出典　平成 23 年度 編入学生募集要項）

資料１－２－②－６

専攻科学生募集要項



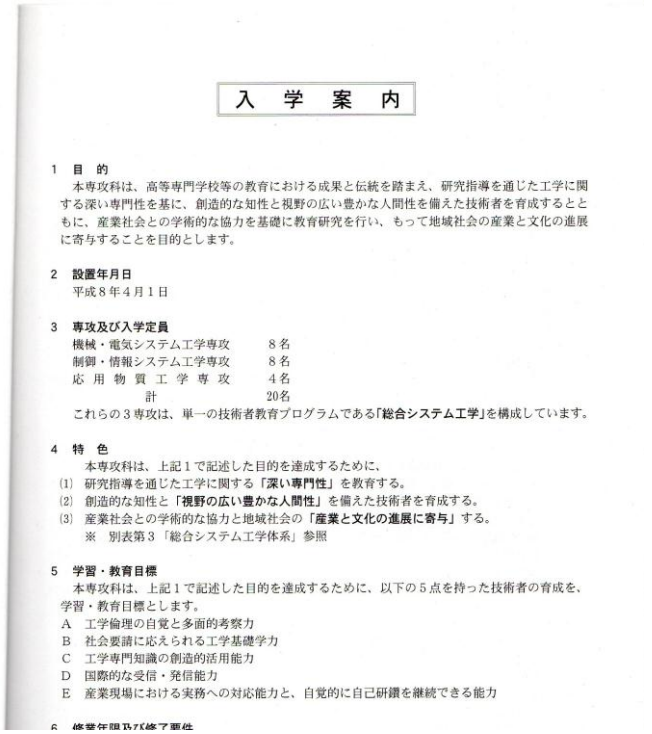
平成23年度

専攻科学生募集要項

（出願書類添付）

願書受付期間	選抜期日	合格発表日
平成22年5月24日（月）～5月27日（木）	平成22年6月11日（金）	平成22年6月18日（金）

独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校



入　学　案　内

1　目　的
本専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とします。

2　設置年月日
平成８年４月１日

3　専攻及び入学定員
機械・電気システム工学専攻　８名
制御・情報システム工学専攻　８名
応用物質工学専攻　４名
計　20名
これらの３専攻は、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成しています。

4　特　色
本専攻科は、上記１で記述した目的を達成するために、
(1) 研究指導を通じた工学に関する「深い専門性」を教育する。
(2) 創造的な知性と「視野の広い豊かな人間性」を備えた技術者を育成する。
(3) 産業社会との学術的な協力と地域社会の「産業と文化の進展に寄与」する。
※　別表第３「総合システム工学体系」参照

5　学習・教育目標
本専攻科は、上記１で記述した目的を達成するために、以下の５点を持った技術者の育成を、学習・教育目標とします。
A　工学倫理の自覚と多面的考察力
B　社会要請に応えられる工学基礎学力
C　工学専門知識の創造的活用能力
D　国際的な受信・発信能力
E　産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力

（出典　平成 23 年度 専攻科学生募集要項）

資料１－２－②－７

各種資料の配布先と配布部数等

資料･作成部数	配布先･用途	配布部数	備考
１．学校概要・2400部	来客等用	750部	
	進学説明会・体験入学・中学校訪問等	1,200部	
	就職関係企業用他	450部	
２．入試広報リーフレット・68,000部（イントロダクション）	静岡県内中学校　265校	36,201部	残部は、進学説明会・体験入学・中学校訪問・出前授業・公開講座・個別オープンキャンパス等でほぼすべて配布
	山梨県内中学校　93校	9,570部	
	神奈川県内中学校　70校	10,799部	
３．入試広報リーフレット・12,000部 ＮＣＴ　Ｔｏｄａｙ	静岡県内中学校　291校	5,300部	
	山梨県内中学校　92校	920部	
	神奈川県内中学校　94校	940部	
４．準学士課程学生募集要項・2000部	静岡県内中学校　265校	265部	
	山梨県内中学校　92校	92部	
	神奈川県内中学校　94校	94部	
５．編入学生募集要項・370部	静岡県内高等学校　146校	205部	
	山梨県内高等学校　6校	9部	
	神奈川県内高等学校　15校	15部	
６．専攻科学生募集要項・200部	国公立私立高専　61校	61部	

行事	実施回数	参加者数／広報資料配布部数
１．中学校訪問　県内中学校	160校	広報資料配布部数　：320
県外中学校	23校	広報資料配布部数　：46
２．一日体験入学	1回	参加者総数：946名（中学生：500、保護者：442、中学校教諭：4）
３．進学説明会	10回	参加者総数：693名（中学生：138、保護者：169、中学校教諭：71）
４．出前授業	25回	広報資料配布部数　：280
５．公開講座	32回	受講生総数：373、広報資料配布部数：448
６．個別オープンキャンパス	12回	来校者総数：23

（出典　総務課及び学生課入試係の平成 22 年度資料より調査）

（分析結果とその根拠理由）

本校公式ウェブサイトに教育理念・教育目的，専攻科の目標等を公開し社会に広く公表している。印刷物では，学校概要，入試広報資料及び学生募集要項等に教育理念・教育目的・教育方針等を記載し，県内外の中学校等への送付，中学校訪問，進学説明会，一日体験入学，個別対応のオープンキャンパス，公開講座，出前授業等への参加者及び就職関連企業からの来訪者等へ広く配布し公表しており，目的が社会に広く公表されていると判断する。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の教育理念，教育目的，教育方針，学習教育目標，養成すべき人材像，教養科・各専門学科の教育目的，本校の学生受入方針を規則として明確に定め，本校公式ウェブサイトにわかりやすく公開している点及び，静岡県内全中学校の３年生全員に入試広報リーフレット（イントロダクション）を配布し，教育理念と教育方針を広く周知している点で優れている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校は，学則第１条においてその目的を明確に定めている。さらに，初代校長の遺訓である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」を教育理念とし，これを柱として，教育目的，教育方針，学習教育目標，養成すべき人材像，教養科・各専門学科の教育目的及び本校の学生受入方針を平成 20 年５月に「沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則」として整備した。専攻科の目的は学則第 45 条に定め，その目的を実現するための教育目標を学則第 46 条の４に明確に定め，さらに，専攻科の教育目標を実践するための指針として，具体的達成目標を「沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針」として定めている。各専攻の目的は平成 23 年２月に定め本校公式ウェブサイトにスローガンとして開示している。これらは，学校教育法第 115 条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に則ったものとなっている。

本校の教育理念，教育目的等は，教職員に対しては，学生便覧の配布と本校公式ウェブサイト及び，新任教職員に対しては，本校概要の配布と新任教職員オリエンテーションでの説明により周知している。学生に対しては，学生便覧の配布，教室及び校内主要個所への掲示，新入生オリエンテーションでの説明等により周知している。平成22年度末に実施した周知度調査アンケートでは，教職員及び専攻科学生には概ね周知されていると判断できる結果が得られたが，準学士課程学生については満足できる結果でなかったため，全ホームルームに教育理念等を記載したパネルを掲示し担任教員を通じて周知を徹底する対応をした。

社会一般に対しては，本校公式ウェブサイトに教育理念，教育目的等，及び，専攻科の目標等を掲載し広く公表している。印刷物では，学校概要，入試広報資料及び学生募集要項等に，教育理念，教育目的，教育方針等を記載し，県内外の中学校，高等学校，全国高専等へ送付し，中学校訪問，進学説明会，一日体験入学，個別対応のオープンキャンパス，公開講座，出前授業等への参加者及び就職関連企業等からの来訪者へ多数部を配布し広く公表している。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程は中学校卒業生を対象に5年一貫教育を実施するなか，低学年全寮制を主軸とした全人教育を実施し，国際感覚豊かで工学に関する基礎知識を身に付け，同時に，実験及び実習，情報技術を重視する実践的かつ創造的技術者を養成するという教育方針(資料2－1－①－1)に基づき，機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科，物質工学科の5学科で構成しており，その編成は高等専門学校設置基準の規定に適合している(資料2－1－①－2)。そして，全学科の学生を対象に基礎学力の養成と幅広い教養と人間性を育成する目的で教養科（一般科目担当の教員組織）を置いている。静岡県東部地域には，自動車，産業用機械，電気電子，情報機器，製紙，医薬品関連等の多様な企業が存在し，各分野の技術者の育成が望まれており，静岡県東部地域で唯一の国立の理工系高等教育機関である本校の学科構成は，地域産業界の需要に適合したものとなっている。

資料2－1－①－1

沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則(抜粋)

第4条　本校の教育方針は、次のとおりとする。

(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。

(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。

(3)実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。

(4)教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

（出典　本校規則集）

資料2－1－①－2

沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第 3 章　学科、学級数、入学定員及び教職員

第 7 条　学科・学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学　　科	学級数	入学定員
機 械 工 学 科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
制御情報工学科	1	40人
物 質 工 学 科	1	40人

（出典　本校規則集）

各学科は「社会から信頼される，指導力のある実践的技術者」という当校で養成すべき人材像(資料2－1－①－3)を基に「自ら考え行動できる実践的技術者」を共通のキーワードとして教育目的を定めている(資料2－1－①－4)。それらは当校の教育理念，初代校長の遺訓「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」(資料2－1－①－5)とも適合している。

資料2－1－①－3

当校で養成すべき人物像

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

(出典　平成 23 年度学生便覧)

資料2－1－①－4

沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則(抜粋)

第8条　機械工学科の教育目的は、次のとおりとする。
(1)機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。
第9条　電気電子工学科の教育目的は、次のとおりとする。
(1)電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。
第10条　電子制御工学科の教育目的は、次のとおりとする。
(1)電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。
第11条　制御情報工学科の教育目的は、次のとおりとする。
(1)コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。
第12条　物質工学科の教育目的は、次のとおりとする。
(1)化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(出典　本校規則集)

資料2－1－①－5

沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則(抜粋)

第2条　本校の教育理念は、次のとおりとする。
(1)人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。

(出典　本校規則集)

（分析結果とその根拠理由）

地域産業界の需要に適合した人材育成を行うに相応しい学科構成となっており，学科及び学級編成は高等専門学校設置基準の規定に適合している。そして，各学科は教育の目的を，共通の人材像を軸に定めており，本校の教育の目的を達成するために適切に構成されていると言える。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程は準学士課程に積み上げ型の3専攻，機械・電気システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，応用物質工学専攻で構成されている（資料2－1－②－1）。本校の専攻科課程は「高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ，研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に，創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに，産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い，もって地域社会の産業と文化の進展に寄与する」ことを目的とし，その目的・内容は学校教育法に適合している（資料2－1－②－1）。教育目標として「（1）工学倫理の自覚と多面的考察力」，「（2）社会要請に応えられる工学基礎学力」，「（3）工学専門知識の創造的活用能力」，「（4）国際的な受信・発信能力」，「（5）産業現場における実務への対応能力と，自覚的に自己研鑽を継続できる能力」の5つを掲げ，本校の教育の目的に適合したものとなっている。これらの目標を理解し実践するために実践指針として具体的な内容を定めている（資料2－1－②－2）。なお，3専攻は単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学」を構成し，第4，第5学年の教育プログラムと合わせてJABEEの認定を受けている（資料2－1－②－3）。

資料2－1－②－1

沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第９章　専　攻　科

第 44 条　本校に専攻科を置く。

第 45 条　専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

第 46 条　専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
機械・電気システム工学専攻	８人
制御・情報システム工学専攻	８人
応用物質工学専攻	４人

第 46 条の２　専攻科に、当該専攻科の授業及び専攻科研究論文の作成等に対する指導を担当させるため、専攻科担当教員を置く。

第 46 条の３　第 46 条に規定する３専攻は、別表第３に定める単一の技術者教育プログラムである総合システム工学を構成する。

２　総合システム工学は、別に定める総合システム工学要件を満たさなければならない。

第 46 条の４　専攻科は、第 45 条の目的を実現するため、次の各号に掲げる教育目標の達成に努めなければならない。

⑴　社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力（工学倫理の自覚と多面的考察力）

⑵　数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）

⑶　工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）

⑷　コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）

⑸　産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

第 47 条　専攻科に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　高等専門学校を卒業した者

⑵　短期大学を卒業した者

⑶　専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 132 条の規定により大学に編入学することができるもの

⑷　外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者

⑸　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者

⑹　我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

⑺　その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第 48 条　校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選考の上、入学を許可する。

第 48 条の２　専攻科の教育は、授業及び専攻科研究論文の作成に対する指導によって行うものとする。

第 49 条　専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第４のとおりとする。

第 50 条　専攻科の修業年限は、２年とする。ただし、４年を超えて在学することはできない。

２　前項の規定にかかわらず、校長は、特別の理由がある場合は、学生が修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な教育課程の履修により修了することを申し出た時は、４年の範囲内で修業年限を超えて履修することを認めることができる。ただし、６年を超えて在学することはできない。

３　前項により計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）又は第１項の修業年限在学することが予定される学生が、特別な理由により修業年限の変更を希望する場合は、年度を単位とし、校長の承認を受けなければならない。

第 51 条　専攻科の学生の休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、１年を限度として、休学期間の延長を認めることがある。

２　休学期間は、通算して２年を超えることができない。

（出典　平成 23 年度学生便覧P11, 12）

資料２－１－②－２

沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針

１．沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針

専攻科の教育目標は沼津高専学則第 46 条の４に定める次の“Ａ～Ｅ”である（学則第 46 条の(1)～(5)は以下のＡ～Ｅに対応する）。これらの目標を理解し実践するために、各項目に分項目“１～４”等を付して実践指針とする。

Ａ．社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。（工学倫理の自覚と多面的考察力）

１．技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。

２．最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。

３．二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。

４．これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

Ｂ．数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。（社会要請に応えられる工学基礎学力）

１．代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。

２．ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。

３．実験／計算／フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。

４．自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

Ｃ．工学的な解析･分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。（工学専門知識の創造的活用能力）

１．工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。

２．自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な

知識・技術を駆使して実験／計算／フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明･説得することができる。

3．自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。

4．社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

D．コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力を身につける。(国際的な受信・発信能力)

1．日本語で､自己の学習･研究活動の経過を報告し､質問に答えることができる。

2．自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E．産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。(産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

1．指定された期限内に、課題を提出できる。

2．工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。

3．自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。

4．自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

(出典　平成 23 年度学生便覧 P 51, 52)

資料２－１－②－３

ＪＡＢＥＥ認定証



認　定　証

沼津工業高等専門学校専攻科

プログラム名：総合システム工学

工学（融合複合・新領域）関連分野

頭書の技術者教育プログラムは審査の結果
JABEE認定基準に適合していることを認定
します

認定開始年度：2004 年度

（次回審査時期およびその内容については審査結果報告書に記載）

2005 年 5 月 12 日

日本技術者教育認定機構

会長　吉川　弘之

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程３専攻は，準学士の教育成果の上に，研究指導を通じた教育を行い地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的としており，学校教育法の規定に適合したものであるとともに，地域産業界の需要に合致したものであり，本校の教育目的を達成するために適切な構成となっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は教育の目的を達成するため全学的なセンター等として，機械実習工場，総合情報センター及び地域共同テクノセンターを設置している。各センター長には教員を任命して運営している（資料2－1－③－1）。学科等及びセンター等の業務を遂行する技術専門員と技術職員は技術室に配属され，専門的な技術の内容と必要に応じて，班を構成し業務にあたっている（資料2－1－③－2，3）。

資料2－1－③－1

沼津工業高等専門学校教員組織規則(抜粋)

（総合情報センター長）
第12条　本校の総合情報センターに、総合情報センター長を置く。
2　総合情報センター長は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　総合情報センター長は、校長の命を受け、総合情報センターに関することを掌理する。
4　総合情報センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
5　総合情報センターに、副総合情報センター長を置くことができる。
6　副総合情報センター長は、総合情報センター長を補佐し、総合情報センター長に事故あるときは、その職務を代行する。
（地域共同テクノセンター長）
第13条　本校の地域共同テクノセンターに、地域共同テクノセンター長を置く。
2　地域共同テクノセンター長は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　地域共同テクノセンター長は、校長の命を受け、地域共同テクノセンターに関することを掌理する。
4　地域共同テクノセンター長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
5　地域共同テクノセンターに、副地域共同テクノセンター長を置くことができる。
6　副地域共同テクノセンター長は、地域共同テクノセンター長を補佐し、地域共同テクノセンター長に事故あるときは、その職務を代行する。
（技術室長）
第14条　本校の技術室に、技術室長を置く。
2　技術室長は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　技術室長は、校長の命を受け、本校技術室に関することを掌理する。
4　技術室長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（実習工場長）
第16条　本校の実習工場に、実習工場長を置く。
2　実習工場長は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　実習工場長は、校長の命を受け、本校実習工場に関することを掌理する。
4　実習工場長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
5　実習工場に、副実習工場長を置くことができる。
6　副実習工場長は、実習工場長を補佐し、実習工場長に事故あるときは、その職務を代行する。
（以下、省略）

（出典　本校規則集）

資料2－1－③－2

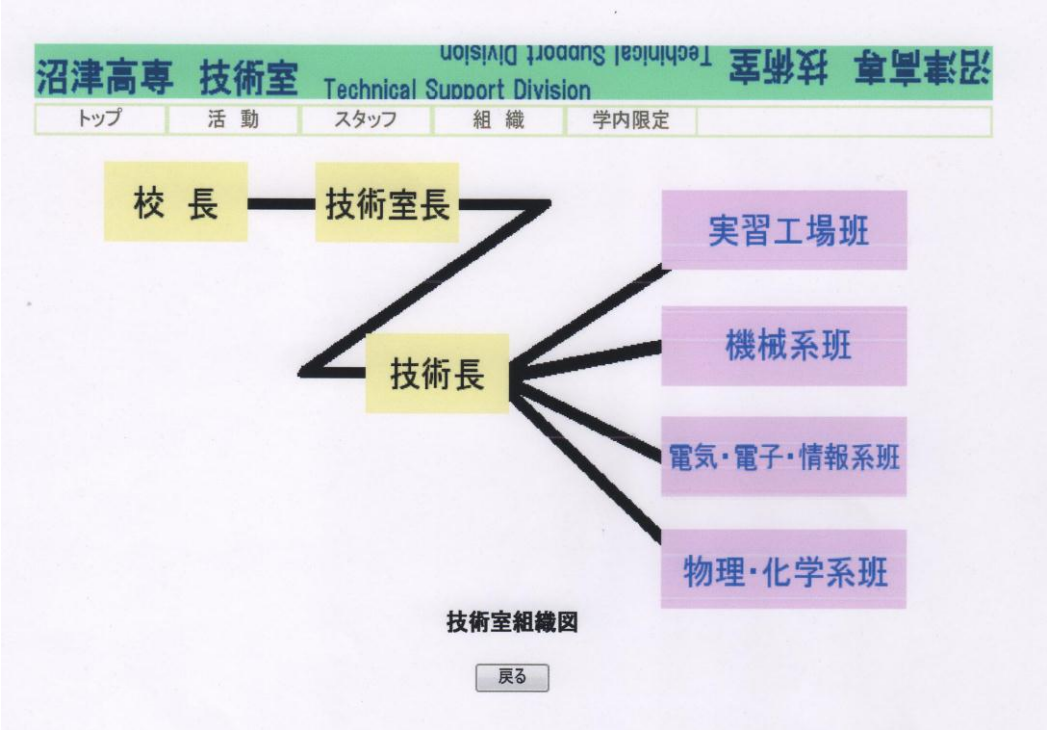
沼津工業高等専門学校技術室規程(抜粋)

(班・班長)
第7条　技術室に，専門的技術の内容と必要に応じて，班および班長を置く。
(1) 実習工場班(主に機械実習工場に関する業務を行う。)
(2) 機械系班(主に機械工学科及び制御情報工学科に関する業務を行う。)
(3) 電気・電子・情報系班(主に電気電子工学科，電子制御工学科及び総合情報センターに関する業務を行う。)
(4) 物理・化学系班(主に教養科及び物質工学科に関する業務を行う。)
2　班長は上司の命を受け，班の業務を統括し，円滑な業務遂行に努め，必要な連絡調整を行う。

(出典　本校規則集)

資料2－1－③－3

沼津高専技術室組織図



(出典　本校ウェブサイト)

機械実習工場は機械工学科の工作実習を担当しているのみならず他4学科のものづくり実習教育も担当しており(資料2－1－③－4)，全学の実践的ものづくり教育を支えるセンターとなっている。

資料2－1－③－4

平成23 年度実習工場の利用状況

■平成23年度時間割

■前期

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M３		M３			
火					M１			
水		E３(前期5/11～)						
木					M２			
金	C５(前期4/8～)				卒研			

■前期（計画停電時）

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月	M３				M３			
火	M１							
水		E３(前期5/11～)						
木	M２							
金	C５(前期4/8～)				卒研			

午後の実習時間に計画停電が予定されている場合、午前に実習を行います。

■後期

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M３		M３			
火					M１			
水		S３						
木					M２			
金		D２			卒研			

後期の計画停電による、時間割変更は未定です。

(出典 本校学内限定ウェブサイト)

他に，卒業研究の実験装置部品等の製作をする学生の支援，ロボコン等の部品作成をする学生等の支援を行う中で，創造的，実践的技術者養成に有効に機能している（資料2－1－③－5）。

資料２－１－③－５

平成 22 年度技術室依頼加工状況一覧表

H22年度依頼加工状況表

2011/3/2現在

228時間00分

No	依頼日	依頼者	品名	数量	加工時間(実働)
1	2010/4/6	松田教員	曲げ試験用治具	1個	14時間00分
2	2010/5/21	渡辺教員	計測機器用円盤状治具	3枚	2時間00分
3	2010/5/24	芹澤教員	キャスター取り付け台	16枚	1時間30分
4	2010/5/24	芹澤教員	ブレッドボード固定台	16枚	1時間30分
5	2010/6/4	松田教員	ＪIS4号試験片	100本	27時間00分
6	2010/6/4	松田教員	ねじり試験片	50本	2時間00分
7	2010/7/6	大島教員	ベーン実験部品	1個	2時間00分
8	2010/7/9	西田教員	シャルピー衝撃試験片	142本	5時間00分
9	2010/7/9	西田教員	硬さ試験片	6個	2時間00分
10	2010/8/3	増田技術員	テンプレート	10個	3時間00分
11	2010/8/18	牛丸教員	アルミシャーシ	2枚	6時間00分
12	2010/8/24	嶋教員	光学実験器具	5個	12時間00分
13	2010/8/30	手塚教員	翼型	4枚	15時間00分
14	2010/9/15	西田教員	フレッティング接触片(SNCM)	40個	18時間00分
15	2010/9/15	西田教員	フレッティング接触片(SNCM)	40個	26時間00分
16	2010/9/22	大島教員	水圧リフタ用部品	9個	12時間30分
17	2010/9/27	青木教員	円柱ハブシャフト、シャーシ	6個	10時間00分
18	2010/9/30	相良教員	プレート穴あけネジきり	1枚	2時間00分
19	2010/10/1	舟田教員	棒材加工	6個	8時間00分
20	2010/10/4	相良教員	長頭ボルト	2個	3時間30分
21	2010/11/5	山口係長	アンケート回収箱	1個	3時間00分
22	2010/11/19	嶋教員	固定部品	6個	7時間00分
23	2010/12/7	江間教員	高電圧電極	1個	1時間00分
24	2011/1/13	渡辺教員	天板	2枚	5時間30分
25	2011/1/20	ジョン教員	梁固定用ブロック	2セット	13時間00分
26	2011/1/20	渡辺教員	天板	2枚、4枚	9時間00分
27	2011/2/15	相良教員	オモリ	1個	1時間00分
28	2011/2/18	藤尾教員	加工実験用テストピース	1個	6時間30分
29	2011/2/17	嶋教員	ブレッドボード	1枚	6時間00分
30	2011/2/17	相良教員	センサー取り付け台	1個	3時間00分
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43					
44					
45					
46					
47					
48					
49					
50					
51					
52					
53					
54					

（出典　技術室長作成資料）

総合情報センターは，昭和 51 年に設置された情報処理教育センター（資料2－1－③－6）を母体とし，本校全体の情報基盤整備をも業務として包含する組織として平成 19 年度に発足した（資料2－1－③－7，8）。

資料2－1－③－6

本校の沿革

1．沿　　革

昭和37．3．29　沼津工業高等専門学校（機械工学科及び電気工学科）が設置された。
4．1　初代校長に静岡大学工学部教授井形厚臣が任命された。
4．20　開校式並びに昭和37年度入学式を挙行した。
昭和39．7．21　校長井形厚臣の急逝により、教授深尾保が校長事務取扱に任命された。
10．16　２代校長に名古屋大学工学部教授土井静雄が任命された。
昭和41．4．5　工業化学科が設置された。
昭和42．3．20　第１回卒業式を挙行した。
昭和45．4．1　男子低学年（１、２年）全寮制を開始した。
昭和47．11．1　創立10周年記念式典を挙行した。
昭和48．10．16　３代校長に静岡大学名誉教授樋口泉が任命された。
昭和51．4．1　第４学年への編入学を認めた。
5．8　情報処理教育センターが設置された。
昭和57．4．1　４代校長に東京工業大学名誉教授慶伊富長が任命された。
11．1　創立20周年記念式典を挙行した。
昭和60．4．1　女子低学年（１、２年）全寮制を開始した。
昭和61．4．1　電子制御工学科が設置された。
平成元．4．1　工業化学科が物質工学科に改組された。
4．2　５代校長に文化庁文化財鑑査官工藤圭章が任命された。
平成４．4．1　機械工学科（２学級）が機械工学科（１学級）と制御情報工学科（１学級）に改組された。
11．11　創立30周年記念式典を挙行した。
平成８．4．1　６代校長に豊橋技術科学大学副学長山下富雄が任命された。
4．1　専攻科が設置された。
平成11．4．1　電気工学科が電気電子工学科に改組された。
12．1　新講義棟竣工
平成13．7．10　７代校長に東京工業大学事務局長渡邉隆が任命された。
平成15．3．3　地域共同テクノセンター竣工
平成16．4．1　８代校長に信州大学事務局長久賀重雄が任命された。
平成19．4．1　９代校長に文部科学省大臣官房文教施設企画部長大島寛が任命された。
平成20．4．4　校長大島寛の配置換により、教授柳下福蔵が校長事務代理に任命された。
5．12　10代校長に校長事務代理柳下福蔵が任命された。

(1)

（出典：平成 23 年度学生便覧P 1）

資料2－1－③－7

沼津工業高等専門学校総合情報センター規則(抜粋)

(設置)

第１条　沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、総合情報センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条　センターは、学内情報基盤の維持管理、運用及び設計並びに学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援等を行うとともに、学内全般の情報教育の中心的役割を担うことを目的とする。

(業務)

第3条　センターは、次に掲げる業務を行う。

⑴ 学内情報基盤の維持管理、運用及び設計に関すること。

⑵ 学内情報ネットワークのセキュリティ管理に関すること。

⑶ サブネットワーク運用の調整及び技術支援に関すること。

⑷ 学内情報資源の有効活用のための企画、調整及び技術支援に関すること。

⑸ 事務情報化の推進に関すること。

⑹ 学生に関する情報教育に関すること。

⑺ 高等専門学校情報処理教育研究委員会に関すること。

⑻ プログラミングコンテストに関すること。

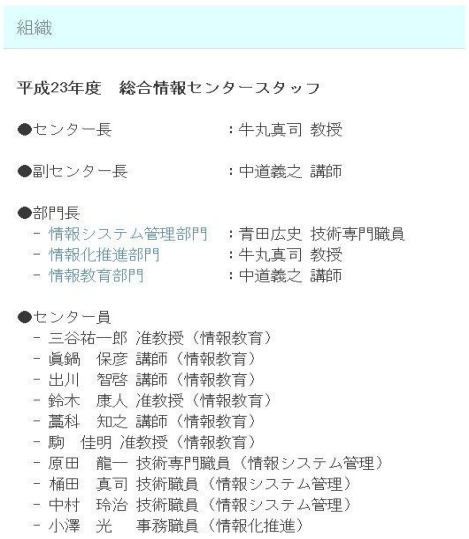
⑼ その他センターの目的を達成するために必要な事項

(以下、省略)

(出典　本校規則集)

資料2－1－③－8

情報センター組織図ならびに平成 23 年度構成員



組織

平成23年度　総合情報センタースタッフ

●センター長　：牛丸真司 教授

●副センター長　：中道義之 講師

●部門長
- 情報システム管理部門　：青田広史 技術専門職員
- 情報化推進部門　：牛丸真司 教授
- 情報教育部門　：中道義之 講師

●センター員
- 三谷祐一郎 准教授（情報教育）
- 眞鍋　保彦 講師（情報教育）
- 出川　智啓 講師（情報教育）
- 鈴木　康人 准教授（情報教育）
- 藁科　知之 講師（情報教育）
- 駒　佳明 准教授（情報教育）
- 原田　龍一 技術専門職員（情報システム管理）
- 桶田　真司 技術職員（情報システム管理）
- 中村　玲治 技術職員（情報システム管理）
- 小澤　光　事務職員（情報化推進）

(出典　本校公式ウェブサイト)

情報技術を重視した本校の教育方針に沿って，学内全般の情報教育の中心的役割を担っており，全学科の低学年時における情報リテラシー教育を担当しているほか，学内の情報処理演習室の教育用システムの維持管理業務も担っており，総合情報センター内の演習室は多くの科目で利用されている(資料 2－1－③－9)。

資料2－1－③－9

平成 23 年度前期 情報センターの利用状況

第一演習室

時限	月	火	水	木	金
1・2時限 8:50～10:20	中道 情報処理基礎 C1	松本 数値解析 S4	中道 情報処理基礎 S1	小林隆 数値解析 M4	嶋 プログラミング E2
	中道 情報処理基礎 C1	松本 数値解析 S4	中道 情報処理基礎 S1	小林隆 数値解析 M4	嶋 プログラミング E2
3・4時限 10:35～12:50	眞鍋 アルゴリズム AD	-	三谷 プログラミング M2	中道 情報処理基礎 D1	-
	眞鍋 アルゴリズム AD	-	三谷 プログラミング M2	中道 情報処理基礎 D1	-
5・6時限 13:05～14:35	大石 文学特論 S4	-	後藤 物質工学入門 C1	福田 機械工作実習 M2	中道 情報処理基礎 M1
	大石 文学特論 S4	-	後藤 物質工学入門 C1	福田 機械工作実習 M2	中道 情報処理基礎 M1
7・8時限 14:50～16:20	藤尾 図形処理 S4	中道 情報処理基礎 E1	-	福田 機械工作実習 M2	M科教員 機械工学入門 M1
	藤尾 図形処理 S4	中道 情報処理基礎 E1	-	-	M科教員 機械工学入門 M1
放課後 16:20～	-	-	-	-	-

第二演習室

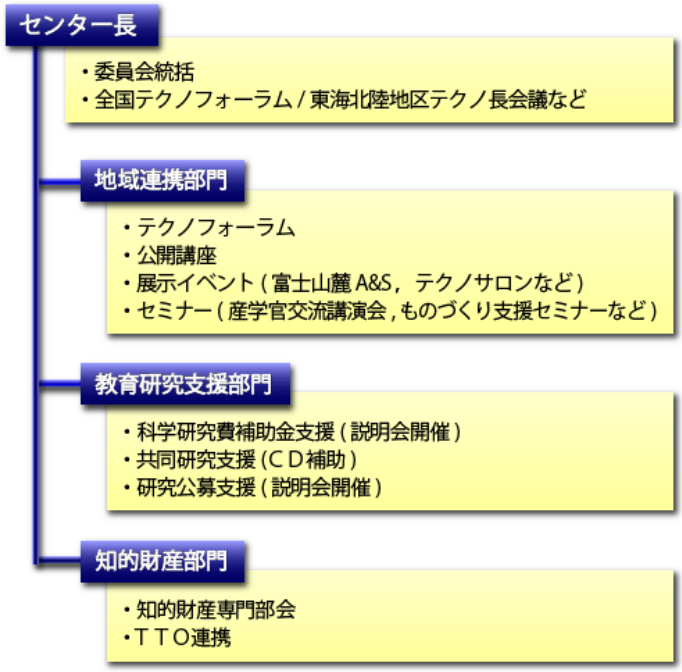
時限	月	火	水	木	金
1・2時限 8:50～10:20	芳野 化学情報学 AD	-	-	大石 文学特論 D4	-
	芳野 化学情報学 AD	-	-	大石 文学特論 D4	-
3・4時限 10:35～12:50	-	-	-	M科教 工業外国語 M5	-
	-	-	-	M科教 工業外国語 M5	-
5・6時限 13:05～14:35	山根 学生実験 C4	山根 学生実験 C4	-	青田 学生実験 E3	-
	山根 学生実験 C4	山根 学生実験 C4	-	青田 学生実験 E3	-
7・8時限 14:50～16:20	山根 学生実験 C4	山根 学生実験 C4	-	青田 学生実験 E3	-
	山根 学生実験 C4	山根 学生実験 C4	-	青田 学生実験 E3	-
放課後 16:20～	-	-	-	-	-

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

地域共同テクノセンターは平成 16年に発足し，地域共同テクノセンター長を委員長とした地域連携・研究支援委員会が設置され，部門制による組織を構成することでセンターの機能的な運営が行われている（資料2－1－③－10）。

資料２－１－③－10

地域共同テクノセンターが運営する地域連携・研究支援委員会組織図



（出典　本校公式ウェブサイト）

また，地域共同テクノセンターでは先端の設備を活用した共同研究が 53 件，受託研究が3件と全国高専でもトップクラスの共同研究が実施されている（資料2－1－③－11）。

資料２－１－③－11

平成 22 年度共同研究受託研究一覧

共同研究

本校研究担当者	研究題目	開始日(延長開始	研究終了日
M小林隆，新冨，永禮	極低温度乾燥空気発生装置用の高断熱フレキシブル配管及び継手の開発	研究料納付後(20.7.22)	H23.3.31
M小林隆	管フランジ継手の密封性能に与えるガスケット特性及び温度条件の影響に関する研究	H21.4.1	H22.6.30
C蓮實	醗酵技術によるオカラ及び食品工場由来の未利用副産物を機能性飼料化する研究	契約締結日(H21.4.13)	H22.5.31
S藤尾	検査治具のＣＡＤによる自動設計及び加工ＮＣデーター変換	H21.5.28	H22.5.27
C稲津	メタン貯蔵剤の開発	研究料納付後(H21.6.11)	H22.5.31
C蓮實,竹口	馬鈴薯澱粉工場におけるタンパク質回収技術の開発 酸等電点沈殿処理上清の嫌気性微生物分解の可能性につい	研究料納付後(H21.7.6)	H22.4.30
C蓮實,竹口	呼気ガスを用いた疲労測定器の開発	研究料納付後(H21.8.31)	H22.4.30
C蓮實	微生物によるガソリンスタンドの油汚染土壌浄化	研究料納付後(H21.8.27)	H22.8.31
C蓮實	イムノクロマト法高感度化技術の確立	研究料納付後(H21.10.14)	H22.7.31
C蓮實	新規消化管がんマーカーを指標とした診断方法の開発	研究料納付後(H21.10.14)	H22.7.31
C蓮實,竹口	アルカリゲネス・フェカリス菌を用いた脱臭装置の研究	研究料納付後(H21.10.20)	H22.8.31
C蓮實,竹口	二流体ノズルを用いた霧化粒子塗着装置の開発	研究料納付後(H21.9.25)	H22.4.30
C蓮實,稲津,薬科	水素化マグネシウムの利用技術開発	研究料納付後(H21.12.15)	H22.5.31
C蓮實,E望月孔,C稲津,	センシングに関する要素技術の検討	H21.4.22	H24.3.31
C渡辺,稲津	スラッジの発生を抑制しためっき廃液処理方法の開発	研究料納付後(H21.6.10)	H23.3.31
S藤尾,鈴木茂	プラスチック金型の高効率・高精度加工	H22.4.1	H23.3.31
S藤尾	金型加工の高性能化	H22.4.1	H23.3.31
C押川	「光酸化による芳香族アルデヒド類及びカルボン酸類の製造」に関する研究	H22.4.1	H23.3.31
L住吉	クラスター模型による核構造及び反応の研究	H22.4.1	H23.3.31
C蓮實	光触媒と紫外線灯の組合せによる滅菌・殺菌作用の確認	研究料納付後(H22.5.7)	H23.3.31
E高野	回転子、固定子を同軸で回転させる発電機の開発研究	研究料納付後(H22.5.28)	H22.9.30
C芳野	コタラヒムブツのマウス免疫系に対する作用に関する研究	研究料納付後(H22.4.30)	H23.3.31
C蓮實	プロテアーゼを使い鰹節の旨み成分を増加させ、削り節に加工する加工方法の開発及びかつおぶし虫の体内に持つ有	研究料納付後(H22.6.30)	H23.3.31
C竹口	人の疲労度、集中力の計測方法の確立	研究料納付後(H22.6.30)	H23.4.30
D鄭	防振台に組み込むダンパーの開発	研究料納付後(H22.5.14)	H23.3.31
C蓮實	イムノクロマト法高感度化基盤技術の化学的解析	研究料納付後(H22.6.15)	H23.7.31
C蓮實	新規消化管がんマーカーを指標とした診断技術の開発	研究料納付後(H22.6.15)	H23.7.31
S藤尾	検査治具のＣＡＤによる自動設計及び加工ＮＣデーター変換	H22.5.28	H23.5.27
M西田	海外鋼管の４点曲げ疲労強度に関する研究	H22.6.7	H22.12.31
C竹口	スプレイ方式による薄膜塗布装置の研究開発	研究料納付後(H22.6.7)	H23.4.30
C渡辺	リンを含む排水からのリン回収に関する研究	研究料納付後(H22.6.10)	H23.3.20
C蓮實	二流体ノズルとアルカリゲネス・フェカリス菌を用いた新規脱臭装置の開発	研究料納付後(H22.6.10)	H23.8.31
D川上	飲料用紙容器におけるスカイブ成形不良の画像検知方法に関する研究	研究料納付後(H22.7.15)	H23.6.30
M小林	管フランジ継手の密封性能に与えるガスケット特性及び温度条件の影響に関する研究	H22.7.1	H23.3.31
S長谷	実務スキル涵養する高専ー技科大における制御工学教育プログラムの検討と作成	H22.7.1	H23.3.15
C渡辺	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	H22.7.1	H23.3.15
C渡辺	持続可能な社会構築を目的とする市民の連携促進と環境配慮型まちづくりへの応用	H22.7.1	H23.3.15
S藤尾	機械システムのロバスト運動制御に関する研究	H22.7.1	H23.3.15
E佐藤	近接場光デバイスの基盤技術の研究開発	H22.7.1	H23.3.15
D遠山	ナノコンポジット材料の高電界下での電荷挙動の把握と電気伝導機構の解明	H22.7.1	H23.3.15
C稲津	有機遷移金属錯体を構造規制剤に用いた新規ゼオライト合成法の開発と吸着，触媒能の特性化	H22.7.1	H23.3.15
E望月孔	戸別同報受信機の商品化に関する研究	研究料納付後(H22.7.30)	H23.3.31
C稲津	担持パラジウム触媒の酸化物薄膜修飾による触媒燃焼の基質選択性向上	H22.7.23	H23.3.31
E野毛	水晶基板の加工技術と特性評価に関する研究	H22.7.23	H23.3.31
D遠山	電力ケーブル線路の水トリー劣化診断法の開発（その５）	研究料納付後(H22.9.30)	H23.3.31
C蓮實	微生物によるガソリンスタンドの油汚染土壌浄化	研究料納付後(H22.8.30)	H23.8.31
C蓮實,竹口	竜巻流発生装置を利用した水質浄化技術の検証	研究料納付後(H22.9.2)	H23.3.31
C蓮實,竹口	馬鈴しょ澱粉工場排水の新規処理技術の検討（膜分離）ーフリューム水の好気性微生物分解の可能性についてー	研究料納付後(H22.9.13)	H23.4.30
C芳野	コタラヒムブツのマウス脂質代謝系に対する作用に関する研究	研究料納付後(H22.9.2)	H23.3.31
C蓮實,稲津,薬科	MgH2の加水分解促進・制御技術の開発とMgH2適用プロトタイプ携帯充電器の試作	研究料納付後(H22.9.9)	H23.3.31
E望月孔	軸受け摩耗センサー開発の調査研究	研究料納付後(H22.11.19)	H22.12.24
C稲津	BWRシビアアクシデント時の格納容器内残留水素除去のためのアンモニア合成触媒に関する研究	研究料納付後(H22.11.30)	H23.3.25
C押川	光触媒によるトルエン誘導体の光直接酸化の化学種決定	契約締結日(H22.11.29)	H23.3.31

受託研究

本校研究担当者	研究題目	開始日(延長開始)	研究終了日
S相良	水平&鉛直器のデジタル表示化	研究料納付後(H22.7.30)	H23.2.28
S相良	骨髄採取工具の試作開発	H22.9.13	H23.2.28
S藤尾	拡張現実感技術を応用した超音波ガイド下穿刺手技支援システムの開発	H22.9.13	H23.2.28

（出典　総務課作成資料）

多くの学生がこれらの研究に積極的に参加しており(資料2－1－③－12)，総合開発力のある学生の育成と地域産業界との連携を実現し，教育目標でもある「産業の実務に通じた実践的かつ創造的な技術者の養成」に大きな成果を上げている。

資料2－1－③－12

地域共同テクノセンター指紋認証登録概数一覧

平成２３年度地域共同テクノセンター利用一覧

テクノセンター施設・設備

申請名	提出日	申請者	利用目的	期間（始）	期間（終）	施設名 1F研究室	施設名 2F研究室	施設名 3F ｾﾐﾅｰ室	施設名 3F研究室	設備名	その他学内利用者
1 新冨 雅仁	平成23年2月25日	M新冨	その他（専攻科研究および専攻科実験での使用）	H23.4.1	H24.3.31	○				レーザー顕微鏡	
2 芳野 恭士	平成23年2月25日	C芳野	共同研究（盛光）	H23.4.1	H24.3.31		○			質量分析計	
3 稲津 晃司	~~2011/3/1~~（差替え）2011/3/30	C稲津	1.共同研究（矢崎総業）2.共同研究（東芝電力ｼｽﾃﾑ社）	H23.4.1	H24.3.31		○			中央実験台および局所排気装置付きドラフトチャンバー	学生4名（C5吉田健人，C5大嶽遼子，C5辻井明日香，C5曲木有希）
4 蓮實 文彦	平成23年3月16日	C蓮実	共同研究（ピーエル（イムノ））	H23.4.1	H24.3.31		○			LC/MS,LC	学生1名（C5鈴木健士郎）
5 蓮實 文彦	平成23年3月16日	C蓮実	共同研究（ピーエル（がんマーカ））	H23.4.1	H24.3.31		○			LC/MS,LC	学生1名（C5新美茉莉）
6 蓮實 文彦	平成23年3月16日	C蓮実	共同研究（鈴与総合研究所）	H23.4.1	H24.3.31		○			GC/MS	学生1名（CB2福田洸平）
7 蓮實 文彦	平成23年3月16日	C蓮実	共同研究（山岡環境設計）	H23.4.1	H24.3.31		○			アンモニア吸収装置	学生1名（CB2河村 慧）
8 蓮實 文彦	平成23年3月18日	C蓮実	共同研究（合資会社 高福）	H23.4.12	H24.3.31		○			LC/MS,LC	学生1名（C5谷口勇貴）
9 蓮實 文彦	平成23年3月18日	C蓮実	共同研究（小清水農協）	H23.4.1	H24.3.31		○			LC/MS,LC	学生1名（C5土屋陽香）
10 桶田 真司	平成23年3月30日	技術室桶田	その他（３次元立体造形機Elite/ZPrinterのメンテナンス）	H23.4.1	H24.3.31				○	Dimension Elite，超音波洗浄機Z Corp Z Printer 450	
11 渡辺 敦雄	平成23年3月30日	C渡辺敦	共同研究（臼井国際産業）	H23.4.1	H24.3.31		○			RO膜装置、HFF、電気透析装置など	学生4名（C5青山奈々恵，C5勝又美香，C5鈴木昂生，C5山田大貴）
12 渡辺 敦雄	平成23年3月30日	C渡辺敦	共同研究（豊橋技科大）	H23.4.1	H24.3.31		○			Wifitなどの身体動揺測定装置など	学生4名（C5青山奈々恵，C5勝又美香，C5鈴木昂生，C5山田大貴）
13 永禮 哲生	平成23年3月31日	M永禮	共同研究（アトマックス）	H23.4.1	H24.3.31	○			○	レーザー顕微鏡・三次元造型機	
14 山中 仁	平成23年3月31日	M山中	その他（３次元デジタル設計造形コンテスト）	H23.4.1	H24.3.31				○	Dimension Elite，Zprinter，周辺PC	
15 西田 友久	平成23年3月31日	M西田	その他（科研費研究）	H23.4.1	H24.3.31	○				超深度形状測定顕微鏡　VK-8500	
16 竹口 昌之	平成23年3月31日	C竹口	共同研究（小清水町農協）	H23.4.1	H24.3.31		○			ガスクロマトグラフ質量分析計	
17 藤尾 三紀夫	平成23年3月31日	S藤尾	共同研究（東芝機械）	H23.4.1	H24.3.31	○		○	○	マシニングセンター（V33）プロジェクタ，デスクトップパソコン（MasterCAM，SolidWorksほか）	学生4名（DS1山梨友里恵，DS1矢野公規，S4秋山絵梨，S5石原賢太）
18 藤尾 三紀夫	平成23年3月31日	S藤尾	共同研究（友成機工）	H23.4.1	H24.3.31	○		○	○	プロジェクタ，デスクトップパソコン（SolidWorks､MasterCAM､NaskaView），立型マシニングセンターV33	学生4名（S4川口龍樹，S4長谷川充，S5松蔭 瞭，S5三改本裕矢）
19 藤尾 三紀夫	平成23年3月31日	S藤尾	共同研究（東静クボタ工機）	H23.4.1	H23.5.27	○		○	○	プロジェクタ，ノートパソコン，デスクトップパソコン（SolidWorks），立型マシニングセンターV33	学生1名（S4杉山大輔）
20 柳下 福蔵	平成23年3月31日	校長柳下	その他（教員研究）	H23.4.1	H24.3.31	○				エアー駆動二重偏心式スパイラル穴あけ加工装置　他	柘植技術補佐員
21 古川 一実	平成23年3月31日	C古川	その他（教員研究）	H23.4.1	H24.3.31		○			クリーンベンチ	
22 芳野 恭士	平成23年4月25日	C芳野	その他（キムテック共同研究予備実験）	H23.4.25	H24.3.31		○			質量分析計	C押川 学生3名（CB1大石駿介，CB1橋本芙弥，CB1間部涼祐）

テクノセンター機器搬入

申請名	提出日	申請者	利用目的	期間（始）	期間（終）	施設名 1F研究室	施設名 2F研究室	施設名 3F ｾﾐﾅｰ室	施設名 3F研究室	搬入機器
1 竹口 昌之	平成23年3月31日	C竹口	共同研究（小清水町農協）	H23.4.1	H24.3.31		○			2次元電気泳動システム一式
2 稲津 晃司	平成23年4月25日	C稲津	共同研究（東芝）（矢崎総業）	H23.4.25	H24.3.31		○			触媒分析装置（日本ベル製BELCAT，日機装製質量分析装置QMS）

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

各センターは教育組織の一部として全学的に活用されており，教育の目的を達成する上で適切である。

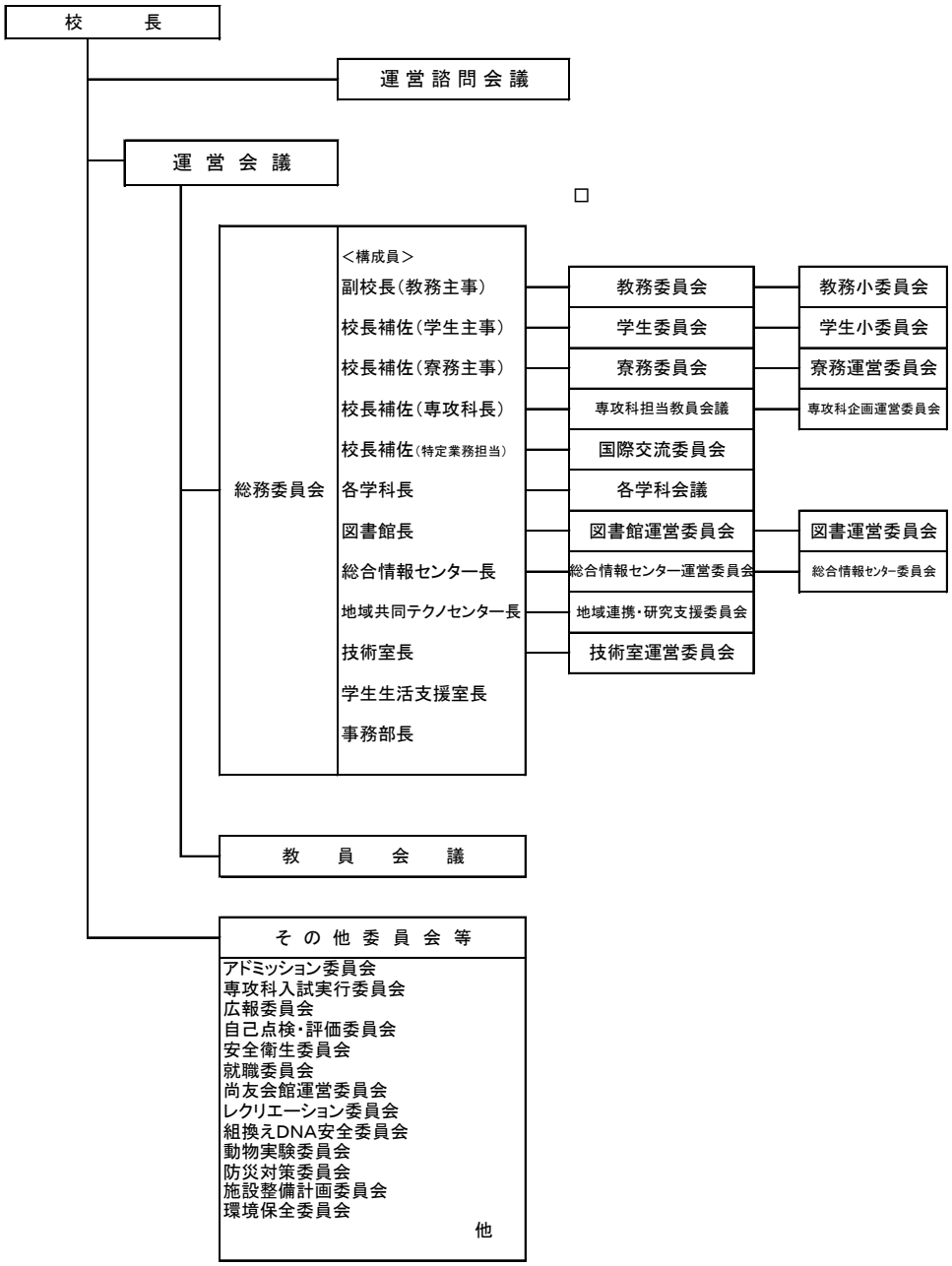
観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校は，教育活動を有効に展開するために，校長の下に各種会議及び委員会が組織されている（資料2－2－①－1）。

資料2－2－①－1

沼津工業高等専門学校運営組織図



（出典　総務課作成資料）

運営会議（資料2－2－①―2）は校長，副校長，校長補佐，事務部長，各課長を構成員とし，総務委員会（資料2－2－①―3）に諮る教育活動と管理運営上の重要事項を協議する場として毎月定期的に開催している。総務委員会は校長，副校長，校長補佐，各学科長，各施設長等及び事務部長を構成員として，校長が議長を務め，教育・研究・管理運営等の総括責任者として提案議題について審議し，教育活動上の学校の方針を決定する最高意思決定機関として毎月1回開催されている。

資料2－2－①－2

沼津工業高等専門学校運営会議規則

（平成 16.5.12 制定）

最終改正　平成 22.4.14

（設置）

第1条　沼津工業高等専門学校に、沼津工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

（任務）

第2条　運営会議は、全校的視野に立った機動的な学校運営を推進するために必要な連絡調整を図ることを任務とする。

（組織）

第3条　運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

（1）　校長

（2）　副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

（3）　事務部長

（4）　総務課長及び学生課長

（5）　その他校長が必要と認める者

（議長）

第4条　運営会議に議長を置き、校長をもって充てる。

（会議の開催）

第5条　運営会議は、原則として毎月2回開催する。ただし、議長が必要と認めるときは、臨時に開催することがある。

（意見の聴取）

第6条　議長が必要と認めるときは、第3条に規定する者以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務）

第7条　運営会議の事務は、総務課において処理する。

（雑則）

第8条　この規則に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が別に定める。

附　則

この規則は、平成 16 年5月 12 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 18 年4月1日から施行する。

附　則

この規則は平成21年4月17日から施行し，平成20年8月1日から適用する。

附　則

この規則は，平成22年4月14日から施行し，同年4月1日から適用する。

（出典　本校規則集）

資料2－2－①－3

沼津工業高等専門学校総務委員会規則

（昭和 49.2.25 制定）

最終改正　平成 21.4.17

（目的）

第1条　沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため、総務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

（組織）

第2条　委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。

(1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

(2)学科長、教養科長及び専攻科長

(3)本校教員で校長が任命した者

(4)事務部長

（審議事項）

第3条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

(1)教育の方針に関すること。

(2)学校の管理運営に関すること。

(3)その他必要と認められること。

（会議）

第4条　委員会は毎月1回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。

2　校長に事故あるときは、副校長（教務主事）がその職務を代行する。

（委員以外の者の委員会への出席）

第5条　校長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見をきくことができる。

（幹事）

第6条　委員会に幹事をおき、会務を整理する。

2　幹事は、総務課長及び学生課長をもって充てる。

（委員会の事務）

第7条　委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条　この規則の改廃の必要あるときは、委員会の審議を経て校長が定めるものとする。

附　則

この規則は、昭和 49 年2月 25 日から施行する。

附　則

この規則は、平成 10 年4月1日から施行する。

附　則

この規則は、平成 11 年4月1日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月1日から適用する。

附　則

この規則は、平成 17 年4月1日から施行する。

附　則
この規則は、平成 18 年4月1日から施行する。
附　則
この規則は平成 21 年 4 月 17 日から施行し、平成 20 年 8 月 1 日から適用する。

（出典　本校規則集）

教員会議（資料2－2－①―4）は校長及び全教員が構成員となり，意思の統一及び情報の共有を図っている。

資料2－2－①－4

沼津工業高等専門学校教員会議規則

（昭和 50.2.12 制定）
最終改正　平成 19.3.14

(目的)
第1条　沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教務・厚生補導及びその他に関する校長の諮問事項を審議するため教員会議(以下「会議」という。)を置く。
(組織)
第2条　会議は、校長が主宰し、本校専任の教授・准教授・講師・助教・助手をもって組織する。
(教員以外の者の会議への出席)
第3条　校長が必要と認めるときは、その都度前条以外の者を会議に出席させ、その報告及び意見を求めることができる。
(会議)
第4条　会議は校長がこれを招集し、毎月1回開催することを原則とする。ただし、必要あるときは臨時にこれを招集することができる。
2　会議の司会及び進行は、校長の指名する教員がこれにあたる。
(常置委員会への審議事項の付託)
第5条　会議の審議事項について必要と認められたものは、常置の委員会にその審議を付託することができる。
2　常置委員会の委員長は、付託された審議事項の審議結果を会議に報告するものとする。
(会議の事務)
第6条　会議の事務は、総務課において処理する。
(雑則)
第7条　この規則の改廃の必要あるときは、会議の審議を経て校長が定めるものとする。
附　則
この規則は、昭和 50 年2月 12 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月1日から適用する。
附　則
この規則は、平成 18 年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成 19 年4月1日から施行する。

（出典　本校規則集）

校長の下，副校長（教務主事），校長補佐（学生主事）と校長補佐（寮務主事）の3主事を置き（資料2－2－①―5），平成 22 年度からは校長補佐（専攻科長）及び校長補佐（特定業務担当），平成 23 年度からは校長補佐（専攻科長），校長補佐（国際交流・FD担当）及び校長補佐（学際教育担当）を置き，教育活動を有効に展開する教員組織を構成している（資料2－2－①―6）。

資料2－2－①－5

沼津工業高等専門学校学則(抜粋)

第9条　本校に副校長(教務主事)・校長補佐(学生主事及び寮務主事)を置く。
2　副校長(教務主事)は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
3　校長補佐(学生主事)は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
4　校長補佐(寮務主事)は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　本校規則集）

資料2－2－①－6

沼津工業高等専門学校教員組織規則(抜粋)

(定義)
第2条　この規則において「教員」とは、学則第8条第1項に規定する教職員のうち、教授、准教授、講師及び助教で、本校に常時勤務する者をいう。
2　この規則において「専門学科」とは、学則第7条第1項に定める学科をいう。
(教員組織)
第3条　本校に専門学科のほか教養科を置き、原則として、教員は専門学科及び教養科（以下「学科等」という。）のうちいずれかの組織に属するものとする。
(副校長)
第4条　機構組織規則第5条第3項及び学則第9条第1項の規定に基づき、本校に副校長を置く。
2　副校長は、本校の教授の中から校長が任命する。
3　副校長は、校長を補佐し、本校の校務を掌理する。
4　副校長は、校長が不在のときはその職務を代行する。
5　副校長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副校長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
(校長補佐)
第5条　機構組織規則第5条第3項及び学則第9条第1項の規定に基づき、本校に校長補佐を置く。
2　校長補佐は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　校長補佐は、校長の職責遂行を助ける。
4　校長補佐の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、校長補佐に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
第5条の2　前条に定めるもののほか，本校に臨時の校長補佐を置くことができる。

（主事）
第6条　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第175条、機構組織規則第5条第1項及び学則第9条第1項の規定に基づき、本校に教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）を置く。
2　独立行政法人国立高等専門学校機構の主事等の任免に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第61号）の規定に基づき、教務主事については本校の教授の中から、学生主事及び寮務主事については本校の教授又は准教授の中から、それぞれ校長の推薦を受けて独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が任命する。
3　主事は、それぞれ学則第9条第2項から第4項までに掲げる職務を掌理する。
4　主事の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、当該主事に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（専攻科長）
第9条　本校の専攻科に、専攻科長を置く。
2　専攻科長は、専攻科の授業を担当する本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
3　専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関することを掌理する。
4　専攻科長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（学科長及び教養科長）
第10条　学科等に、学科長及び教養科長（以下「学科長等」という。）を置く。
2　学科長等は、本校の教授の中から校長が任命する。
3　学科長等は、校長の命を受け、次の各号に掲げる業務を行い、当該学科等の運営及び連絡調整に当たるものとする。
(1)　当該学科等の運営及び会議に関すること。
(2)　当該学科等を代表して意見の具申及び連絡調整に当たること。
(3)　当該学科等の教育計画の立案及び学生の教育指導に関すること。
(4)　所属教員の研究の伸展に関すること。
(5)　当該学科等に属する施設、設備、機械及び器具等の管理に関すること。
(6)　当該学科学生の進路指導に関すること。
(7)　その他当該学科等に関すること。
4　学科長等の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、当該学科長等に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
5　その他、学科長等の職務に関する事項は、別に定める。

（出典　本校規則集）

副校長（教務主事）は教育課程の編成及び実施、学校行事，入学，退学，転学の許可，進級及び卒業の認定，出欠の扱い，指導要録の作成，教科書，その他図書及び教材の扱い等について校長を補佐し，教務委員会（資料2－2－①―7）を運営している。教務委員会へ諮る事項等は主事・主事補・教務委員からなる教務小委員会で事前に検討を行っている(資料2－2－①－8)。

資料2－2－①－7

沼津工業高等専門学校教務委員会規則

（昭和 49.4.1 制定）

最終改正　平成 20.2.13

第1条　沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

（組織）

第2条　委員会は、次の委員をもって組織する。

(1)副校長（教務主事）

(2)教務副主事

(3)教務主事補

(4)学科長、教養科長及び専攻科長

(5)図書館長

(6)本校教員で校長が任命した者

（審議事項）

第3条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

(1)教育課程及び授業時間割の編成に関すること。

(2)学校行事に関すること。

(3)学生の教科履修に関すること

(4)入学、退学、編入及び転科等に関すること。

(5)指導要録等教務記録に関すること。

(6)その他教務に関し必要と認められること。

（委員の任期）

第4条　委員は、校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2　補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条　委員会の委員長は、副校長（教務主事）とする。

2　委員長に事故あるときは、教務副主事がその職務を代行する。

（委員会の開催）

第6条委員長は、必要と認めたとき委員会を開催し、その議長となる。

(小委員会)

第7条　委員長が必要と認めたときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の委員会への出席)

第8条　委員長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席が求め、その意見をきくことができる。

(校長への報告)

第9条　委員長は、委員会で審議された事項を、校長に報告するものとする。

(幹事)

第10条　委員会に幹事をおき、会務を整理する。

2　幹事は、学生課長をもってあてる。

(委員会の事務)

第11条　委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第12条　この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。

附　則

この規則は、昭和 49 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 10 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 11 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成 17 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 20 年4月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料2－2－①－８

教務小委員会開催の連絡通知メール

教務小委員会委員各位

大島です。

下記のように第２回教務小委員会を開催したいと
思います。（ご都合が合わない先生方には申し訳
ありません。）

記

日時：５月９日（月）15:45～17:00
場所：第３会議室（予定）
　　大河係長殿、部屋の確保をお願いいたします。
主な議事：
　　１）校長リーダーシップ経費申請について
　　２）教務規則の整備
　　３）学習支援の進捗
　　４）到達度評価（ＧＰＡ）の進捗
　　５）中間試験時間割
　　６）教員相互の授業参観
　　７）静岡大学との教育・研究協力協定の具体的活動
　　８）企業技術者等活用プログラム
　　９）その他

以上、ご参集のほどよろしくお願いいたします。

（出典　本校学内メール）

校長補佐（学生主事）は学生の課外活動，集団指導，奨学金，職業指導（就職等），学生会及びその行事，保健指導，厚生福祉等について校長を補佐し，学生委員会（資料2－2－①―9）及び主事・主事補からなる学生小委員会を運営している。

資料2－2－①－9

学生委員会規則

（昭和 49.4.1 制定）

最終改正　平成 20.2.13

第1条　沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）をおく。

（組織）

第2条　委員会は、次の委員をもって組織する。

⑴副校長（教務主事）

⑵教務副主事

⑶教務主事補

⑷学科長、教養科長及び専攻科長

⑸図書館長

⑹本校教員で校長が任命した者

（審議事項）

第3条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。

⑴教育課程及び授業時間割の編成に関すること。

⑵学校行事に関すること。

⑶学生の教科履修に関すること

⑷入学、退学、編入及び転科等に関すること。

⑸指導要録等教務記録に関すること。

⑹その他教務に関し必要と認められること。

（委員の任期）

第4条　委員は、校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

2　補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条　委員会の委員長は、副校長（教務主事）とする。

2　委員長に事故あるときは、教務副主事がその職務を代行する。

（委員会の開催）

第6条　委員長は、必要と認めたとき委員会を開催し、その議長となる。

（小委員会）

第7条　委員長が必要と認めたときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする。

（委員以外の者の委員会への出席）

第8条　委員長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席が求め、その意見をきくことができる。

（校長への報告）

第9条　委員長は、委員会で審議された事項を、校長に報告するものとする。

(幹事)

第10条　委員会に幹事をおき、会務を整理する。

2　幹事は、学生課長をもってあてる。

(委員会の事務)

第11条　委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

(雑則)

第12条　この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。

附　則

この規則は、昭和 49 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 10 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 11 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月１日から適用する。

附　則

この規則は、平成 17 年4月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成 20 年4月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

校長補佐(寮務主事)は学寮の運営，管理，寮生の生活指導及び寮内規律の保持，その他寮務関係事項について校長を補佐し，寮務委員会(資料2－2－①―10)及び寮務運営委員会を運営している。

資料2－2－①－10

寮務委員会規則

(昭和 49.10.30 制定)
最終改正　平成 20.2.13

(目的)
第1条　沼津工業高等専門学校学生寮規則第8条に基づく寮務に関する重要な事項を審議するため、寮務委員会(以下「委員会」という。)を置く。
(審議事項)
第2条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。
(1)寮生の教育及び訓育指導に関すること。
(2)寮生の健康管理に関すること。
(3)寮生の福利厚生に関すること。
(4)寮生の生活相談に関すること。
(5)学生の入寮及び退寮に関すること。
(6)その他寮務に関し、必要と認められること。
(組織)
第3条　委員会は、次の委員をもって組織する。
(1)校長補佐(寮務主事)
(2)副校長(教務主事)
(3)校長補佐(学生主事)
(4)寮務副主事
(5)寮務主事補
(6)寮監
(7)学級担任学年代表
(8)本校教員で校長が任命した者
(委員の任期)
第4条　委員は校長が任命し、その任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
(委員長)
第5条　委員会の委員長は、校長補佐(寮務主事)とする。
2　委員長に事故あるときは、寮務副主事がその職務を代行する。
(委員会の開催)
第6条　委員長は、必要と認めたとき、委員会を開催し、その議長となる。
(小委員会)
第7条　委員長が必要と認めたときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする
(委員以外の者の委員会への出席)
第8条　委員長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見をきくことができる。
(校長への報告)
第9条　委員長は、委員会で審議された事項を校長に報告するものとする。
(幹事)
第10条　委員会に幹事をおき、会務を処理する。
2　幹事は、学生課長をもってあてる。
(委員会の事務)
第11条　委員会の事務は、学生課寮務係において処理する。
(雑則)
第12条　この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。
附　則
この規則は、昭和 49 年 10 月 30 日から施行する。
附　則
この規則は、平成5年4月 14 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 10 年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月1日から適用する。
附　則
この規則は、平成 20 年4月1日から施行する。

(出典　本校規則集)

特に寮では棟ごとに担当教員を置き，学生に対する細やかな指導を行っている（資料2－2－①－11）。

資料2－2－①－11

平成 23 年度寮務担当教員名簿

2011（平成23）年度　寮務担当教員名簿

役　職	氏　名	学　科	担　　当
寮務主事 （校長補佐）	遠藤　良樹	教　養	総轄　・寮務委員長　・寮務運営委員長　・総務委員　・学生委員 ・外国人留学生部会委員　・環境保全委員　　他
寮　　監	福木　洋一	教　養	総轄　・寮務運営委員　・外国人留学生部会委員
寮務主事補	西村　賢治	電気電子	栄峰顧問　・風紀　・宿直割振（前期）　・寮監代行（火曜）　・寮務運営委員
寮務主事補	中道　義之	情報センター	優峰顧問　・風紀　・宿直割振（後期）　・寮監代行 （後期水曜）　・IT管理
寮務主事補	佐藤　崇徳	教養	光峰顧問　・風紀　・防災　・寮監代行 （後期火曜）　・外国人留学生部会委員
寮務委員	宮内　太積	機械	翔峰顧問
寮務委員	松田　伸也	機械	翔峰顧問　・寮監代行 （後期水曜）
寮務委員	高矢　昌紀	電気電子	優峰顧問　・寮監代行 （前期水曜）
寮務委員	青木　悠祐	電子制御	秀峰顧問　・MC管理
寮務委員	出川　智啓	電子制御	秀峰顧問　・MC管理
寮務委員	大沼　巧	電子制御	清峰顧問　・議事録
寮務委員	山根　説子	物質	明峰顧問　・寮監代行 （前期火曜）
寮務委員	平田陽一郎	教養	明峰顧問
寮務委員	澤井　洋	教養	光峰顧問　・寮監代行 （前期水曜）
寮務委員	鈴木　正樹	教養	清峰顧問　・防災　23

（出典　寮務主事作成資料）

校長補佐(専攻科長)は専攻科教育課程の編成及び実施，入学，退学の許可，進級及び修了の認定，その他専攻科の教育事項について校長を補佐し，専攻科担当教員会議(資料2－2－①－12)及び専攻科企画運営委員会(資料2－2－①－13)を運営している。

資料2－2－①－12

沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則

(平成 15.6.11 制定)
最終改正　平成 19.3.14

(設置)
第1条　沼津工業高等専門学校専攻科に専攻科担当教員会議(以下「会議」という。)を置く。
(審議事項)
第2条　会議は、校長の諮問に応じ、専攻科に関し、次に掲げる事項を審議する。
(1)教務に関する事項
(2)厚生補導に関する事項
(3)入学者の選抜に関する事項
(4)自己点検・評価に関する事項
(5)専攻科担当教員の資格審査に関する事項
(6)日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査・認定に関する事項
(7)大学評価・学位授与機構の審査に関する事項
(8)その他専攻科の運営に関し、専攻科長が必要と認める事項
(組織)
第3条　会議は、次に掲げる教員をもって組織する。
(1)専攻科長
(2)専攻科担当教員(本校専任の教授、准教授、講師及び助教に限る。)
(議長)
第4条　会議に議長を置き、専攻科長をもって充てる。
2　議長は、会議を主宰する。
3　専攻科長に事故があるときは、あらかじめ専攻科長の指名する教員がその職務を代行する。
(議事)
第5条　会議は、3分の2以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
2　会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(企画・運営委員会)
第6条　会議の円滑な運営を図るため、企画・運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。
2　委員会は、専攻科長及び第3条第2号の構成員のうちから専攻科長が指名する者をもって組織する。
(意見の聴取)
第7条　議長が必要と認めるときは、関係教員に会議への出席を求め、その意見を聴くことができる。
(事務)
第8条　会議に関する事務は、総務課及び学生課において処理する。
(細目)
第9条　この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な細目は、別に定める。
附　則
1　この規則は、平成15年6月11日から施行する。
2　沼津工業高等専門学校専攻科委員会規則(平成14年3月13日制定)は、廃止する。
附　則
この規則は、平成 16 年4月 14 日から施行し、同年4月1日から適用する。
附　則
この規則は、平成 18 年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成 19 年4月1日から施行する。

(出典　本校規則集)

資料2－2－①－13

専攻科企画運営委員組織図

平成 23 年度専攻科企画運営委員組織図

専攻科長　　電子制御工学科　教　授　遠山和之
専攻科長職務代行　　電気電子工学科　教　授　高野明夫

第１委員会（専攻科研究発表会事務局）
- 委員長　物質工学科　講　師　藁科知之
- 委員　機械工学科　准教授　新冨雅仁
- 委員　物質工学科　准教授　竹口昌之
- 委員　教養科　教　授　小林美学

第２委員会（各種調査）
- 委員長　機械工学科　准教授　新冨雅仁

第３委員会（インターンシップ）
- 委員長　電気電子工学科　教　授　高野明夫

第４委員会（専攻科学生支援室）
- 委員長　電子制御工学科　准教授　大庭勝久（専攻科学生支援室室長）
- 委員　教養科　講　師　松澤　寛（専攻科学生支援室室員）

第５委員会（専攻科実験）
- 委員長　制御情報工学科　准教授　鈴木康人
- 委員　制御情報工学科　准教授　芹澤弘秀

第６委員会（年間行事予定の策定）
- 委員長　教養科　講　師　松澤　寛

第７委員会（専攻科入試実行委員会）
- 委員長　電子制御工学科　教　授　遠山和之
- 委員　機械工学科　准教授　新冨雅仁
- 委員　電気電子工学科　教　授　高野明夫
- 委員　電子制御工学科　准教授　大庭勝久
- 委員　制御情報工学科　准教授　鈴木康人
- 委員　物質工学科　准教授　竹口昌之
- 委員　物質工学科　講　師　藁科知之
- 委員　教養科　講　師　松澤　寛

（出典　専攻科長作成資料）

校長補佐（特定業務担当（平成 22 年度），国際交流・FD担当（平成 23 年度））は学生の国際交流及び教員のFD研修会の企画運営について校長を補佐し，国際交流委員会（資料２－２－①－14）及び教員 FD 研修会（資料２－２－①－15）を運営している。豊かな国際感覚とコミュニケーション能力の育成をより図り易くする目的で、国際交流委員会規則を平成 22 年度に全面的に改正した。

資料２－２－①－14

国際交流委員会規則

（平成 2.2.14 制定）
最終改正　平成 22.12.8

（目的）
第1条　沼津工業高等専門学校における国際交流に関する重要事項を審議するため、国際交流委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第2条　委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に定める事項を審議する。
(1)外国の大学等との交流協定に関すること
(2)外国の大学等からの教職員、研究者及び学生の受け入れに関すること
(3)外国の大学等への教職員及び学生の派遣に関すること
(4)外国人留学生に関すること
(5)学生の海外留学に関すること
(6)その他国際交流に関すること
（組織）
第3条　委員会は、次の掲げる者をもって組織する。
(1)副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）、校長補佐（寮務主事）及び校長補佐（特定業務担当）
(2)学科長及び教養科長
(3)事務部長
(4)総務課長及び学生課長
(5)その他委員長が必要と認めた者
（任期）
第4条　前条第5号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
2　前項の委員の補欠により、選任された後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第5条　委員会に委員長を置き、第3条第1号の委員のうちから校長が指名する委員をもって充てる。
2　委員長は委員会を招集し、その議長となる。
3　委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。
（意見の聴取）
第6条　委員長が必要と認めた場合は、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
（部会）
第7条　委員会に、国際交流に関する専門的事項を調査協議するため部会を置くことができる。
2　部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。
（事務）
第8条　委員会の事務は、総務課及び学生課において処理する。
（雑則）

第9条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附　則

この規則は、平成22年12月８日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料2－2－①－15

教員FD研修会実施要項

1　目　　的

本校教員を対象としたファカルティ・ディベロップメント研修会を開催することにより、授業内容・教育方法・学生支援体制などの改善・向上について情報提供・意見交換を行うとともに、学外有識者を講演講師及び助言者として招聘し、本校教員の教育・指導力向上などに役立てることを目的とする。

2　実施体制

研修会は、校長補佐（国際交流・FD担当）が主宰し、本校専任の教員が参加する。

3　研 修 会

5月、7月、10月、12月の年4回開催することを原則とする。

4　事　　務

研修会に関する事務は、学生課課長補佐が処理する。

5　そ の 他

研修会の運営に関し必要な事項は、運営会議において決定する。

（出典　学生課作成資料）

校長補佐（学際教育担当）は平成 22 年度に校長の特命により設置された「将来検討WG」の検討結果に基づき，社会経済環境の変化に対応するために医療・福祉分野，環境・エネルギー分野，新機能材料分野の学際教育を行うための「教育課程改定（案）―混合学級と学際教育の導入―」（訪問調査時に提示）を平成 24 年度入学生から適用するための具体的な教育課程の編成等の事項について校長を補佐し，教務委員会と連携して「学際教育導入WG」を運営している（資料2－2－①－16）。

資料2－2－①－16

平成 23 年度第1回総務委員会議事要録（抜粋）

平成23年度　第1回総務委員会議事要録

1．日　　時　　平成23年 4 月13日（水）　15時00分～17時12分

2．場　　所　　校長室

3．司　　会　　校　長

4．出席者　　校長　副校長(教務主事)　校長補佐(学生主事)　校長補佐(寮務主事)
校長補佐(専攻科長)　校長補佐(国際交流・FD担当)　校長補佐(学際教育担当)
機械工学科長　電気電子工学科長　電子制御工学科長　制御情報工学科長　物質工学科長
教養科長　総合情報センター長　地域共同テクノセンター長　技術室長　事務部長
（幹事）総務課長　学生課長
（陪席）総務課長補佐(総務担当)　総務課長補佐(会計担当)　学生課長補佐

（略）

（7）学際教育担当報告について

学際教育担当から資料13に基づき以下のとおり報告があった。
①平成24年度実施の1年次共通実験検討委員会
②ミニ研究
③中学校訪問
④学際教育科目設定工程

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動を展開する上で必要な運営体制が規則等で明文化され，組織的に整備され、必要な活動が行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

基準2－2－①で言及した教員会議は，全教員が参加している。また，教務委員会は，専門学科ならびに一般科目担当教員がそれぞれ複数名参加している（資料2－2－②－1）。学生委員会、寮務委員会及びその他多くの委員会も同様である。

資料2－2－②－1

沼津工業高等専門学校教務委員会規則(抜粋)

第2条　委員会は、次の委員をもって組織する。

⑴副校長（教務主事）

⑵教務副主事

⑶教務主事補

⑷学科長、教養科長及び専攻科長

⑸図書館長

⑹本校教員で校長が任命した者

（出典　本校規則集）

1学年及び2学年のクラス担任は教養科の教員が担当し，副担任は専門学科の教員が指名され，連携してクラス運営をおこなっている（資料2－2－②－2）。

資料2－2－②－2

沼津工業高等専門学校教員組織規則（抜粋）

（学科長及び教養科長）

第10条　学科等に、学科長及び教養科長（以下「学科長等」という。）を置く。

2　学科長等は、本校の教授の中から校長が任命する。

3　学科長等は、校長の命を受け、次の各号に掲げる業務を行い、当該学科等の運営及び連絡調整に当たるものとする。

⑴　当該学科等の運営及び会議に関すること。

⑵　当該学科等を代表して意見の具申及び連絡調整に当たること。

⑶　当該学科等の教育計画の立案及び学生の教育指導に関すること。

⑷　所属教員の研究の伸展に関すること。

⑸　当該学科等に属する施設、設備、機械及び器具等の管理に関すること。

⑹　当該学科学生の進路指導に関すること。

⑺　その他当該学科等に関すること。

4　学科長等の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、当該学科長等に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

5　その他、学科長等の職務に関する事項は、別に定める。

（学級担任）
第17条　本校の各学級に、学級担任を置く。
2　学級担任は、第1学年及び第2学年は教養科、第3学年、第4学年及び第5学年は専門学科の教員の中から校長が任命する。
3　学級担任は、学科長等及び学年代表と連携し、次の各号に掲げる業務を行い、当該学級の運営及び学生の指導に当たるものとする。
(1)　当該学級に所属する学生の教育指導、生活指導及び厚生補導に関すること。
(2)　当該学級の教務に関すること。
(3)　当該学級に所属する学生の特別活動に関すること。
(4)　その他当該学級の運営に関すること。
4　学級担任の任期は、1年とする。ただし、当該学級担任に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（副学級担任）
第18条　本校の各学級に、副学級担任を置くことができる。
2　副学級担任は、専門学科の教員の中から校長が任命する。
3　副学級担任は、学級担任の職務を補佐する。
4　副学級担任の任期は、1年とする。ただし、当該副学級担任に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（学年代表）
第19条　本校の各学年に、学年代表を置く。
2　学年代表は、当該学年の学級担任の中から校長が任命する。
3　学年代表は、当該学年の運営に関し、必要に応じて主事及び学級担任等との連絡調整を行う。
（教科主任）
第20条　教養科の各教科に、教科主任を置く。
2　教科主任は、当該教科教員の中から校長が任命する。
3　教科主任は、当該教科の運営に関し、必要に応じて教養科長等と連絡調整を行う。

（出典　本校規則集）

平成 19 年度から学級担任連絡会議を発足し，教務主事の下で学生主事，寮務主事及び担任，副担任が集合し，意見交換を行っている(資料2－2－②－3，4)。

資料2－2－②－3

担任連絡会議制定の議事録

第６回総務委員会議事要録

平成 19 年 10 月 10 日（水）
司　会：校　　長

1 前回議事要録の確認　記録のとおり確認
2 議題等
◎ 議　題
（1）学級担任連絡会議規程の制定について
学生課長から、資料１に基づき説明があり承認された。

◎ 報 告 事 項
（1）校長報告（校　長）
①～③の事項について、資料２に基づき報告があった。
①中教審「高等専門学校特別委員会」の動向について
②高専・両技科大間教員交流制度による受入者の決定について
③秋季東海・北陸地区国立高等専門学校長会議報告について
④教員顕彰について
本年度については、推薦を行わないこととする旨の報告があった。
（2）副 校 長（教務主事）報告
①、②の事項について、資料３に基づき報告があった。
①学生現員報告
②東海・北陸地区国立高専教務主事会議報告
③その他
１年生に対する教務ガイダンス等の実施、今後の開催予定行事等（臨時教務委員会、学級担任会議、進学説明会の学科紹介リハーサル、技能五輪もてなしボランティア説明会など）について報告があった。
なお、技能五輪モニュメント（沼津商工会議所青年部募集）の応募状況等について説明があり、本校学生の作品が採択される予定である旨の報告があった。
また、転科様式の改善、授業時間割掲載の名称変更（補習時間→補習利用時間帯）について追加報告があった。
（3）校長補佐（学生主事）報告
次の事項について、資料４に基づき報告があった。
①東海・北陸地区学生主事連絡会議報告
②第３回学生委員会報告
なお、学生の諸問題に対する対処等（顧問弁護士の雇用など）について、種々意見交換が行われた。
また、機械工学科長から、教職員の学内駐車（指定場所以外への駐車）について、学生から苦情が寄せられている旨の報告があり、各学科等において教職員に対し、注意喚起を行うこととした。
（4）校長補佐（寮務主事）報告
次の事項について、資料５に基づき報告があった。
①現員報告
②活動報告
③活動予定
④生活指導報告
⑤その他

（出典　平成 19 年度第6回総務委員会議事要録）

資料2－2－②－4

担任連絡会議開催の連絡例

平成２３年 ６ 月 ６ 日

学級担任連絡会議委員　各位

副校長（教務主事）

学級担任連絡会議の開催について

下記のとおり開催しますのでご出席ください。
なお、出席できない場合は教務係へお知らせください。

記

日　時　平成２３年 ６ 月２０日（月）１６：３０～１７：００

場　所　選択制教室３・４

議　題
１．学習支援（特に１～３年生）について
２．再評価への取組みの指導について
３．電力15%削減に対する学生指導について
４．その他

（出典　本校学内メール）

各学科には学科長がおかれ(前出資料2－2－②－2)，その判断の下で学科会議が，また，教養科では物理と数学のそれぞれの教科担当において教員同士の会議が適宜行われており，各自，教育内容についての審議が行われている。学科会議において，必要に応じ教養科教員も参加し，情報交換が行われている。

平成 18 年度にプレゼンテーション・コミュニケーション能力育成に関する本校独自の外部評価(資料2－2－②－5)を受け，一般科目の英語担当教員と専門学科教員を構成員とする「英語教育検討WG」を立ち上げ平成 19 年度から 21 年度まで3年間に亘り審議を重ねた結果，3，4年生全員にTOEIC－IPテストを義務付けて英語教育に反映する体制となった。

資料2－2－②－5

平成 18 年度外部評価実施要項

平成１８年度沼津工業高等専門学校外部評価実施要項

１．沼津高専では、技術者に必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を、次のように考えています。
（１）技術者として、自己の研究成果等を正確に他者に伝達する能力
（２）異分野を含む他者の意見を正確に理解し、議論を通じて相互理解する能力
（３）国際化に鑑み、専門的な内容について英語で意思疎通ができる能力
（４）技術者倫理や社会人としての一般常識を正しく認識する能力

２．学生に上記能力の基礎を身につけさせるため、卒業までに到達すべきレベルとして下記項目を目標として教育を実施しています。

技術者に必要なコミュニケーション能力	沼津高専生が身に付けるべき能力・姿勢	具体例
技術者として、自己の研究成果等を正確に他者に伝達する能力	自分の学習成果などを整理し、適切な表現方法で他者に伝達する能力	国語力(作文) 実験・実習等のレポート作成 プレゼンテーション、研究発表 コンピュータ・リテラシー
	情報を収集・分析する能力	コンピュータ・リテラシー 表・グラフ・図の作成
異分野を含む他者の意見を正確に理解し、議論を通じて相互理解する能力	他人の意見を理解し、議論を通じて問題を解決する能力	国語力(読解) ディベート グループでの作業(Project Based Learning) 寮生活(低学年全寮制)
国際化に鑑み、専門的な内容について英語で意思疎通ができる能力	英語によるコミュニケーション能力の基礎及び専門分野についての英文を読む能力	英語(読解・作文・聞き取り・会話) 科学英語文献の読解
技術者倫理や社会人としての一般常識を正しく認識する能力	倫理や一般常識を身に付け、広い視野で物事を理解しようとする姿勢	倫理観・社会性 地球的視野(人間社会と自然環境) 〃　(異文化理解) 寮生活(低学年全寮制)

３．今回の外部評価では、これらの目標に関連する授業（国語、英語、卒業研究など）について、率直な評価をいただきたいと考えています。

４．委員の方々には、これらの授業について、上記の目標を達成するために適切かどうか評価いただくとともに、改善すべき点にお気づきになられた場合はアドバイスをいただきたく、お願い申し上げます。

５．評価の具体的な進め方については、次のとおりです。

1	７月	「沼津高専としてのコミュニケーション・プレゼンテーション能力育成方針」や、「国語科・英語科・専門学科のそれぞれの育成方針」を説明する資料を作成し、委員に事前送付する。
2	９月	委員に学校までお越しいただき、（１）で送付した資料の説明会及び意見交換会を開催する。
3	９月	必要に応じて委員による授業参観や学生面談を行っていただく。
4	１０月	委員から意見書をご提出いただく。
5	１０月	外部評価委員会を開催し、「沼津高専におけるコミュニケーション・プレゼンテーション能力育成の現状および今後の育成方針」について議論する。
6	１１月	学校としてのレスポンスを作成する。
7	１１月	報告書を作成し、手交する。

（出典　平成 18 年度外部評価報告書）

平成 19 年度から 20 年度に工学基礎科目(物理, 化学, 数学)に関する本校独自の外部評価(資料2－2－②－6)を受け, それを機に一般科目の物理・化学・数学担当教員と専門学科教員との連携が以前より密になり, 年に一回程度の連絡会が開催され, 教育内容の改善が図られている(資料2－2－②－7)。

資料2－2－②－6

平成 19 年度～20 年度外部評価報告書目次

目　　次

Ⅰ．はじめに …… 1
Ⅱ．沼津工業高等専門学校外部評価委員会規則 …… 2
Ⅲ．沼津工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿 …… 3
Ⅳ．平成 19 年度／平成 20 年度 沼津工業高等専門学校外部評価実施要項 …… 4
Ⅴ．沼津工業高等専門学校における工学基礎教育について
1．沼津工業高等専門学校概要（Power Point 資料） …… 7
工学基礎科目（物理、数学、化学）概要（Power Point 資料） …… 21
2．物　理
2－1　教育目標 …… 45
教育目標に対する評価 …… 45
2－2　教育課程 …… 46
教育課程に対する評価 …… 51
2－3　教育方法 …… 52
教育方法に対する評価 …… 58
2－4　現状の調査・分析及び課題 …… 59
現状の調査・分析及び課題に対する評価 …… 61
2－5　総合評価 …… 62
2－6　評価シートに対する学校側の対応 …… 63
2－7　その他資料
1）2008 年度 シラバス …… 65
2）試験問題 …… 75
3．数　学
3－1　教育目標 …… 97
教育目標に対する評価 …… 97
3－2　教育課程 …… 98
教育課程に対する評価 …… 100
3－3　教育方法 …… 101
教育方法に対する評価 …… 101
3－4　学習の到達度 …… 102
学習の到達度に対する評価 …… 102
3－5　顕在化している問題点と今後の展望 …… 103
顕在化している問題点と今後の展望に対する評価 …… 107
3－6　総合評価 …… 108
3－7　評価シートに対する学校側の対応 …… 109
3－8　その他資料
1）2008 年度 シラバス …… 113
2）試験問題 …… 139
3）その他 …… 167

(出典　平成 19 年度～20 年度外部評価報告書)

資料2－2－②－7

理科系科目意見交換会開催の連絡メール

教員の皆様

下記の通り，理科関係の科目（特に物理と化学）について，理科担当
教員と各学科・各教科教員との意見交換の会を開きたいと思います。
ご承知のように，学生たちの気質も学力も次第に変化してきており，
教員側の情報交換がますます大切になってきました。日ごろ，学生と
接して感じていることなどを，気軽に話し合える場にしたいと存じます。
年度の変わり目で，何かと忙しい時期ではありますが，ご参加いただければ
幸いです。

理科系科目意見交換会
目的 理科関係科目（特に物理と化学）について担当教員と
　　各学科・各教科教員の間で意思の疎通を図る
日程: 3月31日（木） 15:00－16:00
場所: 選択制34教室
内容:1. H22年度の実施状況報告とH23年度の実施計画
　　1.1 理科科目全体・カリキュラム
　　1.2 物理について（含　到達度試験の結果報告）
　　1.3 化学について
2. 意見交換（懇談会）

物理教科主任　勝山　智男
化学教科主　　小林　美学

（出典　本校学内メール）

なお，高専機構が3年生に実施している数学と物理の到達度試験については，数学及び物理の担当教員が結果を分析して全教員に周知し，全国高専における本校学生の数学及び物理の学力レベルについて専門学科教員と情報を共有している。

（分析結果とその根拠理由）

教員会議はもとより，教務委員会をはじめとし各種委員会は，一般科目及び専門科目を担当する教員で構成されている。1，2学年の担任は一般科目担当教員が務め，副担任を専門科目担当教員が務めている。数学，物理・化学系教員と専門科目担当教員との情報交換会や英語科教員と専門科目担当教員からなる英語教育の検討会が開かれる等，多くの機会を通じて一般科目及び専門科目を担当する教員が触れ合い，情報交換と連携が機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，校長の下，事務部長が統括する事務部がおかれ，総務課と学生課の二課体制で運営されている。教員の教育活動を円滑に実施するために学生課が学生と直接関わる事項の事務全般を担当している（資料２－２－③－１）。学生課は教務委員会，学生委員会，寮務委員会，図書委員会及び就職委員会の運営を支援している。特に寮務係は寮監を補佐し，寮生の生活指導全般の補助を行っている。

沼津工業高等専門学校事務組織規程(抜粋)　　資料２－２－③－１

（事務部、課）

第2条　本校に事務部を置き、総務課及び学生課を置く。

（総務課）

第10条　総務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 学校の事務の総括及び連絡調整に関すること。

(2) 機密に関すること。

(3) 儀式その他の会議に関すること。

(4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。

(5) 内地及び外地研究員等に関すること。

(6) 学術団体等との連絡に関すること。

(7) 渉外に関すること。

(8) 個人情報保護及び情報公開に関すること。

(9) 郵便物の接受、発送、編集及び保管に関すること。

(10) 公印を管守すること。

(11) 教職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関すること。

(12) 教職員の給与に関すること。

(13) 教職員の定員及び定数に関すること。

(14) 教職員の職階に関すること。

(15) 教職員の研修及び勤務評定に関すること。

(16) 教職員の衛生管理、福祉及び災害補償に関すること。

(17) 共済組合に関すること。

(18) 退職手当に関すること。

(19) 栄典及び表彰に関すること。

(20) 労働組合に関すること。

(21) 人事記録に関すること。

(22) 調査統計その他諸報告に関すること。

(23) 校内警備取締に関すること。

(24) 将来計画に関すること。

(25) 自己点検評価及び外部評価に関すること。

(26) 共同研究、受託研究及び寄付金に関すること。

(27) 科学研究費補助金に関すること。

(28) 知的財産に関すること。

(29) 事務情報化に関すること。
(30) 予算及び決算に関すること。
(31) 債務の管理に関すること。
(32) 物品の管理に関すること。
(33) 会計の監査に関すること。
(34) 収入及び支出の原因となる行為並びに契約に関すること。
(35) 収入、支出及び計算証明に関すること。
(36) 現金、預金及び有価証券に関すること。
(37) 所得税等の徴収に関すること。
(38) 不動産の管理及び処分に関すること。
(39) 職員宿舎に関すること。
(40) 会計機関の公印の管守に関すること。
(41) 土地、建物及び工作物の整備復旧に関すること。
(42) 土地、建物及び工作物の維持保全に関すること。
(43) 学校環境の整備保全に関すること。
(44) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理すること。
(45) その他他の課の所掌に属しない事務を処理すること。
(学生課)
第11条　学生課においては、次の事務をつかさどる。
(1) 入学者の選抜に関すること。
(2) 学生の修学指導に関すること。
(3) 教育課程の編成及び授業に関すること。
(4) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
(5) 学生の学籍に関すること。
(6) 学生の実習に関すること。
(7) 学生の課外教育に関すること。
(8) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
(9) 学生に対する奨学金、授業料の減免、猶予及び経済援助に関すること。
(10) 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
(11) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(12) 学生に対する職業指導及び就職あっせんに関すること。
(13) 学生旅客運賃割引証に関すること。
(14) 学生寮の管理運営に関すること。
(15) 学生の入退寮に関すること。
(16) 寮生の指導監督に関すること。
(17) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度の事務に関すること。
(18) 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関すること。
(19) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関すること。
(20) 図書館における参考奉仕(検索指導、読書相談等)に関すること。
(21) その他教務、学生補導、寮務及び図書に関する事務を処理すること。
(21) その他教務、学生補導、寮務及び図書に関する事務を処理すること。　（出典　本校規則集）

演習，実習等の支援については，技術室長の下，技術専門員，技術専門職員及び技術職員を構成員として技術室が組織されており，各学科の要請に対し，技術室運営委員会において，演習や実習の支援担当を決定している（資料２－２－③－２）。

資料２－２－③－２

沼津工業高等専門学校技術室規程

（設置）

第1条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第12条の規程に基づき，沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，技術室を置く。

（目的）

第2条　技術室は，本校の学科等の要請に基づき，技術・技能を要する専門業務を行うことにより，本校における教育研究等の業務を支援する。

（業務）

第3条　技術室は，次に掲げる業務を行う。

(1) 実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。

(2) 教育研究に必要な技術業務，技術開発及び教材作成に関すること。

(3) 情報システム基盤の維持・管理に関すること。

(4) 地域共同テクノセンター，総合情報センター，スペース・コラボレーション・システム,マルチメディア教室に関すること。

(5) 実験室，実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。

(6) 地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。

(7) 技術の継承・保存に関すること。

(8) 技術職員の研修の企画，立案及び実施に関すること。

(9) 技術職員の養成に関すること。

(10) 学校行事への準備及び支援に関すること。

(11) 本校の業務の技術支援に関すること。

(12) その他技術室に関すること。

（組織）

第4条　技術室は，技術室長，技術長，技術専門員，技術専門職員及び技術職員（建物及び施設の営繕，保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）をもって組織する。

（技術室長）

第5条　技術室長は，本校の教授の中から校長が任命する。

2　技術室長は校長の命を受け，技術室の業務を総括する。

3　技術室長の任期は2年とし，再任を妨げない。

（技術長）

第6条　技術長は，技術専門員または技術専門職員の中から校長が任命する。

2　技術長は技術室長の命を受け，技術室の技術職員の業務を総括するとともに，必要に応じ，連絡調整，技術職員の技術的な指導，育成を行う。

（班・班長）

第7条　技術室に，専門的技術の内容と必要に応じて，班および班長を置く。

(1) 実習工場班（主に機械実習工場に関する業務を行う。）

(2) 機械系班(主に機械工学科及び制御情報工学科に関する業務を行う。)

(3) 電気・電子・情報系班(主に電気電子工学科，電子制御工学科及び総合情報センターに関する業務を行う。)

(4) 物理・化学系班(主に教養科及び物質工学科に関する業務を行う。)

2 班長は上司の命を受け，班の業務を統括し，円滑な業務遂行に努め，必要な連絡調整を行う。

(運営委員会)

第8条 技術室の運営に関する基本的な事項を審議するため，技術室運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会の組織，運営については，別に定める。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか，技術室の運営に関し必要な事項は，技術室長が別に定める。

附 則

この規程は，平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成20年10月8日から施行し，平成20年10月1日から適用する。

(出典 本校規則集)

校長の任命の下に，ほぼ全教員が顧問教員として課外活動の指導にあたっており(資料2－2－③－3)，校長補佐(学生主事)が主催するクラブ顧問会議が開催され，指導予算の決定や年間の指導状況の把握などを行っている(資料2－2－③－4，5)。

資料2－2－③－3

平成23年度クラブ顧問教員一覧

平成２３年度　学生会・クラブ顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名				
陸上競技部	渡邉志保美	牛丸 真司	相良 誠			
ソフトテニス部	佐藤 崇徳	平田陽一郎	山根 説子			
バレーボール部	大庭 勝久	長澤 正氏	大久保清美			
バスケットボール部	遠山 和之	永禮 哲生	松本 祐子			
野球部	高橋 儀男	手塚 重久	高矢 昌紀	渡辺 敦雄	鈴木 正樹	市川 周一
卓球部	稲津 晃司	高野 明夫				
柔道部	松澤 寛	西垣 誠一				
剣道部	澤井 洋	鈴木 久博				
サッカー部	中道 義之	駒 佳明	江上 親宏	望月 孔二	大久保進也	
ラグビー部	井上 聡	小林 隆志	鄭 萬溶			
体操部	佐藤 誠	江間 敏				
水泳部	小林 美学	新冨 雅仁	西村 賢治			
合気道部	長谷 賢治	舟田 敏雄				
テニス部	竹口 昌之	古川 一実	後藤 孝信	西田 友久		
スキー部	嶋 直樹	川上 誠				
ハンドボール部	野毛 悟	松田 伸也				
弓道部	芳野 恭士	佐藤 憲史				
空手道部	芹澤 弘秀	宮内 太積				
バドミントン部	押川 達夫	藤尾三紀夫	大沼 巧			
トライアスロン部	三谷祐一朗	出川 智啓				
吹奏楽部	鈴木 茂樹	藁科 知之				
囲碁将棋部	待田 芳徳	勝山 智男				
ロボコン部	青木 悠祐	山中 仁				
学生会	鄭 萬溶	鈴木 茂樹				
文化サークル連合（科学技術）	鈴木 康人	村松 久巳	大川 政志			
文化サークル連合（文芸・文学）	真鍋 保彦	吉野龍太郎	大石加奈子			

文サ連（科学技術）機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン　　文サ連（文学・文芸）茶道・合唱・軽音楽・ＥＳＳ

(出典 平成 23 年3月9日クラブ顧問会議)

資料2－2－③－4

クラブ顧問会議開催通知メール

平成23年 2 月15日

クラブ顧問各位

校長補佐(学生主事)

クラブ顧問会議の開催について(通知)

標記のことについて、下記のとおり開催しますので、各クラブから1名以上必ず出席願います。

記

日　時:平成23年3月9日(水)　13:00～

場　所:管理棟3階　大会議室

議　題:1. 平成22年度クラブ強化費の執行状況について
2. 平成23年度クラブ顧問について
3. 平成23年度クラブ登録手続きについて
4. 平成23年度クラブ物品要求手続きについて
5. 平成23年度クラブコーチ委嘱手続きについて
6. 平成23年度高専体育大会について
7. 平成23年度シャワー室清掃当番について
8. その他

(出典　本校学内メール)

資料2－2－③－5

平成22年度実績によるクラブ強化費内訳

	クラブ・同好会名	活動経費（各クラブ・同好会管理）		（基本経費）（学生係管理）		（合　計）	（参考）要求に対する配分率	（参考）（前年度）要求に対する配分率
1	陸上競技	101,704	＋	(97,480)	＝	(199,184)	33%	35%
2	ソフトテニス	102,811		(60,620)		(163,431)	80%	80%
3	男子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	108,237		(65,600)		(173,837)	71%	87%
4	男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ	143,079		(25,920)		(168,999)	37%	40%
5	野球	143,079		(146,720)		(289,799)	31%	54%
6	卓球	88,677		(45,700)		(134,377)	88%	77%
7	柔道	65,610		(35,700)		(101,310)	81%	79%
8	剣道	25,500		(24,440)		(49,940)	100%	100%
9	サッカー	143,079		(196,000)		(339,079)	69%	70%
10	ラグビー	0		(142,080)		(142,080)	100%	100%
11	体操	19,731		(117,520)		(137,251)	100%	100%
12	水泳	38,000		(19,120)		(57,120)	100%	100%
13	合気道	87,869		(54,840)		(142,709)	93%	49%
14	テニス	116,166		(128,230)		(244,396)	85%	89%
15	スキー	32,000		(129,860)		(161,860)	100%	100%
16	ハンドボール	90,816		(173,320)		(264,136)	76%	82%
17	弓道	76,985		(15,800)		(92,785)	82%	92%
18	空手道	69,040		(49,660)		(118,700)	49%	58%
19	バドミントン	119,125		(21,000)		(140,125)	44%	100%
20	トライアスロン	67,300		(46,180)		(113,480)	100%	74%
21	吹奏楽	124,758		(88,100)		(212,858)	79%	72%
22	囲碁将棋	31,700		(26,640)		(58,340)	100%	100%
23	ロボコン	6,000		(6,900)		(12,900)	100%	100%
24	文化ｻｰｸﾙ（科学技術）	20,647		(100,000)		(120,647)	75%	78%
25	文化ｻｰｸﾙ（文芸・文学）	20,647		(0)		(20,647)	52%	36%
		0		(0)				
		0		(0)				
90	保留額	0		(100,000)		(100,000)	100%	100%
	合　計	1,842,560		(1,917,430)		(3,759,990)		

（出典　平成 23 年3月9日クラブ顧問会議資料）

学生のメンタルヘルスに関しては学生生活支援室を設置し（資料2－2－③－6），支援室長を中心として支援室担当教員とカウンセラーで学生の相談と指導を行っている（資料2－2－③－7）。カウンセラーは教員のメンタルヘルスも担当している。

資料2－2－③－6

沼津工業高等専門学校学生生活支援室規則

（平成 15.11.12 制定）

最終改正　平成 17.3.9

（設置）

第1条　沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生生活支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（業務）
第2条　支援室は、次に掲げる業務を行う。
（1）学習、進路、対人関係、精神衛生上の問題等、本校学生個人が抱えている問題に対する相談及び援助に関すること。
（2）その他学生の生活支援に必要な資料の収集、作成、提供等に関すること。
（組織及び任期）
第3条　支援室は、次に掲げる支援室員で組織する。
（1）室長
（2）カウンセラー
（3）教員　若干名
（4）学生課長
（5）看護師
2　前項第1号及び第3号に掲げる者は、副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）、校長補佐（寮務主事）、各学科長、教養科長及び専攻科長以外の教員のうちから校長が任命する。
3　第1項第1号及び第3号に掲げる者の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（任務）
第4条　室長は、支援室の業務を統括する。
2　室長以外の支援室員は、室長の命を受け、支援室の業務に従事する。
（報告及び協力）
第5条　室長は、必要に応じて運営状況を校長に報告する。
2　支援室員は、必要に応じて関係教職員に協力を求めることができる。
3　支援室員以外の教職員が、支援室における相談若しくは援助等が必要と思われる学生を認めたときは、支援室に連絡するものとする。
（秘密の保持）
第6条　支援室員及び前条第3項により支援室に連絡した教職員は、業務を処理する上で知り得た個人の秘密を他に漏らしてはならない。
（事務）
第7条　支援室の事務は、学生課において処理する。
（雑則）
第8条　この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。
附　則
この規則は、平成16年4月1日から施行する。
附　則
この規則は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。
附　則
この規則は、平成17年4月1日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料2－2－③－7

学生生活支援室室員

室員

役職	氏名	所属など
室長	小林 美学	教養科教員（化学）
	渡邉 志保美	教養科教員（保健体育）
	眞鍋 保彦	電気電子工学科教員
	大庭 勝久	電子制御工学科教員
	大久保 進也	制御情報工学科教員
	牧野 初江	看護師
	房間 貞	カウンセラー
	宇治 友子	カウンセラー

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

教育活動に必要となる情報は，事務部サーバに一元化され，教職員に提供されている（資料2－2－③－8）。このサーバでは，所属の委員会によってアクセス権限を変える等セキュリティと利便性が確保されている。

資料2－2－③－8

沼津高専業務情報HPトップページ



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

教育活動を支援する組織として事務部が設置されており，また，演習や実習等に対する教育支援として技術室が設置されている。課外活動についてコーチ謝金等の支出が定められている。教育活動に必要な情報は，事務部サーバで一元化されて教員に提供されている。したがって，教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているといえる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

各組織は教育の実施に必要な観点から設置されており，教育の実施に即応できる体制になっている。特に総合情報センターは教育のみならず学校全体の情報基盤整備を担当しており，平成 22 年度より事務部のサーバ運用を支援し，学校全体の情報活用の度合いを更に高めつつある。また地域共同テクノセンターは，共同研究に学生が参加する場を提供し，産業の実務に通じた実践的かつ創造的技術者の養成に貢献している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準２の自己評価の概要

本校は，機械工学科，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科，物質工学科の5学科からなり，養成すべき人物像である「社会から信頼される，指導力のある実践的技術者」を基に学科毎に教育目的を定めており，本校の教育理念「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」とも適合している。また，5年間の準学士課程の上に，2年間の専攻科があり，機械・電気システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，応用物質工学専攻の3専攻からなっている。3専攻は同一の専攻科教育目標を掲げており，当校の教育目的にも適合している。これらの構成は学則等で定められており本校の教育目的を達成する上で適切なものとなっている。

本校は，教育活動を支援する全学的組織として機械実習工場・総合情報センター・地域共同テクノセンターを設置しており，技術室と教員の連携によって運営している。機械実習工場は全学科を対象に機械工学の基礎教育施設として機能し，総合情報センターは全学科のリテラシー教育の他，学内の情報基盤整備も担当している。地域共同テクノセンターは，地域産業界との共同研究を推進すると共に，総合開発能力のある学生を育成する場として機能している。

校長，副校長，校長補佐，事務部長，課長が出席する運営会議において学校の運営方針に基づく教育課程の基本方針が審議され，その審議結果に基づいて総務委員会において学校の運営体制及び教育活動の詳細が決定され，教員会議で全教員に周知される。教務主事は教務委員会，学生主事は学生委員会，寮務主事は寮務委員会を運営し，専攻科長は専攻科の企画・運営委員会を運営している。なお，即行を要する事項については，校長特命のWGを組織して検討し，その検討結果を運営会議，総務委員会に諮問して決定している。

教員会議をはじめ各種委員会は，一般科目及び専門科目を担当する教員で構成されており、常に連携体制が図られている。1，2学生の担任は一般科目担当教員が務め，副担任を専門科目担当教員が務め連携して学級運営を行っている。数学，物理・化学系教員と専門科目担当教員との情報交換会や英語科

教員と専門科目担当教員からなる英語教育の検討会が開かれる等，多くの機会を通じて連携体制の強化が図られている。教員の教育活動を支援する組織として事務部が置かれ、教務・学生指導の面では学生課が，演習や実習等の教育支援は技術室が行っている。教育活動に必要な情報は事務部サーバで一元管理して提供し便宜を図っている。学生支援室はメンタルヘルスの面で教員の教育活動を支援している。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目的等については，観点１－１－①で具体的に述べたが，これに沿った教育課程のうち，一般科目では，工学の専門科目を学ぶ基礎となる教科及び社会人としての一般常識や豊かな人間性を育むために必要な教科等の教育を担うべく，教養科の教員として，専任教員24名（資料３－１－①－１。含む寮監），非常勤講師26名（資料３－１－①－２）を配置している。教員は各自の専門分野に適合した授業科目を担当しているが，教科別の人数の内訳は，資料３－１－①－３のとおりである。

なお，高等専門学校設置基準第６条第２項に規定する一般科目を担当する専任者の数は，５学級を有する場合は22名を下回ってはならないとされているが，上記のとおり同基準を満たしている。

資料３－１－①－１

教養科専任教員一覧表

教 養 科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	博士(理学)	待田　芳徳	数学、応用数学(幾何学、数学物理) 数学主任
教授	博士(理学)	勝山　智男	物理、応用物理、地球環境学概論(統計物理学、生物物理学) 教務主事補、E1担任、1年学年主任、物理主任
教授	文学修士	大久保清美	ドイツ語、地球環境学概論(ドイツ地域文化研究) 校長補佐(国際交流･FD担当)、S2担任、ドイツ語主任
教授	文学修士	坂本　信男	国語、文学特論(後期古代語、後期古代文学)
教授	工学修士	西垣　誠一	数学、応用数学(実関数論) 教養科長
教授	理学修士	遠藤　良樹	数学、応用数学(幾何学的測度論) 校長補佐(寮務主事)
教授	教育学修士	塩谷　三徳	英語(英語教授法) 英語主任
教授	体育学修士	佐藤　　誠	保健体育(スポーツ運動学、体操競技) C2担任、2年学年代表、体育主任

教授	工学修士	小林　美学	化学、結晶化学、地球環境概論（無機化学）
			学生生活支援室長、化学主任
特任教授	文学修士	野澤　正信	哲学、社会と文化、日本事情(インド哲学)
准教授		能登路純子	英語(英文学（ギャスケル研究）)
准教授	博士(学術)	大石加奈子	国語、文学特論(テクスト分析、コミュニケーション科学)
			国語主任
准教授		渡邉志保美	保健体育(運動生理学、体育実技)
			C1担任
准教授	修士（文学）	鈴木　久博	英語（ユダヤ系アメリカ文学）
			E2担任、英語主任代行
准教授	博士(理学)	住吉　光介	物理、応用物理、現代物理学(宇宙物理学、原子核物理学)
准教授	修士(理学)	佐藤　志保	数学（微分幾何学）
			D2担任
准教授	修士(文学)	佐藤　崇徳	地理、社会と文化、日本事情（地理学）
			寮務主事補、社会主任
准教授	博士(理学)	駒　　佳明	物理、応用物理、現代物理学 (素粒子物理学)
			S1担任
准教授	修士(文学)	平田陽一郎	歴史、社会と文化、日本事情（中国史）
			M2担任
准教授	博士（理学）	鈴木　正樹	数学、応用数学（微分方程式論、可積分系）
講師		福木　洋一	寮監
講師	博士(理学)	松澤　　寛	数学、応用数学 (非線形偏微分方程式論)
			D1担任
講師	博士(理学)	澤井　　洋	数学（幾何学）
			M1担任
講師	修士(教育学)	種村　俊介	英語（英語教育学）
			E1担任

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料３－１－①－２

教養科非常勤講師一覧表

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
内山　阿季子	法学	
大久保　敏之	音楽	
大塚　節夫	美術	
神田　朝美	国語	
黒川　幸男	歴史	
小出　貫暎	古典・文学特論	
今野　信男	化学Ⅱ	
杉山　和子	ドイツ語演習・選択外国語（ドイツ語Ⅱ）	
勝呂　譲	総合英語・選択外国語（英語）	
鈴木　静恵	歴史	
鈴木　伸宏	数学B	
関野　恵次	社会と文化	
高澤　啓子	日本語(留学生対象)	
髙田　健	総合英語・選択外国語（英語）	
鳥畑　英子	物理・応用物理Ⅰ・工業力学	
成田　智子	総合英語・選択外国語（英語）	
西島　帯刀	化学Ⅱ	
野方　宏	経済学	
廣瀬　豊	物理	
福島　礼子	総合英語・英語W	
牧野　博充	数学B	
水口　好美	数学B	
村上　真理	総合英語・英語W	
吉田　進	生物	
スティーブ・キレィ・ウェグナー	英語C・選択外国語（英会話）	
マーク・ベンジャミン・コキオ	英語C・選択外国語（英会話）	

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料３－１－①－３

教養科専任教員及び非常勤講師の内訳

	国語	外国語	数学	理科	社会	体育	芸術	寮監	合計
教授	1	2	3	2	1	1			10
准教授	1	2	2	2	2	1			10
講師		1	2					1	4
小計	2	5	7	4	3	2		1	24
非常勤	3	8	3	5	5		2		26
合計	5	13	10	9	8	2	2	1	50

※平成23年５月１日現在　　（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

一般教育に携わる専任教員の数は，設置基準をやや上回る程度で十分とは言えないが，適切な非常勤講師に依頼することにより，教育目的等を達成するために一般科目としてなすべき教育の実現は可能な配置となっている。また，教養科の定員として寮監を配置しているが，長年にわたり県立高等学校で教職にあった教員を配置しており，「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて，全人教育を行う」ことを教育方針の一つに掲げる本校にあって，教科教育のみならず寮での人間教育にも適切に対応している。

以上のように，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専門学科では，学習・教育目標等を達成すべく，専任教員54名，非常勤講師25名の合計79名を配置している。学科ごとの人員配置は，資料３－１－②－１のとおりである。科目別教員配置は，教育課程を踏まえつつ各学科等において審議・決定されており，専任教員は各々の専門分野に応じた授業科目を担当しているが，一部はより適切な教育を学生に提供するため，非常勤講師に依頼している（資料３－１－②－２）。さらに，技術士の資格を持つ専任教員５名のほか，企業での実務経験を持つ専任教員が各学科に複数人配置されており（後出の資料３－１－④－３），学習・教育目標に掲げる「実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢」等を涵養するにふさわしい教員配置となっている。

なお，高等専門学校設置基準第６条第３項には，教員のうち，専門科目を担当する専任者の数は，当該学校に５の学科を置くときは36人を下つてはならないと定められているが，本校の専門科目担当の専任教員は54名で，同設置基準を満たしている。また，高等専門学校設置基準第８条には，専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は，一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならないと規定されているが，本校では，一般科目を担当する専任教員24名，専門科目を担当する専任教員54名の計78名に対して，専門科目を担当する教授及び准教授の数は41名であり，やはり設置基準を満たしている。

資料３－１－②－１

専門科目担当専任教員配置表

	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
機械工学科	4	5	1	1	11	4
電気電子工学科	5	3	1	1	10	7
電子制御工学科	5	2	2	2	11	5
制御情報工学科	6	3	1	1	11	4
物質工学科	5	3	2	1	11	5
計	25	16	7	6	54	25

※平成 23 年５月１日現在

※校長除く。総合情報センター・地域共同テクノセンターに専任教員各１名を配置。（出典　総務課作成資料）

資料３－１－②－２

専門学科専任教員・非常勤講師一覧表

機械工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学博士	手塚　重久	水力学、機械設計法（流体力学）
教授	博士(工学)	西田　友久	材料力学、トライボロジー、機械設計製図(材料力学) M3担任、技術室長
教授	博士(工学) 技術士（機械部門）	小林　隆志	弾性力学、数値解析、機械工作法（設計工学、圧力技術） 機械工学科長、実習工場長
教授	工学博士	村松　久巳	情報工学、振動工学(流体工学、音響工学) 教務主事補
准教授		宮内　太積	機械設計製図、工業力学（機械力学） M2副担任
准教授	工学修士	井上　　聡	金属材料学、機械設計製図(合金設計) 学生主事補
准教授	博士(工学)	三谷祐一朗	プログラム演習、自動制御(制御工学) M5担任
准教授	修士(工学) 技術士（機械部門）	山中　　仁	機構学、電子計算機、工学倫理、機械設計製図、機械工学実験、 機械工作実習、工業外国語（設計工学）
准教授	博士(工学)	新冨　雅仁	伝熱工学、熱力学、機械設計製図(燃焼工学)
講師	修士(工学)	永禮　哲生	機械工作法、機械設計製図、機械工学実験(切削工学) M4担任

助教	博士(工学)	松田　伸也	材料強度論、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、 機械工学演習（材料力学、破壊力学） M1副担任

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
相磯　勝宜	設計製図	
井下　芳雄	メカトロニクス	
大賀　喬一	塑性力学	
大場　康正	電子工学	

電気電子工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学修士	高橋　儀男	回路網理論、電気電子計測、自動制御、電子回路設計（電気機器）
教授	工学修士	江間　　敏	電力工学、パワーエレクトロニクス、電磁気学Ⅰ(電力工学) 図書館長、E2副担任
教授	博士（工学）	佐藤　憲史	通信工学、マイクロ波工学、電磁気学Ⅱ、 工業英語Ⅰ（光エレクトロニクス） E5担任、5年学年代表
教授	博士(工学)	望月　孔二	電子回路、電気電子材料、 CAD&回路シミュレーション演習(電子回路) 電気電子工学科長
教授	博士（工学）	高野　明夫	電気電子機器、工業英語Ⅰ、 制御工学(パワーエレクトロニクス、電動機制御) 教務主事補
准教授	博士(工学)	野毛　　悟	直流回路、回路理論Ⅰ、 コンピュータ工学（超音波エレクトロニクス、電子材料） E4担任、4年学年代表
准教授	博士(工学)	西村　賢治	エネルギー変換工学、回路理論Ⅱ(プラズマ工学) 寮務主事補、E1副担任
准教授	博士(工学)	嶋　　直樹	電磁気学、プログラミング、エレクトニクスセミナー、 工業英語Ⅰ（電波物理）
講師	修士(工学)	真鍋　保彦	ロジック回路、回路理論ⅢII、デジタル信号処理（ウェブ情報システム） E3担任

助教	博士(工学)	高矢　昌紀	電子回路Ⅰ（色彩画像工学）

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
坂井　晃	新エネルギー工学	
園田　光寛	新エネルギー工学	
大久保　章英	図学･製図	
江間　義則	固体電子工学	
佐藤　眞一	情報理論	
戸張　晴巨	電気法規	
松坂　孝	工業英語Ⅱ	

電子制御工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分　) ■校務担当
教授	工学博士	舟田　敏雄	工学数理、計算流体力学(数理工学) D3担任
教授	工学修士	長澤　正氏	計算機工学、線形回路解析、通信工学（通信工学） D5担任
教授	博士(理学)	牛丸　真司	システム制御工学、組み込みソフトウェア、 電子機械設計製作（組み込みシステム） 総合情報センター長
教授	工学修士	川上　　誠	電気回路、電子回路、ロボット工学演習(画像処理、電子回路) 電子制御工学科長
教授	博士(工学)	遠山　和之	計算機基礎、回路理論、電磁気学、電子材料(誘電、絶縁材料) 校長補佐（専攻科長）
准教授	博士(工学)	鄭　　萬溶	工学数理、工業英語、プログラミング言語 JavaⅠ、JavaⅡ、品質工学 学生主事補
准教授	博士(工学)	大庭　勝久	計算流体力学、工業熱力学、工業力学(流体工学)
講師	博士(工学)	江上　親宏	制御工学、工学数理演習、UNIX 入門(関数微分方程式） D4担任
講師	博士（情報科学）	出川　智啓	C言語基礎演習、工業英語、 工業熱力学（数値流体力学、高性能数値計算） D3副担任

助教	博士（工学）	大沼　　巧	回路理論、電子制御工学実験（電動機制御） D1副担任
助教	修士(工学)	青木　悠祐	計算機基礎、電気・機械製図、 電子機械設計・製作（ロボット工学・生体医工学） D2副担任

■非常勤講師

■氏名	■　要な担当教科目	■備考
浅井　　登	人工知能	
勝呂　元美	計算機工学Ⅱ	
三谷　哲也	計測工学	
松坂　　孝	計測工学、 電磁気学Ⅱ	
森井　宜治	工学技術セミナー	

制御情報工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■　要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学修士 技術士（機械部門）	相良　　誠	振動学、加工学、工業英語（工作機械、機械設計、精密加工） 副地域共同テクノセンター長
教授	工学博士	大島　　茂	設計工学(水圧・油圧工学) 副校長（教務主事）
教授	工学修士 技術士（機械部門）	吉野龍太郎	ロボット工学　、自動制御、メカトロニクス(ロボット工学) S5担任
教授	工学博士	長谷　賢治	制御工学、システム工学　(制御工学) 制御情報工学科長
教授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	図形処理、情報処理、メカトロニクス演習Ⅱ(CG・CAD/CAM) 地域共同テクノセンター長
教授	理学博士	市川　周一	プログラミング演習Ⅰ、オペレーティングシステム、 計算機システム（計算機科学）
准教授	工学修士	鈴木　茂樹	電子計算機、計算機シミュレーション、 プログラミング演習Ⅲ(信号処理) 学生主事補
准教授	博士(工学)	芹澤　弘秀	電気回路、電磁気学、メカトロニクス演習Ⅰ（電磁波工学） S3担任・3年生学年代表

准教授	博士(情報科学)	鈴木　康人	ソフトウェア工学、離散学、プログラミング演習Ⅱ（情報論理）
			S4担任
講師	博士(工学)	大久保進也	電子回路、計測工学、メカトロニクス演習Ⅲ(光情報工学)
			S1副担任
助教	博士(工学)	松本　祐子	流体力学、工学実験、メカトロニクス演習Ⅱ（数値流体力学）
			S2副担任

■非常勤講師

	■氏名	■主要な担当教科目	■備考
	浅井　登	人工知能	
	丸　　雅光	ソフトウェア工学	
	鞠子　誠	システム工学	
	本間　周平	材料工学	

物質工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	博士(工学)	押川　達夫	有機化学Ⅰ-Ⅲ（有機合成化学、グリーンケミストリー）
			校長補佐（学際教育担当）
教授	博士(工学)	蓮實　文彦	生物化学、微生物学、培養工学、 微生物学実験（応用微生物学・酵素化学）
			校長補佐（学生主事）
教授	薬学博士	芳野　恭士	分子生物学、細胞工学、生物工学実験（生物化学・生物系薬学）
			物質工学科長
教授	博士(薬学)	後藤　孝信	生物化学Ⅰ、酸素工学、生物化学実験（水産化学）
			C1副担任
特任教授	博士(工学) 技術士（衛生工学部門）	渡辺　敦雄	化学工学、安全工学、環境工学（化学工学、安全工学）
准教授	博士(工学)	稲津　晃司	物理化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、物理化学実験(触媒化学、環境化学)
			副地域共同テクノセンター長、C3担任
准教授	博士(理学)	大川　政志	無機化学、無機化学実験(無機化学)
准教授	博士(工学)	竹口　昌之	反応化学、基礎化学工学、 化学工学実験(生物化学工学、微生物工学、生物無機化学)
			C5担任

講師	博士(農学)	古川　一実	生物化学Ⅰ・Ⅱ、遺伝子工学、生物工学実験（遺伝子工学） C4担任
講師	博士(工学)	藁科　知之	分析化学、分析化学実験、機器分析Ⅰ(分析化学) C2副担任
助教	博士(学術)	山根　説子	有機化学、有機材料化学、機器分析化学Ⅱ、 材料化学概論（生体機能性高分子材料化学）

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
当摩　建	無機材料化学	
寺崎　正紀	機器分析Ⅱ	
島田　征人	品質管理	
平林　鉱冶	電気電子工学基礎	
勝又　勝利	物質工学入門	

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

各学科の専門科目担当教員は，各々の専門分野に応じた授業科目を担当し，一部の科目については，より適切な教育を学生に提供するため，非常勤講師に依頼している。また，学科によっては技術士の資格を持つ専任教員が配置されているほか，企業での実務経験を有する教員が各学科に複数人配置されるなど，高等専門学校設置基準の人数を満たしつつ，学習・教育目標等を達成するに十分な体制となっている。

以上のように，教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員は適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科には，機械・電気システム工学専攻，制御・情報システム工学専攻，応用物質工学専攻の３専攻が設置されている。これらの専攻は，本科４・５学年次とともに単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」（2004年度より日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定済み）を構成しており，教育目標及びこれを理解し実践するための実践指針（（Ａ－１）～（Ｅ－４）までの全18項目）が定められている（基準１の資料１－１－①－３，４を参照）。

専攻科担当教員の資格は，「プログラム担当教員の資格」に規定されており（資料３－１－③－１），現在55名の専任教員と２名の非常勤教員が配置されている。各教員の担当授業科目と専門分野等は，資料３－１－③－２に示すとおりであり，専攻科の教育目標を達成すべく，担当授業科目と教員の専門分野とを適合させつつ，バランスよく教員を配置している。

なお，専攻科担当教員は，全員が大学評価・学位授与機構による５年ごとの審査で承認された者

である。このうち，博士の学位を有するものは40名(内，非常勤講師１名)であり，５名の技術士がいるほか（同前），情報処理技術者・臨床検査技師・薬剤師・特定化学物質等作業主任者といった各種の技術資格を有する教員もいる。また，民間企業における技術者としての経験を有する教員は14名(内，非常勤講師１名を含む６名は経験10年以上)である。

資料３－１－③－１

沼津工業高等専門学校における「総合システム工学プログラム」の

プログラム担当教員及びプログラム担当教員会議について

（プログラム教科目）

1. 沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における「総合システム工学プログラム」（以下「プログラム」という。）のプログラム教科目は、本校の第４学年及び第５学年の主要教科目並びに専攻科の教科目とする。

（プログラム担当教員の資格）

2. プログラム担当教員の資格は、当該年度に開設するプログラム教科目を担当する専任の教員とし、当該教員は、別に定める教員個人調書を校長に提出するものとする。

（プログラム担当教員会議の設置）

3. 本校に、プログラムの企画・運営を円滑に進めるため、プログラム担当教員会議（以下「会議」という。）を置く。
4. 会議は、原則として年４回開催するものとし、プログラムの企画・運営に関する基本方針について審議する。
5. 会議は、プログラム担当教員で構成する。
6. 会議に議長を置き、構成員のうちから校長が指名する。
7. 会議は、３分の２以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
8. 会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
9. 各学科会議、教養科会議及び専攻科担当教員会議（以下「学科会議等」という。）は、第４項の会議において合意された事項のうち、その実施に当たって更に検討を要する場合は、学科会議等において審議の上、実施するものとする。この場合において、第４学年及び第５学年に関わる事項に関して各学科間、及び教養科間の調整及び詳細な合意を必要とする事項については、教務委員会において審議の上、実施するものとする。

（プログラム委員会）

10. 会議に、当該会議の円滑な運営を図るため、プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置く。
11. 委員会は、会議から付託された事項について審議し、会議に報告するものとする。
12. 委員会は、原則として専攻科企画・運営委員会が兼任するものとし、その下にワーキンググループとして第１～７委員会を置くものとする。

（細目）

13. この取扱いのほか、会議の運営に関し必要な細目は、会議が別に定める。

2004 年度第７回総務委員会確認

2004 年 11 月 10 日

2006 年 12 月 13 日

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料３－１－③－２

専攻科授業科目及び担当教員一覧

	授業科目	単位数
語学	技術英語Ⅰ	1
	技術英語Ⅱ	1
	英作文Ⅰ	1
	英作文Ⅱ	1
	英会話Ⅰ	1
	英会話Ⅱ	1
	総合ドイツ語Ⅰ	1
	総合ドイツ語Ⅱ	1
人文社会科学	歴史文化論	2
	地球環境学	2
	工学倫理	2
	エネルギと社会	2
	地理情報学	2
基礎能力	現代物理学	2
	量子力学	2
	熱統計物理学	2
	応用数学Ⅰ	2
	応用数学Ⅱ	2
	応用数学Ⅲ	2
	マルチメディア・ネットワーク	2
	化学データ解析	2
	材料強度論	2
	結晶化学	2
	生物化学工学	2
機械工学系科目	流体力学	2
	精密加工学	2
	燃焼工学	2
	ロボット制御工学	2
	システム制御工学	2
	振動制御工学	2
	適応制御工学	2
	流体エネルギ変換工学	2
	音響工学	2
	表面工学	2
	工業材料	2

職名	氏名	学位	専門分野
非常勤	松坂　孝	工学士・技術士（機械部門）	熱工学
講師	種村 俊介	修士（英語教育学）	英語教授法
教授	塩谷 三徳	教育学修士	英語教授法
教授	大久保 清美	文学修士	ドイツ地域文化研究
准教授	平田 陽一郎	修士（文学）	中国史
教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学
准教授	山中　仁	修士(工学)・技術士(機械部門)	設計工学・機構学
非常勤	森井 宜治	工学博士	応用物理
准教授	佐藤 崇徳	修士（文学）	地理学
准教授	駒　佳明	博士（理学）	クォーク・ハドロン物理学
教授	勝山 智男	博士（理学）	統計物理学・生物物理学
講師	松澤　寛	博士（理学）	非線形偏微分方程式論
講師	澤井　洋	博士（理学）	微分幾何
教授	舟田 敏雄	工学博士	数理工学
教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学
講師	藁科 知之	博士（工学）	分析化学
教授	西田 友久	博士（工学）	材料力学
助教	松田 伸也	博士（工学）	材料力学・破壊力学
教授	小林 美学	工学修士	無機化学
准教授	竹口 昌之	博士（工学）	生物化学工学・微生物工学・生物無機化学
教授	手塚 重久	工学博士	流体力学
教授	小林 隆志	博士(工学)・技術士(機械部門)	弾性力学・圧力技術
講師	永禮 哲生	修士（工学）	切削工学
准教授	新冨 雅仁	博士（工学）	燃焼工学
教授	川上 誠	工学修士	画像処理・電子回路
助教	青木 悠祐	修士（工学）	ロボット工学・生体医工学
教授	長谷 賢治	工学博士	制御工学
教授	相良　誠	工学修士・技術士（機械部門）	工作機械、機械設計、振動工学
准教授	三谷 祐一朗	博士（工学）	制御工学
教授	大島　茂	工学博士	水圧、油圧工学
教授	村松 久巳	工学博士	流体工学・音響工学
教授	西田 友久	博士（工学）	材料力学
准教授	井上　聡	工学修士	合金設計

電気電子工学系科目	電気機器学特論	2
	パワーエレクトロニクス特論	2
	電力制御機器工学	2
	電磁エネルギー変換工学	2
	集積回路設計	2
	電磁波工学Ⅰ	2
	電磁波工学Ⅱ	2
	電子デバイス	2
	電気電子材料	2
	信号処理	2
	通信処理	2
情報工学系科目	ネットワーク	2
	計算機アーキテクチャー	2
	組み込みソフトウェア	2
	アルゴリズムとデータ構造	2
	有限オートマトンと言語理論	2
	プログラム言語	2
	計算機システム	2
	オブジェクト指向プログラム設計	2
	画像処理工学	2
	化学情報学	2
	計算力学	2
	計算流体力学	2
化学・生物工学系科目	有機材料設計	2
	環境安全工学	2
	有機化学	2
	微生物工学	2
	食品保存工学	2
	生物生産工学	2
	材料物理化学	2
	反応速度論	2
	授業科目合計単位数	144

教授	高野 明夫	博士（工学）	パワーエレクトロニクス・電動機制御
教授	江間　敏	工学修士	電力工学
教授	高野 明夫	博士（工学）	パワーエレクトロニクス・電動機制御
准教授	西村 賢治	博士（工学）	プラズマ工学
教授	望月 孔二	博士（工学）	電子計測
准教授	嶋　直樹	博士（工学）	電波物理
准教授	芹澤 弘秀	博士（工学）	電磁波工学
准教授	野毛　悟	博士（工学）	超音波エレクトロニクス
教授	遠山 和之	博士（工学）	誘電・絶縁材料
准教授	鈴木 茂樹	工学修士	信号処理
教授	長澤 正氏	工学修士	通信工学
教授	川上　誠	工学修士	画像処理・電子回路
教授	望月 孔二	博士（工学）	電子計測
助教	高矢 昌紀	博士（工学）	色彩画像工学
教授	牛丸 真司	博士（理学）	組み込みシステム
講師	真鍋 保彦	修士（工学）	情報処理
准教授	鈴木 康人	博士（情報科学）	情報論理
教授	藤尾 三紀夫	博士（情報工学）	ＣＧ・ＣＡＤ／ＣＡＭ・メカトロニクス
教授	市川 周一	理学博士	計算機学・計算機アーキテクチャ・並列処理
准教授	鄭　萬溶	博士（工学）	振動工学
教授	川上　誠	工学修士	画像処理・電子回路
教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学
教授	小林 隆志	博士（工学）	弾性力学・圧力技術
教授	舟田 敏雄	工学博士	数理工学
准教授	大庭 勝久	博士（工学）	流体工学
教授	押川 達夫	工学博士	グリーンケミストリー
教授	渡辺 敦雄	博士(工学)・ 技術士(衛生工学部門)	化学工学・安全工学
教授	押川 達夫	工学博士	グリーンケミストリー
助教	山根 説子	博士（学術）	生体機能性高分子材料化学
教授	蓮實 文彦	博士（工学）	応用微生物学・酵素化学
教授	後藤 孝信	博士（薬学）	水産化学
講師	古川 一実	博士（農学）	植物遺伝育種学・植物組織培養学・遺伝子工学
准教授	稲津 晃司	博士（工学）	触媒化学・環境化学
准教授	大川 政志	博士（理学）	無機化学

※平成23年５月１日現在

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校で専攻科の授業を担当する教員は，博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体であり，全員が大学評価・学位授与機構による５年ごとの審査で承認された者である。教員は各自の専門分野に応じた授業科目を担当しているほか，技術士をはじめとする各種の技術資格や，豊かな企業経験を有する教員が多く配置されている。

以上のように，本校専攻科においては，教育の目的を達成するために必要な専攻科担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教員採用は公募制であり，教員選考内規に基づき教員選考委員会で選考しているが，当該学科内外の各教員の経歴や年齢構成等を踏まえ，偏りのない適切な人材配置となるよう十分に配慮されている。その結果，教員の年齢構成一覧（資料３－１－④－１，２）・経歴一覧（資料３－１－④－３）に見るとおり，多様な背景を持つ教員組織であると同時に，おおむねバランスの取れた構成となっている。

また，博士の学位や技術士等の職業上の高度な資格についても，本校教員の取得状況は高レベルであり，専門科目（理系の一般科目を含む）を担当する教員66名のうち，約80％を占める53名がこれらの資格を取得している（資料３－１－④－４）。この数値は，国立高等専門学校機構第２期中期計画における目標の70％を上回っており，高等専門学校にふさわしい高度な専門教育が可能となっている。なお，本校には現在７名の女性専任教員がいるが，女性教員の働きやすい職場環境を整えるため，後述するように校長がヒアリングを行い，女性教員は，寮宿直に替えて寮地区の巡回を実施することとし，育児休暇取得の勧奨とそれに対する人的対応（非常勤の採用など）も講ずるなど，具体的に配慮している（資料３－１－④－５）。その他，外部研修へも積極的に参加し，教員の資質向上に努めている（資料３－１－④－６）。

さらに，平成 21 年度から，校長は校長リーダーシップ経費（資料３－１－④―７）の申請者全員に対して申請書に基づくヒアリングを行い，教育の質の向上を目指すもの，研究成果を科学研究費補助金等の外部資金獲得に繋げるもの，教育環境を改善しようとするものになっているかを見極めて採択を決定し，次年度に採択者の実績報告を義務付けている。なお，科学研究費補助金の申請者に運営費交付金を追加配分すること（資料３－１－④―８），豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請を奨励することによる教員の研究活動の活性化に努めている（資料３－１－④―９）。

高専機構の在外研究員制度，高専・技術科学大学間教員交流制度，内地研究員制度の活用を奨励して教員の研究活動，教育活動の活性化に努めている（資料３－１－④―10）。

平成21年度に校長が全教員とヒアリングを行い，教員組織を活性化するための具体策について各教員と話し合い信頼関係の構築に努めている。校長ヒアリングは平成23年度以後も定期的に実施する予定である。

資料３－１－④－１

専任教員の年齢構成及び女性教員数

	教養科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	総合情報センター	計
60-65 歳	3	1	2	1	2	1		10
50-59 歳	7	5	3	3	2	3		23
40-49 歳	7	4	4	3	5	4		27
30-39 歳	7		1	3	2	3	1	17
28-29 歳		1		1				2
計	24(4)	11	10	11	11(1)	11(2)	1	79(7)

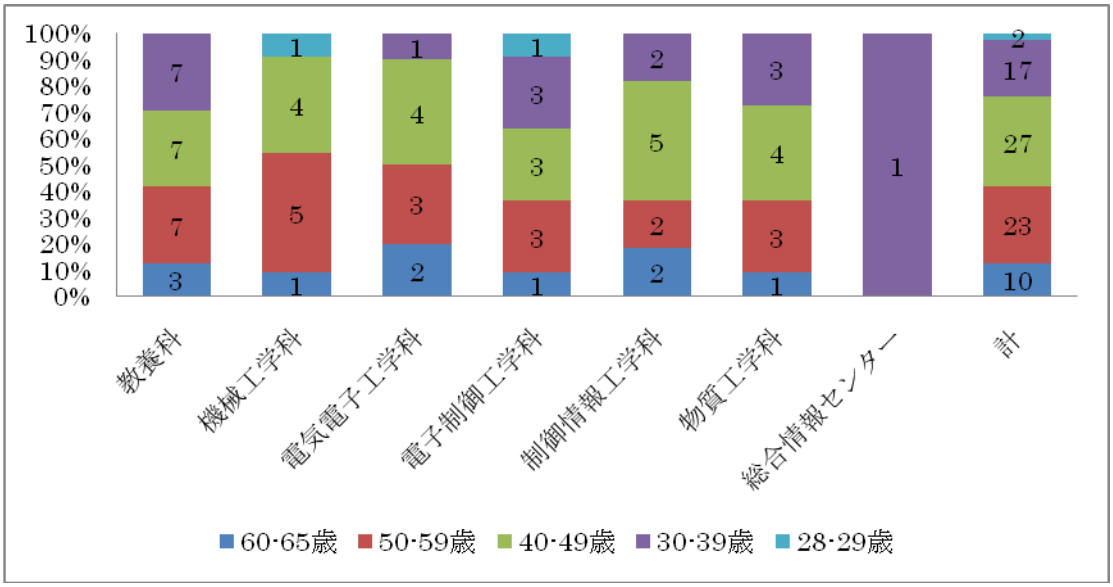
※年齢は平成23年度末における年齢

※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員１名は表に加えていない。

※計の（　）内は女性教員数で内数　　（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－２

専任教員の年齢構成グラフ



※平成23年５月１日現在　　（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－３

本校以外の勤務歴

職名	現員	本校以外の勤務歴がある教員									複数経歴内訳
		他高専	大学	高校以下	官公庁	民間企業	自営業	海外研究	延べ人数	実人数	
教授	35 人	3 人	5 人	1 人	1 人	16 人		1 人	27 人	25 人	大学・民間企業２名
准教授	26 人	2 人	7 人	3 人		5 人		1 人	18 人	15 人	他高専・民間企業１名 高校・民間企業１名 大学・海外研究１名
講師	12 人	1 人	3 人	2 人				1 人	7 人	6 人	大学・海外研究 １名
助教	6 人		1 人			2 人			3 人	2 人	大学・民間企業１名
合計	79 人	6 人	16 人	6 人	1 人	23 人	0 人	3 人	55 人	48 人	

※平成23年５月１日現在

※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員１名は表に加えていない。　（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－４

博士の学位・技術士取得者数

	現員	教養科	機械工学科		電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科		物質工学科		総合情報センター	計	
			博士	技術士	博士	博士	博士	技術士	博士	技術士	博士	博士	技術士
教授	35	3	4	(1)	3	3	4	2	5	(1)		22	2(2)
准教授	26	4	2	1	3	2	2		3			14	1
講師	12	2				2	1		2		1	10	
助教	6		1		1	1	1		1			5	
合計	79	9	7	1(1)	7	8	8	2	11	(1)	1	51	3(2)

※平成23年５月１日現在

※（ ）は博士の学位取得者で技術士の資格を有する者

※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員１名は表に加えていない。

※教養科の９名中１名は国語担当教員　　（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－５

育児休業取得状況（教員）

育児休業取得者	所属・職名（取得時）	担当授業	取得期間	育児休業取得前の担当授業時間数	対応方法
渡邉志保美	教養科・助教授	保健体育	H19.1.7～H19.9.30	14	育児休業取得前の担当授業の全てを非常勤講師で対応
佐藤　志保	教養科・准教授	数学	H21.1.13～H22.12.31	16	育児休業取得前の担当授業の全てを非常勤講師で対応

※平成23年５月１日現在まで　　（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－６

平成22年度外部研修一覧表

研修会名称	主催者	開始日時（期間） 開始日～終了日	参加者
平成 22 年度 独立行政法人国立高等専門学校機構 高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	高専機構本部	H22.8.30～H22.9.1	２名
平成 22 年度 独立行政法人国立高等専門学校機構 高等専門学校教員研修（管理職研修）	高専機構本部	H22.9.29～H22.10.1	１名
第 7 回 全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	高専機構本部	H23.1.27～H23.1.28	２名
留学生・国際交流担当者研究集会	高専機構本部	H22.7.9～H22.7.10	１名
平成 22 年度 全国学生指導担当教職員研修会	（独）日本学生支援機構	H22.11.25～H22.11.26	１名
平成 22 年度 障害学生修学支援事例研究会	（独）日本学生支援機構	H22.8.30～H22.8.30	１名
平成 22 年度 東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会	（独）日本学生支援機構	H22.9.9～H22.9.10	２名
平成 22 年度 学生相談インテカーセミナー	（独）日本学生支援機構	H22.12.17～H22.12.17	１名
留学生交流研究協議会	（独）日本学生支援機構	H22.7.8～H22.7.9	１名
第 48 回 全国学生相談研修会	日本学生相談学会	H22.11.28～H22.11.30	３名
第 36 回 学校保健ｾﾐﾅｰ	（財）静岡県予防医学協会	H23.3.3～H23.3.3	１名
「工学（融合複合・新領域）関連分野」審査講習会	（社）日本工学教育協会	H22.6.16～H22.6.16	１名
有機溶剤作業主任者技能講習	（社）静岡県労働基準協会連合会	H22.6.14～H22.6.25	２名
安全管理者選任時研修	（社）静岡県労働基準協会連合会	H22.11.24～H22.11.25	１名

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－７

校長リーダーシップ経費募集要項

平成 23 年 4 月 25 日

教 職 員 各 位

校　　長

平成 23 年度校長リーダーシップ経費の申請について（照会）

このことについて、今年度の配分を希望する場合は、下記により申請書等を提出願います。
なお、設備整備（教育研究機器（備品）の更新・新規）のみの要求については、別添の学内マスタープランにて申請をお願いします。
また、平成 22 年度の採択者は、実施成果報告書（様式３）を４月末日までに提出いただくよう併せてお願いします。

記

１．申請方法
①申請者（グループの場合は代表者）は、申請書（様式１）を作成の上、電子媒体にて各所属長に提出する。
なお、複数学科にまたがる申請の場合は、主たる教員の所属長に提出する。
②各所属長は、学科等の順位一覧（様式２）を作成し、申請書と併せて財務係へ電子媒体で提出する。

２．提出期限　　平成２３年　５月２０日（金）

３．提出先　e-mail：

４．その他
関連資料及び申請書様式は、学内 HP よりダウンロードしてください。
財務経理　→　予算執行　http://fportal.numazu-ct.ac.jp/?page_id=206

（１）校長リーダーシップ経費関連資料
● 校長リーダーシップ経費の配分について（配分基準等）
（２）申請書等様式ダウンロード
● 校長リーダーシップ経費の申請書及び報告書
様式１）校長リーダーシップ経費配分申請書
様式２）校長リーダーシップ経費に関する学科等の順位一覧
様式３）平成 23 年度実施成果報告書 ⇒ 被採択者は翌年４月末までに報告

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－８

科学研究費補助金の申請者への運営費交付金追加配分資料

平成２２年度教育研究経費の留保分（科研費分）にかかる再配分一覧

単位：千円

新継	研究種目	研究課題名	研究室	氏名	配分額
新規	基盤研究(C)（一般）	最適可能な工学教育支援システムとしての小型磁気浮上装置の開発	機械		
新規	基盤研究(C)（一般）	非石綿ガスケットの高温特性評価とフランジ締結体の寿命予測	機械		
新規	若手研究(B)	航空機用セラミックス軸受球の変動荷重に対する圧砕強度評価法の確立	機械		
新規	若手研究(B)	ニホウ化マグネシウムの燃焼合成における最適条件マップの作成	機械		
新規	若手研究(B)	パラレルリンク機構の公差設計に関する研究	機械		
継続	基盤研究(C)（一般）	微分方程式と幾何構造の関係に関するツイスター理論による解明	教養		
継続	基盤研究(C)（一般）	多次元ニュートリノ輻射流体計算コードによる超新星爆発メカニズムの研究	教養		
新規	基盤研究(C)（一般）	Ｍｏｏｄｌｅによる教材作成のための工業高等学校の英語教育についての基礎調査	教養		
新規	挑戦的萌芽研究	動感反転作用を用いた運動技術指導法の構築	教養		
新規	若手研究(B)	中国北朝後期における羈縻政策と府兵制の展開	教養		
新規	若手研究(B)	コンパクト可解多様体の幾何	教養		
新規	若手研究(B)	空間非斉次性をもつ双安定反応拡散方程式系の局在パターンのダイナミクスに関する研究	教養		
新規	若手研究(B)	格子ＱＣＤと有効場の理論に基づく重いクォーコニウムの研究	教養		
継続	基盤研究(C)（一般）	予測補正制御に基づく高速高精度加工システムの試作	制御情報		
新規	基盤研究(C)（一般）	スパイク放電型神経ネットワークモデルによるブラッド錯視現象の理論的解明	制御情報		
新規	基盤研究(C)（一般）	エッジ特性を考慮した高精度三次元電磁波解析法の開発	制御情報		
新規	若手研究(B)	双極子を用いた非圧縮性流れのラグランジュ的解析手法構築に向けた研究	制御情報		
新規	若手研究(B)	複屈折暗視野光学顕微鏡の開発とその生体試料観察への応用	制御情報		
継続	若手研究(B)	蟻の群知能メカニズムの大規模最適化問題への応用と教育利用	総合情報センター		
継続	基盤研究(C)（一般）	下地基板の制約を軽減した酸化物結晶薄膜形成技術の研究開発	電気電子		
新規	基盤研究(C)（一般）	静止系におけるローレンツ力の検証	電気電子		
新規	基盤研究(C)（一般）	アナログ回路技術発展を題材にしたコンテスト形式のＰＢＬのための課題作成	電気電子		
新規	基盤研究(C)（一般）	極ゼロ相殺法に基づくブラシレスＤＣモータのセルフチューニング制御	電気電子		
新規	若手研究(B)	多原色表示装置における消費電力低減に関する研究	電気電子		
継続	若手研究(B)	非線形結合振動子系の引き込み現象と時間遅れの影響に関する研究	電子制御		
新規	基盤研究(B)（一般）	高分子フィルムの交流高電界下での局所発熱・電界発光・損失電流の同時観測法の検討	電子制御		
新規	基盤研究(C)（一般）	剛体ブロック型構造物の安定条件の統計的評価	電子制御		
新規	基盤研究(C)（一般）	粘性ポテンシャル流解析法による複合流体境界面の非線形安定性解析	電子制御		
新規	若手研究(B)	マルチメディカルロボットシステムの構築	電子制御		
新規	若手研究(B)	強安定成層流中の乱流生成機構に及ぼす成層効果の解明	電子制御		
新規	基盤研究(C)（一般）	球水空間を有する親水性ハイブリッドナノチューブの開発	物質		
新規	基盤研究(C)（一般）	魚類のタウリン生合成に関与した酵素の精製とその遺伝子のクローニング	物質		
新規	基盤研究(C)（一般）	メタン資化細菌共生系を利用した低濃度メタンの固定化技術の開発	物質		
新規	挑戦的萌芽研究	人間力養成メソッドの開発のための生理的および物理的人間力測定方法に関する研究	物質		
新規	若手研究(B)	近赤外光活性金属錯体の光線力学療法用光増感色素への応用	物質		
新規	若手研究(B)	ナノアパタイトの形成に作用する酸性多糖―無機複合ヒドロゲルの作製	物質		
	合計			36 件	

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－９

豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請・採択状況

【平成22年度】

相手先	研究題目	本校研究担当者	研究費額	採択結果
豊橋科学技術大学	実務スキル涵養する高専－技科大における制御工学教育プログラムの検討と作成	制御情報工学科　長谷 賢治	0	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	物質工学科　渡辺 敦雄	0	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	持続可能な社会構築を目的とする市民の連携促進と環境配慮型まちづくりへの応用	物質工学科　渡辺 敦雄	200,000	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	機械システムのロバスト運動制御に関する研究	制御情報工学科　藤尾 三紀夫	0	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	近接場光デバイスの基盤技術の研究開発	電気電子工学科　佐藤 憲史	250,000	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	ナノコンポジット材料の高電界下での電荷挙動の把握と電気伝導機構の解明	電子制御工学科　遠山 和之	0	○（包括契約）
豊橋科学技術大学	有機遷移金属錯体を構造規制剤に用いた新規ゼオライト合成法の開発と吸着，触媒能の特性化	物質工学科　稲津 晃司	280,000	○（包括契約）
長岡科学技術大学	担持パラジウム触媒の酸化物薄膜修飾による触媒燃焼の基質選択性向上	物質工学科　稲津 晃司	300,000	○（包括契約）
長岡科学技術大学	水晶基板の加工技術と特性評価に関する研究	電気電子工学科　野毛 悟	300,000	○（包括契約）
長岡科学技術大学	光触媒によるトルエン誘導体の光直接酸化の化学種決定	物質工学科　押川 達夫	300,000	×→直接契約
		計10件	1,630,000円	

【平成23年度】

相手先	研究題目	本校研究担当者	研究費額	採択結果
豊橋科学技術大学	Sr-R-Mn-Ti-O系化合物の相状態	教養科　小林 美学	研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援Ａ	（未定）
豊橋科学技術大学	「人間力」養成プロジェクト　～課外活動～	電気電子工学科　野毛 悟	教育ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援	（未定）
豊橋科学技術大学	ラミネートフィルムによる交流高電界下での絶縁性能の評価	電子制御工学科　遠山 和之	研究ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動支援	（未定）
豊橋科学技術大学	人間力計測法の定量的把握方法に関する研究	物質工学科　渡辺 敦雄	教育ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援	（未定）
豊橋科学技術大学	市民・学生双方向型の技術者教育の試み～「福島第一原子力発電所事故の定量的影響評価」を通して～	物質工学科　渡辺 敦雄	教育ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援	（未定）
長岡科学技術大学	電子材料・デバイス研究への誘い～薄膜形成と半導体デバイス実験～	電気電子工学科　野毛 悟	500,000	（未定）
長岡科学技術大学	メタン資化細菌共生系を利用したメタン固定化技術の開発	物質工学科　竹口 昌之	500,000	（未定）
長岡科学技術大学	歯や骨の再生を促進する薬物徐放性多糖-無機ハイブリッドヒドロゲルの開発	物質工学科　山根 説子	500,000	（未定）
		計8件	1,500,000円	

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－１０

１．在外研究員制度による派遣者

所　属	職 名	氏　名	派 遣 国	派遣先	期　間
制御情報工学科	准教授	鈴 木　康 人	イギリス	リバプール大学	H18.3～H18.10（８月）
物 質 工 学 科	講 師	古 川　一 実	イギリス	レスター大学	H22.4～H23.3（１年）

２．高専・両技科大間教員交流制度による派遣者及び受入者

【派遣者】

所　属	職 名	氏　名	派 遣 先	期　間
教　養　科	教 授	西 垣　誠 一	米子高専	H18～H20（３年）
教　養　科	講 師	藤 井　数 馬	香川高専	H22～H23（２年）
電気電子工学科	講 師	大 澤　友 克	豊田高専	H22～H23（２年）
制御情報工学科	准教授	宮 下　真 信	豊橋技術科学大学	H23～H23（１年）

【受入者】

所　属	職 名	氏　名	派 遣 元	期　間
教　養　科	准教授	白 根　弘 也	秋田高専	H19～H19（１年）
教　養　科	准教授	高 津　浩 彰	豊田高専	H21～H21（１年）
教　養　科	講 師	堀 江　太 郎	鈴鹿高専	H19～H20（２年）
電気電子工学科	講 師	草 間　裕 介	香川高専	H22～H22（１年）
電子制御工学科	准教授	内 堀　晃 彦	宇部高専	H20～H20（１年）
電子制御工学科	助 手	管　　隆 寿	一関高専	H18～H18（１年）
制御情報工学科	教 授	市 川　周 一	豊橋技術科学大学	H23～H23（１年）
物 質 工 学 科	准教授	津 田　良 弘	福井高専	H18～H18（１年）

３．内地研究員制度による派遣者

所　属	職 名	氏　名	派 遣 先	期　間
教　養　科	准教授	住 吉　光 介	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所	H23.5～H24.2（10月）

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の活動をより活発化するため，本校の教員募集においては公募制を採用し，年齢や経歴等を十分考慮した選考を行っている。その結果，教員の年齢構成は，特定の年代に偏らずバランスのとれたものとなっており，多様な教育経験や企業経験を有する教員によって，質の高い実践的な教育が行われている。博士の学位や技術士等の資格の取得率も高いレベルにあり，国立高等専門学校機構中期計画における目標を達成している。

また，平成21年度には校長が全教員とヒアリングを行い，教員組織を活性化するための具体策につ

いて各教員と話し合い，信頼関係の構築を図っている。その結果，女性教員の働きやすさに具体的に配慮しているほか，校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとして，科学研究費補助金の申請者への運営費交付金の追加配分，豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請の奨励，高専機構の在外研究員制度，高専・技術科学大学間教員交流制度，内地研究員制度の活用の奨励などを通じて，教員の研究活動，教育活動の活性化に努めている。

以上のように，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

平成 11 年度より自己点検・評価委員会（資料３－２－①－１）を設置し，各学科等・委員会等のセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。

教員の講義等の教育活動に対する評価は，平成 11 年度より教務委員会が中心となり学生による授業評価アンケート（資料３－２－①－２）を継続して実施し，アンケート結果はウェブサイト上で全教員が確認することができる（資料３－２－①－３）。各教員はその結果を基に改善策を立て，次年度のシラバスに明記することが義務づけられている。学生の授業評価の結果とシラバスの内容を総合して教務主事（専攻科については専攻科長）が評価し数値化を進めている。

専攻科研究の指導教員については，学位（学士）取得結果を参考として，専攻科長が評価し数値化を進めている。

学級担任の学級運営及び学生指導については，学級日誌（資料３－２－①－４）及び学生の身上調書（資料３－２－①－５）の記録に基づいて教務主事が評価し数値化を進めている。

クラブ活動・課外活動の指導については、課外活動実施報告書（資料３－２－①－６）の記録に基づいて学生主事が評価し数値化を進めている。

学生寮の生活指導については，寮生指導日誌等の関連資料（資料３－２－①－７）の記録に基づいて寮務主事が評価し数値化を進めている。

以上のように，全教員の教育活動に対して，年度毎に各教員の全ての評価内容の数値を合計した値をその教員の教育活動の実績として評価する体制の整備を進めており（各評価の数値化についての詳細は訪問調査時に提示する），平成17年度受審の認証評価において指摘された点を改善すべく適切に対応している。

資料３－２－①－１

平成２３年度 各種委員会委員名簿(2/2)

平成23年4月1日 現在

地域連携・研究支援委員会 知的財産専門部会
○ 藤尾　三紀夫
相良　誠
稲津　晃司
新冨　雅仁
野毛　悟
青木　悠祐
駒　佳明
（事務）総務係

自己点検・評価委員会
○ 柳下　福蔵
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
大久保　清美
押川　達夫
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
（事務）総務係

就職委員会
○ 柳下　福蔵
蓮實　文彦
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
三谷　祐一朗
佐藤　憲史
長澤　正氏
吉野　龍太郎
竹口　昌之
野毛　悟
事務部長
学生課長
（事務）学生係

安全衛生委員会
○ 大島　茂
渡辺　敦雄
相良　誠
稲津　晃司
牧野　初江
杉山　賢一
（事務）人事係
（事務）施設係

国際交流委員会
○ 大久保　清美
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）学生課課長補佐
（事務）総務係

環境保全委員会
○ 蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
江間　敏
事務部長
課長補佐（会計担当）
（事務）用度係

組換えDNA安全委員会
蓮實　文彦
竹口　昌之
古川　一実
鈴木　猛
総務課長
（事務）総務係

毒劇物管理委員会
○ 芳野　恭士
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
西垣　誠一
事務部長
課長補佐（会計担当）
（事務）用度係

動物実験委員会
芳野　恭士
押川　達夫
後藤　孝信
薬科　知之
小林　美学
総務課長
鈴木　猛
（事務）総務係

尚友会館会館運営委員会
○ 蓮實　文彦
大島　茂
遠藤　良樹
事務部長
総務課長
学生課長
課長補佐（会計担当）
◇ 学生係長
（事務）学生係

施設整備計画委員会
○ 柳下　福蔵
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
総務課長
学生課長
課長補佐（会計担当）
（事務）施設係

レクリエーション委員会
○ 事務部長
総務課長
課長補佐（会計担当）
手塚　重久
高橋　儀男
青木　悠祐
市川　周一
大川　政志
大石　加奈子
滝田　昌稔
岡本　ちづ子
中村　玲治
（事務）人事係

広報委員会「高専だより」
○ 坂本　信男
大石　加奈子
宮内　太積
高橋　儀男
長澤　正氏
松本　祐子
山根　説子
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）総務係

広報委員会「学校要覧」
三谷　祐一朗
高橋　儀男
江上　親宏
相良　誠
渡辺　敦雄
佐藤　崇徳
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）総務係

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料３－２－①－２

授業アンケートの実施要綱

教務主事

授業アンケートの目的
- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲
- 個々の科目の基礎データ(授業毎にまとめたデータ)に関しては、学内公開とする。
- 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲
- 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目
- 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期
- 科目担当の教員が最終の授業(試験を含む)時間の中で実施する。
- 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教員が判断する。

アンケートの配布と回収
- アンケート実施要綱、質問用紙、コード表、マークシート記入要綱を、教務係から担当教員に事前に配布する。
- 質問用紙、マークシート記入要綱、マークシートを、アンケート実施の際に学生に配布する。
- アンケート終了後、配布した用紙を全て回収する。
- マークシートの回答は、定められた期限までに、教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- マークシート以外の用紙は、必要なら繰り返し利用する(教務係への返却は必要ない)。

使用する資料・物品など

	使用資料・物品名	使用個数	教務係から教員へ配布	学生から教員が回収	教務係への返却/提出
実施教員用	アンケート実施要綱 アンケート実施に関するお願い	各教員1部	○		
	科目・教員コード表	〃	○		
	質問用紙/マークシート記入要綱	〃	○		
対象学生用	質問用紙/マークシート記入要綱	各学生1枚	○	要	要
	マークシート	〃	◎	要	要
記号凡例	○実施初回にのみ配付。担当全科目に亘って使用する。 ◎実施初回に担当全科目分を配付。				

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料３－２－①－３

平成22年度 学年末 学科別集計結果（教養科）

沼津工業高等専門学校

国語					大石 加奈子			M2		回答数:		34										
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	35.3%	26.5%	41.2%	38.2%	32.4%	38.2%	50.0%	52.9%	41.2%	36.4%	44.1%	50.0%	50.0%	52.9%	47.1%	41.2%	44.1%	36.4%	45.5%	44.1%	52.9%	48.5%
良い	55.9%	55.9%	44.1%	44.1%	50.0%	50.0%	41.2%	44.1%	47.1%	48.5%	44.1%	35.3%	38.2%	44.1%	47.1%	50.0%	50.0%	54.5%	48.5%	41.2%	38.2%	45.5%
あまり良くない	2.9%	11.8%	11.8%	11.8%	11.8%	8.8%	5.9%	2.9%	11.8%	6.1%	11.8%	14.7%	11.8%	2.9%	5.9%	5.9%	5.9%	9.1%	3.0%	11.8%	5.9%	0.0%
悪い	5.9%	5.9%	2.9%	5.9%	5.9%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	3.0%	2.9%	2.9%	6.1%
回答数	34	34	34	34	34	34	34	34	34	33	34	34	34	34	34	34	34	33	33	34	34	33

国語					神田 朝美			M3		回答数:		45										
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	33.3%	31.1%	46.7%	46.7%	40.9%	46.7%	46.7%	55.6%	55.6%	44.4%	37.8%	44.4%	55.6%	48.9%	51.1%	44.4%	48.9%	46.7%	38.6%	31.8%	59.1%	38.6%
良い	51.1%	55.6%	40.0%	46.7%	50.0%	44.4%	51.1%	35.6%	35.6%	44.4%	46.7%	42.2%	40.0%	40.0%	35.6%	40.0%	35.6%	44.4%	38.6%	43.2%	34.1%	47.7%
あまり良くない	11.1%	11.1%	11.1%	4.4%	9.1%	8.9%	2.2%	6.7%	6.7%	8.9%	15.6%	13.3%	4.4%	11.1%	13.3%	13.3%	13.3%	8.9%	20.5%	22.7%	4.5%	11.4%
悪い	4.4%	2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%
回答数	45	45	45	45	44	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	44	44	44	44

国語					大石 加奈子			E2		回答数:		38										
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	65.8%	63.2%	73.7%	57.9%	63.2%	71.1%	71.1%	68.4%	68.4%	65.8%	65.8%	71.1%	65.8%	68.4%	65.8%	73.7%	63.2%	71.1%	65.8%	60.5%	73.7%	76.3%
良い	31.6%	31.6%	21.1%	34.2%	31.6%	23.7%	23.7%	23.7%	26.3%	26.3%	28.9%	23.7%	28.9%	26.3%	26.3%	21.1%	31.6%	21.1%	28.9%	34.2%	18.4%	18.4%
あまり良くない	2.6%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%
悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38

国語					神田 朝美			E3		回答数:		37										
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	47.2%	37.8%	37.8%	37.8%	36.1%	47.2%	44.4%	33.3%	47.2%	50.0%	41.7%	47.2%	55.6%	55.6%	52.8%	44.4%	41.7%	44.4%	41.7%	34.3%	48.6%	42.9%
良い	44.4%	54.1%	59.5%	48.6%	55.6%	38.9%	52.8%	55.6%	47.2%	44.4%	44.4%	44.4%	41.7%	41.7%	41.7%	41.7%	38.9%	47.2%	41.7%	54.3%	42.9%	48.6%
あまり良くない	5.6%	5.4%	0.0%	10.8%	5.6%	11.1%	0.0%	8.3%	2.8%	2.8%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	2.8%	11.1%	13.9%	5.6%	13.9%	8.6%	5.7%	5.7%
悪い	2.8%	2.7%	2.7%	2.7%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	5.6%	2.8%	2.8%	2.9%	2.9%	2.9%
回答数	36	37	37	37	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35

1 / 53 ページ

※１／５３頁のみ掲示　　（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料３－２－①－４

学級日誌の書式

学級担任教員印			月　日　曜日	天候		当番氏名	
授業科目名		教員名	学習内容の要点		遅刻者氏名		欠課者氏名
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
教室清掃当番	No. ～ No.	清掃状況		本日の反省と所感			

（出典　学生課作成資料）

資料３－２－①－５

1

㊙ 平成23年度 **学生身上調書**

沼津工業高等専門学校

※学級						
※番号						

（ふりがな） 氏　　名		平成　　年　　月　　日生	男・女
本　　籍	都道府県		

本人の現住所	年 月 日			
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間
	．．	電話	寮	自宅 下宿 親戚 知人 アパート 貸間

保護者名		続柄		職業	
保護者の本籍	都道府県				
保護者現住所	電話				
保証人名		続柄		職業	
保証人現住所	電話				

学生証番号 ※

一、二、三学年：30mm × 40mm 写真（糊付）（上半身脱帽のこと）

四、五学年：30mm × 40mm 写真（糊付）（上半身脱帽のこと）

通学方法	区間	方法	所要時間	距離
	―		時間 分	． km
	―		時間 分	． km
	―		時間 分	． km
	―		時間	． km
	計		時間 分	． km

入学までの概要	中学校名	入学	転出転入	卒業
	中学校	．．	．．	．．
	中学校	．．	．．	．．
	高等学校	．．	．．	．．

学年		生徒会役歴	所属クラブ	主な既往症
中学校	1			
	2			
	3			
高校	1			
	2			
	3			

（記入上の注意）鉛筆で記入する。本籍は都道府県名のみ記入する。保証人欄は保護者以外の場合のみ記入する。
※印のところは記入しないこと。記入事項に変動があった時は速やかに学級担任へ届け出ること。

※１／６頁のみ掲示

（出典　学生課作成資料）

資料３－２－①－６

記入例

課外活動実施報告書　4月分(4/1～4/25)

クラブ名	○○○部
氏　名	沼津　太郎　　印

日付		実施時間	時間数	実施場所	実施内容	同行コーチ	交通費（実費）	備考
4月1日	金	～						
4月2日	土	13:00　～　17:00	4:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月3日	日	9:00　～　17:00	8:00	小山高校	練習試合	三島　次郎	650円	三島～足柄
4月4日	月	～						
4月5日	火	～						
4月6日	水	～						
4月7日	木	～						
4月8日	金	～						
4月9日	土	～						
4月10日	日							
4月11日	月	～						
4月12日	火	～						
4月13日	水	16:30　～　18:30	2:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月14日	木	～						
4月15日	金	16:30　～　18:30	2:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月16日	土	13:00　～　17:00	4:00	沼津高専第1体育館	練習及びOB戦			
4月17日	日	9:00　～　16:00	7:00	沼津市民体育館	インターハイ東部地区予選	三島　次郎	360円	三島～沼津
4月18日	月	～						
4月19日	火	～						
4月20日	水	～						
4月21日	木	～						
4月22日	金	～						
4月23日	土	～						
4月24日	日	～						
4月25日	月	～						

交通費を負担した場合は金額及び区間を記入する。

平日の練習も指導に従事した場合は記入する。

※クラブ指導に従事した時間を記入すること。(会場への移動時間は含めない。)
※公共交通機関を利用し、交通費を負担した場合は金額(実費)を記入すること。

(出典　学生課作成資料)

資料３－２－①－７

寮 生 指 導 日 誌

寮務主事	寮　監

平成　　年　　月　　日（　　曜日）

宿直教員名　　印

・入室時刻　　時　　分　　・退室時刻　　時　　分

遅刻・早退の場合、その理由：

・点呼報告（外出・外泊者の確認、点呼時不明者の所在確認等）

・巡 視 報 告

巡 視 時 間：

巡 視 箇 所：

観察・指導内容：

・そ　の　他

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

全教員の教育活動に対して，講義等，専攻科研究指導，学級運営・学生指導，クラブ活動・課外活動指導及び寮生の生活指導などの評価を全て数値化して総合的に評価する作業が進行中である。

以上のことより，全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価を行う体制の整備が進行中である。なお，現在のところ教員組織の見直し等の必要性は存在しない。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

昇格については，沼津工業高等専門学校教員選考内規（資料３－２－②－１）に定められているとおり，各学科の推薦委員会が，校長・教務主事・学生主事・寮務主事・当該学科長で構成する教員選考委員会に昇格候補者の推薦を行う。教員選考委員会では，昇格候補者が作成した個人調書・著書論文一覧・自己申告書に基づき，講義・学生指導・課外活動等の教育における実績，研究における実績，学校運営及び社会貢献における実績のほか，学位・勤務年数等について総合評価を行い，昇格を決定している。

また，平成 23 年度からは，教育実績・研究実績・学校運営及び社会貢献における評価項目を細分化した上で数値化し，勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準の策定を進めている（詳細は，調査訪問時に提示する）。

採用については，平成 19 年に教員選考内規を一部改正し，採用手続きを変更した。公募を実施する場合，公募する教員の専門分野・職種・公募内容について，教員選考委員会で審議の上，公募を実施している。これらの公募は，全国高等専門学校・学会誌・研究者人材データベース・本校ホームページで周知を行っている。当該学科の推薦委員会の書類選考結果に基づき，教員選考委員会において，再度審議を行い，原則３名程度の面接候補者を決定する。推薦委員会で面接及び模擬授業を実施し，当該学科長から面接及び模擬授業の状況報告後，教員選考委員会の合議の上，採用内定者を決定している。

選考の際の視点は，公募を行っている専門分野での実績があり，教育とともに学級担任等の学生指導にも熱意を持ち，教育と研究を両立することができる人材を採用するよう努めている。

なお，非常勤講師の採用については，「沼津工業高等専門学校非常勤講師に関する内規」（資料３－２－②－２）が定められており，各学科等から提出された「非常勤講師委嘱依頼願」（資料３－２－②－３）により，教務主事が経歴等をチェックし，教務委員会で確認を行った上で（資料３－２－②－４），非常勤講師を適切に委嘱している。

資料３－２－②－１

○沼津工業高等専門学校教員選考内規

（平成 8.9.11 制定）

最終改正　平成 19.6.13

（趣旨）

第１条　本校における教員（教授、准教授、講師及び助教）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の選考等は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６号）、その他法令等に特別の定めのある場合を除くほか、この内規の定めるところによる。

（採用等の発議）

第２条　各学科又は教養科（以下「学科等」という。）において、教員の採用等を必要と認めたときは、当該の学科等の長が第１号様式により，校長に申し出る。（採用の場合は公募文案を添付する。）

（推薦委員会）

第３条　校長は、前条の申し出がありこれを必要と認めたとき又は管理運営上特に必要があると認めたとき、当該の学科等に推薦委員会を設置する。

２　推薦委員会は、当該の学科等の長及び校長が指名した教員をもって組織する。

第４条　推薦委員会は、採用等の候補者を選定し、次の書類をもって（採用の場合は書類選考し複数名を）選考委員会に推薦する。

⑴推薦書

⑵履歴書（採用者の場合）

⑶教員選考個人調書

⑷著書・論文等一覧

⑸著書・論文等の概要

⑹企業での各部門における実績（企業からの採用者の場合）

⑺沼津工業高等専門学校における教育・研究に対する抱負（本校内において昇任する者を除く。）

⑻「自己申告書」（本校内において昇任する者）

⑼その他校長が必要と認めた書類

２　推薦委員会は面接等を実施することができる。

（選考委員会）

第５条　校長は、学科等から第２条の申し出があったとき、選考委員会を設置する。

選考委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

⑴校長

⑵副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

⑶当該の学科等の長

⑷その他校長が必要と認めた者

３　選考委員会は、校長が招集し、議長となる。

第６条　第２条の発議内容の審査，公募文案，及び採用等の候補者の選考は、選考委員会の議に基づき校長が行う。

（事務）

第７条　選考委員会に関する事務は、総務課が行う。

（補則）

第８条　この内規に定めるもののほか、教員の採用等の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附　則

この内規は、平成８年９月１１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１０年４月１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１１年４月１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１６年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則

この内規は、平成１７年４月１日から適用する。

附　則

この内規は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１９年６月１３日から施行し、同年４月１日から適用する。

（出典　本校規則集）

資料３－２－②－２

○沼津工業高等専門学校非常勤講師に関する内規

（昭和 53.8.21 制定）

最終改正　平成 16.4.14

第１条　非常勤講師は、特殊な専門的知識・技術を必要とする内容の科目の授業実施、及び本校教員の授業負担の過大を緩和するため、必要最小限の員数の学識経験者に委嘱する。

第２条　非常勤講師は、次の各号に該当する者を委嘱する。

(1)高等専門学校設置基準に定められた講師以上の教員資格を有する者

(2)年齢満７０歳以下の者

(3)健康で勤務に支障のない者

２　前項によりがたい場合は、校長の了承を得て措置する。

第３条　非常勤講師の授業時間は、原則として、１週１日４時間以内とする。

附　則

この内規は、昭和５４年４月１日から施行する。

附　則

この内規は、平成１６年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

（出典　本校規則集）

資料３－２－②－３

非常勤講師委嘱依頼願

提出者　　学科長

氏　　名	（漢字）	（ふりがな）
生年月日	昭和　　年　　月　　日生　（　　才）	
現住所	〒	
電話番号	（　　）　－	
E－mail		
委嘱期間	通年・前期・後期・集中講義　（　月　日～　月　日）	
担当科目／必修・選択の別	必修・選択	
担当クラス		
週来校日数・時間	日　　時間	
依頼担当教員名		
必要理由 （できるだけ詳細に）		
得られる効果（前年度引き続きの場合は得られた効果）		
勤務先	名　　称 所　　属	役職
	住　　所	〒
	電話番号	（　　）　－
委嘱状宛名 （公文書）	名　　称	
	役職等	
	氏　　名	
委嘱状 送付先	名　　称	
	担当係・者	
	住　　所	〒
	電話番号	（　　）　－
備　　考		

（出典　学生課作成資料）

資料３－２－②－４

平成２２年度 第６回教務委員会議事録（一部抜粋）

日　時　平成２３年２月４日（金）　１３：０５～１４：３０
場　所　選択制教室３・４（共通棟１階）
出席者　教務主事 大島，教務副主事 村松，教務主事補 勝山，遠山
　　教務委員 高野，後藤，三谷，　学科長 小林，望月，長谷，押川，西垣
　　専攻科長 芳野，図書館長 江間，　学生課長 山添，教務　大河，影山

（前略）
９．平成 23 年度非常勤講師委嘱に関して
（資料８）平成 23 年度非常勤講師予定一覧
・資料通り確認された。
・一部非常勤の週・時間については，時間割が定まってからとなる。
（後略）

（出典　教務委員会議事要録）

（分析結果とその根拠理由）

採用については，複数の候補者から教育指導能力と研究活動能力を総合的に評価し採用するよう努めており，適切に運用がなされている。昇任についても同様であるが，より適切な運用を図るため，平成23年度から各評価項目を数値化し，勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準をより明確化する作業を進めている。また，非常勤講師の採用についても，定められた内規に基づき，適切に対応している。

以上のことから，教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされている。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務組織は，教育支援及び学生支援を行うための組織として，学生課を配置し，教育課程の展開を支援する主な部署である教務係に４名の職員を配置している（資料３－３－①－１）。教務係における教育支援業務（資料３－３－①－２）は，定期試験時間割作成，教科書・教材の取りまとめ，教室の設備・備品等の維持管理，学外実習の連絡調整等があり，教員と協働により業務を行っている。

技術職員については，定員削減が求められている状況において，技術職員の職務の合理化及び効率化を図り，教育支援体制の更なる強化を目的として，技術職員を組織化することとし，平成 18 年度に全学的な組織である技術室を設置した。技術室は，実習工場班，機械系班，電気・電子・情報系班，物理・化学系班の４班からなり，再雇用職員を含め 17 名を配置している（資料３－３－①－１）。技術室の主な業務（資料３－３－①－３）は，実験・実習・卒業研究における教育の補助や技術指導，教員からの依頼による教材の作成，実験室・実習室等の設備・備品等の維持管理等であり，技術室と各学科が連携し，教育支援を行っている（資料３－３－①－４）。

資料３－３－①－１

事務職員・技術職員の配置状況

【事務部】

			事務職員	技術職員	看護師	非常勤・再雇用職員等
事務部	事務部長		1			
	総務課	課長	1			
		課長補佐	2			2
		専門員	1			
		総務係	4			5
		人事係	3			
		財務係	3			1
		用度係	3			1
		施設係		2		
	学生課	課長	1			
		課長補佐	1			1
		教務係	4			
		入試係	2			
		学生係	3		1	
		寮務係	1			5
		図書係	1			3
計			31	2	1	18

【技術室】

			教員	技術職員	再雇用職員
技術室	技術室長		1		
	技術長			1	
	実習工場班			5	1
	機械系班			2	1
	電気･電子・情報系班			3	
	物理・化学系班			2	2
計			1	13	4

※平成 23 年５月１日現在

※ 技術長は，電気・電子・情報系班を兼任。（電気・電子・情報系班の外数）

（出典　総務課作成資料）

資料３－３－①－２

○沼津工業高等専門学校事務分掌細則

（昭和 44.4.1 制定）

最終改正　平成 22.3.31

（教務係）

第１３条　教務係においては，次の事務を分掌する。

(1)　学生課内の総括及び連絡，調整に関すること。

(2)　教育課程に関すること。

(3)　授業及び休業に関すること。

(4)　学生の校外実習及び見学に関すること。

(5)　学生の修学及び卒業に関すること。

(6)　学生の休学，退学等学籍に関すること。

(7)　学生の成績原簿及び指導要録の保存に関すること。

(8)　学生及び卒業生の学籍並びに成績等諸証明に関すること。

(9)　教科書，教材及び教具等に関すること。

(10)　学生の課外教養行事に関すること。

(11)　授業料収入金調査書の作成及び変更に関すること。

(12)　所掌事務の調査，統計その他諸報告に関すること。

（出典　本校規則集）

資料３－３－①－３

沼津工業高等専門学校技術室規程

（設置）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第４号）第１２条の規程に基づき，沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，技術室を置く。

（目的）

第２条　技術室は，本校の学科等の要請に基づき，技術・技能を要する専門業務を行うことにより，本校における教育研究等の業務を支援する。

（業務）

第３条　技術室は，次に掲げる業務を行う。

(1) 実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。

(2) 教育研究に必要な技術業務，技術開発及び教材作成に関すること。

(3) 情報システム基盤の維持・管理に関すること。

(4) 地域共同テクノセンター，総合情報センター，スペース・コラボレーション・システム，マルチメディア教室に関すること。

(5) 実験室，実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。

(6) 地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。

(7) 技術の継承・保存に関すること。

(8) 技術職員の研修の企画，立案及び実施に関すること。

(9) 技術職員の養成に関すること。

(10) 学校行事への準備及び支援に関すること。

(11) 本校の業務の技術支援に関すること。

(12) その他技術室に関すること。

（組織）

第４条　技術室は，技術室長，技術長，技術専門員，技術専門職員及び技術職員（建物及び施設の営繕，保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）をもって組織する。

（技術室長）

第５条　技術室長は，本校の教授の中から校長が任命する。

２　技術室長は校長の命を受け，技術室の業務を総括する。

３　技術室長の任期は２年とし，再任を妨げない。

（技術長）

第６条　技術長は，技術専門員または技術専門職員の中から校長が任命する。

２　技術長は技術室長の命を受け，技術室の技術職員の業務を総括するとともに，必要に応じ，連絡調整，技術職員の技術的な指導，育成を行う。

（班・班長）

第７条　技術室に，専門的技術の内容と必要に応じて，班および班長を置く。

(1) 実習工場班（主に機械実習工場に関する業務を行う。）

(2) 機械系班（主に機械工学科及び制御情報工学科に関する業務を行う。）

(3) 電気・電子・情報系班（主に電気電子工学科，電子制御工学科及び総合情報センターに関する業務を行う。）

(4) 物理・化学系班（主に教養科及び物質工学科に関する業務を行う。）

２　班長は上司の命を受け，班の業務を統括し，円滑な業務遂行に努め，必要な連絡調整を行う。

（運営委員会）

第８条　技術室の運営に関する基本的な事項を審議するため，技術室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

２　運営委員会の組織，運営については，別に定める。

（雑則）

第９条　この規程に定めるもののほか，技術室の運営に関し必要な事項は，技術室長が別に定める。

附　則

１　この規程は，平成１８年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成２０年１０月８日から施行し，平成２０年１０月１日から適用する。

（出典　本校規則集）

資料３－３－①－４

平成23年度支援申請書一覧表（全体一覧）

学科等	担当者	支援内容	支援班	支援人数	支援の可	対応班
T	藤尾三紀夫	テクノフォーラム準備と実施および後片付け	技術室	12	可	技術室
T	藤尾三紀夫	工場実習(F-met)	実習工場	5	可	実習工場
T	藤尾三紀夫	3次元立体造型機の操作(F-met) 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系・電気電子情報系	1	可	機械系
T	藤尾三紀夫	3次元CAD/CAMソフトウェアのオペレーション(F-met) 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系・電気電子情報系	2	一部可	機械系
T	藤尾三紀夫	マシニングセンターV33のオペレーションと切削動力測定実験(F-met)「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系	2	一部可	実習工場
S	相良 誠・機械工学科教員	工作実習(後期水曜日2・3・4時限)	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
S	長谷 賢治・市川 周一	制御情報工学プログラミング演習I(通年(毎金曜日 5～8時限))	電気電子情報系	1	可	機械系
S	鈴木 康人	制御情報工学プログラミング演習2(通年(毎火曜日 5～8時限))	電気電子情報系	1	一部可	電気電子情報系
S	芹澤 弘秀	メカトロニクス演習Ⅰ(通年 金曜日 5～8時限)	機械系または電気電子情報系	1	可	機械系
S	松本 祐子	メカトロニクス演習Ⅱ(通年 火曜日 5～8時限)	電気電子情報系	1	可	機械系
S	大久保進也	メカトロニクス演習Ⅲ(通年 月曜日 5～8時限)	機械系または電気電子情報系	1	可	機械系
S	鈴木 茂樹	制御情報工学科内のネットワーク管理及びホームページの管理 適時（週2回程度）	電気電子情報系	1	可	機械系
S	長谷 賢治	学科共通支援業務	特に問わない	1	可	機械系
S	相良 誠	工学実験(通年 木曜日 5～7時間)	機械系	1	可	機械系
S	吉野龍太郎、大島茂、長谷賢治、相良 誠	創造設計 前期：金曜日 6～7時限　後期：木曜日 5～8時限	機械系・情報系	1	一部可	機械系
S	吉野龍太郎	卒業研究 通年：水曜日 5,6時限 （桶田）	機械系	1	可	機械系
S	吉野龍太郎、大島茂、長谷賢治、相良 誠	創造設計	機械系・情報系	1	可	機械系
O	岡本ちづ子	図書館IT関係業務	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
O	山口正志	公開講座支援(公開講座開催日及びその前後)	技術室		可	
O	山口正志	公式ホームページの維持管理に関する技術支援	電気電子情報系		可	
O	山口正志	事務情報化推進に係る技術支援	電気電子情報系		可	電気電子情報系
O	山口正志	工具セットメンテナンス	技術室		可	
M	井上 聡	機械工学実験Ⅰ（材料工学分野）通年（火曜5～7時限）	機械系	1	可	機械系
M	小林 隆志	機械工学実験Ⅱ（計算力学分野）通年（木曜6～8時限）	機械系	1	可	機械系
M	西田 宮内 新冨 山中 永禮 松田 小林	機械設計製図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 前期：月曜日 3～7 後期：月曜日 1,2　水曜日 2～4　金曜日 3,4	機械系	1	可	機械系
M	機械工学科各教員	機械工学科の学科支援(H23年度中の適時)	機械系	2	可	機械系
M	機械工学科各教員	機械工学科の情報処理に関する管理・保守(H23年度中の適時)	機械系	1	可	機械系
M	小林 隆志	卒業研究（機械工学科コンピュータ演習室） 月：7～8時限（前期）、3～7時限（後期）　水：5･6（後期） 金：3～6時限（前期）、5～7時限（後期）	機械系	1	可	機械系
M	村松 久巳	機械工学科TOEIC教育の支援(平成23年度中の適時)	機械系	1	可	機械系
M	永禮 哲生，新冨 雅仁	エコランカー製作の支援	実習工場	5	可	
M	小林 隆志・宮内 太積・松田 伸也	機械工作実習Ⅰ	実習工場 ・ 機械系	6	可	実習工場・機械系
M	井上 聡・永禮 哲生・山中 仁	機械工作実習Ⅱ	実習工場 ・ 機械系	6	可	実習工場・機械系
M	宮内 太積・松田 伸也	設計製図Ⅲ	実習工場	5	可	実習工場
M	宮内 太積・松田 伸也	工作実習Ⅲ	実習工場 ・ 機械系	6	可	実習工場・機械系
M	小林 隆志	機械設計製図Ⅳ	実習工場	5	可	実習工場
M	全学科各教員	卒業研究	実習工場	5	可	実習工場
M	小林 隆志	留学生及び編入生の補講	実習工場	5	可	実習工場
M	小林 隆志	機械工学科E-learning教育の支援（機械実習工場教育関係）	実習工場	5	可	実習工場
L	西垣 誠一・勝山智男・小林美学	学科支援（教養科）（通年）	物理化学系	2	可	物理化学系
L	小林 美学	C1化学Ⅰ、Ⅱ（前期：木曜1・2 後期：木曜1・2）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	M1化学Ⅰ（前期：金曜1・2 後期：水曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	E1化学Ⅰ（前期：金曜5・6 後期：金曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	D1化学Ⅰ（前期：月曜3・4 後期：木曜7・8）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	S1化学Ⅰ（前期：火曜1・2 後期：金曜1・2）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	今野 信男	M2化学Ⅱ（前期：金曜5・6 後期：木曜3・4）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	今野 信男	E2化学Ⅱ（前期：金曜3・4 後期：木曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	西島 帯刀	D2化学Ⅱ（前期：月曜3・4 後期：火曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	西島 帯刀	S2化学Ⅱ（前期：月曜1・2 後期：月曜1・2）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	化学Ⅲ（前期：水曜1・2時限）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山 智男・駒 佳明	M1物理（実験）（前期：火曜1・2 後期：火曜3・4）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山 智男	E1物理（実験）（前期：月曜3・4 後期：木曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	廣瀬豊（常勤補助：勝山智男）	D1物理（実験）（前期：水曜5・6 後期：木曜1・2）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	駒 佳明	S1物理（実験）（前期：木曜7・8 後期：月曜5・6）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	廣瀬豊（常勤補助：勝山智男）	C1物理（実験）（前期：金曜1・2 後期：水曜3・4）	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒 佳明	M4応用物理実験（前期 月曜日5・6時限）	物理化学系	1	可	物理化学系

L	勝山智男・駒　佳明	E4応用物理実験(前期　火曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒　佳明	S4応用物理実験(前期　水曜日3・4時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒　佳明	C4応用物理実験(前期　木曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	M2物理実験(後期　火曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	E2物理実験(後期　火曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	D2物理実験(後期　月曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	S2物理実験(後期　月曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	塩谷　三徳	MM教室の管理補助(適時)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
L	塩谷　三徳	英語学習用e-Learningシステムの保守管理	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
K	小林　隆志	機械実習工場の管理・運営・保守	実習工場	5	可	実習工場
K	小林　隆志	ロボコン、高専祭等における学生の課外活動援助	実習工場	5	可	実習工場
J	中道義之	「情報処理基礎」の補助	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	基幹ネットワーク・サーバ管理	機械系・電気電子情報系	4	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	教育用電子計算機システム管理	機械系・電気電子情報系	4	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	専情委事務業務	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	学内情報化の推進に関する技術支援	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
J	中道義之	総合情報センター運営支援	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
E	西村 賢治	電気電子工学実験Ⅰ(前期，水曜日5，6　後期，火曜日5～8)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	江間 敏	電気電子工学実験Ⅱ(前期，火曜日5～8時限　後期，月曜日5～8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	眞鍋 保彦	電気電子工学実験Ⅲ(通年，木曜日5～8時限)	電気電子情報系	3	一部可	電気電子情報系
E	野毛 悟	電気電子工学実験Ⅳ(前期，月曜日3,4時限 と 金曜日5,6時限，後期，金曜日5～8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	佐藤 憲史	電気電子工学実験Ⅴ(前期，月曜日5～8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	望月孔二 または 各担当教員	電気電子工学科支援	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	望月孔二	鉛フリーハンダセット管理	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	手塚　重久	機械工学概論	実習工場 ・ 機械系	6	可	実習工場・機械系
D	大庭　勝久 ・ 新冨　雅仁	電子制御工学実験Ⅱ(後期金曜日1～4時限)	実習工場・機械系・電気電子情報系	8	可	実習工場・機械系
D	江上 親宏・大沼 巧	電子制御工学実験Ⅰ(D実Ⅰ前期)(前期　金曜日5・6時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	江上　親宏・大沼 巧	電子制御工学実験Ⅰ(D実Ⅰ後期)(後期　金曜日5－8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
D	大庭　勝久・出川　智啓	D2プログラミング入門(後期　火曜日3・4時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	江上　親宏	UNIX入門(前期 水曜日3・4時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	大庭　勝久・青木悠祐	電子制御工学実験Ⅱ(前期)(前期　水曜日5・6時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	鄭　萬溶	D4学生実験(光の速度測定)(後期　木曜日3～8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
D	大庭　勝久・出川　智啓	D3　C言語基礎演習(前期　月曜日1・2時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上　誠	電子機械基礎実習(後期　月曜7・8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上　誠	工学実験(トランジスタの静特性)(前期　月曜日5～8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上　誠	電子制御工学実験Ⅲ(D実Ⅲ後期)(後期　火曜日5～8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	長澤　正氏(就職担当)	就職関連の資料の整理とWebへの掲載(1年間(20分/件×500件))	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	舟田　敏雄(学科長)	電子制御工学科支援	特に問わない		可	電気電子情報系
D	大庭　勝久	工作室で使用する工具や工作機械の講習(前期開始時　4h／年)	実習工場		可	実習工場
D	江上　親宏	実験器具の準備、操作、試薬作製等の技術的支援 (前期中に1回程度)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	永禮　哲生	機械工学概論(前期金曜日1・2・3・4時限)	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
C	後藤　孝信	物質工学入門(通年水曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	藁科　知之	分析化学実験(4/7～6/17　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	大川　政志	無機化学実験(6/23～11/18　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	蓮実　文彦	微生物学実験(11/24～2/17　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	押川　達夫	有機化学実験(6/23～11/11　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	後藤　孝信	生物化学実験(4/7～6/17　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	稲津　晃司	物理化学実験(11/17～2/17　木、金　5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	山根　説子	材料化学実験　Ⅰ(7/4～11/15　月、火　5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	芳野　恭士	生物工学実験　Ⅰ(7/4～11/15　月、火　5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	渡辺　敦雄	材料化学実験　Ⅱ(11/21～2/28　月、火　5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	古川　一実	生物工学実験　Ⅱ(11/21～2/28　月、火　5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	竹口　昌之	化学工学実験(4/11～6/28　月、火　5・6・7時限)	物理化学系	2	可	物理化学系
C	押川　達夫	学科支援(通年)	物理化学系	2	可	物理化学系
A	蓮実　文彦	組換えDNA実験に関する安全委員会	物理化学系	1	可	物理化学系
A	相良 誠	専攻科実験　未定(4回分)	機械系	1	可	機械系
A	芳野恭士	動物実験委員会委員(年間に約2回の会議に出席)	物理化学系	1	可	物理化学系
A	蓮実　文彦	キャリア教育	物理化学系	1	可	物理化学系

（出典　技術室作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の事務組織は，総務課と学生課で構成され，教育支援及び学生支援は学生課において実施している。定員削減が実施されたが，教務係においては，定員削減は行わず４名の職員配置を継続すると

ともに，平成 20 年度からは入試係を新設し，教務係において実施していた入試関係業務を教務係の所掌から分離させ，教育支援業務を的確に実施できるよう充実を図っている。

技術職員については，平成 18 年度に技術職員を組織化し技術室を設置した。従前は，庶務課（現総務課）に所属していたが，業務上は各学科に属していたため，技術職員間の連携が希薄であり，当該職員が不在の場合等は教員の負担となっていた。組織化により，各職員の専門性を考慮しながら，各班において学科にとらわれない支援を行う等，全学的組織として教育活動に対する技術的支援が可能となった。

以上のように，本校の教育活動を展開するのに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者は適切に配置されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

県立高校で校長・教頭等の要職も務めた教育経験豊富な教員を，専任の寮監として配置することで，低学年全寮制のもとでの全人的な教育に適切に対応している。

校長ヒアリングに基づく校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとする効果的な研究費の配分，また共同研究への申請の奨励，教員交流制度や在外・内地研究員制度の活用などを通じて，教員の研究活動，教育活動の活性化に努めている。

全学的な組織として技術室を設置し，技術職員の職務の合理化及び効率化を図るとともに，全学的組織として技術的支援を行うことが可能となっている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準３の自己評価の概要

一般科目担当の専任教員及び専門科目担当の専任教員は，教員数や職位に関する高等専門学校設置基準を満たしつつ，かつ本校の学習・教育目標等に沿った教育課程を踏まえ，各自の専門分野に応じた授業科目を担当しており，適切に配置されている。専攻科担当教員の資格は，「プログラム担当教員の資格」に規定されているが，博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体となり，JABEE認定を受けた「総合システム工学プログラム」の学習・教育目標等に従って，教育活動を展開している。

教員採用は公募制によって行われ，教員選考委員会における選考を通じて，複数の候補者から教育指導能力と研究活動能力を総合的に評価し採用するよう努めるとともに，年齢・性別等における均衡ある教員組織の維持・発展が可能な体制を構築している。一方で，豊かな教育経験や企業での実務経験，そして技術士をはじめとする各種の技術資格を有する教員を採用・配置することで，多様な背景を持つ教員組織ともなっている。また，校長ヒアリングに基づく校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとして，効果的に研究費を配分しつつ，さらに共同研究への申請の奨励，教員交流制度や在外・内地研究員制度の活用などを通じて，教員の研究活動，教育活動の活性化に努めることで，より高度で実践的な教育の実現が図られている。

全教員の教育活動に対して，講義等，専攻科研究指導，学級運営・学生指導，クラブ活動・課外活動指導及び寮生の生活指導などの評価を全て数値化して総合的に評価する作業が進行中であり，学校

による定期的な評価体制の整備が推し進められている。これと同時に，各教員の教育実績・研究実績・学校運営及び社会貢献における評価項目を細分化したうえで数値化し，勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準の策定を進めており，より適切な運用を図っている。

本校における教育活動を展開するのに必要な教育支援者のうち，事務職員は，主に学生課教務係に配置され，様々な教育支援業務を，教員との協働により効率的に遂行できる体制が整えられている。同じく技術職員については，新たに技術室を立ち上げ，職員間の連携を強化することで，全学の教育活動に対して組織的な技術的支援が可能となっている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

教育目的（資料４－１－①―１）に沿ってアドミッション・ポリシーは明文化されており，学生募集要項（資料４－１－①―２）やウェブサイト（資料４－１－①―３），学校概要（資料４－１－①―４）に掲載され，社会に対して公表されている。

資料４－１－①―１

学生募集要項に記載された準学士課程の教育目的

教　育　目　的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

（出典　平成 23 年度学生募集要項）

資料４－１－①―２

学生募集要項に記載された準学士課程の学生受入方針

学生受入方針

1　科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
2　自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
3　科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
4　他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

（出典　平成 23 年度学生募集要項）

資料４－１－①―３

ウェブサイトに掲載された準学士課程の学生受入方針



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料４－１－①―４

学校概要に掲載された準学士課程の学生受入方針



養成すべき人材像
社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

各科教育目的

教養科
専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成すること。

機械工学科
機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

電気電子工学科
電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

電子制御工学科
電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

制御情報工学科
コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

物質工学科
化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

学生受入方針
1 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
2 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
3 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
4 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

（出典　平成 23 年度本校学校概要）

また，中学校訪問や進学説明会（資料４－１－①―５），一日体験入学の際の説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明している。

資料４－１－①―５

進学説明会資料に掲載された準学士課程の学生受入方針

学生受入れ方針（アドミッションポリシー）

・科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
・自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
・科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
・他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

（出典　平成 23 年度進学説明会資料抜粋）

高校からの編入学に関しても受入方針を明文化し，編入学案内（４－１－①―６）およびウェブサイトに掲載している。

資料４－１－①―６

編入学生募集要項に掲載された学生受入方針

入　学　案　内

工業高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」ことを目的とし、豊かな教養と専門の技術を身につけた実践的な技術者の育成を使命としており、中学校卒業程度を入学資格とする５年制の一貫教育を行う国立の高等教育機関（大学等）です。

本校では、理論的な基礎とともに、実験・実習を重視し、実践的エンジニアを養成しており、卒業生は希望にかなった会社へ就職でき、また、更に深く勉強したい人には、大学の３学年への編入学、高専専攻科への道が開かれています。

１．沼津工業高等専門学校編入学生受け入れ方針

本校は以下の条件を満たす有資格者の高専４学年又は３学年への編入学を受け入れます。

(1)　技術者になるという明確な意志があること。
(2)　将来は技術者として社会に貢献しようとする姿勢があること。
(3)　科学技術の諸問題に対する強い関心を持っていること。
(4)　数学、英語、および編入学希望先の学科が要求する理科系科目、の基本的な学力を有していること。
(5)　高等学校における工業教育、もしくは自然科学教育の教科目において、継続的な学習を行ってきた経験があること。
(6)　社会および本校のルールを遵守する倫理観を有すること。

（出典　平成 23 年度編入学生募集要項）

専攻科課程の受入方針は「専攻科入学者選考規程」（４－１－①―７）により明文化され，専攻科募集要項（４－１－①―８）及びウェブサイトを通じて公開されている。

また，教職員の周知度に関するアンケート調査を行って，教職員への周知度の程度を調査している（４－１－①―９）。

資料４－１－①―７

専攻科入学者選考規程（抜粋）

（選考方針）

第２条　専攻科は、当該専攻科の目的を達成し、及び教育目標を実現するため、当該専攻科へ入学を志願する者のうちから、次に掲げる意欲、学力、及び経験有するものを選考するものとする。

1. **広い視野と深い専門性を身につけた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者**
2. **数学、自然科学、及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力有する者**
3. **基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者**

（出典　本校規則集）

資料４－１－①―８

専攻科生選抜方針

7　入学者受入れ方針

本専攻科への入学者に、以下の意欲、学力、及び経験を具備していることを要請します。

(1)　広い視野と、深い専門性を身につけた技術者として、社会の発展、公衆の福祉に寄与したいという意欲

(2)　数学、自然科学、及び英語に関して、工学教育を受けるために必要な学力

(3)　基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、初歩的ではあっても、一定の期間にわたって実践した経験

（出典　平成 24 年度専攻科学生募集要項）

資料４－１－①―９

教職員のアドミッションポリシーの周知度に関するアンケート調査結果

（設問７）本校の「アドミッションポリシー」を知っていますか。

＜回答＞

１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている

４．よく内容を知っている

（設問８）本校専攻科の「入学者受入れ方針」を知っていますか。

＜回答＞

１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている

４．よく内容を知っている

（%）

		技術職員	事務職員	常勤教員	非常勤教員
準学士課程	よく知っている	8.3	17.4	50	9.1
	ある程度知っている	58.3	13	35.4	36.4
	見聞きしたことはある	33.3	60.9	6.3	21.2
	全く知らない	0	8.7	8.3	30.3
専攻科課程	よく知っている	8.3	8.7	41.7	6.1
	ある程度知っている	25	21.7	33.3	27.3
	見聞きしたことはある	25	39.1	22.9	36.4
	全く知らない	41.7	30.4	2.1	30.3

（出典　平成 23 年 2 月実施　「本校の目的の周知等」に関する調査アンケート結果抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

各段階のアドミッション・ポリシーは全て明文化され，冊子，ウェブサイト，口頭の対面プレゼンテーションなど多様な手段を通じて、社会に対してわかりやすい形で公表されている。一方、教職員に対しては、アドミッション・ポリシーの周知状況を把握するためにアンケート調査を実施しているが，アンケート結果から常勤教員の周知度が比較的高いものの、非常勤教員や事務職員，技術職員の周知度が十分ではないので、さらなる周知の徹底を図る必要がある。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学力選抜については，学力試験は全国の国立高専で統一の問題を使用することになっている。その中でこれまで，アドミッション・ポリシーを反映させる意図で，社会の代わりに数学の配点を２倍にする「傾斜配点」と面接を行ってきたが（資料４－２－①―１），入試改善作業の中で，学力試験の得点と本校入学１年後の学業成績との相関の分析結果（後出資料４－２－②―５）等から，より本校に適性のある入学者を確保する観点で，平成24年度入試より傾斜配点と面接の代わりに，学力検査に社会を含めて実施する予定である。

さらに，調査書記載事項（特別活動の実績等）を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している（資料は訪問調査において提示）。

準学士課程の推薦選抜については，上記学力選抜と同様，面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか，適性テスト（資料４－２－①―２）を実施してより確実な反映を図っている。

高校からの編入学についても，資料４－１－①―６の受入れ方針（１）～（３）については面接による口頭試問で，（４）については数学，英語の共通試験で，（５）については各学科が行う専門試験で，そして（６）については面接によって,それぞれ確認している（資料４－２－①－３）。

専攻科課程の選抜についても，資料４－１－①―８の選抜方針（１）を面接で，（２）を学力試験で，そして（３）を口頭試問でそれぞれ確認している（資料４－２－①―４）。

資料４－２－①―１

傾斜配点（平成 23 年度）

4．判　定　方　法

選抜は、学力検査（数学・理科・英語・国語）、出身（在学）中学校長から提出された入学志願者調査書及び面接結果の総合判定によります。

学力検査、調査書及び面接の配点は、次のとおりです。

学力検査		調査書（内申点）	面　接
計	500点	320点	10点
数学 理科 英語 国語	200点 100点 100点 100点	５　教　科（25点満点）×８ 他の４教科（20点満点）×６	面接員３名による総合評価

（出典　平成 23 年度学生募集要項）

資料４－２－①―２

適性テスト見本（抜粋）

沼津工業高等専門学校　推薦選抜適性テスト試行　高専祭版

1. 以下の文のうち，誤っているものはどれか．AからDの中から選べ．

A. 0は整数に含まない．
B. 0より大きい数は正の数である．
C. －5は負の数である．
D. 正の整数のことを自然数という．

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料４－２－①―３

高校からの編入学試験の実施方法

6．選　抜　方　法

その結果に基づき、４学年合格又は３学年合格とする。編入学生の選抜は、学力検査、調査書及び面接等の結果を総合して行う。

学力検査

共通科目

検査科目	出　題　範　囲	配　点
数　学	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ	100点
英　語	英語Ⅰ・英語Ⅱ(第３学年第１学期終了程度)	100点

専門科目

志願学科	検査科目及び出題範囲	配　点
機械工学科	物理Ⅰ（波・運動とエネルギー） 物理Ⅱ（力と運動・電気と磁気）	100点
電気電子工学科	電気基礎	100点
電子制御工学科	物理Ⅰ（波・運動とエネルギー） 物理Ⅱ（力と運動・電気と磁気） 電気基礎	100点
制御情報工学科	「物理Ⅰ」全範囲・「物理Ⅱ」(力と運動・電気と磁気)	100点
物質工学科	化学Ⅰ・化学Ⅱ（課題研究を除く）	100点

7．検　査　日　時

期　日	時　間			
8月9日(月)	9：20～10：50	11：10～12：10	13：00～14：30	15：30～
	数　学	英　語	専門科目	面　接

（出典　平成23年度編入学生募集要項）

資料４－２－①―４

専攻科入学試験の実施方法

２　学力試験科目及び出題範囲等（不明な点は、本校学生課入試係まで問い合わせすること）

(1) 英　語
(2) 数　学ＩＣ　　50問
(3) 選択科目
　　数学ＩＩＣ、物理学、化学から、１科目を選択
　　数学ＩＩＣは50問、物理学は70問、化学は85問
(4) 学力試験実施については、英語はＴＯＥＩＣで350点以上を目安とする。数学ＩＣ、数学ＩＩＣ、物理学、化学とも技術士１次試験共通科目、及びＳＡＴⅡ　Subject Testに準じるレベルで行う。
(5) 配　点　600点満点
　　（内訳）　英語　100点、数学ＩＣ　100点、選択科目　100点
　　面接・口頭試問　200点、成績証明書　100点

３　面接・口頭試問

(1) 自己申告書に基づいて面接・口頭試問を行うので受験者は自己申告書に以下の内容を記入する。
①専攻科を受験する動機（やりたいこと）
②基礎的な工学の実践経験（高専・短大で行った工学の実験実習等について）
③世界に発信できることは何か
④専攻科を修了してからの希望
(2) 口頭試問については、志望する専門分野に係る事項及び用語（英語を含む）について質問する。
(3) 他教育プログラム（本校以外）からの受験者は、出身学校における学習内容についても質問する。

（出典　平成24年度専攻科学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

各段階の選抜において，それぞれアドミッション・ポリシーに基づいた選抜手段が可能な限り講じられている。

以上のことから、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されている。

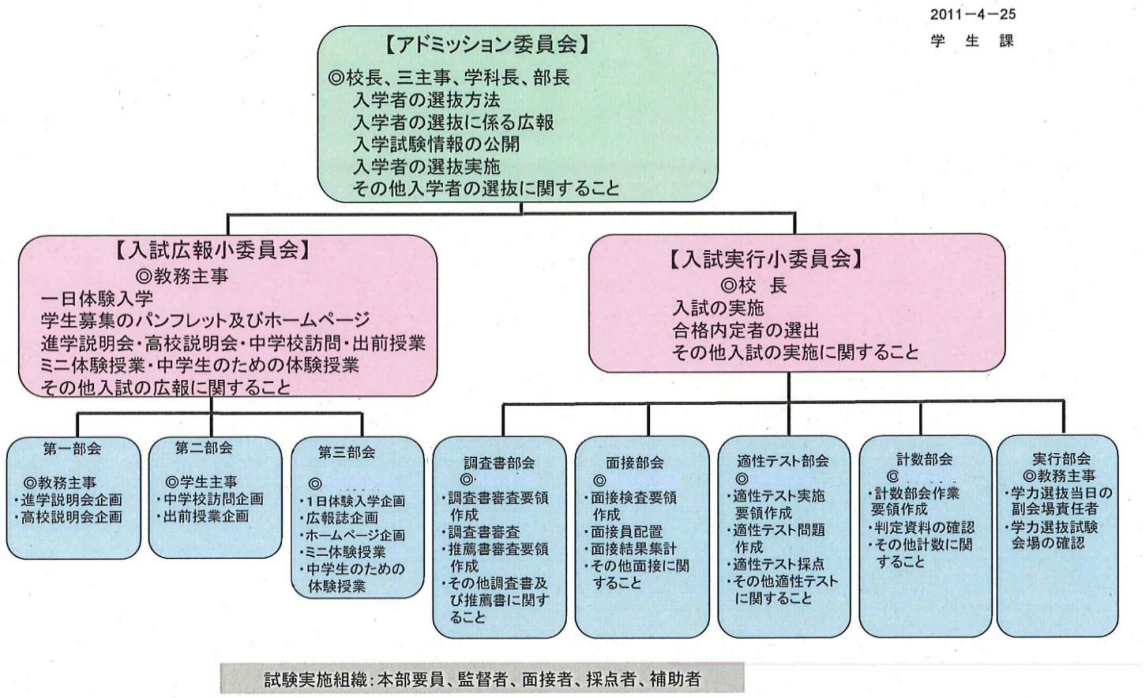
観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では入試関係組織としてアドミッション委員会の下に入試広報小委員会と入試実行小委員会が組織され，さらにその下に８つの部会が組織されている（資料４－２－②―１）。専攻科にも入試実行委員会が存在する。アドミッション委員会と専攻科入試実行委員会において，各年度の入試について準備から段階的に検討が重ねられており，前年度の検証・反省を活かして改善策を講じている（資料４－２－②―２，３）。さらに，入学試験の成績と，本校入学１年後の学業成績の相関を分析するなどして，学生の資質等を検証している（資料４－２－②―４，５）。

資料４－２－②―1

入試関係の組織



（出典　学生課作成資料）

資料４－２－②―2

入試改善への取組状況

題名　　**平成23年度入学者選抜検査における改善意見等について（照会）**
差出人　　**入試係** [redacted]

平成２３年　３　月２日

教　職　員　各　位

副校長（教務主事）

平成２３年度入学者選抜検査における改善意見等について（照会）

標記のことについて、今回の入試を踏まえて各位からの反省点等をお聞かせいただき、今後の入試改善に役立てたいと存じます。
つきましては、改善意見等がございましたら添付ファイルにご記入いただき、３月１０日（木）までに学生課入試係（nyuusi@numazu-ct.ac.jp）あてにお寄せいただきますようお願いいたします。

入試係 [redacted] [redacted]@numazu-ct.ac.jp
内線 [redacted]

―――――― このメールにはファイルが添付されています ――――――

（出典　本校学内メール）

資料４－２－②―３

入試改善への取組状況

平成２２年度 第１０回アドミッション委員会議事録

日　　時　　平成２３年３月２３日（水）　１６：００ ～１７：４０
場　　所　　校 長 室
出 席 者　　校長、副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）、校長補佐（寮務主事）
機械工学科長、電気電子工学科長、電子制御工学科長、制御情報工学科長、
物質工学科長、教養科長、調査書部会長、事務部長、学生課長

学生課長から、前回議事要録の確認があった。（記録のとおり確認）

議事要旨

１．平成２３年度入試結果概要について
副校長から、資料１に基づき結果概要（学科別成績及び地区別受験者数等）について報告があった。

２．入学志願者の確保対策について
校長から、資料２に基づき、入学志願者の確保対策案について説明があり、種々意見交換が行われ、次回アドミッション委員会で審議の上、決定することとした。

３．平成２３年度入試改善意見等について
副校長から、資料３に基づき改善意見等に対する対応案について説明があり、審議が必要となる事項については、今後、該当部署において検討を進めて行くこととした。

４．推薦選抜における推薦書評価点について
〇〇調査書部会長から、資料４に基づき、推薦選抜における推薦書評価点の取り扱いについて、報告があった。

（出典　平成 23 年度第 10 回アドミッション委員会議事要録抜粋）

資料４－２－②―４

入試成績と１年時成績の比較分析結果（平成 21、22 年度入学生について）その１

注記：平成 21 年度入学生は内申点１４０点満点であり、平成 22 年度入学生より内申点３２０点満点とした。

１．内申点と１年学年末成績との相関

以下、図１～図５の横軸は内申点（45 満点）、縦軸は学年末成績平均点（100 満点）である。

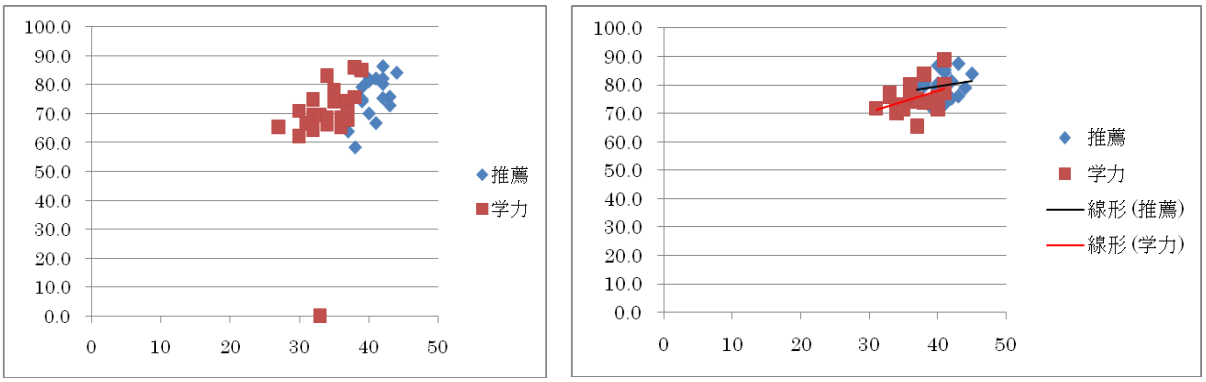


図１　M1　（左：平成 21 年度　　右：平成 22 年度入学生）

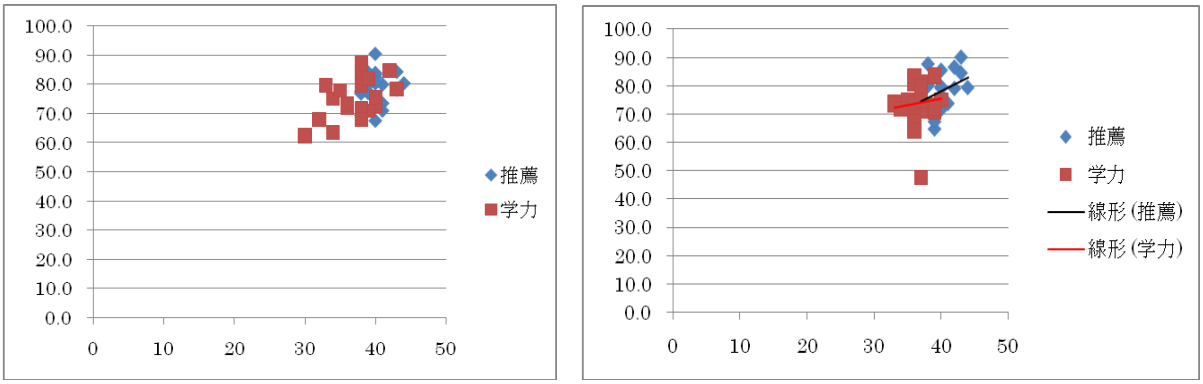


図２　E1　（左：平成 21 年度　　右：平成 22 年度入学生）

（図３，４，５はD1，S1，C1に関する同様のグラフであり省略）

<u>平成 21 年度と 22 年度の比較より読み取れる傾向</u>

１）いずれの場合も内申点と学年末成績との間には正の相関があり、内申点の高い学生は入学後においても高成績を維持している傾向にある。

２）平成 21 年度に比べ、平成 22 年度のほうが、内申点の低い（30 点近傍の）学生数が減っている。

（出典　平成 23 年度第１回アドミッション委員会資料抜粋）

資料４－２－②―５

入試成績と１年時成績の比較分析結果（平成 21、22 年度入学生について）その２

２．適性試験得点と１年学年末成績との相関

図６の横軸は適性試験得点（40 満点）、縦軸は学年末成績平均点（100 満点）

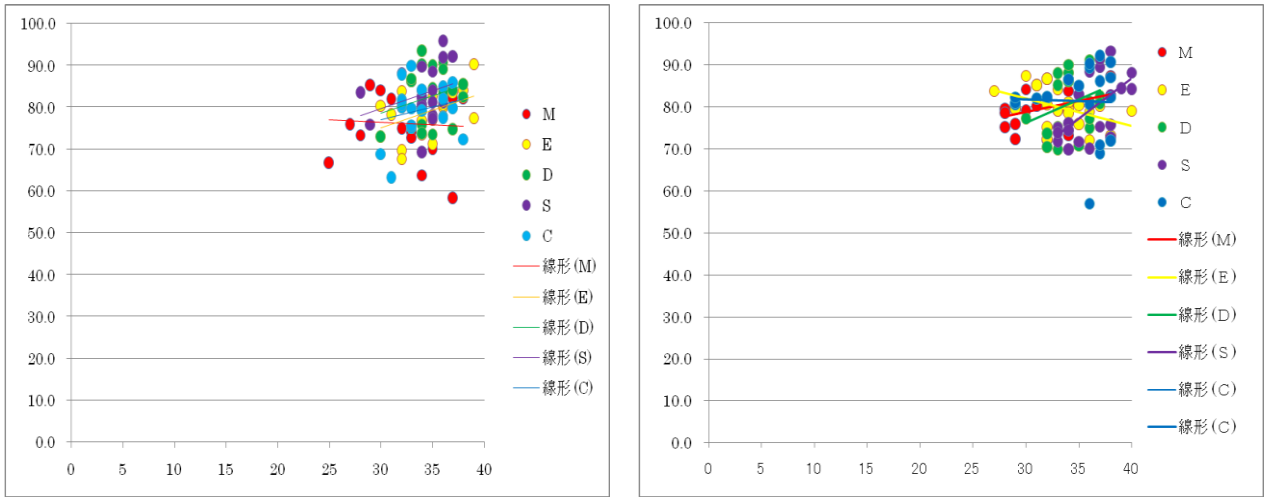


図６　適性試験得点 VS 学年末成績平均点（左：平成 21 年度　右：平成 22 年度）

平成 21 年度、22 年度ともに、適性試験と学年末成績との間には正の相関があり、適性試験得点の高い学生は入学後においても高成績を維持している傾向にある。

３．学力試験得点と１年学年末成績との相関

図７の横軸は学力試験得点（500 満点）、縦軸は学年末成績平均点（100 満点）

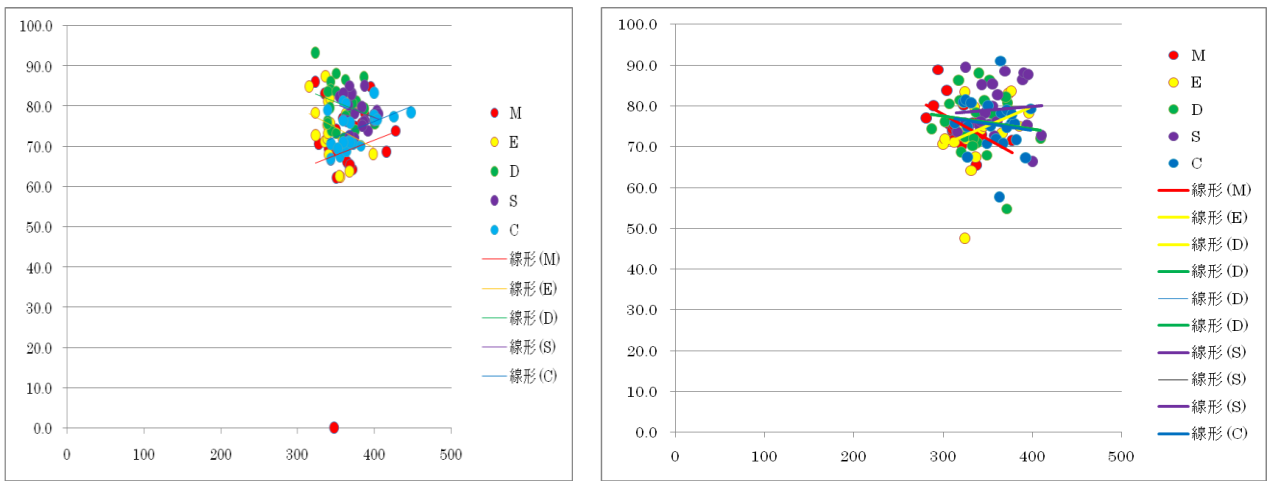


図７　学力試験得点 VS 学年末成績平均点（左：平成 21 年度　　右：平成 22 年度）

入試学力試験得点と学年末成績の間には正の相関は見られない。

以上

（出典　平成 23 年度第１回アドミッション委員会資料抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

毎年のアドミッション委員会において必ず前年度の反省が行われ，その上に立った改善策が議論されており，入学志願者も定員の平均1.5～1.9倍を維持している。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているといえる。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

最近の実入学者数は，準学士課程においては入学定員を大幅に超える，又は下回る状況にはなっていない。専攻科課程において実入学者数が募集人員を超えている専攻があるが，専攻科全体では平均1.4～1.7倍程度であり，絶対数が少ないため教育活動上に特段の支障を生じていない（資料４－３－①―１）。準学士課程では，入学定員と実入学者数との間に大きな隔たりを生じないように，１日体験入学や高専祭での体験授業，各地での進学説明会を実施している（資料４－３－①―２）。また，入試広報用冊子「NCT Today 2010」を１万２千部，入試広報用リーフレット「NCT Today INTRODUCTION」を６万８千部作成し，県内外の中学校に送付し，リーフレットについては３年生全員への配布を依頼している。

資料４－３－①―１

準学士課程および専攻科課程における過去５年間の学生入学状況

学科	平成19年度				平成20年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(20)	60(24)	42(20)	1.4(1.2)	40(20)	81(19)	42(20)	1.9(1.0)
電気電子工学科	40(20)	59(19)	43(19)	1.4(1.0)	40(20)	69(19)	42(20)	1.6(1.0)
電子制御工学科	40(20)	65(26)	43(20)	1.5(1.3)	40(20)	76(30)	43(20)	1.8(1.5)
制御情報工学科	40(20)	55(30)	42(20)	1.3(1.5)	40(20)	77(30)	42(20)	1.8(1.5)
物質工学科	40(20)	75(36)	43(20)	1.7(1.8)	40(20)	78(43)	41(20)	1.9(2.2)
計	200(99)	314(135)	213(99)	1.5(1.4)	200(100)	381(141)	210(100)	1.8(1.4)

学科	平成21年度				平成22年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(20)	68(13)	42(19)	1.6(0.7)	40(20)	63(20)	40(20)	1.6(1.0)
電気電子工学科	40(20)	69(15)	41(20)	1.7(0.8)	40(20)	74(20)	42(20)	1.8(1.0)
電子制御工学科	40(20)	69(27)	42(20)	1.6(1.4)	40(20)	71(22)	42(20)	1.7(1.1)
制御情報工学科	40(20)	82(29)	41(20)	2.0(1.5)	40(20)	69(31)	42(20)	1.6(1.6)
物質工学科	40(20)	81(41)	41(20)	2.0(2.1)	40(20)	71(34)	42(20)	1.7(1.7)
計	200(100)	369(125)	207(99)	1.8(1.3)	200(100)	348(127)	208(100)	1.7(1.3)

（　）は推薦選抜による内数

学 科	平成 23 年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率
機 械 工 学 科	40(20)	56(19)	41(20)	1.4(1.0)
電気電子工学科	40(20)	54(20)	41(20)	1.4(1.0)
電子制御工学科	40(20)	53(20)	42(20)	1.3(1.0)
制御情報工学科	40(20)	60(25)	42(20)	1.5(1.3)
物 質 工 学 科	40(20)	75(42)	42(20)	1.9(2.1)
計	200(100)	298(126)	208(100)	1.5(1.3)

（　）は推薦選抜による内数

専 攻 科	平成 19 年度			平成 20 年度		
	募集人員	志願者	入学者	募集人員	志願者	入学者
機械・電気システム工学専攻	8	29	13	8	25	11
制御・情報システム工学専攻	8	29	12	8	35	14
応用物質工学専攻	4	16	7	4	15	8
計	20	74	32	20	75	33

専攻科	平成 21 年度			平成 22 年度		
	募集人員	志願者	入学者	募集人員	志願者	入学者
機械・電気システム工学専攻	8	24	11	8	31	12
制御・情報システム工学専攻	8	27	11	8	34	16
応用物質工学専攻	4	21	8	4	9	5
計	20	72	30	20	74	33

専攻科	平成 23 年度		
	募集人員	志願者	入学者
機械・電気システム工学専攻	8	31	12
制御・情報システム工学専攻	8	27	12
応用物質工学専攻	4	4	3
計	20	62	27

（出典　平成 20～23 年度本校学校概要）

資料４－３－①－２

広報活動

7/31 Sat. 技術者・科学者を目指して！

OPEN CAMPUS 2010　沼津高専を見に来てください。

沼津高専 1日体験入学

- 三島駅北口・浜松駅より無料送迎バス運行。
- 寮の食事も体験できます。
- 個人での参加、保護者同伴での参加も大歓迎。
- 事前申込み不要。当日直接会場にお越しください。

進学説明会日程及び開催地　●対象者／保護者・生徒・中学校教諭　●静岡・浜松会場には、駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

①	７月25日(日)	富士吉田市	富士吉田市市民ふれあいセンター 2階 大会議室 富士吉田市上吉田965−4 TEL.0555−22−1785
②	７月31日(土) 1日体験入学	沼津市	沼津工業高等専門学校 第一視聴覚教室 沼津市大岡3600 TEL.055−926−5962
③	９月４日(土)	小田原市	小田原市民会館 5階 第3会議室 小田原市本町1−5−12 TEL.0465−22−7146
④	９月11日(土)	島田市	島田市民総合施設(プラザおおるり3階) 中会議室 島田市中央町5-1 TEL.0547-36-7222
⑤	９月12日(日)	浜松市	静岡大学浜松キャンパス 情報学部 2号館1階 情13教室 浜松市中区城北3−5−1 TEL.053−478−1510
⑥	９月18日(土)	静岡市	B-nest 静岡市産学交流センター(ペガサート6階) プレゼンルーム 静岡市葵区御幸町3−21 TEL.054−275−1655
⑦	10月21日(木)	沼津市	沼津工業高等専門学校 第一視聴覚教室 沼津市大岡3600 TEL.055−926−5962
⑧	11月６日(土) 高専祭	沼津市	沼津工業高等専門学校 第一視聴覚教室 沼津市大岡3600 TEL.055−926−5962
⑨	11月７日(日) 高専祭	沼津市	沼津工業高等専門学校 第一視聴覚教室 沼津市大岡3600 TEL.055−926−5962

進学説明会
中学校の生徒さんをはじめ保護者及び教員の皆様に、本校の特色や入学者選抜について、ご説明します。

進学相談コーナー
沼津高専への進学に関するご相談にお答えします。

各学科・専攻科紹介
各学科(機械工学、電気電子工学、電子制御工学、制御情報工学、物質工学)、教養科及び専攻科の内容等について、展示や実演等でご紹介します。

学内施設紹介
授業で使用する各施設(総合情報センター、語学演習室、実験室、実習工場)、図書館及び学生寮等を公開します。

学生会企画及びクラブ紹介
学生会による学校紹介、クラブ活動等を紹介します。



詳細はホームページをご覧ください。
www.numazu-ct.ac.jp

※資料請求・お問合せ先は　〒410-8501 沼津市大岡3600 沼津工業高等専門学校学生課入試係　TEL.055-926-5962　E-mail:nyuusi@numazu-ct.ac.jp

11/6 Sat. 7 Sun. 高専祭 Campus festival

沼津高専に遊びに来てください。

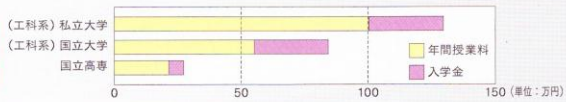
●沼津駅北口、三島駅北口、下土狩駅より無料送迎バス運行。ぜひお誘い合わせの上ご利用ください。

進学説明会　ミニ体験授業　学科プロジェクト　ステージ企画　学年プロジェクト

学生が主体となった企画盛りだくさん♪

学費・奨学金

●国立大学と比べて安い学費
沼津高専と工科系大学との年間の学費を比較すると、沼津高専は国立大学の４割程度、私立大学の２割程度の安い学費で勉強できます。また、学生寮での生活費は寄宿料が月額700円、寮費が食事代・光熱水料を含めて月額34,550円(平成21年度実績)となっています。



	年間授業料（万円）	入学金（万円）
(工科系) 私立大学	100.00程度	30.00程度
(工科系) 国立大学	53.58程度	28.20程度
国立高専	23.46※	8.46

※１～３年は11.58万円

●就学支援金制度
国立高専の場合、入学時より36カ月間（１年～３年）については年額118,800円の助成があります。また、保護者の所得によって、さらに加算される場合があります。

●授業料免除制度
就学支援金の対象とならない学生(原則として４年生以上)については、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には、授業料の支払免除や減額又は徴収を一定期間猶予する制度があります。毎年、前期・後期延べ50名程度が免除されています。

●奨学金制度
学業・人物ともに優秀、かつ、健康であり、経済的理由により著しく修学が困難である学生に対して、選考の上、独立行政法人日本学生支援機構より奨学金が貸与されます。年間70名程度がこの制度を利用しています。その他、地方公共団体・民間団体及び本校同窓会の育英資金等があります。

学生募集

●募集人員
- ●機械工学科／40名　●電気電子工学科／40名
- ●電子制御工学科／40名　●制御情報工学科／40名
- ●物質工学科／40名　合計200名

（各学科の募集人員の50%を推薦により選抜します。）

●試験日程

選抜方法	出願期間	試験日	試験地	合格発表
推薦選抜	平成23年１月11日～13日	１月23日(日)	沼津	１月27日(木)内定 ２月25日(金)
学力選抜	平成23年1月31日～2月4日	２月20日(日)	沼津・浜松	２月25日(金)

（出典　広報紙　NCT Today 2010）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では，入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されている。専攻科課程において専攻科の実入学者数が定員を超えている専攻があるが，これは同専攻を志願する者に比べて定員が僅少（８名）であるためであり，教育活動上特段の支障を生じていない。

活発に広報活動を行うことにより，入学定員と実入学者数との間の適正な関係が維持されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

入学者選抜の全ての段階（準学士課程１年生，準学士課程３年生または４年生編入学，専攻科課程）においてアドミッション・ポリシーを明文化し，冊子，ウェブサイト，口頭のプレゼンテーションなど様々な手段を通じて、将来の構成員を含めた社会に対して周知を図る取組がなされている。

（改善を要する点）

事務職員や技術職員，非常勤教員に対するアドミッション・ポリシーの周知徹底が必ずしも十分ではないので、改善の余地がある。

（３）基準４の自己評価の概要

入学選抜の全ての段階（準学士課程１年生，準学士課程３年生または４年生編入学，専攻科課程）においてアドミッション・ポリシーは明文化されており，学生募集要項やウェブサイトに掲載され，社会に対して広く公表されている。また，中学校訪問や進学説明会等においても準学士課程のアドミッション・ポリシーを説明し，周知が図られている。アンケート結果から常勤教員の周知度が比較的高いものの、非常勤教員や事務職員，技術職員の周知度が十分ではないので、さらなる周知の徹底を図る必要がある。

準学士課程の学力選抜については，これまで，数学の配点を２倍にする「傾斜配点」や面接を行ってきたが，より本校に適性のある入学者を確保するという観点から，平成24年度より傾斜配点と面接の代わりに，学力検査に社会を含めて実施する予定である。さらに，調査書記載事項（特別活動の実績等）を点数化する際にもアドミッション・ポリシーを反映している。準学士課程の推薦選抜については，面接での口頭試問の内容及び調査書記載事項の点数化にアドミッション・ポリシーを反映しているほか，適性試験を実施してより確実な反映を図っている。高校からの編入生については，受入れ方針の各項目を試験問題等へ反映させている。専攻科選抜については，選抜の基本方針を面接・筆記試験・口頭試問の各方法に反映している。

入試方法の改善については，アドミッション委員会および専攻科入試実行委員会において，各年度の入学試験について準備から段階的に検討が重ねられており，前年度の検証・反省を活かして改善策を講じている。

準学士課程においては，入学定員と実入学者数との関係は適正に管理されている。専攻科課程において実入学者数が定員を超えている専攻があるが，これは同専攻を志願する者に比べて定員が僅少（８名）であるためであり，専攻科全体では平均1.4～1.7倍程度である。教育活動上特段の支障を生じていない。広報活動として１日体験入学や高専祭での体験授業，各地での進学説明会を実施し，入学定員と実入学者数との間に大きな乖離が生じないように努めている。また，入試広報用冊子「NCT Today 2010」を１万２千部，入試広報用リーフレット「NCT Today INTRODUCTION」を６万８千部作成して県内外の中学校に送付し，中学生への周知を図っている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

平成 23 年度第１学年在学の学生に適用の教育課程表を（資料５－１－①－１～６）に示す。それを基に整理した（資料５－１－①－７）で示すように，低学年で一般科目が多く高学年で専門科目の割合が増える楔形に科目の配置がなされている。低学年では一般科目を通じて，幅広い教養と人間性の育成，そして専門科目の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ，学年の進行とともに工学技術の専門的知識とそれを創造的に活用する能力を育成するよう編成している。教育課程表を見てわかるように，実験，実習，演習科目は必修科目とし，学年の進行に伴い継続的に受講するよう多くが組まれている。工学の基礎となる主要な科目は必修科目としている。

本校の教育目標（資料５－１－①－８）及び各学科の教育目的と概要（資料５－１－①－９～14）を踏まえて，各学科の授業科目は系統的に配備され（資料５－１－①－15～20），５つの教育目標をバランスよく習得できるよう考慮している。卒業研究は５つの教育目標を達成する総合的科目として全学科で位置づけている。各科目の教育目標は科目系統図（資料５－１－①－15～20）に基づいて設定され，その教育目標が達成できるように授業内容が組まれシラバス（後出資料５－２－②－２～５）に記載し実施している。

平成23年度行事予定表（資料５－１－①－21）中の白色の欄は通常授業実施日，赤色の欄は曜日振替日，青色の欄が定期試験日，黄色の欄が休業日，灰色の欄が補講及び補習等である。

資料５－１－①－１

一般科目一覧

別表第１

教育課程

一　般　科　目（各学科共通）　（平成23年度第１学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当					備考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修	国語		4		2	2			外国人留学生は注４参照
	国語基礎		2	2					
	古典		1	1					
	文学特論		2				②		外国人留学生は注４参照
	哲学		2					②	
	歴史		4		2	2			外国人留学生は注４参照
	地理		2	2					
	社会と文化		2			2			外国人留学生は注４参照
	数学ＡⅠ		6	2	2	2			
	数学ＡⅡ		6	2	2	2			
	数学Ｂ		6	2	2	2			
	物理		4 5	2 2	2 2	 1			上段は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科が履修する 下段は物質工学科が履修する
	物理実験	●	1		1				機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科が履修する
	化学Ⅰ		2	2					
	化学Ⅱ		2	2					物質工学科が履修する
	化学Ⅲ		1		1				物質工学科が履修する
	生物		1	1					
	保健体育	●	6	2	2	2			
	総合英語Ａ		8	2	2	2	②		
	総合英語Ｂ		4	1	1	2			
	英語Ｗ		4	2	2				
	英語Ｃ		1	1					
	ドイツ語Ⅰ		2				②		
	ミニ研究		1		1				
選択	化学Ⅱ		2		2				機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科が必ず履修しなければならない
	美術		1	1					必ず履修しなければならない
	音楽		1	1					
	法学		2					＊2	法学、経済学のうち少なくともいずれか一方を履修しなければならない
	経済学		2					＊2	
	選択外国語		2					2	
	ドイツ語演習Ⅰ		1				1		

(18)

資料５－１－①－１続き

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択	ドイツ語演習Ⅱ	1				1		
選択	日本語	5			2	2	1	外国人留学生が履修することができる(注４参照)
選択	日本事情	4			2	2		
必修科目合計		71 74	24 26	21 21	18 19	6 6	2 2	上段は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、 下段は物質工学科
選択科目合計		10 8	2 2	2 0	0 0	2 2	4 4	
開講単位数合計		81 82	26 28	23 21	18 19	8 8	6 6	外国人留学生対象の科目は合計に含まない
選択科目開講単位数		21	2	2	4	6	7	

(注１) 上記に定める授業科目のほか、特別活動を90単位時間以上実施する。
(注２) ●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
(注３) 「丸付き数字」の科目は主要科目である。
(注４) 外国人留学生は日本語、日本事情を履修することができる。その際、必修科目である国語、文学特論、歴史、社会と文化の振り替え科目とすることができる。
(注５) 単位数の前に＊印が付いた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－２

機械工学科の授業科目一覧

別表第２

専門科目　**機械工学科**　（平成23年度現在第１～５学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当					備考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修	応用数学Ａ		2				＊②		
	応用数学Ｂ		2				＊②		
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ		2				＊②		
	機械工学入門		1	1					
	図学		1	1					
	情報処理基礎		2	2					
	金属材料学Ⅰ		2		2				
	工業力学		2			2			
	材料力学Ⅰ		2			2			
	材料力学Ⅱ		2				＊②		
	熱力学		2				＊②		
	水力学		2				＊②		
	力学演習		2				2		
	機械工作法Ⅰ		2				＊②		
	機械設計法Ⅰ		2				②		
	自動制御		2				②		
	機械工作実習Ⅰ	●	3	3					
	機械工作実習Ⅱ	●	3		3				
	機械工作実習Ⅲ	●	3			3			
	機械設計製図Ⅰ	●	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	●	2		2				
	機械設計製図Ⅲ	●	2			2			
	機械設計製図Ⅳ	●	3				③		
	機械設計製図Ⅴ	●	3					③	
	機械工学実験Ⅰ	●	3				＊③		
	機械工学実験Ⅱ	●	3					＊③	
	創造デザイン演習		1				1		
	技術表現演習		1					1	
	卒業研究	●	8					⑧	
選択	プログラム演習		2		2				必ず履修しなければならない
	電気工学		2		2				
	金属材料学Ⅱ		1			1			
	機構学		2			2			
	電子計算機		1			1			
	電子工学		1			1			
	数値解析		1				1		
	伝熱工学		1					＊1	
	振動工学		1					＊1	
	情報工学		1					＊1	
	弾性力学		1					＊1	

資料５－１－①－２　続き

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
	塑性力学	1					*1	
	油空圧工学	1					1	
	機械工作法Ⅱ	1					1	
	機械設計法Ⅱ	1					1	
	計測工学	1					1	
	トライボロジー	1					1	
	メカトロニクス	1					1	
	現代物理学	1					1	
	工業外国語Ⅰ	1					1	
	工業外国語Ⅱ	1					1	
	機械工学演習Ⅰ	2				2		留学生と編入生のみ
	機械工学演習Ⅱ	2					2	留学生のみ
	学外実習Ⅰ	2				2		２単位以内で自由に選択して履修できる
	学外実習Ⅱ	1				1		
	学外実習Ⅲ	1					1	
専門	必修科目合計	69	9	7	11	27	15	学外実習、留学生・編入生対象科目を除く
専門	選択科目合計	24	0	4	5	1	14	
専門	開講単位数合計	93	9	11	16	28	29	
一般科目合計		81	26	23	18	8	6	
合計		174	35	34	34	36	35	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
（注３）単位数の前に＊印がついた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－３

電気電子工学科の授業科目一覧

専門科目　**電気電子工学科**　（平成23年度第１～４学年に在学する学生に適用）

	授業科目			単位	学年別配当					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
必修	応用数学A			2				＊②		第二種電気主任技術者の認定に必要な基準単位 分類Ⅰ:14単位以上 分類Ⅱ:８単位以上 分類Ⅲ:９単位以上 分類Ⅳ:８単位以上 分類Ⅴ:２単位以上 ただし、分類ⅣおよびⅤで基準単位を超えた単位数の２分の１の単位を科目区分Ⅰ、ⅡおよびⅢにそれぞれ１単位を限度として振り替えることができる。
	応用数学B			2				＊②		
	応用物理Ⅰ			2			2			
	応用物理Ⅱ			2				＊②		
	電磁気学Ⅰ		Ⅰ	2		2				
	電磁気学Ⅱ		Ⅰ	2			2			
	電磁気学Ⅲ		Ⅰ	2				＊②		
	直流回路		Ⅰ	2	2					
	回路理論Ⅰ		Ⅰ	2		2				
	回路理論Ⅱ		Ⅰ	2			2			
	回路理論Ⅲ		Ⅰ	2				＊②		
	図学・製図		Ⅴ	2	2					
	情報処理基礎		Ⅲ	2	2					
	ロジック回路			2		2				
	プログラミング		Ⅲ	2		2				
	通信工学			2				＊2		
	情報理論			2					＊②	
	電子回路Ⅰ		Ⅰ	2			2			
	電子回路Ⅱ		Ⅰ	2				＊②		
	電気電子計測		Ⅰ	2			2			
	機械工学概論			2			2			
	電気電子機器		Ⅲ	2				＊②		
	電力工学		Ⅱ	2					＊②	
	工業英語Ⅰ			1				＊①		
	電気電子工学実験Ⅰ	●	Ⅳ	3	3					導入教育
	電気電子工学実験Ⅱ	●	Ⅳ	4		4				前期は創造実験
	電気電子工学実験Ⅲ	●	Ⅳ	4			4			
	電気電子工学実験Ⅳ	●	Ⅳ	4				④		前期はＰＢＬ
	電気電子工学実験Ⅴ	●	Ⅳ	2					②	
	卒業研究	●		10					⑩	
選択	回路網理論		Ⅰ	2					＊2	８単位以上を必ず修得しなければならない
	電気電子材料		Ⅱ	2				2		
	エネルギー変換工学		Ⅱ	2				2		
	固体電子工学			2					＊2	
	マイクロ波工学			2					2	
	制御工学		Ⅲ	2					＊2	
	工業英語Ⅱ			1					1	
	コンピュータ工学		Ⅲ	1				1		
	電子回路設計		Ⅴ	1					1	
	パワーエレクトロニクス		Ⅲ	1					1	
	自動制御		Ⅲ	1				1		
	電気法規		Ⅱ	1					1	

資料５－１－①－３　続き

授業科目				単位	学年別配当					備考
					1年	2年	3年	4年	5年	
選択	新エネルギー工学		Ⅱ	1				1		集中講義
	CAD･回路シミュレーション演習		Ⅲ	1			1			
	デジタル信号処理			1					1	
	ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽｾﾐﾅｰ			1				1		産業特別を実施の際は開講しない
	学外実習A			2				2		2単位以内という条件の下で、自由に選択して履修できる
	学外実習B			1				1		
	学外実習C			1					1	
専門	必修科目合計			74	9	12	16	21	16	
	選択科目合計			22	0	0	1	8 (7)	13 (14)	学外実習、留学生･編入生科目を除く
	履修科目合計			96	9	12	17	29 (28)	29 (30)	(　)は新エネルギー工学を５年生で履修する場合
一般科目単位合計				81	26	23	18	8	6	
合計				177	35	35	35	37 (36)	35 (36)	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
（注３）単位数の前に＊がついた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－４

電子制御工学科の授業科目一覧

専門科目　**電子制御工学科**　（平成23年度現在１学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当					備考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修	応用数学		2				＊②		
	工学数理Ⅰ		2			2			
	工学数理Ⅱ		2				＊②		
	工学数理演習		1				＊①		
	電気回路		2	2					
	回路理論		2			2			
	電子回路		2			2			
	線形回路解析		2				＊②		
	電磁気学Ⅰ		2				＊②		
	電磁気学Ⅱ		2				＊②		
	図学		1	1					
	電気・機械製図		2		2				
	電子機械基礎実習	●	2			2			
	電子機械設計･製作Ⅰ	●	2				＊②		
	電子機械設計･製作Ⅱ	●	3				＊③		
	計算機基礎		2		2				
	計算機工学Ⅰ		2			2			
	計算機工学Ⅱ		2					＊②	
	情報処理基礎		2	2					
	ＵＮＩＸ入門		1		1				
	プログラミング入門		1		1				
	Ｃ言語基礎演習		1			1			
	プログラミング言語ＪａｖａⅠ		1				＊1		
	制御工学		2				＊②		
	システム制御工学Ⅰ		1				＊1		
	計測工学		2					＊②	
	品質工学		2					2	
	工学技術セミナー		2		2				
	工業力学		2			2			
	電子制御工学実験	●	16	3	3	4	＊④	＊②	
	工業英語		2				＊①	＊①	
	卒業研究	●	8					＊⑧	
選択	電子機械設計演習		1				＊1		自由に選択し履修することができる（集中講義）
	ロボット工学演習		1			1			
	Ｃ言語応用演習		1				＊1		自由に選択し履修することができる
	計算機シミュレーション		2					＊2	

資料５－１－①－４　続き

授業科目		単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選択	システム制御工学Ⅱ	1					＊1	この中から最低６単位を修得すること
	人工知能	2					＊2	
	プログラミング言語ＪａｖａⅡ	1					＊1	
	通信工学	2					＊②	
	電子材料	2					＊②	
	工業熱力学	2					＊2	
	電子制御工学基礎演習	2			2			留学生が履修できる（集中講義）
	電子制御工学演習Ａ	2				2		編入生が履修できる（集中講義）
	電子制御工学演習Ｂ	2				2		留学生が履修できる（集中講義）
	物理学演習	2				2		編入生が履修できる（集中講義）
	電子制御工学応用演習	2					2	留学生が履修できる（集中講義）
	学外実習Ⅰ	1			1			
	学外実習Ⅱ	1			1			
	学外実習Ⅲ	1				1		
	学外実習Ⅳ	1				1		
	学外実習Ⅴ	1					1	
	学外実習Ⅵ	1					1	
専門	必修科目合計	78	8	11	17	25	17	学外実習、編入生・留学生対象科目を除く
	選択科目合計	15	0	0	1	2	12	
	開講単位数合計	93	8	11	18	27	29	
一般科目合計		81	26	23	18	8	6	
合計		174	34	34	36	35	35	
選択科目（専門）開講単位数		33			5	10	18	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
（注３）単位数の前に＊がついた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－５

制御情報工学科の授業科目一覧

専門科目　**制御情報工学科**　（平成23年度現在第１・２・３学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当					備考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修	工業力学		2			2			
	工学数理		2				＊②		
	応用物理		2				＊②		
	応用数学		2				＊②		
	工業英語Ⅰ		1				＊①		
	工業英語Ⅱ		1					＊①	
	情報処理基礎		2	2					
	コンピュータ入門		1	1					
	制御情報工学セミナー		1	1					
	電子計算機		2		2				
	データ構造とアルゴリズム		2			2			
	オペレーティングシステム		2				＊2		
	情報処理		2			2			
	離散数学		2			2			
	図形処理		2				＊②		
	数値解析		2				＊②		
	電気回路		2		2				
	電子回路		2			2			
	電磁気学		2				＊2		
	計測工学		2				＊②		
	自動制御		2				＊②		
	メカトロニクス		1			1			
	設計工学		2				＊②		
	流体力学		2				＊2		
	機械・電気製図		2		2				
	創造設計	●	3				③		
	プログラミング演習Ⅰ	●	2	2					
	プログラミング演習Ⅱ	●	2		2				
	プログラミング演習Ⅲ	●	2			2			
	メカトロニクス演習Ⅰ	●	2	2					
	メカトロニクス演習Ⅱ	●	2		2				
	メカトロニクス演習Ⅲ	●	2			2			
	工学実験Ⅰ	●	2				②		
	工学実験Ⅱ	●	3					③	
	工作実習	●	2			2			
	卒業研究	●	8					⑧	

資料５－１－①－５　続き

	授業科目	単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択	制御工学	2					＊2	８単位以上を選択して修得しなければならない
	ロボット工学	2					＊2	
	振動工学	2					＊2	
	システム工学	2					＊2	
	人工知能	2					＊2	
	ソフトウェア工学	2					＊2	
	計算機シミュレーション	2					＊2	
	加工学	1					1	自由に選択できる
	材料工学	1					1	
	データ通信	1					1	
	データベースシステム	1					1	
	現代物理学	1					1	
	工業熱力学(D科開講科目)	2					＊2	
	制御情報工学基礎演習Ⅰ	2			2			編入学生、留学生が履修できる（集中講義）
	制御情報工学基礎演習Ⅱ	2				2		編入学生、留学生が履修できる（集中講義）
	学外実習Ａ	2				2		２単位以内で自由に選択して履修できる
	学外実習Ｂ	1				1		
	学外実習Ｃ	1					1	
専門	必修科目合計	75	8	10	17	28	12	学外実習、留学生・編入生対象の科目を除く
	選択科目合計	21			0	0	21	
	開講単位数合計	96	8	10	17	28	33	
一般科目合計		81	26	23	18	8	6	
合計		177	34	33	35	36	39	
選択科目(専門)開講単位数		29			2	27		

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
（注３）単位数の前に＊印がついた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－６

物質工学科の授業科目一覧

専門科目　**物質工学科**　（平成23年度現在第１・２学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位	学年別配当					備考
				１年	２年	３年	４年	５年	
必修	分析化学		2		2				
	無機化学Ⅰ		2			2			
	無機化学Ⅱ		1				＊①		
	有機化学Ⅰ		2			2			
	有機化学Ⅱ		2				＊②		
	物理化学Ⅰ		2			2			
	物理化学Ⅱ		2				＊②		
	基礎生物化学		1	1					
	微生物学		1		1				
	生物化学Ⅰ		2			2			
	生物化学Ⅱ		1				＊①		
	基礎化学工学		1			1			
	化学工学Ⅰ		1				＊①		
	化学工学Ⅱ		1				＊①		
	化学工学Ⅲ		1					＊①	
	反応工学		1					＊①	
	環境工学		1					＊①	
	機器分析Ⅰ		1				1		
	安全工学		1					＊①	
	品質管理		1					1	
	物質工学特別講義		1					1	
	応用数学Ⅰ		1				＊①		
	応用物理Ⅰ		1			1			
	応用物理Ⅱ		2				＊②		
	電気電子工学基礎		1				1		
	機械工学概論		1					1	
	情報処理基礎		2	2					
	科学英語Ⅰ		2				＊②		
	科学英語Ⅱ		2					＊②	
	物質工学入門	●	2	2					転科生を除く
	材料科学概論		1		1				
	物質工学演習Ⅰ		1		1				
	物質工学実験 分析化学実験 / 無機化学実験 / 微生物学実験	●	8		8				
	物質工学実験 有機化学実験 / 生物化学実験 / 物理化学実験	●	8			8			
	卒業研究	●	10					⑩	

資料５－１－①－６　続き

授業科目			単位	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
材料コース必修	無機材料化学		2				＊②		生物コースは選択科目として履修できる
	有機化学Ⅲ		1					1	
	高分子科学		1					1	
	物理化学Ⅲ		1					1	
	機器分析Ⅱ		1					1	
	材料化学実験Ⅰ 材料化学実験Ⅱ 化学工学実験	●	8				⑧		
生物コース必修	分子生物学		2				＊②		材料コースは選択科目として履修できる
	培養工学		1					1	
	細胞工学		1					1	
	遺伝子工学		1					1	
	酵素工学		1					1	
	生物工学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅱ 化学工学実験	●	8				⑧		
選択	物質工学演習Ⅱ		1				1		
	応用数学Ⅱ		1				1		
	応用数学Ⅲ		1					1	５年生の他コース必修科目と合わせて４科目以上を履修する
	現代物理学		1					1	
	学外実習Ⅰ		1				1		学外実習Ⅰと学外実習Ⅱはどちらかしか履修できない
	学外実習Ⅱ		2				2		
	学外実習Ⅲ		1					1	学外実習Ⅱを修得した学生は履修できない
	学外実習Ⅳ		2					2	学外実習Ⅰ，Ⅱ，およびⅢを修得した学生は履修できない
	特別物質工学実習		1			1	1	1	3～5年で１単位まで修得できる
専門	必修科目合計		84	5	13	18	25	23	必修科目合計は標準履修単位数 選択科目合計は最低履修単位数
	選択科目合計		8	0	0	0	4	4	
	開講単位数合計		92	5	13	18	29	27	
一般科目合計			82	28	21	19	8	6	
合計			174	33	34	37	37	33	
選択科目(専門)開講単位数						1	7	9	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目を表す。
（注３）単位数の前に＊印がついた科目は学修単位科目であり、自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）選択科目（専門）開講単位数は、その学年で修得できる最大単位数を示す。
（注５）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－７

一般科目と専門科目の単位数と，総単位数に対する一般科目または専門科目の比率

学年	機械工学科					
	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 %	必修	選択	比率 %
1 年	24	2	74. 3	9	0	25. 7
2 年	21	2	67. 6	7	4	32. 4
3 年	18	0	52. 9	11	5	47. 1
4 年	6	2	22. 2	27	1	77. 8
5 年	2	4	17. 1	15	14	82. 9

学年	電気電子工学科					
	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 %	必修	選択	比率 %
1 年	24	2	74. 3	9	0	25. 7
2 年	21	2	65. 7	12	0	34. 3
3 年	18	0	51. 4	16	1	48. 6
4 年	6	2	21. 6	21	8	78. 4
5 年	2	4	17. 1	16	13	82. 9

学年	電子制御工学科					
	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 %	必修	選択	比率 %
1 年	24	2	76. 5	8	0	23. 5
2 年	21	2	67. 6	11	0	32. 4
3 年	18	0	50. 0	17	1	50. 0
4 年	6	2	22. 9	25	2	77. 1
5 年	2	4	17.1	17	12	82.9

資料５－１－①－７　続き

学年	制御情報工学科					
	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率 %	必修	選択	比率 %
1年	24	2	76.5	8	0	23.5
2年	21	2	69.7	10	0	30.3
3年	18	0	51.4	17	0	48.6
4年	6	2	22.2	28	0	77.8
5年	2	4	15.4	12	21	84.6

学年	物質工学科					
	一般科目			専門科目		
	必修	選択	比率	必修	選択	比率 %
1年	27	2	85.3	5	0	14.7
2年	20	0	60.6	13	0	39.4
3年	19	0	51.4	18	0	48.6
4年	6	2	21.6	25	4	78.4
5年	2	4	18.2	23	4	81.8

（出典　平成23年度学生便覧より集計）

資料５－１－①－８

教育理念、教育目的、学習・教育目標、養成すべき人材

教　育　理　念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教　育　目　的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教　育　方　針

1　低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2　コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3　実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4　教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする
1　技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2　自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3　工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4　豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5　実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

（出典　平成23年度学生便覧　表紙裏）

資料５－１－①－９

教養科の教育目的と概要

１．学科の教育目的と概要

教　養　科

（教育目的）専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

（概要）沼津高専には５つの学科がありますが、どの学科に属する学生でも共通で学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。一般科目には大きく分けて２つの目的があります。ひとつは所属する学科の科目（専門科目）を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。

教育内容は、高等学校および大学の教養課程において教えられるほとんどの教科を含んでいます。工学の基礎としての数学と、国際的なコミュニケーション能力を養うための語学には多くの授業時間が充てられていますが、これら以外にも、理科、国語、社会、芸術、保健体育などの科目が、第１学年から第５学年までに、専門科目とのバランスを考えながら機能的に配置されています。

授業内容の特徴としては、知識の習得にとどまらず、実際に役に立てる力を身につけることに重点をおいています。そのため、作業、実習、実験、レポートによる報告等を多く採用しています。さらに専門科目の基礎としての性格の強い数学、物理、化学では、専門科目の学習へスムーズに移行できるよう配慮しています。

一般科目を主に担当している教員の組織が教養科です。高度な専門知識に裏付けられた確かな教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術そして的確な判断力・行動力を持ち、豊かな個性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－10

機械工学科の教育目的と概要

機械工学科

（教育目的）機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を育成することを目的とする。

（概要）機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

低学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また全学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした主要科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学実験による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目との連携のもとに多角的に学びます。第５学年で行われる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決するために必要となる総合的な能力を養っています。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－11

電気電子工学科の教育目的と概要

電気電子工学科

（教育目的）電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（概要）地球環境に配慮したクリーンエネルギーの確保やCO_2を削減するための新技術、モバイルコンピューティングによる情報ネットワーク社会の構築には、電気電子工学の知識と技術が必須である。

電気電子工学科では、幅広い産業分野において電気電子工学の知識と技能を活かした、問題解決能力を持つ、若く優れた技術者の養成に努めている。特に、近年のエレクトロニクス技術の高度化に対応できるように、時代に即した授業カリキュラムを構築し、講義による理論の修得と実験による技能の体得がスムーズに行われるように配慮した編成を実施している。

電気電子工学の根幹をなす、回路理論や電磁気学などの基礎科目は、低学年から卒業まで学年に応じた内容でステップアップすることにより、理論と応用力を修得する構成となっている。高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講し、技術者としての素養を涵養できるよう工夫している。

もう一つの特徴として、講義を補完する実験テーマの充実を図っている。実験テーマは多岐にわたり、電気回路理論、電磁気現象を確認する基礎実験はもとより、コンピュータを利用した情報処理系の実験も実施する。特に電気系技術者に必要とされる、電子回路の設計技術と解析技術の修得に向け、回路設計CADや回路シミュレータを用いた実験も実施する。また、本学科は高電圧関連の実験設備も充実しており、電気主任技術者（電験）認定校である。在学中に所定の課程を修めて卒業すれば、実務経験を経て第二種電気主任技術者資格が得られる。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－12

電子制御工学科の教育目的と概要

電子制御工学科

（教育目的）電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（概要）マイクロプロセッサに代表される集積回路（ＩＣ）技術のめざましい発展に伴って、これまで航空機や人工衛星といった分野で使われていた技術が、ロボット、自動車、オーディオ機器、医療機器、コンピュータ周辺機器など身近な分野に使われるようになった。これらの機器は、コンピュータ・ソフトウェアを中心として機械部分も電気・電子部分もひとつの総合的な複合体として設計され組み上げられており、このような開発を行うための新しい技術分野として電子制御技術が独自に発展しつつある。

本学科では、電子制御技術者の育成を目的として、機械工学、制御工学、電気・電子工学及びコンピュータ工学に関する要素技術と、システム工学などのシステム統合化技術とを学ぶカリキュラムを構築しており、それらを意欲的に学習できる環境を用意している。特に、体験的学習とチーム学習を重視し、実験・実習、設計・製作には特別な配慮をはらっている。また、電子制御工学科のコンピュータ・ルームを常時開放し、インターネットの利用等学年の便宜をはかっている。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－13

制御情報工学科の教育目的と概要

制御情報工学科

（教育目的）コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（概要）現代社会において、コンピュータは、各種機械システムを自動化・知能化する手段として、また多量の情報を高速に処理する手段として様々な分野で活用されている。

制御情報工学科は、コンピュータ技術を応用してロボットの協調制御や各種メカトロニクスシステムの設計・製作・運用、データベースを用いた情報システムの構築、高度情報化社会に対応した生産システムの開発などの分野で活躍できる技術者を養成している。

カリキュラムは情報工学、制御工学、機械工学を重視し、電気・電子工学の関係分野を含んで体系的に編成されている。低学年からＣ／Ｃ＋＋を主体としたコンピュータ言語演習とコンピュータ制御のロボット製作実習によりソフトウェアとハードウェアの設計・製作を体験する。高学年になると、各実験室において、制御・機械・メカトロニクスに関する実験、コンピュータを活用したシミュレーションやデータ処理などの演習を少人数で体験的に学習する。４年次にはコンピュータ制御されるシステムを学生達自らの力で企画・設計・製作する創造的モノ造りの演習を行う。

５年次に行う卒業研究は５年間の学習の集大成であり、教員の個別指導のもとに特定の研究テーマについて調査・設計・製作・実験・解析・考察した結果を報告書にまとめて発表する。技術的な問題を発見し、解決する力を養う絶好の機会である。

本学科は、工業英語能力検定試験、情報処理技術者試験ならびにディジタル技術検定試験による資格の取得を奨励している。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－14

物質工学科の教育目的と概要

物質工学科

（教育目的）化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

（概要）最近のファインケミカルズ、セラミックスなどの高機能性材料（材料化学）及び分子生物学、酵素・細胞・遺伝子工学（生物工学）の急速で広範囲な技術発展にともない、幅広い知識と技術をもった人材が必要となってきた。このような社会の要請に応えるために物質工学科が設置されている。本科では、〔材料化学コース〕と〔生物工学コース〕を設置し、設備と教授陣を充実させ、より専門の教育ができるカリキュラムを編成している。両コースとも、専門基礎の教育に重点を置き、理論の教授と並行して実験を行うよう配慮している。さらに、国際化時代を反映して専門英語が効率よく修得できるよう〔科学英語〕が行われている。

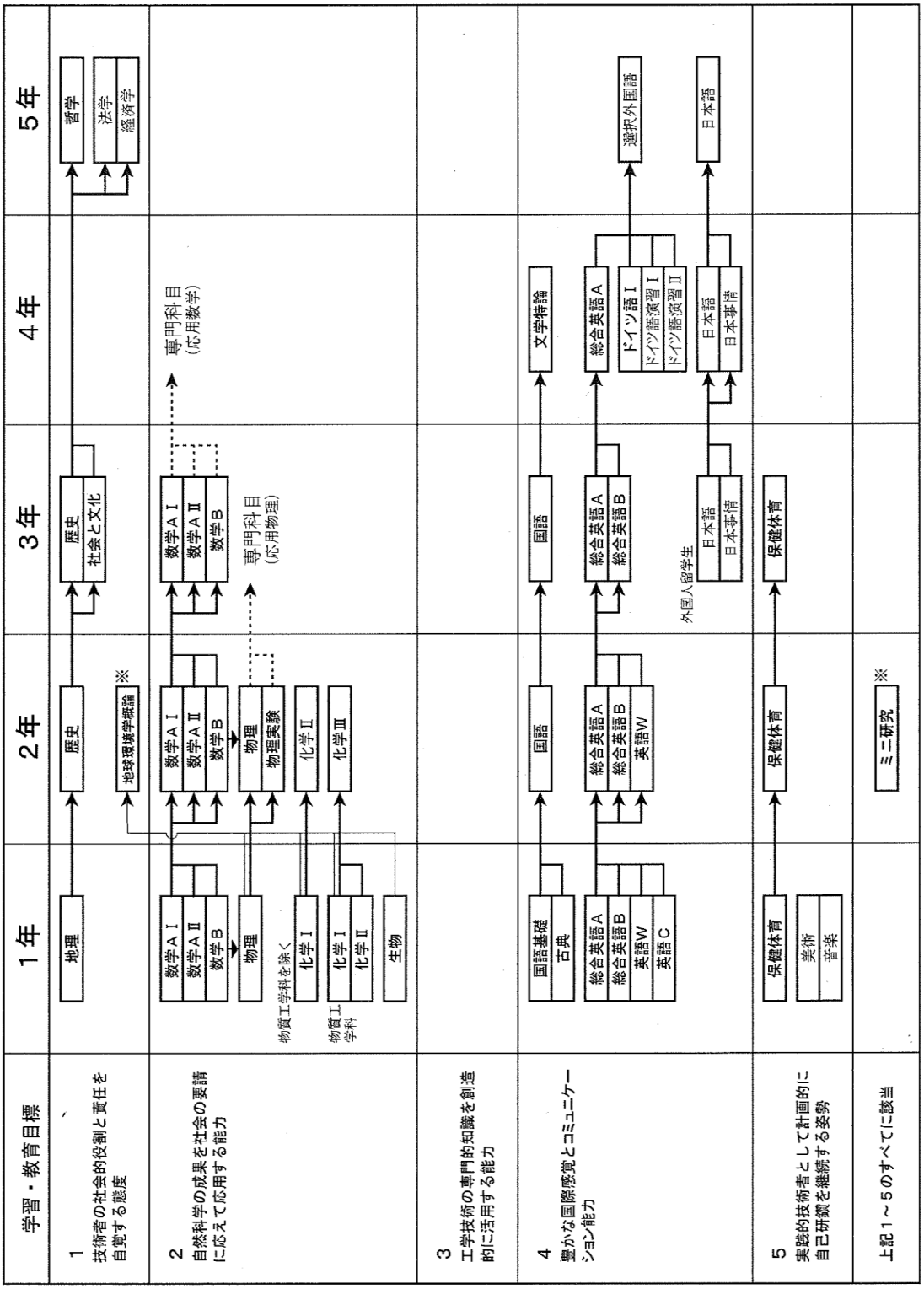
〔材料化学コース〕では、無機材料から有機・高分子材料の合成、分析、物性測定、機能性評価および物理化学や化学工学では熱力学やプラント設計に必要な物質収支などを修得できるカリキュラムが用意されており、これからの新しい化学工業の発展に十分対応できる創造性豊かな工業技術者の養成を目指している。

〔生物工学コース〕では、化学に基礎を置いた生物工学の手法を十分に身につけ、先端技術を生産に結びつけることができ、化学工業、医薬品工業、食品工業などの研究開発、生産分野で活躍できる工業技術者の養成を目指している。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－１－①－15

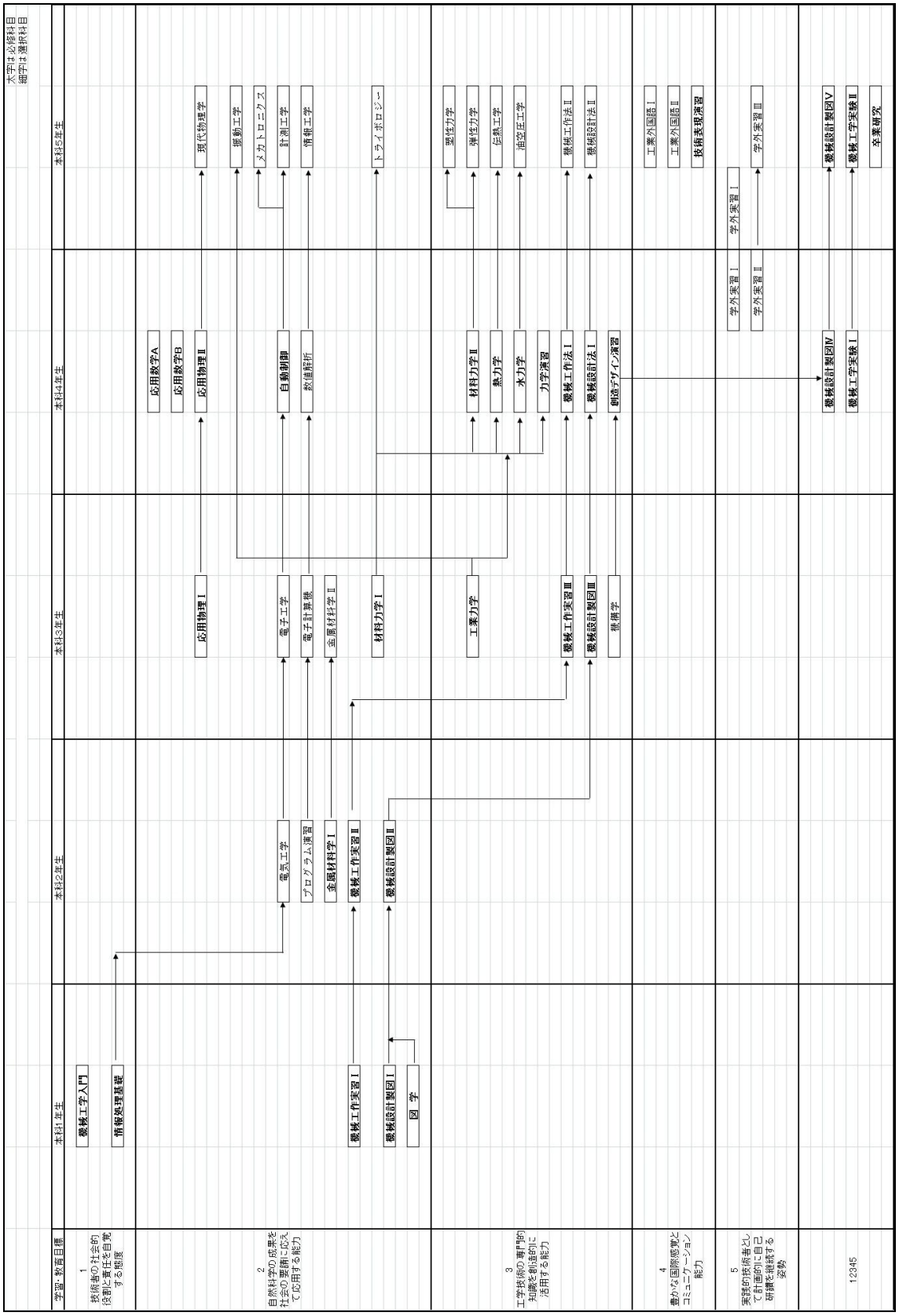
一般科目の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－16

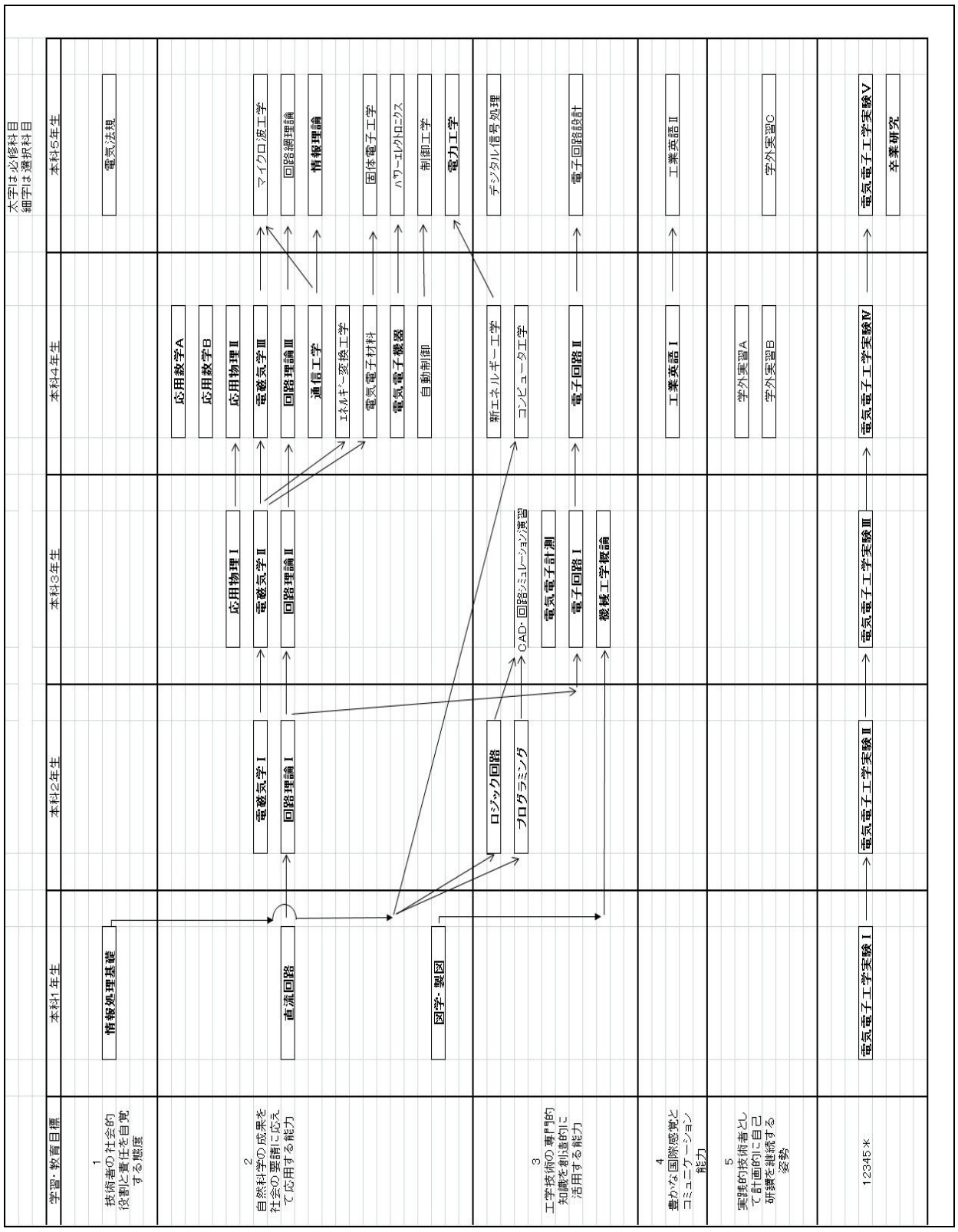
機械工学科の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－17

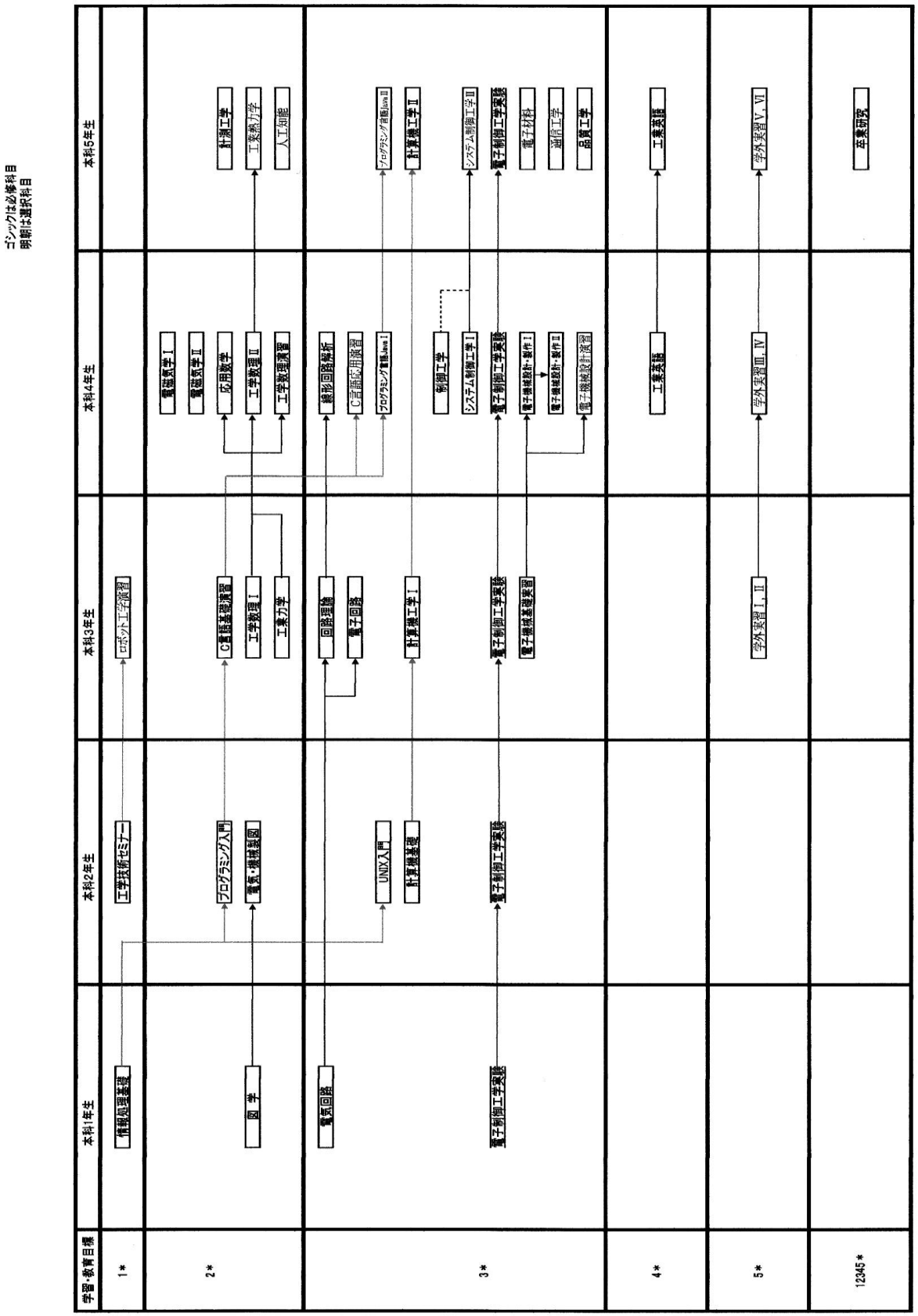
電気電子工学科の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－18

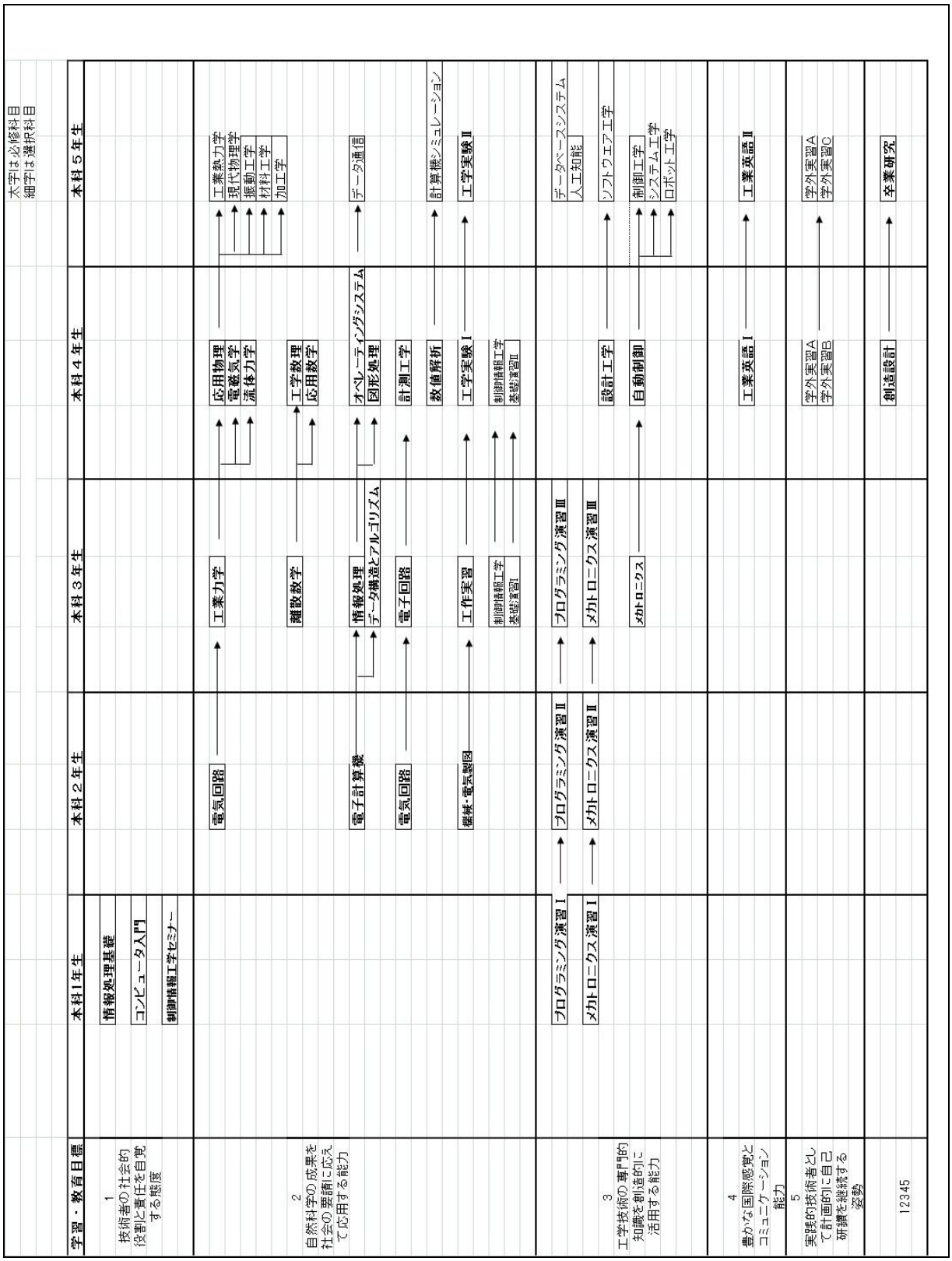
電子制御工学科の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－19

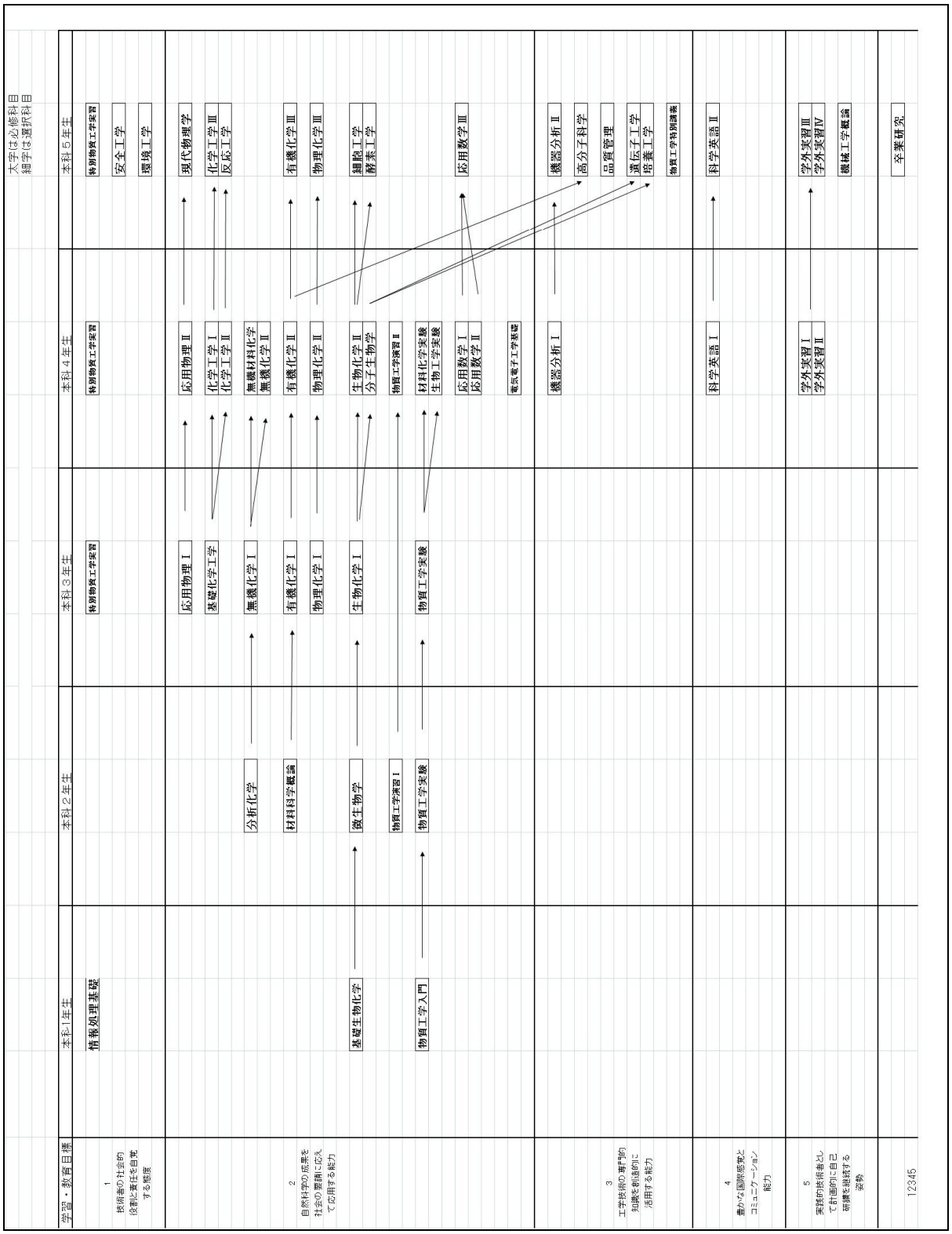
制御情報工学科の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－20

物質工学科の教育課程の体系性と科目系統図



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－①－21

平成23年度行事予定表

平成23年度行事予定表

平成23年3月25日作成

	月		火		水		木		金		土			
／	28	学年末休業	29	学年末休業	30	学年末休業	31	学年末休業	1	春季休業	2		3		／
4月	4	PM入学式・入寮式	5	AM校内オリエ・クラス写真・PM寮生活オリエンテーション 1年生Base試験	6 行1	始業式・対面式・1年生心電図	7 木1	授業開始/PM1・5年(専攻科)健康診断	8 金1	PM 2・3・4年健康診断	9		10		4月
4月	11 月1	この頃シラバス(授業)・便覧等(担任)の説明	12 火1	この頃2～5年学科ガイダンス/1年生教務・学生支援ガイダンス	13 水1	1年生合宿研修	14 木2	1年生合宿研修	15 金2		16	クラブ紹介	17		4月
4月	18 月2		19 火2	第1回プログラム教員会議	20 水2	開校記念日(通常授業)	21 木3		22 金3		23		24		4月
／	25 月3		26 火3		27 水3		28 木4		29	昭和の日	30		1		／
5月	2	海の日振替休業	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6 金4		7		8		5月
5月	9 月4		10 火4		11 水4	7・8時限学生総会	12 木3		13 金5		14	寮祭前夜祭	15	寮祭	5月
5月	16 月5		17 火5		18 水5	7・8時限防災訓練	19 木4		20 金6		21	後援会総会 保護者懇談会	22		5月
5月	23 月6		24 火6		25 水6		26 木7		27 金7		28		29		5月
／	30 月7		31 火7		1 水7		2 試1	一般共通科目中間試験	3 試2	一般共通科目中間試験	4		5		／
6月	6 月8		7 火8		8 水8		9 木8		10 金8	専攻科入試 (5年生特別休業)	11		12		6月
6月	13 月9		14 火9		15 水9	第2回プログラム教員会議	16 木9	前期中間成績入力締切	17 金9		18		19		6月
6月	20 月10		21 火10		22 水10		23 木10		24 金10		25	東海地区高専体育大会(ソフトテニス)	26	東海地区高専体育大会(ソフトテニス)	6月
／	27 月11		28 火11		29 水11	(高専大会壮行会)	30 木11		1	高専大会出発日 (授業創愛)	2	東海地区高専体育大会	3	東海地区高専体育大会	／
7月	4 金11	金曜振替	5 火12		6 水12		7 木12		8 金12		9	1～4年保護者懇談会 東海地区高専体育大会(水泳)	10	東海地区高専体育大会(水泳)	7月
7月	11 月12		12 火13	夏季合宿説明会	13 水13	4年インターンシップ事前研修	14 木13		15 金13		16	1～4年保護者懇談会	17		7月
7月	18 月13	海の日 通常授業	19 火14		20 水14		21 木14	近畿東海北陸信越弓道大会	22 金14	近畿東海北陸信越弓道大会	23	近畿東海北陸信越弓道大会	24		7月
7月	25 月14		26	補講及び補習	27	補講及び補習	28 試3	前期末試験	29 試4	前期末試験	30		31		7月
8月	1 試5	前期末試験	2 試6	前期末試験	3 試7	前期末試験・ホームルーム・大掃除	4	夏季休業(9月22日まで)	5		6	一日体験入学	7		8月
8月	8		9	第3回プログラム教員会議	10	一斉休業	11	一斉休業	12	一斉休業	13	全国高専体育大会	14	全国高専体育大会	8月
8月	15	一斉休業	16	一斉休業	17	全国高専体育大会	18	編入学試験 全国高専体育大会	19	全国高専体育大会	20	全国高専体育大会	21	全国高専体育大会	8月
8月	22	全国高専体育大会 全国高専将棋大会	23	全国高専体育大会 全国高専将棋大会	24	全国高専体育大会 全国高専将棋大会	25		26		27		28		8月
／	29		30	編入予定学生説明会	31	(校内英語スピーチコンテスト(予定))	1		2		3		4		／
9月	5		6		7		8		9		10		11		9月
9月	12		13		14		15	補習	16	補習	17		18		9月
9月	19	敬老の日	20	補習	21	補習	22	補習 寮生リーダー研修	23	秋分の日 寮生リーダー研修	24	寮生リーダー研修	25		9月
／	26 月15	授業再開	27 火15		28 水15		29 木15		30 金15		1		2	中学生のための体験授業	／
10月	3 月1	後期開始	4 火1		5 水1	4年工場見学	6 木1	4年工場見学	7 金1	4年工場見学	8		9		10月
10月	10	体育の日	11 火2	前期末成績入力締切	12 水2		13 木2		14 金2	2年特別研修	15		16		10月
10月	17 月2		18 火3		19 水3		20 行2	体育祭・学生総会	21 金3		22		23		10月
10月	24 月3		25 火4		26 水4		27 木3		28 金4		29		30	東海北陸地区ロボコン大会	10月
／	31 月4		1 木4	木曜振替	2 水5	(7・8時限1～4年文化講演会)	3	文化の日	4 行3	高専祭準備(授業創愛)	5	高専祭・体験授業	6	高専祭・体験授業, 東海地区高専体育大会(ラグビー・フットボール)	／
11月	7 行4	高専祭片付け(授業創愛)	8 火5		9 水6		10 木5		11 金5		12		13		11月
11月	14 月5	授業参観・学科説明会	15 火6	授業参観・学科説明会	16 水7	授業参観・学科説明会	17 木6	授業参観・学科説明会	18 金6	授業参観・学科説明会	19		20	ロボコン全国大会	11月
11月	21 月6		22 火7		23	勤労感謝の日	24 木7		25 金7		26	1・2年TOEIC Bridge 3・4年TOEIC IP	27		11月
／	28 月7		29 火8		30 水8		1 試8	1～4年一般共通科目中間試験	2 試9	1～4年一般共通科目中間試験, テクノフォーラム	3		4		／
12月	5 月8		6 火9		7 水9		8 木8		9 金8		10	工学系数学統一試験(4年生)	11		12月
12月	12 月9	後期中間成績入力締切	13 火10		14 水10	7・8時限3年課外教育特別講演	15 木9		16 金9		17		18		12月
12月	19 月10		20 火11		21 水11		22 木10	1・2時限授業, ホームルーム, 大掃除, 留学生交流会	23	天皇誕生日, 留学生交流会	24	留学生交流会	25		12月
／	26		27		28		29		30		31		1	元日	／
1月	2	振替休日	3	全国高専体育大会(ラグビー・フットボール)	4	全国高専体育大会(ラグビー・フットボール)	5 木11	授業再開	6 金10		7	中部近畿地区高専将棋大会	8	中部近畿地区高専将棋大会・全国高専体育大会(ラグビー・フットボール)	1月
1月	9	成人の日	10 金11	金曜振替	11 水12		12 木12	到達度試験(3年生)(数学・物理)	13 金12		14		15		1月
1月	16 月11		17 火12		18 水13		19 木13		20 金13		21		22	入試(推薦)	1月
1月	23 月12	3年合宿研修	24 火13	3年合宿研修	25 水14	3年合宿研修	26 木14		27 金14		28		29		1月
／	30 月13		31 火14		1 水15	(3年インターンシップ説明会)	2 木15		3 金15		4		5		／
2月	6 月14		7 火15	クラブ合宿説明会	8 試10	学年末試験	9 試11	学年末試験	10 試12	学年末試験	11	建国記念の日	12		2月
2月	13 試13	学年末試験	14 試14	学年末試験 第4回プログラム教員会議	15 水16		16 木16		17 金16		18		19	入試(学力)	2月
2月	20	入試採点(臨時休業)	21 火16		22 月15	月曜振替	23	1・2時限補講, 大掃除 終業式, 5年卒業研究	24	1～4年補講及び補習 5年卒業研究, 合格発表 臨時休業(～3月15日)	25		26		2月
／	27	1～4年補講及び補習 5年卒業研究, 5年成績入力締切(卒研除く)	28	1～4年補講及び補習 5年卒業研究	29	1～4年補講及び補習 5年卒業研究	1	5年卒研発表 寮生リーダー研修 (この頃入学説明会)	2	5年卒研発表 寮生リーダー研修	3	寮生リーダー研修	4		／
3月	5	1～4年成績入力締切 5年卒研成績正午までに入力	6		7	5年卒業判定会議	8		9		10		11		3月
3月	12		13		14	1～4年進級判定会議	15		16	開校記念日振替休業	17	卒業式・修了式	18		3月
3月	19	学年末休業(～30日)	20	春分の日	21		22		23		24		25		3月
／	26		27		28		29		30		31		1		／

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

低学年で一般科目が多く高学年で専門科目の割合が増える楔形に授業科目を配置し，本校の学習・教育目標及び各学科の教育目的を踏まえて，各学科等の科目系統図が作成され，体系的に教育課程が編成されている。各科目の授業内容は，教育課程の編成の主旨に沿って計画され，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

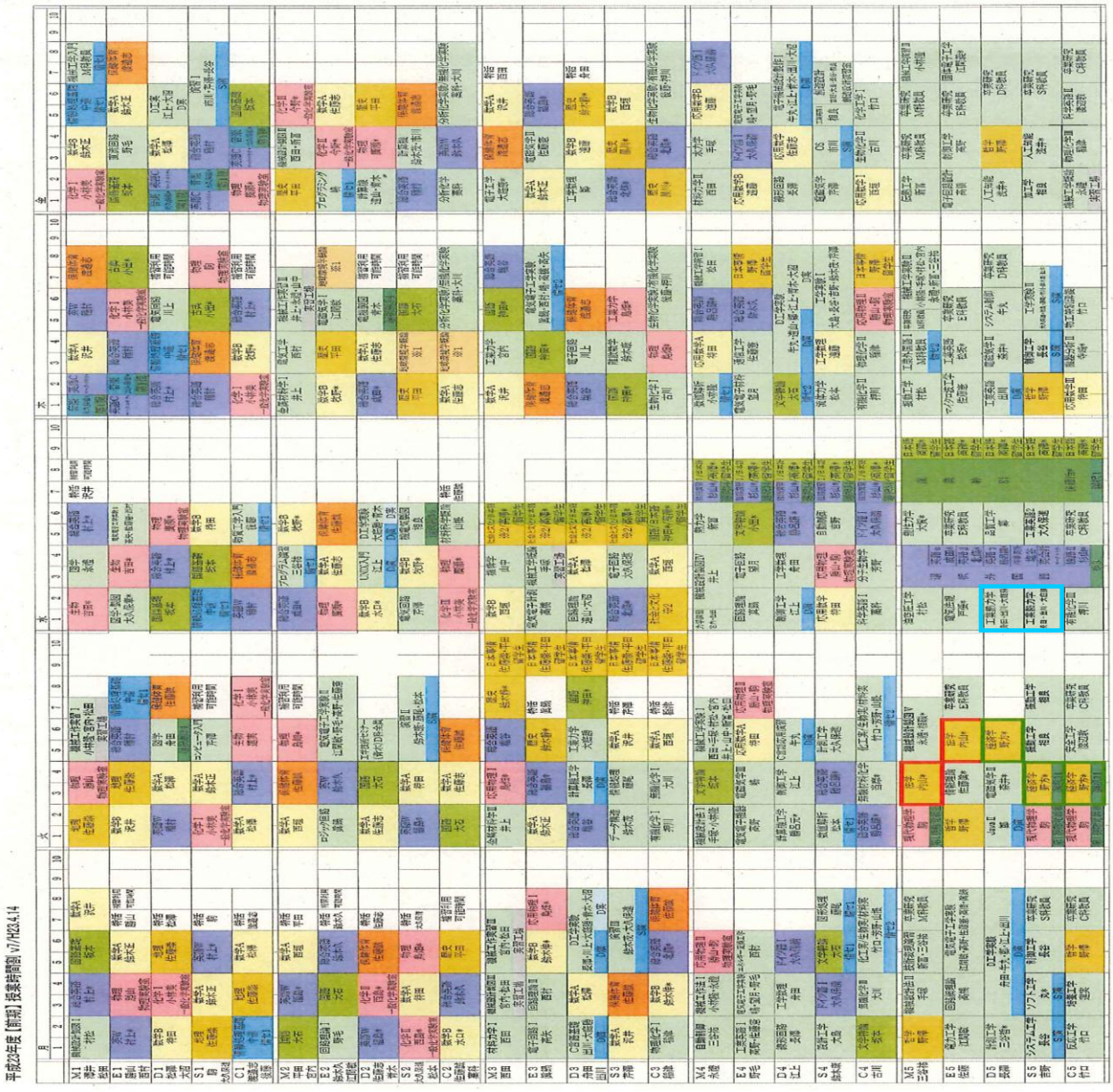
観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに対応して，一部の専門学科では他学科の授業科目の履修を認めている。制御情報工学科５年の学生が電子制御工学科の工業熱力学を履修し（資料５－１－②－１，２），電子制御工学科５年の学生が，制御情報工学科の計算機シミュレーションを履修し（資料５－１－②－２），選択履修の幅を広げた。また５年生の科目である法学と経済の両科目を選択できるようにした（資料５－１－②－１，２）。社会の要請に応える目的で平成24年より学際教育カリキュラムを導入する（資料５－１－②－３，４）。

資料５－１－②－１

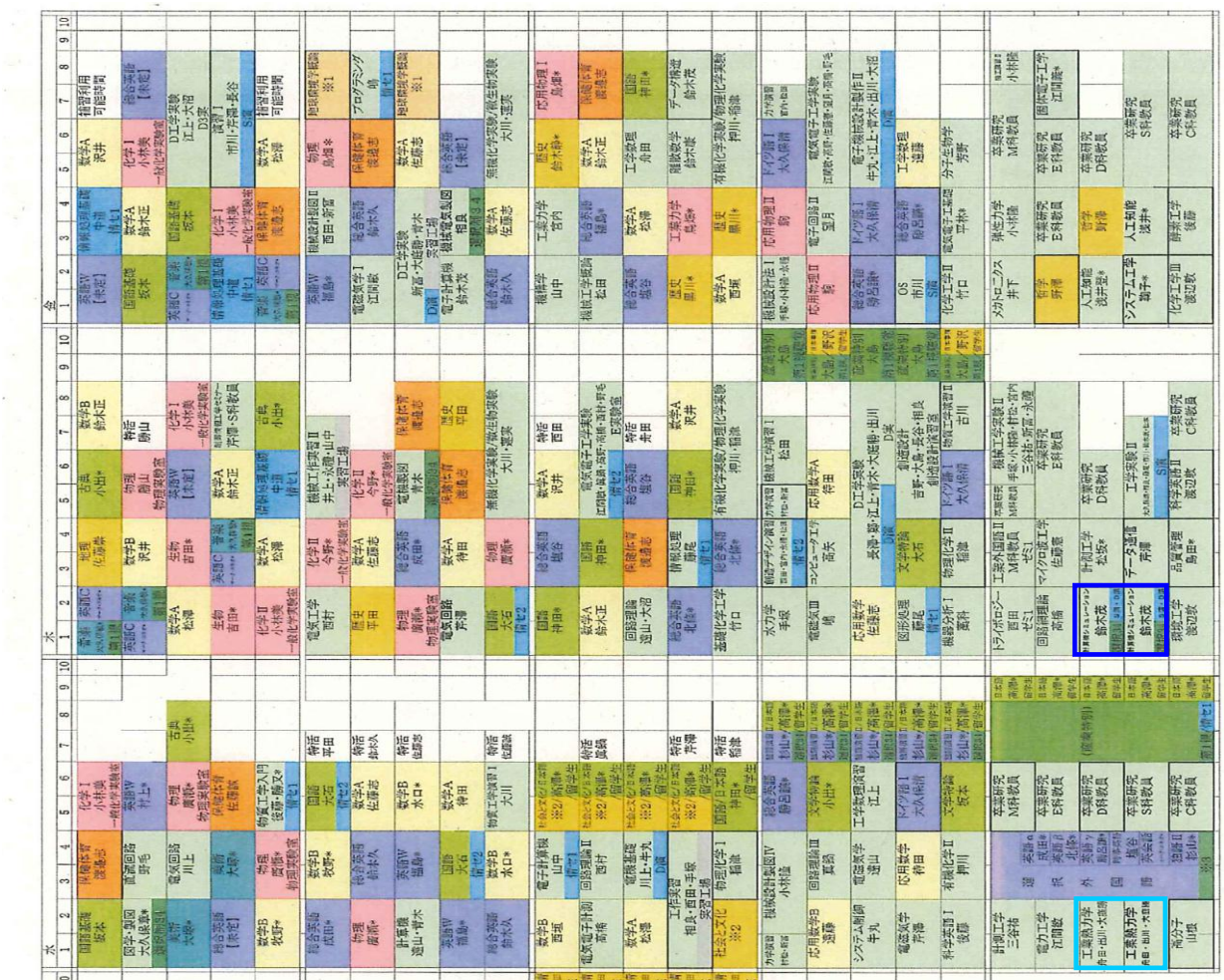
平成23年度前期時間割



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－１－②－２

平成23年度後期時間割



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－１－②－２続き

時間割の凡例

凡例

授業を担当する学科・教養科の教科

- 専門学科担当科目
- 国語　（教養科）
- 社会　（教養科）
- 数学　（教養科）
- 理科　（教養科）
- 保健体育　（教養科）
- 芸術　（教養科）
- 語学　（教養科）
- 地球環境学　（教養科）

使用教室

- 情報センター第1第2演習室，Ｄ科演習室，Ｓ科演習室
- 実習工場
- 第１視聴覚教室・第２視聴覚教室・選択制教室（１～４）

その他

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－１－②－３

学際教育カリキュラム概念図

平成 24 年度入学生より沼津高専は新しい教育カリキュラムを導入します

――混合学級と学際教育の導入――

医療・福祉、環境・エネルギー、新機能材料を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成していくために、低学年においては、従来からの専門導入基礎実験に加えて他分野の基礎実験実習を体験できるように混合学級編制とし、高学年においては所属学科の基礎・応用科目と学際分野の科目を受講できるように教育課程を改定し、今後も優秀な卒業生を社会に輩出することを目指すものです。

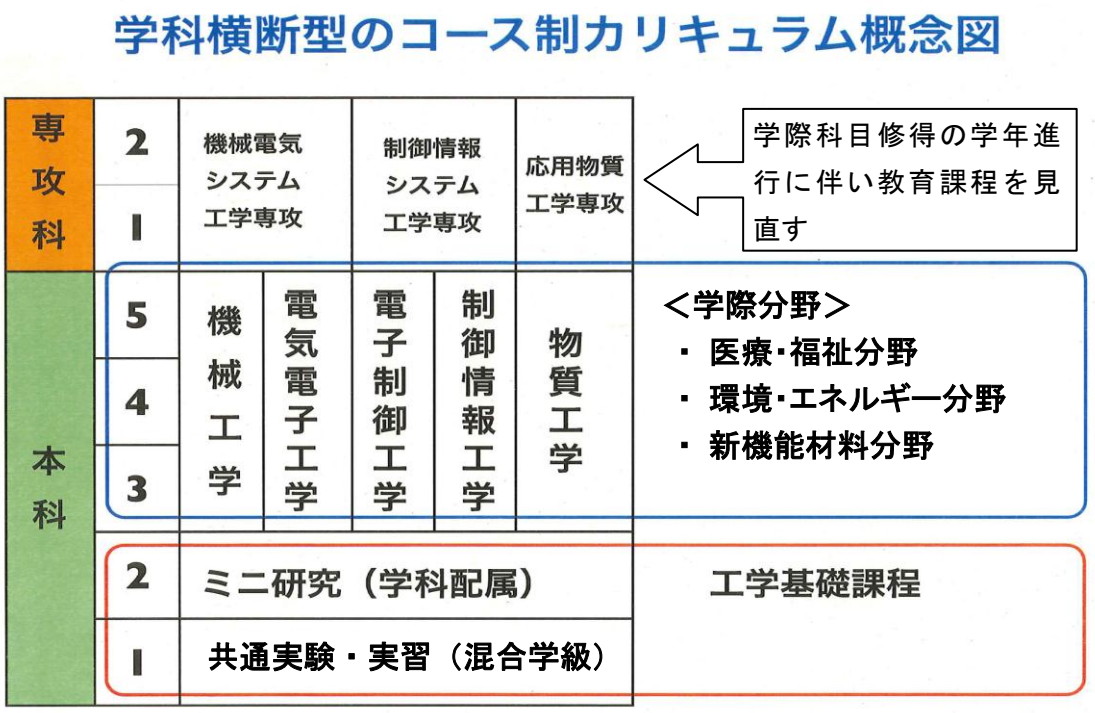


※学際教育とは：学科の専門を深く学習すると同時に他学科の専門性も学習して幅広い工学知識を身につけます。
※新機能材料とは：金属・半導体・プラスチックなど、あるいはそれらが複合した材料など、新しい機能性を発現する材料のことです。
※ミニ研究とは：２年生が学科の専門性を越えて「教員が提出した課題に対して、自ら問題点を見出し、その問題点を解決する」行動と思考方法を身につけます。

（出典　学際教育検討ＷＧ作成資料）

資料５－１－②－４

学科横断型の学際教育カリキュラム概念図



（出典　学際教育検討ＷＧ作成資料）

企業技術者（資料５－１－②－５）を講師に招き，１年生から５年生を対象にして，ものづくりステップ・アップ実践プログラム（資料５－１－②－６）を実施し，実社会のものづくりを多角的に学んだ。この報告書（資料５－１－②－７）にあるように，１年生から３年生対象の授業を各学年の学生全員が受講し，４年生の機械工学科の学生が機械設計製図を受けた。さらに，４年生の希望者がインターンシップ（後出資料５－２－③－26），先端技術講座およびキャリアアップ講座を受け，５年生の希望者が企業と生産活動，知的財産権の授業を受講した。さらに，就職活動によるビジネスマナー研修会（資料５－１－②－８）を開催し，３年生から専攻科学生までが参加して，ビジネスマナーとコミュニケーションの能力を養った。

資料５－１－②－５

ものづくりステップ・アップ実践プログラムの授業

資 料

平成22年度「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」実施一覧表

学　年	ものづくりステップ・アップ実践プログラムによる授業			実 施 日
	授 業 名	企 業 名	氏　名	
１年	技術者入門講座	白井一夫	白 井 一 夫	平成22年６月16日(水) ～ 平成22年７月14日(水)
		矢崎総業株式会社	三 谷 哲 也	平成22年10月25日(月)
		矢崎総業株式会社	鷹 觜 大 介	平成23年１月24日(月)
２年M科	ものづくり入門講座	コマツ株式会社 コマツ建機		平成22年６月30日(水)
		株式会社不二精機製造所		平成22年12月15日(水)
２年E科		富士通株式会社沼津工場		平成22年９月14日(火)
		ウシオ電機株式会社 御殿場事業所		平成22年11月22日(月)
２年D科		コマツ株式会社 コマツ建機		平成22年９月７日(火)
		関東自動車株式会社 東富士工場		平成22年12月21日(火)
２年S科		株式会社ヤクルト 富士裾野工場		平成22年７月９日(金)
		東芝テック株式会社 静岡事業所		平成22年12月14日(火)
２年C科		メディアロジテック株式会社 御殿場工場		平成22年７月14日(水)
		ライオン株式会社 小田原工場		平成22年11月18日(木)
３年M科	ものづくり基礎技術講座	ヤマハ発動機株式会社	今 岡　亮	平成22年10月８日(金)
		ボーイングカンパニー	原　欣資	平成22年11月１日(月)
		キャデック株式会社	筒 井 真 作	平成23月１日20日(木)
３年E科		株式会社アルバック	霜 村 金 久	平成22年９月９日(木)
		日星電気株式会社	塩 崎 晃 弘	平成22年10月６日(水)
		富士通株式会社川崎工場	佐 野　任	平成22年11月18日(木)
３年D科		東京都立産業技術高等専門学校	若 林 良 二	平成22年９月13日(月)
		明産株式会社	諏訪部　豊	平成22年12月14日(火)
		中部電力株式会社 工務技術センター	長 谷 祐 児	平成22年12月３日(金)

資料５－１－②－５　続き

資 料

学　年	ものづくりステップ・アップ実践プログラムによる授業			実 施 日
	授 業 名	企 業 名	氏　名	
３年Ｓ科		明電システムテクノロジー株式会社	丸　雅光	平成23年２月７日(月) ～ 平成23年２月28日(月)
３年Ｃ科		旭化成株式会社	板倉啓浩	平成22年９月10日(金)
		協和発酵キリン株式会社富士工場	橋本晃利	平成22年12月7日(火)
		エヌ・イーケムキャット株式会社	菅野泰治	平成23年２月４日(金)
４年	先端技術講座	臼井国際産業株式会社	林　耕一	平成22年10月14日(木)
		オムロン株式会社三島事業所	長縄一智	平成22年10月28日(木)
		協和発酵キリン株式会社富士工場	芦川信人	平成22年11月４日(木)
		協和発酵キリン株式会社富士工場	金子直樹	平成22年11月４日(木)
		東芝機械株式会社沼津本社	小久保光典	平成22年11月11日(木)
		東レ株式会社三島工場	佐藤淳二	平成22年11月18日(木)
		特種東海製紙株式会社	土川圭一	平成22年12月２日(木)
		富士通株式会社沼津工場	大山和彦	平成22年12月９日(木)
		株式会社明電舎沼津事業所	庭川　誠	平成22年12月16日(木)
		矢崎総業株式会社技術研究所	木村真澄	平成23年２月10日(木)
		株式会社リコー沼津事業所	田中哲也	平成23月１日13日(木)
		旭化成ファーマ株式会社	松本英之	平成23月１日20日(木)
		株式会社電業社機械製作所	井戸章雄	平成23月１日27日(木)
		ジャトコ株式会社	勝又哲史	平成23年２月３日(木)
		ユニプレス株式会社	中村　猛	平成23年２月24日(木)
５年専攻科	企業と生産活動講座	後藤治勝	後藤治勝	平成22年10月５日(火) ～ 平成23年２月１日(火)
５年専攻科	知的財産権講座	小野義光	小野義光	平成22年10月１日(金) ～ 平成23年２月４日(金)

－78－

（出典　平成22年度　ものづくりステップ・アップ実践プログラム　成果報告書）

資料５－１－②－６

ものづくりステップ・アップ実践プログラム

1 総　論

「ものづくりステップ・アップ実践プログラム2010」実　施　報　告

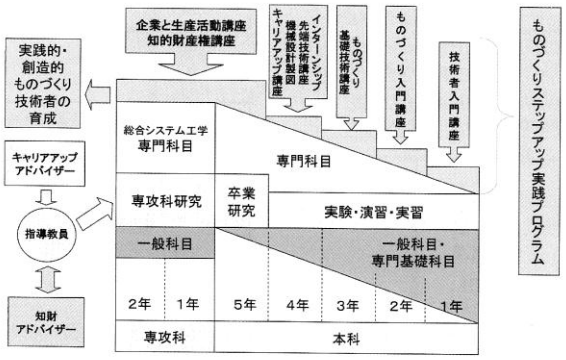
副校長　大 島　　茂

自動車業界が電気自動車へ大きく舵を切っていることに代表されますように、技術革新と産業界の変化は地球規模で急速に進み、それらの変化に対応できる技術者を育てることが教育現場には強く求められています。そのために実社会の動向を学生に伝え、社会に出るために必要となる幅広い視野と教養を養い、夢と誇りを持たせ、社会に順応して仕事ができる人材を育てる教育が必要とされています。教育現場にいる者だけで成すには難しい課題であり、実社会で経験を積まれた企業技術者や退職技術者の方々の協力を得て行う共同教育が効果を発揮するところであると考えます。

本プログラムは、平成20年度からスタートし、１年生から５年生・専攻科生までの全学年の学生を対象として、地域の企業技術者等の協力を得て、技術者入門から、先端技術、マーケティング、経営、知財へと学年の進行に伴って体系的にステップ・アップしながらものづくり技術者に必要な素養を育成する教育プログラムです。毎年改善を重ね、平成22年度は４年生対象にキャリアアップ講座を加えるなど、キャリア教育の側面を加えました。実施したプログラムの概要は以下のようです。

（１）１年生対象の技術者入門講座：技術者の夢と喜びをベテラン企業技術者に学ぶ
（２）２年生対象のものづくり入門講座：ものづくりの楽しさ・面白さを企業の現場で学ぶ
（３）３年生対象のものづくり基礎技術講座：各種分野の地域企業技術者に学ぶ
（４）４年生対象の先端技術講座：各種産業分野の先端技術の動向について学ぶ
（５）４年生対象のキャリアアップ講座：社会人としての常識と規律などを学び、就業意識の涵養
（６）５年生・専攻科生対象の企業と生産活動講座：マーケティング・経営について学ぶ
（７）５年生・専攻科生対象の知的財産権講座：特許による技術の権利化について学ぶ

この他に、４年生のインターンシップ、機械工学科４年生に対する開発設計事務所所長による機械設計製図の指導、㈶浜松科学技術研究振興会特許管理部マネージャーによる知的財産権アドバイザーとしての教職員に対する指導をして頂きました。



ものづくりステップ・アップ実践プログラム2010の全体概念図

本プログラムには、31企業と延べ33名の企業技術者の方々に講師としてご協力いただきました。11の企業には２年生及び５年生の工場見学を快く受入れて頂きました。４年生のインターンシップでは60を超える企業にお世話になりました。参加した学生達は、企業技術者の方々の生の声を聞き、ものづくりの現場を見て、また体験して、多くのことを知り感動を味わい成長いたしました。ご協力頂きました企業と技術者の皆様へ深く感謝の意を表しますとともに、ここに本プログラムの実施報告をさせて頂きます。

2011年３月

－ 1 －

（出典　平成 22 年度　ものづくりステップ・アップ実践プログラム　成果報告書）

資料５－１－②－７

ものづくりステップ・アップ実践プログラム

目　　次

まえがき　柳下福藏

1．総　論 …… 大島　茂 …… 1

2．技術者入門講座　1年 …… 村松久巳 …… 2

3．ものづくり入門講座　2年 …… 13
3．1　機械工学科 …… 永禮哲生 …… 13
3．2　電気電子工学科 …… 眞鍋保彦 …… 16
3．3　電子制御工学科 …… 森井宜治 …… 18
3．4　制御情報工学科 …… 鈴木茂樹 …… 19
3．5　物質工学科 …… 押川達夫 …… 20

4．ものづくり基礎技術講座　3年 …… 21
4．1　機械工学科
…… 小林隆志・西田友久・山中　仁 …… 21
4．2　電気電子工学科 …… 望月孔二 …… 23
4．3　電子制御工学科 …… 長澤正氏・遠山和之 …… 24
4．4　制御情報工学科 …… 長谷賢治 …… 27
4．5　物質工学科 …… 押川達夫 …… 29

5．機械設計製図　4年 …… 小林隆志 …… 31

6．先端技術講座　4年 …… 村松久巳 …… 34

7．キャリアアップ講座　4年 …… 蓮實文彦 …… 51

8．インターンシップ　4年 …… 三谷祐一朗 …… 57

9．企業と生産活動講座　5年・専攻科生 …… 後藤治勝 …… 67

10．知的財産権講座　5年・専攻科生 …… 小野義光 …… 71

11．教員へのキャリア教育 …… 大久保清美 …… 73

12．ステップ・アップ実践プログラムのこれから …… 大島　茂 …… 75

あとがき …… 大島　茂・村松久巳・青木さえこ …… 76

資　料
平成22年度「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」実施一覧表
青木さえこ …… 77

（出典　平成 22 年度　ものづくりステップ・アップ実践プログラム　成果報告書）

資料５－１－②－８

ビジネスマナー研修会

就職活動におけるビジネスマナー研修会スケジュール

開　催　日　：　平成２３年　３　月１１日（金）

場　　所　：　沼津工業高等専門学校
集合（第一視聴覚教室）
（Ａ組）　講義棟１階Ｍ３教室
（Ｂ組）　講義棟１階Ｍ２教室
（Ｃ組）　講義棟２階Ｓ３教室
（Ｄ組）　講義棟２階Ｓ２教室
（Ｅ組）　講義棟３階Ｍ１教室

日　　程　：　９：００～９：１０　全体説明、講師紹介他
（第１視聴覚教室）
９：２０～１２：２０　研　　修

１２：２０～１３：００　昼　　食

１３：００～１７：００　研　　修

１７：００　　各組ごとに終了後解散

全体説明等内容（進行：　　）
９：００　　蓮実校長補佐挨拶（本研修会の開催意義について）
講師紹介　Ａ組担当　石川　端真　（いしかわ　なおみ）講師
Ｂ組担当　大塚　友子　（おおつか　ともこ）講師
Ｃ組担当　中根　きみ絵（なかね　きみえ　）講師
Ｄ組担当　平泉　由美　（ひらいずみ　ゆみ）講師
Ｅ組担当　釈　　左枝　（しゃく　さえ　　）講師

配布資料確認
・研修スケジュール
・研修テキスト
・名簿
・教室の配置図

※９：２０から研修が始まりますので、各自名簿等を確認して開始時間に遅れる事が無い様に研修会場へ異動してください。

（出典　学生課作成資料）

教育課程において継続して英語の授業科目を学び，加えて選択外国語やドイツ語演習の科目を選択し，外国語の伝達と読解の基礎能力育成することができるよう配慮している。さらに，社会から求められる語学力をWGで検討し（資料５－１－②－９），英語授業の目標及び概要（資料５－１－②－10）をまとめ，教育内容を改善した。TOEIC IPテストの実施データ集計資料（資料５－１－②－11）をもとにして，スコアを分析するとともに，TOEIC IPテストの取り組みに関する報告（資料５－１－②－12）をしている。さらに団体受験によるTOEIC公開テストの申し込み等を担当する教員を定めて，学生に積極的に受験するように活動している。

授業に加えて学生は英語科のe-learning教材であるCOCET3300とALCNetAcademy2（資料５－１－②－13）を活用している。さらに，技能審査の合格に単位修得（資料５－１－②－14）を認めており，工業英語能力検定やTOEICの単位認定をしている。

このほかに学内スピーチコンテスト（資料５－１－②－15）を開催し，成績優秀者は東海北陸地区大会に出場している。留学生が第19回英語＆日本語スピーチコンテスト（資料５－１－②－16）で優秀な成績を収めている。第４回全国大会英語プレゼンテーションコンテストに４年生が３名参加した。平成22年度は「イギリス語学研修＆異文化体験」を実施し（資料５－１－②－17），語学学校のサマープログラム研修に参加している。

資料５－１－②－９

英語教育の改善

英語教育改善ＷＧの成果報告

2010,3,15
大島　記

平成 19 年度から３年間継続してきた英語教育改善ＷＧのまとめとして、成果を整理すると、下記のことが挙げられる。

１．専門学科における英語教育の改善

・機械工学科で、５年次開講の工業外国語Ⅰ（必修１単位）、工業外国語Ⅱ（必修１単位）を授業形式で行うようにした。
平成 22 年度より４年次開講の力学演習（必修２単位）において、専門科目の問題を幾つか英文で与え、英単語の語彙を増やし、リーディング力を身につけることを取り入れることとした。

・電気電子工学科で、平成 21 年度より工業英語Ⅰ（必修１単位）を４年次に新設し常勤教員が担当することにした。（５年次の工業英語Ⅱ（選択１単位）は従来通り非常勤講師が担当している。）

２．英語力の客観的尺度として TOEIC IP を取り入れた。

３．平成 22 年度より、１，２年生に対して ACE に替えて TOEIC Bridge を取り入れることとした。

４．「沼津高専は、どのような英語能力を持った卒業生を世に送り出すのか」という、英語教育の目標に関して、ほぼ統一的見解が得られた。
低学年（１～3 年）でリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの４技能をバランスよく教え、高校レベルの基礎能力をつけさせる。その上に、高学年（4、5 年）で工学、科学系分野の英文を読んで理解できる力と、卒業研究等の内容や成果を英文で表現できる力をつけさせる。
5 年間で、TOEIC スコア 350 点を上回る英語力をつけることを目標とする。

５．英語科と専門学科の協力体制の構築

・英語教育に関して情報交換と議論をする場を毎年設定する。
・特に、高学年の英語教育では教養科と専門学科が情報交換を密にし、専門学科から方向性（たとえば、英文法重視、読解力重視、記述力重視など）を提示し、英語科と専門学科で行う英語教育の連続性の向上を図る。

６．毎年、BACE, TOEIC Bridge, TOEIC IP テストの結果を全教員に周知する。

平成 22 年度の WG メンバーにより以上のことが確認された。

（出典　英語教育改善WG委員会報告）

資料５－１－②－10

各英語授業の目標及び概要

沼津高専における各英語授業の目標及び概要　Ver.4

2010, 3, 12

	1年	2年	3年	4年		5年
M科	総合英語A、総合英語B 中学英語の復習をしながら、高校英語への橋渡し リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能をバランスよく高校で要求されるレベルまで引き上げる。 辞書の引き方、予習・復習の仕方などの基本的学習方法を身につけさせる。	総合英語A、総合英語B 1年次に学習した高校英語の基礎を土台に リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能をバランスよく発展させる。 高専生として授業中のあるべき態度、学習の姿勢を定着させることにより、積極的に英語を学習できる態度を育成する。	総合英語A、総合英語B 中学1年生から高専2年生までの既習事項を土台に 発展的リーディング力を養うことを目的とし、ライティング、リスニング、スピーキング活動も取り入れ、総合的な英語能力の養成 教科書の読解を中心に、音声教材、その他の教材の利用 音読や英作文の活動を通して、平易な英語で自分の考えを表出できる力を養成 【目標】英検準2級～2級程度の英語力	総合英語A(M、S、D、C科) これまでに身につけた英語運用能力を土台に 多様なトピックを題材にした大学1年生レベルの英文を用い て、 「内容の理解」「語彙・重要表現・文法学習」「音読」「リスニング」を中心とした活動を行う。 読んだり聴いたりした内容を積極的に口頭で発表する態度を身につける。 【目標】大学1年生レベルの英文を読み、内容の理解、英語らしい音読ができるようになる。身近な事柄について、口頭或いは文章で、自分の意見を表現できるようになる。	力学演習（通年）(H22年度から予定) 専門科目の問題を幾つか英文で与え、英単語の語彙を増やし、リーディング力を身につける	工業外国語Ⅰ 英語文書の読解能力、英語によるコミュニケーション能力. TOEICを題材とし、リスニング能力、リーディング能力 工業外国語Ⅱ 工業英検3級程度の英単語と文法の理解、機械工学分野の各種英文の訳と理解
E科	【目標】英検準2級程度の総合問題が7割程度理解できる能力 英語W 英文法を視覚的に理解する。 英語を「使える」ようになる。 「生きた」英文の紹介 「多読」の実行により、自然な英語が書けるようにする。	【目標】英検準2級程度の英語力 英語W 英文法の基礎知識の定着と応用力の養成 昨年度の問題集の続きと総復習 英作文を中心とした演習 リスニングやその他の英語運用能力を高める活動の取り入れ				工業英語 左記の二項に加え、科学技術の分野の簡単な説明文、操作指示書を英語で書くことができる。 工業英検3級に合格するレベルの応用知識を有する。
D科	【目標】英検準2級の文法問題が6割程度できる能力	【目標】英検準2級程度の文法事項が8割程度理解できる能力		総合英語A(E科) 今まで学習してきた知識を基礎に 易しい英字新聞程度の読解を行うことで、英文読解力を確かなものにする。 音読や英作文等の活動を通して、アウトプットする基礎能力を身につける。 【目標】英検2級程度の英文を読み、概要を把握できる読解力と文法力を身につける。平易な英語で、自分の考えをスピーキングや英作文で表すことができるようになる。	科学・技術に関する基本的な文章を読んで理解できる。 簡単な英文の技術報告書、取扱説明書、指示書、注意事項を解読できる。	工業英語 TOEICの問題形態を理解し、要求される基礎知識を整理しそれに基づいて復習できる。 国際的な仕事の現場で活用できる英語表現を熟知し、実際使用できる。
S科	英語C 中学3年間で学習した内容の英語を駆使しスピーキングに力を入れ、話す英語を習得する。 【目標】基本的な日常会話を話せるようにする。				工業英語Ⅰ 工業分野での技術論文、商品説明書、マニュアル類などの英文を読み、理解する基礎的な力 基礎英単語600語を和訳・英訳できるようにする。 工業英検4級の取得	工業英語Ⅱ 工業英検3級へのアクセスを目指す教科書で、工業英語の基礎を学ぶ。 技術論文の書き方に触れ、独特の言い回しを習得する。 卒業論文のアブストラクトの英作
C科					科学英語 高校の化学を題材にした英文の単語や熟語について日本語訳ができる。 高校の化学を題材にした英文の日本語訳ができる。	科学英語 卒業研究で扱う専門的な英字文献を読むことができる。 技術図書の種類の把握、技術文書の的確迅速な作成、環境負荷的な現状の課題の摘出、英文で技術文書の作成、プレゼンカ

（出典　英語教育改善WG委員会報告）

資料５－１－②－11

TOEIC IPテスト実施データ

沼津工業高等専門学校　様

～ TOEIC IPテスト 実施データ集計 資料集 ～

試験日 ：	2008年10月25日	377名
	2009年10月24日	399名
	2010年10月23日	407名

＝実施データ集計＆グラフ＝

- 平均スコア比較（全国高専生、学校との比較）
- スコア分布比較（全国高専生、学校との比較）
- 学年別　平均スコア比較（全国高専生、高校生、大学生との比較）
- 学年別　スコア分布比較（全国高専生との比較）
- 学年／年度別　平均スコア、スコア分布比較（全国高専生との比較）
- 学年／学科／年度別　平均スコア比較
- 4年生全体および学科別　TOTALスコア進捗状況
- 英検取得級／海外経験有無　平均スコア・人数集計
- 学年別　属性アンケート（Ⅰ～Ⅵ）　平均スコア・人数集計

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－12

TOEIC IPテスト実施報告

2009年度 沼津高専TOEIC® IPテスト

英語教育ワーキンググループ　舟　田　敏　雄

2009年10月24日㈯に、本校で３、４年生全員を対象に「沼津高専TOEIC® IPテスト」が実施され、受験者は399名（３年生206名、４年生193名）で、各学年在籍学生数に対する受験率は３年生95.8%、４年生91.9%でした。2008年度の受験者は377名（４年生185名、５年生167名）でしたので、受験率は向上しています。受験者の平均スコアは333点で３年生322点、４年生344点であり、昨年の平均スコア333点で４年生330点、５年生336点と比較すると、４年生の平均スコアが14点もアップし、2008年度の高専４年生7,149名の平均スコア332点をも超えました。今年度は、高スコア得点者は減りましたが、低スコア得点者が減り平均点が上がったことが特徴です。試験前後のアンケートではTOEIC® IPテストの取組を歓迎する回答や英語力アップを図りたいとの意欲的な声が聞かれました。

この試験は、沼津高専の「１－５年の準学士課程」と「４、５年と専攻科の学士課程」の全体を見越した英語教育の将来ビジョンの検討が進められて来る中で、本校の英語教育推進策の一環として昨年に続き実施されたものです。在学中に日頃の授業や自己学習の成果を試すためにTOEIC® IPテストあるいはTOEIC®公開テストを受験

資料５－１－②－12　続き

し、学力アップが加速され、ハイスコアが学生のキャリアアップになり、就職／進学に役立つものとなるよう計画されています。また、工学の専門教育を英語で実施することも将来計画に入っています。

昨年の試験を契機に、柳下校長より校長リーダーシップ経費で日本におけるTOEIC®テストを実施・運営する㈱国際ビジネスコミュニケーション協会賛助会員制度の正会員の入会手続きを行っていただきました。それにより、沼津高専は団体として様々なTOEIC®プログラム（TOEICテスト、TOEIC Bridge、TOEIC SW）を賛助会員価格で実施することができます。受験料の値下げがあり、今回の本校でのTOEIC® IPテスト受験料は「通常価格4,040円（税込）／１人」のところ、「賛助会員価格2,990円（税込）／１人」となります。さらに、ほかのTOEIC®プログラムでも賛助会員価格での実施が可能で、TOEIC®公開テスト受験料は「通常価格5,985円（税込）／１人」のところ、「賛助会員価格4,935円（税込）／１人」となります。

昨年度の沼津高専TOEIC® IPテストを契機に、その後TOEIC®公開テストを受験してスコアアップした学生もいます。そこで、本校でもTOEIC®公開テスト団体一括受験窓口を設け、第148回から第153回のTOEIC®公開テストに対応して来ました。受験者数は第148回11名、第149回17名、第150回（本校の団体受験はなし）、第151回23名、第152回49名、第153回25名となっており、各人で目標を持ちキャリアアップを図って回数と共にTOEICスコアも伸びており、学校での授業とTOEIC®公開テストとが学習成果・学園生活のリズムになりつつあるように見受けられます。これは、就職試験、大学編入学や大学院受験の際の学生の英語力のアピールに役立つものと思われます。

これらの背景として、H15－H20年の文部科学省の「英語が使える日本人」行動計画では、「国際社会に活躍する人材等に求められる英語力」として「各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する」ことが求められて来ました。また、技術者教育の国際化としてJABEEからTOEIC®テストを考慮した英語力達成基準の明確化が求められ、本校の技術者教育プログラムでは本科でのTOEIC®スコア350点以上を専攻科入学学力基準にしています。また、本校の「技能審査の合格に係る単位修得の認定について」によれば、「TOEIC®スコア860点以上は７単位」、(途中は省略)、「470－530点は１単位」が「外部修得単位」として認定されます。

引き続き2010年度には３、４年生に「沼津高専TOEIC® IPテスト」が計画されています。また、低学年（１、２年生）のTOEIC Bridge®から高学年（４、５年生、専攻科生）のTOEIC®テストとTOEIC® SWまで体系的な様々な英語教育の短・中期計画が進んでおります。６月に専攻科入学試験が実施される予定ですが、５年生の半数近くの専攻科受験が見込まれており、そこでのTOEIC® IPテストで高スコアを取得する合格者が数多く出ることが期待されます。

保護者の皆様におかれましても、校長を先頭に加速推進しつつある本校の英語教育推進策に、ご理解とご支援・ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

○TOEIC®テストはリスニング（45分間・100問）、リーディング（75分間・100問）、合計２時間で200問に答えるマークシート方式の一斉客観テストです。出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙に記入します。テストは英文のみで構成されており、英文和訳・和文英訳といった設問はありません。

○団体特別受験制度（IP：Institutional Program、以下IPテスト）とは、企業・学校・団体が独自に設定した日時・場所において、実施団体の管理の下で行われます。公開テストとは、TOEIC運営委員会が指定する日時・場所において、TOEIC運営委員会が主催するものです。公開テストとIPテストのテスト結果（スコア）の有効性は同一です。

○TOEIC®テストへのガイドブック「TOEIC® Style Book」が３、４年生に配布されました。また、大島副校長よりIPテスト受験学生への激励のコメントをいただきました。

○TOEIC®テストは、(1)合否ではなく10点から990点までのスコアで評価されます（スコア評価)。(2)TOEIC®テストは、世界約90ヶ国で実施されており、年間約500万人（日本国内では171.8万人：2008年度）が受験しています。グローバルスタンダード、「世界共通の基準」として活用することができます。(3)英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○TOEIC®テストの採用校は821校（大学449校、短期大学54校、高等専門学校58校、中等教育学校３校、高校235校、中学校22校（http://www.toeic.or.jp/toeic/pdf/data/TOEIC_2008.pdf）です。実社会においては、約1,900の企業で採用されています。企業においては、社員採用時・異動時・海外赴任選抜等で活用されています。

○「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想の策定について
（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm）

戦略構想の達成目標

◎国民全体に求められる英語力→
中学・高校での達成目標を設定。

- 中学校卒業段階：挨拶や応対等の平易な会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる（卒業者の平均が英検３級程度。)。
- 高等学校卒業段階：日常の話題に関する通常の会話（同程度の読む・書く・聞く）ができる（高校卒業者の平均が英

（出典　本校高専だより96号）

資料５－１－②－13

英語科のe-learning教材　ALCNetAcademy2



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－１－②－14

技能審査の単位修得の認定

13. 技能審査の合格に係る単位修得の認定について

1　学則第 18 条の第２項に規定する、その他文部科学大臣が別に定める学修のうち、次の表に掲げる技能審査に合格した学修については、これを本校で履修したものとみなし単位の修得を認定する。次の表以外の学修については、教務委員会で審議の上、年度当初公表する。

2　在籍中に得た学修についてのみ単位を認定する。

3　認定した単位の評価はＡとする。

4　単位の認定を受けようとする者は、「単位認定願」を、学級担任を経て、認定を希望する学年の学年末試験が開始される２日前までに合格証書の写を添えて校長〔教務係〕に提出しなければならない。

5　成績表への記載は、技能審査名、単位数及び評価Ａとする。

資料５－１－②－14　続き

整理番号	技能審査名		認定単位数		科目の種別	単位取得学年
1	実用英語技能検定	１級	7	重複修得の場合は、これらのうちから最高単位を承認する	一般科目	単位認定願が承認された学年
	〃	準１級	5			
	〃	２級	3			
	〃	準２級	1			
2	TOEIC(IPテストを含む)	860以上	7			
	〃	795～855	6			
	〃	730～790	5			
	〃	665～725	4			
	〃	600～660	3			
	〃	535～595	2			
	〃	470～530	1			
3	TOEFL(iBT)	100以上	7			
	〃	92～99	6			
	〃	81～91	5			
	〃	72～80	4			
	〃	64～71	3			
	〃	56～63	2			
	〃	48～55	1			
4	ドイツ語技能検定試験	３級	4			
	〃	４級	2			
	〃	５級	1			
5	工業英語能力検定	１級	6		専門科目	
	〃	２級	4			
	〃	３級	2			
	〃	４級(※１)	1			
6	ディジタル技術検定	１級 (情報部門)(制御部門)	4			
	〃	２級 (情報部門)(制御部門)	2			
	〃	３級	1			
7	機械設計技術者試験	３級	3			
8	CAD利用技術者	２級	2			
9	機械製図検定 (全国工業高等学校長協会)	(※２)	1			
10	電気主任技術者	理論	1	最大２単位まで。三種以上の資格を取得した場合は３単位		
	〃	電力	1			
	〃	機械	1			
	〃	法規	1			
11	陸上無線技術士	基礎	1	最大２単位まで。２級以上の資格を取得した場合は３単位		
	〃	無線Ａ	1			
	〃	無線Ｂ	1			
	〃	法規	1			
12	基本情報技術者		2			
13	応用情報技術者 (旧ソフトウェア開発技術者)		3			

(注)下位の審査で単位修得を認定された後に上位の審査に合格した場合は、上位の資格の単位数から下位の資格の単位数を減じた単位数を当該学年の認定単位数とする。
※１　平成16年度入学生から１～３学年取得のみ認定
※２　１～３学年及び編入学生が取得のみ認定

(出典　平成23年度学生便覧)

資料５－１－②－15

校内スピーチコンテスト

Subject: 【再送】校内英語スピーチコンテストのご案内

校長先生、教職員の皆様

英語科スピーチコンテスト担当の能登路です。
本日、１５時より、「第６回校内英語スピーチコンテスト」を、本校「第一視聴覚教室」にて開催いたします。今年度は、開催日が夏休み前の平日となり、一般の学生や先生方も参観しやすくなりました。授業中や校内の掲示を利用して、発表者以外の学生の参観も呼びかけましたが、皆様におかれましても、ご都合がよろしければ参観をしていただけたらと思います。発表者氏名とスピーチタイトルは、下記の通りです。

出場者（出場順）

① C1 杉澤宏樹 (Sugisawa Hiroki) The Most Important Thing
② D1 野崎優太 (Nozaki Yuta) Japan's Regional Differences
③ S4 赤沼亮介 (Akanuma Ryosuke) Music club and me
④ E2 大野京香 (Ono Kyoka) "Mottainai!"
⑤ D1 山田知史 (Yamada Tomofumi) The Importance of Relationships
⑥ D4 宮田昌輝 (Miyata Masaki) We can move mountains
⑦ M2 宮川綾音 (Miyagawa Ayane) My Passion Like Chocolate
⑧ C1 伊藤 輝 (Ito Hikaru) The Things What I Felt And What I Changed
⑨ D3 片山晃次郎(Katayama Kojiro) The Golden Experience

よろしくお願い致します。
英文原稿が載ったプログラムは、会場でお渡しいたします。

（出典　本校学内メール）

資料５－１－②－16

英語と日本語スピーチコンテスト

Subject: 第１９回 英語＆日本語スピーチコンテストの結果について

教　員 各位

第１９回 英語＆日本語スピーチコンテストの結果について

昨日、沼津市立図書館にて行われました沼津国際交流協会（NICE）主催「英語＆日本語スピーチコンテスト」に沼津高専の下記留学生３年・４年生　４名が出場しました。

Ｅ３　ン　ジェホン　「夢の扉を開けましょう」
Ｃ３　タオセンマニ　ウィエンサイ　「未来に残したいラオスの伝統文化」
Ｅ４　ウォンターウォン　ウィエット　「私の生活」
Ｄ４　グェン　クァン　フイ　「私の夢」

それぞれが素晴らしいスピーチでしたが、
日本語部門で、

Ｅ３　ン　ジェホン　１位
Ｄ４　グェン　クァン　フイ　２位

に入賞いたしました。
以上報告させていただきます。

学生課 教務係　青木さえ子

（出典　本校学内メール）

資料５－１－②－17

英国語学研修＆異文化体験プログラム

番号	氏名	クラス	性別
1	猪飼　航一郎	Ｃ２	MR　IKAI KOICHIRO
2	石井　優奈	Ｃ２	MS　ISHII YUNA
3	望月　玲於奈	Ｄ４	MR　MOCHIZUKI REONA
4	野村　千洋	Ｓ２	MR　NOMURA CHIHIRO
5	野中　大志	Ｄ１	MR　NONAKA TAISHI
6	酒井　香里	Ｄ３	MS　SAKAI KAORI
7	吉田　健人	Ｃ４	MR　YOSHIDA KENTO
8	渡辺　敦雄		

表１　　参加者名簿

２．４　日程

表２に示す。

日	曜日	AM	PM	夜
８月８日	日	Eastbourne 着		
８月９日	月	Lessons	Orientation session or local activity	Disco
８月 10 日	火	Lessons	Outdoor Lessons	
８月 11 日	水	Lessons	Brighton ツアー	
８月 12 日	木	Lessons	航空ショー	Pool party
８月 13 日	金	Lessons	Outdoor　sports	
８月 14 日	土	Hever 城見学		
８月 15 日	日	London で古川博士と面会と大英博物館見学		
８月 16 日	月	Lessons	Orientation session or local activity	
８月 17 日	火	Lessons	Cinema	

22

８月 18 日	水	Lessons	Hastings ツアー	
８月 19 日	木	Lessons	ボーリング大会	pizza party
８月 20 日	金	最終 Lessons	Outdoor　sports	
８月 21 日	土	London 自然史博物館見学		
８月 22 日	日	ヒースロー空港へ		
８月 23 日	月	０９００成田		

２．５　プログラムの目的

Many students from all over the world come to Ardmore Language Schools to learn and improve their English,　make new friends,　visit famous places and experience new cultures.

「世界各国からの学生が英語力の向上を目指して Ardmore Language School に来校し、友人を作り、名所を巡り、新たな文化に触れる」

（出典　英国語学研修＆異文化体験プログラム　最終報告書）

学生の実践的英語のコミュニケーション能力と国際感覚の向上を図るねらいで，平成 22 年度にはスピーチコンテストへの出場学生とイギリス語学研修への参加学生に対し英語を母国語をとする外国人講師を非常勤で依頼し指導を受ける計画（資料５－１－②－18）を作成し実行した。同様に，プレゼンテーションコンテストに出場する学生も同講師の指導を受けた(資料５－１－②－19)。平成 23 年度は，高専機構から募集のあった「英語（外国人）による専門教育」に対して授業企画を応募し採択された（資料５－１－②－20)。

資料５－１－②－18

英語ネイティブ講師の活用計画

授業外英語ネイティブ非常勤講師活用計画（案）

英語科教員代表　　塩谷　三徳

目的：沼津高専では英語を母国語とする常勤の教員がいないため、英語母国語者と話す機会は１年の「英語Ｃ」（全学生対象）と５年の「英会話」（選択外国語１クラス）に限られます。より多くの学生に英語母国語者と英語で会話させる機会を作ることをこの計画の第一の目的とします。

とはいえ全学生に対しての機会を均等に与えることはできませんので、７月までは「ＵＫへの研修旅行の参加者」と「校内スピーチコンテストの参加者」を定期的指導の対象とします。加えて、英語母国語者と授業で接する機会が全くない学生から希望者を募り、小集団を対象に自由に英会話をする時間を提供したいと思います。

英語科では、このような活動が、学生の実践的英語のコミュニケーション能力と国際感覚の向上、英語学習に対する動機付けなどにつながると考えています。

実施期間：５月中旬から７月下旬まで（実施状況が良好の場合は９月以降も継続希望）
中間試験前の６月１日を除く
曜日：火曜日　１５：００～１７：００
場所：旧林教員室（現在は空き部屋）
＊英語科教員３名のうち１名が順番に非常勤講師と学生の取りまとめ役となる。

業務①　固定した集団に対しての指導
・【夏のＵＫへの研修旅行参加者】への英会話研修
日常的な英会話や生活習慣など
・【校内スピーチコンテスト参加者】へのスピーチ及び原稿の添削指導

業務②　希望者に対しての英会話
・【１年生全員と５年「英会話」選択者を除く学生を対象としたネイティブとの会話の時間】ということで参加者を募る。学生２～３人でローテーションを組み、１回３０分で自由に英会話をする時間を設定し、より多くの学生がネイティブに接することができるような計画を立てる。

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－19

全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストの指導実績

「第4回 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」出場のための指導

場所　　管理棟2階　第2会議室

日時(Date)			日程(Schedule)
1-Oct	Fri		
2-Oct	Sat		
3-Oct	Sun		
4-Oct	Mon	15:30-16:30	第1回指導(1st guidance)
5-Oct	Tue		
6-Oct	Wed		4年生工場見学
7-Oct	Thu		4年生工場見学
8-Oct	Fri		4年生工場見学
9-Oct	Sat		
10-Oct	Sun		
11-Oct	Mon		
12-Oct	Tue	7:45-8:45	第2回指導(2nd guidance)
13-Oct	Wed		
14-Oct	Thu		
15-Oct	Fri	7:45-8:45	第3回指導(3rd guidance)
16-Oct	Sat		
17-Oct	Sun		
18-Oct	Mon	15:00-16:00	第4回指導(4th guidance)
19-Oct	Tue		
20-Oct	Wed	7:45-8:45	第5回指導(5th guidance)
21-Oct	Thu		
22-Oct	Fri	7:45-8:45	第6回指導(6th guidance)
23-Oct	Sat		
24-Oct	Sun		
25-Oct	Mon	15:00-16:00	第7回指導(7th guidance)
26-Oct	Tue		
27-Oct	Wed	7:45-8:45	第8回指導(8th guidance)
28-Oct	Thu		
29-Oct	Fri	7:45-8:45	第9回指導(9th guidance) (1st DVD Recording)
30-Oct	Sat		
31-Oct	Sun		
1-Nov	Mon	15:00-16:00	第10回指導(10th guidance) (Watching the 1st DVD)
2-Nov	Tue		
3-Nov	Wed		
4-Nov	Thu		
5-Nov	Fri	7:45-8:45	第11回指導(11th guidance) (2nd DVD Recording)
6-Nov	Sat		高専祭
7-Nov	Sun		高専祭
8-Nov	Mon	15:00-16:00	第12回指導(12th guidance) (Watchning the 2nd DVD)
9-Nov	Tue	7:45-8:45	第13回指導(13th guidance)
10-Nov	Wed	7:45-8:45	第14回指導(14th guidance) (First Recording)
11-Nov	Thu	7:45-8:45	第15回指導(15th guidance) (Final Recording)
12-Nov	Fri	7:45-8:45	第16回指導(16th guidance) (Backup) Deadline of DVD submission for pr
13-Nov	Sat		
14-Nov	Sun		
15-Nov	Mon		14回目以降は、予選通過後決定する。
16-Nov	Tue		
17-Nov	Wed		
18-Nov	Thu		
19-Nov	Fri		
20-Nov	Sat		
21-Nov	Sun		
22-Nov	Mon		
23-Nov	Tue		
24-Nov	Wed		
25-Nov	Thu		
26-Nov	Fri		
27-Nov	Sat		
28-Nov	Sun		
29-Nov	Mon		
30-Nov	Tue		
1-Dec	Wed		
2-Dec	Thu		
3-Dec	Fri		
4-Dec	Sat		
5-Dec	Sun		
6-Dec	Mon		Announcement of winner on preliminary
7-Dec	Tue		
8-Dec	Wed		
9-Dec	Thu		
10-Dec	Fri		

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－20

外国人講師による専門授業

「平成２３年度 英語（外国人講師）による専門授業」採択授業一覧

このことについて、留学生交流促進センター運営専門委員会で検討した結果、以下の８高専１４案件が採択されました。

審議においては、高専の専門科目の授業として有意義であり、かつ、他高専のモデルになると期待される案件のうち、限られた予算内での実現可能性を維持するため、次のような点を重視して選考しました。

１．新規案、国内在住の講師による案、受講者数のなるべく多い案を優先

２．実施高専および被招聘講師出身地の地域性を考慮

旭川高専	・専攻科生産システム特別ゼミナールⅠ，Ⅱ（講演形式授業） ・専攻科応用化学特別ゼミナールⅠ，Ⅱ（講演形式授業）	２案件
富山高専 (射水ｷｬﾝﾊﾟｽ)	・数学・物理学演習	１案件
沼津高専	・How to become a global engineer （合同講義）	１案件
明石高専	・①都市地域計画　②地域計画演習Ⅰ　③人間環境構成論 ④設計演習Ⅲ　⑤造形	１案件
呉高専	・微生物学（環境都市工学科）	１案件
大島商船高専	・①内燃機関（商船学科）　②補助機械工学　（商船学科） ③実験実習（商船学科）④機関システム工学	１案件
北九州高専	・（１）現代技術論（講演形式）（２）特別研究Ⅰ（講演形式）	６案件
鹿児島高専	・①機械・電子システム工学特別講義Ⅰ　②電気情報システム工学特別講義Ⅰ　③土木工学特別講義Ⅰ	１案件

採択金額等については、各高専に個別にお知らせいたします。

（出典　教務主事資料）

（分析結果とその根拠理由）

授業科目の選択の幅を広げるとともに，企業技術者を活用した共同教育によるものづくりステップ・アップ実践プログラムの実施，キャリア教育の導入，英語によるコミュニケーション能力と国際感覚の育成を配慮した取組み，そして社会の要請に応え平成24年度より学際教育カリキュラムの導入を計画していること等により，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

工学技術の専門的知識を創造的に活用できる能力に結びつけるように，全ての学科の教育課程において，実験・実習・演習を重視し，全学年に渡り座学と実験・実習・演習をバランスよく配置している（資料５－２－①－１）。自ら考え行動できる実践的な技術者を育成する目的で，全学科で PBL 型授業を実施している（後出資料５－２－③－１～16)。一般科目の授業でも物理実験（資料５－２－①－２，３）で PBL 型授業を取り入れ，発表会には専門学科教員が参加して学生にコメントするなどしている。５学年では，教員一人当り４～５名の学生を担当し少人数教育で卒業研究の指導をしている。卒業研究は本校教育目標の全てを包含する総合的科目と位置付けている（資料５－２－①－４）。

それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法について各科目担当教員が工夫しており，平成 21 年度と 22 年度にその情報を収集して本校学内限定ウェブページに掲載し，全教員が情報共有できるようにした（資料５－２－①－５）。その他，具体例として少人数による演習（資料５－２－①－６，７），複数教員によるチームティーチング（資料５－２－①－８）など工夫がなされている。

資料５－２－①－１

５学科の講義・演習・実験実習の構成割合

学科名	学年	合計単位数				
		割合%	講義	演習	実験実習	累計
機械工学科	1年	合計単位数	4		5	9
		割合%	44.4		55.6	100
	2年	合計単位数	4	2	5	11
		割合%	36.4	18.1	45.5	100
	3年	合計単位数	11		5	16
		割合%	69		31	100
	4年	合計単位数	19	3	6	28
		割合%	67.9	10.7	21.4	100
	5年	合計単位数	14	1	14	29
		割合%	48.3	3.4	48.3	100

学科名	学年	合計単位数				
		割合%	講義	演習	実験実習	累計
電気電子工学科	1年	合計単位数	6		3	9
		割合%	66.7		33.3	100
	2年	合計単位数	8		4	12
		割合%	66.7		33.3	100
	3年	合計単位数	12		5	17
		割合%	70.6		29.4	100
	4年	合計単位数	25		4	29
		割合%	86.2		13.8	100
	5年	合計単位数	17		13	30
		割合%	56.7		43.3	100

学科名	学年	合計単位数				
		割合%	講義	演習	実験実習	累計
電子制御工学科	1年	合計単位数	5		3	8
		割合%	62.5		37.5	100
	2年	合計単位数	6	2	3	11
		割合%	54.5	18.2	27.3	100
	3年	合計単位数	10	4	4	18
		割合%	55.6	22.2	22.2	100
	4年	合計単位数	13	5	9	27
		割合%	48.1	18.5	33.3	100
	5年	合計単位数	17	2	10	29
		割合%	58.6	6.9	34.5	100

学科名	学年	合計単位数				
		割合%	講義	演習	実験実習	累計
制御情報工学科	1年	合計単位数	4	4		8
		割合%	50	50		100
	2年	合計単位数	4	6		10
		割合%	40	60		100
	3年	合計単位数	11	4	2	17
		割合%	64.7	23.5	11.8	100
	4年	合計単位数	23		5	28
		割合%	82.1		17.9	100
	5年	合計単位数	22		11	33
		割合%	66.7		33.3	100

学科名	学年	合計単位数	1			
		割合%	講義	演習	実験実習	累計
物質工学科	1年	合計単位数	3	2		5
		割合%	60	40		100
	2年	合計単位数	4	1	8	13
		割合%	30.8	7.7	61.5	100
	3年	合計単位数	10		8	18
			55.6		44.4	100
	4年	合計単位数	18	1	8	27
		割合%	66.7	3.7	29.6	100
	5年	合計単位数	14		11	25
		割合%	56.0		44.0	100

学外実習，留学生・編入生の科目を除く
一般科目を除く

（出典　平成23年度学生便覧　教育課程より集計）

資料５－２－①－２

シラバス（物理実験）

学科 学年	２年 M, E, D, S	科目 分類	物理実験 Physics Experiment	実験 必修	後期 1履修単位	学習教育 目標 2	担当	勝山　智男 Katsuyama Tomoo

概　要	本実験では、Problem-based learning(PBL)の思想に基づき、学生が数人のグループを作り、自由にテーマ・目的を選択して実験を行う。学生が互いに協力して実験を行うことにより、独創性、計画性、自主性を育み、一つの実験を企画立案・遂行する方法を習得させる。また、全員に口頭発表を行わせ、基本的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。その際、学生に相互評価を行わせることで客観的な理解力を養う。質問等に答えられない場合や不十分と判断された場合は、学生の自己責任で再度発表を行わせる。併せて、2年生の物理で学ぶ波動などに関する全体共通実験も行う。
科目目標 （到達目標）	・実験計画の作成法を理解する。・実験作業経過の作成法を理解する。・相互に協力し、各テーマの背後にある物理法則を理解する。 ・基礎的なプレゼンテーション資料の作成を習得する。・基本的な口頭発表の手順を理解する。 ・波動の性質、共鳴を実験を通して理解する（全体実験）。
教科書 器材等	自由実験プリント、及び１，２年物理で使用している教科書
評価の基準と方法	自由実験の作業報告書と実験の独自性（コンペティションテーマの場合は順位）の評価を40%、発表の内容と表現，および質疑討論の評価を40%、全体実験のレポート評価を20%とし、合計を評価点とする（100点満点）。合格点を60点とする。
関連科目	物理（１，２年）

授業計画

	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）
第 1回		ガイダンス，実験計画書の作成
第 2回		全体実験「気柱の共鳴」
第 3回		自由実験
第 4回		自由実験
第 5回		自由実験
第 6回		自由実験および調査
第 7回	×	調査，考察およびまとめの作成
第 8回	×	発表概要の作成
第 9回	×	発表原稿の作成
第10回		プレゼンテーションについての説明、発表の準備
第11回		口頭発表と討論
第12回		口頭発表と討論
第13回		口頭発表と討論
第14回		口頭発表と討論
第15回	×	講評とまとめ

オフィスアワー	月曜，火曜の放課後
授業アンケートへの対応	学生が主体的に実験に取り組めるよう指導したい。
備　考	実験や発表会の進行状況に応じて，プログラムの一部を全体実験（感光器の製作など）に変更することがある。
更新履歴	20110323 新規

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－①－３

物理実験の配布資料

＜自由なアイデアと発表能力を養う自由実験＞　H22 年度版

担当　　勝山・増田

目的　・**興味のもてるテーマ**を選定し、創意工夫のもとに問題を解決する。
・**自分達で**計画を立て、話し合いながら実行する力を養う。
・成果を**他人が理解できるように発表**する。
・可能な限り**定量的(数値で表す)**に実験を行い、背後の物理法則との関係を明らかにする。
・そして、最も大切なことであるが、**科学を楽しみながら学ぶ**。

予定　1 週目　：プリント配布、内容説明、グループ編成、「実験計画書」を配布
2 週目　：授業開始時に「実験計画書」を提出（他の通常実験を行う）
3-5 週目：実験、作業または考察
6 週目　：考察（必要があれば作業）
7-8 週目：発表の準備及び考察（実験を考察しレポートにまとめて提出）
9 週目　：発表の準備（発表の概略を作成し提出。発表の練習をする）
10-12 週目　：OHP またはプロジェクターなどを用いての発表（ビデオなども使用可）
各グループとも　**発表10分　＋　質疑応答3分**　**必ず時間厳守**
グループ内で分担し、必ず全員が発表する！
また、他班の発表を聞き、それを 10 点満点で評価してもらいます。
13 週目　「自由実験総括」の提出
14-15 週目　：　感光器の製作または通常実験，予備日

義務　・**自己責任**のもとに選択したテーマは最後までやり通す。
・実験を始める前に実験の目的を決め、それを実行する予定を計画し「**実験計画書**」を提出。
・必ず定量的な測定を行う。
・毎週、進行状況を「**作業報告書**」にまとめ提出する
（**作業内容、その結果と物理的考察、次週の計画**などを要領よくまとめる）
・　グループ内で役割分担を明らかにし、積極的に実験を行う。**他人任せはもってのほか！！**
・　発表の際質問に答えて説明できること。答えられない場合は、次週に**再発表**になります。
・　発表では，実験の様子を表す図と測定結果のグラフを必ず示すこと。

評価　・実験の着想、企画力と、その結果の良し悪し。テキストの指示通りでなく、自分達で新たに考えた実験方法や考察を加えることを望む。
・実験にとりくむ姿勢・態度（重要）
・作業報告書、レポートの内容
・自分たちの行ったこと理解したことを、**的確に相手に伝える力**（重要）
・図やグラフのわかりやすさと正確さ

参考　・先輩たちの結果が http://physics.numazu-ct.ac.jp/lab/labmain.htm の「２年自主実験」にあります。(必ずしも正しい結果ではない) また、それを丸写しした場合は評価の対象外とする。

1

資料５－２－①－３　続き

・書籍やインターネットを使って調べ、いろいろなアイデアを吸収してみる。
・自分のノート型パソコンを持ち込んでもよい。（有線・無線 LAN 使えます。）

その他 ・実験の準備、片付けは自分で行う。また、**交代で教室を掃除する。**
・授業時間中、勝手に教室から出ない。必ず教員の許可をとること。また、図書館・情報処理センターなどに行った場合は授業終了１５分前に戻ってきて、成果を報告し作業報告書を提出する。無断で教室を出入りした場合１０点減点。

― 実験テーマ ―

PBL（Project/Problem based Learning）の方針に基づき、以下のテーマから選択して独自の実験を行います。

・Competition 部門（各テーマ３班まで）
『この部門は各班が独自性を発揮して競争し、１位１５点、２位１０点、３位５点の評価をします』
★発表の際、「なぜそうしたのか」、「なぜ上手くいった（いかなかった）のか」を物理と関連づけて説明できるかどうかが重要です。

1　**風上に向かって進むヨット**

2　電池をつくろう

・Research 部門（各テーマ１－２班）
『この部門は独自な研究テーマを計画して実験を行い、着眼点・結果の良し悪しについて評価します』
★発表の際には、「この実験方法の目的は何か」、「実験方法のポイントは何か」、「結果から分かることは何か」を物理と関連付けて説明できるかどうかか重要です。

3　**霧箱の製作と放射線の観察**

4　**強力磁石の性質**

5　**身の周りの電磁波とその性質**

6　**熱気球**

7　**液体窒素を使った超低温の世界**

8　**LED（発光ダイオード）を科学する**

9　**アルミパイプの風鈴**

10　**音速の測定**

★実験中の写真、ビデオなどは残しておく方がよい。発表の際利用することを考えて残しておくこと。

実験計画書の書き方 **（1 週間後の授業開始前に提出）**
・実験の目的（何を明らかにするか、どのような物理法則と結びつくのか）
・必要とする実験道具（可能な限り身の周りの日用品を工夫して用いる）
・３週間分の実験の実施予定（具体的に何をどこまで行うか計画する。特に**どんな物量を測定するのか？**同じことを２回、３回とやっても意味はない。条件を変えるなど、様々な方法を考えてみる。）

2

（出典　本校授業の配布資料）

資料５－２－①－４

シラバス（機械工学科の卒業研究）

Syllabus Id	syl.-112-326
Subject Id	sub.-112-105900
作成年月日	110322
授業科目名	卒業研究　Study for graduation
担当教員名	小林隆志ほか（機械工学科全教員）　KOBAYASHI Takashi et al.
対象クラス	機械工学科5年生
単位数	8履修単位
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	研究
実施場所	機械工学科各教員室および各教員研究室（ガイダンス等に従う）

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

機械工学科1学年から5学年までの教育プログラムにおける学習・教育のまとめとして、機械工学科各教員研究室において、主体的に自分の研究に取り組む。高専5年次までに修得し、なお修得しつつある機械工学科および本教育プログラムが目標とする広範な知識と技術を基礎として、研究を通して新しい問題への取り組み方、自立的で継続的な問題解決の方法と態度を取得するとともに、工学技術の社会的、産業的役割を理解し、討論の方法を身につけ、成果について発表し、卒業論文としてまとめる。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

機械工学科における教育プログラム教科目の授業・演習・実験・実習

学習・教育目標

Weight	目標	
○	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
○	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
○	D	国際的な受信・発信能力の養成
○	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

A:社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
B:数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力
D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力
E:産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

A. 社会的責任の自覚と，地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける．
1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し，技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる．
2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ，問題点と課題を理解し，技術者として適切に対応する方法について提案することができる．
3. 二つ以上の異なる文化，価値観に基づく，工学技術に関する事項のとらえ方の差違を理解し，説明できる．
4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる．
※ 上記4項目のうち最低1項目達成できる．

B. 数学，自然科学，情報技術を応用し，活用する能力を備え，社会の要求に応える姿勢を身につける．
1. 代表的な物理・化学現象を，数学または情報処理の知識を用いて解析し，その応用例を示すことができる．
2. ワープロ，表計算ソフト，データベースソフト，プレゼンソフトを活用して，学習・研究上の資料を処理し，管理することができる．
3. 実験／計算／フィールドワークを通じて自然現象を観測し，そこから現象の法則性を抽出することができる．
4. 自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として，シミュレーションすることができる．
※ 上記4項目のうち最低1項目達成できる．

C. 工学的な解析・分析力，及びそれらを創造的に統合する能力を身につける．
1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し，創造性を発揮して課題を探求し，組み立て，解決することができる．
2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ，いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験／計算／フィールドワークを計画・遂行し，データを正確に解析し，工学的に考察し，その重要性を説明・説得することができる．
3. 自己の取り組む研究課題に関して，工学技術上の機能的評価のみならず，安全性，経済性，環境負荷を考慮した社会的評価ができる．
4. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で，必要とされるデザイン能力について理解し，説明できる．
※ 上記4項目のうち複数項目達成できる．

D. コミュニケーション能力を備え，国際社会に発信し，活躍できる能力を身につける．
1. 日本語で，自己の学習・研究活動を報告し，質問に答えることができる．

2. 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる.
※ 上記1は必須とする

E. 産業の現場における実務に通じ，与えられた制約の下で実務を遂行する能力，および自主的，継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける.

1. 指定された期限内に，課題を提出できる.
2. 工学技術に関する課題について，チームで取り組み，その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる.
3. 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を，定期的・継続的に読むことができる.
4. 自主的なゼミ・研究会を組織して，学習・研究活動を行うことができる.
※ 上記4項目のうち最低1項目達成できる.

授業計画（プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）

日付	メインテーマ	サブテーマ	参観
04/07	ガイダンス・週報	概要・シラバス説明・週報について	
04/08	ガイダンス・配属	各卒業研究のガイダンス・卒研割り振り決定	
04/11 ～ 04/28	企画・立案	研究内容調査，研究テーマの絞り込み，年間計画立案	
05/06 ～ 06/17	環境構築・学習	研究環境の構築，基礎事項の学習	
06/20 ～ 06/24	工学倫理(1)	工学倫理に関する作文（手塚・山中）	
06/27 ～ 07/04	第1回週報チェック	担当教員による週報内容確認・面談	
07/07 ～ 07/25	実験・解析	研究目的達成のための実験や解析など	
08/04 ～ 08/06	一日体験入学	各卒業研究室にて展示の準備，および展示	
09/26 ～ 09/30	第2回週報チェック	担当教員による週報内容確認・面談	
10/03 ～ 10/21	実験・解析	研究目的達成のための実験や解析など	
10/24 ～ 11/06	高専祭展示	各卒業研究室にて展示の準備，および展示	
11/07 ～ 11/18	英文表現	研究に関連する英文の作成（意義，目的，概要など）	
11/21 ～ 11/25	工学倫理(2)	担当教員による講演:「民間企業における工学倫理」（手塚・山中）	
11/28 ～ 12/02	第3回週報チェック	担当教員による週報内容確認・面談	
12/05 ～ 12/08	中間発表会準備	実験・シミュレーション，工学的分析・解析などを中心とする発表準備とその発表	
12/09 ～ 12/16	中間発表会		
12/19 ～ 12/21	中間発表会反省	研究室毎，発表方法・内容に関する指導	
01/05 ～ 01/20	まとめ	実験データ・解析結果のまとめ	
01/23 ～ 01/27	第4回週報チェック	担当教員による週報内容確認・面談	
01/30 ～ 02/07	卒論執筆・発表準備	卒業論文の構成，執筆内容の検討，および卒研発表準備	
02/17	卒論仮提出	担当教員による提出・内容の確認　16:00〆切（1部）	
02/21 ～ 02/23	卒論修正	必要に応じて内容の修正・追加	
02/24	卒論提出	卒業研究の総まとめ　16:00〆切（5部）	
02/27 ～ 02/29	発表準備	指導教員による発表内容の指導を伴う卒研発表準備	
03/01	卒研発表会	研究内容の最終報告	

注:授業計画は上記の通りであるが、指導教員により多少異なる場合があるので、受講学生は各指導教員のガイダンス等にしたがうこと。

課題

下記の課題が学生個人に課される。なお、各々の課題の詳細について連絡が必要な場合には，木曜日の5時限目に行う.

1. **（週報）**一週間の実施内容を，下記の5つの項目別に番号を付けて具体的に記載しする.
「①実施内容・成果　②新たに理解した事　③自ら発想・工夫したこと　④疑問点　⑤今後の課題と期限」
毎週最後に，担当教員に提出してコメントをもらう.
評価を受ける範囲は，指定された評価期間の前の分までとする.
評価を受ける際は，1週目分から全て1つのExcelファイルに保存し，評価を受けた分全てを指導教員を通じて提出する.
評価の実施は，6，9，11，1月の，計4回とする.
週報を付ける期間は4/11～2/6とし，正規の卒研以外の時間の分は任意とする.
指導教員（主査）より，前期分（9/30までの分）および後期分（2/6までの分）の評価を受ける.

2. **（中間発表会）**指導教員からの日常的な指導内容を参考に，技術表現演習で学んだプレゼンテーション技術に基づき，口頭発表する.
発表内容は必ず学生自身が作成し，担当教員の発表内容に関する修正は受けない事とする.
中間発表後に，その発表内容の指導を指導教員より受け，卒研発表の参考とする.
発表の班や順は，研究室単位ではなく分散させる．詳細は実施前に連絡する.
時間配分は，6分発表／3分質疑応答／1分交替，合計10分／人とする.

資料５－２－①－４続き

3. **(卒業論文)** 週報の記載内容や中間発表の結果，日常的な活動などをもとに，卒業研究の成果を論文としてまとめる．
論文枚数はA4用紙2～4枚とし，フォーマットは別に定めるので，それに従う．
仮提出時には1部，締切時は5部，提出する．

4. **(卒業研究発表会)** 論文としてまとめた卒業研究の成果を学科内で発表し，質疑応答を行う．
時間配分は，6分発表／2分質疑応答／1分交替，合計9分／人とする．

5. **(工学倫理)** 工学倫理についての講義を受け，与えられた課題を実施する．

6. **(英文表現)** ①学生は最低2ヶ月に1回（年間最低4回），研究テーマに関連する英文論文や洋書などの参考文献を検索し，辞書を使って読解する．読解した内容をA4用紙1枚程度に報告書としてまとめ，指導教員に提出する．
②11月に卒業研究のテーマにおける，社会的意義，研究目的，概要，実験・解析内容などを英文で記述する．
書式などは別に定める．英文内容はそれまでの卒業研究内容をもとに作成し，提出は，初版から指導教員による修正後の分まで全てとする．

提出期限　　：課題毎に設定
提出場所　　：課題毎に設定
オフィスアワー：指導教員毎に設定

評価方法と基準

評価方法：

以下に示す，週報，中間発表会，卒業論文，卒業研究発表会，工学倫理ならびに英文表現による達成度検査をもって，目標達成度試験に代えるものとする．なお，下記に示す評価基準の表における○印の項目について0.5点刻みで，10点満点で評価するものとする．

1.**(週報)** 卒研担当教員が半期毎，評価担当教員が年4回，記載内容について面接を行う．
2月分の評価は，指導教員の後期分の評価に含めるとする．
2.**(中間発表会)** 各グループに割り当てられた教員が，学生の発表内容や質疑応答に対して評価する．
3.**(卒業論文)** 主査および副査が読み，評価する．
4.**(卒業研究発表会)** M科教員全員により，発表内容および質疑応答について評価する．
5.**(工学倫理)** 担当教員により，レポートまたは作文試験にて評価する．
6.**(英文表現)** 実施・作成過程を，研究指導教員が評価する．

評価基準：

下記割合で各項目について評価し，総合得点が60点以上を合格とする．

	週報	中間発表会	卒業論文	卒業研究発表会	工学倫理	英文表現
A			○	○	○	
B			○	○		
C	○	○	○	○		
D-1	○	○	○	○		
D-2						○
E	○	○	○	○	○	○
E-1	○	○	○	○	○	○
評価割合	20%	20%	20%	30%	5%	5%
主査	12%	－	12%	15%	－	－
副査	8%	－	8%	15%	－	－

教科書等	各担当教員より指示される。
先修科目	機械工学科の4年次までの授業・演習・実験・実習。5年次授業・演習・実験・実習は並行授業とする。
関連サイトのURL	http://www.numazu-ct.ac.jp
授業アンケートへの対応	「教員の説明の仕方は分かり易かったですか？」に対し，4分の1以上の学生が「悪い」と答えている．しかし，H21年度より2年間，卒業研究に関する説明をシステマティックに実施するよう心掛けている．特にH22年度は，連絡事項や事務的な手続の指導を指導教員に任せるのではなく，木曜日5時限目に全学生にまとめて実施するよう改善した．したがってここの学生の評価は，各研究室内での印象の可能性もある．しかし卒業研究は本来，教えてもらって実施するのではなく，学生が主体で進めるべきものである．本年度は学生にその点を強調し，改善していきたい．
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－①－５

新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例

「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」
（１）報告者氏名
勝山　智男
（２）該当科目の名称、実施学年、単位数、必修・選択の別
物理実験、２年ＭＥＤＳ科、１単位、必修
（３）新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの概要
ＰＢＬ方式の実験のなかで、成果報告と質疑に十分な時間をかけた。
発表会で、全員一度は質問することを義務付けた。
他班の発表を相互採点させた。
（４）得られた教育的効果
・他人の発表を集中して聞くようになった。
・質疑応答がみちがえるように充実した。
・おおくの実験を漫然とやるより、ずっと効果的。
（５）他の教科への応用可能性
時間がかかるので、通常の座学には応用しにくい
（６）今後の改善予定
・発表に時間をかける分、実験の実時間が減る。バランスが大切。
（７）その他
ＰＢＬは、ドキュメントをたくさん書かせることが重要。

「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」
（１）報告者氏名
小林　隆志
（２）該当科目の名称、実施学年、単位数、必修・選択の別
機械設計製図Ⅳ、Ｍ４、３単位、必修
（３）新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの概要
・パンタグラフ式ジャッキの設計・製作を元ホンダの技術者の高松先生に指導していただいた。（後期１５週）
８グループに分かれて，５～６名の小グループでジャッキの強度設計を行った。設計したジャッキを，実習工場で製作し，完成したジャッキの強度試験を実施した。最後に，問題点をまとめ，発表した。
（４）得られた教育的効果
・チームで協力して作業する体験ができた。
・実際に自分の設計したものを製作することにより，設計とともに製作上の問題点を認識することができた。
・強度試験を行うことにより，設計上の問題点を身をもって体験することができた。
・設計・製作上の問題点を整理して，まとめることができた。
（５）他の教科への応用可能性
機械系科目では，実際に機能する製品を設計・製作する体験をすることが大切であるが，製作の時間的制約があるので，多くの科目で実施することは困難である。
（６）今後の改善予定
・ジャッキ製作前の図面の最終確認が十分でなかったので，全体の時間配分を検討したい。
（７）その他

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－２－①－６

シラバス（制御情報工学科のプログラミング演習Ⅲ）

学科 学年	S３	科目 分類	プログラミング演習III Exercise in Programming III	演習 必修	通年 ２履修単位	学習教育 目標 3	担当	鈴木茂樹 SUZUKI, Shigeki
概　要		コンピュータ統合システムを構築するための基盤となる能力の育成を目的として，プログラミング演習を行う． C++言語を用いて実際にプログラミングすることによって，オブジェクト指向プログラミングについての基礎を学ぶ．						
科目目標 (到達目標)		オブジェクト指向プログラミングの３つの概念，カプセル化，継承および多態について理解し，C++を用いて簡単なクラス設計ができることを目標とする．						
教科書 器材等		ハーバート・シルト著，　独習Ｃ＋＋，　翔泳社						
評価の基準と 方法		レポート内容40%，小テスト20%，出席20%，演習態度20%として評価する．						
関連科目		「データ構造とアルゴリズム」であつかうテーマに関連した演習を行う．						
授業計画								
		クラスを約２０名づつの班に分け，プログラミング演習IIIとメカトロニクス演習IIIを，通年隔週交互に受講する．						
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できます)						
第 1回		プログラミング言語C++の概説						
第 2回		クラスの概念（カプセル化の概念）簡単なクラスの設計						
第 3回		参照の考え方，関数の多重定義						
第 4回		コンストラクタとデストラクタ						
第 5回		テンプレート(スタッククラス)						
第 6回		メモリの動的確保(多次元ベクトルクラス)						
第 7回		メモリの動的確保(線形リストクラス)						
第 8回		継承						
第 9回		さまざまなデータ構造の実現(待ち行列クラス)						
第10回		さまざまなデータ構造の実現(双方向循環リストクラス)						
第11回		さまざまなデータ構造の実現(木構造クラス)						
第12回		多態，抽象クラス，仮想関数						
第13回		名前空間，ＳＴＬ						
第14回		Qtの紹介						
第15回		まとめ						
オフィス アワー		月曜日17時～18時						
授業アンケート への対応		板書内容についてわかりやすく整理する．						
備　考								
更新履歴		20110323新規						

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－①－７

シラバス（制御情報工学科のメカトロニクス演習Ⅲ）

学科 学年	S3	科目 分類	メカトロニクス演習Ⅲ Exercise in Mechatoronics Ⅲ	演習 必修	H23通年 2履修単位	学習教育目標 2	担当	大久保進也 Shinya OHKUBO

概　要	本演習は，組込みシステムなど，コンピュータ統合システムを構築するための基盤となる能力の育成を目的とした演習である． マイクロコンピュータ（マイコン）およびネットワーク環境を用いて，自走式の移動型ロボットシステムを開発する．コンピュータシステムをより深く理解するとともに，コンピュータによる外部機器の制御の実際を学ぶ．
科目目標 （到達目標）	2年間学んできたC言語の知識を生かしながら，コンピュータハードウエアについての理解を深め，外部機器を扱うプログラムの開発ができることを目標とする
教科書 器材等	配布する指導書，貸与する機材：マイコン，ノートパソコン，ロボットの機体ベースなど．（必要に応じて，工具セットを持参する．服装は上は作業着を着用．また安全のため，スリッパなど，必ず上履きを持ってくること．）
評価の基準と方法	レポート内容50%，完成ロボット走行試験20%，出席10%，演習態度20%として評価する．走行試験においては，自己評価および他の班の評価も含む．
関連科目	メカトロニクス演習Ⅰ，Ⅱおよびプログラミング演習Ⅰ，Ⅱ，電気回路，電子回路

授業計画

	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）
第 1回		ガイダンス，安全教育，組込み型システムと演習の概説
第 2回		Cプログラミングの復習①
第 3回		Cプログラミングの復習①
第 4回		Cプログラミングの復習②
第 5回		Cプログラミングの復習②
第 6回		マイコンの基礎①（マイコンの使用方法．LEDの発光制御）
第 7回		マイコンの基礎①（マイコンの使用方法．LEDの発光制御）
第 8回		マイコンの基礎②（IOポートによるモーター制御）
第 9回		マイコンの基礎②（IOポートによるモーター制御）
第10回		マイコンの基礎③（AD変換による信号の取り込み）
第11回		マイコンの基礎③（AD変換による信号の取り込み）
第12回		EVOROBOⅢ号の製作①（マイコンと本体との配線と基本動作）
第13回		EVOROBOⅢ号の製作①（マイコンと本体との配線と基本動作）
第14回		EVOROBOⅢ号の製作②（動作プログラムの作成）
第15回		EVOROBOⅢ号の製作②（動作プログラムの作成）
第16回		EVOROBOⅢ号の製作③（AD変換を応用した動作）
第17回		EVOROBOⅢ号の製作③（AD変換を応用した動作）
第18回		走行会①
第19回		走行会①
第20回		メカトロ演習室内のネットワーク環境について
第21回		メカトロ演習室内のネットワーク環境について
第22回		EVOROBOⅢ号の改良①（マイコンの応用）
第23回		EVOROBOⅢ号の改良①（マイコンの応用）
第24回		EVOROBOⅢ号の改良②（マイコンの応用）
第25回		EVOROBOⅢ号の改良②（マイコンの応用）
第26回		EVOROBOⅢ号の改良③（マイコンの応用）
第27回		EVOROBOⅢ号の改良③（マイコンの応用）
第28回		走行会②
第29回		走行会②
第30回		まとめ，授業アンケート

オフィスアワー	火曜日　16:30～17:00 教員室　※原則として，本演習は授業時間内のみ作業を実施する．したがって，それ以外の時間に実施することの無いように計画的に行うこと．
授業アンケートへの対応	演習時間内に適宜質問を受け付ける．
備　考	クラスを約２０名ずつの班に分け，プログラミング演習Ⅲとメカトロニクス演習Ⅲを，通年隔週交互に受講する．
更新履歴	20110325 新規

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－①－８

シラバス（機械工学科の機械設計製図Ⅳ）

Syllabus Id	syl.-112-326
Subject Id	sub.-112-113204
更新履歴	110330
授業科目名	機械設計製図Ⅳ　Machine Design and Mechanical Drawing Ⅳ
担当教員名	小林隆志・井上　聡
対象クラス	機械工学科4年生
単位数	3履修単位
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	講義・演習
実施場所	高学年講義棟3F　M4HR　・　機械工学科棟4F　製図室　・　機械工学科実験室　・　機械実習工場

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

前期のテーマはトラス構造物の力学解析・強度計算とそれにもとづく図面作成である。トラス構造は古くから大きな力に対して軽くて強い構造物を作る方法として用いられてきた。現在でもクレーンや橋梁などの大型構造物ではトラス構造を採用することが多い。それぞれの構成部材が引張りと圧縮を受けることにより大きな力を支えることができるトラスの概念と、それにもとづく強度設計について解説と演習を行なう。

後期には小型自動車用パンタグラフ式ジャッキの設計・製作を行う。最終的に破壊試験を実施し，各自が設計した製品が正しく機能するかを確かめる。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

力の釣り合い、モーメント、応力、断面二次モーメント、平行軸定理、断面係数、基礎的な製図知識と作図技術

学習・教育目標

Weight	目標	
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
○	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
○	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力
E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度を、指定された提出物によって判断する。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度を判断する提出物の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。

授業目標

1. トラス構造の有用性について説明できる。
2. トラス構造物の自重ならびに移動荷重に対する力学解析ができる。
3. トラスを構成する部材の強度計算ができる。
4. 設計計算の結果を過不足なく的確に伝える設計書が書ける。
5. 大型構造物の図面が書ける。
6. 材料力学，機械設計法の知識を総合して，実際に製品を製作し，評価できる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回	主桁の内力解析	自重：力の釣り合いと力線図・内力への換算・引張り圧縮の判定	
第3回	〃	移動荷重：モーメントの釣り合いと影響線・内力への換算	
第4回	主桁の強度計算	(1)引張り・圧縮のかかる部材	
第5回	〃	(2)斜材・垂直材・下弦材	
第6回	〃	(3)上弦材	
第7回	〃	(4)継　手	
第8回	製　図	組立図・部分詳細図	
第9回	〃	〃	

資料５－２－①－８続き

第10回	〃	〃	
第11回	〃	〃	
第12回	〃	〃	
第13回	〃	〃	
第14回	〃	〃	
第15回	〃	最終提出	
第16回	オリエンテーション	学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第17回	ジャッキの構想	各種ジャッキ構造の検討，リンクの平行運動機構，リンクの不安定性	
第18回	〃	荷重受部の傾斜防止機構の検討，開発目的に合わせた製造方案の検討	
第19回	パンダグラフ機構の力学	パンダグラフ式ジャッキの設計（概要），ジャッキ機構の力学	
第20回	演習	ジャッキ高さとリンク角度θ（計画図作成），リンク・ねじに作用する荷重の変化	
第21回	細部設計	ねじ位置決め構造，リンク両端部形状，ピンの形状，歯車結合構造の決定	
第22回	強度設計	ねじ最弱断面の強度，ピンの曲げ強度，ピンのせん断強度	
第23回	〃	締付けられたボルトにさらに引張力が働くボルト強度，ピンの断面係数の算出	
第24回	部品図作成	計画図，細部設計図より部品図へ展開	
第25回	〃	〃	
第26回	部品図作成，購入品手配	設計図完成，外部依頼書作成・手配	
第27回	部品製作	図面に合致した部品製作	
第28回	〃	〃	
第29回	部品組立・強度試験	組立後，機能確認，不具合修正，図面反映，破壊箇所，変形具合，破壊荷重の確認	
第30回	まとめ	機能性評価，課題と対策，技術と産業	

課　題

○前期課題

提　出　物：①授業毎の設計演習の結果　②設計書（1）・設計書（2）・図面・重量計算書

提出期限：①出題した翌日の8：40（始業前予鈴）まで　②指定された日時

提出場所：①授業時間内は授業実施教室・終了後は担当教員室　②指定された場所

オフィスアワー：平日17:00まで

評価方法と基準

評価方法：

(1) 授業目標1.については、設計書（1）で評価する。

(2) 授業目標2.については、授業毎の演習課題と設計書（1）で評価する。

(3) 授業目標3.については、授業毎の演習課題と設計書（2）で評価する。

(4) 授業目標4.については、設計書（1）・（2）・重量計算書で評価する。

(5) 授業目標5.については、図面で評価する。

(6) 授業目標6.については、演習、図面、レポートで評価する。

評価基準：

○前期課題

設計書（1）・（2）、図面、重量計算書の全てが提出されている場合に以下のとおり評価を行なう。
設計計算の評価は、毎回の演習課題50%、設計書（1）15%、設計書（2）30%、重量計算5%の割合で行なう。
前期課題の評価は、設計計算60%、図面40%の割合で行なう。

○後期課題

後期課題の評価は、図面40%、レポート40%、製作への取組み20%の割合で行なう。

○最終評価は、前期課題の評価と後期課題の評価を各々50%づつの割合で行なう。60点以上を合格とする。

教科書等	教科書は使用しない。授業毎に自作資料による解説と演習用のプリントを配布する。
先修科目	図学、機械設計製図Ⅰ～Ⅲ、機構学、創造デザイン演習、機械設計法Ⅰ、材料力学Ⅰ、工業力学
関連サイトのURL	日本機械学会　http://www.jsme.or.jp/
授業アンケートへの対応	授業では、①毎回の授業内容のアウトラインの説明を加える、②プロジェクターと黒板を併用する。 複数教員が指導にあたるので、連携を取って授業を進行する。
備　考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校の準学士課程の教育目的である，豊かな人間性を備え，社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成のために，講義，演習，実験，実習をバランスよく配置し，PBL型授業の導入，少人数教育や複数教員によるチームティーチング等，各授業において学習方法の工夫が行われている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

教務主事からのシラバスの作成依頼（資料５－２－②－１）が常勤教員と非常勤教員にあり，各学科の学科長と教務主事補・教務委員が作成されたシラバスの内容を確認して，ホームページにアップする。１年～３年生の教科ためのシラバスの様式と，JABEE認定に対応する４年～５年のシラバスの様式があり（資料５－２－②－２，３），それに従いすべての科目について作成されている。１年生のシラバス（資料５－２－②－４）と４年生のシラバス（資料５－２－②－５）を例示する。授業の開始時には担当教員が科目のガイダンスを実施しているが，シラバスを学生に提示またはハンドアウトしてこれを用いて，授業のあらましを説明している。学生は授業進捗や評価方法を参照し受講に役立てるとともに，授業の教育目標を確認してGPAによる自己評価のために用いている。

資料５－２－②－１

シラバスの原稿執筆の依頼

平成２３年 ３ 月１０日

教 員 各 位

副校長（教務主事）

平成２３年度シラバス（授業計画）の原稿執筆について（依頼）

平成２３年度教授要目（シラバス）の原稿を、下記の要領で作成の上、提出方よろしくお願いします。
なお、平成２０年度からの変更点として、１年から３年用のシラバスについては、学習教育目標欄の記入が学科毎の学習教育目標ではなく、本校の学習教育目標を記入することとなりましたのでご留意願います。

（書式及びコード表）http://fportal.numazu-ct.ac.jp/?page_id=293
※コード表にない場合は、お手数ですが教務係までお問い合わせください。

記

１．１～３年生用シラバスには、学習・教育目標欄に以下の本校学習教育目標のうち該当する１項目（ただし電気電子工学科の工学実験では1～5全て）を数字で記入してください。その際、本メールに添付した各学科の科目系統図に合致した学習・教育目標として下さい。４，５年生用シラバスには、学習・教育目標欄の該当する欄に◎を記入してください。この場合も、本メールに添付した各学科の科目系統図に合致したものとして下さい。

沼津高専　学習・教育目標
1　技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2　自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3　工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4　豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5　実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

２．平成２３年度に実施する全ての科目について作成し、科目名には必ず英文名を併記してください。
単位を認定する教科目（以下、認定教科目という）単位でまとめてください。ただし、１つの認定教科目でも教授内容により分割が妥当だと判断したものについては、その各々を１つとしてください。（例 一般科目「選択外国語」）
同一学年の複数クラスにわたる科目で内容が同一のものについては、１つを

資料５－２－②－１続き

提出してください。

３．授業計画について。
　定期試験を実施する場合は、授業計画に記載してください。
　具体例として、通年実施の科目で授業回数が３０回で定期試験（前期に中間試験・前期末試験、後期に中間試験・学年末試験）を実施する場合は、各回に授業内容又は定期試験を記載してください。
　なお、授業時数には、中間試験を含めますが、期末試験は含めません。

４．評価の基準と方法について
　例えば、定期試験70%、課題レポート20%、授業態度10%等、評価の基準配分を数値で記載するようにしてください。

５．原稿の提出手順については、所属学科の規定に従ってください。

６．非常勤講師が担当する科目は、依頼学科より作成要領等を説明し、期日までに取りまとめて提出願います。

７．作成責任者は、成績提出者が当たってください。（原稿提出後の連絡は、この責任者宛に行います。）

８．提出期限　所属学科の規定に従ってください。
　なお、平成２３年３月３０日（水）までに各学科でウェブに掲載のうえ管理願います。提出以降、変更があった場合は、必ず教務係に連絡し、Web上に更新歴を掲載し管理願います。

９．　今年度の授業アンケート結果をふまえたうえで、シラバス作成をお願いいたします。
　なお、今年度の授業アンケート結果については、３月中旬にWebで公開を予定しております。

学生課 教務係

内線 ５７３３

―――― このメールにはファイルが添付されています ――――

（出典　本校学内メール）

資料５－２－②－２

シラバスの様式（1年生から3年生）

学科 学年		科目 分類	正式名称を記入 英文名を記入	講義/実験/実習 必修/選択	H22通年等 ○単位	学習教育目標 本校の学習目標を数字で記入	担当	担当者名を記入 ローマ字で担当者名を記入
概　要	形式自由							
科目目標 （到達目標）	形式自由							
教科書 器材等	形式自由							
評価の基準と方法	形式自由							
関連科目								
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第 1回 ・・・ ・・・ 第15回 ・・・ ・・・ 第30回	× ×	前期末試験 後期末試験						
オフィスアワー								
授業アンケートへの対応								
備　考								
更新履歴	20100326 新規							

（参考）
沼津高専　学習・教育目標
1　技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2　自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3　工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4　豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5　実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

（出典　学生課作成資料）

資料５－２－②－３

シラバスの様式（４年生と５年生）

Syllabus Id	syl.-開講年度(10)開講時期(前期→0、後期→1、通年→2)教員コード
Subject Id	sub-開講年度(10)開講時期(前期→0、後期→1、通年→2)科目コード(例 102000100→10年通年開講の国語)
更新履歴	新規作成日、更新日を記入(100326←2010年 3月26日のことです。)
授業科目名	正確にフル・ネームで記入し、英文名も併せて記入。応用物理（×）→応用物理学(○)
担当教員名	補助教員がいる場合には補助教員の氏名も記入。前・後期で教員が変わる場合には、前期教員氏名、前期教員氏名、
対象クラス	機械工学科4年生／電気電子工学科5年生
単位数	2学修単位(または2履修単位)
必修／選択	主要教科目は必修になります。
開講時期	通年／前期／後期
授業区分	人文・社会科学・語学等／基礎能力系／基礎・専門工学系←主要教科目のみ記入
授業形態	講義/実験/実習
実施場所	教室名を記入 （例 機械工学科棟4F M5HR） 実験の場合には実験担当教員研究室名を記載する。

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

1.授業で扱う主要なテーマ。2.テーマの歴史等、3.社会との関連、4. 工学技術上の位置付け(企画、解析、調査、開発、設計、試験、販売、保守、リサイクル、廃棄処理　等の何れの相との関連が深いか)、5.学問的位置付け← 主要教科目でない場合には形式自由

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

主要教科目でない場合には形式自由

例:(keywordsで記述すると) 応力・歪・ヤング率、 2階定数係数微分方程式、ベクトル解析学、オームの法則、ソクラテス、ハバーマス etc.

学習・教育目標

weightの欄に◎印をつける

Weight	目標	
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力（主要教科目のみ、選んだ学習・教育目標について記入する。(学則第46条の4から選ぶ。)）

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3.目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

主要教科目でない場合には形式自由

1. プログラム目標に合致した学科目標(専攻科の場合には実践指針)

2.学科目標に合致した授業目標

ダメ例1:～を学ばせる。～を理解させる。←これは教員側の目標であって学生側の目標ではない。

ダメ例2:～を学ぶ。～を理解する。←授業を受けているからには当たり前。これでは達成度が評価できない。

良例:～を学び、必要な統計処理が出来る。～を把握し、簡潔で明快なレジュメを作成できる。 ～を理解し、説明できる。

目標例:1.データを示すためのわかりやすく適切な形式を選べ、簡潔な要約のかたちで情報をまとめられること。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回			
・・・			
・・・			
第15回	前期期末試験		×
第16回	後期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
・・・			
・・・			
第30回	後期末試験		×

課題

出典:教科書章末問題/ハンドアウトとして授業終了時に配布etc.

提出期限:(例)出題した次の週

提出場所:(例)授業開始直後の教室、

オフィスアワー:曜日と時間と場所

評価方法と基準

評価方法:　　主要教科目でない場合には形式自由

(1)目標とした能力が身についたかどうかを、(2)どのような方法で,(3)何を基準として判定し、(4)どのような重みを与えるか

目標毎に以下のように記述する

例 (1)データを示すためのわかりやすく適切な形式を選べるかどうかを、

(2)OHP(プレゼンソフト)を用いて発表させて、

(3)受講している他の学生も参加する質疑応答を通じて、適切かどうかを学生自身に自覚的に判断させて、自己評価させ

(4)その結果を成績の10%に反映させる。

評価基準:

前期試験○%, 後期試験●%、課題レポート□%, 自己評価△%、授業態度(ノート検査等)▽%、欠席減点▲%

教科書等	教科書の表題、著者、出版社名、価格/使用しない。授業毎にプリントを配布する。
先修科目	前年度までの履修を推奨する教科目
関連サイトのURL	一つのみ記入. 教科関連のURL. 専門工学の場合は関連する学・協会のHP等を推奨します。
授業アンケートへの対応	
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　学生課作成資料）

資料５－２－②－４

シラバス（数学ＡＩ）

学科 学年	Ｄ１	科目 分類	数学ＡＩ Mathematics AI	講義 必修	H23前期 ２単位	学習教育目標 2	担当	松澤　寛 MATSUZAWA Hiroshi
概　要	近年，数学は自然科学のみならず社会科学までもその重要性を認めている。高専で学ぶ数学においてもそれは例外ではなく数学はきわめて重要な科目として位置づけられている。１年生で学ぶ数学は２年以降の数学や専門科目を学ぶ基礎となるものであり，修得せずに２年以降の学習はありえない。この講義では，関数の概念を学び，二次関数，指数・対数関数，三角関数の初歩を学ぶ。							
科目目標 （到達目標）	「関数とは何か」を理解し，記号「f(x)」が正確に使える。２次関数の標準形を求め，グラフを描き，最大・最小を求めることができる。分数・無理関数を含め関数のグラフの平行移動，拡大・縮小が理解できる。指数概念の拡張を理解し，指数法則を用い計算ができる。指数関数の性質を理解し，グラフが描ける。対数の定義・性質が理解でき，対数関数のグラフが描ける。三角比の概念を理解し，図形の問題へ応用ができる。							
教科書 器材等	新訂　基礎数学(大日本図書)，新訂　基礎数学問題集(大日本図書)，新編　高専の数学１問題集(森北出版)，新編　高専の数学２(森北出版)							
評価の基準と方法	試験(70%)，小テスト・課題(20%)，基礎学力試験(10%)とし，60点以上を合格とする。							
関連科目	中学までの数学，数学Ｂ							
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第 1回		ガイダンス，関数とグラフ						
第 2回		２次関数とそのグラフ						
第 3回		２次関数の標準形とグラフ						
第 4回		２次関数の最大と最小						
第 5回		２次関数の最大と最小(続)						
第 6回		２次関数と２次方程式						
第 7回		不等式(復習)，２次関数と２次不等式						
第 8回		２次関数と２次不等式(続)						
第 9回		べき関数，偶関数と奇関数，グラフの平行移動，関数の単調性						
第10回		分数関数						
第11回		分数関数(続)						
第12回		無理関数とグラフの拡大縮小						
第13回		逆関数						
第14回		問題演習						
第15回	×	前期中間試験						
第16回		累乗根・指数の拡張・指数法則						
第17回		指数関数						
第18回		指数関数(続)						
第19回		対数の定義・性質						
第20回		対数関数						
第21回		対数関数(続)						
第22回		常用対数						
第23回		常用対数(続)						
第24回		鋭角の三角比						
第25回		鈍角の三角比						
第26回		三角比の相互関係						
第27回		三角形への応用１(正弦定理)						
第28回		三角形への応用２(余弦定理)						
第29回		問題演習						
第30回	×	後期末試験						
オフィスアワー	会議のない放課後，管理棟３階の教員室にて質問に対応する。							
授業アンケートへの対応	学生のノートをとる時間をとる。ゆっくり話す。板書の早さに注意する。							
備　考	**毎日必ず数学を学ぶ時間をつくること**。それを怠った場合，数学の修得，つまり**単位の修得はまずありえない**。							
更新履歴	20110326 新規							

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－②－５

シラバス（電気電子機器）

E4 電気電子機器

平成 23 年度 電気電子工学科 シラバス

Syllabus Id	Syl-112-052(高野教員)
Subject Id	Sub-112-208751
更新履歴	2011.3.28 新規
授業科目名	電気電子機器　Electrical-Electronic　Machines
担当教員名	高野　明夫　　TAKANO Akio
対象クラス	電気電子工学科４年生
単位数	2 学修単位　（自学自習を含め 90 時間の学修をもって 2 単位とする）
必修／選択	必修，主要科目
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	講義
実施場所	E4 ホームルーム

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

１．　はじめに　【重要】この授業は必修科目であるから，単位を修得しないと卒業できない。

２．　授業で扱う主要なテーマ
　　変圧器，直流機，誘導機，同期機器。これら電気電子機器の基本的な定常特性の解析，計算。

３．　テーマの歴史等
　　電磁誘導の法則が発見されて以来，人類は巨大な電気エネルギーを取り出すことができるようになった。同期発電機によって電気エネルギーが発生され，それを変圧器によって遠方へ輸送し，消費地で電灯が灯され電動機が駆動された。直流機は比較的可変速駆動が容易で，誘導機は安価な定速電動機として重宝された。しかし，近年の半導体製造技術と制御理論の進歩は，誘導機や同期電動機の可変速駆動も可能よなり，その需要は高まっている。

４．　社会との関連
　　電気電子機器，特に電動機は様々な所で使用されている。家庭においては，冷蔵庫，洗濯機，掃除機，ポンプなど，工場においては各種工作機械の動力源として，また，交通機関では新幹線「のぞみ」に代表される電車の駆動源として用いられている。最近では環境と省エネに配慮した電気自動車やハイブリッド自動車などにも利用され，今後も人類の未来を支えていくものと思われる。

５．　工学技術上の位置付け
　　電気電子機器は，エネルギー変換機器でもあり，電気エネルギーの伝達や変換において重要な役割を果たしている。

６．　学問的位置づけ
　　電気機器は，電気電子工学の中でも一つの中核をなし，制御工学，電子回路，パワーエレクトロニクスなどの分野と深く関連している。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

回路理論（特に定常回路の解析に用いられる記号法，ベクトル）

学習・教育目標

Weight	目標	説明
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
◎	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

(1) 直流機の巻線法を理解し，回路図が描ける。直流機の原理を理解し，効率等の計算ができる。
(2) 変圧器の原理を説明できる。変圧器のベクトル図と等価回路が描ける。電圧変動率や効率の計算ができる。
(3) 回転磁界の発生原理が説明できる。誘導機の等価回路とベクトル図を理解し，特性計算ができる。
(4) 同期機のベクトル図を理解し，電圧変動率や短絡比の計算ができる。同期電動機では力率1運転ができる理由を説明できる。

授業計画（プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第１回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標，授業概要・目標，スケジュール，評価方法と基準，等の説明	

資料５－２－②－５続き

第２回	直流機	直流機の原理	
第３回	直流機	直流機の構造	
第４回	直流機	直流機の理論Ⅰ	
第５回	直流機	直流機の理論Ⅱ	
第６回	直流機	直流電動機の種類と特性	
第７回	直流機	演習	
第８回	前期中間試験		
第９回	変圧器	試験の答え合わせ。	
第10回	変圧器	変圧器の原理	
第11回	変圧器	実際の変圧器	
第12回	変圧器	ベクトル図	
第13回	変圧器	等価回路	
第14回	変圧器	電圧変動率，効率	
第15回	変圧器	演習	
第16回	前期末試験		
第17回	後期オリエンテーション	試験の答え合わせ。プログラムの学習・教育目標，授業概要・目標，スケジュール，評価方法と基準，等の説明	×
第18回	誘導機	回転磁界の発生（１）	
第19回	誘導機	回転磁界の発生（２）	
第20回	誘導機	誘導機の等価回路とベクトル図	
第21回	誘導機	誘導機のエネルギーフロー	
第22回	誘導機	ハイランド円線図	
第23回	誘導機	比例推移，演習	
第24回	後期中間試験		
第25回	同期機	試験の答え合わせ。同期機の原理	
第26回	同期機	同期機のベクトル図と等価回路	
第27回	同期機	同期機の出力	
第28回	同期機	電圧変動率，短絡比	
第29回	同期機	電動機の力率１運転，Ｖ曲線	
第30回	同期機	演習	
第31回	後期末試験		
第32回	総括	試験の答え合わせ。１年間の総括	×

課題とオフィスアワー

課題は自学自習課題として適宜提出させる。出典：ハンドアウトとして授業終了後に配布
提出期限：出題した次の週の授業時間の冒頭
提出場所：教室
オフィスアワー：水曜日の午前中，高野教員室（電気電子工学科棟１階）

評価方法と基準

評価方法

（１） 直流機の回路図が描け，効率等の計算ができるかを前期中間試験で評価する。重み 20%。
（２） 変圧器の原理が説明でき，ベクトル図と等価回路が描け，電圧変動率や効率の計算ができるかを前期末試験で評価する。重み 20%。
（３） 回転磁界の発生原理が説明でき，誘導機の等価回路とベクトル図を理解し，特性計算ができるかを後期中間試験で評価する。重み 20%。
（４） 同期機のベクトル図を理解し，電圧変動率や短絡比の計算ができ，同期電動機では力率１運転ができるか理由を説明できるかを後期末試験で評価する。重み 20%。
（５）(1)～(4)の目標に関連した内容について，自己学習できるかを課題レポートで評価する。重み 20%

評価基準

４回のテストの平均を８０%の重みとし，課題レポートを２０%の重みとする。６０点以上を合格とする。
不合格者には，年度末に再試験を行うが，その場合６０点以上をＣ評価とする。

教科書等	電気機器工学Ⅰ，尾本義一・他，電気学会，オーム社
先修科目	3年までの回路理論，電磁気学
関連サイトのＵＲＬ	http://www.iee.or.jp/(電気学会)
授業アンケートへの対応	演習を取り入れ，重要な事項は繰り返し述べるように務める。学生が興味を持てるように，パワーポイントによる説明を導入したい。
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも１週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

平成22年度においてシラバスの活用状況を学生と教職員にアンケート（資料５－２－②－６，７）調査し，結果（資料５－２－②－８～13）を集計した。多くの準学士課程の学生が科目の選択，成績の評価方法や評価基準を知ることにシラバスを利用しているが，授業の予習に役立つよう活用している割合は低い。教員の回答（資料５－２－②－11～13）からわかるように，教員は学生に授業目的，授業計画および評価方法と基準を知らせるためによく利用している。

資料５－２－②－６

アンケート質問用紙（準学士課程の学生用）

平成２３年２月　　日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【本科学生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し、学級担任教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。
＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について学生便覧やシラバス等を見て知っていますか。
（設問１１）進級・卒業認定の基準について学生便覧等を見て知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）学修単位科目は自学自修を含め45時間の学修で１単位とする科目であることを知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）学修単位科目について自学自修を実行していますか。
＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成22年度実施アンケート調査資料）

資料５－２－②－７

アンケート質問用紙（教職員用）

平成２３年２月　　日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート　【教職員（非常勤講師含む）用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いいたします。マークシートに回答をご記入の上、平成２３年２月２８日（月）までに教務係へご提出ください。

以下の（設問１）～（設問１２）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
（設問６）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

＜回答＞

１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．本校のアドミッションポリシーの周知度に関する調査

（設問７）本校の「アドミッションポリシー」を知っていますか。

＜回答＞

１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

（設問８）本校専攻科の「入学者受入れ方針」を知っていますか。

＜回答＞

１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

裏面に続きます。

（出典　平成22年度実施アンケート調査資料）

資料５－２－②－７続き

Ⅲ．シラバスの活用状況に関する調査（常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問９）授業運営の中でシラバスを利用していますか。

＜回答＞

１．全く利用しない　２．まれに利用する　３．よく利用する

（設問１０）授業運営の中でどのような目的でシラバスを利用していますか。

＜回答＞　複数回答可

１．授業の目的や概要を学生に知らせるため
２．年間の授業計画を学生に知らせるため
３．教科書や参考書について学生に知らせるため
４．次回の授業内容を学生に知らせるため
５．予習・復習を学生に促すため
６．宿題や課題について学生に指示するため
７．成績の評価方法や評価基準を学生に知らせるため
８．授業の進度管理のため
９．その他

Ⅳ．学修単位科目に関する調査（学修単位科目を担当している常勤教員・非常勤講師の方のみご回答ください）

（設問１１）学修単位科目は履修単位科目と異なり、自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とする科目であることを学生に説明していますか。

＜回答＞

１．説明していない　２．説明している

（設問１２）学修単位科目について学生の自学自修の実施状況をどのように把握していますか。

＜回答＞複数回答可

１．特に把握していない
２．自学自修課題の解答を提出させることで把握している
３．自学自修の実施記録を提出させることで把握している
４．小テスト等で自学自修の成果を測ることで把握している
５．その他

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成22年度実施アンケート調査資料）

資料５－２－②－８

アンケート集計結果

沼津工業高等専門学校

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

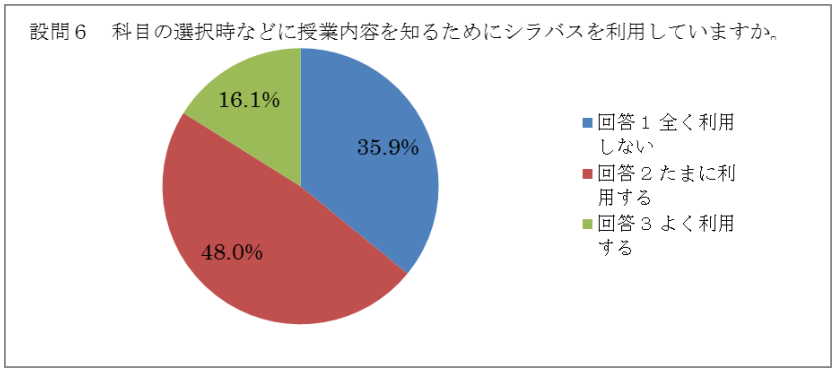
本科生　回答数：972

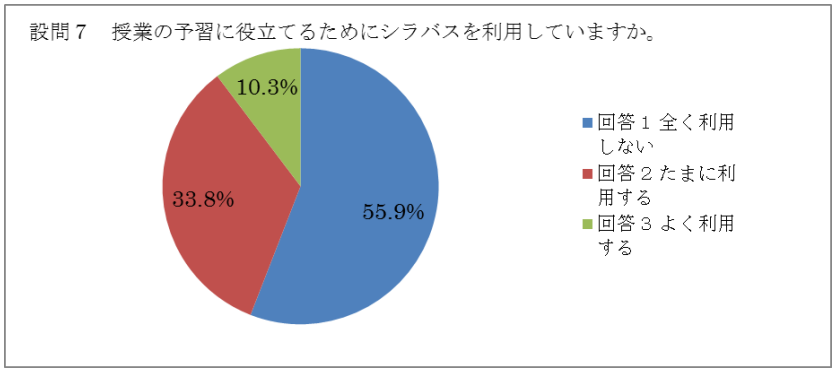
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
回答 1	19.7%	27.7%	29.4%	28.7%	22.5%	35.9%	55.9%	31.5%	61.5%	20.7%	18.2%	26.2%	29.9%
回答 2	35.8%	48.1%	47.7%	46.9%	32.4%	48.0%	33.8%	45.6%	28.8%	58.6%	55.2%	42.7%	59.1%
回答 3	22.8%	18.9%	17.9%	18.2%	23.0%	16.1%	10.3%	22.9%	9.7%	20.8%	26.6%	31.1%	11.0%
回答 4	21.7%	5.3%	5.0%	6.2%	22.1%								
回答数	969	971	968	968	969	938	955	947	958	949	951	955	933

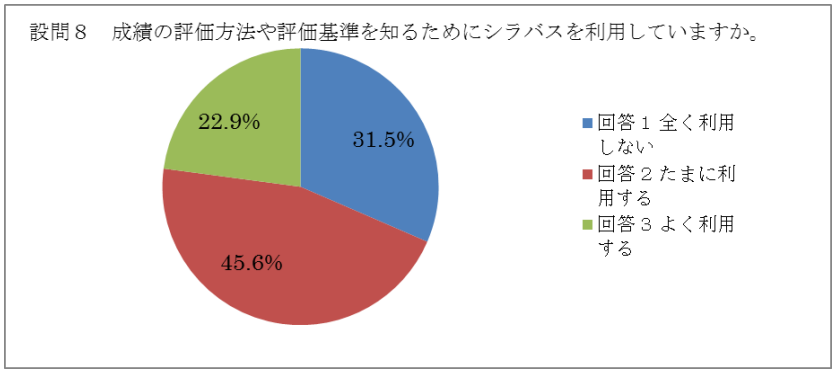
（出典　平成22年度実施アンケート調査資料）

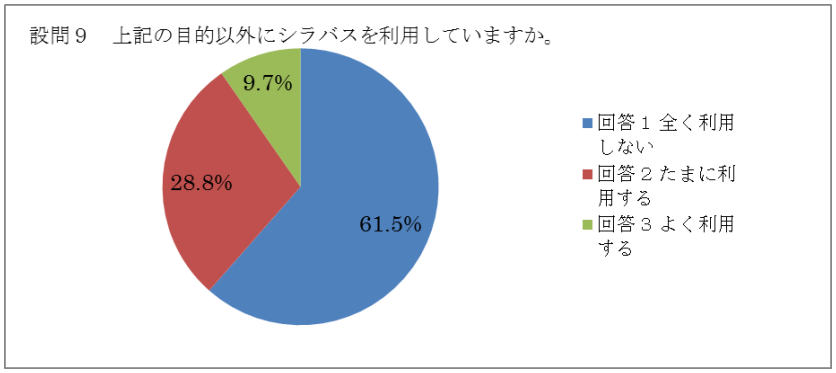
資料５－２－②－９

学生の回答









（出典　平成22年度実施アンケート調査資料より作成）

資料５－２－②－10

アンケート集計結果

沼津工業高等専門学校

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

常勤教員	回答数：48											
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
回答 1	2.1%	6.3%	8.3%	0.0%	10.4%	4.3%	8.3%	2.1%	0.0%	87.2%	25.9%	11.1%
回答 2	14.6%	18.8%	14.6%	14.6%	14.6%	12.8%	6.3%	22.9%	51.1%	85.1%	74.1%	70.4%
回答 3	18.8%	27.1%	27.1%	33.3%	25.0%	19.1%	35.4%	33.3%	48.9%	27.7%		14.8%
回答 4	64.6%	47.9%	50.0%	52.1%	50.0%	63.8%	50.0%	41.7%		6.4%		22.2%
回答 5										12.8%		0.0%
回答 6										8.5%		
回答 7										76.6%		
回答 8										55.3%		
回答 9										0.0%		
回答数	48	48	48	48	48	47	48	48	47	47	27	27

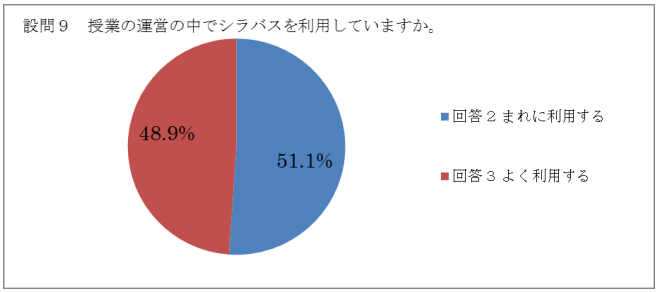
非常勤講師	回答数：33											
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12
回答 1	3.0%	6.1%	6.1%	9.1%	24.2%	9.1%	33.3%	30.3%	0.0%	48.5%	78.9%	21.1%
回答 2	18.2%	21.2%	21.2%	21.2%	21.2%	24.2%	21.2%	36.4%	36.4%	72.7%	21.1%	47.4%
回答 3	42.4%	45.5%	45.5%	42.4%	39.4%	33.3%	36.4%	27.3%	63.6%	12.1%		0.0%
回答 4	36.4%	27.3%	27.3%	27.3%	15.2%	33.3%	9.1%	6.1%		30.3%		42.1%
回答 5										24.2%		10.5%
回答 6										9.1%		
回答 7										42.4%		
回答 8										66.7%		
回答 9										6.1%		
回答数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	19	19

（出典　平成22年度実施アンケート調査資料）

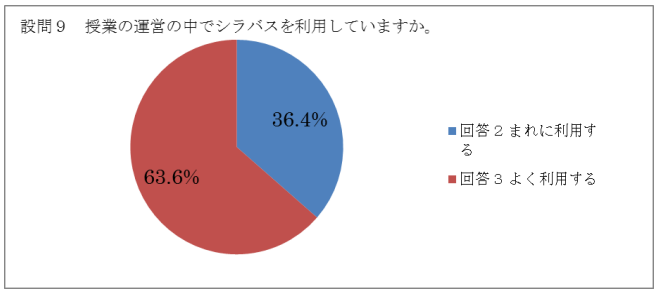
資料５－２－②－11

教員の回答

常勤教員



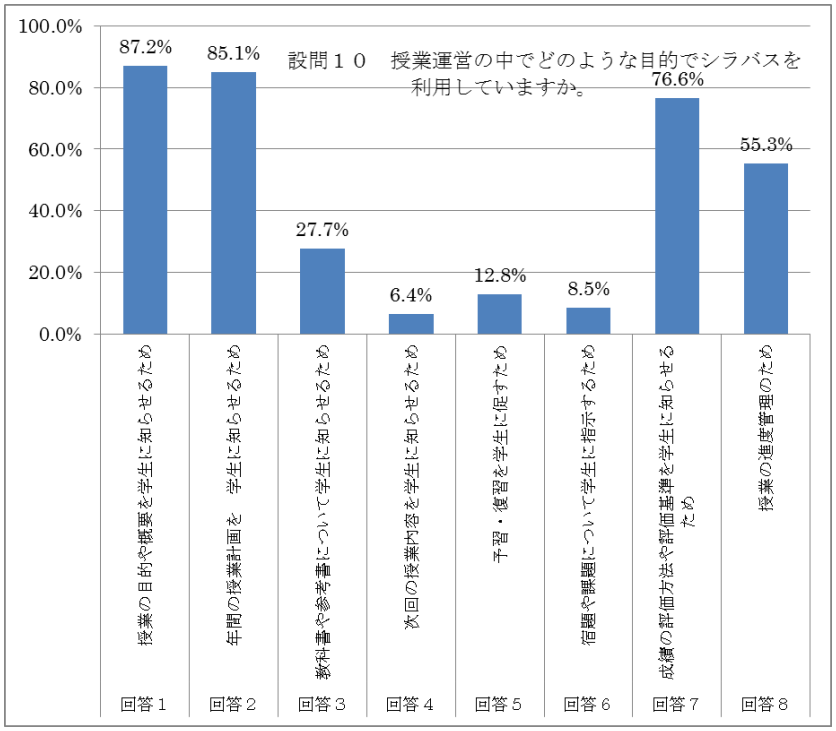
非常勤教員



（出典　平成22年度実施アンケート調査資料より作成）

資料５－２－②－12

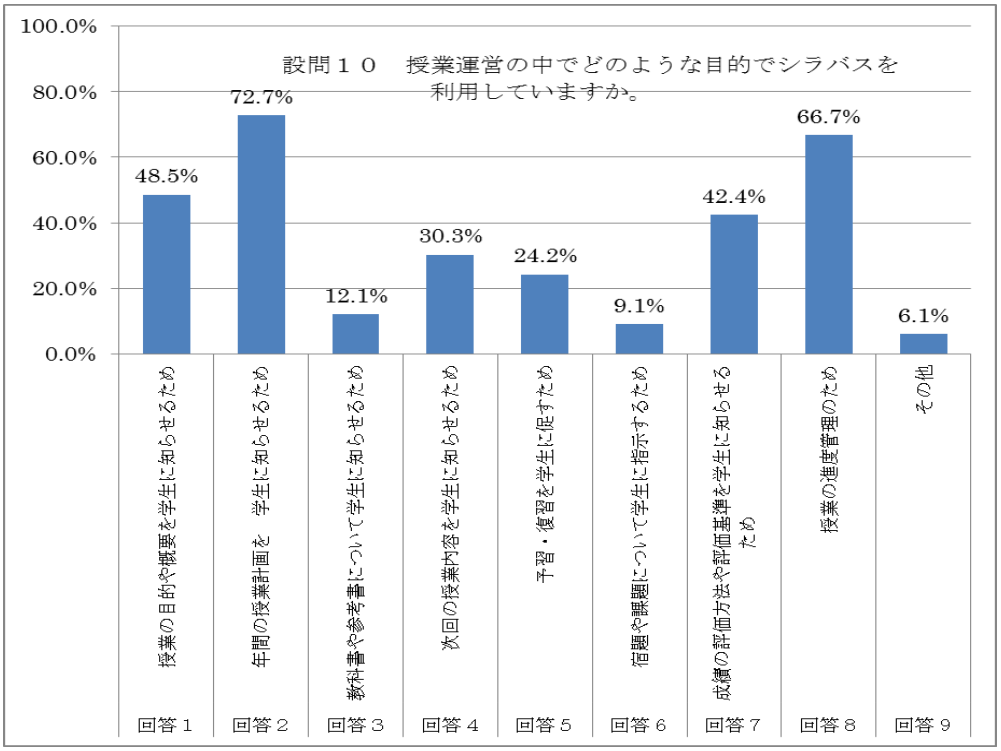
常勤教員の回答



（出典　平成22年度実施アンケート調査資料より作成）

資料５－２－②－13

非常勤教員の回答



（出典　平成22年度実施アンケート調査資料より作成）

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成の主旨に沿って全教科目についてシラバスが作成され，準備学習，学習・教育目標，教育方法や内容，達成目標と評価方法等が明示されている。アンケート調査結果によれば，教員及び学生にシラバスは活用されている。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

機械工学科の５年生の機械設計製図Ⅴ（資料５－２－③－１）では，NC工作機械の送り駆動系（資料５－２－③－２）の設計を行っている。配布資料（資料５－２－③－３）と部品カタログを参考にして，計算書（資料５－２－③－４）を作成する。各学生の設計仕様が異なる値（資料５－２－③－５）が与えられるため，計画図と手配図面はすべて異なる。

電気電子工学科４年生の電気電子工学実験Ⅳ（資料５－２－③－６）の前期には，グループ作業により電気回路の設計・製作を行っている。この成果は本校研究報告書に報告されている（資料５－２－③－７）。

電子制御工学科の４年生で学ぶ電子機械設計・製作Ⅱ（資料５－２－③－８）では，自律移動ロボットMIRSの製作（資料５－２－③－９）がグループで行われ，競技形式で成果の発表を行う。学生は報告書（資料５－２－③－10）をまとめて，ウェブサイトで公表している。

制御情報工学科の４年生で学ぶ創造設計（資料５－２－③－11）では，低学年で学んだソフトウェアとハードウェアの知識と技術を基にして，グループ作業でコンピュータを応用した複合機器システムを企画・立案し，設計・製作ののちにデモンストレーションを行う（資料５－２－③－12)。発表会で成果（資料５－２－③－13，14）が発表される。

物資工学科１年生の物質工学入門（資料５－２－③－15）では，化学電池の製作（資料５－２－③－16）など６つのテーマを実施している。

以上のように全ての学科でPBL型の授業により創造力を育む教育方法が工夫されている。

資料５－２－③－１

シラバス（機械設計製図Ⅴ）

Syllabus Id	syl.-112454
Subject Id	sub-112103205
更新履歴	2011.03.19
授業科目名	機械設計製図V(:Machine Design and Mechanical Drawing)
担当教員名	相磯勝宜、永禮哲生
対象クラス	機械工学科5年生
単位数	3履修単位
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	講義／実習
実施場所	機械工学科棟3階　M5ホームルーム、機械工学科棟4階　製図室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

5年間の機械設計製図の集大成であり、NC工作機械の送り駆動系設計を課題として、いままで習得した知識とさらに5年生での授業内容を加え、出来る限り独力で設計(剛性設計)を行うことを学ぶ。与えられた設計仕様(全員異なる仕様)に対する基本性能計算書(技術文書)から、計画図(構想図)を製作し、正式手配図面(組立図・部品図)の制作に至る一連の機械設計に関する演習作業を実社会で通用するレベルを目標に行う。機械要素の諸設計では、規格調査・カタログ収集・文献引用・経済性追求等も視野に入れた設計法を行う。さらに2人一組での図面交換チェック実習を行い、設計に対する理解度を深める。工作機械設計製図はあくまでも手段であり、本教科は実社会即戦力化の体験実習である。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

機構学、金属材料学Ⅰ・Ⅱ、工業力学、機械工作法Ⅰ・Ⅱ、電気工学、機械設計法Ⅰ、数値制御、機械製図Ⅰ～Ⅳ、機械工作実習Ⅰ～Ⅲ、送り機構(移動体・案内面・歯車・継手・軸受・ボールねじ・アクチュエータ・鋳造等)に関する一般知識、工作機械と加工方法に関する一般知識等。

学習・教育目標

Weight	目標	説明
○	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
○	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
○	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
○	D	国際的な受信・発信能力の養成
◎	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

E. 実社会における短期間での即戦力化を目指し、工学的な解析・分析力と過去に学んだ事柄の活用並びに応用力を育み、それらを創造的に統合する能力

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

本教科では、これまで修得した知識やそれらの応用により、できるかぎり独力で設計(各自与えられた設計仕様に基づく)を進めることを学ぶ。下記の目標の下に、実社会で通用する実用的設計(設計書・計画図・組立図・部品図)を習得する。

1. 自らに与えられた課題を理解して仕様書を作成し、設計条件を設定することができる。
2. 概念設計から基本設計、詳細設計に至る設計の手順を理解し、それに沿って最終的な製品の設計が行える。
3. 設計手順にそった適切な設計書を作成することが出来る。
4. 実社会における「納期遵守」の重要度を理解し、計画性をもって設計・図面作成を行うことが出来る。
5. メーカカタログ、規格集、参考文献等から、独力で調査・引用を積極的に行うことができる。
6. 生産性・コストを視野に入れた、詳細設計を行うことが出来る。
7. 正式図の相互交換検図実習において、他者の作成した図面の判読と的確な問題点の指摘ができる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ			参観
第1回	ガイダンス	講義の概要説明・機械設計の基本	テスト1	一般	
第2回	講義1	課題説明:機械系の設計方法(1)基本構造	テスト2	仕様	
第3回	講義2	課題説明:機械系の設計方法(2)送り機構	テスト3	送り機構	
第4回	講義3	課題説明:機械系の設計方法(3)ボールネジ・ベアリング	テスト4	BS・BRG	
第5回	設計1	送り機構要素設計　設計書作成(1)減速比・ボールネジ			

資料５－２－③－１　続き

第6回	設計1	送り機構要素設計　設計書作成(2)ボールネジの選定2	
第7回	設計1	送り機構要素設計　設計書作成(3)ベアリングの選定　チェック　送り系	×
第8回	作図1	計画図作成(1)　ベアリング・ボールネジ	
第9回	作図1	計画図作成(2)　ベアリングサポート	
第10回	講義4	制御系の設計方法・アクチュエータ(サーボモータ)・減速	
第11回	設計2／作図2	アクチュエータ等制御系の設計および作図(1)　歯車・	
第12回	設計2／作図2	アクチュエータ等制御系の設計および作図(2)　歯車・	
第13回	設計2／作図2	アクチュエータ等制御系の設計および作図(3)　歯車・　チェック　制御系	×
第14回	設計2／作図2	計画図の作成(1)　ベアリングサポート	
第15回	設計2／作図2	計画図の作成(2)　ギア箱	
第16回	設計2／作図2	計画図の作成(3)　ギア箱・関連部品　チェック　計画図	×
第17回	講義5	正式図面(組立図・部品図)・設計書の作成要領	
第18回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(1)　組図	
第19回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(2)　組図	
第20回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(3)　組図	
第21回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(4)　組図	
第22回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(5)　部品図	
第23回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(6)　部品図	
第24回	設計3／作図3	組立図・部品図・設計書作成(7)　部品図　チェック　正式図	×
第25回	講義6	交換検図要項	
第26回	交換検図	交換検図(1)	
第27回	交換検図	交換検図(2)	
第28回	設計4／作図4	設計書・計画図・組立図・部品図の修正(1)	
第29回	設計4／作図4	設計書・計画図・組立図・部品図の修正(2)	
第30回	設計4／作図4	設計書・計画図・組立図・部品図の修正(3)	
第31回	提出	最終提出　チェック　最終提出	
第32回	総評	授業アンケート・教育目標達成度評価調査	

課題

出典:教科書(オリジナル資料)＆参考資料/帯出可能として授業開始時(第1回目のみ)或いは終了時(次週以降用)に配布。(注)帯出禁止の参考図面あり。

提出期限:各段階の区切りに提出する。第7回、第13回、第16回、第24回、第31回終了時等。

提出場所:授業終了時の教室。

オフィスアワー:基本的には、火曜日の授業終了後質問等に対応できる。

評価方法と基準

評価方法:

1. 過去の履修範囲修得度および設計に関する講義内容の理解度をテストで評価する。
2. 各段階(設計書・計画図・正式図等)の提出物を指定された期日までに完成できたか評価する。
3. 作成された設計書が実社会が求める「技術文書」に相応しいか評価する。
4. 設計仕様・規格に則って計画図が作製されているかを評価する。
5. 実際の機械製作が可能な組図が完成されているかを評価する。
6. 個々の部品図について、形状、材料、寸法、寸法公差、表面性状、幾何公差が適切に決定さているか評価する。
7. 相互交換チェック実習で、如何に的確な指摘がなされているか評価する。

評価基準:

理解度の確認テストを10%、設計の各段階での進捗度評価を35%、最終提出された図面と設計書の評価を45%、交換検図の評価を10%とする。

教科書等	①プリント(オリジナル教材・プリント配布)、②メーカ・カタログ、③関連汎用要素のJIS資料、④機械製図(林洋次他著、実教出版)、⑤機械設計法(塚田忠夫他著、森北出版)、⑥JISにもとづく機械設計製図便覧　等
先修科目	機構学、金属材料学Ⅰ・Ⅱ、工業力学、機械工作法Ⅰ・Ⅱ、電気工学、機械設計法Ⅰ、数値制御、
関連サイトのURL	http://www.misumi.co.jp/　市販の規格品の参考として
授業アンケートへの対応	課題の量が多いという要望に対応し、提出図面の様式について見直しを行う。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－２

NC工作機械の送り駆動系

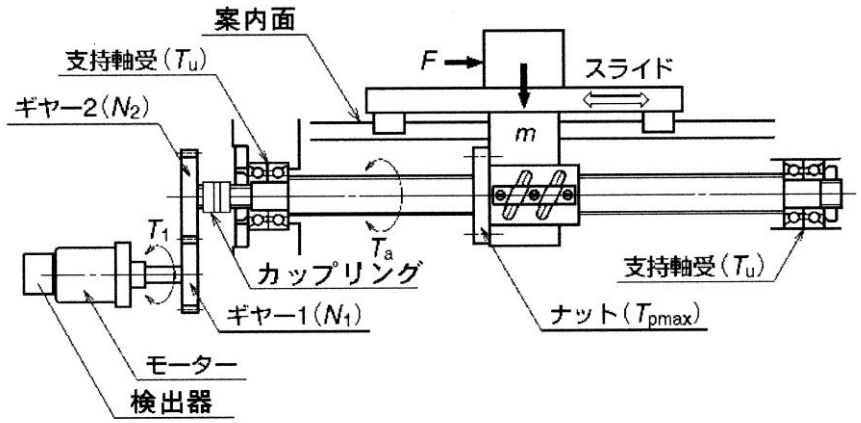
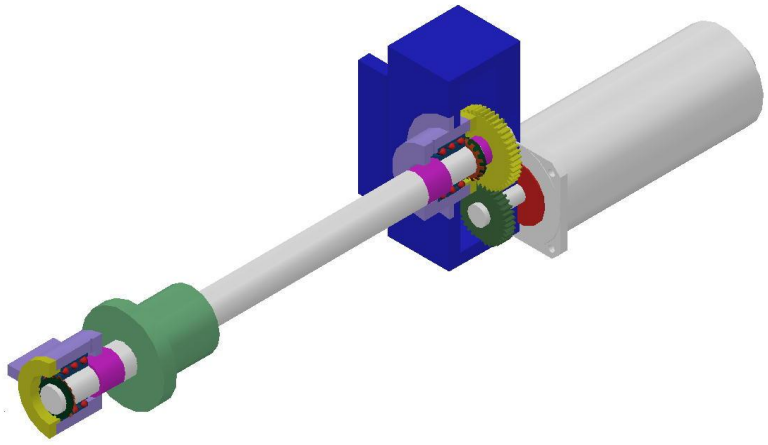


図 4.3　送り系の構成



（出典　機械工学科作成授業資料）

資料５－２－③－３

設計製図の日程，仕様書，説明書等

NC工作機械の送り駆動系

（H23 年度版）

1. 設計製図日程
2. 設計製図仕様書
3. 設計製図説明書
4. 送り駆動系の概要
5. ボールねじ計算資料（NSK）
6. モータ選定計算資料
7. サーボモータ・カタログ・コピー
8. 歯車計算資料（SKZ）
9. 標準小物部品諸元一覧表
10. JIS材料の許容応力参考資料
11. 参考図面一式
12. 補助資料
    1）M5　設計製図の進め方
    2）機械工学科製図室使用の心得
    3）表題欄、部品欄のテンプレート
13. その他

沼津工業高等専門学校

機械工学科

（出典　機械工学科作成授業資料）

資料５－２－③－４

設計仕様書

H23　M5　機械設計製図Ⅴ

2．NC工作機械の送り駆動系　設計製図仕様書

2．1　課題名：『NC工作機械の送り駆動系』

2．2　仕様：　　下記の仕様表に従う。

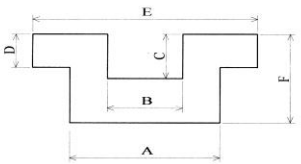
表1．仕様表

グループ番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
最小設定単位 μm	10																						
剛性の目標値 μm	<1.5				<2				<2.5				<3										
早送り速度 mm/min	6000								10000				15000						18000				
切削送り速度 mm/min	～1000				～2000				～3000				～4000				～5000				～6000		
最大切削力 kgf	800	900		1000		1100		1200		1300		1400		1500		1600		1700		1800		1900	
ストローク mm	800		1000		1200		1400		1600		1800		2000		2200		2400		2600		2800		3000
加減速時定数 sec	0.1												0.2										
移動重量 kgf	800				1000				1200				1400				1600				1800		
案内面摩擦係数	0.06（ターカイト動圧）																						
ベッド側面の寸法 mm	概略図参照																						
A	600		800				1000				1200				1500				1800				
B	200												250										
C	160		180				200				220				240				280				
D	60		60				80				100				120				140				
E	A+B																						
F	2C																						

＊　1：グループ番号毎に設計条件は異なっている。

＊　2：ここでいう最大切削力とは、重切削時の送り方向分力のことで、使用するモータの出力はこれを上回る必要がある。

＊　3：早送り速度に達するまでの所要時間をいう。



①　　図1．ベッドの概略図

2

（出典　機械工学科作成授業資料）

資料５－２－③－５

設計製図仕様書

H22機械設計製図V (1)

『NC工作機械の送り駆動系』　設計仕様書

番号【 15 】　氏名【 五藤 弘樹 】

設計資料を参考に、自らの設計仕様を完成させよ。　得点 30 /30

番号	仕様項目	記号	単位	仕様数値	check
1	グループ番号	－	－	8	✓
2	最小設定単位	a0	μm	10	✓
3	剛性の目標値	K	μm	<2	✓
4	無負荷送り速度	V0	mm/min	10000	✓
5	重切削送り速度	V3	mm/min	1000	✓
6	中切削送り速度	V2	mm/min	1500	✓
7	軽切削送り速度	V1	mm/min	2000	✓
8	無負荷時切削力	F0	kgf	0	✓
9	重切削時切削力	F3	kgf	1200	✓
10	中切削時切削力	F2	kgf	600	✓
11	軽切削時切削力	F1	kgf	300	✓
12	ストローク	L	mm	1400	✓
13	加減速時定数	α	sec	0.1	✓
14	移動重量	W	kgf	1000	✓
15	案内面摩擦係数	μ	－	0.06	✓
16	ベッド側面の寸法	A	mm	1000	✓
17		B	mm	200	✓
18		C	mm	200	✓
19		D	mm	80	✓
20		E	mm	1200	✓
21		F	mm	400	✓
22	本送り軸10年間稼動時間	T10	hrs	20000	✓
23	無負荷時デューティ	Dt0	%	20	✓
24	重切削時デューティ	Dt3	%	30	✓
25	中切削時デューティ	Dt2	%	20	✓
26	軽切削時デューティ	Dt1	%	30	✓
27	無負荷時の位置決め精度	a1	mm	±0.030/1000	✓
28	繰り返し位置決め精度	a2	mm	0.005	✓
29	ロストモーション	lm	mm	0.020	✓
30	スライド抵抗	Fr	kgf	60	✓

重要書類　１年間保管のこと　　検印

（出典　機械工学科作成授業資料）

資料５－２－③－６

シラバス（電気電子工学実験）

E4 電気電子工学実験IV(前期分)

平成 23 年度 電気電子工学科 シラバス

Syllabus Id	電気電子工学実験(一年分)と同じ
Subject Id	電気電子工学実験(一年分)と同じ
更新履歴	2011.3.30 新規
授業科目名	電気電子工学実験　　Experiments in Electrical & Electronics Engineering
担当教員名	電気電子工学実験(一年分)が主担当，望月孔が現場担当者である。
対象クラス	電気電子工学科４年生
単位数	4 履修単位
必修／選択	必修，主要科目
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	実験
実施場所	E4 ホームルームで出席を取ってから各実験室で実施

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

１年間行われる電気電子工学実験（電気電子工学科第 4 学年）のうちの前期は，創造性を育むために PBL（Project Based Learning）形式で行う。

PBL は，プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え，その課題を達成するためのアイデアの創出，計画立案，実現等を学生自身に遂行させるものである。これにより，学生の学習意欲，知識の活用能力，計画立案・遂行能力，ディベート能力，プレゼンテーション能力，組織運営能力等の向上を目指す。

クラスを複数のグループに分け，節目ごとに課題を提出し，回路を設計・製作し，それぞれのグループの目標達成度をプレゼンテーションで確認する。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

４年次までの専門科目すべて。

	Weight	目標	説明
学習・教育目標	○	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	○	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	○	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	○	D	国際的な受信・発信能力の養成
	◎	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
	E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。		
学習・教育目標の達成度検査	1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 3.目標達成度試験の実施要領は別に定める。		

授業目標

1. 社会の中の電気電子工学の役割を正しく把握することができる。
2. 必要な情報を調査できる。
3. 工学的な解析・分析に基づき回路を設計することができる。
4. 期日・制作費・施設など与えられた制約のもとで 回路を製作することができる。
5. わかりやすく適切な形式でドキュメントをまとめることができる。
6. 成果を説明するために適切な資料を作成しプレゼンテーションができる。
7. プロジェクトの一員として他の構成員と協力しながら自主的に自分の責任を果たすことができる。

授業計画（プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）

資料５－２－③－６　続き

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
回数に 関する注意		前期は毎週 2 回×2 時限×15 週=60 時限実施。 2 週間を 1 セットとし，講義と実技の組み合わせを基本とする （後期は毎週 1 回×4 時限×15 週=60 時限実施。）	
第 1 回 4.8(金)	導入 課題①	オリエンテーション（今シーズンの学生実験の説明＝PBL の趣旨，概要，予定，テーマ），グループ分け，安全について	
第 2 回 4.11(月)	課題②	課題①提出＜授業開始時＞ 講義　：ブレッドボードの使い方・文献調査方法・SPICE	
第 3 回 4.15(金)	？計画停電 15:20	講義　：素子の使い方注意：フューズ・トランス	
第 4 回 4.18(月)		講義　：電源回路の電圧制御と電流確保	
第 5 回 4.22(金)		講義　：機械加工に関する注意点	
第 6 回 4.25(月)		班行動：試作回路製作・回路解析・回路設計	
第 7 回 5.6(金)		講義　：測定方法	
第 8 回 5.9(月)		班行動：試作回路製作・回路解析・回路設計	
第 9 回 5.13(金)		班行動：試作回路製作・回路解析・回路設計	
第 10 回 5.17(月)	課題③・④	講義　：報告書の書き方について	
第 11 回 5.20(金)		班行動：試作回路の解析・回路設計	
第 12 回 5.23(月)		班行動：試作回路の解析・回路設計	
第 13 回 5.27(金)		課題③提出＜授業開始時＞ 講義　：部品販売方法に関する注意点 課題④提出＜授業終了時＞	
第 14 回 5.30(月)	課題⑤	講義　：技術者倫理 ＜このあと試験週間＞	
第 15 回 6.6(月) ＜金曜日程＞	課題⑥	課題⑤提出 講義　：部品配布，レイアウト設計に関する注意	
第 16 回 6.10(金)		班行動：レイアウト設計・回路製作・装置組立・回路評価	
第 17 回 6.13(月)		班行動：レイアウト設計・回路製作・装置組立・回路評価	
第 18 回 6.17(金)		班行動：回路製作・装置組立・回路評価	
第 19 回 6.20(月)		班行動：回路製作・装置組立・回路評価	
第 20 回 6.24(金)		班行動：装置組立・回路評価	
第 21 回 6.27(月)		班行動：装置組立・回路評価 ＜7.1 は高専大会出発の日＞	
第 22 回 7.4(月)		班行動：装置組立・回路評価	
第 23 回 7.8(金)		班行動：装置組立・回路評価 課題⑥提出＜授業終了時まで＞	
第 24 回 7.11(月)	課題⑦・⑧	講義　：ppt 原稿の作り方，報告会の実施方法	
第 25 回 7.15(金)		班行動：ppt 原稿作成，報告書作成	
第 26 回 7.18(月)		班行動：ppt 原稿作成，報告書作成	
第 27 回 7.22(金)		班行動：ppt 原稿作成，報告書作成	
第 28 回 7.25(月)		課題⑦・⑧提出 講義　：ppt 発表方法 片づけ ＜このあと，補講・前期末・夏季休業・補講＞	
9.15～		ppt 原稿と報告書の返却開始	
第 29 回 9.26(月)		班行動：発表会に向けた，班別の最終打ち合わせ	
第 30 回 9.30(金)	課題⑨	発表会 授業アンケート ◆以上◆	
第 16～ 30 週		◆これらの週の予定は，E4 電気電子工学実験(一年分)に記載◆	

資料５－２－③－６　続き

課題とオフィスアワー

課　　題　：回路の設計製作と，報告書の提出
回路製作 の 条件 ：各グループは与えられた条件になるべく適合する戦略を立て，その戦略の下で各学生は各自の回路を実際に製作し，測定し，結果を発表する。
提出する報告書の番号，（担当者，）題名：
①，（全員）報告書 ： PBL に関する自己目標，
②，（ 班 ）動作確認：ブレッドボード上の回路，
③，（全員）報告書 ： 製作する回路の各部の波形解析，
④，（ 班 ）部品表 ： 回路で使用する部品の指定，
⑤，（全員）報告書 ： 技術者倫理，
⑥，（全員）報告書 ： 回路動作を示す報告(回路動作を見せることも必須)，
⑦，（全員）ppt ： 「回路製作の報告」，
⑧，（ 班 ）プレゼン：「回路製作の報告」，
⑨，（全員）報告書 ： 自己点検書
提出について ： 特別な指定がある時はその指示による．特別な指示がない限り，報告書・部品表・ppt は望月教員室または教室で提出。動作確認は教員を呼び，実験室で確認。
プレゼンは，教員を含む聴講者がいる前で実施する。
オフィスアワー：望月教員が昼休みに教員室にて対応する
※ここで示したのは前期分のものである

評価方法と基準

評価方法

回路の動作状況と，報告書と，発表の品質と，普段の取り組み等をみて評価する。詳細は，指導書に記載。なお，⑨の内容は評価に入れない。

評価基準

課題に対して協力的に取り組み，すべての課題を期限内に提出し，レポートの内容も優れている学生が高得点になる。取組み・協力体制・態度 40%，期限 30%，提出物 20%，口頭のやり取り 10%とする。詳細は，指導書に示す。

ひとつでも未提出・未完成・未実施を残す学生は，上記配分にかかわらず不合格である。班で取り組む課題については，班全員の評価になる。

なおこの科目は学年での必修科目であるため，不合格は「進級できない」ことを意味する。

教科書等	プリント；「電子工作の素，」後閑哲也，技術評論社，2007 年
先修科目	４年次までの全ての科目。なお，3 年次の「CAD&回路シミュレーション」は、回路設計に密接に関連するため、履修を強く勧める。
関連サイトのURL	http://user.numazu-ct.ac.jp/~mochizuki-k/（望月が受持つ科目の Web）
授業アンケートへの対応	測定方法について解説を設ける。並列に受講できる科目との連携を強める。
備考	1. 試験や課題レポート等は，JABEE ，大学評価・学位授与機構，文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも 1 週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 事情により，部分的に当初の日程とは異なる実施をする場合がある。 4. 年間を通じての授業計画は E4 電気電子工学実験(一年分)に記載します。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－７

電気電子工学科の授業成果報告

沼津工業高等専門学校研究報告
第45号，2011年1月

創造性と回路技術の教育に導入したコンテスト方式の効果

望月孔二*

Effects of Contest Style Introduced to an Education to Foster Creativity and Faculty for Circuit Design

MOCHIZUKI Koji*

Abstract： The Education to foster creative ability of students has been emphasized by the educational program system of the Japan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE). Project/Problem Based Learning (PBL) draws attention as one of the method of creativeness education. This style is also adopted by the department of electric and electronics engineering in Numazu College of Technology. In the PBL, students design and manufacture an analog circuit. The PBL is conducting "contest style" in two years. This report summarizes effects of this style education.

Key Words: PBL(Project/Problem Based Learning), Contest, Oscillator

1. はじめに

沼津高専は 2004 年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）に受信申請し認定を受けた。2005 年度には高等専門学校期間別認証評価が実施された。これらの審査の際に注目される観点の一つに「想像性を育む教育方法の工夫」、「デザイン能力」の育成が上げられる[1]~[4]。

沼津高専の電気電子工学科では、これらの課題にこたえる教育として、2006 年度から PBL（Project/Problem Based Learning）を４年次前期の授業としている[5]~[7]。

2009 年度にはコンテスト形式を取り入れたが、それまでにない手ごたえが得られていた[8]。クラスによる個性も考慮し、今年度の PBL と合せて、コンテスト方式によるアナログ回路教育の効果について報告する。また、今年度に導入した実施方法についても報告する。

2. 今年度のPBLについて

本学科では、2009年度からPBLはコンテスト形式にした。両年に共通することと、2010 年度に関することに整理しながら、本学科の PBL の実施方法を述べる。

2．1　2009年度と2010年度に共通すること

両年度ともにコンテスト形式の PBL とした。両年に共通する運営方法を以下にまとめる。

A) 毎週 4 時間実施する 4 年生の電気電子工学実験の、前期期間を PBL の時間とする

B) 指導書[9]には、PBL を実施する意味や・進め方に関するアドバイス・ルールの詳細・参考回路・特性の計測方法について載せた。自学自習に役立たせるために、指導書は最初の授業の際に配布した

C) PBL のテーマは回路の設計・製作とする

D) クラス全体を 4・5 名ずつの班に分けて班ごとに回路設計し、すべての学生は自分の回路を作成する。なお、班の中でお互いに教えあうのを推奨した

E) でき上った回路はすべて特性を測定し、その結果によって優勝の班を決めるコンテスト形式とした

F) 指導書には回路例を複数乗せた。ただし、コンテストに勝つには、回路の理解と改善が必須である

G) 回路の試作用に、全員がブレッドボードを自由に使えるようにした

H) 班で使える部品の費用は、班員×千円以内

I) 5 月下旬（中間試験直前）を、部品発注の期限とし、試験期間中に部品の発注・納入を済ませ、6 月中旬（中間試験後）からは回路製作にした

J) 回路基板は、ユニバーサル基板と、基板加工機によるものと、どちらを選んでも良い。なお、学科として、EAGLE（フリーの基板作成用 CAD）と、適合する基板加工機を整備してあり、希望する学生には、その使用方法を PBL の授業の中で教えた

K) 技術者倫理も、テーマの一つとする

L) プレゼンテーションは班単位で行う

2．2　2010年度と2009年度の違い

両年度を比べた時の比較を以下にまとめる。

* 電気電子工学科： Department of Electrical and Electronics Engineering

（出典　本校研究報告第45号）

資料５－２－③－８

シラバス（電子機械設計・製作Ⅱ）

Syllabus Id	syl-111272
Subject Id	sub-111301421
更新履歴	20110328新規
授業科目名	電子機械設計・製作Ⅱ　Design and Manufacturing of Electro-Mechanical System II
担当教員名	牛丸真司、江上親宏、青木悠祐、出川智啓、大沼巧
対象クラス	電子制御工学科4年生
単位数	3学修単位（自学自習を含め135時間の学修をもって3単位とする）
必修／選択	必修
開講時期	後期
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	実習
実施場所	電子工学科棟4階　D4教室、同1階情報処理演習室および基礎工学実験室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

国際社会における技術者への要求の一つに、エンジニアリングデザイン能力がある。エンジニアリングデザインとは『数学、基礎科学および専門知識などを集約し、社会的なニーズにあったシステム、エレメント(コンポーネント)、プロセスを開発することで、分野により異なる経済的、健康、安全、環境、社会的な制約などの制約のもとに行われる創造的、協同的でオープンエンドなプロセス』と認識されている。

本科目では、与えられた課題と制約のもと、チーム単位で、自律移動システムを企画、設計、製作することをとおして、エンジニアリングデザイン能力を涵養することを目的とする。特に、本科目では設計ドキュメントの作成を重視し、ドキュメントが品質、安全、技術の蓄積、進歩に大きく関わっていることを理解する。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

電子回路、論理回路、C言語プログラミング、PICプログラミング、Linux操作、回路基盤加工、画像処理、PID制御

学習・教育目標

Weight	目標	説明
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
○	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

1. 従来システムを分析し、問題点を抽出できる。
2. 1項の問題点を解決するための方法をいくつか提案できる。
3. 設計、製造作業を計画的に実行できる。
4. チーム内のメンバーが協調してプロジェクトが遂行できる。
5. 設計の検討過程、仕様書、製造図面などを文書として作成できる。
6. 本カリキュラムの文書管理体系にのっとって文書を作成したり登録することができる。
7. 設計・製作したロボットの構造や動作が説明できる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	後期オリエンテーション、詳細設計	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
第2回	システム提案	システム提案の検討(技術調査)	
第3回	システム提案	システム提案の検討(技術調査)	
第4回	システム提案	要件定義、要求仕様	
第5回	システム提案	システム提案のレビュー	
第6回	基本設計	機能定義、機能分割	

資料５－２－③－８　続き

第7回	基本設計	機能定義、機能分割	
第8回	基本設計	機能定義、機能分割	
第9回	基本設計	基本設計レビュー	
第10回	詳細設計	機構設計(メカ)、回路設計(エレキ)、ソフトウェア設計(ソフト)	
第11回	詳細設計	機構設計(メカ)、回路設計(エレキ)、ソフトウェア設計(ソフト)	
第12回	詳細設計	機構設計(メカ)、回路設計(エレキ)、ソフトウェア設計(ソフト)	
第13回	詳細設計	機構設計(メカ)、回路設計(エレキ)、ソフトウェア設計(ソフト)	
第14回	サブシステム製造	部品加工(メカ)、ボード製造(エレキ)、コーディング(ソフト)	
第15回	サブシステム製造	部品加工(メカ)、ボード製造(エレキ)、コーディング(ソフト)	
第16回	サブシステム製造	部品加工(メカ)、ボード製造(エレキ)、コーディング(ソフト)	
第17回	サブシステム製造	部品加工(メカ)、ボード製造(エレキ)、コーディング(ソフト)	
第18回	サブシステム試験	サブシステムレベルでの単体試験	
第19回	サブシステム試験	サブシステムレベルでの単体試験	
第20回	システム統合	ソフトウェアとハードウェアの統合	
第21回	システム統合	ソフトウェアとハードウェアの統合	
第22回	システム統合	ソフトウェアとハードウェアの統合	
第23回	システム統合試験	統合試験仕様書に基づく統合試験	
第24回	システム統合試験	統合試験仕様書に基づく統合試験	
第25回	システム統合試験	統合試験仕様書に基づく統合試験(プレ競技会)	
第26回	システム統合試験	統合試験仕様書に基づく統合試験	
第27回	MIRS競技会	MIRS競技会	
第28回	開発完了報告書	システム完了報告書作成	
第29回	開発完了報告書	システム完了報告書作成	
第30回	工具整理等	システム完了報告書提出、作業報告書提出、工具整理	

課題　自学自習課題として適宜提出させる
1.開発スケジュールの各フェーズでドキュメントの提出が要求される。
2.作業した日ごとに作業内容と作業時間を記載した作業報告書を作成する。
3.開発計画書作成後、適宜マネージャ会議にて進捗状況の報告を文書および口頭で報告する。
4.マネージャ会議の議事録をチーム持ち回りで作成する。

評価方法:
(1).従来システムの分析、問題点の抽出と改善案の提案能力をシステム提案書で評価する。
(2).設計、製造の作業が計画的に実施できたかを開発計画書、設計ドキュメント、作業記録により判断する。
(3).設計の検討過程、仕様書、製造図面などを文書として作成できるかどうか、およびドキュメント管理について作成されたドキュメントにより評価する。
(4).チーム内のメンバーが協調してプロジェクトが遂行できたかどうか、またチーム内での貢献度を開発実績および作業記録によって評価する。

評価基準:
チーム評価:システム提案書10%、開発計画書5%、基本設計書10%、詳細設計書・製造仕様書10%、統合試験報告書5%、競技会プレゼンテーション5%、競技会結果15%、システム開発完了報告書10%、作業環境維持5%　(ただし、競技会プロジェクトチームの評価はこれと別に行う)

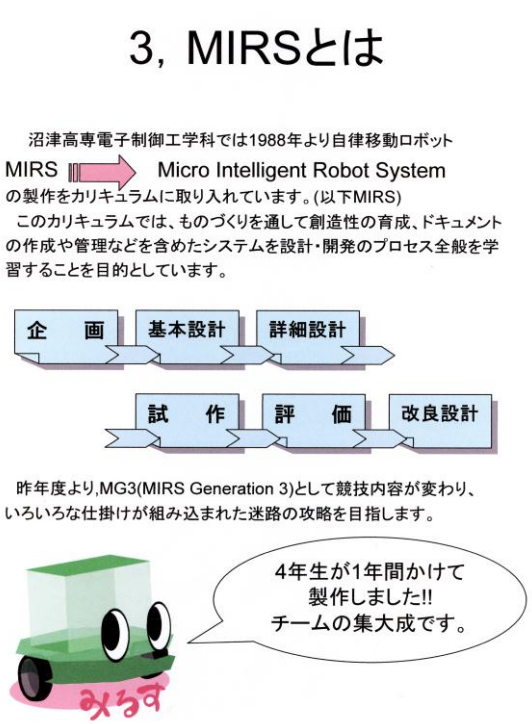
教科書等	
先修科目	電子機械基礎実習、電子機械設計製作Ⅰ
関連サイトのURL	http://www2.denshi.numazu-ct.ac.jp/mirsdoc2/
授業アンケートへの対応	授業の開始終了時刻を徹底する。それ以後の活動は時間外作業として別途管理する。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－９

電子制御工学科の授業（MIRS競技会）





（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－10

電子制御工学科の授業完了報告書

MIRS1003 完了報告書

MIRS1003-DSGN-0007

名称	
番号	

最終更新日:2011.02.25

版数	更新日	作成	承認	改訂記事
A01	2011.02.25	MIRS1003	斎藤秀人	初版

目次

1. 開発スケジュール分析
2. 開発工数分析
3. 現システムの問題点
4. 競技結果
5. 総括
6. 所感

1. 開発スケジュール分析
予定

（出典　本校公式ウェブサイト）

2. 開発工数分析
個人別

岡本彰人(P)	近藤鉱也(S)	斎藤秀人(S,DM)	佐藤剛(M)	高村智史(Man,E)	蒔田大嗣(M)	村瀬慶和(E)	望月玲於奈(S)	脇坂久(M)	合計時間
290.5h	145h	234h	151.5h	228h	171h	260h	240h	162h	1884.5h

部門別

	メカ(M)	エレキ(E)	ソフト(S)	総計
合計時間	484.5h	488h	619h	1591.5h
1人あたり平均	161.5h	244h	206.3h	198.9h

3. 現システムの問題点
○ メカ
■ フロントバンパーの壁接触時の衝撃が大きく、機体に影響が出てしまう時がある
■ 機体回転時に通路の角にサイドバンパーが引っ掛かる場合がある
■ ステップに対して斜めに通過しようとした場合、ステップの真上にいるときに壁と接触し、補正をかけるため止まってしまう
○ エレキ
■ 超音波センサの感度が毎回バラバラになるときがある
■ モータードライバの信号のやり取りができていない
本番一日前にモータードライバが信号を読み取れができなくなり誤動作が起きた。
本番では標準機のモータードライバを使わせてもらったので動いたが、自分たちのモータードライバはフォトカプラが原因要因と考えられる。
■ 白線センサLED
白線センサに常に一定の光が反射するように作った白線センサLEDだが、
本番では、モータードライバに力を入れてしまい時間がなくつけるのを忘れてしまった。
しかし、プレ協議会では、正確にどこでも白線を見つけることができるようになっていた。
○ ソフト
■ 本体の完成が遅かったことや故障による検証不足

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－11

シラバス（創造設計）

Syllabus Id	syl.-112468
Subject Id	sub-112403150
更新履歴	20110323新規
授業科目名	創造設計 Creative Design
担当教員名	吉野龍太郎、長谷賢治、大島茂　YOSHINO Ryutaro、HASE Kenji、OSHIMA Shigeru
対象クラス	制御情報工学科4年生
単位数	3履修単位
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	実習
実施場所	制御情報工学科創造設計演習室、S4HR

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

1.コンピュータを応用した複合機器・システムを、企画、設計、製作する一連のプロジェクト型体験学習(PBL)を行う。2.情報技術の進歩に伴い、多くの機械製品は機械技術と情報技術との複合化が必然なものとなってきた。複数メンバーで共同し、自発的に学習し問題解決の図れる技術者が強く望まれる時代になっている。3.大規模複雑化した製品を生みだすためには複数人の共同による作業が不可欠であり、社会の現場では他人と協調し問題解決を図れる力を持つ技術者が強く必要とされている。4. 無の状態から具体的製品を生み出すまでの一連の作業を通じて、ニーズ調査、製品企画、設計、製作、工学的解析、動作・性能試験、各相で必要となるドキュメントの作成、およびプレゼンテーションを実践する。 5.1学年から3学年までの制御情報工学演習で習得したソフトウェアとハードウェアの知識と技術を実践的に応用し、さらに必要な新しい知識・技術は自ら学習する自発的学習の姿勢を養う。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

機械要素の基礎知識(歯車、ベルト車、ベアリングなど)、電気・電子の基礎知識(モータ駆動回路、トランジスタ増幅回路、IC回路など)、制御技術・情報技術の基礎知識(C、C++によるプログラミング、AD/DA変換、データ入出力技術など)、設計の基礎知識(力学、機械製図、強度計算など)

	Weight	目標	
学習・教育目標	○	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	○	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
	◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	○	D	国際的な受信・発信能力の養成
	○	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力

E..産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3.目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

1. 社会のニーズを知りそれに適した製品の企画ができる。
2. 製品の設計に数学、自然科学、情報技術を応用することができる。
3. 工学的な解析・分析に基づき部品を選択し、それらを統合して製品の構造をまとめることができる。
4. プロジェクトとして組織的に計画を実行し、与えられた制約のもとで 製品を製作することができる。
5. プロジェクトの一員として自分の責務を果たし、計画的に作業を進めることができる。
6. プロジェクトの構成員と協力して自主的に文献等を調べ問題解決を図ることができる。
7. わかりやすく適切な形式でドキュメントをまとめることができる。
8. 成果を説明するために適切な資料を作成しプレゼンテーションができる。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観

資料５－２－③－11　続き

第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、年間スケジュール、課題の趣旨説明、評価方法と基準、等の説明、安全教育	
第2回	設計のプロセス	企画・設計の一連の流れを講義	
第3回	設計のプロセス		
第4回	ニーズ調査・分析	プロジェクトの編成、ニーズ調査・分析	
第5回	ニーズ調査・分析	ニーズ調査・分析、テーマ企画	
第6回	製品企画	テーマ企画、基本仕様設定、コスト検討、技術検討、作業計画作成	
第7回	企画発表会	企画テーマのプレゼンテーションと打合せ	
第8回	概念設計	構想設計、基本設計仕様書、機能系統図、事前予備実験など	
第9回	概念設計	構想設計、基本設計仕様書、機能系統図、事前予備実験など	
第10回	構想企画発表会	構想企画のプレゼンテーションと打合せ	
第11回	詳細設計	基本計画図、模擬実験、ソフトウェア設計仕様書	
第12回	詳細設計	組立構造図、部品リスト、シミュレーション、ソフトウェア設計	
第13回	詳細設計	組立構造図、部品リスト、シミュレーション、ソフトウェア設計	
第14回	詳細設計	組立構造図、部品リスト、シミュレーション、ソフトウェア設計	
第15回	設計レビュー	プレゼンテーション	×
第16回	設計リファイン	組立構造図、部品リスト、シミュレーション、ソフトウェア設計の問題点見直し	
第17回	部品発注	製作部品図出図、発注部品のまとめ	
第18回	製作	機構部、電気・電子回路部、ソフトウェアの製作	
第19回	製作	機構部、電気・電子回路部、ソフトウェアの製作	
第20回	製作	機構部、電気・電子回路部、ソフトウェアの製作	
第21回	製作	機構部、電気・電子回路部、ソフトウェアの製作	
第22回	製作	サブシステム組立、部分的動作試験、調整	
第23回	組立、動作試験	サブシステム組立、部分的動作試験、調整	
第24回	組立、動作試験	サブシステム組立、部分的動作試験、調整	
第25回	組立、動作試験	システム統合、全体システム動作試験、調整	
第26回	性能評価	動作試験、性能評価、調整、検査仕様書、検査結果報告書作成	
第27回	製作品の完成	取扱説明書の作成、ドキュメント整理	
第28回	成果発表会準備	製作品の最終調整、ドキュメント整理、成果発表会資料作成、発表	
第29回	成果発表会	最終成果発表プレゼンテーション	
第30回	知識共有会	プロジェクトメンバー間での情報交換、反省、まとめ、ドキュメントの	×

課題

1. 毎授業の終了時に議事録または作業報告書を提出する。
2. 企画発表会、構想企画発表会、設計レビューの3回の中間発表会で途中経過を発表する。
3. 作成したドキュメントを各班のホームページ上に随時継続的に掲載する。
4. 成果発表会で製作品のデモンストレーションおよび最終成果の発表を行う。

評価方法と基準

評価方法：

(1). 社会のニーズを知りそれに適した製品の企画ができるかどうかを、企画発表会でプゼンテーションさせ、質疑応答および口頭試問により確認する。

(2)製品の設計に数学、自然科学、情報技術を応用することができるかどうか、および(3)工学的な解析・分析に基づき部品を選択し、それらを統合して製品の構造をまとめることができるかを、製作品から評価するとともに、構想企画発表会、設計レビューおよび成果発表会でプレゼンテーションさせ、その内容および質疑応答と口頭試問により確認する。

(4)プロジェクトとして組織的に計画を実行し、与えられた制約のもとで 製品を製作することができるか、(5) プロジェクトの一員として自分の責務を果たし、計画的に作業を進めることができるか、(6) プロジェクトの構成員と協力して自主的に文献等を調べ問題解決を図ることができるかを、毎授業終了時に提出する議事録および作業報告により確認する。併せて、最後の知識共有会の反省において学生自身の自己評価による確認もする。

(7)わかりやすく適切な形式でドキュメントをまとめることができるかは、ホームページ上に掲載されたドキュメントから判断する。

(8) 成果を説明するために適切な資料を作成しプレゼンテーションができるかは、特に最後の成果発表会におけるプレゼンテーションにより確認する。受講している他の学生も参加する質疑応答を通じて、適切かどうかを学生達自身に自覚的に判断させ自己評価させる。

(注：主としてプロジェクト単位の評価となる。)

評価基準：

製作品　50%, ドキュメント 15%、プレゼンテーション　15%, 自己評価 10%、授業態度(作業報告書等) 10%

教科書等	授業時に配布するプリント。規格、カタログ等の技術資料。参考図書：谷腰欣司著「メカトロニク回路集」工業調査会、谷腰欣司著「センサの使い方と回路設計」工業調査会、トランジスタ技術編集部編「メカトロ・センサ活用ハンドブック」CQ出版社、ラビシィ著「プログラミング言語の概念と構造」アジソンウェスレイ。
先修科目	制御情報工学演習、メカトロニクスI、自動制御
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	授業の終了時間を明確にし、けじめを付ける。その上で授業終了後の自主的継続作業を認める。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－12

授業予定表

2011創造設計予定表

2011/4/4作成

	月	日	回数	行事	企画	設計	ハード製作	ソフト製作
前期	4	8	1	健康診断	ガイダンス			
		15	2		初期研究 コンセプト 要件設定			
		22	3					
	5	6	4					
		13	5		コンセプト発表			
		20	6		概念設計/技術検討・コスト検討・作業計画		事前実験	シミュレーション
		27	7					
	6	10	8					
		17	9					
		24	10		企画発表			
	7	4	11		再企画発表	詳細設計 3D-CAD フローチャート UML		
		8	12		再再企画発表			
		15	13					
		22	14		安全教育			
	8							
	9			補講				
		30	15			設計レビュー		
後期	10	6		工場見学			ハード製作	ソフト製作
		13	1			出図・発注		
		20	2	体育祭		↓		
		27	3					
	11	1	4			納入		
		10	5					
		17	6					
		24	7					
	12	8	8					
		15	9					
	1	5	10				ソフト・ハード結合調整	
		12	11				システム調整	
		19	12				リファイン/まとめ	
		26	13				成果発表	
	2	2	14					
		9		学年末試験				
		16	15				知識共有会	

（出典　制御情報工学科作成授業資料）

資料５－２－③－13

創造設計成果発表会プログラム

平成22年度　制御情報工学科 創造設計成果発表会プログラム　　1/1 ページ

平成22年度　制御情報工学科 創造設計成果発表会プログラム

1. 日時：平成23年2月10日(木)　13:20～16:20
2. 会場：創造設計演習室（通称：物づくり工房）
3. 発表時間：1テーマ当たり30分（ポスター発表(デモ実演含む)[15分],プレゼン[10分]および討論[5分]）。
   時間の経過は時鈴により知らせる。

- 13:05　会場準備・・・・吉野、長谷
- 13:20　開会のあいさつ……大島
- 13:30　発表開始
- 16:10　閉会 ： 講評……相良

講演番号	開始時間	プロジェクト名	製品名	テーマ名	プロジェクト・リーダー	座長
1	13:30	Team FPT	FPT(Foot Pot Touch)	直感的インターフェースを持つ楽器の開発	小笠原真也 (*OGASAWARA Masaya*)	山梨 野村
2	14:00	Project ISSHO	e-move	n人が作る幾何形による音の創造	内藤 広海 (*NAITOH Hiromi*)	
3	14:30	Project RYTHEM	こだわりずむ	落球運動を利用したリズム演奏装置の開発	野木 江梨奈(*NOGI Erina*)	
				休　憩(10分間)		
4	15:10	音人工房	音人(*おんぴーじん*)	イメージを動作で音にする楽器の開発	平本 紘大 (*HIRAMOTO Koudai*)	竹下 赤沼
5	15:40	Projec Tone	音色	色識別を用いた手袋型の演奏装置の開発	松蔭 瞭 (*MATUKAGE Ryou*)	

戻る　TOP

（出典　制御情報工学科作成授業資料）

資料５－２－③－14

創造設計発表会資料

創造設計　成果発表
1班

Present by Team FPT

L:小笠原真也
Br:白石智一&森田裕司
HW:赤沼亮介&鈴木勇気
SW:池田龍ノ介&小澤暁拓
Web:渋谷鍵太郎

はじめに

- 演奏デモ、どうでしたか？

僕ら Team FPT が
作った
直感的インターフェイス
を持つ楽器

FootPofTouch の紹介をさせて頂きます

1. 目的

- 音楽経験に関係なく楽しく演奏できる楽器を作りたい！
- 未経験者にとっての楽しさって？
  - 適当に触るだけで音を出せる → 入力が容易
- 経験者にとっての楽しさって？
  - 練習次第で曲を演奏できる → 音階を有す、拡張機能あり
- これらの機能を併せ持つ…

直感的インターフェイスを持つ楽器の開発へ！

2. 製品　FPT~FootPofTouch~

（出典　制御情報工学科授業レポート）

資料５－２－③－15

シラバス（物質工学入門）

学科学年	C１	科目分類	物質工学入門[物入] Introduction of chem. and biochem.	実験・実習 必修	通年 2履修単位	学習教育目標 2	担当	後藤孝信・勝又勝利 GOTO Takanobu・KATSUMATA Masatoshi

概　要	物質工学とは，物質の組成，構造，変化について基礎的理解を示した上で，有用な物質を見い出して利用したり，新規に作り出す学問であるが，その根底には”ものづくり”に共通して必要とされる素養，つまり，創造力，忍耐力，そして調査解決能力を要する。本講義を通じて，“ものづくり”を理解し，そのために必要な素養を身に付ける。
科目目標（到達目標）	与えられたテーマについて，要点を理解すると同時に，生じた問題解決に向けて調査と試行錯誤を繰り返し，内容を向上させることができる。
教科書 器材等	画用紙，新聞紙，はさみ，小刀，コンパス，竹片，紙コップ，アルミ箔などの各テーマに必要な機材
評価の基準と方法	授業時間に作成した”もの“と，その作成に関するレポートの完成度を評価の対象とする。
関連科目	特になし

授業計画

	日	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）
第 1回	4/20	**本科目の説明，学科の先生の研究紹介(2名：芳野先生，後藤)**
第 2回	4/27	**学科の先生の研究紹介(3名：蓮実先生，竹口先生，古川先生)**
第 3回	5/11	**学科の先生の研究紹介(3名：渡辺先生，押川先生，稲津先生)**
第 4回	5/18	**学科の先生の研究紹介(2名：大川先生，藁科先生)，今後の授業の説明**
第 5回	5/25	**研究室訪問1(高専の授業体系と中間試験に向けて)**
第 6回	6/1	**紙コップロケットの製作(1回目)**
第 7回	6/8	**紙コップロケットの製作(2回目)**
第 8回	6/15	**研究室訪問2(中間試験の反省と講義・実験・実習に対する取り組み方)**
第 9回	6/22	**紙コップロケットのコンテスト**
第10回	6/29	**レポートの書き方指導とレポート作成**
第11回	7/6	**沼津工学科のイメージキャラクター，キャッチコピー，ロゴ作成**
第12回	7/13	**沼津工学科のイメージキャラクター，キャッチコピー，ロゴ作成**
第13回	7/20	**研究室訪問3(前期末試験に向けて)**
第14回	9/28	**完成品の発表会と評価**
第15回	10/5	**勝又先生による竹細工**
第16回	10/12	**勝又先生による竹細工**
第17回	10/19	**勝又先生による竹細工**
第18回	10/26	**勝又先生による竹細工**
第19回	11/2	**勝又先生による竹細工**
第20回	11/9	**勝又先生による竹細工**
第21回	11/16	**勝又先生による竹細工**
第22回	11/30	**勝又先生による竹細工**
第23回	12/7	**勝又先生による竹細工**
第24回	12/14	**勝又先生による竹細工**
第25回	12/21	**勝又先生による竹細工**
第26回	1/11	**勝又先生による竹細工**
第27回	1/18	**勝又先生による竹細工**
第28回	1/25	**勝又先生による竹細工**
第29回	2/1	**勝又先生による竹細工**
第30回	2/15	**授業アンケート**

オフィスアワー	平日の早朝(7:30 - 8:30)と，講義や会議の時間を除く夕方(17:15まで)に対応できる。
授業アンケートへの対応	話し方に注意し，黒板への板書を丁寧に書き，成績の評価を明確にする。
備　考	作業の日は5－8限を使用することがあるので，午後は予定を入れないこと。
更新履歴	20110329

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－２－③－16

学生の報告書

6/1 〈紙コップロケット製作：設計レポート〉

必要なもの：（空き缶（アルミ缶）→スチール缶と膨張率の違い、セロテープ、厚紙、画用紙、カッター、はさみ、のり、接着剤、コンパス→紙コップへの細工（工夫）するため）

作成上の要点（気をつける点、意識する点）

↳ ①重量の視点、②空気抵抗の視点、③工夫する際の画用紙、厚紙などの形、つけ方の視点など。

どう工夫するか（より高く飛ばすために何をするか）

↳ 視点①…画用紙、厚紙、をつける際ののりや接着剤の量、いらない部分の除去など

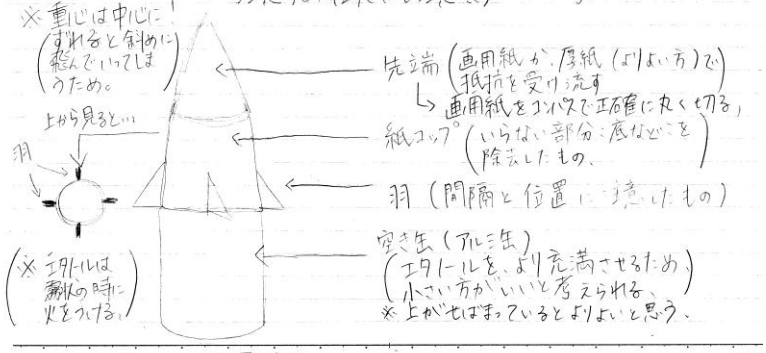
視点②…羽をつける位置、進行方向からの抵抗の受け流しなど

視点③…無駄な部分がないようにする、曲がらないように接着する（曲がると抵抗となる）、最も有効だと思われる形（羽など）にするなど。

↳ 羽…風が切れるように4つ羽を付ける。（等間隔であることに注意する。）

先端をとがらせる…空気抵抗（進行方向への）をより少なくするため（重くなりすぎないように注意する。軽すぎにも注意!!）

} 図、参照。



図：設置状況



（出典　物質工学科授業レポート）

各学科は学外実習の科目を４年生と５年生に設けて（電子制御工学科は３年生にも有り）インターンシップを実施している。学外実習規程（資料５－２－③－17）と学外実習学生心得（資料５－２－③－18）に基づいた指導の下に，積極的にインターンシップに参加させている。インターンシップ募集の情報（資料５－２－③－19）はウェブサイトに提示し，学生が最新の情報を得て計画することができる。平成23年度インターンシップの受け入れ（資料５－２－③－20）が始められている。平成22年度の派遣実績（資料５－２－③－21）は４年生の夏季に多数ある。受け入れ企業では，実習日誌（資料５－２－③－22）を作成するとともに証明書（資料５－２－③－23）を本校に提出する。学生は報告書（資料５－２－③－24）を作成し，実習内容を企業で発表する。進級判定会議資料からまとめた単位認定実績（資料５－２－③－25）からわかるように，多くの学生が評価Aを得ている。平成22年度のインターンシップの担当教員による報告書（資料５－２－③－26）に，参加学生数の推移，受け入れ企業からのアンケート結果，学生からのアンケート結果がまとめられている。

資料５－２－③－17

学外実習規程

11. 沼津工業高等専門学校学外実習規程

（趣　　旨）

第 1 条　この規程は、沼津工業高等専門学校学則第 13 条第２項別表第２に定める選択科目のうち、学外実習について必要な事項を定める。

（学外実習の目的）

第 2 条　学外実習は、本校学生が、企業等（国又は地方公共団体を含む。以下「実習機関」という。）において、実習（実習機関の計画する研究開発に関する研修及び技術講習等を含む。）を通じ工業技術を体得することを目的とする。

（履修の時期）

第 3 条　学外実習は、原則として夏期休業期間中に履修するものとする。

（履修の手続き）

第 4 条　学外実習の履修を希望する学生は、別に定める期日までに、選択科目受講票を学科長を経て校長に提出しなければならない。

（実習機関及び指導教員）

第 5 条　前条に基づき履修を許可された学生（以下「実習学生」という。）に係る実習機関及び指導教員は、学科長の推薦に基づき校長が決定する。

（実習機関及び指導教員の推薦）

第 6 条　学科長は、実習機関及び指導教員の推薦にあたって、次の事項を明記するものとする。

(1)　実習学生
(2)　実習機関の名称
(3)　実習機関の所在地及び実習場所
(4)　実習内容
(5)　実習期間（実習時間を含む）
(6)　指導教員
(7)　実習条件（宿舎、安全対策、保険等）
(8)　推薦する理由

2　学科長は、次の事項のいずれかに該当する場合はこれを推薦しないものとする。

(1)　著しく危険を伴うもの
(2)　アルバイトと紛らわしいもの
(3)　宿舎、交通費等学生の負担が著しいもの
(4)　就職活動の一部と見られるもの

(96)

資料５－２－③－17　続き

（指 導 教 員）

第 7 条　指導教員は、学外実習について次の事項を行う。

⑴　実習機関との連絡

⑵　実習状況の確認

⑶　実習中の事故に対する対応

⑷　成績評価

⑸　その他学外実習に関すること

（依　　頼）

第 8 条　実習機関への依頼は校長が行う。

（実 習 心 得）

第 9 条　実習学生は、別に定める学外実習学生心得を守らなければならない。

（報　告　書）

第 10 条　実習学生は、実習終了後、実習報告書を、実習機関を経て指導教員へ提出しなければならない。

（成 績 評 価）

第 11 条　指導教員は、実習報告書及び実習機関の評価等により成績評価の原案を作成し、学科長を経て校長に提出するものとする。

第 12 条　単位認定及び成績評価は、成績判定会議の議を経て校長が行う。

第 13 条　学外実習の単位は、１週間の基準作業時間を１単位相当とし、学科で定める単位数に相当する数の週以上を履修した者について認定するものとする。ただし、２学年にわたる実習を総合し単位を認定することはできない。

（そ　の　他）

第 14 条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　　則

1　この規程は平成４年 12 月１日から施行する。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－２－③－18

学外実習の心得

12. 学外実習学生心得

学外実習（以下「実習」という）は企業等において実際の工業技術を体得するため、専門課程の一環として履修するものであり、実習に従事する学生は、この心得を守らなければならない。

1　学生は、この心得のほか必要な事項、細目について、実習開始前に学外実習指導教員の指示を受けること。

資料５－２－③－18　続き

2　学生は、実習先の監督者の指導を受けるとともに、次に掲げる事項を守り、実習の目的を十分に達成するよう心がけること。

A）規　　律

ア　出退勤時間、休憩時間を守ること、無断で欠勤、遅刻、早退等は絶対にしないこと。

イ　社内規律、作業内規等の規則に従うこと。

ウ　学生としての良識ある行動をとり、礼節を守ること。

エ　その他社内秩序を乱さないよう留意すること。

B）社内機密保持

ア　無断で設備、製品、図面等社内の写真撮影をしないこと。

イ　無断で指定外の場所に立ち入らないこと。

ウ　許可なく、製品、研究、文献、ソフトウェア、図面、談話等を社外に漏らさないこと。

C）安全保持

ア　監督者の指示・説明に従い、独断で作業をしないこと。

イ　実習先の作業心得、安全心得をよく守り、細心の注意を払い、事故を起さないよう心がけること。

ウ　万一事故又は異常事態が生じた場合は、直ちに、監督者に報告するとともに、すみやかに指導教員に連絡すること。

D）作業態度

ア監督者の指示に従い、独自の行動はとらないこと。

イ実習先の社員等に対しては、努めて謙虚な態度で接すること。

ウ必要以外の設備等には手を触れたりしないこと。

エ実習期間中は、毎日、作業の終了を監督者に報告すること。

E）用具の使用

ア　無断で社内の用具を使用しないこと。また、使用後は必ず元の場所に返しておくこと。

イ　許可なく物品の搬入・搬出をしないこと。

3　学生は、実習期間中、常に指導教員と連絡を保つとともに、実習内容の変更があった場合は、速やかに指導教員に報告すること。

4　学生は、実習終了後、実習報告書を実習先に提出するとともに、すみやかに経過を指導教員に報告すること。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－２－③－19

平成23年度インターンシップ募集案内

インターンシップのページ（募集案内等）

・募集案内
・保険関係
・関係書類（手続きや報告書について）

	募集先企業名等	学内応募先	学内応募期限	掲載日	備　考
1.	サンリツオートメイション(株)	教務係	終了	23.05.23(月)更新	全ページ
2.	山梨大学工学部	教務係	終了	23.05.18(金)更新	※P4～P19追加情報
3.	長岡技術科学大学	教務係	終了	23.04.25(月)	
4.	豊橋技術科学大学	教務係	終了	23.04.26(火)	
5.	村田機械(株)	教務係	終了	23.04.27(水)	※本科のみ
6.	文部科学省	教務係	23.06.10(金)	23.05.09(月)	
7.	富士電機(株)	教務係	終了	23.05.16(月)	※定員になり次第締切との事
8.	ムラテックＣＣＳ(株)	教務係	23.05.27(金)	23.05.16(月)	※本科のみ・先着優先書類選考との事
9.	花王(株)	教務係	終了	23.05.16(月)	※健康診断書要
10.	(株)ＮＴＴネオメイト	教務係	終了	23.05.18(水)	
11.	キヤノン(株)	教務係	終了	23.05.18(水)	
	キヤノン(株)	教務係	23.06.20(月)	23.06.10(金)	※電気・電子系本科４年生先着1名
12.	(株)アルバック	教務係	23.06.15(水)	23.05.20(金)	※実験ｺｰｽ(３日間)は応募不可
13.	チームラボ(株)	教務係	随時	23.05.23(月)	
14.	(株)オプティム	教務係	23.06.08(水)	23.05.25(水)	
15.	中外製薬工業(株)	教務係	終了	23.05.25(水)	
16.	日本たばこ産業(株)	教務係	23.06.16(木)	23.05.27(金)	
17.	(株)東芝	ｵﾝﾗｲﾝ登録	23.06.19(土)	23.05.30(月)	※決定後 、推薦書と登録画面印刷を教務係へ
18.	旭化成(株)				※前期末試験期間中につき応募不可
19.	東日本旅客鉄道(株)	教務係	23.06.20(月)	23.05.30(月)	
20.	ｿﾆｰﾃﾞｼﾞﾀﾙﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾞ(株)	教務係	23.06.23(木)	23.06.02(木)	
21.	日本原子力発電(株)	教務係	23.06.17(金)	23.06.02(木)	
22.	三菱電機ﾋﾞﾙﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ(株)				※前期末試験期間中につき応募不可
23.	メタウォータ(株)	教務係	23.16.09(木)	23.06.06(月)	※先着1名応募可。定員になり次第締切との事
24.	サントリープロダクツ(株)	教務係	23.06.16(木)	23.06.06(月)	
25.	ダイキン工業(株)	教務係	終了	23.06.10(金)	※先着順定員になり次第終了との事
26.	三菱化学(株)	教務係	23.06.30(木)	23.06.10(金)	
27.	ﾄﾞｺﾓｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ東海(株)	教務係	23.07.01(金)	23.06.13(月)	※先着２名応募可
28.	出光興産(株) new!!	教務係	23.07.01(金)	23.06.15(水)	※男子学生のみ

H22年度募集案内
H21年度募集案内
H20年度募集案内
H19年度募集案内
H18年度募集案内

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－２－③－20

平成23年度インターンシップ受け入れ予定

整理番号	HP番号	相手先情報	クラス												実施決定学内処理	実習期間		
		企業名および大学名	M4 永禮	E4 野毛	D4 江上	S4 鈴木	C4 古川	M5 三谷	E5 佐藤	D5 長澤	S5 吉野	C5 竹口	ME1	DS1	CB1	結果	始	終	日間
2	2	山梨大学工学部		1												○	9/5	9/9	5
3	3	長岡技術科学大学			1											○	8/8	8/12	5
4	4	豊橋技術科学大学				1										○	9/5	9/9	5
4	4	豊橋技術科学大学	1													○	8/22	8/26	5
4	4	豊橋技術科学大学											新冨			○	8/22	9/2	12
9	—	(株)明電舎											三谷			○	8/22	9/2	12
11	—	ヤマハモーターエンジニアリング(株)			1											○			
12	10	(株)NTTネオメイト		1												○	8/22	9/2	12
12	10	(株)NTTネオメイト											高野			○	8/22	9/2	12
12	10	(株)NTTネオメイト			1											○	8/22	9/2	12
23		三菱重工(株) 名古屋航空宇宙システム製作所	1													○	8/22	8/30	9
29	—	シチズンセイミツ(株)	1													○	9/1	9/16	16
29	—	シチズンセイミツ(株)	1													○	9/1	9/16	16
32	—	オリンパステルモバイオマテリアル(株)					1									○	8/8	8/10	3

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－21

平成22年度インターンシップ実施成果

番号	企業・機関　名称	4年生					5年生					実習期間			
		機械	電気	電子	制御	物質	機械	電気	電子	制御	物質	から	まで	1週間	2週間
1	東京工業大学											8月16日	8月27日		○
2	文部科学省														
3	株式会社アルバック														
4	富士鋼業株式会社			○								8月18日	8月28日		○
5	山梨大学				○							8月23日	8月27日	○	
												8月2日 8月23日	8月6日 8月27日		○
6	豊橋技術科学大学													○	
					○							8月9日	8月13日	○	
						○						8月23日	8月27日	○	
7	キヤノン株式会社		○									8月23日	8月27日	○	
8	株式会社 エム・システム技研														
9	長岡技術科学大学														
10	財団法人 海外貿易開発協会 株式会社 タイショー技研											8月2日	8月21日		
11	矢崎総業株式会社 技術研究所										○	7月26日	8月6日		○
12	富士電機システムズ 株式会社														
13	静岡県経営者協会からの 紹介企業														
14	三菱電機ﾋﾞﾙﾃｸﾉｻｰﾋﾞｽ 株式会社		○									8月16日	8月27日		○
				○								8月16日	8月27日		○
15	ピクシブ株式会社														○
16	花王株式会社					○						8月24日	9月3日		
17	トヨタテクニカルディベ ロップメント株式会社											8月16日	8月27日		
												8月16日	8月27日		
												8月16日	8月27日		○
18	大阪ガス株式会社											7月21日	7月29日		
19	高畑精工株式会社											7月25日	8月7日		○
20	アイフォーコム 株式会社											8月23日	9月3日		
21	東日本旅客鉄道 株式会社														
22	千葉大学 工学部長　野口　博														
23	いすゞエンジニアリング 株式会社											8月16日	8月27日		
24	株式会社 マルハニチロ食品														
25	矢崎総業株式会社											8月16日	8月27日		○
26	サンリツオートメイショ ン株式会社														
27	日本たばこ産業 株式会社東海工場		○									7月26日	7月30日	○	
					○							7月26日	7月30日	○	
28	日本原子力発電 株式会社		○									8月9日	8月13日	○	
												7月26日	8月6日		○
												7月26日	8月6日		○
29	旭化成株式会社		○									8月2日	8月6日	○	
						○						8月2日	8月6日	○	
		○										8月2日	8月6日	○	
30	マイクロソフト														
31	中外製薬工業株式会社					○						8月2日	8月6日	○	
32	明電システムテクノロ ジー 株式会社											7月29日	8月11日		○
												7月29日	8月11日		○
33	第一三共プロファーマ株 式会社					○						8月2日	8月6日	○	
34	ｿﾆｰｲｰｴﾑｼｰｴｽ 株式会社 湖西ﾃｯｸ											8月16日	8月27日		
35	株式会社 ＮＴＴネオメイト											7月26日	8月6日		○
				○								7月26日	8月6日		○
												7月26日	8月6日		○
36	ドコモエンジニアリング 東海株式会社		○									7月26日	7月30日	○	
37	メタウォーター 株式会社											7月26日	8月6日		○
38	セイコーエプソン 株式会社														
39	日本食品化工株式会社 富士工場											8月16日	8月20日	○	
40	サントリーホールディン グス株式会社														
			○									8月15日	8月19日	○	
		○										8月15日	8月19日	○	

資料５－２－③－21　続き

番号	企業・機関　名称	4年生					5年生					実習期間			
		機械	電気	電子	制御	物質	機械	電気	電子	制御	物質	から	まで	1週間	2週間
41	ＮＴＴｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ株式会社													○	
42	日本アイ・ビー・エム株式会社														
43	ｿﾆｰﾃﾞｼﾞﾀﾙﾈｯﾄﾜｰｸｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｽﾞ株式会社				○							8月16日	8月27日		○
44	フロイント産業株式会社											8月9日	8月13日	○	
45	Ｊ－ＰＯＷＥＲグループ														
46	チッソ石油化学株式会社					○						8月16日	8月27日		○
47	東洋インキ製造株式会社											8月23日	8月27日		
48	東京電力株式会社														
49	協和発酵キリン株式会社					○						8月2日	8月6日	○	
50	株式会社リコー沼津事業所					○						8月16日	8月20日		
			○									7月26日	7月30日	○	
51	オリンパステルモバイオマテリアル株式会社					○						8月2日	8月6日	○	
52	富士通株式会社			○								8月1日	8月6日	○	
				○								8月1日	8月6日	○	
53	中部電力株式会社		○									8月9日	8月13日	○	
				○								8月9日	8月13日	○	
		○										8月9日	8月13日	○	
54	イハラニッケイ化学工業株式会社					○						8月23日	8月27日	○	
55	キリンディステラリー株式会社											8月16日	8月27日		
56	ダイキン工業株式会社														
57	ぬまづ産業振興プラザ		○									7月27日	8月13日		
			○									7月27日	8月11日		
			○									7月31日	8月17日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
									○			7月23日	8月23日		
					○							7月27日	8月18日		○
					○							7月27日	8月18日		○
												8月2日	8月13日		
58	株式会社エッチ・ケー・エス				○							8月23日	8月27日	○	
		○										8月23日	8月27日	○	
59	有限会社共栄技研				○							8月23日	8月27日	○	
60	中日本高速道路株式会社														
61	川研ファインケミカル株式会社					○						8月2日	8月6日	○	
62	東燃ゼネラル石油株式会社/東燃化学株式会社					○						8月17日	8月27日		
63	株式会社アッズーリ														
64	ベックマン・コールター・三島株式会社											8月23日	8月27日	○	
65	ＣＴＣテクノロジー株式会社				○							8月2日	8月6日	○	

資料５－２－③－21　続き

番号	企業・機関　名称	4年生					5年生					実習期間		1週間	2週間
		機械	電気	電子	制御	物質	機械	電気	電子	制御	物質	から	まで		
66	自然科学研究機構 核融合科学研究所		○									8月23日	8月27日	○	
			○									8月23日	8月27日	○	
67	東邦化工建設（株）											7月28日	8月10日		○
68	静岡大学工学部											8月18日	8月31日		○
												8月16日	8月27日		○
												8月16日	8月27日		○
69	株式会社ヤクルト本社 富士裾野工場					○						8月23日	8月27日	○	
		○										8月23日	8月27日	○	
70	株式会社小松製作所											7月28日	8月10日		○
71	函南東部農業協同組合					○						8月2日	8月13日		○
72	コンティネンタル・オートモーティブ株式会社											8月18日	8月31日		○
73	牧之原市														
74	株式会社 電業社機械製作所											8月2日	8月12日		
75	東レ株式会社 三島工場					○						8月23日	8月27日		
76	株式会社 中外医科学研究所											8月16日	8月27日		
77	ベックマン・コールター・バイオメディカル株式会					○						8月23日	8月27日	○	
78	エミック株式会社											8月18日	8月31日		○
79	東芝機械株式会社 本社工場											8月18日	8月31日		○
80	株式会社 エフ・シー・シー	○										8月23日	9月10日		○
81	ＮＳＫワーナー 株式会社	○										8月16日	8月27日		○
82	臼井国際産業株式会社	○										7月26日	8月6日		○
83	非電化工房	○										7月26日	8月6日		○
84	大塚製薬株式会社	○										7月26日	7月30日	○	
85	関東自動車工業株式会社	○										8月23日	9月3日		○
86	御殿場テトラパック合同会社											8月2日	8月13日		○
												8月2日	8月13日		○
87	株式会社日本防振工業											7月26日	8月6日		○
88	JX日鉱日石エネルギー株式会社					○						8月23日	8月27日	○	
		○										8月23日	8月27日	○	
89	東芝テック株式会社											7月28日	8月10日		○
90	新日本製鐵株式会社	○										7月26日	8月6日		○
91	赤武エンジニアリング株式会社	○										8月2日	8月11日		○
92	シチズンセイミツ株式会社	○										7月26日	8月6日		○
93	東プレ株式会社	○										8月16日	8月27日		○
94	学校法人静岡県自動車学園				○							8月2日	8月14日		○
95	森永製菓株式会社 三島工場	○										8月2日	8月12日		○
96	株式会社ユニバンス	○										8月17日	8月30日		○
97	株式会社明電舎	○										8月2日	8月12日		○
98	株式会社エステック											8月3日	8月17日		○
99	奈良先端科学技術大学院大学											8月2日	8月13日		○
	クラス別小計	19	14	6	10	17	0	0	0	0	1			8	28
	学年別小計	66					7								
	合　　計	73													

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－２－③－22

インターンシップ実習日誌

インターンシップ 実習日誌

所属　工学科 4年
氏名

受入先名　株式会社　明電舎　ICTモジュール技術課
実習期間　平成22年 8月 2日 ～ 平成22年 8月12日
実習テーマ　電気機械器具の設計、製造、検証等

実習期日 月・日	曜日	実習内容	実習先確認印
8.2	月	工場見学，施設案内	
8.3	火	工場見学，温度検証，風速測定	
8.4	水	温度検証，風速(PULSE)測定，データ解析	
8.5	木	温度検証，風速測定(PUSH法)，データ解析	
8.6	金	中間報告，データ修正，コンタ図作成	
8.9	月	データ修正，温度検証，風速測定	
8.10	火	温度検証，風速測定，データまとめ	
8.11	水	データまとめ，P-CAD演習	
8.12	木	発表，実習レポート提出	

（ただし、本様式は任意様式も可とする。）

（出典　平成 22 年度学外実習授業資料）

資料５－２－③－23

インターンシップ証明書

平成　年 8月12日

インターンシップ（学外実習）証明書

沼津工業高等専門学校長　殿

株式会社　明電舎　技術課
受入先名

印

当所において、下記のとおりインターンシップ（学外実習）を実施したことを証明します。

記

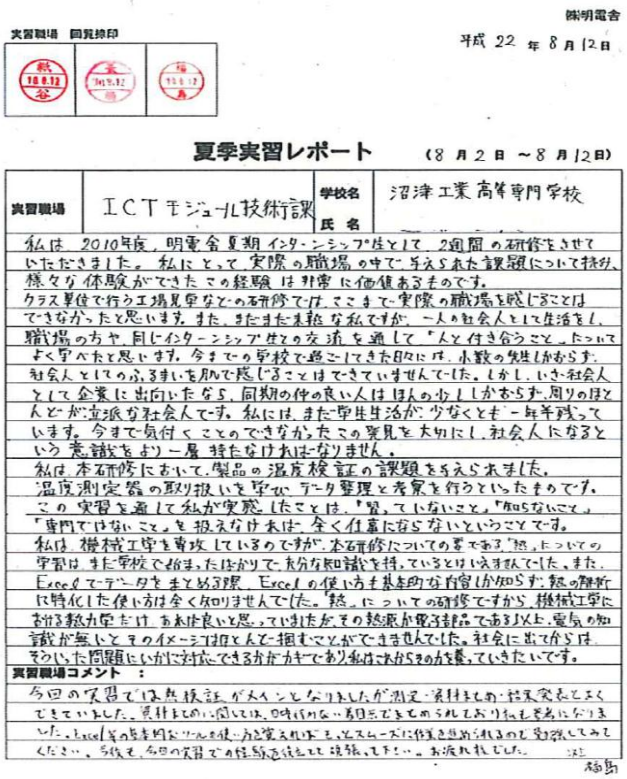
実習生	沼津工業高等専門学校 機械工学科　4年	氏名	
実習実施期間	平成22年8月2日（月）～8月12日（木） 実習 9日　時間		
所見	開発中の製品の温度検証を実施いただきました。 温度測定器の取り扱いを習得し、データ整理と考察も実施し、製品の温度上昇結果をアウトプットして出す事ができました。几帳面で粘り強く作業をすすめ有効な結果がアウトプットできた事は、高く評価できます。 今後、専門教科として熱流体も学習すると思いますが、実習で習得した内容をぜひ生かしていただきたいと思います。		

（ただし、本様式は受入先において定められた様式も可とします。）

（出典　平成 22 年度学外実習授業資料）

資料５－２－③－24

実習レポート



株明電舎

実習職場　回覧印

平成 22 年 8 月 12 日

夏季実習レポート　（8 月 2 日 ～ 8 月 12 日）

実習職場	ＩＣＴモジュール技術課	学校名 氏 名	沼津工業高等専門学校

私は 2010年度，明電舎夏期インターンシップ生として，2週間の研修をさせていただきました。私にとって実際の職場の中で与えられた課題について様々な体験ができたその経験は非常に価値あるものです。

クラス単位で行う工場見学などの研修では，ここまで実際の職場を感じることはできなかったと思います。また，まだまだ未熟な私ですが，一人の社会人として生活をし，職場の方や，同じインターンシップ生との交流を通して『人と付き合うこと』について学べたと思います。今までの学校で過ごしてきた日々には，小数の先生しかおらず，社会人としてのふるまいを肌で感じることはできていませんでした。しかし，いざ社会人として企業に出向いたなら，同期の仲の良い人はほんの少ししかおらず，周りのほとんどが立派な社会人です。私には，まだ学生生活が少なくとも一年半残っています。今まで気付くことのできなかったこの経験を大切にし，社会人になるという意識をより一層持たなければなりません。

私は，本研修において，製品の温度検証の課題を与えられました。温度測定器の取り扱いを学び，データ整理と考察を行うといったものです。この実習を通して私が実感したことは，『習っていないこと』『知らないこと』『専門ではないこと』を投げだしては，全く仕事にならないということです。

私は，機械工学を専攻しているのですが，本研修についての事前の『熱』についての学習は，また学校でおまけ程度の知識を持っているとは言えませんでした。また，Excelでデータをまとめる課題，Excelの使い方も基本的な内容しか知らず，熱の解析に特化した使い方は全く知りませんでした。『熱』についての研修ですから，機械工学に関する勉強だけでよいと思っていましたが，その熱源が電気製品であり以上，電気の知識が無いとそのイメージは掴むことができませんでした。社会に出てからは，そういった問題にいかに対応できるかがカギであり私はこれからその力を養っていきたいです。

実習職場コメント：

今回の実習では熱検証が大きくなりましたが測定・資材もあり・結果考察もよくできていました。資料までの問いは，時間内に期日までできるものでありれも考えになりました。Excelの基本的なツールを使い方を変えれば，もっとスムーズに作業出来ればのと勉強してみてください。与えた今回の実習での経験を活かして頑張って下さい。お疲れ様でした。

（出典　平成 22 年度学外実習授業資料）

資料５－２－③－25

学外実習の単位認定実績

４年生	科目	評価			
		A	B	C	D
機械工学科	学外実習Ⅰ，Ⅱ	8	8	2	0
電気電子工学科	学外実習Ａ，Ｂ	13	0	0	0
電子制御工学科	学外実習Ⅲ，Ⅳ	14	0	0	0
制御情報工学科	学外実習Ａ，Ｂ	10	0	0	0
物質工学科	学外実習Ⅰ，Ⅱ	16	1	0	0
５年生	科目	評価			
		A	B	C	D
機械工学科	学外実習Ⅰ，Ⅲ	0	0	0	0
電気電子工学科	学外実習Ａ，Ｃ	0	0	0	0
電子制御工学科	学外実習Ⅴ，Ⅵ	16	0	0	0
制御情報工学科	学外実習Ａ，Ｃ	0	0	0	0
物質工学科	学外実習Ⅲ，Ⅳ	0	0	0	0

（出典　平成22年度進級判定会議資料より集計）

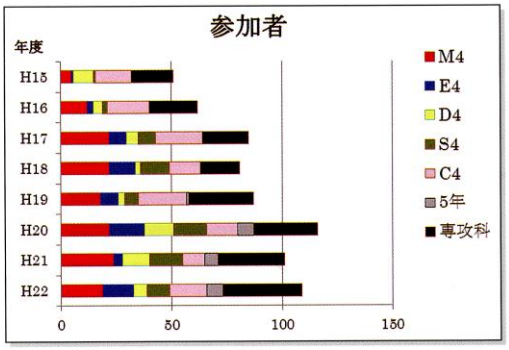
資料５－２－③－26

インターンシップの実施報告

8 インターンシップ（４年生対象）

三　谷　祐一朗

１．インターンシップ参加者の推移



図に、平成15年から８年間にわたり、沼津高専からインターンシップに参加した学生数の推移を示す。M、E、D、S、Cはそれぞれ、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、制御情報工学科、物質工学科、その後の数字は学年を意味する。５年生は参加者が少ないので、５学科をまとめた。また、専攻科生はインターンシップが必須科目であり、全員参加している。全体的に増加傾向にあるが、不況の影響を受け、ここ３年は伸び悩んでいるようにも見える。

参加学生の推移の、主な特徴を以下にまとめる。

１．平成16年度に、インターンシップは単なる外部単位の取得ではなく、就労体験であるという認識を新たにした。その結果、機械工学科と物質工学科の２学科は、毎年クラスの半数程度が参加している。

２．ここ３年間で５年生の参加が目立ってきた。これは学力低下に伴う単位不足の学生が、卒業を前にして要卒単位の確保のために参加した可能性がある。

３．専攻科生も増加傾向にある。これは、大学に編入学するよりも学費の安い専攻科で、大卒と同じ資格を得て就職し、大卒と同様の職種に就きたいという希望を持つ学生が増えたのかも知れない。専攻科には、広くかつ深く学習できるカリキュラムが組まれており、専攻科生は外部機関で学位試験を受け、合格を勝ち取って卒業する。したがって卒業生は皆、自信を持ってその先の進路へ進んでいる。それを魅力に感じて、本科から専攻科へ進学する学生が増加しているとも考えられる。

２．インターンシップ事前研修

インターンシップに参加する学生に対して、下記要領で夏休み前に事前研修を行った。

インターンシップ事前研修会

１）日時：2010年７月７日（水）16：30～17：50

２）場所：第一視聴覚教室

３）内容：

16：30　研修会に参加するにあたって
（インターンシップ担当教員）

16：32　挨拶・諸注意（教務副主事）

16：40　知財について（専攻科担当教員）

16：50　ガイダンス
（インターンシップ担当教員）

17：20　質疑・応答

17：30　ぬまづ産業振興プラザ説明会

17：50　終了

４）配布物：なし

上記３）の内容を以下にまとめる。

〈研修会に参加するにあたって〉

学校行事などの内部的なガイダンスと異なり、民間企業という学生の将来に深く関連する組織へ出向く前の重要なガイダンスである。気を引き締めて聞く。

〈挨拶・諸注意〉

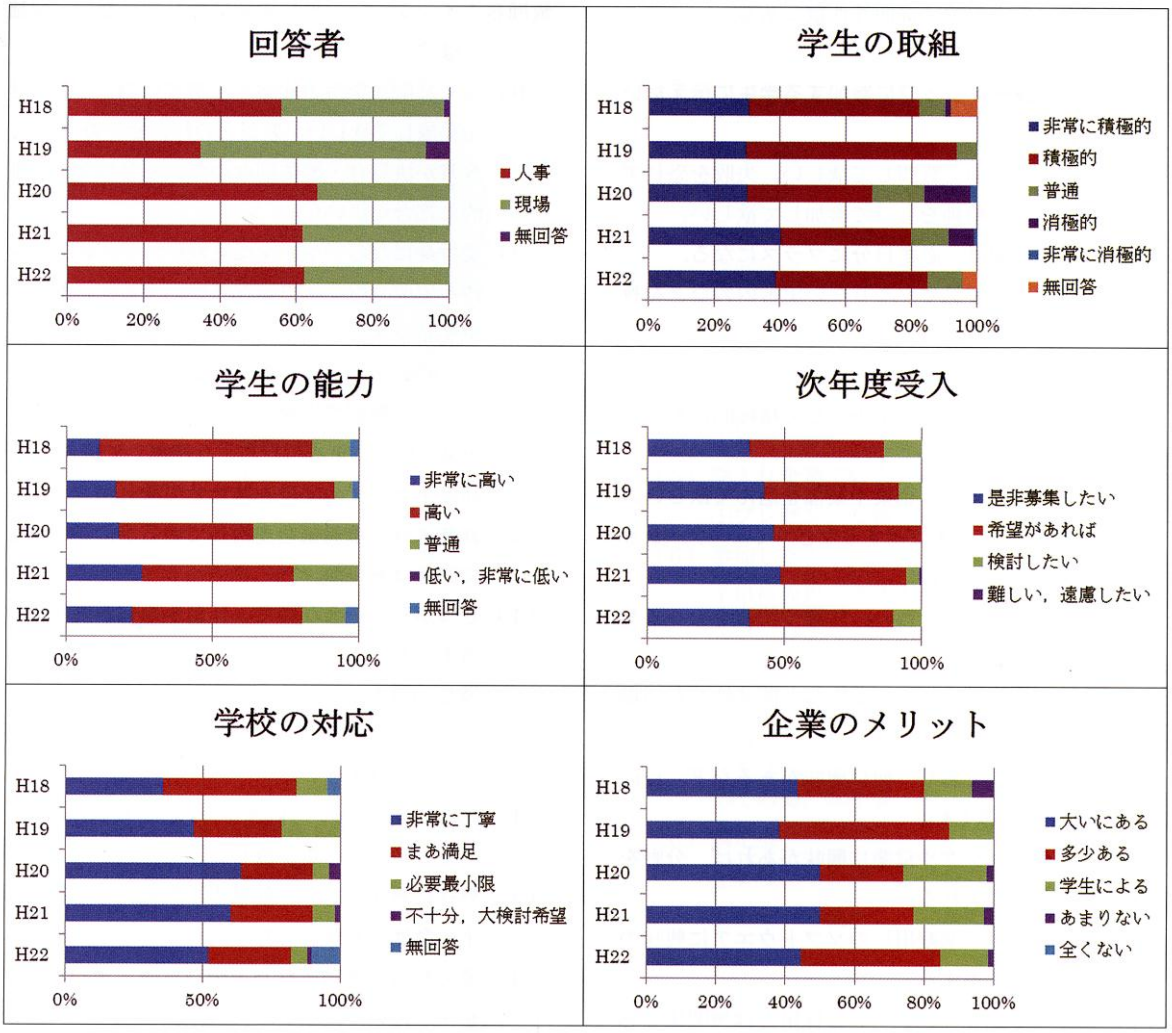
社会人としての心構えを持つ。学校生活においては、個人主義であり、授業料を払って参加しており、教育の場であり、～が分かる人を求められている。それに対し社会においては、組織中心であり、給料をもらい、実践の場であり、～ができる人が求められる。

〈知財について〉

知的財産、企業秘密を守るために、外部に持ち出されると困る、有形・無形のものがある。他人に口

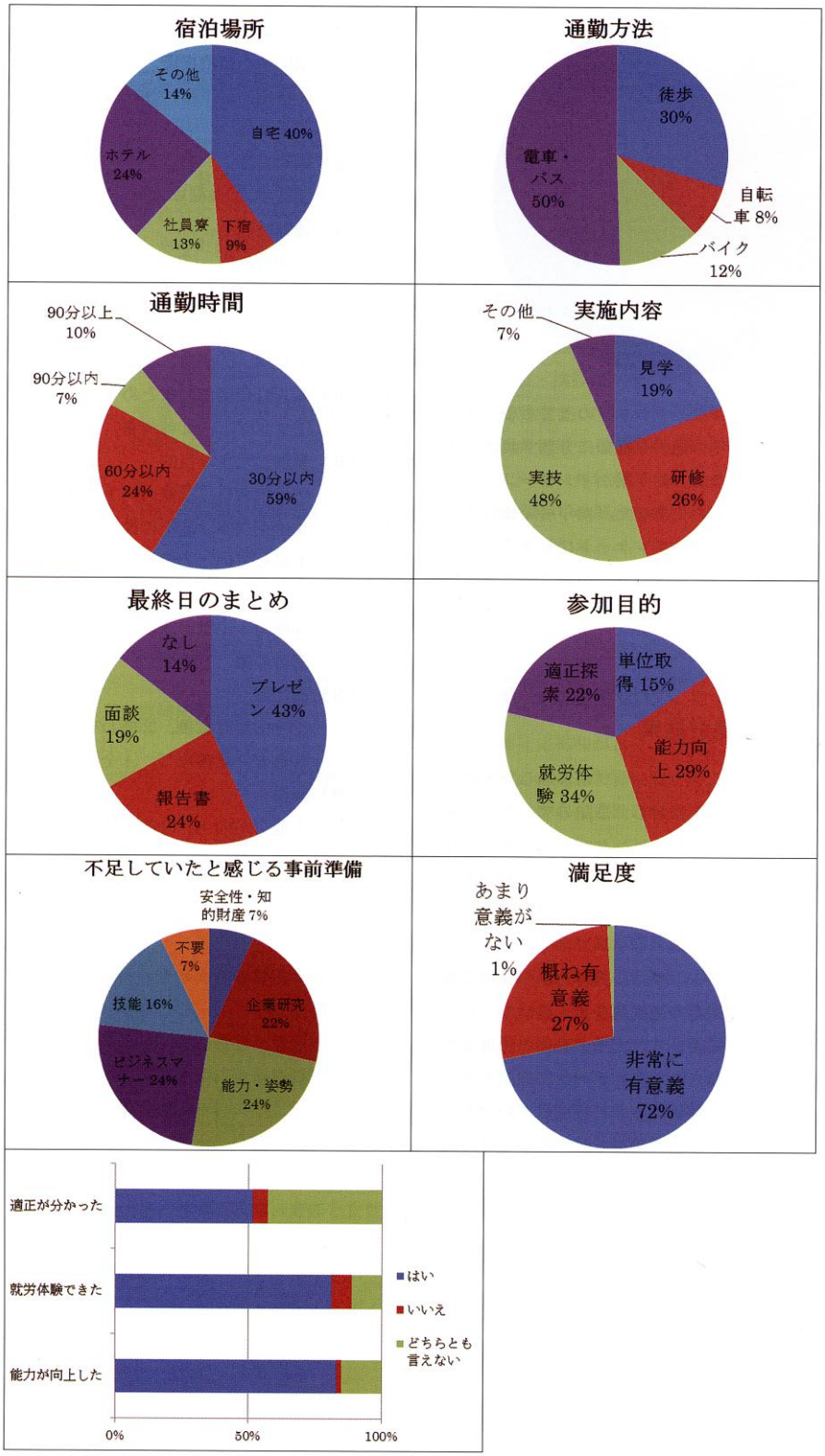
資料５－２－③－26　続き

受け入れ企業からのアンケート結果



資料５－２－③－26　続き

学生からのアンケート結果



（出典　平成22年度ものづくりステップ・アップ実践プログラム成果報告書）

（分析結果とその根拠理由）

全学科でPBL形の授業を展開し，創造力を育む教育方法の工夫を図っている。平成22年度インターンシップの報告書に述べられているように，インターンシップへの参加学生数は増加し，受け入れ企業からの回答によると学生の取り組みは積極的で高い評価を得ている。また学生の満足度は高く，就労体験ができ能力が向上したと感じている。

以上により，創造性を育む教育方法の工夫が図られ，インターンシップの活用が図られている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

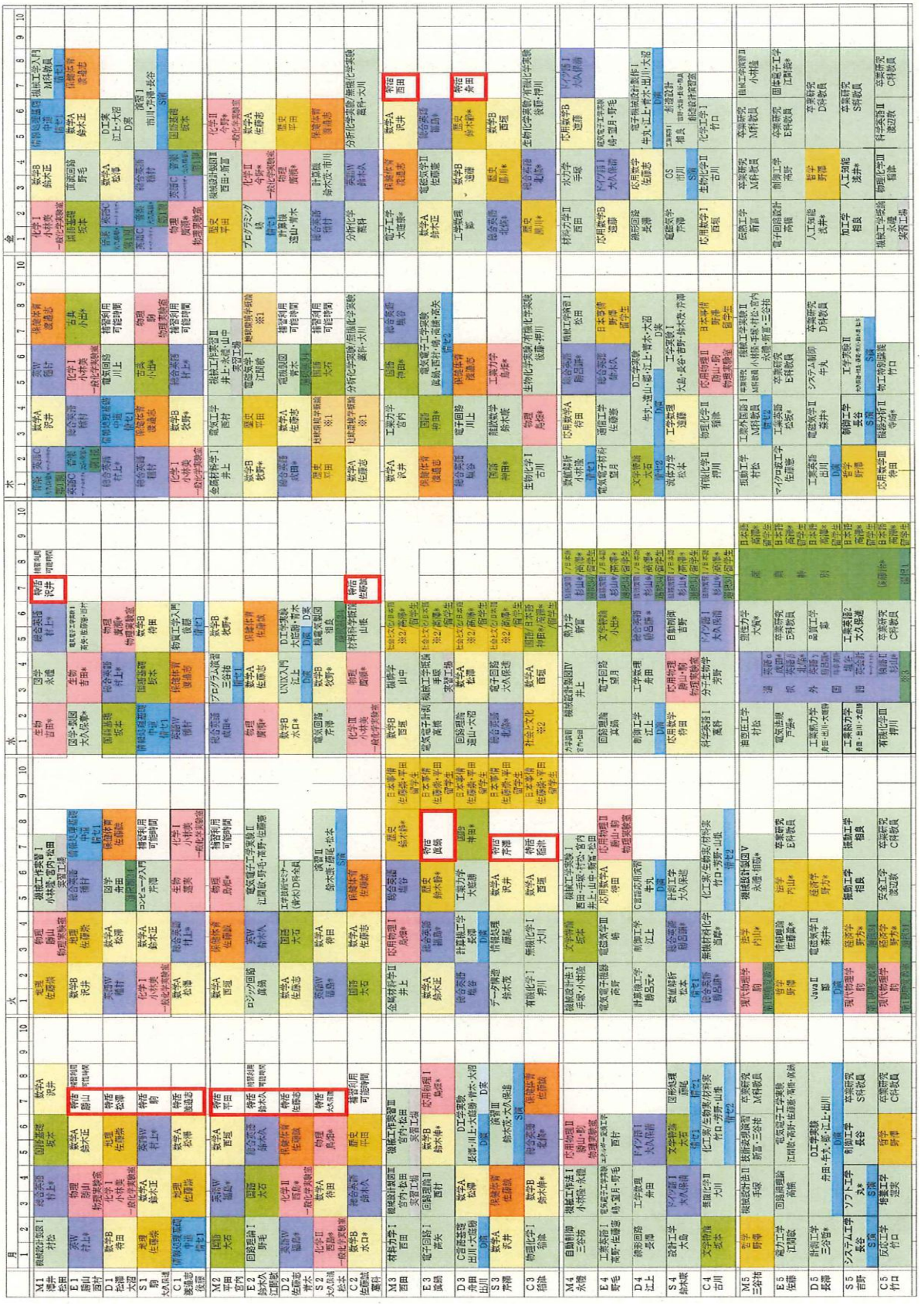
（観点に係る状況）

教育課程表の一般科目（前出資料５－１－①－１）に示すように，多くの一般科目を配置し，幅広い教養と人間性の育成に配慮している。１～３学年に対しては，特別活動の時間を時間割に組み（資料５－３－①－１，２），学級担任が中心となって計画的に運用している（資料５－３－①－３，４）。平成22年度までは３年生の合宿研修（資料５－３－①－５～７）は特別活動の一環として実施したが，平成23年度からは他学年の研修と同様に学校行事として実施することにした。種々の学校行事を通じても豊かな人間性の涵養が図られている（後出資料５－３－①－13）。

学生便覧の最初に「学生としての心構え」を明記し（資料５－３－①－８），豊かな人間性を養うよう学生に示し，学校行事，クラブ活動，寮生会活動及び学生活動等を通じて豊かな人間性の涵養を図るよう配慮している。

資料５－３－①－１

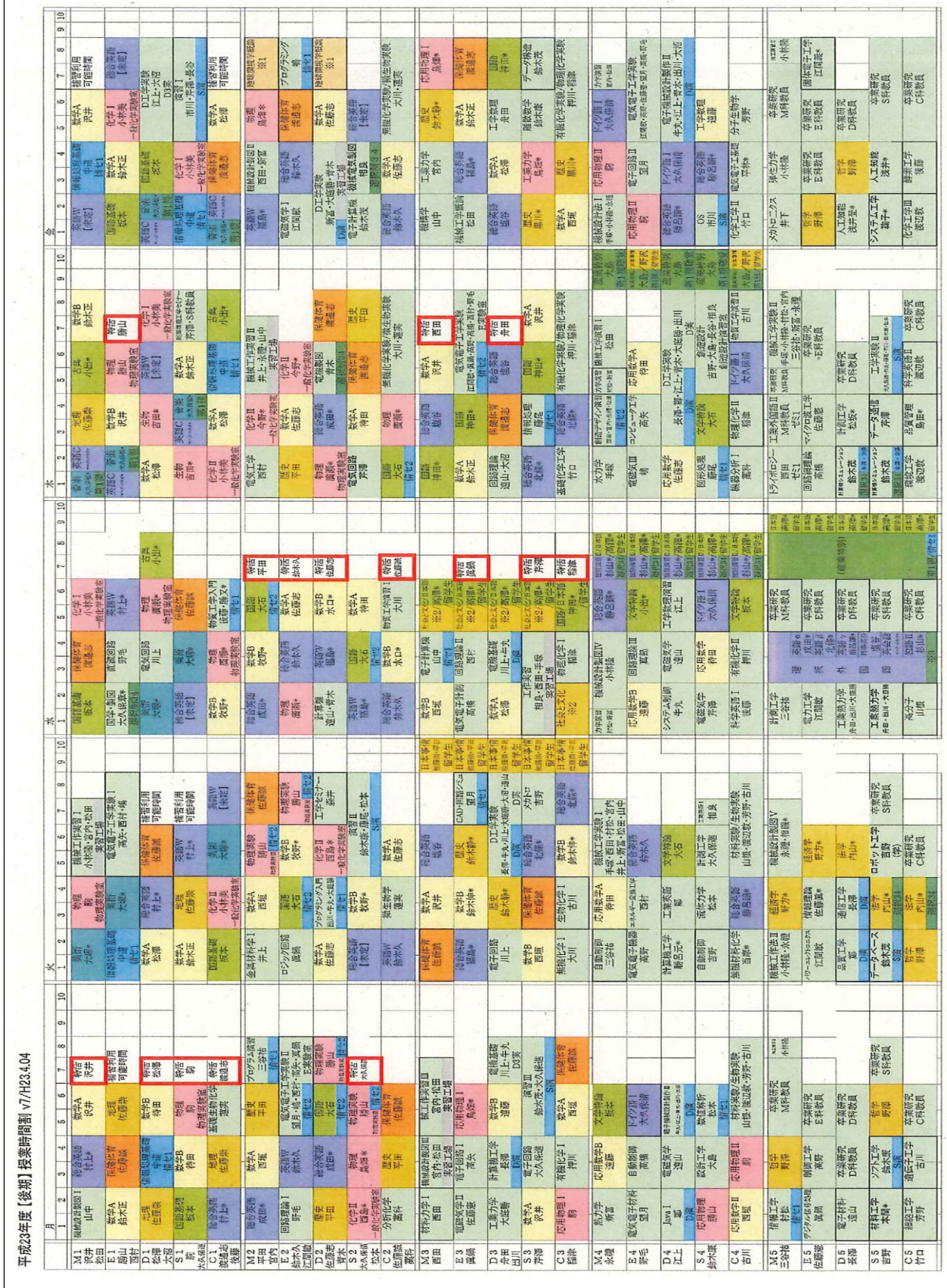
平成23年度本校前期時間割



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－３－①－２

平成23年度本校後期時間割



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－３－①－３

物質工学科1年前期特別活動の実施報告書

平 成 22 年 度
前期特別活動 実施報告書

回数	月日 ＼ 学級等	学　級：C1 担任氏名：小林美学	備　考
第1回	4.12	学年集会（御殿場研修について）	
第2回	4.19	学習時間について 各種提出書類について 連絡事項	
第3回	4.26	学習時間の調査結果 連絡事項	
第4回	5.13	ストレスマネジメント 連絡事項	
第5回	5.17	前期中間試験に向けて（日程，学習計画） 連絡事項	
第6回	5.24	レクリエーション（ドッジボール）	
第7回	5.31	定期試験のルール 定期試験について，先輩からの話 連絡事項	
第8回	6.9	前期中間試験に対する自己評価	
第9回	6.10	学習支援について 席替え 連絡事項	
第10回	6.14	図書館ガイダンス	
第11回	6.16	ものづくりステップアップ実践プログラム	
第12回	6.21	性に関する講話	
第13回	6.28	前期中間試験の結果について デートDVについて 聴力検査	
第14回	7.5	委員長会の報告 学年集会における受講態度について（話し合い）	
第15回	7.12	卒業生の話 夏休みの生活について 薬物の話	
第16回	7.14	ものづくりステップアップ実践プログラム	
第17回	7.22	夏休みの計画 教室の冷房の設定温度について	
第18回	9.6	朝読書に関するアンケートの結果報告 教室の冷房の設定温度についての結果報告 連絡事項	
第19回	9.13	前期期末試験に向けて（学習計画）	

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－４

物質工学科1年後期特別活動の実施報告書

平 成 22 年 度
後期 特別活動 実施報告書

回数	学級等 / 月日	学　級：C1 担任氏名：小林美学	備　考
第20回	9月30日	学生生活に関する講話	
第21回	10月4日	前期期末試験の振り返り 後期の日程	
第22回	10月18日	前期期末試験の結果	
第23回	10月25日	ものづくりステップアップ	
第24回	11月1日	レクリエーション 「バスケットボール」	
第25回	11月15日	エンカウンター「○○さんのいいところ」	
第26回	11月22日	後期中間試験について	
第27回	11月30日	後期中間試験の振り返り	担任出張のため，副担任が実施
第28回	12月6日	席替え	
第29回	12月13日	後期中間試験の結果 学習支援について	
第30回	12月20日	冬休みの生活について	
第31回	1月17日	インフルエンザについて Q-Uテストの実施	
第32回	1月24日	ものづくりステップアップ	
第33回	1月31日	ストレスマネジメント(2)「コーピング」 一年間のまとめ(学校生活)	
第34回	2月7日	学年末試験について 記憶のメカニズム	
第35回	2月28日	5年生の話 一年間のまとめ(今年がんばったこと) 春休みについて	

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－５

平成22年度3年生合宿研修のしおり

平成２２年度沼津工業高等専門学校
３年生合宿研修実施要項

１．目　的　・己に挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ
・卒業後の目標を再確認し、高専生活の意義を見直す
・親睦を深め、お互いを認め合う

２．心構え　・時間厳守
・人に迷惑をかけない
・自主的に行動する

３．対　象　３年生（２０５名）

４．期　日　平成２３年１月３１日（月）～２月２日（水）　２泊３日

５．場　所　スキー教室：ふじてんスノーリゾート（山梨県南都留郡鳴沢村字富士山 8545-1）
宿泊施設：国立中央青少年交流の家（静岡県御殿場市中畑 2092-5）

６．交通機関　貸切バス５台　※７時４５分教室集合（スキーウェア着替え→８時１５分出発）
１号車Ｍ３　２号Ｅ３　３号車Ｄ３　４号車Ｓ３　５号車Ｃ３

７．引率者等　蓮實文彦（学生主事）　西田友久（Ｍ３担任）　高橋儀男（Ｅ３担任）
長澤正氏（Ｄ３担任）　芹澤弘秀（Ｓ３担任）　藁科知之（Ｃ３担任）
山中　仁（Ｍ科教員）　草間裕介（Ｅ科教員）　江上親宏（Ｄ科教員）
松本祐子（Ｓ科教員）　山根説子（Ｃ科教員）　鈴木茂樹（学生主事補）
志田誠吾（学生係）　計１３名

８．日　程　１日目　１月３１日　《Ｐ２参照》
学校（8:15 発）→ ふじてんスノーリゾート（10:00～15:30）→ 中央青少年交流の家（16:30 着）

２日目　２月　１日　《Ｐ３参照》
中央青少年交流の家（9:00 発）→ ふじてんスノーリゾート（10:00～15:40）→ 道の駅なるさわ（見学 15:50～16:10）→ 中央青少年交流の家（17:00 着）

３日目　２月　２日　《Ｐ４参照》
中央青少年交流の家（13:30 発）→ 学校（14:20 着）
※学校到着後、希望者は沼津駅・三島駅行きのバスに乗換

９．持ち物　研修のしおり、健康保険証（コピー可）、筆記用具、運動着、着替え、防寒着、洗面用具、上履き、常備薬、腕時計、雨具（折り畳み傘・カッパ）

10．その他　病気等の理由で参加できなくなった場合は、前日までに学級担任へ連絡してください。なお、当日急遽欠席する場合は、７：３０～８：００の間に学生係（055-926-5734）へ連絡してください。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－６

教員による３年スキー合宿研修報告

３年合宿研修

3年スキー合宿研修報告

３学年担任(学年代表)　芹　澤　弘　秀

１月31日から２月２日まで２泊３日でスキー合宿研修が行われました。昨年までは岐阜県高山市での３泊４日の研修でしたが、遠方のため２日間が移動に費やされ、病気・怪我への対応が難しいという問題があり、以前から見直しの必要性が検討されていました。特に今年度は、学校方針に基づき研修場所を近隣に変更し、より安全性の高い研修となるよう準備を始めました。学生の反対署

名活動等、様々な問題を解決していく必要がありましたが、3年担任、学生委員会、学生係が一丸となり、学生にとって最善かつ実り多き研修となるよう、検討を重ねてまいりました。その結果、ふじてんスノーリゾート(山梨)で従来通り２日間のスキー教室を行い、宿泊場所の国立中央青少年交流の家(御殿場)では就職・進学に関する研修をクラス別で二晩、全体では半日実施するという密度の濃い内容となりました。場所等の大幅な変更に伴い、現地調査や打合せ、行動シミュレーションを何度も入念に行い、不安を抱えながらも実施日を迎えました。

初日と２日目は快晴の中、200名弱の学生がスキー教室に参加しました。ゲレンデの状態も良く、多くの学生がスキーを楽しんでいる様子でした。初心者でも２日目には中級コースを滑っていて、上達の早さに感心しました。就職等に関する研修も予定通り実施でき、特に３日目の全体研修では教務主事、学生主事、専攻科長からタイムリーなお話を聞くことができました。就職・進学での苦戦状況が続く中、学力向上や広い視野が学生に求められており、４年での心構えを意識する上で非常に有意義なお話であったと感じます。３日間の研修を通し、学生達は①己に挑戦する、②高専生活の意義を見直す、③親睦を深める、という目的を達成できたと思います(研修の様子は学生の感想文をご覧ください)。改善点は多々ありますが、大きな怪我や病気もなく無事研修が終了し、安堵の気持ちでいっぱいです。

最後に、今回の研修にあたり、保護者の皆様、関係教職員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。特に、研修場所の変更を理解してくれた学生諸君に感謝します。

(出典　　本校高専だより98号)

資料５－３－①－７

学生による３年スキー合宿研修報告

スキー研修に行って

制御情報工学科３年　鈴　木　洋　輔

今回のスキー研修は前日まであまり気乗りがしませんでした。それは、以前スケートをやった際、全然上手くいかず、氷上・雪上の競技に苦手意識を持ってしまったからです。しかし、実際はインストラクターの方の指導もあり、また初心者コースの班だったこともあって、自分に合ったペースで少しずつ上達することができました。

スキー経験がなかったため、１日目こそ歩き・停止等の基本的なことしかやりませんでしたが、２日目には何度もリフトで上がり、３種類のコースでスキーを楽しむことができました。滑り方も単純に徐行するだけから、蛇行して速度を上げすぎないようにするなど、自由にできることも増え、スキーの楽しさに目覚めました。

また、スキー研修を通して様々な仲間ができました。レッスン中やリフトでの移動時だけでなく、昼食の時などにも初対面の仲間と話し、親睦を深めることができ、また、１・２年の頃の寮の仲間と久々に会うこともできました。御殿場の中央青少年交流の家では、夜の自由時間に話をしたり遊びを工夫したりし、交流が薄かった友人たちとも親睦を深めることができました。現在、寮を出ている私ですが、久々に友人達と食事、風呂、睡眠をともにすることができてとても楽しかったです。クラス別研修や３日目の説明会では近い将来必要となる経験・知識を得ることができました。普段のホームルームの時間にはできない進学や就職についての講習を受け、有意義な時間を送ることができました。

最後に、とても充実した３日間の研修に参加できたことに感謝し、研修で学んだことをこれからの学生生活に活かしていきたいと思います。



(出典　　本校高専だより98号)

資料５－３－①－８

学生としての心構え

１．沼津工業高等専門学校の学生であるという自覚と誇りとをもって、自主自律の精神を養い、勉学にいそしむ態度をつくる。

２．互いに個人の価値を認め、その立場を理解尊重し、互助協力の精神を養う。

３．正邪善悪の判断を誤らず、秩序の維持に努め、責任ある行動をとる。

４．常に保健衛生に注意し、体位の向上に努める。

５．美を愛し、情緒豊かな心を養い、品性の向上に努める。

（出典　平成23年度学生便覧）

３年生から５年生では１名の学級担任、１年生と２年生では学級担任と副担任が各１名付き（資料５－３―①－９）、学級の運営と指導にあたっている。学級担任はレファレンスマニュアル（資料５－３―①－10）によりその業務に従事している。このマニュアルは学級担任連絡会議にて配布され、教務主事が説明している。学級担任は学生の状況を面談やQ-U評価（資料５－３―①－11）などで理解している。さらに各学級には学級委員がいて、学生の諸活動の実施のリーダーとして活動するとともに、週番が授業の連絡や教室内の清掃活動を行って、授業報告とともに日誌（前出資料３－２―①－４）に記し担任に報告している。

また学校全体において，学生主事を中心にして学生主事補と学生委員の教員が、役割を分担して学生指導を行っている（資料５－３―①－12)。

資料５－３－①－９

学級担任と副担任

平成２３年度　校務分掌

平成23年4月1日 現在

校長
柳下福蔵

副校長（教務主事）
教授 大島茂
校長補佐（学生主事）
教授 蓮實文彦
校長補佐（寮務主事）
教授 遠藤良樹
校長補佐（専攻科長）
教授 遠山和之
校長補佐（国際交流･FD担当）
教授 大久保清美
校長補佐（学際教育担当）
教授 押川達夫
機械工学科長
教授 小林隆志
電気電子工学科長
教授 望月孔二
電子制御工学科長
教授 川上誠
制御情報工学科長
教授 長谷賢治
物質工学科長
教授 芳野恭士
教養科長
教授 西垣誠一
図書館長
教授 江間敏
総合情報センター長
教授 牛丸真司
(副)講師 中道義之
地域共同テクノセンター長
教授 藤尾三紀夫
(副)教授 相良誠
(副)准教授 稲津晃司
技術室長
教授 西田友久
技術長 石和嘉衛
学生生活支援室長
教授 小林美学
実習工場長
教授 小林隆志
事務部長
上原正宜
総務課長
五条寿久
課長補佐 露木弘充
課長補佐 影島義三
学生課長
山添均
課長補佐 室伏啓二

教務主事
教授 大島茂
教務副主事
＜欠員＞
教務主事補
教授 村松久巳
教授 高野明夫
教授 勝山智男

学生主事
教授 蓮實文彦
学生副主事
＜欠員＞
学生主事補
准教授 井上聡
准教授 鈴木茂樹
准教授 鄭萬溶
＜欠員＞

寮務主事
教授 遠藤良樹
寮務副主事
＜欠員＞
寮務主事補
准教授 西村賢治
講師 中道義之
准教授 佐藤崇徳

教科主任
国語
准教授 大石加奈子
社会
准教授 佐藤崇徳
数学
教授 待田芳徳
物理
教授 勝山智男
化学
教授 小林美学
体育
教授 佐藤誠
英語
教授 塩谷三徳
代行准教授 鈴木久博
ドイツ語
教授 大久保清美

学級担任

機械工学科

M	1年	澤井洋
		松田伸也
	2年	平田陽一郎
		宮内太積
	3年	西田友久
	4年	永禮哲生
	5年	三谷祐一朗

電気電子工学科

E	1年	代表 勝山智男
		西村賢治
	2年	鈴木久博
		江間敏
	3年	真鍋保彦
	4年	代表 野毛悟
	5年	代表 佐藤憲史

電子制御工学科

D	1年	松澤寛
		大沼巧
	2年	佐藤志保
		青木悠祐
	3年	舟田敏雄
		出川智啓
	4年	江上親宏
	5年	長澤正氏

制御情報工学科

S	1年	駒佳明
		大久保進也
	2年	大久保清美
		松本祐子
	3年	代表 芹澤弘秀
	4年	鈴木康人
	5年	吉野龍太郎

物質工学科

C	1年	渡邉志保美
		後藤孝信
	2年	代表 佐藤誠
		藁科知之
	3年	稲津晃司
	4年	古川一実
	5年	竹口昌之

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－３－①－10

学級担任教員のためのリファレンスマニュアル

学級担任教員のためのレファレンスマニュアル　　（平成 23 年 4 月）

Ⅰ　本校の目的および目標

沼津高専の目的は、

1. 豊かな人間性を備え
2. 社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない
3. もって地域の文化と産業の進展に寄与すること

です。

この目的を実現するために、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標としています。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

Ⅱ　学級担任制度および学級担任の職務

Ⅱ－１　学級担任制度

本高専準学士課程は，上記目標を実現するために,ホーム・ルーム制をとっています。つまり、全ての学生が学科、学年に対応した学級に属し、各学級には学級を指導する学級担任が配され、学級毎に教室が割り当てられています。

学級担任は、本高専の目的を実現し、学生が学習・教育目標を達成するために学生を援助し、指導する最前線に位置する重要な役割を担っています。学級担任制度こそは本高専における教育の屋台骨であるといえます。それ故、学級担任は当該学級の厚生補導、教務指導、特別活動指導、ホームルームの運営等々、学級に関する全てがその職務範囲に入ります。1996 年に制定された**「学級担任に関する内規」**には、学級担任の職務として以下のように定められています。

第4条　学級担任は、校長の命を受け、次の事項を行う。

(1) 当該学級の学生の教育指導、生活指導及び厚生補導に関すること。
(2) 当該学級の教務に関すること。
(3) 当該学級の学生の特別活動に関すること。
(4) その他当該学級の運営に関すること。

Ⅱ－２　学級担任の職務

学級担任の職務に対して、教育指導・教務関連事項に関しては副校長(教務主事)が、厚生補導・特別活動等に関しては校長補佐(学生主事)が支援します。

副校長は長期休業中を除いて、学級担任に当該教室の管理権限を委譲します。学級担任には教室を管理する権限と、教室内を常に清潔・整頓された状態に保ち、学習環境を整えておく義務があります。また、学級担任は，当該学級員以外のホームルームへの学生の立ち入りを制限することができます。

校長補佐(学生主事)は学生の厚生補導に関して，当該学級担任と密接に連絡を取りながら指導に当たります。その際に当該学級担任は学生主事補と同等の権限が保障されます。

以下に、**「学級担任の職務の具体例」**を示しますが、これらは参考であり、実際の学級運営に当たっては、学科長・教養科長と綿密に連絡を取りながら、FD を通じた教員間の経験・交流や意見交換を積極的に進める姿勢が求められます。

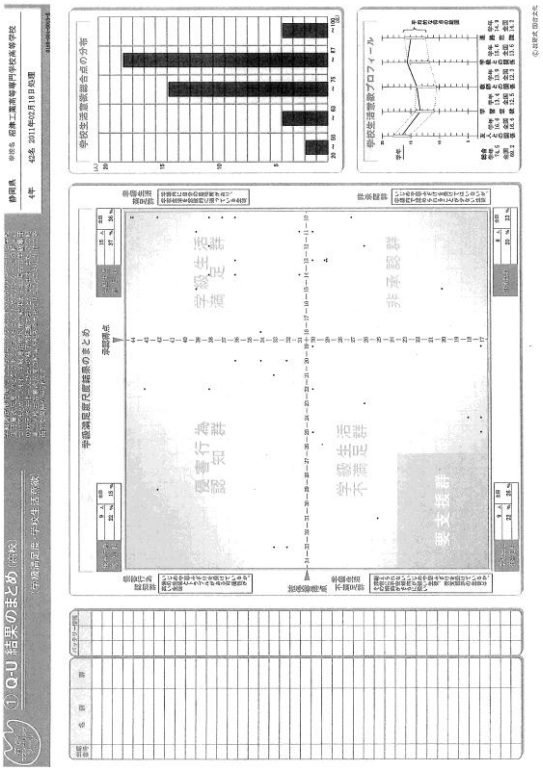
各種届出・手続きの詳細については教務関係規則集・学生便覧ならびに担当係にて確認されたい。なお、諸届けの様式は、総合情報センター（学内専用ページ）＞資料集＞諸様式よりダウンロードでき、アドレスは下記の通りです。

http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/download/syoyousiki.htm

（出典　教務係資料）

資料５－３－①－11

Q-U評価



（出典　学生課資料）

資料５－３－①－12

学生委員会　業務分担

平成23年度　学生委員会　業務分担(2011.4)

項　目		主任	担　当	
生活指導	生地研	嶋	江上	
	生活アンケート	※学生生活支援室		
	学内巡回	山中	大川	
	クリーン活動	大川	山中	
交通指導		井上	鈴木久	松本
研修	御殿場研修(1年生)	※2011年度は中止(学内で実施)		
	スキー研修(3年生)	江上	嶋	
クラブ活動		松本	鈴木久	井上
学生会活動	学生会	鄭	鈴木茂	
	高専祭	鈴木茂	鄭	
その他	学生支援総合センター			

平成23年度　学生委員

主　事	蓮実(C)		
主事補	井上(M)	鄭(D)	鈴木茂(S)
学生委員	鈴木久(L)	山中(M)	嶋(E)
	江上(D)	松本(S)	大川(C)

（出典　学生課資料）

平成23年度の学校行事の一覧（資料５－３―①－13）を示す。学生会が体育祭を企画・立案・実施（資料５－３―①－14）する。平成22年度の体育祭について実行委員長が高専だよりに報告（資料５－３―①－15）した。同様に，学生会が高専祭（資料５－３―①－16）を実施し、平成22年度の高専祭について実行委員長が報告（資料５－３―①－17）した。また、秋に本校の卒業生を講師などに招き、文化講演会を実施している（資料５－３―①－18)。

資料５－３－①－13

平成23年度学校行事

平成23年度　学校行事時間数一覧表

学校行事／学年	1年	2年	3年	4年	5年
入学式	7				
1年生学内オリエンテーション	2				
始業式	4	4	4	4	4
※1年生学外オリエンテーション	14				
学生総会	2	2	2	2	2
野球応援	4				
防災訓練	2	2	2	2	2
体育祭	7	7	7	7	7
4年見学旅行				21	
3年合宿研修			21		
2年特別研修		7			
高専祭	28	28	28	28	28
TOEIC Bridge・TOEIC IP テスト	3	3	3	3	
文化講演会	2	2	2	2	
3年課外教育特別講演			2		
卒研発表				7	
終業式	1	1	1	1	
卒業式					7
時間数	76	56	72	77	50

※1年生学外オリエンテーションは、計画停電の影響により、中央青少年交流の家での開催（1.5日：11h）から学内での実施（2日：14h）となった。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－14

平成22年度　体育祭のしおり

平成 22 年度

スポーツ大会

スポーツ大会は 10 月 21 日(木)に実施します。

今回行われるスポーツ大会の競技は下記のとおりです

球技

ドッヂボール　ソフトボール　※フットサル
ハンドボール　バスケットボール　バレーボール

昼種目

パン食い競争　クラス対抗長縄　　クラブ対抗リレー

※今年から準決勝まではフットサルとし、準決勝からオールコートでサッカーとします。
※バスケとソフトについては、部活ハンデがあるのでルールに目を通しておいてください。

女子については、どの競技にも参加することができます。しかし、男子と一緒に競技を行う時には少しハンデをつけます。バスケットボールとバレーボールに限り、女子のトーナメントを作ります。その時のチームは、人数が多ければクラスで１チーム以上としますが、人数が足りない時は学年や学科ごとの合同チームとします。

優秀成績のチームには賞品があります。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－15

実行委員長による体育祭の報告

行事・コンテスト・その他イベント

体　育　祭

充実した体育祭を

体育祭実行委員長　電気電子工学科４年
渡　邉　頌　也

毎年、慣例となっていた年２回の体育祭が１回になると聞かされ、不安と驚きとともに体育祭の活動が始まりました。

体育祭の前に、４年生は２泊３日の工場見学があるため、２、３年生の補佐に支えられながら準備に取りかかりました。物品の借用やタイムテーブルの作成など順調に進みましたが、あいにく前日・当日の天気予報は雨で私たちは晴れ・雨両方のケースを想定しなければいけませんでした。

体育祭当日、かろうじて天気は小雨となりテニスコートは使えない状態でしたが、グランドは水はけが良くドッヂボール以外の競技は実施可能でした。役員・スタッフは早朝５時半に体育館に集合し、テントの設置やグランドでのコート作りなどの準備に取り掛かりました。１年生は１人も遅刻することなく、機敏に働いてくれ無事体育祭を開催することができました。

今年の体育祭は、ソフトボールとバスケットボールに対して部活ハンデを課しました。ハンデを背負った野球部とバスケ部には申し訳なかったのですが、一般の学生からは楽しめたという声を聞くことができ、挑戦してみたことに満足しています。

昼種目としては、去年に続きパン食い競争、クラブ対抗リレーやクラス対抗長縄跳びを行いました。パン食い競争には毎年多くの人が参加してくださり大変な盛り上がりでした。クラブ対抗リレー・クラス対抗長縄跳びには学生会の方々・教員・体育祭の先輩方など多くの方々がサポートしてくださり、難もなく無事実施できたことを有難く思います。

沼津高専の体育祭は他の学校とは違い“運動会”ではなく“球技大会”になっています。開催日は平日で各種目・競技の場所があちこち異なり分かりにくいのですが、学生が元気に身体を動かし、クラブ・クラスの団結している姿を保護者の皆さまに見ていただけたら、と思います。

今年から年１回の体育祭となり、私も委員長の仕事に戸惑うこともありましたが、懸命にサポートしてくれた役員の皆さん、またスタッフとして立候補してくれた１年生、５年生の先輩方に感謝の気持ちを伝えたいです。

そして、協力してくださった先生方・学生会と審判の仕事を快く受けてくださった各部の皆さま、ありがとうございました。また、多くの人の熱意と協力を得て自分自身、全体を見る大切さや指導の難しさを学ぶことができました。

今年の体育祭は１回になってしまい５年生には残念でしたが、２回分の充実感を味わえていただけていたらと思います。

来年の体育祭も是非ともご協力をお願いします。

（出典　　本校高専だより98号）

資料５－３－①－16

平成22年度　高専祭のしおり



（出典　学生課資料）

資料５－３－①－17

実行委員長による高専祭の報告

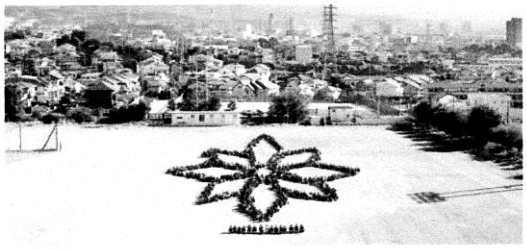
高　専　祭

第45回高専祭を終えて

高専祭実行委員長　電子制御工学科５年
佐　藤　正　英

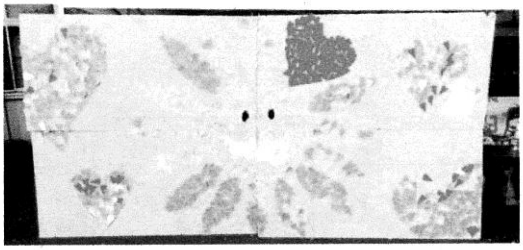
今年の第45回沼津高専高専祭は11月６日（土）から11月７日（日）にかけて行われました。今年の高専祭は「華」というテーマで行いました。このテーマにしたのは、まず大きな目標として、高専祭を今まで以上に盛り上げ、華やかなものにしたいという思いがあり、この高専祭を通じて後輩に何か残していきたいなど、様々な思いを込めてこのテーマに決めました。また、今年度は各部署に目標を持って活動をしてほしいと考え、自分たちの部署の目標となる花言葉を持った「華」を決めてもらいました。高専祭当日は各部署が自分たちの決めた花言葉を目標としてしっかりと活動し、小さい子供から大人まで、多くの人が楽しめた、とても良い高専祭になりました。

今年は学生会顧問の先生から、なるべく多くの学生が高専祭に参加できるような企画をしてほしいという課題が出されました。昨年度はギネスに挑戦する、として行われたこの課題への取り組みとして、今年度は全学生の集合写真を撮るという企画を計画しました。昨年度は一般の人にも参加してもらっていたため、まとめるのに時間がかかったことを考慮し、今回の高専祭のテーマである「華」を表現した集合写真は、学生のみで撮影するということにし、撮影も高専祭当日ではなく、高専祭準備日に行うことになりました。準備時間が十分に取れなかったこともあって不安もありましたが、教職員の皆様と本部スタッフの協力によってなんとか撮影の一時間前に下書きを終え、予定通りほぼ全学生が集合して撮影をすることができました。また、高専祭も大きな事故もなく成功で終えることができました。この成功は、多くの教職員の皆様、各長、スタッフの協力の賜物だと感じています。本当にありがとうございました。



高専祭を通して多くの人をまとめることの大変さ、計画を実行に移すことの大変さ、仲間の大切さなどを学びました。高専祭では、スタッフ活動を通して学校で勉強しているだけではわからない多くのことを経験し学ぶことができます。そこには、新たな出会いがあり、自分から行動する自主性や協調性の大切さなどを見つけられます。また、一生懸命に行ったことに対して得られるものはとても大きいと感じます。高専祭に関わったことの無い人は１度でいいので、なんらかの形で高専祭に関わってみてください。そうすれば、高専祭が貴重な体験のできる、すばらしい場所であるという事をわかってもらえると思います。

最後にこのようなすばらしい形で、第45回高専祭実行委員長として任務を遂行できたことを、本当に嬉しく思います。これから高専祭がさらに盛り上がり、より活気のある祭になることを期待して次の代に託したいと思います。関係してくださった皆様、本当にありがとうございました。



（出典　　沼津工業高等専門学校　高専だより98号）

資料５－３－①－18

平成 18 年度から 22 年度に実施した文化講演会

年度	演題	講師	対象
18	研究者としての夢へのチャレンジ －高専卒業から３０年－	独立行政法人理化学研究所 ゲノム科学総合研究センター チームリーダー　平尾一郎氏	4年生以下の全学生、5年生及び専攻科生の希望者並びに教職員
19	巨大旅客機の製造を可能にした 日本のものづくり技術	株式会社牧野フライス製作所 立形MC開発セクションゼネラルマネージャ 小池　伸二　氏 グローバルMAGチーム 遠藤　綾介　氏	4年生以下の全学生、5年生及び専攻科生の希望者並びに教職員
20	技術の向上をめざして	株式会社HKS 代表取締役社長　長谷川　浩之　氏	4年生以下の全学生、5年生及び専攻科生の希望者並びに教職員
21	会社人生４２年と高専回顧－高専生への期待－	富士フィルムイメージテック株式会社 取締役営業本部長　村松　正敏　氏	4年生以下の全学生、5年生及び専攻科生の希望者並びに教職員
22	リチウムイオン二次電池の開発経緯と今後の展望	旭化成株式会社 フェロー　吉野研究室長　吉野　彰　氏	4年生以下の全学生、5年生及び専攻科生の希望者並びに教職員

（出典　学生課資料より作成）

クラブ顧問の一覧（資料５－３－①－19）を示す。クラブの指導には，ルールの徹底と安全とを配慮して１クラブに複数の顧問を配置している。また，技術的な指導者としてコーチ一(後出資料７－１－⑤－５）を委嘱している。充実した顧問，コーチ陣の指導によりそれぞれの競技や活動を通じ，人間性の涵養に努めている。クラブ活動の報告（資料５－３―①－20）を提出、または教員の指導時間を書面に記入して学生課に報告している。また顧問教員がクラブ活動の安全を学生に説明している（資料５－３―①－21)。

各クラブは平成23年度東海地区国立高等専門学校体育大会（資料５－３－①－22）に参加する。平成22年度東海地区国立高等専門学校体育大会に参加した学生は優秀な成績を得て，競技成績（資料５－３－①－23）に示されており，高専だより（資料５－３－①－24～26）に報告されている。

ロボコン部はロボットを製作して、高専ロボコン2010東海北陸地区大会に２つのチームで出場した。ものづくりのよい活動の場に参画して，学生間の交流が図られている。

平成22年開催の全国高等専門学校第21回プログラミングコンテストに自由部門で学生が７名，競技部門で３名が参加して，競技部門で準々決勝に進出する成果を得た。第20回のコンテストでは自由部門で優秀賞を得ている。

資料５－３－①－19

学生会・クラブ顧問教員

平成２３年度　学生会・クラブ顧問教員

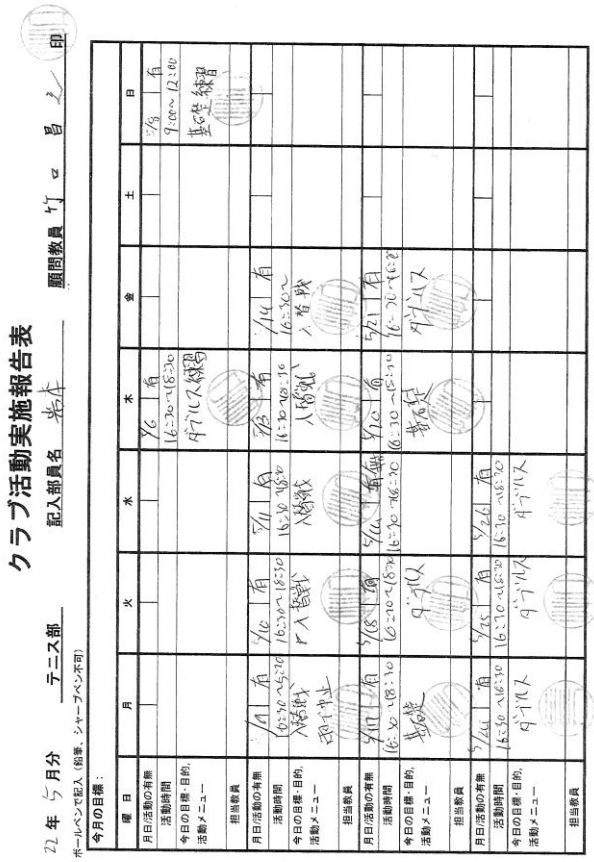
クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名					
陸上競技部	渡邉志保美	牛丸　真司	相良　誠				
ソフトテニス部	佐藤　崇徳	平田陽一郎	山根　説子				
バレーボール部	大庭　勝久	長澤　正氏	大久保清美				
バスケットボール部	遠山　和之	永禮　哲生	松本　祐子				
野球部	高橋　儀男	手塚　重久	高矢　昌紀	渡辺　敦雄	鈴木　正樹	市川　周一	
卓球部	稲津　晃司	高野　明夫					
柔道部	松澤　寛	西垣　誠一					
剣道部	澤井　洋	鈴木　久博					
サッカー部	中道　義之	駒　佳明	江上　親宏	望月　孔二	大久保進也		
ラグビー部	井上　聡	小林　隆志	鄭　萬溶				
体操部	佐藤　誠	江間　敏					
水泳部	小林　美学	新冨　雅仁	西村　賢治				
合気道部	長谷　賢治	舟田　敏雄					
テニス部	竹口　昌之	古川　一実	後藤　孝信	西田　友久			
スキー部	嶋　直樹	川上　誠					
ハンドボール部	野毛　悟	松田　伸也					
弓道部	芳野　恭士	佐藤　憲史					
空手道部	芹澤　弘秀	宮内　太積					
バドミントン部	押川　達夫	藤尾三紀夫	大沼　巧				
トライアスロン部	三谷祐一朗	出川　智啓					
吹奏楽部	鈴木　茂樹	藁科　知之					
囲碁将棋部	待田　芳徳	勝山　智男					
ロボコン部	青木　悠祐	山中　仁					
学生会	鄭　萬溶	鈴木　茂樹					
文化サークル連合（科学技術）	鈴木　康人	村松　久巳	大川　政志				
文化サークル連合（文芸・文学）	真鍋　保彦	吉野龍太郎	大石加奈子				

文サ連（科学技術）機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン　　文サ連（文学・文芸）茶道・合唱・軽音楽・ＥＳＳ

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－３－①－20

平成 22 年度クラブ活動実施報告表



クラブ活動実施報告表

22 年 5 月分　テニス部　記入部員名 岩本　顧問教員 竹 α 昌 之 印

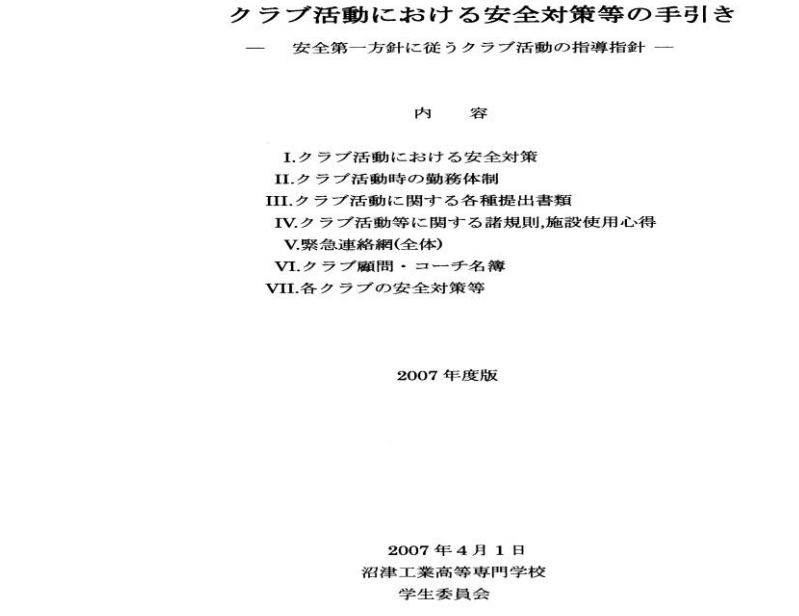
＊ボールペンで記入（鉛筆、シャープペン不可）

曜日	月	火	水	木	金	土	日
今月の目標：							
月日/活動の有無				5/6 有			5/9 有
活動時間				16:30～18:30			9:00～12:00
今日の目標・目的、活動メニュー				ダブルス練習			基礎練習
担当教員							
月日/活動の有無	5/11 有	5/12 有	5/13 有	5/14 有			
活動時間	16:30～18:30	16:30～18:30	16:30～18:30	16:30～			
今日の目標・目的、活動メニュー	基礎練習	ドリル練習	基礎練習	八幡秋季大会			
担当教員	田中						
月日/活動の有無	5/18 有	5/19 有	5/20 有	5/21 有			
活動時間	16:30～18:30	16:30～18:30	16:30～18:30	16:30～			
今日の目標・目的、活動メニュー	基礎練習	ダブルス	基礎練習	ダブルス			
担当教員							
月日/活動の有無	5/25 有	5/26 有					
活動時間	16:30～18:30	16:30～18:30					
今日の目標・目的、活動メニュー	ダブルス	ダブルス					
担当教員							

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－21

クラブ活動安全対策等の手引き



クラブ活動における安全対策等の手引き

― 安全第一方針に従うクラブ活動の指導指針 ―

内　容

I.クラブ活動における安全対策
II.クラブ活動時の勤務体制
III.クラブ活動に関する各種提出書類
IV.クラブ活動等に関する諸規則,施設使用心得
V.緊急連絡網(全体)
VI.クラブ顧問・コーチ名簿
VII.各クラブの安全対策等

2007 年度版

2007 年 4 月 1 日
沼津工業高等専門学校
学生委員会

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－22

第 49 回東海地区高専体育大会派遣計画表

第49回東海地区国立高専体育大会派遣計画表

大会期日：平成23年6月25日（土）・6月26日（日）【6月24日（金）午前9:00出発　予定】

【豊田高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
ソフトテニス	6月25日	9:30	10:00	6月26日	9:30	15:00	東山公園テニスセンター （名古屋市天白区天白町大字八事字裏山60-19）	

【岐阜高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
テニス	6月25日	9:00	9:30	6月26日	9:00	15:00	岐阜メモリアルセンター　長良川テニスプラザ （岐阜市長良福光大野2675-28）	

大会期日：平成23年7月2日（土）【7月1日（金）午前9:00出発　予定】

【豊田高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
弓道	7月2日	10:00	10:40	－	－	15:00	豊田市運動公園弓道場 （豊田市高町東山4-97）	

【鈴鹿高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
空手道	7月2日	10:30	11:00	－	－	15:00	鈴鹿市武道館 （鈴鹿市江島台2-6-1）	審判3名同行

大会期日：平成23年7月2日（土）・3（日）【7月1日（金）午前9:00出発　予定】

【豊田高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
バレーボール	7月2日	10:00	10:30	7月3日	9:30	15:00	豊田工業高等専門学校　第1・第2体育館 （豊田市栄生町2-1）	
ハンドボール	7月2日	9:40	10:00	7月3日	9:30	15:00	豊田市西部体育館 （豊田市西新町6-143）	

【沼津高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
サッカー	7月2日	9:30	10:00	7月3日	9:30	15:00	愛鷹広域公園多目的競技場 （沼津市足高202）	
バドミントン	7月2日	9:30	10:00	7月3日	9:30	15:00	沼津市民体育館 （沼津市高島本町1-4）	

【鈴鹿高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
硬式野球	7月2日	9:00	9:30	7月3日	9:00	15:00	四日市市営霞ヶ浦第一野球場 （四日市市大字羽津甲5169）	
卓球	7月2日	9:30	10:00	7月3日	9:00	15:00	鈴鹿市立体育館 （鈴鹿市江島台1-1-1）	

【岐阜高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
柔道	7月2日	9:30	10:00	7月3日	9:30	15:00	岐阜メモリアルセンター　柔道場 （岐阜市長良福光大野2675-28）	

【鳥羽商船高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
バスケットボール	7月2日	9:00	10:00	7月3日	9:00	15:00	鳥羽市民体育館 （鳥羽市大明東町4-8）	
剣道	7月2日	9:30	10:00	7月3日	9:00	15:00	鳥羽商船高等専門学校　第2体育館 （鳥羽市池上町1-1）	
陸上	7月2日	13:00	14:00	7月3日	9:50	15:00	鈴鹿市営石垣池公園陸上競技場 （鈴鹿市桜島町7-1-3）	

大会期日：平成23年7月9日（土）・10日（日）【7月8日（金）午前9:00出発　予定】

【岐阜高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
水泳	7月9日	13:00	13:30	7月10日	10:00	15:00	岐阜メモリアルセンター　長良川スイミングプラザ （岐阜市長良福光大野2675-28）	

大会期日：平成23年11月6日（日）【11月5日（土）午前9:00出発　予定】

【岐阜高専会場】

種　目	開会式時刻		競技開始	二日目競技開始時刻		終了予定	会場	備考
ラグビーフットボール	11月6日	10:00	11:00	－	－	15:00	岐阜工業高等専門学校　グラウンド （本巣市上真桑2236-2）	

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－23

第 48 回東海地区高専体育大会競技成績

資料２

第４８回東海地区国立高等専門学校

体育大会競技成績

主管校　岐阜工業高等専門学校

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－24

第 48 回東海地区高専体育大会競技成績

部　活　動

第45回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名
バドミントン	女子個人の部　シングルス	3　位	C２	米山沙弥

第48回東海地区国立高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	男子800m	3　位	M５	福田克也	(全国大会出場)
	男子110mハードル	3　位	M４	後藤将斗	
	男子走幅跳	3　位	D３	伊庭達哉	
	男子砲丸投	3　位	E２	杉山元気	
	男子やり投	3　位	M４	高梨聖也	
テニス	男子団体の部	2　位			
	女子個人の部　シングルス	3　位	C４	竹中渚	
バドミントン	女子団体の部	1　位			(全国大会出場)
	女子個人の部　シングルス	1　位	C２	米山沙弥	(全国大会出場)
	女子個人の部　ダブルス	1　位	C３ C２	佐野友美 米山沙弥	(全国大会出場)
空手道	団体戦　総合の部	3　位			
	団体戦　組手の部	1　位			
	個人戦　組手の部	2　位	S２	北風玲太	
	個人戦　組手の部	3　位	E５	高田智之	
サッカー		1　位			(全国大会出場)
柔道	男子個人の部　60kg級	3　位	M５	伊藤洸	
	男子個人の部　90kg級	3　位	M４	井上貴裕	
硬式野球		3　位			
剣道	男子団体の部　勝抜戦	3　位			
	女子団体の部	3　位			
水泳	総合	3　位			
	男子総合	2　位			
	女子総合	2　位			
	男子200m平泳ぎ	2　位	D２	村串憲一郎	(全国大会出場)
	男子200m背泳ぎ	3　位	S２	川口大地	
	男子200m自由形	1　位	C３	鈴木卓磨	(全国大会出場)
	男子50m自由形	1　位	D４	杉山和暉	
	男子50m自由形	3　位	D２	稲鶴和也	
	男子100m平泳ぎ	2　位	D２	村串憲一郎	
	男子100m背泳ぎ	2　位	S２	川口大地	
	男子100m背泳ぎ	3　位	E４	林弘樹	
	男子100m自由形	2　位	C３	鈴木卓磨	
	男子100mバタフライ	1　位	E５	遠藤雄也	(全国大会出場)
	男子200m個人メドレー	1　位	E４	林弘樹	(全国大会出場)
	男子400mリレー	3　位	C２ E３ D２ S２	金子喬士郎 山下稜太 稲鶴和也 川口大地	

（出典　本校高専だより98号）

資料５－３－①－25

第48回東海地区高専体育大会競技成績

98号　　沼津高専だより　　(13)

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
水泳	男子800mリレー	2位	E4 D2 C3 E5	林　弘樹 村串憲一郎 鈴木卓磨 遠藤雄也	
	男子400mメドレーリレー	2位	S2 D2 E5 C3	川口大地 村串憲一郎 遠藤雄也 鈴木卓磨	
	女子50m背泳ぎ	3位	M3	手嶋里帆	
	女子50mバタフライ	2位	C4	土屋陽香	
	女子50mバタフライ	3位	C2	芹澤梨香	
	女子100m平泳ぎ	2位	C4	土屋陽香	
	女子100m自由形	1位	C1	渡辺彩夏	(全国大会出場)
	女子200mリレー	2位	C2 C2 M3 C1	芹澤梨香 前田英里奈 手嶋里帆 渡辺彩夏	
バスケットボール	男子の部	2位			
	女子の部	3位			
弓道	団体の部	3位			

（出典　　本校高専だより98号）

資料５－３－①－26

学生による第 48 回東海地区高専体育大会の報告

全国大会出場を通して

バドミントン部　物質工学科２年
米山沙弥

今年のバドミントン部は昨年に引き続き、東海大会において女子団体・ダブルス・シングルスで優勝し、２年連続の全国大会出場を果たしました。また、全国大会では女子シングルス３位という成績を収めることができました。

私は高専に入学して小学生からやっていたバドミントン部へ入部しました。女子は部員が少ないため男子の先輩方と共に熱心に練習に取り組んできました。しかし、昨年度の高専大会が終わり、頼りとしていた４年生が引退してしまったことにより、上級生が減少し、それと共に部員のモチベーション低下が起こったため、部活では人が集まらず、思うような練習を行えない日々が続きました。私自身も不安が募る一方でなにもすることができない状況でした。しかし、何度も部長を中心に話し合いを行い、一人一人意識を高めていくことを心がけました。高専大会のメンバーが決まってからは練習に力が入り、部活の活気を取り戻すことができました。これを通して団結力も深めることができたのではないかと思います。

東海大会の団体戦では、昨年と同様、接戦の試合が続きましたが、私は絶対に勝ちたいという強い気持ちで臨んだため、自信を持って戦うことができました。自分の試合が終わってからは必死に声を出して応援しました。団体戦というものは仲間の応援により、自分の持っている力の何倍もの力を発揮することができます。優勝が決まった瞬間は抱き合って喜び合いました。２年連続優勝という成績は仲間を信じて戦った証であると思います。私は、この試合を通して仲間の大切さを改めて感じました。

全国大会では、無心で臨んだ昨年の試合とは違い、団体戦では、勝たなければならないというプレッシャーで自分自身を追い込んでしまい、思い通りのプレーができませんでした。自分の精神面の弱さに気付き、とても悔しい思いをしました。しかし、仲間の支えにより、気持ちを入れ換えてダブルス・シングルスに臨むことができました。シングルスでは、団体戦で負けた相手に勝ち、３位という結果を残すことができ、とても嬉しく思いました。

今回の高専大会を通して、私はまた一歩成長したのではないかと思います。来年度は更に高いレベルを目指し、周りの期待に応えられるよう、日々の部活に熱心に取り組んでいこうと思います。最後に、応援に駆けつけてくださった先輩方、家族、先生、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

（出典　　本校高専だより98号）

学生会は学生会会則（資料５－３―①－27）に従い組織され，定例会議構成及び関係図（資料５－３―①－28）に則って組織的に活動が行われている。平成23年度の学生会の役員（資料５－３―①－29）では高学年の学生が中心となり，活発に活動している。学生会には２名の顧問教員を配置し（資料５－３－①－12），運営に関わる諸問題への相談に応じると同時に，安全と倫理面からの指導にも当たっている。

資料５－３－①－27

学生会会則

１．学 生 会 会 則

第 １ 章　　総　　則

第 １ 条　本会は沼津工業高等専門学校学生会と称する。

第 ２ 条　本会は本校在学学生全員（以下会員と呼ぶ）をもって構成する。

第 ３ 条　本会の運営はすべて民主主義の精神に基づいて行い、自主的活動のもとに、豊かな教養と健全な趣味を培い、個性の伸長を図るとともに、会員相互の親睦を図り、心身の健康を助長し、将来よき社会人としての資質を養うことを目的とする。

第 ４ 条　本会の議決事項は、学校長の承認を得てから執行する。

第 ５ 条　会員は、この会則に定めてある権利と義務を有する。

第 ２ 章　　機関及び役員

第 ６ 条　第３条の目的を達成するために次の機関を置く。

総　　会
評 議 委 員 会
実 行 委 員 会
選挙管理委員会
ホーム・ルーム
クラブ及び同好会

第 ７ 条　各機関の会議は、その構成員の２/３以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数とする。ただし、会則改正については別に定める。

第 ８ 条　各機関は、必要に応じて関係者を呼び、参考意見を聞くことができる。

第 ９ 条　本会に次の役員を置く。

会　　長	会員の立候補制選挙によって１名選出
副 会 長	会長の指名により会員中より２名選出
委員長（局長を含む）	会長の指名により会員中より14名選出
副委員長(副局長を含む)	各委員長（局長を含む）の指名により会員中より14名選出
評 議 委 員	各ホーム・ルームから１名選出
選 挙 管 理 委 員	各ホーム・ルームから１名選出

第 10 条　会長は、本会を総括し、本会最高責任者とする。

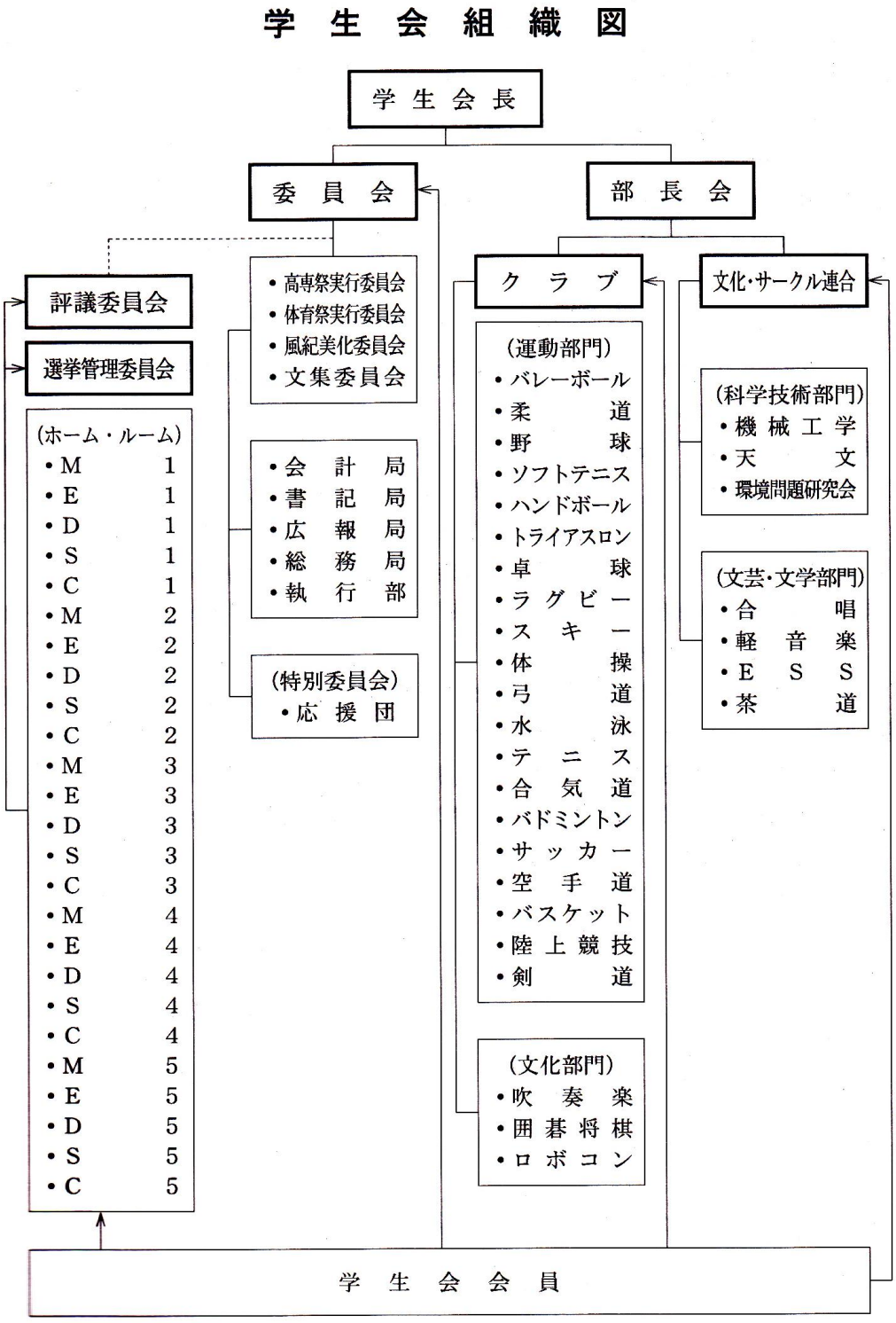
２　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは会務を代行する。

第 11 条　役員の任期は、毎年４月当初に始まり、翌年３月末日に終わるものとす

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３－①－28

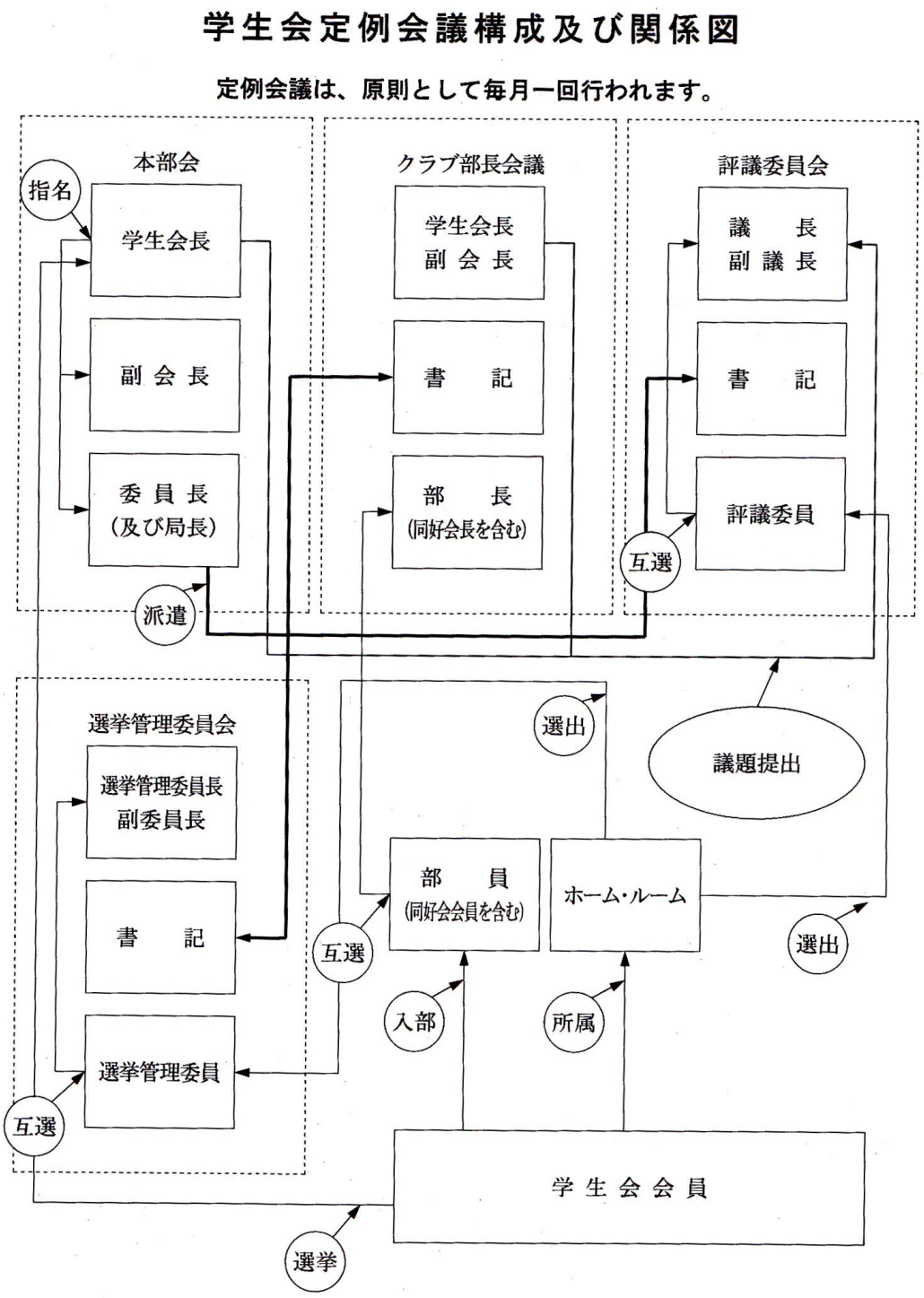
学生会組織図



（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３－①－29

学生会定例会議構成及び関係図



（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３－①－30

学生会本部役員

平成２３年度学生会本部役員名簿

平成２３年度学生会会長
制御情報工学科４年　高田　光

会長	制御情報工学科	４年	高田　光
副会長	電気電子工学科	４年	服部　匡起
	電気電子工学科	３年	水口　琴絵
会計局	電気電子工学科	４年	近藤　孝哉
	機械工学科	５年	花村　大将
企画局	機械工学科	４年	久保　仁弥
	電子制御工学科	２年	高井　悠
美化局	制御情報工学科	２年	尾関　愛海
	物質工学科	２年	遠藤　みのり
広報局	物質工学科	２年	芳野　文香
	物質工学科	２年	石川　友
総務局	制御情報工学科	４年	佐藤　康平
	制御情報工学科	４年	萩野　佑太郎
高専祭	制御情報工学科	５年	土屋　究
体育祭	電子制御工学科	４年	伊藤　彩花
部長会	電子制御工学科	４年	望月　麟太郎
応援団	制御情報工学科	３年	小森　義男
端末管理	電気電子工学科	４年	長谷川　将俊
選挙管理	制御情報工学科	３年	野村　千洋

（出典　学生課資料）

本校は低学年全寮制としており１・２学年次に学生は，学生寮規則と心得（資料５－３―①－31，32）に基づき，学生寮での共同生活をする。寮内には寮生会が設けられ，学生寮会則（資料５－３－①－33）に従い寮生会が組織されている（資料５－３―①－34)。寮の活動（資料５－３―①－35,36）を通じて，学生の人間形成を助け，本校の教育方針の一つである全人教育を実行している。

資料５－３―①－31

学生寮規則

1．学　生　寮　規　則

（目　　的）

第１条　学生の人間形成を助け、かつ、学生の修学に便宜を供与し、教育目的達成に資することを目的として、本校に学生寮を設ける。

（学生寮生活の基本）

第２条　学生寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規程を守り、相互に啓発して自己及び共同生活の向上充実に努めなければならない。

（管　　理）

第３条　学生寮は、校長が管理する。

２　学生寮に関する訓育指導の業務を掌理するために、校長補佐（寮務主事）を置く。

３　事務部長は、学生寮管理の業務を掌理する。

４　学生寮に関する事務は、学生課の所管とする。

（寮務主事補）

第４条　校長補佐（寮務主事）を補佐するために、寮務主事補を置く。

（寮 務 主 任）

第５条　校長補佐（寮務主事）、寮務主事補の業務を分掌するため、寮務主任を置くことができる。

（寮　　監）

第６条　寮生の生活指導及び相談に当たるため、寮監を置く。

（寮務運営委員会・寮務委員会・学生寮給食業務委託業者選定委員会）

第７条　学生寮運営に関する業務の企画立案及びその実施について連絡調整を図るため、校長の諮問機関として、寮務運営委員会・寮務委員会・学生寮給食業務委託業者選定委員会を置く。

２　寮務運営委員会・寮務委員会・学生寮給食業務委託業者選定委員会の委員は、校長が任命し、両委員会の組織及び運営に必要な事項は、別に定める。

（入寮及び退寮）

第８条　本校に入学を許可された者は、第１学年及び第２学年の期間は全員在寮しなければならない。ただし、特別の事情により願い出て校長が認めた者は除く。

２　第１学年及び第２学年の学生で、特別の事情により入寮の免除を受けようとする者は、その理由を付して、保証人連署の入寮免除願を学級担任教員を経て校

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３―①－32

寮生心得

2．寮　生　心　得

寮生活の意義は、規律ある共同生活を行うことにより５年一貫教育の充実を図り、将来にわたる人間形成に資することにある。

寮生活の目標

○　共同生活を通してお互いの和を図り、積極的に寮友を啓発し、また寮友に学ぶべきものを摂取し、各人の向上を図る。
○　共同生活にありがちな安易さを自ら戒しめ、規律ある寮生活を維持する。
○　公私、自他の厳然たる区別をわきまえ、互いにその立場を尊重した言動に心掛ける。

○　寮の施設や器物は長年にわたって使用する公共物であるから、自己の行動に注意をもって大切に取り扱うこと。
○　常に学習時間の保持、充実に努めるとともに、健康保持のため睡眠、運動等にも十分な配慮をする。
○　自由時間や余暇の利用は、無駄のないように各自工夫し、豊かな趣味と健全な人格を形成することに努力する。

1　生　　活

常に共同生活の意義を自覚し、下記事項を遵守すること。

(1)　生　　活

所定の日課表に従い、規律正しい生活をすること。

(2)　学　　習

(イ)　静粛時間中は、雑談、放歌等他人の迷惑になることは慎み、また、みだりに他室への出入りは禁止する。

(ロ)　学習時間中は、学習に専念すること。

(3)　傷　　病

身体に異常を認めた場合は、直ちに階長、棟長のいずれかに申し出て、適切な指示を受けること。ただし、医療費等は本人の負担とする。

(4)　清潔・整頓

常に身の回りの清潔・整頓に心掛け、寮内外の分担区域は共同一致して清掃する。

(5)　礼儀・服装

寮生は相互に常に礼儀を守り、特に上級生は、下級生の模範となって指導すること。

服装については、学生として品位を失わないように心掛けること。

(6)　欠席・欠課等

学校の授業を欠席、欠課する場合は、必ず事前に寮監の許可を得ること。

(7)　外泊・外出

(イ)　外泊は４日前までに外泊願を、各自の棟の棟長に提出して許可を得ること。

(ロ)　20時以後にわたっての外出は、あらかじめ外出届に階長、棟長の承認印を得、宿直教員に提出する。帰寮の際は必ず階長、棟長に報告し宿直教員の確認を受けること。

(ハ)　外泊、外出の際、万一事故の発生した場合は、寮監又は当直教員に速やかに連絡すること。(学生寮の電話番号　055―921―1707)

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３―①－33

学生会会則

1．学 生 会 会 則

第 1 章　総　　則

第 1 条　本会は沼津工業高等専門学校学生会と称する。

第 2 条　本会は本校在学学生全員（以下会員と呼ぶ）をもって構成する。

第 3 条　本会の運営はすべて民主主義の精神に基づいて行い、自主的活動のもとに、豊かな教養と健全な趣味を培い、個性の伸長を図るとともに、会員相互の親睦を図り、心身の健康を助長し、将来よき社会人としての資質を養うことを目的とする。

第 4 条　本会の議決事項は、学校長の承認を得てから執行する。

第 5 条　会員は、この会則に定めてある権利と義務を有する。

第 2 章　機関及び役員

第 6 条　第３条の目的を達成するために次の機関を置く。

総　　会
評 議 委 員 会
実 行 委 員 会
選挙管理委員会
ホーム・ルーム
クラブ及び同好会

第 7 条　各機関の会議は、その構成員の２/３以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数とする。ただし、会則改正については別に定める。

第 8 条　各機関は、必要に応じて関係者を呼び、参考意見を聞くことができる。

第 9 条　本会に次の役員を置く。

会　　長	会員の立候補制選挙によって１名選出
副 会 長	会長の指名により会員中より２名選出
委員長（局長を含む）	会長の指名により会員中より14名選出
副委員長(副局長を含む)	各委員長（局長を含む）の指名により会員中より14 名選出
評 議 委 員	各ホーム・ルームから１名選出
選 挙 管 理 委 員	各ホーム・ルームから１名選出

第 10 条　会長は、本会を総括し、本会最高責任者とする。

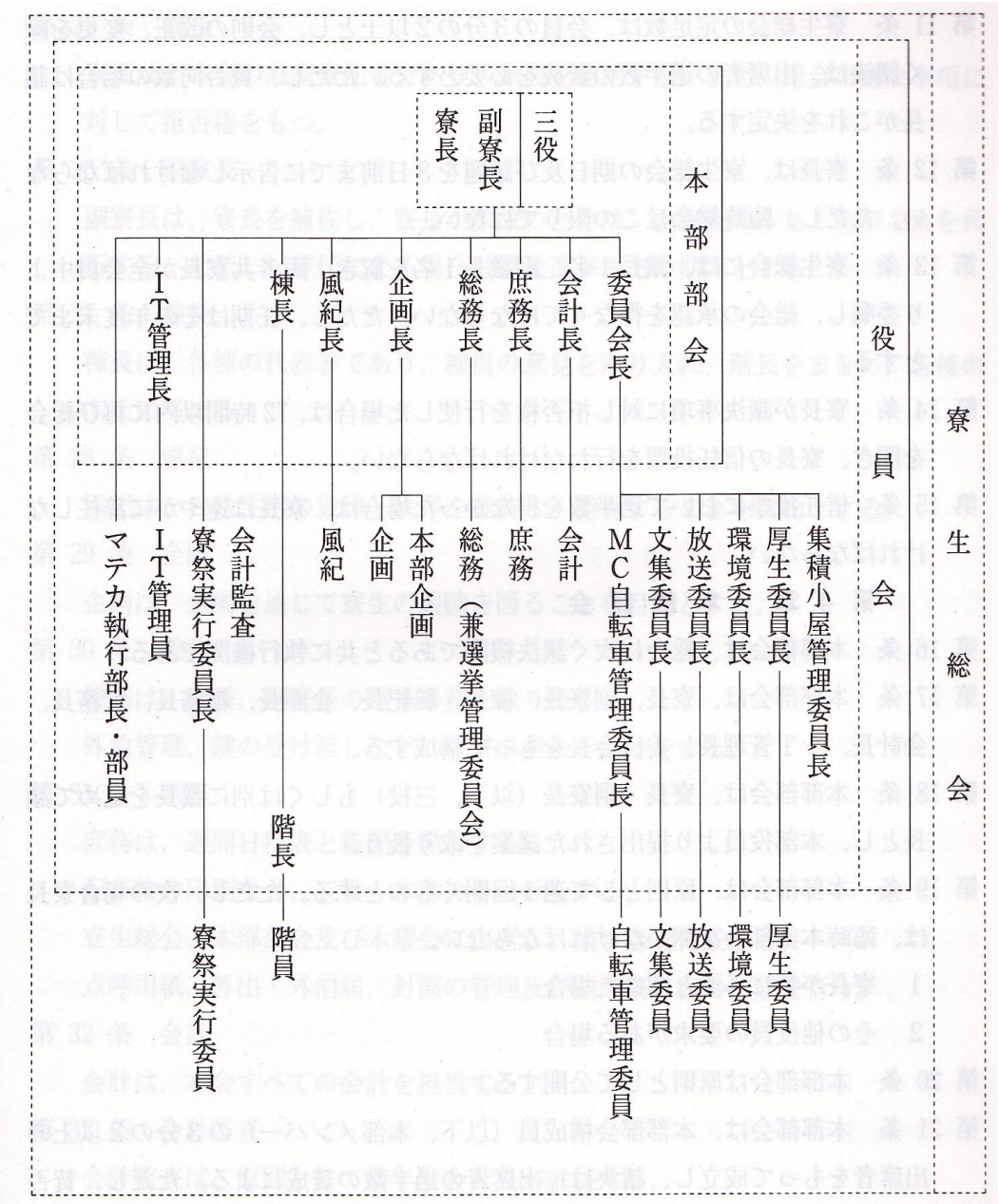
2　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは会務を代行する。

第 11 条　役員の任期は、毎年４月当初に始まり、翌年３月末日に終わるものとす

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３―①－34

学生会組織図



（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－３―①－35

寮務主事報告

第１回教員会議議事要録

日　　時：平成23年4月27日（水）
15時00分～16時53分
司　　会：大島　副校長(教務主事)
出席者数：67名

１．平成23年度新任教員紹介・挨拶

柳下校長から4月1日付で採用、配置換及び4月2日付で採用になった下記教員の紹介があった後、各人から着任の挨拶があった。なお、福木教員については会議欠席のため、遠藤寮務主事より紹介があった。

（３）校長補佐（寮務主事）報告

遠藤校長補佐（寮務主事）より以下の事項について報告があった。

① 現員報告

564名（男子：491名　女子：73名）

1年：210（34）　2年：160（19）　3年：115（16）　4年：60（3）　5年：19（1）
専攻科：0（0）　留学生：10（2）　（括弧内は女子人数）

② 活動報告

4月 1日(金) 寮生会本部役員帰寮
4月 2日(土) 寮生会一般役員帰寮
4月 3日(日) 2学年生以上の寮生帰寮
4月 4日(月) 入寮式・学寮ガイダンス
4月 5日(火) 開寮式・寮生活オリエンテーション・花見
4月 7日(木) 第1回木曜会
4月11日(月) 第1回朝礼
4月21日(木) 第2回木曜会
4月24日(日) 親睦会（23日雨天のため）

③ 活動予定

4月29日(金) 閉寮（10:00）
5月 5日(木) 開寮（10:00）
5月 9日(月) 第2回朝礼
5月12日(木) 第3回木曜会
5月14日(土) 寮祭前夜祭
5月15日(日) 寮祭
5月26日(木) 第4回木曜会（教員のみ）

④ その他

- 新任寮監 福木洋一講師（教養科）が着任。
- 寮務関係教員は主事1名、寮監1名、主事補3名、委員10名の計15名。
- 寮生会3役：寮長 片山晃次郎（D4）、副寮長 川口直輝（E4）、松永信之介（E4）。
- 長泉消防署での救命救急講習が広報長泉に掲載。
- 入学式における寮生の校歌斉唱について、来年度は寮生は参加しない。
- 長泉北中の学習支援について、今年度も引続き実施。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－３―①－36

寮務主事報告

2010 年度第 11 回総務委員会寮務主事報告

①. 現員報告（13 名減）

545 名（男子：477 名　女子：68 名）

1 年：206（26）　2 年：161（22）　3 年：105（13）　4 年：43（4）

5 年：30（3）　専攻科：0（0）　留学生：7（0）　（括弧内は女子人数）

前回より異動なし。

②. 活動報告

- 2 月 3 日(木) 平成 23 年度部屋割り説明会
- 2 月 6 日(日) ユニホック講習会
- 2 月 7 日(月) 第 10 回朝礼
- 2 月 10 日(木) 臨時木曜会(教員会議)
- 2 月 22 日(火) 翔峰寮棟別杯
- 2 月 23 日(水) 秀峰寮棟別杯、栄峰寮棟別杯
- 2 月 24 日(木) 第 17 回木曜会(食事会)、清峰寮棟別杯
- 2 月 26 日(土) 新旧役員引継ぎ会
- 2 月 27 日(日) 原付バイク持込説明会
- 3 月 1 日(火)　優峰寮棟別杯、光峰寮棟別杯、明峰寮棟別会
- 3 月 2 日(水) 閉寮式、送別会
- 3 月 3 日(木) ～ 5 日(土) リーダー研修会
- 3 月 4 日(金) 救命救急講習会（長泉消防署）
- 3 月 5 日(土) 発達障害についての説明会（第 1 視聴覚教室）、完全閉寮
- 3 月 7 日(月) 閉寮チェック、第 18 回木曜会（教員会議）

③. 活動予定

- 4 月 1 日(金) 本部役員帰寮
- 4 月 2 日(土) 一般役員帰寮
- 4 月 3 日(日) 一般寮生帰寮、荷物移動
- 4 月 4 日(月) 入寮手続き、荷物搬入、入寮式、学寮説明会
- 4 月 5 日(火) 開寮式、花見
- 4 月 7 日(木) 第 1 回木曜会
- 4 月 11 日(月) 第 1 回朝礼

④. その他

- 居室電話（インボイス）2011 年度から契約せず。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

幅広い教養と人間性の育成に配慮して，多くの一般科目を配置し，１～３学年には特別活動を実施している。学生は特別活動、学級担任及び学生委員による学生指導、学校行事、クラブ活動，学生会活動及び寮生会活動などの多角的な活動を通して多くのことを体験し，自ら行動し行事等の企画・立案・実行を経験する機会を得ている。従って，本校は人間性を涵養するように教育課程が編成されており、さらに課外活動等をもって豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

教育課程等に関する規則（資料５－４－①－１）と学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則（資料５－４－①－２）が定められ，学生便覧に示され，成績評価基準，単位認定基準，進級・卒業認定基準が策定され，周知されている。準学士課程の学生に対するアンケート（資料５－４－①－３）の設問 10 と設問 11 の結果（資料５－４－①－４）より，およそ８割の学生が知っている。

資料５－４－①－１

教育課程等

第 4 章　教育課程等

第 12 条　１年間の授業期間は、定期試験等を含め、35 週をくだらないものとする。

第 13 条　教育課程は、授業科目及び特別活動により編成するものとする。

2　授業科目及びその履修単位数は、別表第１及び第２のとおりとする。

第 14 条　授業科目の単位は、30 単位時間の履修をもって１単位として計算するものとする。

2　１単位時間は 50 分を標準とする。

3　第１項の規定にかかわらず、本校が定める授業科目については、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。

(1)　講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

(2)　実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって１単位とする。

4　前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60 単位を超えないものとする。

5　前項の規定にかかわらず、卒業研究については学修の成果を評価し単位数を定めることができる。

6　第１項に定める授業科目のほか、特別活動を 90 単位時間以上実施するものとする。

(6)

資料５－４－①－１　続き

第 15 条　各学年の課程の修了を認めるにあたっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

2　校長は特別の理由があり、かつ、教育上支障がないと認められるときは、第３条に規定する学年の途中においても、学期の区分に従い、各学年の課程の修了を認めることができる。

第 16 条　前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

第 17 条　正当な理由なく、同一学年に２年を超えて在学することができない。

第 18 条　校長は、教育上有益と認めるときは、学生の他の高等専門学校における履修を許可し、修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

3　前項により認定することができる単位数は、第１項により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

第 18 条の２　校長は教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2　校長は、前項の規定により留学することを許可した学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30 単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3　前項に関し、必要な事項は別に定める。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－４－①－２

学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則

２．学業成績評価並びに進級・卒業認定等に関する規則

第１章　総　　則

（趣　　旨）

第１条　この規則は、沼津工業高等専門学校における試験、学業成績の評価並びに進級・卒業認定等について定める。

第２章　試　　験

（定期試験）

第２条　定期試験は、前期・後期の期末に行う試験（「期末試験」という。）及び前期･後期の期間中において、必要ある科目について行う試験（「中間試験」という。）とする。

２　試験実施科目及び時間割りは、原則として実施の２週間前に発表する。

（追　試　験）

第３条　次の各号に掲げる理由により、定期試験を受けることができなかった者に対しては、追試験を行うことができる。

⑴　病　気（医師の証明がある場合に限る。）

⑵　忌　引

⑶　その他やむを得ない事由があると認められる場合

２　追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願を提出し、許可を受けなければならない。

第３章　成績評価

（評　　価）

第４条　学年成績は、その年度の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決める。ただし、実技的要素の多い科目については、その科目の実情に応じて評価する。

（評価点及び評語）

第５条　各科目の成績は、100点満点で評価し、評語で表わす場合は、次の基準による。

A（優）	80点以上	
B（良）	70点以上	80点未満
C（可）	60点以上	70点未満
D（不可）	60点未満	

第６条　学年成績は60点未満、又は欠課時数が年間授業時数の５分の１（長期病

欠者は３分の１）を超える科目は、不合格とする。

（再　評　価）

第 7 条　学年成績において、60 点未満の科目を有する進級者に対しては、本人の願いにより、再評価を行うことができる。ただし、欠課時数が、年間授業時数の３分の１を超える科目（平成 18 年度以前入学者で欠課時数超過による不合格科目を含む。）については、再評価を行うことはできない。

2　再評価を受けようとする者は、再評価願を提出するものとする。

3　再評価は、60 点以下とする。

（記　　録）

第 8 条　成績の指導要録への記載及び校外に対する通知は、評語をもって行い、学生に対する通知は、評語及び評価点をもってする。

第 4 章　進級・卒業認定及び再履修

（進級・卒業認定）

第 9 条　各学年の課程の修了又は卒業の認定は、原則として次の基準によるものとする。この基準に達しない者は、成績判定会議に諮り校長が及落を判定する。

⑴　総欠課時数が学校行事等を含む年間総授業時数の５分の１（長期病欠者は３分の１）を超えていないこと。

また、総欠課時数と公休時数の合計が学校行事等を含む年間総授業時数の３分の１を超えていないこと。

ただし、平成 19 年度以降入学者については、各必修科目において、欠課時数が授業時数の３分の１を超えていないこと。

⑵　各課程に定められた「該当学年において修得しなければならない」科目全てに合格していること。

⑶　累積修得単位数が、次の基準を満たしていること。

ａ．第１学年については、29 単位以上である。
（平成 18 年度以前入学者については、27 単位以上）

ｂ．第２学年については、61 単位以上である。
（平成 18 年度以前入学者については、60 単位以上）

ｃ．第３学年については、97 単位以上である。
（平成 18 年度以前入学者については、95 単位以上）

ｄ．第４学年については、132 単位以上である。
（平成 18 年度以前入学者については、131 単位以上）

ｅ．第５学年については、167 単位以上（そのうち、一般科目については 75

資料５－４－①－２続き

単位以上、専門科目については82単位以上）である。

ｆ．上記の単位数には全て、外部修得単位を含む。

⑷　平成19年度以降入学者については、第１学年から第４学年の必修科目の未修得単位数が４単位以下であること。

第５学年については、全ての必修科目を修得していること。

２　第４学年までについては、その学年課程の修了者は進級でき、第５学年については、全学年課程の修了者が卒業できる。

３　卒業の認定にあたっては、第１学年から第３学年の特別活動の出席状況を考慮する。

（再　履　修）

第10条　前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修しなければならない。

２　前項により同一学年にとどめられた者が、引き続き原学年にとどめられた場合、又は休学期間が２か年を超える場合には、本校に在籍することができない。

第５章　雑　　則

第11条　この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附　　則

この規則は、平成16年４月14日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　　則

この規則は、平成17年４月１日から施行する。

附　　則

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－４－①－３

本校の目的の周知度等のアンケート

平成２３年２月　　日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【本科学生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し、学級担任教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「学習・教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている
４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。
＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について学生便覧やシラバス等を見て知っていますか。
（設問１１）進級・卒業認定の基準について学生便覧等を見て知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）学修単位科目は自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とする科目であることを知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）学修単位科目について自学自修を実行していますか。
＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料５－４－①－４

準学士課程の学生の回答

沼津工業高等専門学校

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

本科生	回答数：972												
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
回答 1	19.7%	27.7%	29.4%	28.7%	22.5%	35.9%	55.9%	31.5%	61.5%	20.7%	18.2%	26.2%	29.9%
回答 2	35.8%	48.1%	47.7%	46.9%	32.4%	48.0%	33.8%	45.6%	28.8%	58.6%	55.2%	42.7%	59.1%
回答 3	22.8%	18.9%	17.9%	18.2%	23.0%	16.1%	10.3%	22.9%	9.7%	20.8%	26.6%	31.1%	11.0%
回答 4	21.7%	5.3%	5.0%	6.2%	22.1%								
回答数	969	971	968	968	969	938	955	947	958	949	951	955	933

（出典　平成２２年度実施アンケート調査資料）

また，45 時間の学修をもって１単位とする学修単位の科目は，教育課程表の科目に＊印をつけて履修単位科目と区別するとともに，１単位の履修時間は，授業時間以外の学修を合わせて 45 時間であることを担当教員がシラバスを用いて学生に知らせている（資料５－４－①－５）。このことはアンケート（前出資料５－４－①－３）の設問 12 の集計結果（資料５－４－①－６）より，73.8%の学生が実際に知っており，自学自習の課題の提出等で自学自習の実施状況を把握している。

資料５－４－①－５

シラバス（熱力学）

Syllabus Id	Syl-112371
Subject Id	Sub-112101401
更新履歴	110322新規
授業科目名	熱力学　Thermodynamics
担当教員名	新冨雅仁　SHINTOMI Masahito
対象クラス	機械工学科4年生
単位数	2学修単位(自学自習を含め、90時間の学修をもって2単位とする)
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	講義
実施場所	高学年棟3F M4HR

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

1. 授業で扱う主要なテーマ
熱力学は、熱の授受によって引き起こされる物質の諸変化を考える学問であり、本講義では、工学や工業への応用に主眼を置くこととし、エネルギー保存則(熱力学の第一法則)およびエネルギーの価値、変化の方向性(熱力学の第二法則)を学んだ後、各種熱機関の原理と実際について学ぶ。
2. テーマの歴史
熱力学は、18世紀後半の産業革命後から急速に発展し、19世紀半ばに熱がエネルギーの一種であることが見出された。19世紀後半には各種熱機関が考案され、現在、これらの熱機関が我々の生活を支えている。
3. 社会との関連
熱機関を動作させるために我々は大量の化石燃料を消費しており、地球温暖化という危機を招いている。これらの問題を解決する環境負荷の少ないシステムを開発するには、熱力学を学ぶことが必要不可欠である。
4. 工学技術上の位置づけ
本科目は、開発、設計において重要な科目である。
5. 学問的位置づけ
熱力学は、伝熱工学(5年生)や燃焼工学(専攻科)などを含めた「熱工学」の基本科目として非常に重要である。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

微分・積分、仕事、エネルギー、エネルギー保存則

学習・教育目標

Weight	目標	説明
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

C:工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3.目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

1. ボイル・シャルルの法則、エネルギー保存則、完全ガスの5つの状態変化を理解し、熱量、仕事などの計算ができること。
2. 可逆変化、不可逆変化の違いを理解できること。
3. カルノーサイクルを含む各種熱機関の特性を理解し、熱量、効率などの計算ができること。
4. 蒸気表を用いて蒸気サイクルの計算ができること。
5. p-V線図、T-s線図、h-s線図上に変化の様子や各種サイクルを表わし、状態を説明できること。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明。熱力学の意義と歴史的背景。	
第2回	温度と熱	温度、熱量、比熱、熱容量、熱力学の第零法則	

資料５－４－①－５続き

第3回	圧力と仕事	圧力、絶対仕事、工業仕事、p-V線図	
第4回	熱力学の第一法	閉じた系の熱力学の第一法則	
第5回	熱力学の第一法	開いた系の熱力学の第一法則（課題出題）	
第6回	完全ガスの状態式	完全ガス、ボイル・シャルルの法則、第6回までのまとめ	
第7回	前期中間試験		×
第8回	分子運動論	完全ガスの比熱、混合ガス、分子運動論	
第9回	完全ガスの状態変	等温変化、等容変化、等圧変化	
第10回	完全ガスの状態変	断熱変化、ポリトロープ変化（課題出題）	
第11回	熱力学の第二法	サイクルと熱機関、熱力学の第二法則	
第12回	可逆変化と不可逆	可逆変化と不可逆変化	
第13回	カルノーサイクル	カルノーサイクル、熱効率	
第14回	カルノーサイクル	熱力学的温度目盛（課題出題）	
第15回	カルノーサイクル	逆サイクル、成績係数、第15回までのまとめ	
第16回	前期末試験		×
第17回	クラウジウスの積	クラウジウスの積分	
第18回	エントロピー	エントロピー、完全ガスのエントロピー変化	
第19回	T-s線図	p-v線図とT-s線図、エントロピー増大の原理	
第20回	エクセルギー	エクセルギー、アネルギー	
第21回	オットーサイクル	オットーサイクル（課題出題）	
第22回	ディーゼルサイク	ディーゼルサイクル、第21回までのまとめ	
第23回	後期中間試験		×
第24回	サバテサイクル	サバテサイクル	
第25回	ブレイトンサイクル	ブレイトンサイクル	
第26回	蒸気の性質	蒸気の性質、状態曲面	
第27回	蒸気の状態変化	蒸気の状態変化	
第28回	蒸気サイクル(1)	ランキンサイクル	
第29回	蒸気サイクル(2)	再熱サイクル、再生サイクル（課題出題）	
第30回	冷凍サイクル	冷凍サイクル、第30回までのまとめ	
第31回	後期末試験		×
第32回	総括	総括	

課題

出典：授業計画に示した日に演習課題を配布
提出期限：出題の２週間後の授業開始時
提出場所：授業開始直後の教室
オフィスアワー：授業実施日の16:30 ～ 17:00

評価方法と基準

評価方法：
1. ボイル・シャルルの法則、エネルギー保存則、完全ガスの5つの状態変化を理解し、熱量、仕事などの計算ができるかどうかをレポートと試験で確認する。
2. 可逆変化、不可逆変化の違いを理解しているかレポートと試験で確認する。
3. 各種ガスサイクルの特性を理解するとともに、完全ガスの5つの状態変化を用いてサイクルを表わせるかどうかをレポートと試験で確認する。
4. 蒸気表を用いて蒸気サイクルの計算ができるかどうかをレポートと試験で確認する。
5. p-V線図、T-s線図、h-s線図上に変化の様子や各種サイクルを表わし、状態を説明できるかどうかをレポートと試験で確認する。

評価基準：

前期中間試験20%、前期末試験20%、後期中間試験20%、後期末試験20%、課題レポート20%。60点以上を合格とする。

教科書等	工業熱力学、丸茂榮佑、木本恭司著、コロナ社
先修科目	工業力学、物理
関連サイトのURL	日本機械学会 熱工学部門 http://www.jsme.or.jp/ted/
授業アンケートへの対応	授業中に質問の時間などを設け、学生が質問しやすい環境をつくる。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－４－①－６

準学士課程の学生の回答

沼津工業高等専門学校

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

本科生	回答数：972												
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
回答 1	19.7%	27.7%	29.4%	28.7%	22.5%	35.9%	55.9%	31.5%	61.5%	20.7%	18.2%	26.2%	29.9%
回答 2	35.8%	48.1%	47.7%	46.9%	32.4%	48.0%	33.8%	45.6%	28.8%	58.6%	55.2%	42.7%	59.1%
回答 3	22.8%	18.9%	17.9%	18.2%	23.0%	16.1%	10.3%	22.9%	9.7%	20.8%	26.6%	31.1%	11.0%
回答 4	21.7%	5.3%	5.0%	6.2%	22.1%								
回答数	969	971	968	968	969	938	955	947	958	949	951	955	933

（出典　平成２２年度実施アンケート調査資料）

定期試験を受けられなかった場合，追試験を行うことができ（資料５－４－①－７），また学年成績不合格科目については再評価を受けることができる（資料５－４－①－８）ことを規定している。

資料５－４－①－７

受験上の心得と追試験

４．中間試験及び期末試験等における受験上の心得

１　定期に行う試験は、学期の中間で行うものと、学期末に行うものとがある。
　このほか必要ある学科目については、臨時に試験を行う。
２　定期試験を病気又は事故により受験できなくなった者は、試験前に追試験願を学級担任教員、科目担当教員を経由して学生課教務係へ提出しなければならない。
３　正当な理由がなく試験を受けなかった者の当該科目の試験成績は０点とする。
４　試験中に不正行為のあった者は、その時間以降受験を停止し、当該試験に実施した全科目の成績は０点とする。その他の不正行為についてもこれに準ずる。
５　試験開始後１人でも答案を提出して退室した者があれば、それ以後の遅刻者は受験できない。
　受験に際してはとくに遅刻しないように心掛けること。
６　答案は試験時間の３分の２を経過した後でなければ、提出することを許さない。また、提出した者は、直ちに退室しなければならない。
７　受験に際しては、筆記用具及び許されたもの以外は、各自のロッカーに入れて置くか、監督教員の指示に従うこと。
８　定期試験を受けるときは、平常の座席順とは別に、学生名簿の番号順に教室の左から後へ順に着席すること。

５．追試験について

病気、忌引、その他やむを得ないと認められた理由により、定期試験を受けることができなかった科目については、願い出により、追試験を受けることができる。

１　願い出手続き

願い出は、学生課前の廊下のボックスに入っている「追試験願」に必要事項を記入の上、学級担任教員を経て、科目担当教員の承認を受けた後、学生課教務係へ提出すること。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－４－①－８

学年成績不合格科目の再評価について

６．学年成績不合格科目の再評価について

学年成績が不合格（D）となった科目については、願い出により、再評価を受けることができる。

1　願い出手続き

⑴　再評価を願い出る学生は再評価申請用紙を４月末日までに該当教科担当教員に提出し、再評価の指示を受けなければならない。再評価申請用紙は年度当初に学級担任教員から受け取る。

⑵　再評価により、なお不合格の場合には、次年度以降も、⑴の手続きを経て、再度願い出ることができる。

2　評価

再評価により、合格となった科目の評価は、C（可）となる。

７．３年次の留年生の再履修と科目評価について

３学年までは学年制であり、原則として、留年生は３年次カリキュラムをすべて取り直さなければならない。ただし、留年生が一般学生の時間割と同等に履修する（空き時間を作らない）という条件のもとに、一部単位制の概念を取り入れる。

1　留年時の科目履修について

留年時の科目のうち成績佳良な科目の定期試験の免除を許可し、下記の処置を取る。

⑴　前年度に70点以上の評価を取得した者に限って、実技科目を除く科目の定期試験を、学生の願い出により、科目担当教員が免除することがある。

⑵　前項で定期試験を免除した科目の評価は、前年度の評価とする。ただし、欠課時数は授業時数の１/５以下であること。

⑶　定期試験免除の願い出は所定の用紙により、学級担任教員及び科目担当教員の承認を得て、副校長（教務主事）〔教務係〕に提出すること。届出期限は当該年度の４月末日までとする。

2　並列選択の科目履修について

⑴　並列選択の科目において、前年度に選択した科目の成績が70点以上であった学生は、その科目の単位取得を認められるという条件で、今年度、他の科目を選択し受講することができる。ただし、今年度に選択した科目の欠課時数が授業時数の１/５を超える場合は、前年度の科目の単位取得は認められない。

⑵　前項で、今年度履修した科目の成績も追加認定を受けることができる。

⑶　願い出は所定の用紙により、学級担任教員及び科目担当教員の承認を得て、副校長（教務主事）〔教務係〕に提出すること。届出期限は当該年度の４月末日までとする。

（出典　平成23年度学生便覧）

試験の答案等はスキャナで読み込む等して各科目担当教員が保管し（訪問調査時，閲覧可），非常勤講師の担当科目については，該当学科で保管している。成績入力システム Campus Assist（資料５－４－①－９）を用いて科目担当教員が PC から入力した成績を教務係が取りまとめている。年度末に進級判定会議と卒業判定会議が開催され（資料５－４－①－10，11），会議資料（資料５－４－①－12，13）に記載した卒業・進級判定基準（資料５－４－①－14）を確認した後，それに照合して判定する。

資料５－４－①－９

成績入力システム



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－４－①－10

進級判定会議の開催通知

平成２３年３月９日

教　員　各　位

校　　長

平成２２年度 第８回教員会議（平成２２年度 進級判定会議）
の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますのでご出席願います。
なお、授業・出張等で欠席される場合は、総務課総務係までご連絡願います。

記

１　日　時　　平成２３年３月１６日（水）　１３時３０分～
２　場　所　　管理棟３階会議室
３　議　題　　(1) 平成２２年度　進級判定について
(2) 校長報告
(3) 各主事報告
(4) その他

※ 平成２２年度第６回教員会議議事要録については、業務情報ポータルサイトに
掲載してありますので、ご確認の上、会議にご出席願います。

URL ： http://fportal.numazu-ct.ac.jp/?page_id=194#_539

メニュー ⇒ 企画運営・評価 ⇒ 教員会議資料 ⇒ 議事録 ⇒ 教員会議議事録 ⇒
平成22年度 ⇒ H23.02.24　第６回（入試判定）.pdf

「業務情報ポータルサイトへログインする際には、中央サーバのIDとパスワード
（メールを使用する場合と同じ）が必要となります。」

なお、議事要録内容について、加筆・修正等のご意見がある場合は、

平成２２年度 第８回教員会議（平成２２年度 進級判定会議）の開催について（通知）
３月１５日（火）１２時までに総務課総務係までお申出願います。

（出典　本校学内メール）

資料５－４－①－11

卒業判定会議の開催通知

平成２３年３月２日

教　員　各　位

校　　長

平成２２年度 第７回教員会議（卒業判定会議）の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますのでご出席願います。
なお、授業・出張等で欠席される場合は、総務課総務係までご連絡願います。

記

１　日　時　　平成２３年３月９日（水）　１５時００分～
２　場　所　　管理棟３階会議室
３　議　題　　(1) 平成２２年度　卒業判定について

（出典　本校学内メール）

資料５－４－①－12

進級判定会議資料

平成２３年 ３ 月１６日

取 扱 注 意

平成２２年度

進 級 判 定 会 議 資 料

１．平成２２年度　進級判定及び修得単位一覧
２．平成２２年度　学校行事時間数一覧表
３．入学年度別履修単位数
４．平成２２年度　成績表・欠課時数表

（出典　平成 22 年度進級判定会議資料）

資料５－４－①－13

卒業判定会議資料

平成２３年 ３ 月 ９ 日

取 扱 注 意

平成２２年度

卒 業 判 定 会 議 資 料

１．平成２２年度　卒業判定及び修得単位一覧
２．平成２２年度　学校行事時間数一覧表
３．入学年度別履修単位数
４．平成２２年度　成績表・欠課時数表

（出典　平成 22 年度卒業判定会議資料）

資料５－４－①－14

卒業・進級判定基準

卒業・進級判定基準について

1. 各学年の課程の修了の認定は、原則として次の基準によるものとする。

(1) 総欠課時数が学校行事等を含む年間総授業時数の5分の1（長期病欠者は3分の1）を超えていないこと。
　また、総欠課時数及び公休の総時数が学校行事等を含む年間総授業時数の3分の1を超えていないこと。
　ただし、平成19年度以降入学者については、各必修科目において、欠課時数が授業時数の3分の1を超えていないこと。

(2) 各課程に定められた「該当学年において修得しなければならない」科目全てに合格していること。

	該当学年において修得しなければならない科目					
	各学科共通	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科
1年	保健体育	機械工作実習Ⅰ 機械設計製図Ⅰ	電気電子工学実験Ⅰ	電子制御工学実験	プログラミング演習Ⅰ メカトロニクス演習Ⅰ	物質工学入門
2年	保健体育	機械工作実習Ⅱ 機械設計製図Ⅱ 物理実験	電気電子工学実験Ⅱ 物理実験	電子制御工学実験 物理実験	プログラミング演習Ⅱ メカトロニクス演習Ⅱ 物理実験	物質工学実験
3年	保健体育	機械工作実習Ⅲ 機械設計製図Ⅲ	電気電子工学実験Ⅲ	電子制御工学実験 電子機械基礎実習	プログラミング演習Ⅲ メカトロニクス演習Ⅲ 工作実習	物質工学実験
4年		機械工学実験Ⅰ 機械設計製図Ⅳ	電気電子工学実験Ⅳ	電子制御工学実験 電子機械設計・製作Ⅰ 電子機械設計・製作Ⅱ	工学実験Ⅰ 創造設計	化学工学実験 材料化学実験Ⅰ・Ⅱ または生物工学実験Ⅰ・Ⅱ
5年		機械工学実験Ⅱ 機械設計製図Ⅴ 卒業研究 ※	電気電子工学実験 卒業研究	電子制御工学実験 卒業研究	工学実験Ⅱ 卒業研究	卒業研究

※　機械工学科（平成18年度以前入学者）は、卒業要件として上記の「該当学年において修得しなければならない」科目以外に次の授業科目の中から14単位以上を修得していなければならない。

2年　金属材料学Ⅰ（2）
3年　機構学（2）　工業力学（2）　材料力学Ⅰ（2）　機械工作法Ⅰ（2）
4年　熱力学（2）　水力学（2）
5年　自動制御（2）　伝熱工学（1）　振動工学（1）

(3) 累積修得単位数が、次の基準を満たしていること。

	旧基準	新基準	
	平成18年度以前入学者	平成19年度以降入学者	
1年	27単位以上	29単位以上	必修科目の未修得単位数が4単位以下
2年	60単位以上	61単位以上	
3年	95単位以上	97単位以上	
4年	131単位以上	132単位以上	
5年	167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）		全ての必修科目を修得

※ 上記の単位数には全て、外部修得単位を含む。

(4) 平成19年度以降入学者については、第1学年から第4学年の必修科目の未修得単位数が4単位以下であること。第5学年については、全ての必修科目を修得していること。

2. 第4学年までについては、その学年課程の修了者は進級でき、第5学年については、全学年課程の修了者が卒業できる。

3. 卒業の認定にあたっては、第1学年から第3学年の特別活動の出席状況を考慮する。

－1－

（出典　平成 22 年度進級判定会議資料と卒業判定会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価・単位認定，進級・卒業認定が規則に規定され，学生便覧に示され，学生に周知されている。各科目担当教員はシラバスに記載した評価方法と基準に基づいて成績評価し，成績入力システムに評価点と出欠時数を入力する。その結果を基にして，進級・卒業判定会議において，進級・卒業判定基準に照合して，進級・卒業認定を行っている。

以上により，成績評価・単位認定や進級・卒業認定等に関する規則が組織として策定され，学生に周知されている。また，これらの規則に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

本校の専攻科課程は，準学士課程である４・５年次部分を基礎としてJABEE認定を受けた技術者教育プログラム「総合システム工学」を構成している。機械・電気システム工学専攻は機械工学科と電気電子工学科を，制御・情報システム工学専攻は電子制御工学科と制御情報工学科を，応用物質工学専攻は物質工学科を基礎としており，準学士課程の学習・教育目標と専攻科課程の教育目標は強く関連し（資料５－５－①－１～３），それぞれの教育の目的を達成するよう授業科目が設計されている（資料５－５－①－４～８）。

資料５－５－①－１

準学士課程における学習・教育目標

教　育　理　念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

教　育　目　的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

教　育　方　針

1　低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2　コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3　実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4　教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする
1　技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2　自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3　工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4　豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5　実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－２

専攻科課程における教育目標

第９章　専　攻　科

第 44 条　本校に専攻科を置く。

第 45 条　専攻科は、高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

第 46 条　専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専　　攻	入学定員
機械・電気システム工学専攻	８人
制御・情報システム工学専攻	８人
応用物質工学専攻	４人

第 46 条の２　専攻科に、当該専攻科の授業及び専攻科研究論文の作成等に対する指導を担当させるため、専攻科担当教員を置く。

第 46 条の３　第 46 条に規定する３専攻は、別表第３に定める単一の技術者教育プログラムである総合システム工学を構成する。

２　総合システム工学は、別に定める総合システム工学要件を満たさなければならない。

第 46 条の４　専攻科は、第 45 条の目的を実現するため、次の各号に掲げる教育目標の達成に努めなければならない。

⑴　社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力（工学倫理の自覚と多面的考察力）

⑵　数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢（社会要請に応えられる工学基礎学力）

⑶　工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力（工学専門知識の創造的活用能力）

⑷　コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力（国際的な受信・発信能力）

⑸　産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢（産業現場における実務への対応能力と自覚的に自己研鑽を継続できる能力）

(11)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－３

専攻科教育目標の実践指針

１．沼津工業高等専門学校専攻科教育目標の実践指針

専攻科の教育目標は沼津高専学則第46条の４に定める次の“Ａ～Ｅ”である（学則第46条の(1)～(5)は以下のＡ～Ｅに対応する）。これらの目標を理解し実践するために、各項目に分項目“１～４”等を付して実践指針とする。

Ａ．社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。（工学倫理の自覚と多面的考察力）

１．技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。

２．最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。

３．二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。

４．これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

Ｂ．数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。（社会要請に応えられる工学基礎学力）

１．代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。

２．ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。

３．実験／計算／フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。

４．自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

Ｃ．工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。（工学専門知識の創造的活用能力）

１．工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。

２．自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な

資料５－５－①－３の続き

専攻科教育目標の実践指針

知識・技術を駆使して実験／計算／フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明･説得することができる。

3．自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。

4．社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力、種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

D．コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力を身につける。(国際的な受信・発信能力)

1．日本語で､自己の学習･研究活動の経過を報告し､質問に答えることができる。

2．自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E．産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。(産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

1．指定された期限内に、課題を提出できる。

2．工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。

3．自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。

4．自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

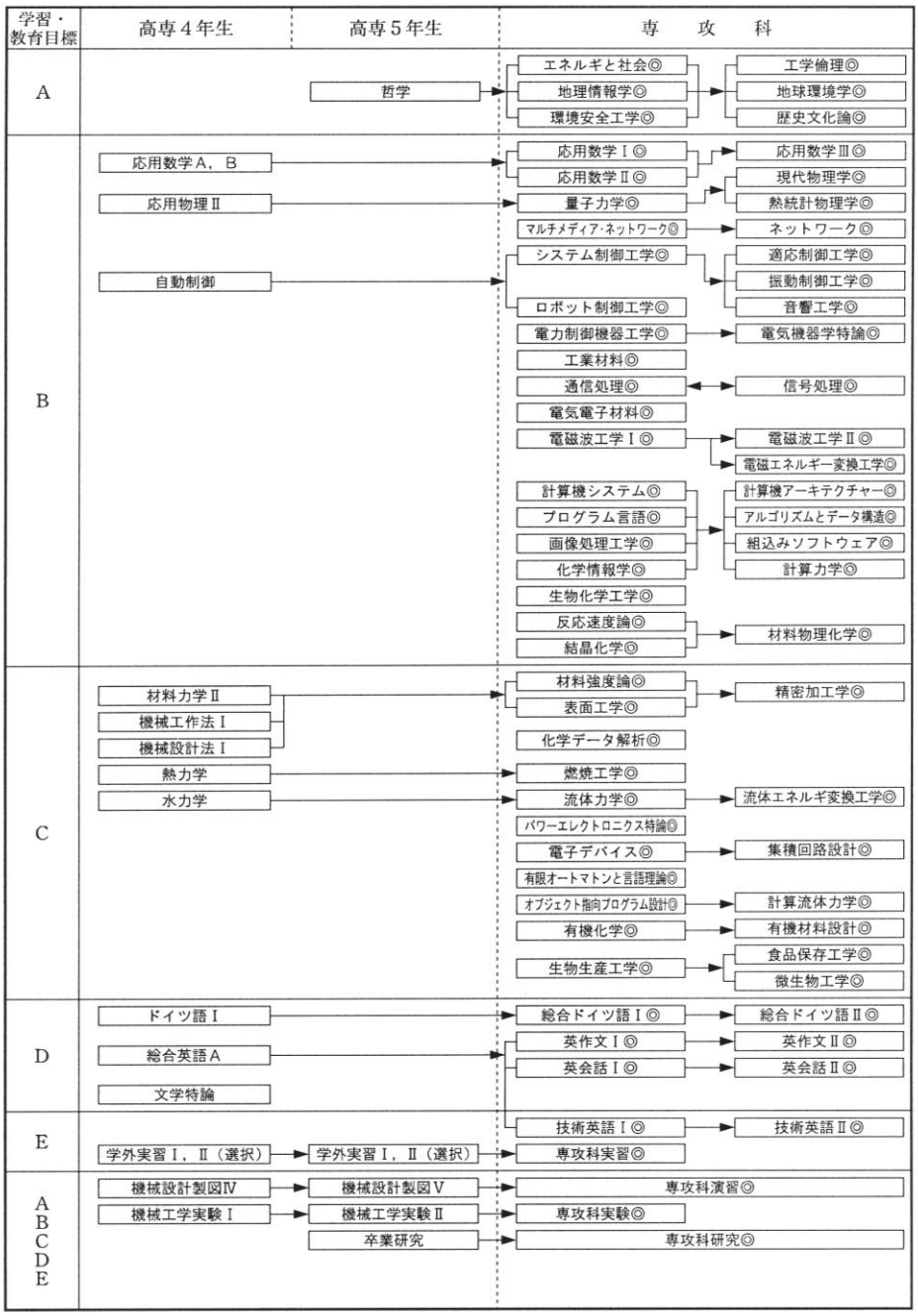
(52)

(出典　平成 23 年度学生便覧)

資料５－５－①－４

各学科における学科・専攻科授業科目の関連図

総合システム工学プログラムの学習・教育目標　　機械工学科在学生



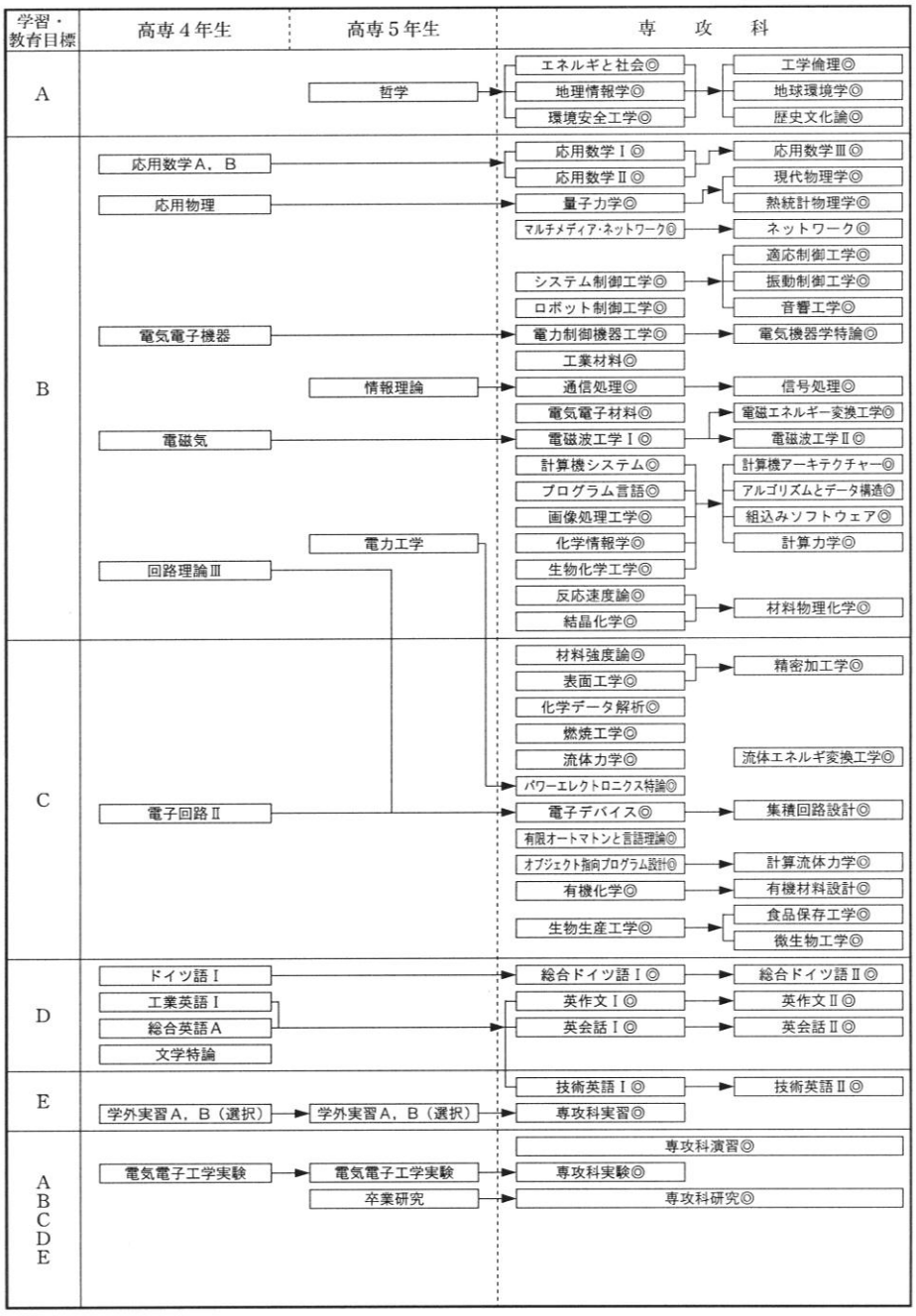
(74)

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－５－①－５

各学科における学科・専攻科授業科目の関連図

総合システム工学プログラムの学習・教育目標　　電気電子工学科在学生

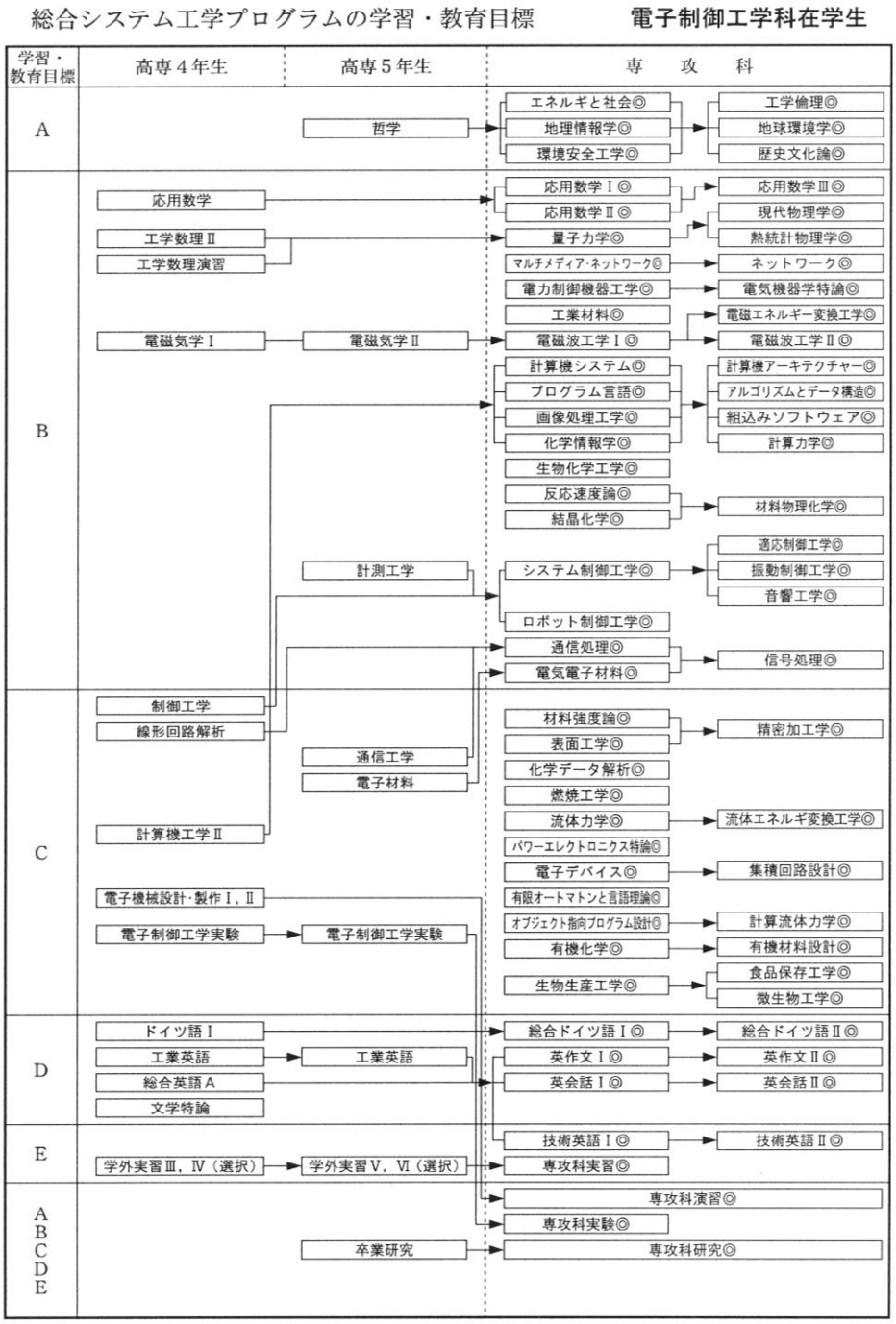


(75)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－６

各学科における学科・専攻科授業科目の関連図



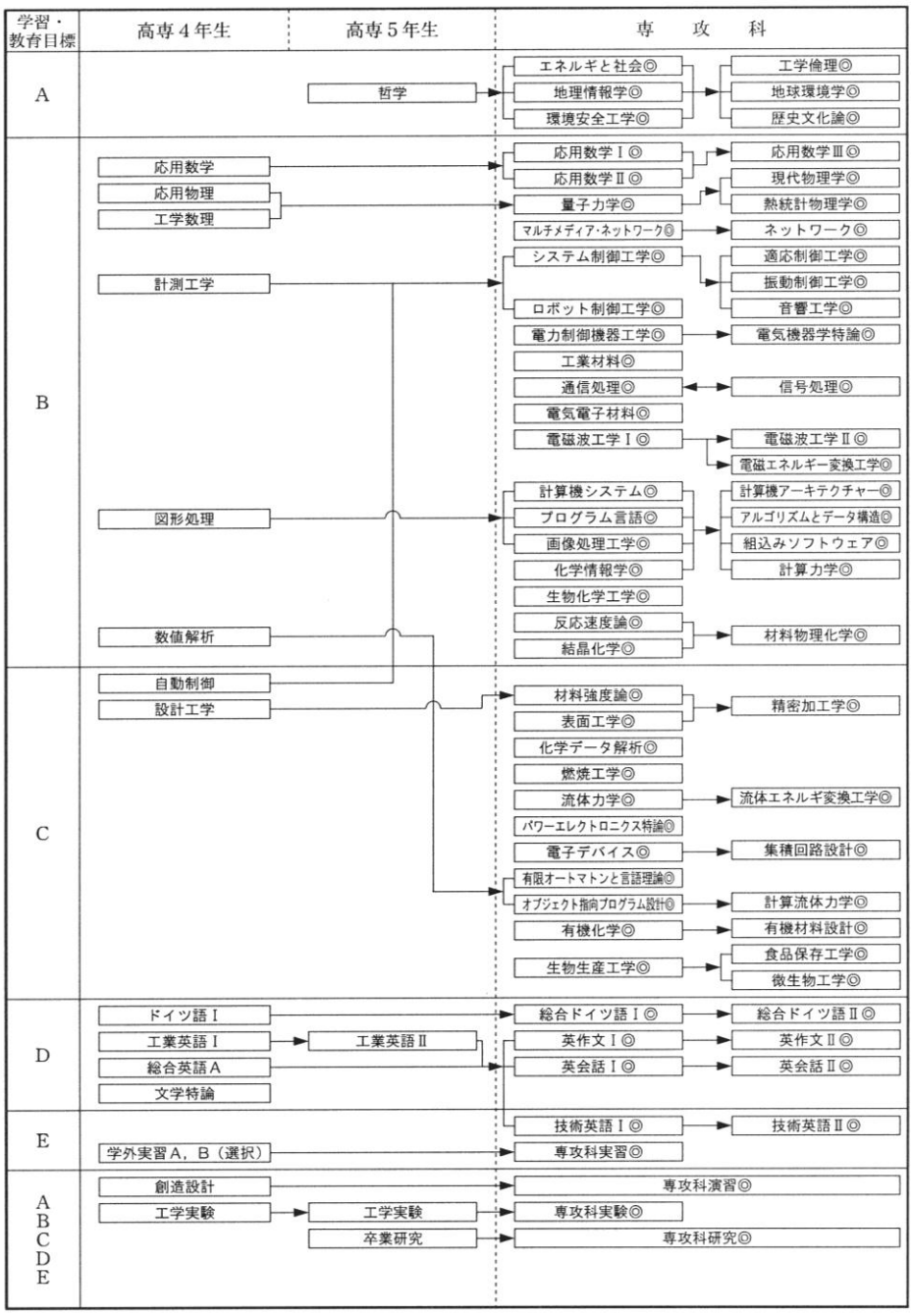
(76)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－７

各学科における学科・専攻科授業科目の関連図

総合システム工学プログラムの学習・教育目標　　制御情報工学科在学生

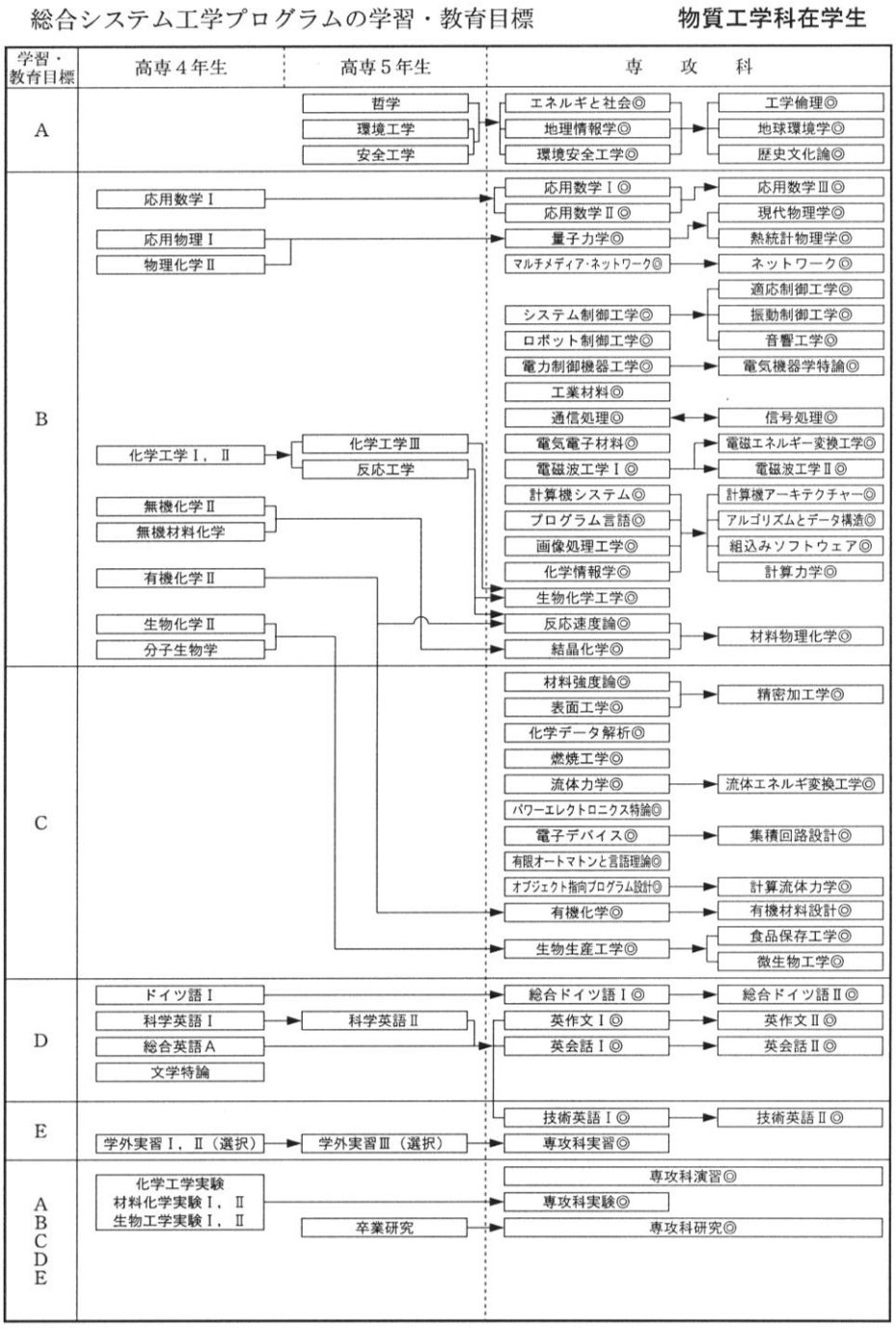


(77)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－８

各学科における学科・専攻科授業科目の関連図



(78)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

履修に関連する規則や規程が定められており（資料５－５－①－９～11），教育の目的を達成するために適切なものとなっている。また，専攻科課程のシラバスには，準学士課程の教育内容との関連性が分かるよう先修科目を明記するようにしている（資料５－５－①－12, 13）。

資料５－５－①－９

授業科目の履修等に関する規則

３．沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

第１条　この規則は、沼津工業高等専門学校学則（昭和37年４月１日制定。以下「学則」という。）第52条第２項及び第54条の規定に基づき、専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（教育課程の編成方針）

第２条　教育課程は、専攻科の教育目標を達成するために必要な授業科目を開設して、体系的に編成するものとする。

２　教育課程の編成に当たっては、地域産業への貢献について適切に配慮するものとする。

３　教育課程については、専攻科担当教員会議が編成を行い、自己点検・評価に基づき、絶えず改善に努めるものとする。

（教育課程の編成方法等）

第３条　教育課程は、各授業科目を必修科目、制限選択科目及び選択科目に分け、これを各学期に配当して編成するものとし、原則として、年次による配当は行わないものとする。

２　授業は、講義、演習、実験若しくは実習のいずれかにより又これらの併用により行うものとする。

（履修方法）

第４条　授業科目の履修方法等については、沼津工業高等専門学校専攻科授業科目履修規程によるものとする。

（単　　位）

第５条　１単位の授業科目は、教室内及び教室外を合わせて45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

２　１単位時間は、45分を標準とする。

３　授業科目の単位計算は、次の各号の基準によるものとする。

(1)　講義については、15単位時間の授業をもって１単位とする。

(2)　演習については、30単位時間の授業をもって１単位とする。

(3)　実験及び実習については、45単位時間の授業をもって１単位とする。

(4)　専攻科研究については45単位時間の研究指導をもって１単位とする。

４　専攻科実習については、前項第３号に定めるもののほか、沼津工業高等専門学校専攻科実習規則によるものとする。

(55)

（単位の授与）

第 6 条　授業科目を履修し、授業日数の５分の４以上出席し、別に定める評価基準を達成した者には、所定の単位を授与する。ただし、特別の理由がある場合、出席については第 11 条に定める公欠を認めることがある。

2　出欠席について、午前６時現在、静岡県内に暴風警報が発令されている場合、その日は休業とする。なお、午前６時現在、暴風警報が発令されていなくても、午前７時 30 分現在、暴風警報発令または交通機関のマヒの場合は臨時休業とすることがある。

3　前項の場合において、休業となった授業については学習時間が不足することのないよう、後日補習を行うものとする。

（進 級 要 件）

第 7 条　第１年次から第２年次への進級要件は、第１年次の必修科目を含む 24 単位以上の単位修得とするものとし、この要件を満たさない場合には、留年とする。この場合、当該年度は、在学年数に通算する。

（履修科目の登録の上限）

第 8 条　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、１年間に履修科目として登録できる単位数は、専攻科実習を除いて 38 単位を上限とする。

2　専攻科長は、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

（定 期 試 験）

第 9 条　定期試験は、前期及び後期の期末に行う期末試験とする。

2　定期試験の実施科目及び時間割りは、原則として、実施の２週間前に発表する。

（追　試　験）

第 10 条　次の各号に掲げる理由により、定期試験を受けることができなかった者に対しては、追試験を行うことができるものとする。

⑴　病気（医師の証明がある場合に限る。）
⑵　忌引
⑶　第 11 条に定める公欠
⑷　その他やむを得ない事由があると認められる場合

2　追試験を受けようとする者は、速やかに別記様式第１号の追試験願を提出し、専攻科長の許可を受けなければならない。

（公　　欠）

第 11 条　次の各号に掲げる理由により、履修中の科目を欠席した場合には、専攻

科担当教員会議の承認を得て、その時間数を公欠とし、当該科目の補習を受けることができるものとする。

⑴　学則第27条による出席停止に基づく欠席

⑵　忌引による欠席

⑶　その他専攻科長が教育研究上必要と認めた欠席

2　公欠の認定を受けようとする者は、別記様式第２号の公欠願を専攻科長に提出しなければならない。

（成績の評価）

第12条　成績は、当該学期の試験の成績及び平素の成績並びに出席状況等を総合して決定するものとする。

2　成績の評価方法は、研究指導計画書及びシラバスに定められた基準によるものとする。

3　授業科目の試験の成績は、A、B、C及びDの４種の評語をもって表し、A、B及びCを合格とする。

4　評語と評価点の相互換算は、以下のとおりとする。ただし、専攻科担当教員会議が必要と認める場合は、合格及び不合格の評語を用いることができるものとする。

⑴　A　（優）　80点以上
　　B　（良）　70点以上80点未満
　　C　（可）　60点以上70点未満
　　D　（不可）　60点未満

⑵　成績を評語で表し、４点満点の評価点で表す場合は、次の基準によるものとする。
　　A　４点
　　B　２点
　　C　１点
　　D　０点

5　前項の規定にかかわらず、実習の成績評価は、沼津工業高等専門学校専攻科実習規則によるものとする。

（他大学等における授業科目の履修等の取扱い）

第13条　教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、短期大学等（以下「他大学等」という。）において履修した授業科目について修得した単位を、沼津工業高等専門学校専攻科の他大学等での取得単位認定に関する規程の定めるところ

により、専攻科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　教育上有益と認めるときは、学生が他大学等又は外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位を、沼津工業高等専門学校専攻科入学時における単位認定に関する規程の定めるところにより、校長が専攻科入学後の専攻科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（学位授与申請）

第 14 条　第２年次への進級を認められた学生は、研究指導教員の指導により、大学評価・学位授与機構へ学位（工学士）の授与申請を行うものとする。

（記　　録）

第 15 条　成績の指導要録への記載並びに学生及び校外に対する通知は、評語をもって行う。

（細　　目）

第 16 条　この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な細目は、別に定める。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－10

授業科目履修規程

４．沼津工業高等専門学校専攻科授業科目履修規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（平成15年４月９日制定）第４条の規定に基づき、専攻科における授業科目の履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（授業科目の区分等）

第２条　授業科目は、年次の別なく配当するものとする。

第３条　必修科目は、専攻科研究、専攻科実験、専攻科演習、専攻科実習及び工学倫理とする。

第４条　制限選択科目は、次の区分により行うものとする。

⑴　専門工学区分：「新しい学士への途」にしたがって、学位分野区分による選択を行うこと。

⑵　基礎能力区分：応用数学、自然科学、情報技術等の科目（総合システム工学カリキュラム体系（以下「体系」という。）の第１行の第Ⅱ列～第Ⅳ列）中６科目以上を履修すること。

⑶　基礎工学区分：設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学・数理・解析系及び社会・技術連関系の５科目群系中６科目以上を履修すること。ただし、各群系から、少なくとも１科目以上を履修すること。

⑷　社会科学等区分（人文科学、社会科学及び語学）：人文科学及び社会科学区分の教科目から工学倫理を含めて６単位以上、語学区分から４単位以上をそれぞれ履修すること。この場合において、人文科学及び社会科学区分教科目は、工学倫理、地球環境学、エネルギーと社会、地理情報学及び歴史文化論とし、語学区分教科目は、技術英語Ⅰ・Ⅱ、英作文Ⅰ・Ⅱ、英会話Ⅰ・Ⅱ及び総合ドイツ語Ⅰ・Ⅱ（各１単位）とする。

第５条　必修科目及び制限選択科目以外の授業科目は、選択科目とする。

（授業科目の履修方法）

第６条　専攻科に開設する授業科目の履修に当たって、履修希望者は、必修科目、制限選択科目及び選択科目の区別について、研究指導教員の指導を得て、別記様式の専攻科（前・後）期受講科目履修届を各学期当初の所定の期日までに専攻科長に提出しなければならない。

（単位認定の時期）

第７条　授業科目の合格者については、成績表が専攻科担当教員会議に提出され

た学期で単位認定を行うものとする。ただし、特別な理由がある場合に、当該学期以後に単位認定を行うことができる。

（細　　目）

第８条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な細目は、別に定める。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－５－①－11

専攻科実習規則

５．沼津工業高等専門学校専攻科実習規則

（趣　　旨）

第１条　この規則は、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（平成15年４月９日制定）第５条第４項及び第12条第５項の規定に基づき、専攻科実習の履修方法及び成績の評価に関し、必要な事項を定める。

（専攻科実習の目的）

第２条　専攻科実習は、企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことを目的とする。

（計画及び実施）

第３条　専攻科実習は、研究指導教員において計画し、校長の許可を得て履修するものとする。

（受入先への依頼）

第４条　専攻科実習を履修する学生（以下「専攻科実習生」という。）の受入先への依頼は、校長が行う。

（履修の時期及び期間）

第５条　専攻科実習は、原則として夏季休業期間中の２週間にわたり履修するものとする。

（経　　費）

第６条　専攻科実習に要する経費は、専攻科実習生の負担とする。

（研究指導教員の業務）

第７条　研究指導教員は、専攻科実習を円滑に実施するため、その実施責任者となり、次の業務を行う。

(1)　専攻科実習生の受入先の選定及び配属先の決定
(2)　専攻科実習生の受入先における実習指導者の指定
(3)　専攻科実習テーマ、内容等に関する指導・助言
(4)　専攻科実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。）、就業心得等の事前指導
(5)　専攻科実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告
(6)　専攻科実習の目標の設定
(7)　専攻科実習の評価基準の設定
(8)　その他専攻科実習に関し、必要な事項

資料５－５－①－11の続き

（受入先選定上の留意点）

第 8 条　研究指導教員は、専攻科実習生の受入先を選定するに当たっては、次の各号の一に該当する場合は、選定しないものとする。

⑴　工学倫理上問題があるとみなされる企業

⑵　著しく危険を伴うもの

⑶　宿舎、交通費等専攻科実習生の負担が著しいもの

⑷　就職活動の一部とみなされるもの

（事前の届出）

第 9 条　研究指導教員は、専攻科実習の履修開始前に、別記様式第１号の専攻科実習開始届を、専攻科長を経て校長に提出し、許可を得なければならない。

（実 地 指 導）

第 10 条　研究指導教員は、専攻科実習生に対し、必要に応じ、受入先等において実地指導を行うものとする。

（報　　告）

第 11 条　研究指導教員は、専攻科実習終了後、直ちに、別記様式第２号の専攻科実習報告書に、別記様式第３号の専攻科実習証明書及び別記様式第４号の専攻科実習日誌を添えて、専攻科長を経て校長に提出しなければならない。

（成績の評価及び単位の認定）

第 12 条　所定の専攻科実習を終了した専攻科実習生の成績評価は、第７条第７号に定める評価基準に基づき、研究指導教員が総合的に判断し評価する。

（事　　務）

第 13 条　専攻科実習に関する事務は、学生課において処理する。

（細　　目）

第 14 条　この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な細目は、別に定める。

(62)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－①－12

シラバス（英会話Ⅰ）

シラバス: 英会話I

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-09 13:21:47		初版
2	2011-03-09 13:21:47		初版(Copy from subject_0843)
3	2011-03-09 13:22:43		

Syllabus ID
3381

Subject ID
943

Version
3

作成者

授業科目名
英会話I

担当教員
塩谷 三徳

補助教員

対象学年
学年を問わない

単位数
1

必修/選択
選択

開講時期
前期

授業区分

社会科学等区分	語学
基礎能力区分	－
工学基礎区分	－
工学専門区分	－

授業形態
講義と演習

実施場所
共通棟3F マルチメディア教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
英語は、国際的な意思伝達に必須の言語媒体となっており、本講義では、TOEIC500点程度の英語の知識を土台にして、基本4技能の中で、特にリスニング、スピーキングの2技能を重視し発展させていく。リスニングについては、毎回英語のニュースを聞き取り、その内容を理解できるようにする。スピーキングについては、英語でのプレゼンテーション能力に重点を置き、テキストを用いて、段階的にプレゼンテーション能力を育成していく。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
TOEIC500点程度の英語の学力

学習・教育目標

Weight	目標
－	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
－	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
○	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
◎	D 国際的な受信・発信能力の養成

資料５－５－①－12の続き

－	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

D.コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力

目標達成への実践指針
- D-1 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
- D-2 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

授業目標
1. 実用英語検定試験の準1級レベルの英語を聞いて8割以上理解できる。2. 与えられたトピックや資料を用いて英語でプレゼンテーションを行い、聞き手に内容を効果的に伝えることができる。

授業計画
（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
2	体を使った表現	Physical Aspects	
3	口頭での表現	Oral Aspects	
4	映像機器の使用1	Visual Aspects (1)	
5	映像機器の使用2	Visual Aspects (2)	
6	映像機器の使用3	Visual Aspects (3)	
7	スピーチのまとめ方1	Organizational Aspects (1)	
8	スピーチのまとめ方2	Organizational Aspects (2)	
9	表現方法	Presentation Performance	
10	デモンストレーション	Make a Demonstration Speech!	
11	発表1	Integrated Presentation (1)	
12	内容のまとめ方	Summarize a Text!	
13	発表2	Integrated Presentation (2)	
14	発表3	Research and Deliver a Presentation!	
15	期末試験		

課題
毎回、授業終了時にディクテーションしたものを提出する。各回の授業内容に応じて、テキストの内容を日本語でまとめる、スピーチを練習する、グラフや表を作成する、課題英文を音読するなどの指示を与え、次回の授業の最初に提出したり、授業内でOHPやプレゼンソフトを使用して発表する。オフィスアワー：授業実施日の12:30～13:00（授業担当教員の教員室）

学習・教育目標の達成度検査
1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準
毎回実施するディクテーションでリスニング能力を評価する。また、スピーキングやリーディング能力については授業での発表を評価する。期末試験では、「英文の音読」、「ディクテーション（リスニング）問題」、「英語でのプレゼンテーションについての基本的な問題」を出題し、学習の定着度に応じて評価する。毎回の提出物(20%)、授業での発表など(25%)、期末試験(45%)、自己評価(10%)とし、全体平均が60%以上であれば合格とする。なお、本科目の単位取得には、少なくともTOEIC500点相当以上のコミュニケーション能力を要する。

教科書等
『英語でプレゼンテーション』 JACET関西支部教材開発研究会 （三修社）

先修科目
本科で学習した総合英語A、総合英語B、英語W、英語C

関連サイトのURL
https://nct-na.numazu-ct.ac.jp/anet2/

備考
1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－５－①－13

シラバス（有機材料設計）

シラバス: 有機材料設計

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-08 20:52:01		初版(Copy from subject_897)
2	2011-03-08 20:52:01		初版

Syllabus ID
3355

Subject ID
997

Version
2

作成者

授業科目名
有機材料設計

担当教員
押川 達夫

補助教員

対象学年
学年を問わない

単位数
2

必修/選択
選択

開講時期
後期

授業区分

社会科学等区分	ー
基礎能力区分	ー
工学基礎区分	設計・システム系
工学専門区分	専門工学系(化学・生物工学)

授業形態
講義と演習

実施場所
専攻科棟ゼミ3室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
有機材料開発には有機化学基礎および有機分子構造の理解が重要である。ここでは特に有機化学構造に焦点を絞り、材料開発の基礎となる原子構造論・分子構造論・分子軌道論・物性論を学習する。習熟度を確認するために演習問題を行う。また計算機化学を実行し分子軌道計算から有機分子の物性・スペクトルをシミュレーションする。 日本化学会編集「材料有機化学」を中心に講義を行う。講義に関連する資料を配付して講義を行う。

準備学習（この授業を受講するときに前提となる知識）

有機化学、物理化学

学習・教育目標

Weight	目標
○	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
◎	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
○	D 国際的な受信・発信能力の養成
◎	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力
E.産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

目標達成への実践指針

- B-1 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
- B-2 ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
- B-3 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
- B-4 自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。
- C-1 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
- C-2 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
- C-3 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
- C-4 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。
- E-1 指定された期限内に、課題を提出できる。
- E-2 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
- E-3 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。
- E-4 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

授業目標

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢(社会要請に応えられる工学基礎学力)。具体的には、(1)代表的な有機分子構造から分子レベルで機能性を予測でき、その応用例を示すことができる。(2)ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(3)演習を通して自然現象を理解し，そこから派生する現象の法則性を検討することができる。(4)自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。(5)社会のニーズを工学技術に反映した実例を複数挙げて示し、必要なデザイン能力について説明することができる。C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力(工学専門知識の創造的活用能力)。具体的には、(1)工学技術における企画、立案、実施、管理のプロセスについて、自己の専門分野の知識を適用し、解析的、実験的な考察ができる。(2)自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、その解決策を考案することができる。(3)自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。

資料５－５－①－13の続き

授業計画

（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	有機化合物の結合と性質1	ナノテクノロジーと有機化合物	
2	有機化合物の結合と性質2	ナノ物質の創製と構造制御技術	
3	炭素資源	炭素資源とナノテクノロジー	
4	油脂と界面化学材料	界面化学材料	
5	香粧材料	ナノサイズではたらく香粧材料	
6	色素材料	分子構造と色	
7	色素材料	顔料と塗料	
8	演習	課題演習	×
9	印写材料	印刷材料と有機材料	
10	エレクトロニクス材料	感光性材料	
11	有機ケイ素材料	ケイ素材料の特徴	
12	有機ケイ素材料	シリコーンゴム	
13	有機フッ素材料	フッ素材料・有機材料と環境	
14	超分子の化学	超分子とは何か	
15	演習	総合演習問題	×

課題

月刊誌専門誌の「化学」や「現代化学」に掲載してある「有機材料商品開発」について、授業毎に各自で調査発表する。発表観点は「商品開発背景、技術開発の要点」などの調査事項をpptで発表する。発表は毎週1名。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準

課題の正解率70%、課題の提出率20%、授業態度10%

教科書等

ナノテクノロジーと有機材料（服部・山本著、「ナノテクノロジーと有機材料」米田出版、¥2,600）

先修科目

有機化学、物理化学

関連サイトのURL

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の学習・教育目標と専攻科課程の教育目標は強く関連しており，専攻科課程は，それぞれの基礎をなす準学士課程を基盤に設置されている。カリキュラムも十分な連携が図られ，シラバスにも関連性が明記されている。従って教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携並びに発展を考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教育目的は、「高等専門学校等の教育における成果と伝統を踏まえ，研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に，創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに，産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い，もって地域社会の産業と文化の進展に寄与すること」であり，その目的を実現するために，５つの教育目標を掲げている（前出資料５－５－①－２）。

専攻科課程の授業科目は，語学，人文・社会科学，基礎能力，機械工学系科目，電気電子工学系科目，情報工学系科目，化学・生物工学系科目に分類される（資料５－５－②－１）。また，各科目は学習・教育目標の各項目を充足するよう配慮され設計されている（資料５－５－②－２）。さらに，学生が柔軟に履修計画を立てられるように，年次の別なく配当することとし（資料５－５－①－９，10），午前中に座学を，午後に研究・実験・演習を配置している（資料５－５－②－３）。必修科目は，専攻科研究，専攻科実験，専攻科演習，専攻科実習及び工学倫理とし，他の科目は選択科目としている。なお，選択科目の履修については，授業科目履修規程に定める方法に則っている（資料５－５－①－10）。

資料５－５－②－１

専攻科授業科目表

別表第４

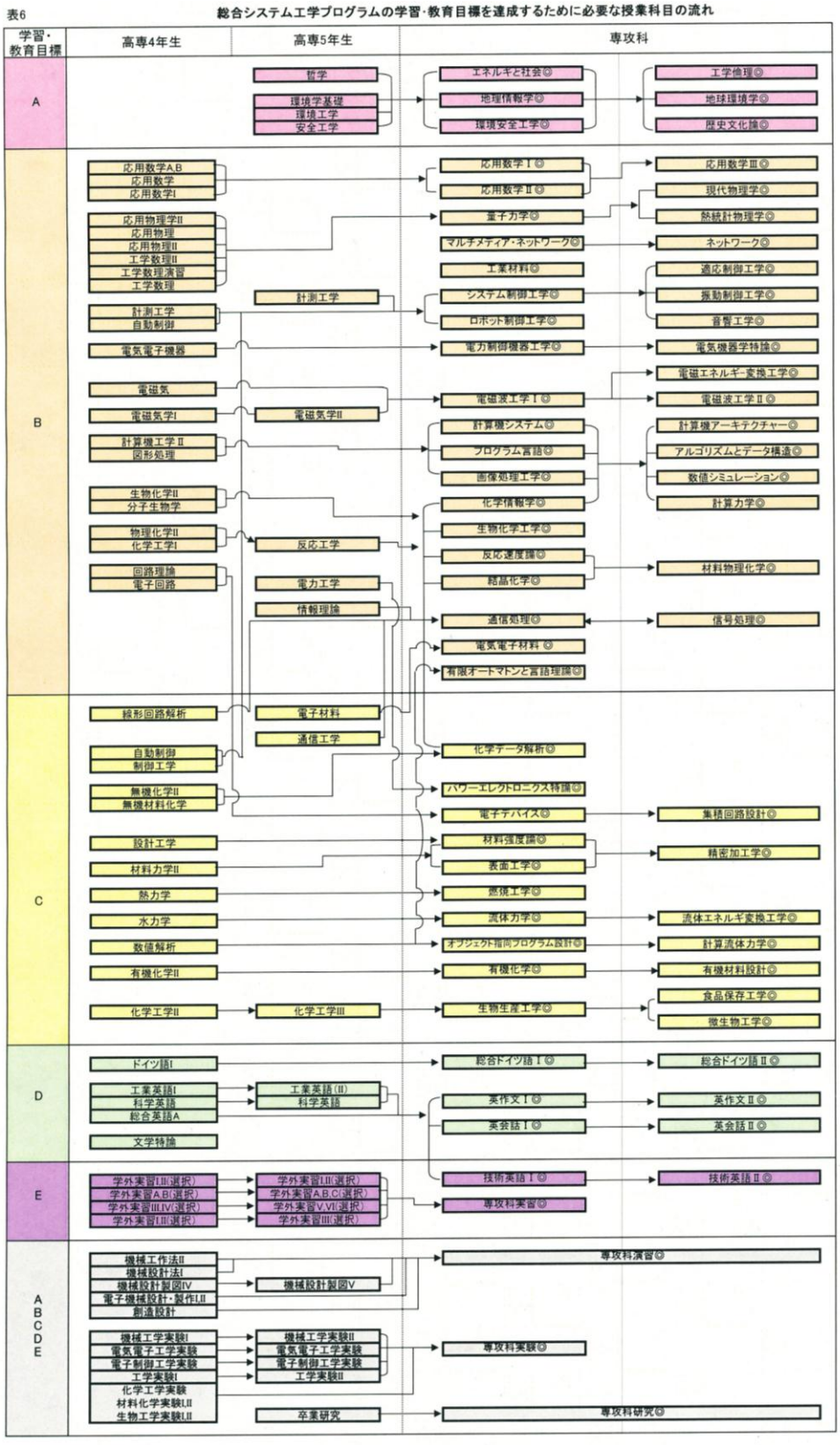
	授業科目	単位数	前期	後期	備考
	専攻科研究	10	5	5	必修　－習得条件－ 研究：１年次前・後期各２単位 演習：１年次前・後期各１単位 実験：１年次、実習：１／２年次可
	専攻科実験	4	2	2	
	専攻科演習	4	2	2	
	専攻科実習	2	2		
語学	技術英語Ⅰ	1	1		４単位以上を選択
	技術英語Ⅱ	1		1	
	英作文Ⅰ	1	1		
	英作文Ⅱ	1		1	
	英会話Ⅰ	1	1		
	英会話Ⅱ	1		1	
	総合ドイツ語Ⅰ	1	1		
	総合ドイツ語Ⅱ	1		1	
人文・社会科学	歴史文化論	2		2	(1)工学倫理を含めて６単位以上を選択 (2)語学と人文・社会科学で、125時間以上の学習保証時間が必要
	地球環境学	2		2	
	工学倫理	2		2	
	エネルギと社会	2	2		
	地理情報学	2	2		
基礎能力	現代物理学	2		2	(1)数学、自然科学、情報技術を含む12単位以上、125時間以上の学習保証時間が必要 (2)総合システム工学要件にしたがって選択
	量子力学	2	2		
	熱統計物理学	2		2	
	応用数学Ⅰ	2	2		
	応用数学Ⅱ	2		2	
	応用数学Ⅲ	2	2		
	マルチメディア・ネットワーク	2	2		
	化学データ解析	2	2		
	材料強度論	2	2		
	結晶化学	2		2	
	生物化学工学	2	2		
機械工学系科目	流体力学	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	精密加工学	2		2	
	燃焼工学	2	2		
	ロボット制御工学	2	2		
	システム制御工学	2	2		
	振動制御工学	2		2	
	適応制御工学	2		2	
	流体エネルギ変換工学	2		2	
	音響工学	2		2	
	表面工学	2	2		
	工業材料	2		2	
電気電子工学系科目	電気機器学特論	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	パワーエレクトロニクス特論	2	2		
	電力制御機器工学	2	2		
	電磁エネルギー変換工学	2	2		
	集積回路設計	2		2	
	電磁波工学Ⅰ	2	2		
	電磁波工学Ⅱ	2		2	
	電子デバイス	2		2	
	電気電子材料	2	2		
	信号処理	2	2		
	通信処理	2	2		
情報工学系科目	ネットワーク	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	計算機アーキテクチャー	2		2	
	組込みソフトウェア	2	2		
	アルゴリズムとデータ構造	2	2		
	有限オートマトンと言語理論	2	2		
	プログラム言語	2	2		
	計算機システム	2	2		
	オブジェクト指向プログラム設計	2	2		
	画像処理工学	2	2		
	化学情報学	2	2		
	計算力学	2	2		
	計算流体力学	2		2	
化学生物工学系科目	有機材料設計	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	環境安全工学	2	2		
	有機化学	2		2	
	微生物工学	2		2	
	食品保存工学	2		2	
	生物生産工学	2		2	
	材料物理化学	2		2	
	反応速度論	2	2		
	授業科目合計単位数	144	77	67	

（出典　平成23年度学生便覧）

資料５－５－②－２

学習・教育目標と授業科目の関連性

表6　総合システム工学プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－５－②－３

専攻科授業科目表

専攻科　　授業時間割

平成23年度

2011/4/1

前期

	月		火		水		木		金	
	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05
視聴覚	量子力学	電気電子材料	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ	化学ﾃﾞｰﾀ解析	ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ設計	応用数学Ⅲ	地理情報学	英作文Ⅰ	応用数学Ⅰ	計算力学
	駒	遠山	芳野／舟田	藁科	鄭	鈴木正	佐藤崇	鈴木久	松澤	小林隆
専攻棟ゼミ３	材料強度論	工学倫理	ロボット制御工学	有限ｵｰﾄﾏﾄﾝと言語理論	総合ドイツ語Ⅰ	組込みｿﾌﾄｳｪｱ	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ言語	生物化学工学	エネルギーと社会	技術英語Ⅰ
	西田／松田	山中	青木	鈴木康	大久保清	牛丸	藤尾	竹口	森井	松坂
専攻棟ゼミ１	画像処理工学		表面工学		システム制御工学	電磁波工学Ⅰ	計算機システム		信号処理	
	川上		西田		長谷	嶋	市川		鈴木茂	
専攻棟ゼミ２		燃焼工学	ﾊﾟﾜｰｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ特論		電磁エネルギー変換工学	通信処理	反応速度論	電力制御機器工学		環境安全工学
		新冨	江間		西村	長澤	大川	高野		渡辺敦
総合情報センター	化学情報学	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造								
	芳野	眞鍋								
その他				英会話Ⅰ						
				塩谷						
場所				MM						

後期

	月		火		水		木		金	
	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05	1 8:50 10:20	2 10:35 12:05
視聴覚	英作文Ⅱ	ネットワーク	工学倫理	熱統計物理学	結晶化学	歴史文化論	地球環境学	現代物理学	応用数学Ⅱ	技術英語Ⅱ
	鈴木久	川上	山中	勝山	小林美	平田	芳野	駒	松澤	松坂
専攻棟ゼミ３	振動制御工学	総合ドイツ語Ⅱ	音響工学	材料物理化学	集積回路設計	計算機ｱｰｷﾃｸﾁｬ	計算流体力学	食品保存工学	電磁波工学Ⅱ	流体力学
	相良	大久保清	村松	稲津	望月	高矢／望月	舟田／大庭	後藤	芹澤	手塚
専攻棟ゼミ１	精密加工学		有機材料設計			適応制御工学	工業材料		流体ｴﾈﾙｷﾞｰ変換工学	電気機器学特論
	永禮		押川			三谷	井上		大島	高野
専攻棟ゼミ２				電子デバイス			有機化学		生物生産工学	微生物工学
				野毛			押川／山根		古川	蓮実
その他					英会話Ⅱ					
					塩谷					
場所					MM					

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

授業科目は，専攻科課程の教育目標に基づいて関連付けされ適切に配置されている。また，技術者教育にとって特に重要とされる工学倫理を必修科目と定め，さらに前期と後期にそれぞれ開講するなど履修上の配慮がなされており，教育の目的を達成するために適切なものとなっていると判断する。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

教育課程の編成方針において，自分の専攻科研究に必要な科目を専門分野や学年に関係なく自由に履修できるようにしている。これは，自動的に学生の多様なニーズに対応した教育課程になっている（資料５－５－①－９）。さらに，学生の多様なニーズに対応するため，他大学等における修得単位認定に関する規程を定め，大学や他の高等専門学校専攻科，外国の高等専門教育機関等における学修を16単位まで修得単位として認定している。（資料５－５－③－１）。

資料５－５－③－１

大学等における修得単位認定に関する規程

沼津工業高等専門学校専攻科の大学等における修得単位認定に関する規程

（平成 13 年1月 10 日制定）

（趣旨）

第１条 この規程は，沼津工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第18条第2項に規定する大学等における学修による単位の認定（以下「単位認定」という。）について必要な事項を定める。

（単位認定の対象とする学修）

第１条 単位認定の対象とすることのできる学修は，次の各号に掲げるとおりとする。

1. 大学又は短期大学（専攻科を含む。）における学修
2. 他の高等専門学校専攻科における学修
3. 外国の高等教育機関における学修
4. 外国の大学又は短期大学が行う通信教育による授業科目を我が国において履修する学修
5. その他専攻科担当教員会議において教育上有益と認められた学修

（事前届出）

第３条 単位認定を受ける目的をもって前条の各号について学修しようとする学生は，事前に研究指導教員に届け出るものとする。

2. 研究指導教員は，前項の届け出があったときは，学則第45条の趣旨を踏まえ，その履修に関し適切な指導を行うものとする。

（申請手続）

第４条 単位認定を受けようとする学生（以下「申請者」という。）は，原則として学期終了時に，別記様式第１号の大学等において修得した単位に係る単位認定申請書に成績証明書その他必要書類を添えて，専攻科長を経て校長に申請するものとする。

（審査および単位認定）

第６条 校長は，前条の申請があったときは，専攻科担当教員会議に審査を付託するものとする。

2. 専攻科担当教員会議は，必要に当たって，必要に応じ，申請者に対し試問を行い又は必要な資料の提出を求めることができる。
3. 専攻科長は，審査結果を，別記様式第2号の大学等において修得した単位に係る単位認定審査報告書により校長に報告するものとする。
4. 校長は，前項の報告書に基づき，単位認定を行う。

資料５－５－③－１の続き

（申請者への通知）

第 6 条 校長は，単位認定の結果を，別記様式第3号の大学等において修得した単位に係る単位認定通知書により申請者に通知するものとする。

（評語及び修了要件に係る取扱い）

第 7 条 単位認定された授業科目の評語は，「合格」とする。

2.　単位認定された授業科目は，修了要件として認定される選択科目であり，16単位を超えないものとする。

（補則）

第 8 条 この規程に定めるもののほか，単位認定に関し必要な事項は，攻科担当教員会議が別に定める。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

また，専攻科実験では，各受講生の専攻分野に関する実験に加えて，総合実験と呼ばれる他専攻学生用のテーマが用意されている。各受講生は自分の専攻分野の実験以外に３つの実験テーマを実施し，周辺分野の基礎的な実験技術を習得する（資料５－５－③－２～４）。

資料５－５－③－２

専攻科総合実験のテーマおよび全体スケジュール表

2011年度　専攻科総合実験全体スケジュール（学生用）

	前期			後期
M班	2（E）	3（D）	5（C）	4（S）
	高電圧実験	Lab VIEWによる計測機器の制御	定性分析化学実験／第1属陽イオンの分離・検出	計測制御システムの開発（複合実験）

	前期		後期	
E班	1（M）	3（D）	5（C）	4（S）
	モード解析	Lab VIEWによる計測機器の制御	定性分析化学実験／第1属陽イオンの分離・検出	計測制御システムの開発（複合実験）
D班	2（E）	5（C）	1（M）	4（S）
	高電圧実験	定性分析化学実験／第1属陽イオンの分離・検出	モード解析	計測制御システムの開発（複合実験）
S班	2（E）	3（D）	1（M）	5（C）
	高電圧実験	Lab VIEWによる計測機器の制御	モード解析	計測制御システムの開発（複合実験）
C班	1（M）	3（D）	2’（E）	4（S）
	モード解析	Lab VIEWによる計測機器の制御	電力用半導体素子の特性測定	計測制御システムの開発（複合実験）

（複合実験は6週分）

M班のみ前期に3テーマ実施する（機械工学科の専攻科実験に一部組み込んでいるため）

テーマ番号	教員名	テーマ名
1（M）	永禮教員	モード解析
2（E）	江間教員	高電圧実験
2’（E）	高野教員	電力用半導体素子の特性測定
3（D）	遠山教員	Lab VIEWによる計測機器の制御
4（S）	芹澤教員	計測制御システムの開発（複合実験）
5（C）	芳野教員	定性分析化学実験／第1属陽イオンの分離・検出

（出典　総合実験資料）

資料５－５－③－３

専攻科総合実験の班構成

2011年度専攻科総合実験　班構成メンバー一覧表

班	氏　名	ふりがな	専攻名	出身学科
M			機械・電気システム工学	機械工学科
			機械・電気システム工学	機械工学科
			機械・電気システム工学	機械工学科
			機械・電気システム工学	機械工学科
			機械・電気システム工学	機械工学科
E			機械・電気システム工学	電気電子工学科
			機械・電気システム工学	電気電子工学科
			機械・電気システム工学	電気電子工学科
			機械・電気システム工学	電気電子工学科
			機械・電気システム工学	電気電子工学科
			機械・電気システム工学	電気電子工学科
D			機械・電気システム工学	電子制御工学科
			機械・電気システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
			制御・情報システム工学	電子制御工学科
S			機械・電気システム工学	制御情報工学科
			制御・情報システム工学	制御情報工学科
			制御・情報システム工学	制御情報工学科
			制御・情報システム工学	制御情報工学科
			制御・情報システム工学	制御情報工学科
C			応用物質工学	制御情報工学科
			応用物質工学	物質工学科
			応用物質工学	物質工学科

	班代表者氏名	メールアドレス
M班		
E班		
D班		
S班		
C班		

（出典　総合実験資料）

資料５－５－③－４

専攻科総合実験のテキスト（機械分野）

『モード解析テキスト』

1. 目的

機械装置を運転すると振動を伴うことが多い。構造物が振動にさらされると、固有振動数が励振されて疲労や破壊の原因になることがある。例えば回転機械の回転周波数と機械の固有振動数が一致した場合、その機械は共振し、大きな振動が発生することになる。この振動現象を低く抑えるには、その装置の構造による振動の特性（動特性という）を知る必要がある。機械構造物の動特性を知る手段として、モード解析がある。本実験では、単純な構造物を例に取り、モード解析の手段としての知識を得ることを目的とする。さらにこの実験を通して、静特性と動特性、時間領域と周波数領域、伝達関数の図式表示等を理解する。

2. モード解析とは何か

モード解析とは、総合的な振動解析法であり、構造物の各部がどのような振動数でどのように連成して振動するか、すなわち、構造物の振動モードを求めることにより、対象構造物の動的な特性を解析するものである。

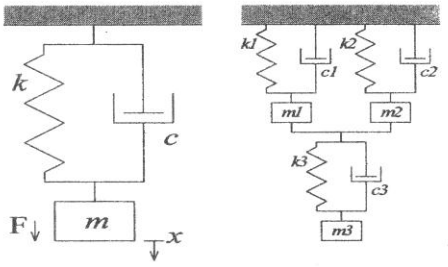
モード解析という名称は、広い意味ではコンピュータを利用した有限要素法などによる計算モード解析と、本実験のような実験モード解析の両方をさすが、単にモード解析といえば、実験的なモード解析をさすことが多い。

3. モード解析の概要

対象とする構造物は、線形システムであり、質量、粘性およびばねから構成されていると仮定すると、そのモデルは図１に示すように表すことができ、このシステムの運動方程式は式（１）のようになる。

$$m\ddot{x} + c\dot{x} + kx = F \qquad (1)$$

ただし、実際の構造物はこのように簡単には表されず、図に示すような多自由度のものになる。しかし、運動方程式の形は１自由度のものと変わりない。複数の運動方程式の連立方程式として書くことができる。ここで、測定する応答は、変位、速度あるいは加速度などが考えられるが、一般的には測定の簡便さから加速度を測定することが多い。



１自由度系モデル　　多自由度系モデル

（出典　総合実験資料）

総合実験に加え，複合実験と呼ばれる１テーマ分の実験が用意されている。この実験は，計測・制御技術の重要性について理解を深めると共に，他専攻の学生との共同作業を通してコミュニケーション能力を向上させることを目的としたプロジェクト型体験学習として実践されている。PBL方式により，互いに異なる専攻分野の専門知識を融合し，協力して自動計測・制御システムを開発することで，多様なニーズや近年益々複雑化する社会からの要請に対応できる柔軟性を養っている（資料５－５－③－５～７）。

資料５－５－③－５

専攻科複合実験ガイダンス資料（抜粋）

2010.11.10

２０１０年度　専攻科実験（複合実験）ガイダンス資料

対象学生：専攻科１年次生
実施日時：11/10, 11/17, 11/24, 12/1, 12/8, 12/22 の 13:05～16:05（計 18 時間）
実施場所：制御情報工学科棟３階　メカトロニクス演習室

【授業の概要】
計測・制御技術の一端を学びその重要性について理解を深めること、および専門分野の異なる者との共同作業を通してコミュニケーション能力を向上させることを目的として、計測からデータ処理までを一貫して自動的に行う計測・制御システムの開発をプロジェクト型体験学習（PBL）の方法で実施する。学生の出身学科および専攻が異なるように１班８～９人程度でプロジェクトチームを編成する。

【授業目標】
1. ニーズを理解し、それに適した製品（計測・制御システム）の企画ができる
2. これまでに学習した知識と技術を製品開発に応用できる
3. 不足している知識・技術については自主的に調査・学習し、問題解決を図ることができる
4. 与えられた制約のもとで組織的かつ計画的に作業を遂行できる
5. プロジェクトの構成員との対話を通して情報収集および問題解決を図ることができる
6. 分かりやすく適切な形式でドキュメントをまとめることができる
7. 成果を説明するために適切な資料を作成し、プレゼンテーションができる

提出物（様式は定めないが、必要事項を記載すること）
［要求機能仕様書］企画分析を行い、必要な機能および望ましい機能を明確に整理して記載する
［設計基本仕様書］要求機能仕様書をさらに充実させ詳細設計を進めるのに必要な設計仕様を定量的に示し明確に整理して記載したもの
［機能系統図］全体の構成を機能部分の結合として描き表した図
［基本計画図］主要部分の構造、機能、使用部品などが明確に理解できる図
［ソフトウェア設計仕様書］プログラムの目的、必要機能、基本構造、使用環境などを明記する
［最終成果報告書］製作システムの特徴、工夫した点、動作確認の結果などを簡潔にまとめ、班員全員による個別の考察、所感、反省を記載したもの
［その他］議事録、作業報告書、プレゼンファイル

（出典　複合実験ガイダンス資料）

資料５－５－③－６

専攻科複合実験のスケジュール

2010年度　専攻科実験（複合実験）　スケジュールと提出物

実施日	実施時間	内容	提出物
11/10（水）	13:05-16:05	ガイダンス（安全教育も含む） LabVIEW演習	なし
11/17（水）	13:05-16:05	初期研究[a] （システムの概念設計[b]）	[a1]議事録（全体ミーティングの内容と決定事項） [a2]要求機能仕様書（議事録の決定事項に基づいて作成）
11/24（水）	13:05-16:05	システムの概念設計[b] サブグループの編成[c] サブシステムの詳細設計[d]	[b1]議事録（全体ミーティングの内容と決定事項） [b2]設計基本仕様書（議事録の決定事項に基づいて作成）、機能系統図 [c]サブグループ編成資料（役割分担表） [d]議事録または作業報告書（部門別）
12/1（水）	13:05-16:05	サブシステムの詳細設計[d] サブシステムの製作と部分的動作確認[e]	[d1]議事録または作業報告書（部門別） [d2]基本計画図、ソフトウェア設計仕様書等 [e]作業報告書（部門別）
12/8（水）	13:05-16:05	サブシステムの製作と部分的動作確認[e] システムの統合と動作確認、性能評価[f]	[e]作業報告書（部門別） [f]作業報告書（全体）
12/22（水）	13:05-16:05	最終調整[g] プレゼンテーション[h] アンケート（自己評価を含む）	[g]最終成果報告書 [h]プレゼン資料（パワーポイント）

・提出物はすべて電子化し、実施日から1週間以内に芹澤へ電子メールで送付する

（出典　複合実験ガイダンス資料）

資料５－５－③－７

専攻科複合実験の班構成

2010年度　専攻科実験(複合実験)　班構成メンバー一覧表

班	専攻名	氏　　名	なまえ	出身学科	担当
1	機械・電気システム工学			機械工学科	◎
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	○
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	機械・電気システム工学			電気電子工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	応用物質工学			物質工学科	
2	機械・電気システム工学			電気電子工学科	◎
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	○
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	応用物質工学			物質工学科	
	応用物質工学			物質工学科	
3	制御・情報システム工学			電子制御工学科	◎
	機械・電気システム工学			機械工学科	○
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	機械・電気システム工学			電気電子工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	応用物質工学			物質工学科	
4	制御・情報システム工学			電子制御工学科	◎
	機械・電気システム工学			電気電子工学科	○
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	機械・電気システム工学			機械工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			電子制御工学科	
	制御・情報システム工学			制御情報工学科	
	応用物質工学			物質工学科	

◎リーダ、○サブリーダ

担当教員一覧表

教員名	担当	Eメール
芹澤弘秀	全体の統括・調整	

(出典　複合実験ガイダンス資料)

インターンシップについては全学習・教育目標に関連する１年次の必修科目と定め，専攻科実習として実施されており（資料５－５－③－８，９），実社会における技術者の業務を体験させ，コミュニケーション能力を含め社会からの要請に柔軟に対応できる能力を養成している。

資料５－５－③－８

専攻科実習規則

５．沼津工業高等専門学校専攻科実習規則

（趣　　旨）

第１条　この規則は、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則（平成15年４月９日制定）第５条第４項及び第12条第５項の規定に基づき、専攻科実習の履修方法及び成績の評価に関し、必要な事項を定める。

（専攻科実習の目的）

第２条　専攻科実習は、企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことを目的とする。

（計画及び実施）

第３条　専攻科実習は、研究指導教員において計画し、校長の許可を得て履修するものとする。

（受入先への依頼）

第４条　専攻科実習を履修する学生（以下「専攻科実習生」という。）の受入先への依頼は、校長が行う。

（履修の時期及び期間）

第５条　専攻科実習は、原則として夏季休業期間中の２週間にわたり履修するものとする。

（経　　費）

第６条　専攻科実習に要する経費は、専攻科実習生の負担とする。

（研究指導教員の業務）

第７条　研究指導教員は、専攻科実習を円滑に実施するため、その実施責任者となり、次の業務を行う。

(1)　専攻科実習生の受入先の選定及び配属先の決定
(2)　専攻科実習生の受入先における実習指導者の指定
(3)　専攻科実習テーマ、内容等に関する指導・助言
(4)　専攻科実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。）、就業心得等の事前指導
(5)　専攻科実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告
(6)　専攻科実習の目標の設定
(7)　専攻科実習の評価基準の設定
(8)　その他専攻科実習に関し、必要な事項

(61)

（受入先選定上の留意点）

第 8 条　研究指導教員は、専攻科実習生の受入先を選定するに当たっては、次の各号の一に該当する場合は、選定しないものとする。

⑴　工学倫理上問題があるとみなされる企業

⑵　著しく危険を伴うもの

⑶　宿舎、交通費等専攻科実習生の負担が著しいもの

⑷　就職活動の一部とみなされるもの

（事前の届出）

第 9 条　研究指導教員は、専攻科実習の履修開始前に、別記様式第１号の専攻科実習開始届を、専攻科長を経て校長に提出し、許可を得なければならない。

（実 地 指 導）

第 10 条　研究指導教員は、専攻科実習生に対し、必要に応じ、受入先等において実地指導を行うものとする。

（報　　告）

第 11 条　研究指導教員は、専攻科実習終了後、直ちに、別記様式第２号の専攻科実習報告書に、別記様式第３号の専攻科実習証明書及び別記様式第４号の専攻科実習日誌を添えて、専攻科長を経て校長に提出しなければならない。

（成績の評価及び単位の認定）

第 12 条　所定の専攻科実習を終了した専攻科実習生の成績評価は、第７条第７号に定める評価基準に基づき、研究指導教員が総合的に判断し評価する。

（事　　務）

第 13 条　専攻科実習に関する事務は、学生課において処理する。

（細　　目）

第 14 条　この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な細目は、別に定める。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－５－③－９

専攻科実習受け入れ企業一覧

受付	発送					申請者	性別	実習期間			
企業名	文書番号	日付	ME1	DS1	CB1			から	まで	1週間	2週間
東京工業大学	10-3	5/13		○野毛			男	8月16日	8月27日		○
山梨大学	10-13	6/11	○真鍋				男	8月2日 8月23日	8月6日 8月27日		○
財団法人海外貿易開発協会	10-4	5/25		○大庭			男	8月2日	8月21日		
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	10-38	7/21		○江上			男	8月16日	8月27日		○
高畑精工株式会社	10-6	5/27	○松田				男	7月25日	8月7日		○
アイフォーコム株式会社	10-18	6/21		○鈴木康			男	8月23日	9月3日		
矢崎総業株式会社	10-12	6/9	○望月				男	8月16日	8月27日		○
日本原子力発電株式会社	10-10	6/2	○西村				男	7月26日	8月6日		○
	10-15	6/16		○鄭			男	7月26日	8月6日		○
明電システムテクノロジー(株)	10-9	6/1		○牛丸			男	7月29日	8月11日		○
	10-8	6/1		○牛丸			男	7月29日	8月11日		○
株式会社NTTネオメイト	10-14	6/16		○長澤			男	7月26日	8月6日		○
	10-22	6/25		○鄭			男	7月26日	8月6日		○
メタウォーター株式会社	10-17	6/21	○村松				男	7月26日	8月6日		○
日本食品化工株式会社　富士工場	10-11	6/4			○		男	8月16日	8月20日	○	
フロイント産業株式会社	10-19	6/24	○小林				男	8月9日	8月13日	○	
キリンディステラリー株式会社	10-16	3/18			○蓮実		男	8月16日	8月27日		
ぬまづ産業振興プラザ	10-26	7/6	○舟田				男	8月2日	8月13日		
ベックマン・コールター・三島株式会社	10-21	6/25	○小林				男	8月23日	8月27日	○	
東邦化工建設(株)	10-24	6/29	○西田				男	7月28日	8月10日		○
静岡大学工学部	10-37	7/16	○佐藤憲				男	8月18日	8月31日		○
	10-40	8/2			○蓮実		男	8月16日	8月27日		○
	10-41	8/2			○蓮実		男	8月16日	8月27日		○
株式会社小松製作所	10-25	6/30	○新富				男	7月28日	8月10日		○
コンティネンタル・オートモーティブ株式会社	10-16	7/1	○小林				男	8月18日	8月31日		○
株式会社電業社機械製作所	10-27	7/6		○大島			男	8月2日	8月12日		
株式会社中外医科学研究所	10/28	7/12			○芳野		男	8月16日	8月27日		
エミック株式会社	10-30	7/14	○三谷				男	8月18日	8月31日		○
東芝機械株式会社本社工場	10-29	7/14	○三谷				男	8月18日	8月31日		○
御殿場テトラパック合同会社	10-32	7/15		○川上			男	8月2日	8月13日		○
	10-31	7/15		○川上			男	8月2日	8月13日		○
株式会社日本防振工業	10-33	7/15		○鄭			男	7月26日	8月6日		○
東芝テック株式会社	10-34	7/15		○鈴木茂			男	7月28日	8月10日		○
株式会社エステック	10-39	7/23		○森井			男	8月3日	8月17日		○
奈良先端科学技術大学院大学	10-42	8/2		○大庭			男	8月2日	8月13日		○

（出典　平成22年度学外実習学内資料）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科研究に必要な科目を専門分野や学年に関係なく自由に履修できるよう教育課程を編成することにより，学生の多様なニーズに対応している。さらに，他大学における学修の単位認定に関する規程を設けている。インターンシップは必修科目としている。また，専攻科実験では，専攻分野以外の周辺分野に関連する３つの総合実験ならびにPBL方式を通して異なる専攻の学生と共同作業を通してシステム開発を行う複合実験が整備されており，学生の多様なニーズに対応した教育課程が編成されている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

開講科目144単位に対する講義，演習，実験・実習等の授業形態の割合については，必修科目と定めている演習，実験・実習（研究）が20単位で約14%，講義が124単位で約86%となっている（資料５－６－①－１）。本校では，専攻科研究・専攻科実験・専攻科演習・専攻科実習ならびに工学倫理が必修科目であり，他の科目はすべて制限選択科目もしくは選択科目として開講されている。さらに，すべての選択科目は学生の専攻に対する履修制限はなく開講されている結果，講義科目の割合が高くなっている。これらは，選択科目を中心とした教育課程を構成することで，受講生が各自の専門性を考慮し最適な履修科目を選択できるよう配慮しているためである。修了要件を考慮した授業形態のバランスは，演習，実験・実習等が32%，講義が68%となり，適切なバランスとなっている。

資料５－６－①－１

専攻科授業科目表

別表第４

	授業科目	単位数	前期	後期	備考
	専攻科研究	10	5	5	必修　－習得条件－ 研究：１年次前・後期各２単位 演習：１年次前・後期各１単位 実験：１年次、実習：１／２年次可
	専攻科実験	4	2	2	
	専攻科演習	4	2	2	
	専攻科実習	2	2		
語学	技術英語Ⅰ	1	1		４単位以上を選択
	技術英語Ⅱ	1		1	
	英作文Ⅰ	1	1		
	英作文Ⅱ	1		1	
	英会話Ⅰ	1	1		
	英会話Ⅱ	1		1	
	総合ドイツ語Ⅰ	1	1		
	総合ドイツ語Ⅱ	1		1	
人文・社会科学	歴史文化論	2		2	(1)工学倫理を含めて６単位以上を選択 (2)語学と人文・社会科学で、125時間以上の学習保証時間が必要
	地球環境学	2		2	
	工学倫理	2		2	
	エネルギと社会	2	2		
	地理情報学	2	2		
基礎能力	現代物理学	2		2	(1)数学、自然科学、情報技術を含む12単位以上、125時間以上の学習保証時間が必要 (2)総合システム工学要件にしたがって選択
	量子力学	2	2		
	熱統計物理学	2		2	
	応用数学Ⅰ	2	2		
	応用数学Ⅱ	2		2	
	応用数学Ⅲ	2	2		
	マルチメディア・ネットワーク	2	2		
	化学データ解析	2	2		
	材料強度論	2	2		
	結晶化学	2		2	
	生物化学工学	2	2		
機械工学系科目	流体力学	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	精密加工学	2		2	
	燃焼工学	2	2		
	ロボット制御工学	2	2		
	システム制御工学	2	2		
	振動制御工学	2		2	
	適応制御工学	2		2	
	流体エネルギ変換工学	2		2	
	音響工学	2		2	
	表面工学	2	2		
	工業材料	2		2	
電気電子工学系科目	電気機器学特論	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	パワーエレクトロニクス特論	2	2		
	電力制御機器工学	2	2		
	電磁エネルギー変換工学	2	2		
	集積回路設計	2		2	
	電磁波工学Ⅰ	2	2		
	電磁波工学Ⅱ	2		2	
	電子デバイス	2		2	
	電気電子材料	2	2		
	信号処理	2	2		
	通信処理	2	2		
情報工学系科目	ネットワーク	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	計算機アーキテクチャー	2		2	
	組込みソフトウェア	2	2		
	アルゴリズムとデータ構造	2	2		
	有限オートマトンと言語理論	2	2		
	プログラム言語	2	2		
	計算機システム	2	2		
	オブジェクト指向プログラム設計	2	2		
	画像処理工学	2	2		
	化学情報学	2	2		
	計算力学	2	2		
	計算流体力学	2		2	
化学生物工学系科目	有機材料設計	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	環境安全工学	2	2		
	有機化学	2		2	
	微生物工学	2		2	
	食品保存工学	2		2	
	生物生産工学	2		2	
	材料物理化学	2		2	
	反応速度論	2	2		
	授業科目合計単位数	144	77	67	

(50)

（出典　平成23年度学生便覧）

また，国際的な技術者として必須となる英語による双方向コミュニケーション能力の育成を重点に英会話が開講されており，授業の後半では英語による研究活動のプレゼンテーションが実施されている。受講生が各自の専攻科研究の内容についてパワーポイントに資料としてまとめ，約５分間のプレゼンテーションに加え英語で質疑応答を行っている（資料５－６－①－２～４）。

資料５－６－①－２

シラバス（英会話Ⅱ）

シラバス: 英会話II

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-09 13:24:16		初版(Copy from subject_0844)
2	2011-03-09 13:24:16		初版(Copy from subject_0844)
3	2011-03-09 13:24:16		初版(Copy from subject_0844)
4	2011-03-09 13:25:15		

Syllabus ID
3385

Subject ID
945

Version
4

作成者

授業科目名
英会話II

担当教員
塩谷 三徳

補助教員

対象学年
学年を問わない

単位数
1

必修/選択
選択

開講時期
後期

授業区分

社会科学等区分	語学
基礎能力区分	−
工学基礎区分	−
工学専門区分	−

授業形態
講義と演習

実施場所
共通棟3F マルチメディア教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
英語は、国際的な意思伝達に必須の言語媒体となっており、本講義では、TOEIC500点程度の英語の知識を土台にして、基本4技能の中で、特にリスニング、スピーキングの2技能を重視し発展させていく。本講義では英語によるプレゼンテーションを実践する。また、他者のプレゼンテーションを聞いてその概要を理解し、その内容について英語で質疑応答できるような実践的コミュニケーション能力の習得を目指す。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
TOEIC500点程度の英語の学力
 プレゼンテーションについての基礎知識があり、視聴覚教材の基本的な操作及び資料の作成、提示ができること。

学習・教育目標

Weight	目標
−	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
−	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
○	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
◎	D 国際的な受信・発信能力の養成

－	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

D.コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力

目標達成への実践指針
- D-1 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
- D-2 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

授業目標
1. 自己の研究成果の概要を記述し、英語でプレゼンテーションができる。
2. 他者のプレゼンテーションを聞いてその概要を理解し、内容について英語で質疑応答できるようになる。

授業計画
（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準、等の説明	
2	プレゼンテーション演習	プレゼン後の質疑応答など	
3	プレゼンテーション1	Natural Disasters / Endangered Species	
4	プレゼンテーション2	Humanoid Robot / Rescue Robot	
5	プレゼンテーション3	Anorexia Nervosa / Bulimia Nervosa	
6	プレゼンテーション4	Hubble Telescope / Solar System	
7	プレゼンテーション5	Genetic Engineering / Stem Cell	
8	プレゼンテーション6	Hybrid Vehicle / Clean Vehicle	
9	プレゼンテーション7	Internet Crime / Mobile Phones	
10	プレゼンテーション8	War / Weapons	
11	プレゼンテーション9	Alternative Energy / Ubiquitous Society	
12	プレゼンテーション10	最終発表のアウトラインを発表	
13	最終発表1	学生各自の研究内容を発表	
14	最終発表2	学生各自の研究内容を発表	
15	まとめ	プレゼンテーションのまとめ	×

課題
与えられたテーマに沿って、パワーポイントやOHPなどを利用したプレゼンテーションの準備をする。英文のハンドアウトを発表の前の授業で提出する。また、発表原稿を英語と日本語で作成し、発表の3日前までには教員室に提出する。オフィスアワー：授業実施日の12:30～13:00（授業担当教員の教員室）

学習・教育目標の達成度検査
1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準
複数のテーマについて英語で発表し、その内容を総合的に評価する。最終発表は各自の専攻科での研究について英語で発表する。最終発表に至るまでの事前練習では、準備をしっかり行っているか、聞き手に対し明確な主張をしているかを評価する。最終発表では各自の専門とする研究が専門外の聞き手にも理解してもらえるような発表であるかを、英語使用、機器使用を含めて評価する。
毎回の提出物(45%)、プレゼンテーションおよび質疑応答(45%)、自己評価(10%)により判断する。
なお本科目の単位取得には少なくともTOEIC500点相当以上のコミュニケーション能力を要する。

教科書等
『英語でプレゼンテーション』 JACET関西支部教材開発研究会 （三修社『A Shorter Course in English 5分間英字新聞』大澤岳彦他（南雲堂）

先修科目
英会話Ⅰ

関連サイトのURL
http://nct-na.numazu-ct.ac.jp/anet2/　「アルクネットアカデミー」

備考
1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－６－①－３

英会話Ⅱにおける発表資料（配布資料）

(Hand Out)

Digitisation of Simultaneous Measurement System for Temperature and Velocity by Employing FPGA

[redacted]

Purpose

Digitisation of Simultaneous Measurement System for Temperature and Velocity by Employing FPGA

Analog Measurement System

Conventional measurement systems were consist of thermometer and anemometer with analog method.

What is FPGA (Field Programmable Gate Array)

FPGA can process calculation in plural methods simultaneously.



The chip of FPGA

Originality of this Study

This study is in “compounded field” of “mechanical field”, “information field” and “control field”.

Conclusion

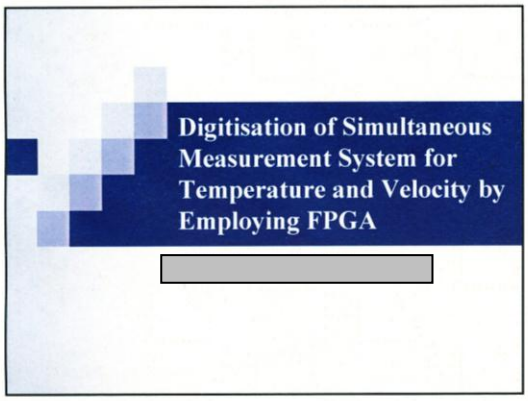
Conventional measurement systems consist of analog method were implemented on FPGA.

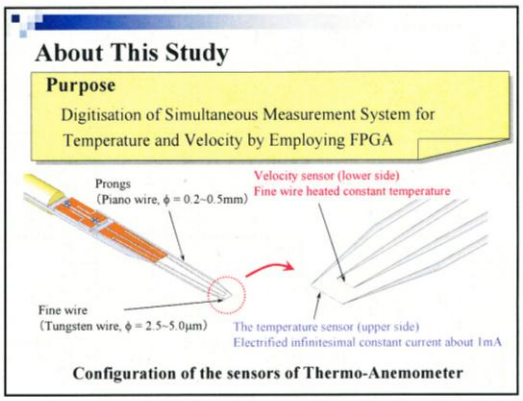
High-accuracy digital measurement system for temperature and velocity is useful for investigation of behavior about thermal fluids and performance tests for thermal instruments.

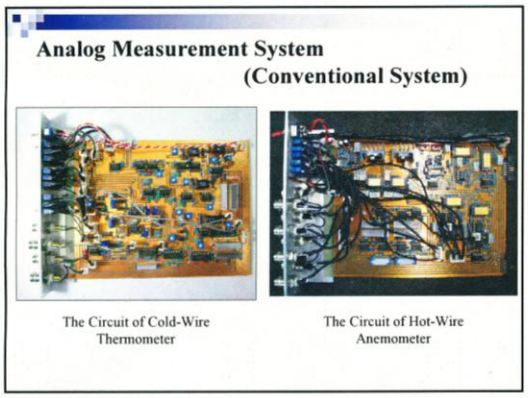
（出典　授業配布資料）

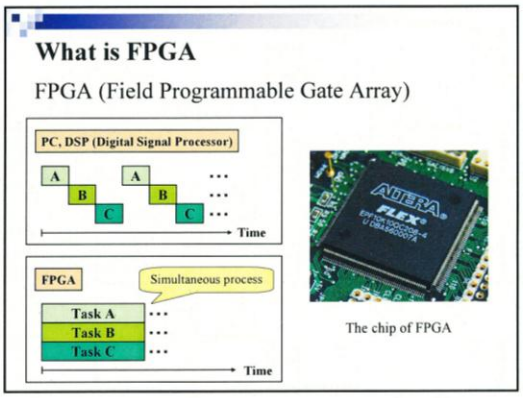
資料５－６－①－４

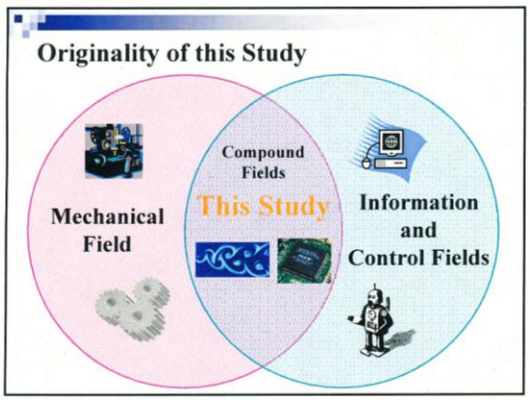
英会話Ⅱにおける発表資料（パワーポイント）

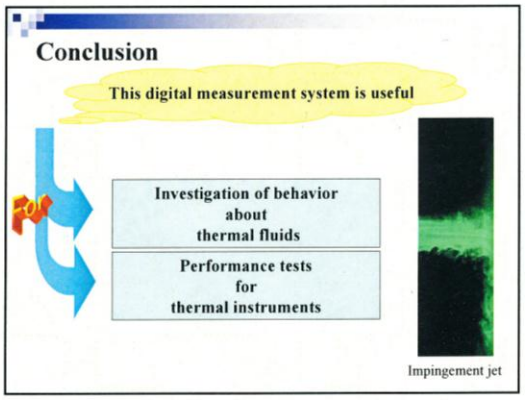












（出典　授業配布資料）

また，地理情報学においては，実際に地図を用いてフィールドワーク（巡検）を行い，三島駅周辺の自然環境と都市内部構造についてフィールド型の授業を取り入れ体験的に学習している(資料５－６－①－５，６)。

資料５－６－①－５

シラバス（地理情報学）

シラバス: 地理情報学

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-22 19:35:25		初版(Copy from subject_0888)
2	2011-03-22 19:35:33		

Syllabus ID
3428

Subject ID
989

Version
2

作成者

授業科目名
地理情報学

担当教員
佐藤 崇徳

補助教員

対象学年
学年を問わない

単位数
2

必修/選択
選択

開講時期
前期

授業区分

社会科学等区分	人文・社会科学
基礎能力区分	情報科学
工学基礎区分	情報・論理系
工学専門区分	専門工学系(情報工学)

授業形態
講義および実習

実施場所
専攻科視聴覚教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
本授業科目は，社会事象に対する地理的な見方・考え方の重要性・社会的有用性についての認識を深め，そのような地理的手法を具現化したものとしての地図を中心に，地理的情報に関する基礎知識および扱い方について理解を深めることを目的とする。地理的な見方・考え方は地域問題の解決のための政策立案や企業活動(例えば，店舗の立地戦略)など現代社会の様々な局面で取り入れられていること，また，地理情報のデジタル化および地理情報システム等の技術開発によって地理情報の一層の活用が可能となり，行政，産業社会や市民生活に利便をもたらしていることについて，授業の随所で触れていく。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
高等専門学校本科または高等学校における地理の授業を履修していることが望ましい。

学習・教育目標

Weight	目標
◎	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
○	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
-	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
-	D 国際的な受信・発信能力の養成
-	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

資料５－６－①－５の続き

A.社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

目標達成への実践指針

- A-1 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
- A-2 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
- A-3 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
- A-4 これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

授業目標

地理的な見方・考え方と，そこにおける地図の重要性について理解し、自分なりに考えて説明できる。
インドアワークとフィールドワークとによって地域を読み解く地理的手法を修得し，実践できる。
地理情報の適切な取得方法・利用方法および地理情報技術の重要性を理解し，自分なりに考えて説明できる。

授業計画

（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	地理的考え方と地図	地図にするとわかる，国土地理院の地図	
2	地理的考え方と地図	さまざまな地図，主題図で表現する	
3	地理的考え方と地図	地理学的手法と主題図	
4	地域景観を読み解く	三島の自然環境と都市内部構造	
5	地域景観を読み解く	【巡検】三島の自然環境と都市内部構造	
6	地理情報システム	地理情報のデジタル化，GISの概要	
7	地理情報システム	GISの利用例，DEMによる地形の3次元表現	
8	地理情報システム	GPS，位置情報のもつ可能性	
9	地理情報の取得・利用	測量（1）空中写真	
10	地理情報の取得・利用	測量（2）基準点測量	
11	地理情報の取得・利用	丸い地球と平面の地図 ― 測地系・投影法	
12	地理情報の取得・利用	空からの眼 ― リモートセンシング	
13	地理情報の取得・利用	リモートセンシングデータ解析の実際	
14	地理情報の取得・利用	地図の精度，縮尺，世界の地図事情	
15	まとめ	授業全体の総括	

課題

授業の進行に応じて主題図作成，レポート提出等の課題を課す。具体的な内容や提出方法等については，授業のなかで指示する。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準

(1) 地理学的な見方・考え方における地図の果たす役割についての理解度，(2) 巡検を通じてインドアワークとフィールドワークでの地域を読み解く地理学的手法を修得しているかどうか，(3) 主題図作成作業を通じて地理情報の適切な取得方法および利用方法，地理情報技術の重要性を理解しているかどうか の3点について，課題（レポート，地図等の作成）によって判定する。(100%)
ただし，巡検への参加は必須とする。（特別な事情がある者は，担当教員へ相談すること）

教科書等

教科書は使用しない。適宜，プリントを配布する。国土地理院1:25000地形図「三島」を各自で用意すること。

先修科目

なし

関連サイトのURL

http://blackb.numazu-ct.ac.jp/

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－６－①－６

地理情報学における巡検の資料

地理情報学

三島巡検 資料集





歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」より
保永堂版「三島 朝霧」（上）
隷書版「三嶋」（左）
出典：『広重の東海道五拾三次旅景色』（人文社）

資料５－６－①－６の続き

三島溶岩流の露出地点と湧水地点

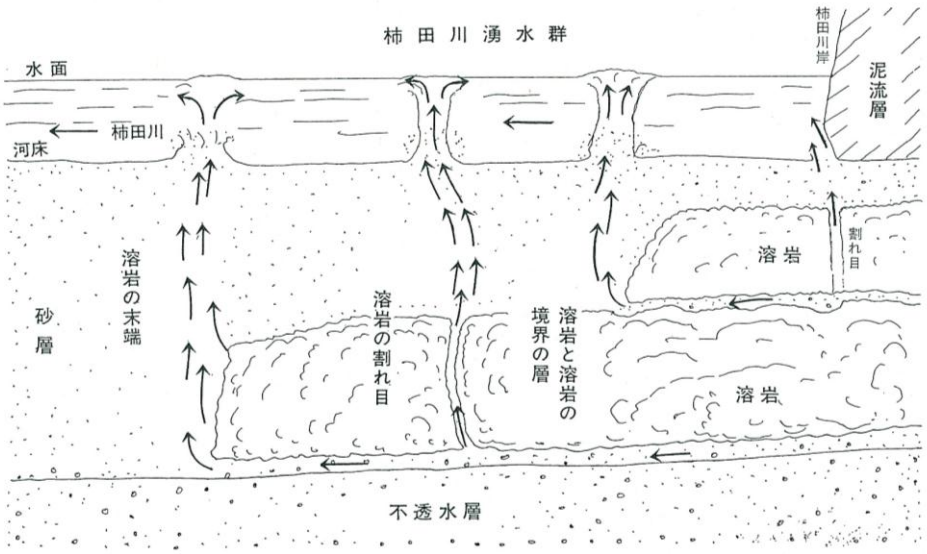


三島溶岩流（今から約１万年前に富士山より流出）が地表で見られる地点を△，おもな湧水地点を●で表示している。ベースマップには国土地理院刊行の「数値地図25000（地図画像）」を使用。縮尺は約 1:40000。

資料５－６－①－６の続き

湧水のメカニズム ― 柿田川の湧水縦断面

出典：渡辺（1999）



三島市が進める「街中がせせらぎ」事業

「広報みしま」No. 892（2002年５月１日発行）より

街中がせせらぎ事業 ―かわら版 No. 1―

「歩きたい街」、「住みたい街」を目指す“街中がせせらぎ事業”

景観整備事業がスタートしました

●ＪＲ三島駅南口駅前広場



駅前広場の整備の１年目で、中央部分の整備を行いました。シンボルツリーの欅（けやき）など中高木で緑を増やし、夏の日差しをさえぎる快適さを創出しています。また、湧水をイメージした水のモニュメントやせせらぎで「水の都」を演出しました。水飲み場も設置し、あわせて全国で初めて駅前に水琴窟（すいきんくつ）を設置しましたので、音色を聞いてみてください。また、ＪＲ三島駅から楽寿園、源兵衛川、宮さんの川への誘導路として、楽寿園駅前口を石貼りで化粧しましたので、一度足を運んでみてください。

●鎌倉古道（広瀬通り）

浦島神社から宮さんの川への鎌倉古道整備の初年度事業で広瀬橋（源兵衛川にかかっている橋）周辺を石貼りと土色のアスファルトで整備しました。歴史的街道として今後整備を進めていきます。

●桜川プロムナード整備（水上通り対岸）



石貼りと土色のアスファルト整備を行いました。水辺に親しんでいただくためデッキを作りましたのでご利用ください。また、この道は桜川の散策路としたので、石貼りでハンプというスロープを設置してあります。これは、車がゆっくり走ってもらうための仕掛けです。皆さんのご協力をお願いします。

この事業は、企画段階から市民の皆さんと事業化に向けて話し合ってきました。後のフォローアップのため、「状況報告会」を開催し、事業の進捗、ご意見等の話し合いを現在も続けています。ぜひ、ご参加ください。

５月の状況報告会　５月14日(火)午後７時から　三島商工会議所（一番町市民文化会館前）

平成14年度事業内容

◎**工事箇所**　ＪＲ三島駅南口駅前広場、鎌倉古道（広瀬通り）の継続と鎌倉古道（赤橋通り）、御殿川（大通り北）

◎**実施計画を市民の方と協議する箇所**　源兵衛川、御殿川、宮さんの川、四ノ宮川と鎌倉古道（桜小路）、水辺のインフォメーション

街中がせせらぎ事業は、市民の皆さんのご意見、ご提案が大事だと考えています。今後の整備に生かせるようFAX、メール等何でも結構ですので、お便りをお待ちしています。

問合せ　せせらぎ事業推進室（☎983－2648、FAX973－7241、メール：seseragi@city.mishima.shizuoka.jp）

（出典　授業配布資料）

（分析結果とその根拠理由）

教育の目的に照らして，授業形態を講義，演習，実習，実験（研究）に分類し，適切な割合で配置して教育課程を構成している。また，英語による双方向コミュニケーション能力の育成や地域との関りと関連付けて地理情報の読み取りについて学習するフィールドワークの実施など，学習指導法の工夫もなされていると判断する。

観点５－６－②：教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

専攻科におけるシラバスの作成および開示については,専攻科担当教員規程(資料５－６－②－１)に基づいて行われている。

資料５－６－②－１

専攻科担当教員規程

○沼津工業高等専門学校専攻科担当教員規程
（平成 15.3.12 制定）
最終改正　平成 19.3.14

（趣旨）

第１条　この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科担当教員の資格、認定等に関し必要な事項について定めるものとする。

（担当教員の資格）

第２条　専攻科担当教員の資格は、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程（平成３年大学評価・学位授与機構規程第４号）第 2 条第１項第 4 号に規定する資格を有し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

（担当教員の認定）

第３条　専攻科担当教員の認定は、専攻科担当教員会議の審査に基づき校長が行う。

２　前項の審査は、別記様式の教員個人調書により行うものとする。

３　第１項の認定は、毎年度、実施するものとする。

（研究指導教員）

第４条　校長は、専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに沼津工業高等専門学校学則第４６の４に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うため、専攻科担当教員である教授又は准教授のうちから、当該学生ごとに研究指導教員を命ずる。

２　校長は、前項の研究指導教員を命ずるに当たっては、専攻科担当教員会議の意見を聴くものとする。

（教育実施関係書類の提出）

第５条　専攻科担当教員は、各学期の開始前の所定の期日までに別に定める教育実施計画関係書類を、各学期の終了前の所定の期日までに別に定める教育実施報告関係書類を作成し、専攻科長に提出しなければならない。

（細目）

第６条　この規程に定めるもののほか、専攻科担当教員に関し必要な細目は、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１５年４月１日から施行する。

２　この規程施行の際現に専攻科担当教官である者は、この規程により、認定されたものとみなす。

３　この規程施行の際現に教授又は助教授である研究指導教官は、この規程により、命じられたものとみなす。

附　則

この規程は、平成１６年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

シラバスの作成の詳細に関しては,「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」および「その付録」（資料５－６－②－２，３）に規定され，Syllabus Id・Subject Id・Version・授業科目名・担当教員・対象学年・単位数・必修／選択・開講時期・授業区分・授業形態・実施場所・授業の概要・準備学習・学習・教育目標・授業目標・授業計画・課題・学習・教育目標の達成度検査・評価方法と基準・教科書等・先修科目・関連サイトのURL・備考の各項目からなっており，カリキュラム中での位置付けとしての学習・教育目標との関連性や準学士課程との連携を明記すると共に，各週の授業計画が記載されている（資料５－６－②－４）。

科目担当教員が作成したシラバスは，本校のウェブサイト上に公開され，受講生が閲覧し学習計画上の資料として常に活用できるように運用されている。各学期の初回授業はガイダンス週と定め，担当教員は学生に配布したシラバスに基づき，授業概要・授業目標・評価方法等についてのガイダンスが実施されている。

資料５－６－②－２

専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則

○沼津工業高等専門学校専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則
（平成 15.3.12 制定）
最終改正　平成 16.4.14
（趣旨）
第１条　この細則は、沼津工業高等専門学校専攻科の学生に対する教育を実施するに当たって、作成すべき書式に関し必要な事項について定めるものとする。
（授業実施関係書類の作成）
第２条　専攻科担当教員は、各学期において開講する授業科目の授業の実施に当たって、当該授業科目の内容、実施方法等を記載した別記様式第１号の授業計画書（以下「シラバス」という。）を当該学期開始前の所定の期日までに作成し、専攻科長に提出しなければならない。
２　前項の授業を実施した場合は、当該実施状況、評価方法等を記載した別記様式第２号の授業完了報告書を当該学期終了前の所定の期日までに作成し、専攻科長に提出しなければならない。
（研究指導実施関係書類の作成）
第３条　研究指導教員は、指導学生ごとに、研究目標、指導方針等を記載した別記様式第３号の研究指導計画書を当該学期開始前の所定の期日までに作成し、専攻科長に提出しなければならない。
２　前項の研究指導を実施した場合は、研究の実施時間、達成状況等を記載した別記様式第４号の研究指導報告書を当該学期終了前の所定の期日までに作成し、専攻科長に提出しなければならない。
（公開・開示）
第４条　次の各号に掲げる書類の公開又は開示は、同号の定めるところによる。
(1)　第２条第１項に規定するシラバス　本校が管理するホームページにおいて公開
(2)　前条に規定する研究指導計画書及び研究指導報告書　専攻科が管理するホームページにおいて開示

（細目）
第５条　この細則に定めるもののほか、専攻科の教育実施に伴う作成書式に関し必要な細目は、別に定める。
附　則
この細則は、平成１５年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成１６年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

資料５－６－②－２

様式第１号　授業計画書
様式第２号　授業完了報告書
様式第３号　研究指導計画書
様式第４号　研究指導報告書

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－６－②－３

「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録

付録 A.　書式項目
1 号書式(シラバス)
2 号書式(授業完了報告書)
付録 B.　書式項目
3 号書式(研究指導計画書)
4 号書式(研究報告書)
「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」へ戻る。
「専攻科担当教員規程」へ戻る。

・ 1 号書式(シラバス)の項目

1. 科目名：
   Subject:
2. 担当者名:
   Instructor：
3. 対象学年：
4. 単位数：
   Credits:
5. 必修／選択:
6. 開講時期（前期/後期）
7. 授業区分
   i. 工学専門区分(必修となる分野区分/学位分野)：
   ii. 基礎能力(数学、自然科学、情報技術)：
   iii. 基礎工学区分：
   iv. 社会科学等(人文・社会科学、語学)：
8. 授業形態(講義、実験、演習等)：
   Mode：
9. 実施場所：
   Room:
10. 授業の概要(本教科の工学的、社会的、あるいは産業的意味):
    Object/Substance/etc.:
11. 準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識等):
    Requirements:
12. 教育目標(◎/○の選択)：A ， B ， C ， D 、E
13. 授業目標:
    Aim:

資料５－６－②－３の続き

14. 授業計画 ： メインテーマ,サブテーマ,　課題
    1. 第 1 回
       1st
    2. 第 2 回
       2nd
    3. 第 3 回
       3rd
    4. 第 4 回
       4th
    5. 第 5 回
       5th
    6. 第 6 回
       6th
    7. 第 7 回
       7th
    8. 第 8 回
       8th
    9. 第 9 回
       9th
    10. 第 10 回
        10th
    11. 第 11 回
        11th
    12. 第 12 回
        12th
    13. 第 13 回
        13th
    14. 第 14 回
        14th
    15. 第 15 回
        15th
15. 課題:
    Home Work:
16. 評価方法と基準(学習目標評価についても記述する.):
    Evaluation of Performance:
17. 教科書等:
    Required Text and Recommended References:
18. 関連科目:
    Related Subject:
19. 備考:
    Notes:
20. 関連サイトの URL:

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－６－②－４

シラバス（マルチメディア・ネットワーク）

シラバス: マルチメディア・ネットワーク

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-09 12:13:51		初版(Copy from subject_0848)
2	2011-03-09 12:14:13	芳野	テーマ2については、このあと改訂の予定です。
3	2011-03-09 12:19:06	芳野	
4	2011-03-24 12:33:22	芳野	
5	2011-03-25 13:07:08	芳野	
6	2011-03-25 13:09:33	芳野	最新版です。

Syllabus ID
3489

Subject ID
948

Version
6

作成者
芳野

授業科目名
マルチメディア・ネットワーク

担当教員
芳野 恭士

補助教員
舟田 敏雄

対象学年
学年を問わない

単位数
2

必修/選択
選択

開講時期
前期

授業区分

社会科学等区分	―
基礎能力区分	情報科学
工学基礎区分	情報・論理系
工学専門区分	工学共通基礎

授業形態
講義

実施場所
専攻科棟西視聴覚室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
インターネットを利用した情報の送受信は、現代の科学教育と研究に欠かせないものとなっている。本科目では、インターネットを利用する際のネチケットや情報倫理について学習した後、実際に科学情報を文献検索サイト及び特許庁特許電子図書館等を利用して収集することを実施する。中道教員、竹口教員を協力教員とする。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
基礎的な情報科目

学習・教育目標

Weight	目標
－	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
◎	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
－	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
○	D 国際的な受信・発信能力の養成
－	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

資料５－６－②－４の続き

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

目標達成への実践指針

- B-1 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
- B-2 ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
- B-3 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
- B-4 自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

授業目標

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。

授業計画

（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	情報リテラシー(1)	E-mail, Web, SCS（舟田担当）	
2	情報リテラシー(2)	ネットワークでの礼儀作法（舟田担当）	
3	情報リテラシー(3)	高度情報システム（舟田担当）	
4	情報リテラシー(4)	情報システムの活用(1)（中道担当）	
5	情報リテラシー(5)	情報システムの活用(2)（中道担当）	
6	情報リテラシー(6)	情報システムの活用(3)（中道担当）	
7	情報リテラシー(7)	情報システムの活用(4)（中道担当）	
8	マルチメディア・ネットワーク技術(1)	ネットワークを利用した文献等情報収集（竹口担当）	
9	マルチメディア・ネットワーク技術(2)	ネットワークを利用した文献等情報収集（竹口担当）	
10	マルチメディア・ネットワーク技術(3)	ネットワークを利用した文献等情報収集（竹口担当）	
11	マルチメディア・ネットワーク技術(4)	ネットワークを利用した特許情報収集（芳野担当）	
12	マルチメディア・ネットワーク技術(5)	ネットワークを利用した特許情報収集（芳野担当）	
13	マルチメディア・ネットワーク技術(6)	ネットワークを利用した特許情報収集（芳野担当）	
14	マルチメディア・ネットワーク技術(7)	ネットワークを利用した特許情報収集（芳野担当）	
15	マルチメディア・ネットワーク技術(8)	ネットワークを利用した特許情報収集（芳野担当）	

課題

それぞれのテーマでの課題のレポート提出

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準

情報リテラシー、高等教育と技術者教育、マルチメディア・ネットワーク技術を利用した文献検索と特許検索について、課題ごとに提出されるレポートをもって成績を評価する。

教科書等

特になし

先修科目

基礎的な情報科目

関連サイトのURL

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

平成22年度においてシラバスの活用状況を専攻科課程の学生にアンケート調査し（資料５－６－②－５），結果を集計した（資料５－６－②－６，７）。多くの専攻科生が科目の選択，成績の評価方法や基準等を知るためにシラバスを利用している。また，76%の学生が授業の予習に際してもシラバスを利用しており，自己学習の資料としても有効に活用されている。

資料５－６－②－５

目的の周知度等調査アンケートの質問［専攻科課程学生用］

平成２３年２月 14 日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【専攻科生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し専攻科研究指導担当教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」と「専攻科の目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。

＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている　４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。

＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について知っていますか。
（設問１１）専攻科の修了要件を知っていますか。

＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）専攻科の授業科目は自学自修を含め 45 時間の学修で 1 単位とすることを知っていますか。

＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）自学自修を実行していますか。

＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料５－６－②－６

シラバスの活用状況に関する調査アンケートの集計結果（専攻科生用）

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

沼津工業高等専門学校

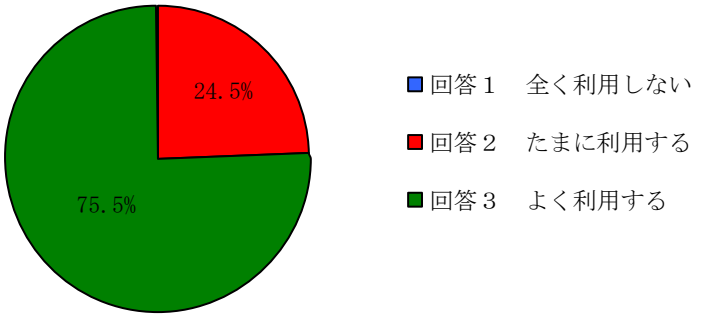
専攻科			回答数: 55										
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
回答 1	0.0%	1.8%	3.6%	1.8%	0.0%	0.0%	23.6%	5.5%	30.9%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%
回答 2	34.5%	36.4%	36.4%	32.7%	21.8%	24.5%	52.7%	25.5%	54.5%	45.5%	41.8%	21.8%	45.5%
回答 3	30.9%	47.3%	45.5%	49.1%	27.3%	75.5%	23.6%	69.1%	14.5%	52.7%	58.2%	76.4%	52.7%
回答 4	34.5%	14.5%	14.5%	16.4%	50.9%								
回答数	55	55	55	55	55	53	55	55	55	55	55	55	55

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

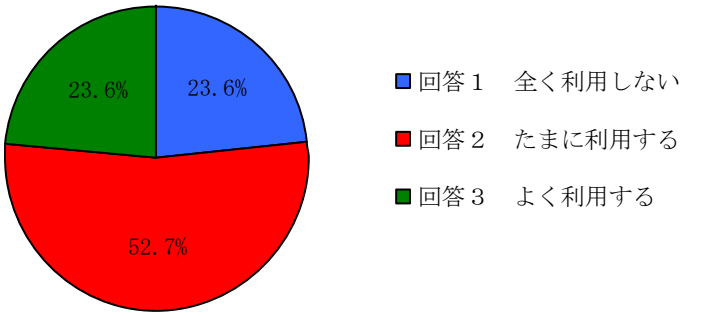
資料５－６－②－７

シラバスの活用状況に関する調査の専攻科生の回答

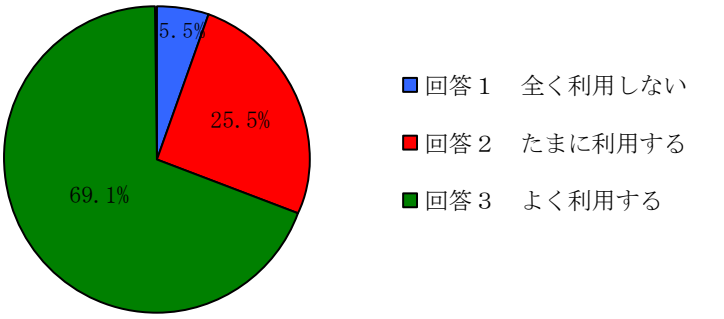
設問６　科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。



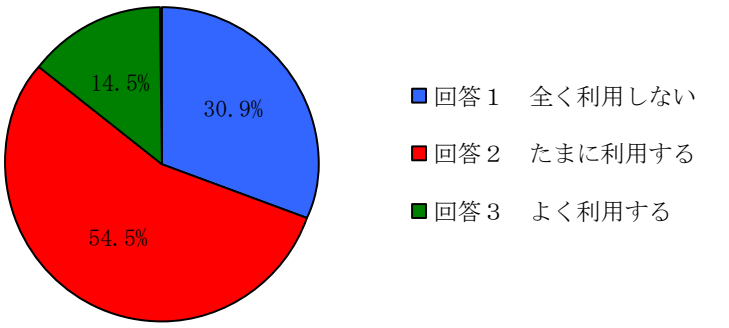
設問７　授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。



設問８　成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。



設問９　上記の目的以外にシラバスを利用していますか。



（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスの作成方法については細則に定め，授業の概要・形態・目標・計画，評価方法と基準，関連科目などが明記されたシラバスがウェブ上で管理され，常に閲覧できる形で提供されている。また調査アンケートの集計結果から，科目の選択，成績の評価方法や基準等を知るため，さらには授業の予習に際しシラバスが適切に利用されている。

以上により，学生が受講計画を立てる上で必要な情報がシラバスとして作成され，適切に活用されていると判断する。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

専攻科実験の中では，異なる専攻分野の学生と共同作業でシステム開発を行う複合実験を行っている（前出資料５－５－③－５～７）。また，専攻科実験ITM機械工学ではPBL方式により小型風洞の設計・製作や材料強度学・信頼性工学に関する金属材料・脆性材料の硬さ試験などに関する実験を学生が企画・立案し，実験の実施・結果分析を行っている（資料５－６－③－１，２）。これらの実験を通して，工学的な解析・分析力，及びそれらを創造的に統合する能力の養成が図られている。

資料５－６－③－１

シラバス（専攻科実験 ITM 機械工学）

シラバス: 専攻科実験I ITM機械工学

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-26 14:27:50		初版

Syllabus ID
3491

Subject ID
907

Version
1

作成者

授業科目名
専攻科実験I ITM機械工学

担当教員
村松 久己

補助教員

対象学年
第1学年

単位数
2

必修/選択
必修

開講時期
前期

授業区分

社会科学等区分	－
基礎能力区分	－
工学基礎区分	－
工学専門区分	－

授業形態
実験

実施場所
機械工学科棟1Fの流体工学実験室と空気圧工学実験室、機械工学科棟4Fのコンピュータ演習室、燃焼工学実験室、E科D科C科棟の各実験室

授業の概要（本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味）
機械エンジニアが設計・製作した機械装置やシステムの特性は実験やシミュレーションで明らかにされる。作業に入る前に、目的を明確にして方法を企画・立案した後に、評価を予測することは大切な作業である。そこで前期の専攻科実験Ⅰの始めに、企画・立案の方法を学ぶ。さらに、流体工学、メカトロニクス、材料強度学・信頼性工学および伝熱工学の実験テーマにおいて、企画・立案・実施・評価を行い、機械工学で必要な専門知識を修得する。加えて、専攻科研究に関するホームページを作成し、情報発信する。総合実験では、化学工学、電気工学、計測制御工学の基礎知識を修得するとともに、機械工学以外のコースの学生と共同して、問題解決の能力を養う。

準備学習（この授業を受講するときに前提となる知識）

学習・教育目標

Weight	目標
－	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
○	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
○	D 国際的な受信・発信能力の養成
○	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力

目標達成への実践指針

資料５－６－③－１の続き

- C-1 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
- C-2 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
- C-3 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
- C-4 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

授業目標

C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。各実験テーマの目的にあった実験をグループまたは個人単位で企画・立案し、適切な実験方法を用いて実験を遂行できること、実験結果に対する適切な評価ができること、問題点の改善や解決を考えることができること、実験結果に対する考察を行ったレポートが作成できること、実験に関する安全性、経済性、環境のいずれかを検討した内容をレポートに記述することができることを目標とする。

授業計画

（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	ガイダンス、安全教育、企画・立案	実験テーマ・実験の進め方の説明、冊子を用いた安全教育、企画・立案とは何か	
2	企画・立案	発想法、企画書の形、企画書の作成、レポート1	
3	メカトロニクス	自律型ロボットの製作と制御（実験の企画・立案、制御用プログラムの作成）	
4	メカトロニクス	自律型ロボットの製作と制御（実験、結果の整理と考察）、レポート2	
5	ホームページの作成	ホームページを調査・企画・立案し、作成の練習	
6	ホームページの作成	ホームページの作成、公開の準備、レポート3	
7	流体工学	風洞の設計・製作（企画・立案、図面作成、部品加工）	
8	流体工学	風洞の性能評価（組み立て、測定器の練習、実験・結果整理）、レポート4	
9	材料強度学・信頼性工学	金属材料の機械的性質のばらつき	
10	材料強度学・信頼性工学	脆性材料の破壊じん性値測定、レポート5	
11	伝熱工学	熱交換器の製作と性能評価（設計理論、設計と製作）	
12	伝熱工学	熱交換器の製作と性能評価（設計と製作、実験と評価）、レポート6	
13	総合実験計測制御工学	Lab VIEWによる計測機器の制御、レポート7	
14	総合実験電気工学	高電圧実験、レポート8	
15	総合実験化学工学	定性分析、レポート9、16回にレポートの講評と理解度チェック、アンケートと自己評価	

課題

各テーマで課題が与えられるので、十分考察してレポートに解答すること。提出方法：レポートを複数部（紙版）作成し、実験を実施した教員に提出する。出典：実験を実施する教員が実験指導書や資料をハンドアウトする。提出期限：次のメインテーマの実験実施日までに提出する。提出場所：空気圧工学実験室、新冨教員室、松田教員室。オフィスアワー：実験を実施した教員の授業のない時間とする。総合実験では実験を実施した教員が指示する。

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準

評価方法：レポートを作成して、問題解決への実験的なアプローチができるかどうかをレポート評価により判断する。さらに、レポートにはコンピュータを用いデータ処理した図表や視覚的に理解しやすい実験装置や結果の図を効果的に配置し、明解な文章で結果を説明し考察していることなどを評価基準とする。レポートの内容等に関連した筆答試験を行い評価する。また、実験を実施した教員が実験レポートの内容を評価し、全テーマのレポート評価点の平均で評価する。 総合評価基準：レポート評価60%、筆答試験35%、自己評価5%、全体の60%以上を合格とする。

教科書等

以下の先修科目の教科書、実験指導書と配布資料など

先修科目

水力学、プログラム演習、メカトロニクス、材料力学、伝熱工学、機械工学実験、化学、電気工学

関連サイトのURL

日本機械学会 http://www.jsme.or.jp/publish/yoko/indext.htm

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－６－③－２

専攻科実験 ITM 機械工学の紹介ウェブページ

沼津高専　専攻科
機械・電気システム工学専攻機械コースの紹介

専攻科実験

Top
専攻科実験
企画・立案の方法
メカトロニクス
風洞の設計製作
材料学・信頼性工学
総合実験
専攻科研究

本科で学んだ基礎知識を用いて，6テーマの実験を紹介しています．実験では機械工学に関係した4つのテーマと電気工学，電子制御工学の2つのテーマを扱います．各テーマの実験期間は，2週間に1テーマのペースで実施しています．

実験の目的は，工学的な解析・分析力，及びそれらを創造的に統合する能力を身につけることです，機械エンジニアにとって重要な作業である企画・立案を取り入れた実験テーマです．

実験テーマ1　企画・立案

内容

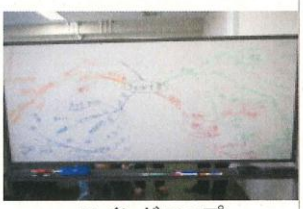
本実験は，ブレインストーミングによる発想法，企画書の書き方などの企画・立案の手法を学びました．

実施日

4月16日～4月23日

Keyword

ブレインストーミング，マインドマップ，KJ法



マインドマップ

リンク
関連ホームページ
○○○ホームページ
○○○ホームページ

実験テーマ2　メカトロニクス

内容

メカトロニクスはセンシング，アクチュエータ，制御の技術が複合された分野です．本実験は，他の教育機関で用いているレゴマインドストームNXTを用いて，ハードとソフトに対して企画・立案・実施を行い，メカトロニクスについて学びました．

実施日

4月26日～5月17日

Keyword

レゴマインドストームNXT，プログラミング，教示



レゴマインドストームNXT

実験テーマ3　風洞の設計製作

内容

風洞は，航空機や自家用車のモデル実験に利用されています．本実験は，企画・立案を行い，小型な風洞を設計・製作し，性能評価を行いました．風洞の基礎知識，数値シミュレーションおよび各種測定機器の使用法を学びました．

実施日

5月24日～6月7日



製作した風洞

（出典　本校公式ウェブサイト）

さらに，必修科目として専攻科実習を設け，インターンシップを義務付けている（資料５－６－③－３）。主に夏期休業中に実施されているが，産業の現場における就労体験を通して，学修した専門知識の創造的な活用方法について主体的に体験する場として活用されている。昨年度は，JICAケニア事務所におけるインターンシップやJODCを経由したフィリピンの日系企業でのインターンシップへそれぞれ１名が参加したことに併せ，高専機構主催第３回「海外インターンシップ・プログラム」へも１名が参加するなど，様々な機会を生かして積極的に海外経験を積んでいる。

資料５－６－③－３

シラバス（専攻科実習）

シラバス: 専攻科実習

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-24 12:30:35		初版(Copy from subject_0806)
2	2011-03-24 12:30:58		

Syllabus ID
3472

Subject ID
906

Version
2

作成者

授業科目名
専攻科実習

担当教員

補助教員

対象学年
学年を問わない

単位数
2

必修/選択
必修

開講時期
通年

授業区分

社会科学等区分	－
基礎能力区分	－
工学基礎区分	－
工学専門区分	－

授業形態
実習

実施場所
受け入れ先企業等

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
企業等において2週間の実習を行うものである。必要な事前・事後学習も行う。
目的は、企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことである。また、副次的に、学問の意義の確認や、職業観の醸成などに効果がある。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
守秘義務など工学倫理の基本を理解していること。

学習・教育目標

Weight	目標
◎	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
◎	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成
◎	D 国際的な受信・発信能力の養成
◎	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

A.社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力
D.コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力
E.産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画

資料５－６－③－３の続き

的に進めることができる能力と姿勢

目標達成への実践指針

- A-1 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
- A-2 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
- A-3 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
- A-4 これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。
- B-1 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
- B-2 ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
- B-3 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
- B-4 自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。
- C-1 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
- C-2 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
- C-3 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
- C-4 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。
- D-1 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
- D-2 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。
- E-1 指定された期限内に、課題を提出できる。
- E-2 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
- E-3 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。
- E-4 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

授業目標

企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことを目的とする。

また、以下の学習・教育目標の達成を目指す。

A.社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。(工学倫理の自覚と多面的考察力)

1. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
2. 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
3. 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
4. これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し、工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

B.数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。(社会要請に応えられる工学基礎学力)

1. 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。
2. ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。
3. 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。
4. 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。

C.工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力を身につける。(工学専門知識の創造的活用能力)

1. 工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。
2. 自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。
3. 自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。
4. 社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく、構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。

D.コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力を身につける。(国際的な受信・発信能力)

1. 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。
2. 自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。

E.産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢を身につける。(産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力)

1. 指定された期限内に、課題を提出できる。
2. 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。
3. 自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。
4. 自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。

資料５－６－③－３の続き

※授業計画において、第何回という表記は意味がありません。

授業計画
（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	概要	このシラバスは、沼津工業高等専門学校専攻科実習規則をシラバスの形式に書き直したものである。	
2	目的	専攻科実習は、企業等における実習を通じて得た結果を、専攻科研究の遂行に生かすことを目的とする。	
3	計画及び実施	専攻科実習は、研究指導教員において計画し、校長の許可を得て履修するものとする。	
4	受入先への依頼	受入先への依頼は、校長が行う。	
5	時期及び期間	原則として夏季休業期間中の2週間にわたり履修するものとする。。	
6	経費	実習生の負担とする。	
7	研究指導教員	研究指導教員は、専攻科実習を円滑に実施するため、その実施責任者となり、次の業務を行う。 ・専攻科実習生の受入先の選定及び配属先の決定 ・専攻科実習生の受入先における実習指導者の指定 ・専攻科実習テーマ、内容等に関する指導・助言 ・専攻科実習における安全管理（傷害保険への加入を含む。）、就業心得等の事前指導 ・専攻科実習中に発生した事故又は異常事態の処置及び校長への報告 ・専攻科実習の目標の設定 ・専攻科実習の評価基準の設定 ・その他専攻科実習に関し、必要な事項	
8	受入先選定上の留意点	研究指導教員は、専攻科実習生の受入先を選定するに当たっては、次の各号のーに該当する場合は、選定しないものとする。 ・工学倫理上問題があるとみなされる企業 ・著しく危険を伴うもの ・宿舎、交通費等専攻科実習生の負担が著しいもの ・就職活動の一部とみなされるもの	
9	事前の届出	研究指導教員は、専攻科実習の履修開始前に、別記様式第1号の専攻科実習開始届を、専攻科長を経て校長に提出し、許可を得なければならない。	
10	実地指導	研究指導教員は、専攻科実習生に対し、必要に応じ、受入先等において実地指導を行うものとする。	
11	報告	研究指導教員は、専攻科実習生に対し、必要に応じ、受入先等において実地指導を行うものとする。	
12	成績評価と単位認定	所定の専攻科実習を終了した専攻科実習生の成績評価は、第7条7号に定める評価基準に基づき、研究指導教員が総合的に判断し評価する。	
13	事務	専攻科実習に関する事務は、学生課において処理する。	
14	細目	この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な細目は、別に定める。	
15	その他	この規則は、平成15年　5月14日から施行する。	

課題
実習に応じて研究指導教員が設定する。
オフィスアワー：研究指導教員による

学習・教育目標の達成度検査
1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準
専攻科実習規則第7条7号に定める評価基準に基づき、研究指導教員が判断し評価する。

教科書等

先修科目
工学倫理（講義課目）または工学倫理（短期集中）の先修が必須である。

関連サイトのURL
http://user.numazu-ct.ac.jp/~mochizuki-k/jugyo/intern/index.html （沼津高専のインターンシップ）

備考
1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

校内の学習環境以外に学外での就労体験を通した学修が活発である。これらのことから，学内外を問わず創造性を育むための教育方法が工夫されており，また，インターンシップが実践的・創造的な技術者としての素養を涵養する場として十分に活用されていると判断する。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科課程では，語学教育として技術英語Ⅰ・Ⅱ，英会話Ⅰ・Ⅱ，英作文Ⅰ・Ⅱ，総合ドイツ語Ⅰ・Ⅱ等を用意し４単位以上の選択を，人文・社会科学教育として歴史文化論，地球環境学，工学倫理，エネルギと社会，地理情報学を用意し工学倫理を含めて６単位以上の選択を，学習保証時間として語学，人文・社会科学で125時間以上を課している（資料５－７－①－１）。地球環境学では，静岡県立大学環境科学研究所から複数の講師を招き，オムニバス形式で環境対応技術と環境と生体との関係について講義している。（資料５－７－①－２）。

資料５－７－①－１

専攻科授業科目表

別表第４

	授業科目	単位数	前期	後期	備考
	専攻科研究	10	5	5	必修　－習得条件－ 研究：１年次前・後期各２単位 演習：１年次前・後期各１単位 実験：１年次、実習：１／２年次可
	専攻科実験	4	2	2	
	専攻科演習	4	2	2	
	専攻科実習	2	2		
語学	技術英語Ⅰ	1	1		４単位以上を選択
	技術英語Ⅱ	1		1	
	英作文Ⅰ	1	1		
	英作文Ⅱ	1		1	
	英会話Ⅰ	1	1		
	英会話Ⅱ	1		1	
	総合ドイツ語Ⅰ	1	1		
	総合ドイツ語Ⅱ	1		1	
人文・社会科学	歴史文化論	2		2	(1)工学倫理を含めて６単位以上を選択 (2)語学と人文・社会科学で、125時間以上の学習保証時間が必要
	地球環境学	2		2	
	工学倫理	2		2	
	エネルギと社会	2	2		
	地理情報学	2	2		
基礎能力	現代物理学	2		2	(1)数学、自然科学、情報技術を含む12単位以上、125時間以上の学習保証時間が必要 (2)総合システム工学要件にしたがって選択
	量子力学	2	2		
	熱統計物理学	2		2	
	応用数学Ⅰ	2	2		
	応用数学Ⅱ	2		2	
	応用数学Ⅲ	2	2		
	マルチメディア・ネットワーク	2	2		
	化学データ解析	2	2		
	材料強度論	2	2		
	結晶化学	2		2	
	生物化学工学	2	2		
機械工学系科目	流体力学	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	精密加工学	2		2	
	燃焼工学	2	2		
	ロボット制御工学	2	2		
	システム制御工学	2	2		
	振動制御工学	2		2	
	適応制御工学	2		2	
	流体エネルギ変換工学	2		2	
	音響工学	2		2	
	表面工学	2	2		
	工業材料	2		2	
電気電子工学系科目	電気機器学特論	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	パワーエレクトロニクス特論	2	2		
	電力制御機器工学	2	2		
	電磁エネルギー変換工学	2	2		
	集積回路設計	2		2	
	電磁波工学Ⅰ	2	2		
	電磁波工学Ⅱ	2		2	
	電子デバイス	2		2	
	電気電子材料	2	2		
	信号処理	2	2		
	通信処理	2	2		
情報工学系科目	ネットワーク	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	計算機アーキテクチャー	2		2	
	組込みソフトウェア	2	2		
	アルゴリズムとデータ構造	2	2		
	有限オートマトンと言語理論	2	2		
	プログラム言語	2	2		
	計算機システム	2	2		
	オブジェクト指向プログラム設計	2	2		
	画像処理工学	2	2		
	化学情報学	2	2		
	計算力学	2	2		
	計算流体力学	2		2	
化学生物工学系科目	有機材料設計	2		2	(1)総合システム工学要件にしたがって選択 (2)取得希望学位の分野別区分にしたがって選択
	環境安全工学	2	2		
	有機化学	2		2	
	微生物工学	2		2	
	食品保存工学	2		2	
	生物生産工学	2		2	
	材料物理化学	2		2	
	反応速度論	2	2		
授業科目合計単位数		144	77	67	

(50)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－７－①－２

シラバス（地球環境学）

シラバス: 地球環境学

改訂記録

版数	作成日・改訂日	作成者	改訂内容
1	2011-03-09 12:15:29		初版(Copy from subject_0861)
2	2011-03-09 12:15:54	芳野	このver.は昨年度のものです。今年度の内容変更は、後日行います。
3	2011-03-28 16:03:30	芳野	最近ver.

Syllabus ID
3526

Subject ID
961

Version
3

作成者
芳野

授業科目名
地球環境学

担当教員
芳野 恭士

補助教員
渡辺 敦雄

対象学年
学年を問わない

単位数
2

必修/選択
選択

開講時期
後期

授業区分

社会科学等区分	ー
基礎能力区分	自然科学
工学基礎区分	社会・技術連関系
工学専門区分	工学共通基礎

授業形態
講義および学生発表

実施場所
専攻科棟1階視聴覚室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)
地球温暖化に代表される地球環境問題とエネルギー・食糧資源をはじめとする資源の枯渇の問題は、21世紀の人類の経済発展や生活レベルの向上を展望する上での、最も大きな制約事項となっている。 人類がこの問題に対する認識を共有し、対応することが重要である。とりわけ、エンジニアとして、技術開発、製品の設計・開発・生産・管理に関わることになる本校専攻科学生が、地球環境と資源の問題に関して体系的な知見と認識を持つことは重要である。本科目では、主に環境対応技術と環境と生体との関係について科学的知見を深めることを目指す。なお講義は、担当教員以外に、該当テーマに精通している本校教員に一部担当して頂く(小林美学先生、渡辺敦雄先生)とともに、本年度は静岡県立大学の出前授業の一環として、環境科学研究所の先生方に4回の講義を担当して頂く。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)
なし

学習・教育目標

Weight	目標
◎	A 工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
-	B 社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
○	C 工学専門知識の創造的活用能力の養成

資料５－７－①－２の続き

○	D 国際的な受信・発信能力の養成
－	B 産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

A.社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力

目標達成への実践指針

- A-1 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。
- A-2 最近の工学倫理上の事例を挙げ、問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。
- A-3 二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。
- A-4 これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。

授業目標

A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力を身につける。具体的には以下のことができること。
A-1.地球環境問題について具体的な例をあげ、それと社会、工学の関わりについて考察しそれを説明、記述できる。
A-4.地球環境問題について、技術者および市民としてこの問題に立ち向かう基本的な姿勢を表明、記述できること。

授業計画

（プログラム授業は原則としてプログラム教員が参観できますが、参観欄に×のある回は参観はできません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
1	ガイダンス	人類と環境・学生発表と小論文の説明（芳野恭士）	
2	環境対応技術	エネルギーのベストミックス（物質工学科　渡辺敦雄　教授）	
3	環境対応技術	原子力発電所事故と環境（仮題）（物質工学科　渡辺敦雄　教授）	
4	環境対応技術	原子力発電所事故と環境（仮題）（物質工学科　渡辺敦雄　教授）	
5	環境対応技術	大気環境（芳野恭士）	
6	環境対応技術	グリーンケミストリーに基づいた化学合成・材料合成（静岡県立大　岩村　武　助教）	
7	環境対応技術	水・土壌環境（芳野恭士）	
8	環境対応技術	放射光を使った環境汚染メカニズムの解明（静岡県立大　光延　聖　助教）	
9	環境と生体	ダイオキシン問題から考える化学物質の毒性とリスク（教養科　小林美学　准教授）	
10	環境と生体	身近な水環境の微生物（静岡県立大　谷　幸則　准教授）	
11	環境と生体	化学物質・廃棄と循環（芳野恭士）	
12	環境と生体	環境の変化に適用しようとする身体の仕組み（静岡県立大　榊原　啓之　助教）	
13	学生発表	学生発表と小論文（芳野恭士）	
14	学生発表	学生発表と小論文（芳野恭士）	
15	学生発表	学生発表と小論文（芳野恭士）	×

課題

3回のパネル討論会（環境対応技術、環境と生体）での発表内容をレポートにまとめる。レポート提出は、それぞれの討論会の開始までに、授業の始めに提出する。
オフィスアワー：木曜日の16時30時～17時（芳野研究室）

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する「実践指針」についての検査を、今学期中の「目標達成レポート」の提出を持って行う。
2. 専攻科研究において実施される学習・教育目標達成の実践指針に関する検査内容が、本科目の「目標」達成検査項目に合致する場合には、研究室に提出するレポートのコピーを持って、本科目の「目標達成レポート」とすることができる。
3. 「目標達成レポート」の評価が不合格であれば、本科目の単位は収得できない。

評価方法と基準

(1)A-1.地球環境問題と工学技術の関連性に関するレポートを提出させて評価する。
(2)A-4.人間と自然との調和を進める方法に関する提案について、レポートを提出させて評価する。
(3)各レポートについて発表させて、討論を行わせて、理解度と姿勢を判定する。
配点比率
レポート50%、討論会発表 50%

教科書等

環境科学：金原　粲監修、渡辺征夫他著、実教出版.

先修科目

なし

関連サイトのURL

備考

1. 試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。
2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

専攻科における研究指導においては，教授又は准教授から当該学生ごとに研究指導教員を命ずることを専攻科担当教員規程に明記し，専攻科研究論文の作成，教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行っている（資料５－７－①－３）。また，研究・学習活動報告会（１年次）（資料５－７－①－４）および研究発表会（２年次）（資料５－７－①－５）が実施され，特に研究発表会では近い分野の教員による主査・副査制をとっている。さらに，大学評価・学位授与機構で行われる学習成果発表におけるレポート作成指導は複数教員体制により行われている。

資料５－７－①－３

専攻科担当教員規程

○沼津工業高等専門学校専攻科担当教員規程

（平成 15.3.12 制定）

最終改正　平成 19.3.14

（趣旨）

第１条　この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科担当教員の資格、認定等に関し必要な事項について定めるものとする。

（担当教員の資格）

第２条　専攻科担当教員の資格は、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規程（平成３年大学評価・学位授与機構規程第４号）第 2 条第１項第 4 号に規定する資格を有し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

（担当教員の認定）

第３条　専攻科担当教員の認定は、専攻科担当教員会議の審査に基づき校長が行う。

２　前項の審査は、別記様式の教員個人調書により行うものとする。

３　第１項の認定は、毎年度、実施するものとする。

（研究指導教員）

第４条　校長は、専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに沼津工業高等専門学校学則第４６の４に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うため、専攻科担当教員である教授又は准教授のうちから、当該学生ごとに研究指導教員を命ずる。

２　校長は、前項の研究指導教員を命ずるに当たっては、専攻科担当教員会議の意見を聴くものとする。

（教育実施関係書類の提出）

第５条　専攻科担当教員は、各学期の開始前の所定の期日までに別に定める教育実施計画関係書類を、各学期の終了前の所定の期日までに別に定める教育実施報告関係書類を作成し、専攻科長に提出しなければならない。

（細目）

第６条　この規程に定めるもののほか、専攻科担当教員に関し必要な細目は、別に定める。

附　則

１　この規程は、平成１５年４月１日から施行する。

２　この規程施行の際現に専攻科担当教官である者は、この規程により、認定されたものとみなす。

３　この規程施行の際現に教授又は助教授である研究指導教官は、この規程により、命じられたものとみなす。

附　則

この規程は、平成１６年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－７－①－４

研究・学習活動報告会実施要綱

沼津工業高等専門学校 専攻科
2010年度　研究・学習活動報告会 実施要綱

1. 報告会の概要

・報告会の目的
沼津工業高等専門学校専攻科1 年次生の専攻科研究における、中間発表あるいは1年間で行った準備的考察、実験装置の製作、実験・計算技術の修得に関する報告等を行い、学習の達成度の評価を受けます。単に1年間の研究成果を公表するのではなく、研究を通して得た学習成果を発表する機会として臨んでください。

・主催：沼津工業高等専門学校

・日時：2011年1月17日（月），18日（火）12:30開場、13:00開会

・会場：管理棟3階大会議室

・発表者：沼津高専専攻科学生

・聴講者：沼津工業高等専門学校の教員、専攻科生、本科生

2. 提出物等の日程について

・発表題目（仮）の提出　学生は、2010年12月22日（水）17時までに、指導教員を通して、e-mailにて事務局（takeguch@numazu-ct.ac.jp）に提出してください。その際、以下の4分野から発表分野を指導教員と相談の上、決定して下さい。

【発表分野】Ⅰ 化学・生物工学、Ⅱ 機械工学、Ⅲ 電気電子工学、Ⅳ 情報工学

・発表予稿の提出
学生は、2011年1月7日（金）17時までに、指導教員を通して、e-mailにて新冨教員(shintomi@numazu-ct.ac.jp)に提出してください。提出はPDFファイルとします。原稿の作成と提出にあたっては、「5. 発表予稿原稿の作成要領」を参考にしてください。

発表予稿原稿見本（MS-WORDファイル）

・各会場係のお願い
発表会の計時係と照明係は、指定された専攻・コースの他年次の学生に行ってもらいます（2年次生の発表では1年次生が担当、1年次生の報告では2年次生が担当になります）。担当者は事務局で選出し、2011年1月7日（金）までに連絡します。

3. 発表について

・発表の形式
パソコンプロジェクタを使用して、口頭発表で行います。

1. プロジェクタ、指示棒、レーザーポインタ等は、会場に用意されています。
2. パソコンは、原則として各専攻・コースごとあるいは各人で用意していただきます。
3. パソコンの接続・動作確認は、発表会当日の開場時や休憩の時間を使って、事前に行ってください。
4. 発表者は、自分の発表順の直前の休憩時間に、プロジェクタへのパソコンの接続を行ってください。
5. パソコンの操作は、各人の責任で行っていただきます。パソコン操作のための発表補助者が特別に必要な場合には、各人で準備してください。
6. 当日、パソコンを用意できない場合には、事前に事務局にご相談ください。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料５－７－①－５

研究発表会実施要綱

沼津工業高等専門学校 専攻科
2010年度　研究発表会 実施要綱

1. 発表会の概要

・発表会の目的

沼津工業高等専門学校専攻科2年次生の専攻科研究における学習成果を、広く学内外に発表し、学習成果達成度の評価を受けます。単に2年間の研究成果を公表するだけでなく、研究を通して得た学習成果を発表する機会として臨んでください。尚、本発表会は、専攻科修了要件のひとつである「専攻科研究論文の審査」の場を兼ねています。

・主催：沼津工業高等専門学校

・日時：2011年1月15日（土）8:30開場、9:00開会

・会場：管理棟3階大会議室

・発表者：沼津高専専攻科学生

・聴講者：沼津工業高等専門学校の教職員、専攻科生、一般聴講者

2. 提出物等の日程について

・発表題目（仮）の提出　学生は、2010年12月22日（水）17時までに、指導教員を通して、e-mailにて事務局（takeguch@numazu-ct.ac.jp）に提出してください。

・研究論文の提出
学生は、2011年1月7日（金）17時までに、指導教員を通して、e-mailにて事務局（takeguch@numazu-ct.ac.jp）に提出してください。提出はPDFファイルとします。原稿の作成と提出にあたっては、「5. 研究論文原稿の作成要領」を参考にしてください。

研究論文原稿見本（MS-WORDファイル）

・専攻科研究論文査読成績報告書の提出
学生と主査は、「専攻科研究論文査読成績報告書」を2011年1月7日（金）17時までに、専攻科長または教務係に書面で提出してください。副査は、報告書を発表会当日に、会場で直接専攻科長に提出してください。

専攻科研究論文査読成績報告書（MS-WORDファイル）

・各会場係のお願い
発表会の計時係と照明係は、指定された専攻・コースの他年次の学生に行ってもらいます（2年次生の発表では1年次生が担当、1年次生の報告では2年次生が担当になります）。担当者は事務局で選出し、2011年1月7日（金）までに連絡します。

3. 発表について

・発表の形式
パソコンプロジェクタを使用して、口頭発表で行います。

1. プロジェクタ、指示棒、レーザーポインタ等は、会場に用意されています。
2. パソコンは、原則として各専攻・コースごとあるいは各人で用意していただきます。
3. パソコンの接続・動作確認は、発表会当日の開場時や休憩の時間を使って、事前に行ってください。
4. 発表者は、自分の発表順の直前の休憩時間に、プロジェクタへのパソコンの接続を行ってください。
5. パソコンの操作は、各人の責任で行っていただきます。パソコン操作のための発表補助者が特別に必要な場合には、各人で準備してください。
6. 当日、パソコンを用意できない場合には、事前に事務局にご相談ください。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専（資料５－７－①－６）や富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア（資料５－７－①－７）に数多くの専攻科生が参加し，ポスターによる研究発表を行っている。実際に，企業の技術者や他大学の教員との質疑応答や情報交換を通じて，自らの研究テーマを客観的に見つめ，その後の展望を検討するという意味でも非常に意義深い取り組みである。その他にも，学術協会主催の研究発表会にも多くの専攻科生が参加しており，２年間の研究活動を通じて，複数回の学会発表を行う学生が多く，日常の研究活動だけでなく成果発表にも積極的に臨んでおり，優秀講演表彰を受ける学生も多い（資料５－７－①－８，９）。さらに，沼津高専研究報告への論文投稿も多く，本科から継続的に取り組まれる研究活動を通して非常に高い水準の研究指導が行われている。

資料５－７－①－６

静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専ポスター



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料５－７－①－７

富士山麓アカデミック＆サイエンスフェアポスター



富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010

富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010(略称 A&S フェア 2010) は、静岡県東部地域を中心とした高等教育機関 (大学、短期大学、高等専門学校など) ・企業・行政が連携し、日ごろの研究成果や活動の発表を行うイベントです。
各高等教育機関で行われている多様で多彩な分野の研究成果や地域での活動を一時に知る機会です。ぜひ多くの方に来場いただき、学生や研究者と直接、意見交換や交流をしていただきたいと思います。

日時 2010年12月15日(水)
13:00～16:00 受付開始は12:30～

会場 キラメッセぬまづ 沼津市大手町１丁目１番４号
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/messe/index.htm



※参加費無料・事前申し込み不要です。多くの方のご来場をお待ちしております。

アカデミック＆サイエンスフェアご案内

ポスター発表エリア

下記の高等教育機関の学生・教員がこれまでの研究開発の成果をポスターにて発表いたします。発表者がポスターの前に立ち、来場者のみなさまに説明を行います。研究内容によっては研究成果の展示やデモンストレーションが行われます。ポスター発表は教育機関毎ではなく分野別になっています。受付にて予稿集が配られますので興味のある分野へお越し下さい。
来場者みなさまの忌憚ないご質問やご意見をお聞かせ下さい。

発表教育機関 (発表分野の詳細は裏面をご覧下さい)
東海大学開発工学部、沼津工業高等専門学校、沼津技術専門校、静岡県立大学、富士常葉大学、日本大学国際関係学部・短期大学部

イベントエリア

東海大学開発工学部、沼津工業高等専門学校、日本大学国際関係学部・短期大学部の学生が行っている課外活動を紹介いたします。詳細につきましては裏面をご覧下さい。

プロモーションエリア

富士山麓 A&S フェアの共催機関 (裏面参照) が、それぞれの教育・研究、技術開発や商工振興に関する活動紹介を行います。東海イノベーションネットワーク (東海 iNET) の紹介もあります。



主催：富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア実行委員会

（出典　実行委員会ウェブサイトより引用）

資料５－７－①－８

学生の研究活動の実績

学外発表

	ME	DS	CB	合計
2008	32	40	12	84
2009	13	33	19	65
2010	35	34	17	86

論文投稿

	ME	DS	CB	合計
2008	2	4	1	7
2009	7	9	8	24
2010	5	12	3	20

（出典　本校高専だより 94, 96, 98 号）

資料５－７－①－９

学外研究発表における受賞（平成 22 年度）

講演会名	受賞名	受賞者
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(機械・電子制御・ロボット分野)	ME1 鈴木貴弘
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(機械・電子制御・ロボット分野)	ME2 藤田將喜
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(機械・電子制御・ロボット分野)	DS1 伊井雅俊
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(機械・電子制御・ロボット分野)	DS1 早苗駿一
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(医療・健康・食物分野)	CB2 佐野輝臣
富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア 2010	優秀賞(バイオ・生物分野)	CB1 河村慧
日本高専学会第 16 回年会講演会	ポスターセッション優秀賞	DS1 長谷川輔
第 88 期日本機械学会流体工学部門講演会	優秀講演表彰	DS1 早苗駿一
日本機械学会東海学生会第 42 回卒業研究講演会	Best Presentation Award	ME1 渡邉良介

（分析結果とその根拠理由）

専攻科課程では，学習保証時間として語学，人文・社会科学で125時間以上を課している。また，オムニバス形式で工学技術が環境や自然と調和を図ることの重要性が教授されている。

一方，専攻科研究論文の作成，教育目標を達成するために必要な指導や学会活動への支援には，教授又は准教授が指導教員として担当し，学内における研究発表や学位授与機構への学習成果発表などの指導では，近い分野の教員による複数指導体制が整えられている。さらに，学外研究発表や論文投稿数も多く，また数々の学術表彰を受けるなど，教育の目的を達成するために適切な教養教育と研究指導が行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定規定，修了認定規定については，学則ならびに「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」及び「専攻科授業科目履修規程」（前出資料５－５－①－９，10），「総合システム工学修了要件」（資料５－８－①－１）として定められており，専攻科生に対しては年度始めのオリエンテーションの際に，受講プランチェック表・単位表・学習保証時間表（資料５－８－①－２～４）を配布し周知され，成績評価はシラバスに記載された評価方法と基準に則り実施されている。

資料５－８－①－１

「総合システム工学」修了要件

７．沼津工業高等専門学校技術者教育プログラム「総合システム工学」修了要件

沼津工業高等専門学校学則第 52 条第１項第３号の規定に基づき、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）技術者教育プログラム「総合システム工学」の修了要件を次のように定める。

1　校長は、本校専攻科学生が以下に掲げるすべての要件を満たした場合に、当該学生を本校技術者教育プログラム「総合システム工学」を修了した者として認定する。

⑴　学位（学士）を取得した者。

⑵　所定の授業科目を履修し、124 単位以上（そのうち、専攻科においては 62 単位以上、高等専門学校の第４学年及び第５学年、短期大学等（以下「高専等」という。）においては 62 単位以上とする。）修得した者。

⑶　専攻科研究 10 単位、専攻科実験４単位、専攻科演習４単位、専攻科実習２単位及び工学倫理２単位を修得した者。

⑷　応用数学、自然科学、情報技術等の科目中６科目以上の単位を修得した者。

⑸　総合システム工学体系の設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学・数理・解析系及び社会・技術連関係の５科目群系中６科目以上（ただし、各群系から、少なくとも１科目以上）の単位を修得した者。

⑹　人文科学及び社会科学区分の教科目から工学倫理を含めて６単位以上、語学区分から４単位以上をそれぞれ修得した者。

⑺　教員の教授又は指導の下に行った学習時間を 1,800 時間以上（専攻科及び高専等において、それぞれ、900 時間以上とする。）受けた者。この場合において、人文科学、社会科学等（語学教育を含む。）の学習が 250 時間以上（専攻科及び高専等において、それぞれ、125 時間以上とする。）、数学、自然科学及び情報技術の学習が 250 時間以上（専攻科及び高専等において、それぞれ、125 時間以上とする。）並びに専門分野の学習が 900 時間以上（専攻科及び高専等において、それぞれ、450 時間以上とする。）含むものとする。

⑻　単位を取得したすべての科目より、別に定める方法で算出した教育目標毎の達成度がそれぞれ 0.5 以上、総合的達成度が 0.6 以上の者。

2　本校専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価については、沼津工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則、沼津工業高等専門学校専攻科の教育目標の達成度評価に関する規則及び沼津工業高等専門学校専攻科授業科目履修規程に従うものとする。

(65)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料５－８－①－２

受講プランチェック表

受講プランチェック表

	No.	項目	チェック
単位数	1	合計62単位以上	
	2	(必修)研究10単位	
	3	(必修)実験4単位	
	4	(必修)演習4単位	
	5	(必修)実習2単位	
	6	(必修)工学倫理2単位	
	7	基礎能力6科目以上	
	8	基礎工学各1科目以上、計6科目以上	
	9	人文社会(工学倫理を含む)6単位以上	
	10	語学4単位以上	
学習保証時間	11	合計900時間以上	
	12	基礎能力125時間以上	
	13	社会科学等(語学を含む)125時間以上	
	14	専門工学(研究、実験、実習、演習を含む) 450時間以上 〈No.2～5を満たせばクリア〉	

(出典　専攻科オリエンテーション配布資料)

資料５－８－①－３

受講プラン単位表

受講プラン例（単位）				研究実験演習実習	基礎能力(6科目)			基礎工学(各1科目、計6科目)				社会科学等			単位合計
					数学	自然科学	情報技術	設計システム	情報論理	材料バイオ	力学数理解析	人文社会(6単位)		語学(4単位)	
												社会技術	人文		
1年前期	月	1	量子物理Ⅰ			2									
		2	電気電子材料							2					
	火	1	マルチメディアネットワーク				2								
		2	英会話Ⅰ											1	
	水	1													
		2	電磁波工学Ⅰ								2				
	木	1	プログラム言語						2						21
		2													
	金	1	応用数学Ⅰ		2										
		2	技術英語Ⅰ											1	
	専攻科研究Ⅰ(2)			2											
	専攻科演習Ⅰ(1)			1											
	専攻科実験Ⅰ(2)			2											
	専攻科実習　(2)			2											
1年後期	月	1													
		2													
	火	1	工学倫理									2			
		2	電磁エネルギー変換工学								2				
	水	1	歴史文化論										2		
		2	英会話Ⅱ											1	
	木	1	地球環境学									2			17
		2													
	金	1	電磁波工学Ⅱ					2							
		2	技術英語Ⅱ											1	
	専攻科研究Ⅱ(2)			2											
	専攻科演習Ⅱ(1)			1											
	専攻科実験Ⅱ(2)			2											
2年前期	月	1	材料強度論			2									
		2													
	火	1	パワーエレクトロニクス特論					2							
		2													
	水	1	電子デバイス							2					
		2	応用数学Ⅲ		2										
	木	1													16
		2	電力制御機器工学					2							
	金	1	信号処理						2						
		2													
	専攻科研究Ⅲ(3)			3											
	専攻科演習Ⅲ(1)			1											
2年後期	月	1													
		2													
	火	1													
		2													
	水	1	集積回路設計					2							
		2													
	木	1													12
		2	応用物理Ⅱ			2									
	金	1	応用数学Ⅱ		2										
		2	電気機器学特論								2				
	専攻科研究Ⅳ(3)			3											
	専攻科演習Ⅳ(1)			1											
単位合計				20	14			22				10			66

（出典　専攻科オリエンテーション配布資料）

資料５－８－①－４

受講プラン学習保証時間表

受講プラン例（学習保証時間）				研究実験演習実習	基礎能力（125時間）			基礎工学				社会科学等（125時間）			時間合計
					数学	自然科学	情報技術	設計システム	情報論理	材料バイオ	力学数理解析	人文社会 社会技術	人文社会 人文	語学	
1年前期	月	1	量子物理Ⅰ			22.5									405
		2	電気電子材料							22.5					
	火	1	マルチメディアネットワーク				22.5								
		2	英会話Ⅰ											22.5	
	水	1													
		2	電磁波工学Ⅰ								22.5				
	木	1	プログラム言語						22.5						
		2													
	金	1	応用数学Ⅰ		22.5										
		2	技術英語Ⅰ											22.5	
	専攻科研究Ⅰ(67.5)			67.5											
	専攻科演習Ⅰ(22.5)			22.5											
	専攻科実験Ⅰ(67.5)			67.5											
	専攻科実習　(67.5)			67.5											
1年後期	月	1													315
		2													
	火	1	工学倫理									22.5			
		2	電磁エネルギー変換工学								22.5				
	水	1	歴史文化論										22.5		
		2	英会話Ⅱ											22.5	
	木	1	地球環境学									22.5			
		2													
	金	1	電磁波工学Ⅱ					22.5							
		2	技術英語Ⅱ											22.5	
	専攻科研究Ⅱ(67.5)			67.5											
	専攻科演習Ⅱ(22.5)			22.5											
	専攻科実験Ⅱ(67.5)			67.5											
2年前期	月	1	材料強度論			22.5									258.75
		2													
	火	1	パワーエレクトロニクス特論					22.5							
		2													
	水	1	電子デバイス							22.5					
		2	応用数学Ⅲ		22.5										
	木	1													
		2	電力制御機器工学					22.5							
	金	1	信号処理						22.5						
		2													
	専攻科研究Ⅲ(101.25)			101.25											
	専攻科演習Ⅲ(22.5)			22.5											
2年後期	月	1													213.75
		2													
	火	1													
		2													
	水	1	集積回路設計					22.5							
		2													
	木	1													
		2	応用物理Ⅱ			22.5									
	金	1	応用数学Ⅱ		22.5										
		2	電気機器学特論								22.5				
	専攻科研究Ⅳ(101.25)			101.25											
	専攻科演習Ⅳ(22.5)			22.5											
時間合計				630	157.5			247.5				157.5			1192.5

（出典　専攻科オリエンテーション配布資料）

成績評価方法等の周知度を専攻科課程の学生にアンケート調査し（資料５－８－①－５），結果を集計した（資料５－８－①－６，７）。ほぼ全ての専攻科生が成績の評価方法，修了要件ならびに学修単位について把握すると共に，自学自修を実践している。

資料５－８－①－５

目的の周知度等調査アンケートの質問［専攻科課程学生用］

平成２３年２月 14 日　　副校長（教務主事）

「本校の目的の周知度等」に関する調査アンケート質問用紙【専攻科生用】

平成２３年度の機関別認証評価 自己評価書作成に必要なため回答へのご協力をよろしくお願いします。マークシートに回答を記入し専攻科研究指導担当教員へ提出してください。

以下の（設問１）～（設問１３）に対して、当てはまる回答の番号を選んで、マークシートに回答してください。

Ⅰ．本校の目的の周知度に関する調査

（設問１）本校の「教育理念」を知っていますか。
（設問２）本校の「教育目的」と「専攻科の目的」を知っていますか。
（設問３）本校の「教育方針」を知っていますか。
（設問４）本校の「専攻科教育目標」を知っていますか。
（設問５）本校の「養成すべき人材像」を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．見聞きしたことはある　３．ある程度の内容まで知っている　４．よく内容を知っている

Ⅱ．シラバスの活用状況に関する調査

（設問６）科目の選択時などに授業内容を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問７）授業の予習に役立てるためにシラバスを利用していますか。
（設問８）成績の評価方法や評価基準を知るためにシラバスを利用していますか。
（設問９）上記の目的以外にシラバスを利用していますか。
＜回答＞１．全く利用しない　２．たまに利用する　３．よく利用する

Ⅲ．成績評価方法等の周知度に関する調査

（設問１０）学業成績の評価の方法について知っていますか。
（設問１１）専攻科の修了要件を知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

Ⅳ．学修単位科目の周知度に関する調査

（設問１２）専攻科の授業科目は自学自修を含め 45 時間の学修で１単位とすることを知っていますか。
＜回答＞１．全く知らない　２．ある程度知っている　３．よく知っている

（設問１３）自学自修を実行していますか。
＜回答＞１．実行していない　２．ある程度実行している　３．よく実行している

以上、ご協力有難うございました。

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

資料５－８－①－６

成績評価方法等の周知度に関する調査アンケートの集計結果（専攻科生用）

沼津工業高等専門学校

平成22年度 目的の周知度に関する調査アンケート集計結果

専攻科　　回答数：55

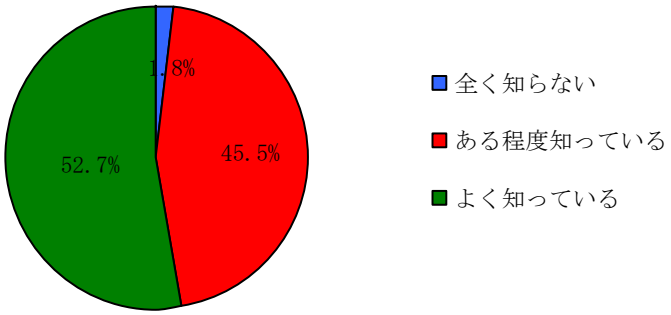
	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
回答 1	0.0%	1.8%	3.6%	1.8%	0.0%	0.0%	23.6%	5.5%	30.9%	1.8%	0.0%	1.8%	1.8%
回答 2	34.5%	36.4%	36.4%	32.7%	21.8%	24.5%	52.7%	25.5%	54.5%	45.5%	41.8%	21.8%	45.5%
回答 3	30.9%	47.3%	45.5%	49.1%	27.3%	75.5%	23.6%	69.1%	14.5%	52.7%	58.2%	76.4%	52.7%
回答 4	34.5%	14.5%	14.5%	16.4%	50.9%								
回答数	55	55	55	55	55	53	55	55	55	55	55	55	55

（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

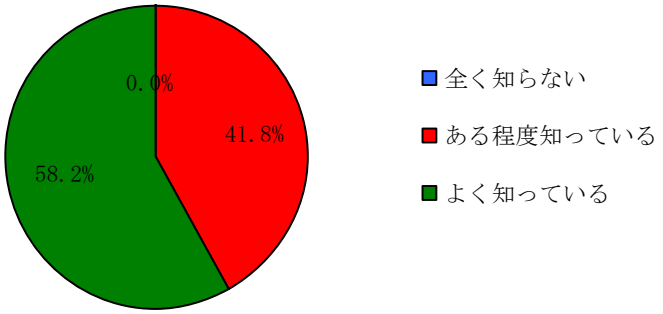
資料５－８－①－７

成績評価方法等の周知度に関する調査の専攻科生の回答

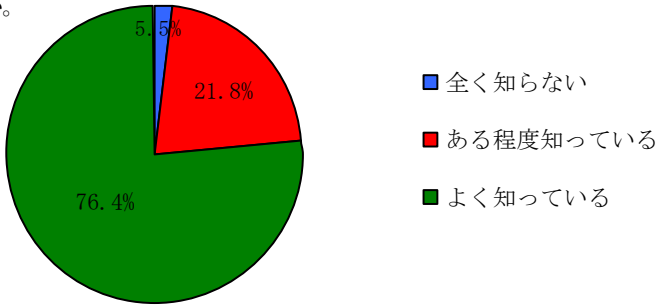
設問１０　学業成績の評価の方法について知っていますか。



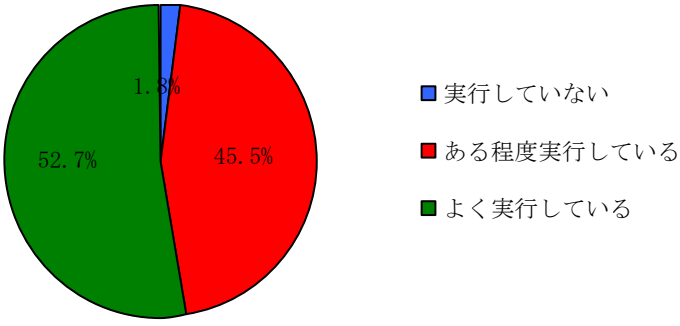
設問１１　専攻科の修了要件を知っていますか。



設問１２　専攻科の授業科目は自学自修を含め45時間の学修で1単位とすることを知っていますか。



設問１３　自学自修を実行していますか。



（出典　平成 22 年度実施アンケート調査資料）

さらに，年度末に開催される専攻科授業担当教員が出席する総合システム工学プログラム会議において単位認定および修了認定を行っている（資料５－８－①－８，９）。

資料５－８－①－８

総合システム工学プログラム会議の開催連絡

平成２３年 ２ 月 １ 日

総合システム工学プログラム担当教員　各位
（専攻科担当教員を含む）

総合システム工学
プログラム委員長

平成２２年度第４回総合システム工学プログラム会議の開催について

標記のことについて、下記のとおり開催しますので、必ずご参集願います。
なお、公務の都合により欠席される場合（勤務カレンダーにより勤務時外となる方を含む）は、２月１４日（月）の午前中までに学生課教務係へご連絡願います。

記

開催日時　平成２３年２月１５日（火）　１６時３０分から

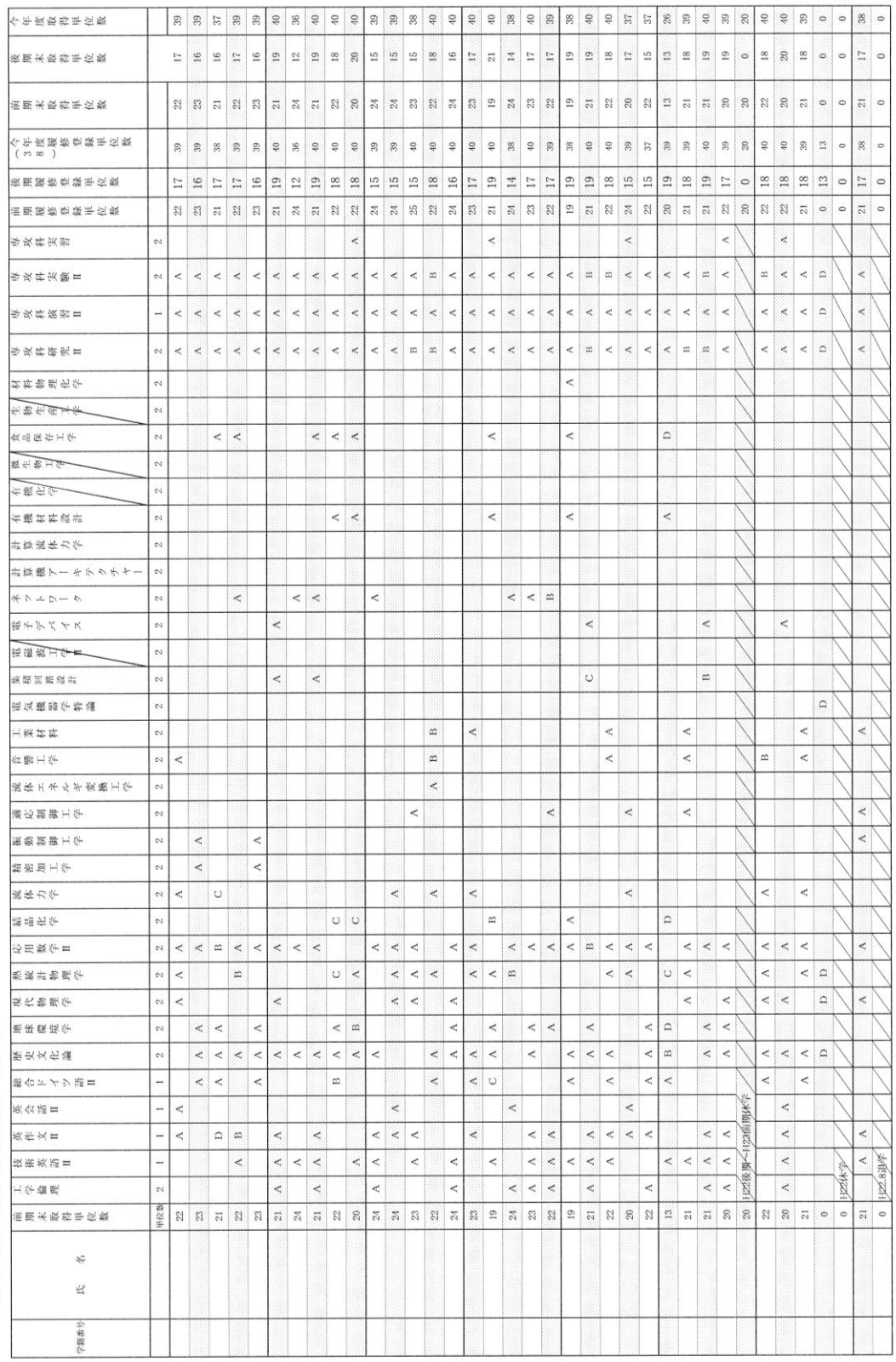
開催場所　会議室（管理棟３階）

議題及び報告　1. 10 年度 学生現員について
2. 専攻科単位取得認定
3. 専攻科修了認定
4. 10 年度プログラム委員会報告
4－1. 10 年度 研究活動功労賞候補推薦
4－2. 予算・決算報告
4－3. その他
5. その他

（出典　総務課　学内メール）

資料５－８－①－９

プログラム会議資料



（出典　平成 22 年度総合システム工学プログラム会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価や単位認定規定および修了認定規定が組織として策定されており，学生便覧に示し学生に周知されている。ほぼ全ての専攻科生が成績の評価方法，修了要件ならびに学修単位について把握すると共に，自学自修を実践している。また，各規定に則って成績評価や単位認定および修了認定が適切に実施されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程では，科目系統図により５つの教育目標をバランスよく習得でき，教育目標が達成できるように授業内容を構成するとともにシラバスが作成され学生に活用されている。講義，演習，実験および実習により得た知識をPBL型授業において総合的に活用できる学習指導が行われ,創造性を育む教育が実施され，成果が得られている。企業技術者によるものづくりの実践的な授業を開講し，共同教育が実施されている。

専攻科課程では，工学倫理の開講方法やフィールドワークを取り入れた指導法など，多様なニーズに対応する教育課程が展開されている。また，総合実験や複合実験などPBL方式の実践的な実験環境が充実している。インターンシップでは，JICAケニア事務所，JODCや高専機構のプログラムなどを生かして積極的に海外就労経験を積んでいる。学生による学会発表や論文投稿も多く，また学術表彰を受けるなど高い水準の研究指導が行われている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準５の自己評価の概要

準学士課程では教育目標に照らして，一般科目と専門科目を楔形配置し，前者により基礎学力と幅広い教養を養い，また後者により工学技術の専門的知識とそれらを創造的に活用する能力を育成する体系的な教育課程となっている。科目系統図により５つの教育目標をバランスよく習得でき，教育目標が達成できるように授業内容を構成するとともにシラバスが作成され学生に示され活用されている。講義，演習，実験および実習により得た知識をPBL型授業において総合的に活用できる学習指導が行われ，創造性を育む教育が実施され，成果が得られている。企業技術者によるものづくりの実践的な授業を開講し，共同教育が実施されている。インターンシップを推進し，社会から学ぶ機会と参加学生数を増やすとともに，アンケート調査した結果を報告書にまとめ指導に役立てている。学級担任の指導の下で特別活動，学校行事等を実施することにより，クラス運営を活発にするとともに，人間性の涵養が図られている。学校行事，クラブ活動，寮生会，学生会の活動の過程で，学生が教職員と多く触れ合い，豊かな人間性を育んでいる。

成績評価・単位認定，進級・卒業判定規則が規定され，これらは学生便覧に明記され，科目担当教員と学級担任の指導により学生に周知されている。教員会議において進級・卒業の判定が各基準に基づき適切に行われている。

専攻科課程は，学生の多様なニーズに対応し柔軟に履修計画を立てられるよう，授業科目は年次の別なく配当され，午前中に座学を，午後に研究・実験・演習を配置している。特に，技術者に必要な教養教育として工学倫理を必修科目と定め，前期と後期に各々開講するなど履修上の配慮が十分にな

されている。さらに，英語による双方向コミュニケーション能力の育成やフィールドワークの実施など，学習指導法の工夫もなされている。

また，周辺分野の基礎的な実験技術を学修する総合実験や，他専攻の専攻科生と実施する PBL 方式の複合実験も用意され，創造的・実践的問題解決能力の涵養を図っている。これらの科目は午後に配置され，他専攻との調整が必要な実験を実施し易くしている。

インターンシップは，学習した専門知識の創造的な活用方法について主体的に体験する場として活用され，JICA ケニア事務所，JODC や高専機構のインターンシッププログラムなどを生かして積極的に海外就労経験を積んでいる。

専攻科研究では，学協会主催の研究発表への専攻科生の参加や論文投稿も多く，さらに学術表彰を受けるなど，高い水準の研究指導が行われている。成績評価，単位認定・修了認定が規定され学生に周知されている。また，プログラム教員会議において単位認定・修了認定が適切に実施されている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

＜準学士課程＞

教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成（前出資料５－１－①－15～20）がなされており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（一般科目 82 単位，専門科目 95 単位（ともに最大））のうち，卒業に必要な単位数は一般科目 75 単位以上（89%以上），専門科目 82 単位以上（86%以上）を修得することが卒業要件の一つとなっている（前出資料５－４－①－２）。また，平成 19 年度以降入学者については，全ての必修科目を修得していることを卒業要件に加えている。各学年における必修科目の割合は，学科により多少の差はあるが、平均して１学年で 94 %，２学年で 93%，３学年で 96%，４学年で 86%，５学年で 49%と，全体的に高い割合となっている。このことから，卒業要件を満たすことが，学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について目標を達成することを保証するものとなっている。また，卒業研究指導教員による日常的な指導の中での質疑応答や観察から，卒業研究の成績評価の基準（資料６－１－①－１）に沿って目的の達成度を把握・評価している。それに加えて本校では，５つの学習教育目標に照らして，３学年と５学年において「学生による学習到達度自己評価」（資料６－１－①－２～５），４・５学年において「教員側から見た学生の学習到達度評価」（資料６－１－①－６，７）を実施し達成状況を把握している。これらの達成度評価は教務主事・主事補，教務委員からなる小委員会で実施している（資料６－１－①－８）。

＜専攻科課程＞

専攻科課程においては，専攻科企画運営委員会メンバーが，各科目の教育目標達成度の評価基準と評価方法について，各教科担当教員を支援している。また，学生の教育目標達成度は，定められた項目ごとに学生便覧に明記され、提示されている（資料６－１－①－９）。さらに教育目標別の達成度は研究指導報告書にて指導教員から学生に周知されている（資料６－１－①－10）。

資料６－ １－ ①－ １

卒業研究の成績評価の基準（物質工学科の例）

評価項目 A　「調査をふまえた上で問題解決に向けた適切な実験計画を自主的にたてることができる」

90-100 点 調査をふまえた上で適切な実験計画を自主性を持って計画することができ，その能力は極めて高く，学会発表ができるレベルに達している．

80-90 点 調査をふまえた上で適切な実験計画を自主性を持って計画することができ，その能力は極めて高い．

70-80 点 指導教員の指導と助言のもと，ほぼ適切な実験計画を自主性を持って計画することができる．

60-70 点 実験計画を自主性を持って計画する能力は決して高くなく，指導教員による多くの修正や問いかけが必要ではあるが，実験を遂行するのに必要な程度の計画能力は持つ．

60 点未満 実験を遂行するのに必要な程度の実験計画能力を有しない．

評価項目 B　「適切な作業量を継続的にこなすことができる」

90-100 点 1 年を通じて，常に適切な作業量をねばり強くこなすことができ，かつ，自主的にかつ計画的に自らの作業量を管理することができ，その結果，得られる結果学会発表が出来るレベルである．

80-90 点 1 年を通じて，常に適切な作業量をねばり強くこなすことができ，かつ，自主的にかつ計画的に自らの作業量を管理することができる．

70-80 点 1 年を通じて，ほぼ適切な作業量をこなすことができ，自らの作業量を管理することができる．

60-70 点 1 年を通じた作業量にムラが見られ，自らの作業量を管理する能力も高くないが，実験の遂行に影響のない程度である．

60 点未満 実験を遂行するのに必要な程度の作業量が行えず，研究を遂行するのに必要な作業量を管理する能力も有しない．

評価項目 C　「作業内容と作業量に対してふさわしい結果を得ることができるか」

90-100 点 作業内容と作業量に対してふさわしい結果を得ることができ，得られた結果の質も極めて高く，学会発表ができるレベルである．

80-90 点 作業内容と作業量に対してふさわしい結果を得ることができ，得られた結果の質も極めて高い．

70-80 点 作業内容と作業量に対してほぼふさわしい結果を得ることができる．

60-70 点 作業内容と作業量に対して得られた結果は決してふさわしいものではないが，研究をまとめるにあたって支障がない程度の結果を得ることができる．

60 点未満 量，質ともに研究をまとめるにあたって支障がない程度の結果を得ることができない

評価項目 D　「適切なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しており，質問に対する適切な回答ができるか」

90-100 点 プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力が極めて高く，質問に対しても適切な回答ができる．学会発表が可能な知識を持つ．

80-90 点 プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力が極めて高く，質問に対しても適切な回答ができる．

70-80 点 適切なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力をもち，質問に対しても適切な回答ができる．

60-70 点 結果を伝えるのに必要な最低限のプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を持ち，質問に対しても受け答えができる

60 点未満 結果を伝えるのに必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しない．

（出典　物質工学科卒業研究配布資料）

資料６－ １－ ①－ ２

学生による学習到達度自己評価（３年生）

3年生の学習達成度自己評価

沼津高専の学習・教育目標は以下の通り定められています。

A 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
B 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
C 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
D 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
E 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

沼津高専における、自分の過去３年間の学習成果を振返って、以下の項目に対する自分の達成度を自己評価し、相当する数字に○印を付けてください。

５・・優れている。　４・・やや優れている。　３・・普通。
２・・やや劣る。　　１・・劣る。

A 技術者の社会的役割と責任に対する理解
　技術者としての責任感　　（ １　２　３　４　５ ）
B 自然科学の原理・法則・定理の理解と応用
　物理・数学・化学の学力　　（ １　２　３　４　５ ）
C 工学技術の基礎的知識に対する理解
　実習・演習・実験の習熟度　　（ １　２　３　４　５ ）
D 国際感覚とコミュニケーション能力
　国語・外国語　　（ １　２　３　４　５ ）
E 計画的に自己研鑽を継続する姿勢
　自学自習の姿勢　　（ １　２　３　４　５ ）

F 入学当時の自己の目標に対する現時点での達成度
　　（ １　２　３　４　５ ）

学　科＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

４学年からは、JABEE(日本技術者教育認定機構)の審査に合格した「総合システム工学」の教育プログラムに基づいた教科目を学習しますが、３学年までの基礎学力の修得が必須となります。
未修得の科目を有す学生は早期に修得するよう学力の向上に努めてください。

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ①－ ３

学生による学習到達度自己評価（５年生）

５年生の学習達成度自己評価

沼津高専の学習・教育目標は以下の通り定められています。

A 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
B 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
C 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
D 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
E 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

沼津高専における、自分の５年間の学習成果を振返って、以下の項目に対する自分の達成度を自己評価し、相当する数字に○印を付けてください。

５・・優れている。　４・・やや優れている。　３・・普通。
２・・やや劣る。　　１・・劣る。

A 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
技術倫理、　技術者としての責任感　　（　１　２　３　４　５　）

B 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
物理・数学・化学の学力、　専門科目の学力　（　１　２　３　４　５　）

C 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
卒業研究の成果、　創造的科目の成果　　（　１　２　３　４　５　）

D 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
国語・外国語　　（　１　２　３　４　５　）

E 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢
卒業研究の取組み方、　自学自習の姿勢　　（　１　２　３　４　５　）

F 入学当時の自己の目標に対する達成度　　（　１　２　３　４　５　）

学　科＿＿＿＿＿＿　氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ①－ ４

学生による学習到達度自己評価　担任への依頼文書（３年生）

平成２３年 ２ 月 ８ 日

３年生クラス担任　各位

副校長（教務主事）

「学習達成度自己評価」に伴うアンケートについて（依頼）

標記のことについて、貴クラスの学生に別紙によるアンケート調査を学年末試験の終了日 2/22（火）までに実施いただき、調査済みのアンケート用紙を教務係へ提出くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。　なお、「プログラム入学についての予告」も併せて配布願います。

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ①－ ５

学生による学習到達度自己評価　担任への依頼文書（５年生）

平成２３年 ２ 月 ８ 日

５年生クラス担任　各位

副校長（教務主事）

「学習達成度自己評価」に伴うアンケートについて（依頼）

標記のことについて、貴クラスの学生に別紙によるアンケート調査を学年末試験の終了日 2/22（火）までに実施いただき、調査済みのアンケート用紙を教務係へ提出くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ①－ ６

達成度評価の実施にかかる担任への依頼文

達成度評価の実施について

教務主事

＜目的＞

本達成度評価は，卒業時に身につける学力や資質・能力，養成する人材像等に照らした形での教育の成果や効果を学生による学習達成度評価にもとづいて把握し，評価するために実施するものです。

学習・教育目標

本高専は，学生が以下の能力，態度，姿勢を身につけることを目標とする。

A. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度。

B. 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力。

C. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力。

D. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力。

E. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢。

＜評価方法＞

学習達成度評価には，以下の GPA(Grade Point Average)を用います。

GPA の計算方法　$$GPA = \frac{\text{Aの単位数}\times 4 + \text{Bの単位数}\times 2 + \text{Cの単位数}}{\text{対象としている科目の単位数の合計}}$$

評語 A・・・4 点，評語 B・・・2 点，評語 C・・・1 点，評語 D・・・0 点

＜実施スケジュール＞

５月中旬　　４・５年生による成績証明書の標語 A～D の table2A への転記。

５月 31 日(火)　　table2B への入力作業を終え，ファイルを電子メールで後藤まで送ってください。

６月１日（月）～6 月 17 日（金）　集計（学習・教育目標ごとの GPA の算出）

＜学生による学生達成度評価の際，注意していただくこと＞

1. 学生による転記作業は，必ず教室内で実施し，成績証明書を学生が持ち歩くことが無いようにしてください。（教室内で配布し，転記作業終了後，直ちに回収してください。）
2. 編入生や留年生および留学生が修得している科目の一部が table2A に記載されていない可能性があります。この場合は，科目名を新たに設けて評語を記載させて下さい。
3. **「授業科目」**が同じでも**「学年」**が異なる場合があるので，**「授業科目」**と**「学年」**の両方を参照して転記するよう伝えてください。
4. また複数の「教育目標」を設定している科目(実験・実習科目および卒業研究)があります。その場合，「教育目標」の数だけ評価の記入欄が設けられていますので，全ての評価の記入欄に同じ「評語(A～D)」を転記させてください。

＜table2B への入力作業について＞

入力作業は担任で行っていただきます。ご理解とご協力をお願いします。

学生による学生達成度評価実施後，table2A(紙ベース)のデータを table2B(エクセルファイル)に入力してください。table2B のデータは，table2A のデータを元に作成していますので，授業科目の順序は同じです。**出席番号順に授業科目ごとの評語 A～D を「半角」「大文字」で入力してください。**エクセルで文字データを数値化する際，「全角」となっていると 0 と数値化されてしまいます。未受講の欄は何も記入しないでください(空白でお願いします)。記入漏れの科目については表中に欄を作成願います。

全ての入力を終えたら，「成績証明書の写し」と「table2A」は，学生課教務係に返却してください。

table2B.xls のファイルは後藤まで電子メールにファイルを添付した形で送ってください。

不明な点については，後藤までお問い合わせください。

以上，よろしくお願い致します。

（出典　教務小委員会作成資料）

資料６－ １－ ①－ ７

達成度評価様式と記入方法（４年生の例）

table2A　　M4

M4 table2A	授業科目	単位数	学年	教育目標	形式	評価
	国語	2	2	D	Z	A
	国語	2	3	D	Z	B
	現代国語	2	1	D	Z	A
	古典	1	1	D	Z	A
	文学特論	2	4	D	Z	B
	歴史	2	2	A	Z	B
	歴史	2	3	A	Z	A
	地理	2	1	A	Z	A
	地球環境学概論	1	1	A	Z	D
	社会と文化	2	3	A	Z	A
	数学ＡⅠ	2	1	B	Z	A
	数学ＡⅠ	2	2	B	Z	A
	数学ＡⅠ	2	3	B	Z	A
	数学ＡⅡ	2	1	B	Z	A
	数学ＡⅡ	2	2	B	Z	A
	数学ＡⅡ	2	3	B	Z	A
	数学Ｂ	2	1	B	Z	A
	数学Ｂ	2	2	B	Z	A
	数学Ｂ	2	3	B	Z	A
	物理	2	1	B	Z	A
	物理	2	2	B	Z	B
	物理実験	1	2	B	X	B
	化学Ⅰ	2	1	B	Z	A
	化学Ⅱ	2	2	B	Z	B
	化学Ⅲ	1	2	B	Z	B

出席番号 00
氏　　名

①出席番号と氏名を記入。

②成績証明書に記載されている評語 **A～D** を table2A の**「評価」**の欄に転記する。

（記入上の注意）

１.教育目標が複数ある科目は転記する欄が教育目標の数と同じ数だけあるので注意して下さい。（教育目標が複数ある科目は全て同じ評語にして下さい。）

２.授業科目名が同じで学年が異なる科目もあります。この場合は学年毎の評語を転記して下さい。

３.成績証明書に未記載の科目は空欄にして下さい。転記欄を間違えないよう気をつけてください。

図１　table2A への評語 A～D の転記

（出典　教務小委員会作成資料）

資料６－ １－ ①－ ８

達成度評価にかかる教務小委員会の開催案内

Subject: 第2回教務小委員会開催のお知らせ
From:
Date: Thu, 28 Apr 2011 21:00:15 +0900
To:

教務小委員会委員各位

です。

下記のように第２回教務小委員会を開催したいと思います。（ご都合が合わない先生方には申し訳ありません。）

記

日時：５月９日（月）15:45～17:00
場所：第３会議室（予定）
大河係長殿、部屋の確保をお願いいたします。
主な議事：
１）校長リーダーシップ経費申請について
２）教務規則の整備
３）学習支援の進捗
４）到達度評価（ＧＰＡ）の進捗
５）中間試験時間割
６）教員相互の授業参観
７）静岡大学との教育・研究協力協定の具体的活動
８）企業技術者等活用プログラム
９）その他

以上、ご参集のほどよろしくお願いいたします。

（出典　教務小委員会学内メール）

資料６－ １－ ①－ ９

専攻科の教育目標の達成度評価に関する規則（抜粋）

６．沼津工業高等専門学校専攻科の教育目標の達成度評価に関する規則

（趣　　旨）

第 １ 条　この規則は、沼津工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 54 条の規定に基づき、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）専攻科における教育目標の達成度評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

（教育目標の達成度評価）

第 ２ 条　本校専攻科における教育目標達成度評価は、グレードポイントアベレージ（GPA）法を用いることとし、具体的には以下の方法によるものとする。

⑴　各科目における教育目標毎の学生の達成度評価方法

成績評価で（A、B又はC評価）となった科目について、以下の計算方法により、当該科目の教育目標毎の評価点を算出することとする。

ア　授業計画書に記載された教育目標毎の重みを意味する記号◎、○及び―のうち、記号○に５％ずつの重みを配分し、記号◎に残りの重みを個数に応じて均等配分する。なお、記号―には配分しないこととする。

イ　成績評価における評語を４点満点の評価点（A評価は４点、B評価は２点、C評価は１点とする。）に変換した後、教育目標毎にアで設定した重みを乗じて、目標毎の点数を算出する。なお、目標毎の点数の合計が評価点と一致することを確認するものとする。

⑵　各科目の教育目標毎の達成度評価及び総合的達成度評価方法

前号により求められた各科目の教育目標毎の点数について、受講学生全員（成績評価でD評価となった者を除く。以下同じ。）の合計点（a）を算出するとともに、受講学生全員の評価点が満点と仮定した場合の各科目の教育目標毎の合計点（b）を算出し、この満点と仮定した場合の合計点（b）で受講学生全員の合計点（a）を除する（a／b）ことにより、各科目の教育目標毎の達成度を評価する。また、科目毎に全目標の達成度の合計を目標数（重み配分のない目標数を除く。）で除した総平均値を、当該科目の総合的達成度とする。

⑶　学生毎の各教育目標の達成度評価及び総合的達成度評価方法

学生毎に、第１号により求められた各科目の教育目標毎の点数に各科目の単位数を乗じて全単位数（重み配分のない目標の単位数は除く。以下同じ。）で除した平均値（c）を算出する。別に、全科目の評価点が満点と仮定した場合の各科目の教育目標毎の点数に各科目の単位数を乗じて全単位数で除した平均値（d）を算出し、この満点と仮定した場合の平均値（d）で学生毎の平均値を除する（c／d）ことにより、学生毎の各目標の達成度を評価する。また、学生毎に全目標の達成度の合計を目標数で除した総平均値を、当該学生の総合的達成度とする。修了判定の際に、各目標の達成度が0.5以上、総合的達成度が0.6以上でない場合には、２年次後期の専攻科研究の評価はDとする。

（出典　平成23年度学生便覧）

資料６－ １－ ①－ 10

研究指導報告書（抜粋）

Id	3290
年度	2010
学期	後期
指導教官名	
学生氏名	
学籍番号	
学習・教育目標	上記学生が、以下の能力、姿勢を身につけるよう支援し、指導する。 A. 社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力 B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢 C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力 D. コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力 E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢
学位申請時の専門領域	専門工学系(化学・生物工学)
研究指導報告	
研究題名	ミソおよびフィトステロールのマウスにおける脂質吸収抑制作用に関する研究
研究の概要	日本の伝統的発酵食品であるミソと、その原料であるダイズに含まれるフィトステロールについて、その脂質吸収抑制作用をマウスで検討する。
	1.達成目標／技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し,技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。(A-1) (a) 機能性食品の開発に関する研究の成果が社会に及ぼす効果について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 2.達成目標／最近の工学倫理上の事例を挙げ,問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。(A-2) (a) 「工学倫理」の単位取得をもって、達成度合格である。 3.達成目標／二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。(A-3) (a) 機能性食品に関する研究の成果についての多面的な社会の評価について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 4.達成目標／これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実践することができる。(A-4) (a) 機能性食品に関する研究の成果が自然の生態系に及ぼす影響について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b) 学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 5.達成目標／代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。(B-1) (a) 機能性食品に関する研究について、統計学の手法を用いてデータを処理し、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 6.達成目標／ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(B-2) (a) 機能性食品に関する研究において、データを表計算ソフトやワープロを用いて処理し、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)研究報告書を随時提出させる。 (c)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。

（出典　学内限定ウェブサイト）

資料６－ １－ ①－ 10（続き）

今学期の研究目標	かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 9. 達成目標／工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。(C-1) (a) 機能性食品に関する研究について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 10.達成目標／自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。(C-2) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の技術上の問題点について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 11.達成目標／自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。(C-3) (a) 機能性食品に関する研究において、安全性、経済性、環境負荷について、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 12.社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。 ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく，構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み，実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。(C-4) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の実用化のモデルについて、10年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 13.達成目標／日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。(D-1) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の実用化のモデルについて、10年1月の研究発表会の予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 14.達成目標／自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。(D-2) (a) 2011年1月に予定されている研究発表会の英文要旨を作成させる。 15.達成目標／指定された期限内に、課題を提出できる。(E-1) (a) 研究日誌を提出させる。 16.達成目標／ 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。(E-2) (a)「専攻科実験ITM化学生物工学I,II」の単位の取得をもって、達成度合格である。 17.達成目標／自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。(E-3) (a) 10年1月の研究発表会の予稿を作成させるにあたり、関連論文・報告の要約をさせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させる。また、2011年1月に予定されている研究発表会で発表させる。 18.達成目標／自主的なゼミ・研究会を組織して、学習・研究活動を行うことができる。(E-4) (a) 自主的に研究報告会を実施させる。
今学期の研究の実施時間	209
今学期の研究の 実施時間算出の根拠	実施時間算出の根拠 専攻科研究の授業時間を、月曜日3,4時限、火曜日4時限、水曜日3,4時限に固定し、研究を実施した。ただし、この時間帯に実施できなかった場合、および開講時間数が不足した場合には、代替時間を別に設け全部で最低135単位時間（102実時間）を実施した。また、授業の空き時間を利用しての、これ以外の時間帯での研究の実施は、それを奨励した。研究の実施状況は、学生の日報をもとに確認し、科目実施時間数を算出した。
	1.達成目標／技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し,技術者と社会の関連を例を挙げて説明できる。(A-1) (a) 機能性食品の開発に関する研究の成果が社会に及ぼす効果について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 2.達成目標／最近の工学倫理上の事例を挙げ,問題点と課題を理解し、技術者として適切に対応する方法について提案することができる。(A-2) (a) 「工学倫理」の単位取得をもって、達成度合格である。 3.達成目標／二つ以上の異なる文化、価値観に基づく、工学技術に関する事項の捉え方の差異を理解し、説明できる。(A-3) (a) 機能性食品に関する研究の成果についての多面的な社会の評価について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 4.達成目標／これからの人間活動は自然と調和する必要があることを理解し，工学技術上の諸課題について自然との調和を実

資料６－ １－ ①－ 10（続き）

今学期の研究の達成状況	践することができる。(A-4) (a) 機能性食品に関する研究の成果が自然の生態系に及ぼす影響について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b) 学習成果レポートを提出させた。 5.達成目標／代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。(B-1) (a) 機能性食品に関する研究について、統計学の手法を用いてデータを処理し、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 6.達成目標／ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。(B-2) (a) 機能性食品に関する研究において、データを表計算ソフトやワープロを用いて処理し、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)研究報告書を随時提出させた。 (c)学習成果レポートを提出させた。 7.達成目標／実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し，そこから現象の法則性を抽出することができる。(B-3) (a) 機能性食品に関する研究において見出された法則性について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 8.達成目標／自然現象をモデル化し，工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。(B-4) (a) 機能性食品に関する研究においてマウスを用いて疾病のモデル化を行い、その結果について10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 9. 達成目標／工学技術の基礎的な知識・技術を統合し、創造性を発揮して課題を探求し、組み立て、解決することができる。(C-1) (a) 機能性食品に関する研究について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 10.達成目標／自己の取り組む研究課題に関する問題点を挙げ、いくつかの工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験/計算/フィールドワークを計画・遂行し、データを正確に解析し、工学的に考察し、その重要性を説明・説得することができる。(C-2) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の技術上の問題点について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 11.達成目標／自己の取り組む研究課題に関して、工学技術上の機能的評価のみならず、安全性、経済性、環境負荷を考慮した社会的評価ができる。(C-3) (a) 機能性食品に関する研究において、安全性、経済性、環境負荷について、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 12.社会のニーズを工学技術に反映させる過程で、必要とされるデザイン能力について理解し、説明できる。 ここで、デザイン能力とは、単なる設計図面制作の能力ではなく，構想力，種々の学問・技術を統合して必ずしも正解のない問題に取り組み，実現可能な解を見つけ出していく能力をいう。(C-4) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の実用化のモデルについて、10年および11年1月の研究発表会予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 13.達成目標／日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答えることができる。(D-1) (a) 機能性食品に関する研究において、研究の実用化のモデルについて、10年および11年1月の研究発表会の予稿を書かせたので、達成度合格である。 (b)学習成果レポートを提出させた。 14.達成目標／自己の研究成果の概要を英語で記述することができる。(D-2) (a) 2011年1月の研究発表会で英文要旨を作成させたので、達成度合格である。 15.達成目標／指定された期限内に、課題を提出できる。(E-1) (a) 研究日誌を提出させたので、達成度合格である。 16.達成目標／ 工学技術に関する課題について、チームで取り組み、その中でメンバーシップあるいはリーダーシップを発揮できる。(E-2) (a)「専攻科実験ITM化学生物工学I,II」の単位の取得をもって、達成度合格である。 17.達成目標／自分の研究に関連した学会が発行する雑誌を、定期的・継続的に読むことができる。(E-3) (a) 10年および11年1月の研究発表会の予稿を作成させるにあたり、関連論文・報告の要約をさせたので、達成度合格であ

（分析結果とその根拠理由）

＜準学士課程＞

本校の教育課程は，本校の目的，教育目標，養成すべき人材像に対応づけて体系化されており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）の大多数であるところの必修科目を修得することが卒業要件の一つとなっている。さらに卒業研究指導や学習到達度評価を綿密に実施することで学生の目的達成状況を把握・評価している。以上のことから，本校準学士課程においては学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われていると判断できる。

＜専攻科課程＞

学生の教育目標達成度は，その各項目が指導教員によって把握・評価されている。このことから本校専攻科課程において学生が卒業時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するために適切な取組が行われていると判断できる。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

単位取得に関わる成績評価ならびに進級・卒業（修了）認定基準は適切に設定されており（前出資料５－４－①－２）・（前出資料５－５－①－９），その基準に即して単位認定，進級・卒業（修了）判定は厳格に行われている。

（ｉ）単位取得状況

本校では準学士課程において，年度内に４回の定期試験（前期中間試験，前期末試験，後期中間試験，学年末試験）を実施し，学生の学業成績を評価し単位認定を行っている。不認定科目を残して進級した場合は次年度に再度学習を促して学力の向上を図り，その後再評価を行っている。学年末で単位認定されなかった科目の延べ単位数の合計（準学士課程は資料６－１－②－１，専攻科課程は資料６－１－②－２）を示す。準学士課程においては，年度によるバラつきはあるものの低学年については年々減少傾向にある。一方，高学年では，低学年に比べその数は多く，５年生では年々増加傾向にある。高学年では選択科目が多くなり，選択した科目に対する修得意識の低下に原因があるものと思われる。平成 19 年度以降の入学者については，全ての必修科目を修得していることが卒業要件に加わったため，この傾向は改善されると考える。総修得可能単位数に対する不認定科目単位数の割合は，例えば，準学士課程では平成 22 年度の５年生で 1.0%，専攻科課程では，平成 22 年度で 2.2%であり，その割合は小さく単位取得状況は良好であると判断する。

資料６－ １－ ②－ １

不認定単位数（準学士課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
1年	50	92	24	51	119
2年	126	108	108	179	179
3年	175	200	187	259	278
4年	200	350	281	400	230
5年	331	285	257	243	152
合計	882	1035	857	1132	958

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ②－ ２

不認定単位数（専攻科課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
不認定科目単位数	36	63	63	31	21

（出典　学生課作成資料）

（ⅱ）留年者および退学者数

近年の留年者及び退学者数（準学士課程は資料６－１－②－３，専攻科課程は資料６－１－②－４）は，年度による変動は大きいが，準学士課程における大きな傾向として平成 21 年度までは増加傾向にあったが，平成 22 年度には減少に転じた。平成 21 年度より開始した 1 学年における数学補習及び低学年の学習相談等の学習支援の成果が現れてきたものと判断する。

資料６－ １－ ②－ ３

留年・退学者数（準学士課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
留年者（人）	33	49	18	43	24
退学者（人）	25	29	28	18	21

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ②－ ４

留年・退学者数（専攻科課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度
留年者数(人)	2	5	4
退学者数(人)	2	0	3

（出典　学生課作成資料）

（ⅲ）学業成績状況

学年末試験の平均値の推移（準学士課程は資料６－１－②－５，専攻科課程は資料６－１－②－６）によると，準学士課程では 100 点満点で約 78 点と高い水準が維持されている。専攻科課程の平均値は資料６－１－①－３による教育目標の達成度評価に関する規則に則って算出した GPA の平均値で示したが，最大値が 1.0 であるところ約 0.9 と，やはり高い水準が維持されている。準学士課程５年生を対象とした「教員側から見た学生の到達度評価」の結果（後出資料６－１－④－２，３），専攻科課程の教育目標別の達成度（後出資料６－１－④－５）から判断しても教育の効果が上がっている。

資料６－ １－ ②－ ５

学年末試験の平均値（準学士課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
成績平均点	77.1	77.7	77.7	77.6	77.8

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ②－ ６

GPA 評価平均値（専攻科課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
平均値	0.92	0.91	0.93	0.91	0.88

（出典　学生課作成資料）

（ⅳ）資格等取得状況

本校では技能審査の合格に係る単位修得の認定を行っている（前出資料５－１－②－１４）。このうち，TOEIC は割安の受験料で公開テストを受けられる賛助会員の特典を活かし，学生に受験を奨励しており（資料６－１－②－７），工業英語検定は本校を会場として受験できるよう団体受験を申請して学生への便宜を図っている（資料６－１－②－８）。これらの成果の現れとして，近年の各年度における認定件数（資料６－１－②－９）において，TOEIC 及び工業英検での単位認定件数が比較的多くを占める（資料６－１－②－10）。これらの成果の現れと判断する。学科により取得難易度の高いディジタル技術検定へのチャレンジを推奨し，実際に１級合格者が出る等教育の成果が現れている。

資料６－ １－ ②－ ７

TOEIC 受験案内

各位

舟田です。

第162回のTOEIC公開テストの受験申込み者は、30名でした。

今日の郵便で、団体受験として受験申込書を送付します。

受験料の集金の日付・場所・金額は、追って、お知らせします。
＃現在、スケジュール案をマルサン書店の方に検討頂いています。

In message "Re: 第162回のTOEIC公開テストの受験申込みと第161回のTOEIC公開テストの受験料の返金", Toshio
Funada wrote on Thu, 07 Apr 2011 17:47:45 +0900

> 各位
>
> 舟田です。
>
> ---TOEICの資料のURL
> TOEIC公開テストは年8回（1・3・5・6・7・9・10・11月）
> http://www.toeic.or.jp/toeic/guide01/guide01_01.html?eno=1134
>
> 賛助会員の各種テスト受験料の割引享受
> http://www.toeic.or.jp/iibc/about/support.html
> ---
>
> 現在受験申し込みを受付けている「第162回 TOEIC公開テスト」：
> ---
> 第162回 TOEIC公開テスト
> 試験日2011年5月29日（日）
> 申込期間 2011年3月1日（火）～4月18日（月）締切
> ---
> は、4/6の時点で申込者が10名を越えました。よって、賛助会員価格で団体受験できます。
> 受験料の集金の日時と場所は、追って、お知らせします。
> また、受験票と試験のscoreは、申込用紙に記入した住所に送付されます。
>
> 沼津高専からTOEIC東京事業所への郵便は「4/18の消印有効」ですので、4/18の15:00に学内の受付を締切
> り、郵送手続きします。

（出典　学内メール）

資料６－ １－ ②－ ８

工業英検の受験案内

件名:工業英検の申し込み 【5/10（火）13:00 まで】

関係各位

工業英検まとめ役の大庭です。
本年度は、私とＳ科の大久保進也先生と務めさせて頂きます。

例年、工業英検の団体受験は５月、７月、１１月、１月に実施されます。
来月、５月２９日（日）に、本年度第一回目の工業英検の団体受験が実施されます.
学生には放送でアナウンス（4/27から5/10まで，朝と昼）を行いますので，
特にクラスで連絡していただく必要はありませんが，質問などがありましたら，
学生玄関前のポスターを見るか，大庭のところに質問に来るように伝えて頂きたいと思います.
念のためポスターの原稿を添付しておきます.

表題にもありますように，申し込みの締め切りは５/１０(火)13:00としております.
ご指導の程、よろしくお願いします.

大庭 勝久
電子制御工学科

（出典　学内メール）

資料６－ １－ ②－ ９

学生の資格取得数（準学士課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
資格取得数	116	158	217	237	86

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ②－ 10

技能審査合格に係る単位取得の認定について（平成 23 年度前期）

学科	学年	番号	学生氏名	技能審査名	級・点数	合格年月日	新規認定単位数	備　考
E	4	[redacted]		TOEIC	925	2010年10月23日	7	
C	5			TOEIC	490	2011年1月30日	1	
S	4			工業英検	3級	2010年12月14日	2	
S	5			TOEIC	560	2011年1月30日	2	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
M	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
M	4			TOEIC	740	2011年1月30日	1	TOEIC5単位(740点)ー TOEIC4単位(H22.10.23取得済)
E	5			TOEIC	480	2010年10月23日	1	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
M	3			工業英検	4級	2011年2月28日	1	
D	3			工業英検	4級	2011年2月28日	1	
D	5			TOEIC	500	2011年1月30日	1	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
D	3			工業英検	4級	2011年2月28日	1	
C	5			工業英検	3級	2011年2月28日	1	工業英検2単位(3級)ー 工業英検1単位(4級:H22.2.25取得済)
M	4			工業英検	3級	2011年2月28日	1	工業英検2単位(3級)ー 工業英検1単位(4級:H22.12.14取得済)
M	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
M	5			工業英検	3級	2011年2月28日	2	
M	3			工業英検	4級	2011年2月28日	1	
C	4			工業英検	4級	2011年2月28日	1	3年次に取得
C	4			工業英検	4級	2011年2月28日	1	3年次に取得
C	4			工業英検	4級	2011年2月28日	1	3年次に取得
E	5			CAD利用技術者試験	2級	2010年7月13日	2	

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の学業成績平均点，進級，卒業（修了）時の状況は，年による変動はあるものの，ほぼ毎年高い水準を保っており，基本的に教育活動は健全に機能しているといえる。ただし，不認定科目数を一層軽減し，留年や退学をせず課程を修めさせることは重要な課題であり，成果を出しつつある学内での学習支援や寮生活での学習時間の確保についても一層の改善を検討し続けている。以上のことから本校では各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

就職率（就職者数を就職希望者数で除した値）及び進学率（進学者を進学希望者数で除した値）は，準学士課程及び専攻科課程のいずれにおいても極めて高い水準を維持している（準学士課程は資料６－１－③－１，専攻科課程は資料６－１－③－２）。平成 22 年度の準学士課程卒業生の学科毎の業種別就職者数（資料６－１－③－３）及び専攻科修了生の業種別就職者数（資料６－１－③－４）から大半の者が該当分野の技術系へ進んでいることから，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。進学については，平成 22 年度の準学士課程卒業生の進学先大学・学部等（資料６－１－③－５）及び過去５年間の専攻科修了生の進学先大学院（資料６－１－③－６）から，大半が国公立の理工系へ進んでいることから，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

資料６－ １－ ③－ １

就職率および進学率（準学士課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
求人数　（人）	1,370	1,309	2,561	2,606	1,680
就職希望者数　（人）	87	89	109	78	88
就職者数　（人）	86	89	109	78	88
就職率　（%）	99	100	100	100	100
求人倍率　（倍）	15.7	14.7	23.5	33.4	19.1
進学希望者数　（人）	99	111	90	113	106
進学者数　（人）	96	108	88	112	103
進学率　（%）	97	97	98	99	97

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ③－ ２

就職率および進学率（専攻科課程）

	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 20 年度	平成 19 年度	平成 18 年度
就職希望者数　（人）	17	24	23	9	14
就職者数　（人）	17	24	23	9	14
就職率　（%）	100	100	100	100	100
進学希望者数　（人）	11	9	7	8	10
進学者数　（人）	11	9	7	8	10
進学率　（%）	100	100	100	100	100

（出典　学生課作成資料）

資料６－ １－ ③－ ３

平成22年度の準学士課程卒業生の学科毎の業種別就職者数

平成22年度卒業生の進路状況

■区分	M	E	D	S	C	■合計
卒業生数	44	31	35	37	39	186
就職者数	29	11	16	12	18	86
編入学者数	10	15	7	17	19	68
専攻科入学者数	5	5	9	6	2	27
その他	－	－	3	2	－	5
求人会社数	370	337	257	261	145	1,370
●就職者内訳						
産業別						
建設	1	－	－	－	－	1
食品	2	3	1	2	－	8
繊維	－	－	－	－	－	－
化学	1	－	2	－	13	16
鉄鋼	－	－	－	－	－	－
非鉄金属	－	－	－	－	－	－
金属製品	－	－	－	－	－	－
一般機械器具	3	－	－	1	－	4
電気機械器具	5	－	4	1	1	11
輸送機械器具	6	1	3	－	－	10
精密機械器具	5	－	－	3	2	10
その他製造	4	1	2	－	2	9
電気・ガス	1	2	－	1	－	4
運輸・通信	－	2	2	4	－	8
卸売・小売	－	－	－	－	－	－
サービス業	－	1	1	－	－	2
上記・その他	1	1	1	－	－	3
地区別						
京浜地区	13	4	9	4	6	36
静岡県内	9	4	5	5	11	34
京阪神地区	3	－	－	－	1	4
その他	4	3	2	3	－	12

M：機械工学科　E：電気電子工学科　D：電子制御工学科　S：制御情報工学科　C：物質工学科

（出典　平成23年度 沼津高専概要p. 15）

資料６－ １－ ③－ ４

平成22年度の専攻科修了生の専攻毎の業種別就職者数

平成22年度修了生の進路状況

■区分	ME	DS	CB	■合計
修了生数	10	10	8	28
就職者数	6	5	6	17
大学院入学者数	3	5	2	10
その他	1	－	－	1
求人会社数	47	46	21	114
●就職者内訳				
産業別				
建設	－	－	－	－
食品	1	－	2	3
繊維	－	－	－	－
化学	－	1	3	4
鉄鋼	1	－	－	1
非鉄金属	－	－	－	－
金属製品	－	－	－	－
一般機械器具	3	1	－	4
電気機械器具	－	3	－	3
輸送機械器具	－	－	1	1
精密機械器具	1	－	－	1
その他製造	－	－	－	－
電気・ガス	－	－	－	－
運輸・通信	－	－	－	－
卸売・小売	－	－	－	－
サービス業	－	－	－	－
上記・その他	－	－	－	－
地区別				
京浜地区	2	4	5	11
静岡県内	4	1	1	6
京阪神地区	－	－	－	－
その他	－	－	－	－

ME：機械・電気システム工学専攻

DS：制御･情報システム工学専攻

CB：応用物質工学専攻

（出典　平成23年度 沼津高専概要p. 16）

資料６－１－③－５

平成22年度の準学士課程卒業生の進学先大学・学部等

大学名	学部名	合格者数合計	学科別合格者数	学科
東北	理	1	1	S
福島	共生システム理工	3	1	E
			2	S
筑波	理工学群	3	2	D
			1	C
	情報学群	2	2	S
茨城	工	1	1 (1)	S
群馬	社会情報	1	1 (1)	S
千葉	工	1	1 (1)	S
東京	農	1	1	C
東京農工	工	4	1	M
			2	E
			1	S
	農	1	1 (1)	C
東京工業	工	1	1	C
	生命理工	1	1	C
東京海洋	海洋科	2	2	C
横浜国立	工	1	1	E
新潟	理	2	2	S
長岡技術科学	工	8	2	M
			1	E
			3	S
			2 (1)	C
富山	工	1	1 (1)	D
金沢	理工	2	1	M
			1	C
福井	工	1	1 (1)	S
岐阜	工	1	1 (1)	C
静岡	工	3	1	M
			1	E
			1	S
	情報	1	1	S
	農	1	1 (1)	C
名古屋	工	2	1	D
			1 (1)	C
	情報文化	1	1	S
名古屋工業	生命・物質工	2	2	C
豊橋技術科学	工	25	4 (1)	M
			7 (1)	E
			3 (1)	D
			3	S
			8 (5)	C
三重	工	1	1	E
	生物資源	2	2	C
京都工芸繊維	工芸科	1	1	C
大阪	基礎工	1	1	D
和歌山	システム工	1	1 (1)	S
鳥取	工	1	1 (1)	S
岡山	理	1	1 (1)	C
広島	総合科学	1	1 (1)	S
	生物生産	2	2	C
徳島	工	1	1	D
大分	工	1	1	M
首都大学東京	都市環境	1	1 (1)	C
	システムデザイン	1	1 (1)	S
静岡県立	食品栄養科	1	1	C
福井県立	生物資源	1	1 (1)	C
東京電機	未来科学	1	1	E
東京工芸	芸術	1	1 (1)	E
日本	国際関係	1	1 (1)	S
神奈川	人間科	1	1 (1)	S
立命館	理工	1	1	E

注：「合格者数」欄のかっこ内は辞退者で内数である。

（出典　進学のためのガイドブック（平成23年2月）p. 36）

資料６－１－③－６

過去５年間の専攻科修了生の進学先大学院

修了生の進学状況

※最近５年間

■大学院名	■入学年度 平成19	20	21	22	23
●国立					
北海道大学大学院	－	－	1	－	－
筑波大学大学院	－	1	1	－	－
埼玉大学大学院	1	－	－	－	－
東京大学大学院	2	－	－	1	－
東京工業大学大学院	1	4	1	3	3
電気通信大学大学院	－	－	－	－	1
横浜国立大学大学院	－	－	1	－	1
長岡技術科学大学大学院	1	－	－	－	－
静岡大学大学院	1	－	－	－	－
豊橋技術科学大学大学院	1	－	－	1	－
北陸先端科学技術大学院大学	－	－	－	1	－
奈良先端科学技術大学院大学	2	2	2	2	5
●公立					
静岡県立大学大学院	－	－	－	1	－
●私立					
国学院大学大学院	1	－	－	－	－
立命館大学大学院	－	1	－	－	－
合計	10	8	6	9	10

（出典　平成23年度 沼津高専概要p. 16）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，専攻科課程ともに就職率，進学率は極めて高い水準を維持している。卒業（修了）後の就職先及び進学先も大半の者が本校の目的にかなった方面に進んでおり，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

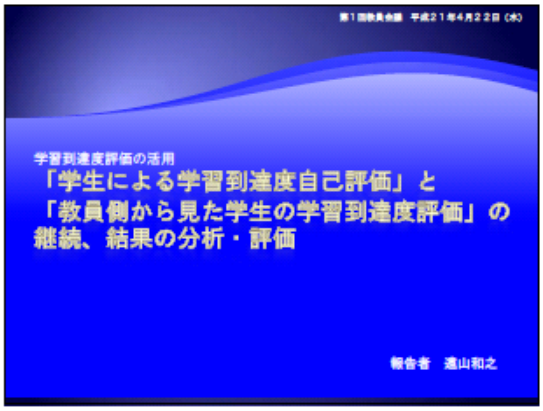
毎年１月に準学士課程３年生と５年生を対象に「学生による学習到達度自己評価」を，毎年５月に準学士課程４・５年生を対象に「教員側から見た学生の学習到達度評価」を実施している。専攻科では半期毎に専攻科規則集規則補遺－２に規定した（前出資料６－１－①－９）方法で教育目標の達成度を評価している。

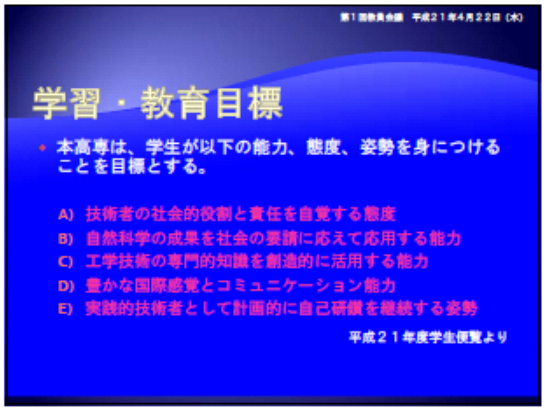
平成20年度に準学士課程５年生を対象に行った分析結果（資料６－１－④－１）では，学習・教育目標CとEにおいてGPA３以上の学生が６割近くに達し，学生による学習到達度自己評価とも一致していた。これに対し，学習・教育目標A，B，Dについては，GPAが３以上の学生は３～４割にとどまり，学生による学生到達度自己評価で「優れている」と回答している学生の意識と実際の評価で２割程度の開きがあった。

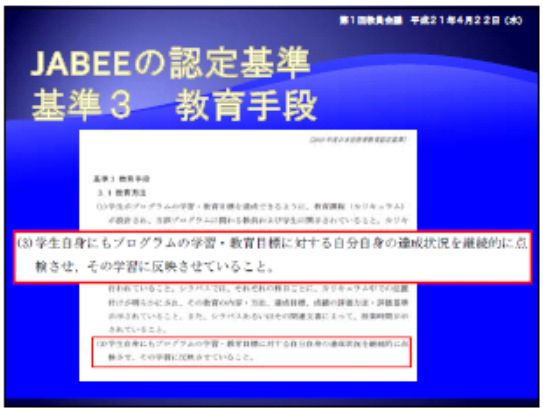
平成22年度の調査（資料６－１－④－２）で，学習教育目標AとDは，「優れている」「普通」を合わせた数値が平成18年度を上回り，一定の成果が認められる。学習・教育目標別のGPA（資料６－１－④－３）においても上回り，いずれの年度においても　学習・教育目標Bを除いてGPAは高い。

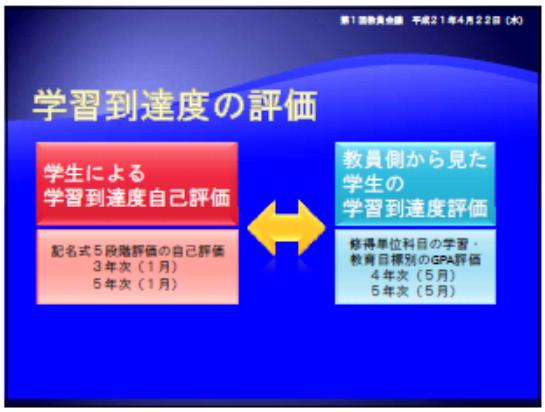
専攻科では，各教育目標の達成度を0.5以上，総合的達成度を0.6以上と規定している（前出資料６－１－①－９）。平成22年度の各科目のGPA（資料６－１－④－４）は，ほとんどの教科において平均値が0.7以上の高い数値になっている。また、平成18年度～22年度の教育目標別の達成度（資料６－１－④－５）は、いずれの年度においても全ての教育目標で0.8以上の高い数値である。

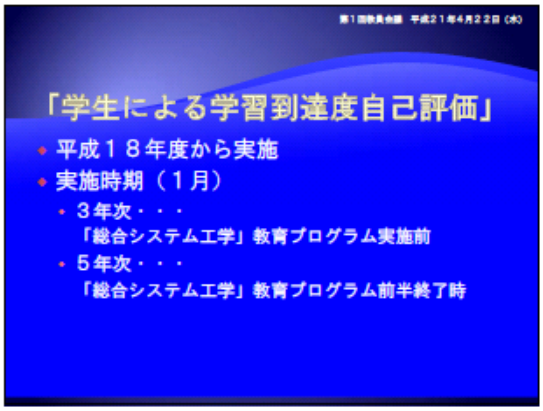
資料６－１－④－１

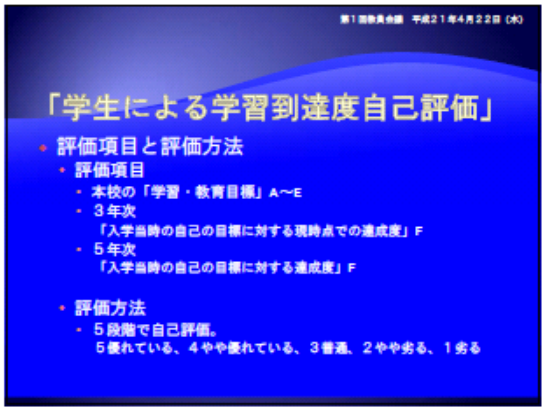






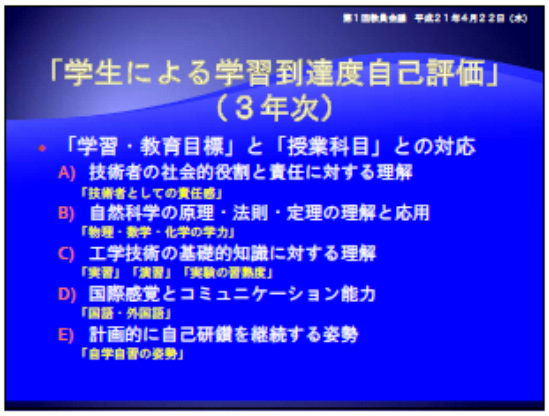


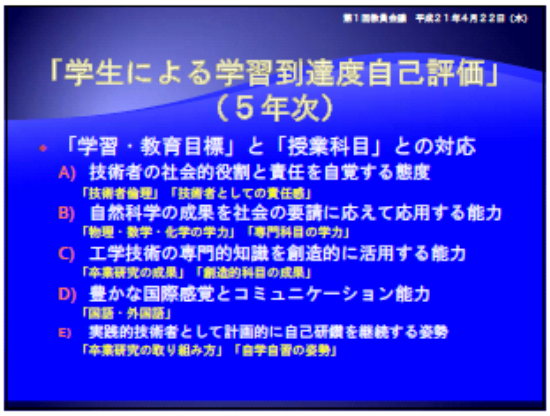


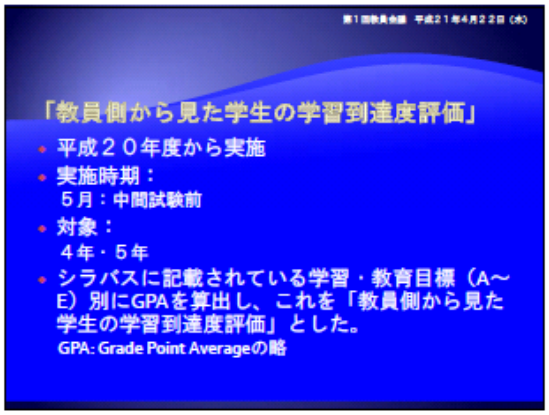


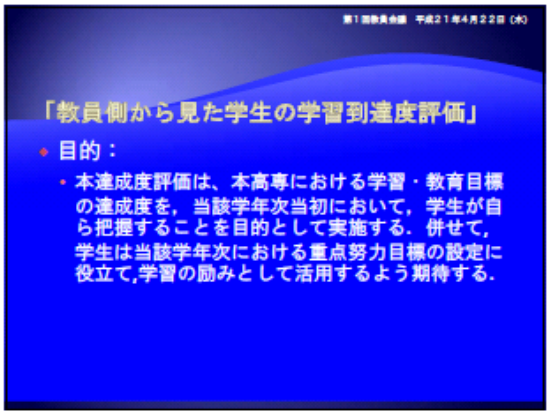
（出典　平成 21 年第１回教員会議資料）

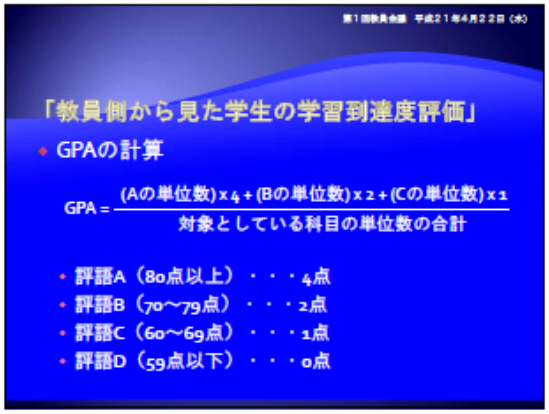
資料６－１－④－１続き







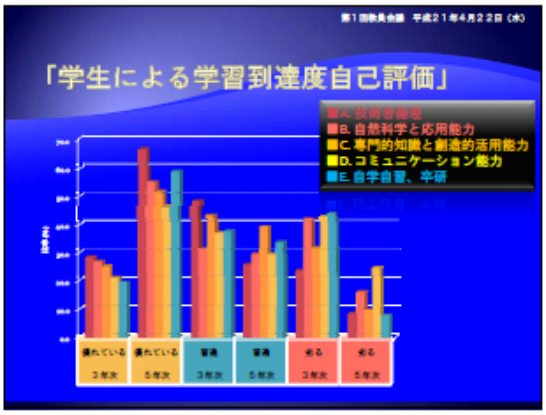


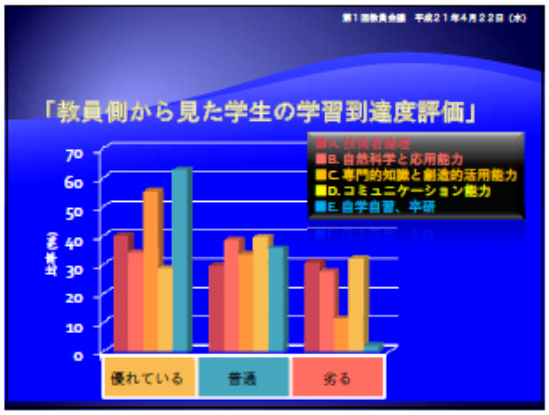


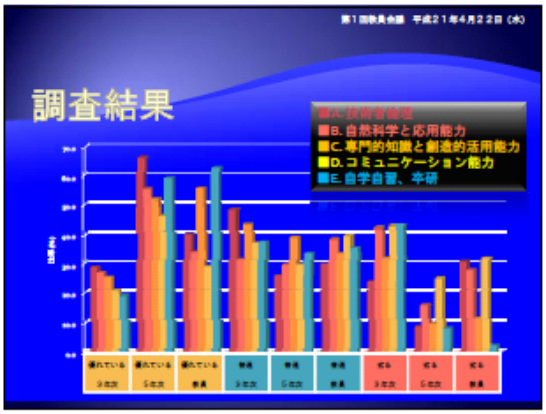


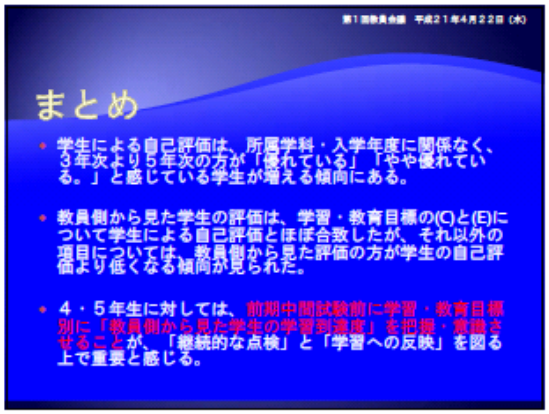
（出典　平成 21 年第１回教員会議資料）

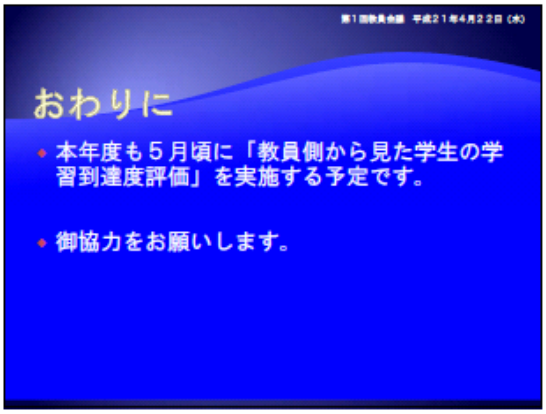
資料６－１－④－１続き







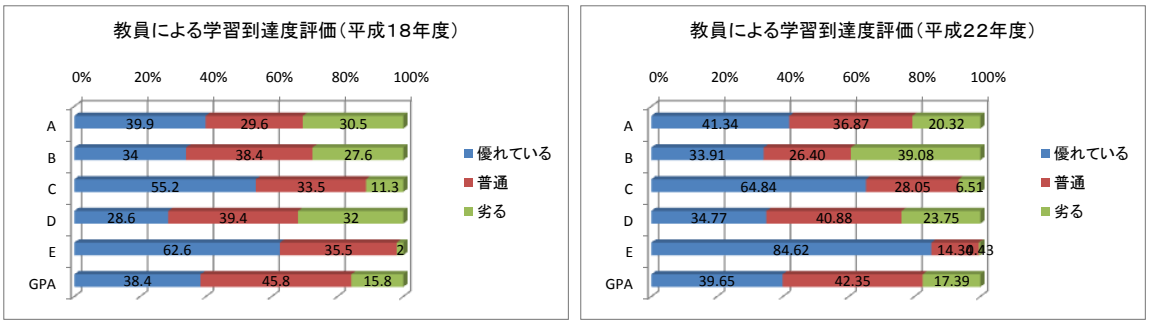




（出典　平成 21 年第１回教員会議資料）

資料６－１－④－２

教員による学習到達度の比較



（出典　平成 18 年度・平成 22 年度学習到達度調査資料）

資料６－１－④－３

教員による学習到達度の比較

学習・教育目標		H18	H22
A	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度	2.67	2.69
B	自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力	2.61	2.46
C	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力	3.05	3.10
D	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力	2.53	2.64
E	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢	3.15	3.44
GPA		2.74	2.74

（出典　平成18年度・平成22年度学習到達度調査資料）

資料６－１－④－４

学習・教育目標の達成状況（専攻科）

平成22年 後期 科目別 達成度	単位	単位取得者数	シラバス記載の学習・教育目標の重み					評価点4点での配分					評価点合計(a)					満点評価の場合の評価点の合計(b)					学習・教育目標の達成状況(a/b)				
学習教育目標			A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
食品保存工学	2	10	-	○	◎	-	-		0.2	3.8				2.0	38.0				2.0	38.0				1.0	1.0		
材料物理化学	2	2	○	◎	○	○	○	0.2	3.2	0.2	0.2	0.2	0.4	6.4	0.4	0.4	0.4	0.4	6.4	0.4	0.4	0.4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
生物生産工学	2	0	○	○	◎	○	○	0.2	0.2	3.2	0.2	0.2															
微生物工学	2	0	○	○	◎	○	○	0.2	0.2	3.2	0.2	0.2															
有機化学	2	0	-	◎	◎	○	○		1.8	1.8	0.2	0.2															
有機材料設計	2	13	○	◎	◎	○	◎	0.2	1.2	1.2	0.2	1.2	2.4	14.4	14.4	2.4	14.4	2.6	15.6	15.6	2.6	15.6	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
計算流体力学	2	1	-	○	◎	-	-		0.2	3.8				0.2	3.8				0.2	3.8				1.0	1.0		
計算機アーキテクチャー	2	9	-	◎	-	-	-		4					36.0					36.0					1.0			
電気機器学特論	2	2	-	◎	-	-	-		4					8.0					8.0					1.0			
電子デバイス	2	8	○	○	◎	○	○	0.2	0.2	3.2	0.2	0.2	1.6	1.6	25.6	1.6	1.6	1.6	1.6	25.6	1.6	1.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ネットワーク	2	12	-	◎	-	-	-		4					40.0					48.0					0.8			
電磁波工学II	2	0	○	◎	○	-	-	0.2	3.6	0.2																	
集積回路設計	2	12	○	○	◎	-	-	0.2	0.2	3.6			2.0	2.0	36.0			2.4	2.4	43.2	0.0	0.0	0.8	0.8	0.8		
流体エネルギ変換工学	2	8	-	-	◎	-	-			4					27.0					32.0					0.8		
流体力学	2	12	-	○	◎	-	-		0.2	3.8				1.9	35.2				2.4	45.6				0.8	0.8		
音響工学	2	15	-	◎	○	-	○		3.6	0.2		0.2		38.7	2.2		2.2		54.0	3.0		3.0		0.7	0.7		0.7
精密加工学	2	7	-	○	◎	-	○		0.2	3.6		0.2		1.4	25.2		1.4		1.4	25.2		1.4		1.0	1.0		1.0
工業材料	2	6	-	◎	-	-	-		4					22.0					24.0					0.9			
適応制御工学	2	9	-	◎	○	○	○		3.4	0.2	0.2	0.2		27.2	1.6	1.6	1.6		30.6	1.8	1.8	1.8		0.9	0.9	0.9	0.9
振動制御工学	2	5	-	◎	○	-	○		3.6	0.2		0.2		16.2	0.9	0.0	0.9		18.0	1.0		1.0		0.9	0.9		0.9
地球環境学	2	29	◎	-	○	○	-	3.6		0.2	0.2		99.0		5.5	5.5		104.4		5.8	5.8		0.9		0.9	0.9	
工学倫理－後	2	12	◎	○	○	○	○	3.2	0.2	0.2	0.2	0.2	38.4	2.4	2.4	2.4	2.4	38.4	2.4	2.4	2.4	2.4	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
応用数学II	2	32	-	◎	-	-	-		4					124.0					128.0					1.0			
熱統計物理学	2	31	○	◎	-	-	-	0.2	3.8				5.2	97.9				6.2	117.8				0.8	0.8			
現代物理学	2	22	○	◎	○	-	-	0.2	3.6	0.2			4.2	75.6	4.2			4.4	79.2	4.4			1.0	1.0	1.0		
結晶化学	2	5	-	◎	-	-	-		4					12.0					20.0					0.6			
英作文II	1	21	-	-	-	◎	○				3.8	0.2				74.1	3.9				79.8	4.2				0.9	0.9
英会話II	1	6	-	-	○	◎	-			0.2	3.8				1.2	22.8				1.2	22.8				1.0	1.0	
専攻科実験II ITM電気電子工学	2	5	○	○	◎	-	○	0.2	0.2	3.4		0.2	0.8	0.8	13.6		0.8	1.0	1.0	17.0		1.0	0.8	0.8	0.8		0.8
専攻科実験II ITMネットワーク	2	13	○	○	○	○	◎	0.2	0.2	0.2	0.2	3.2	2.6	2.6	2.6	2.6	41.6	2.6	2.6	2.6	2.6	41.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
専攻科実験II ITM制御情報工学	2	2	-	◎	○	-	-		3.8	0.2				7.6	0.4				7.6	0.4				1.0	1.0		
専攻科実験II ITM化学生物工学	2	5	○	○	◎	○	○	0.2	0.2	3.2	0.2	0.2	1.0	1.0	16.0	1.0	1.0	1.0	1.0	16.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
専攻科実験II ITM機械工学	2	8	-	○	◎	-	○		0.2	3.6		0.2		1.3	23.4		1.3		1.6	28.8		1.6		0.8	0.8		0.8
専攻科演習IV ITM電気電子工学	1	4	-	◎	-	○	-		3.8		0.2			15.2		0.8			15.2		0.8			1.0		1.0	
専攻科演習IV ITM電子制御工学	1	8	-	◎	-	-	○		3.8			0.2		30.4			1.6		30.4			1.6		1.0			1.0
専攻科演習IV ITM化学生物工学	1	8	-	-	◎	-	○			3.8		0.2			26.6		1.4			30.4		1.6			0.9		0.9
専攻科演習IV ITM制御情報工学	1	4	-	◎	-	-	-		4					16.0					16.0					1.0			
専攻科演習IV ITM機械工学	1	3	○	○	○	○	◎	0.2	0.2	0.2	0.2	3.2	0.6	0.6	0.6	0.6	9.6	0.6	0.6	0.6	0.6	9.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
専攻科演習II ITM電気電子工学	1	6	-	◎	○	-	○		3.6	0.2		0.2		21.6	1.2		1.2		21.6	1.2		1.2		1.0	1.0		1.0
専攻科演習II ITM電子制御工学	1	13	○	○	○	○	◎	0.2	0.2	0.2	0.2	3.2	2.6	2.6	2.6	2.6	41.6	2.6	2.6	2.6	2.6	41.6	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
専攻科演習II ITM化学生物工学	1	5	-	-	◎	-	○			3.8		0.2			19.0		1.0			19.0		1.0			1.0		1.0
専攻科演習II ITM制御情報工学	1	1	-	○	◎	-	◎		0.2	1.9		1.9		0.2	1.9		1.9		0.2	1.9		1.9		1.0	1.0		1.0
専攻科演習II ITM機械工学	1	8	-	◎	○	-	-		3.8	0.2				30.4	1.6				30.4	1.6				1.0	1.0		
技術英語II	1	24	◎	○	○	◎	◎	1.2	0.2	0.2	1.2	1.2	28.8	4.8	4.8	28.8	28.8	28.8	4.8	4.8	28.8	28.8	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
総合ドイツ語II	1	16	-	-	-	◎	-				4					56.0					64.0					0.9	
歴史文化論	2	38	◎	-	-	○	-	3.8			0.2		131.1			6.9		144.4			7.6		0.9			0.9	

（出典　学生課作成資料）

資料６－１－④－５

教育目標毎の達成度評価（専攻科）

		H22		H21		H20		H19		H18	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
達成状況	教育目標A	0.91	0.95	0.91	0.92	0.93	0.94	0.94	0.92	0.89	0.88
	教育目標B	0.87	0.93	0.90	0.89	0.91	0.94	0.89	0.88	0.90	0.91
	教育目標C	0.90	0.94	0.90	0.91	0.93	0.92	0.89	0.92	0.90	0.90
	教育目標D	0.90	0.97	0.91	0.92	0.93	0.95	0.90	0.92	0.82	0.86
	教育目標E	0.88	0.94	0.91	0.89	0.91	0.92	0.91	0.91	0.89	0.86

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生による学習到達度自己評価の結果は，準学士課程３年生より５年生のほうが高くなる傾向を示していることから，学年進行に伴って，学校の意図する５つの学習教育目標が学生に周知され浸透していると判断できる。また，教員による学習到達度評価では，平成18年度より平成22年度の方が「優れている」「普通」の学生が増加したこと，学習教育目標別のGPA自体も平成22年度の方がわずかに上昇したことから，効果が上がっていると判断できる。専攻科においても，規則で総合達成度0.6以上を規定していること，平成22年度の専攻科生の科目別成績においてGPA0.7以上が達成されていること，および平成18年度～22年度において各年度ともGPA平均値が0.8以上の数値であることから効果が上がっていると判断できる。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

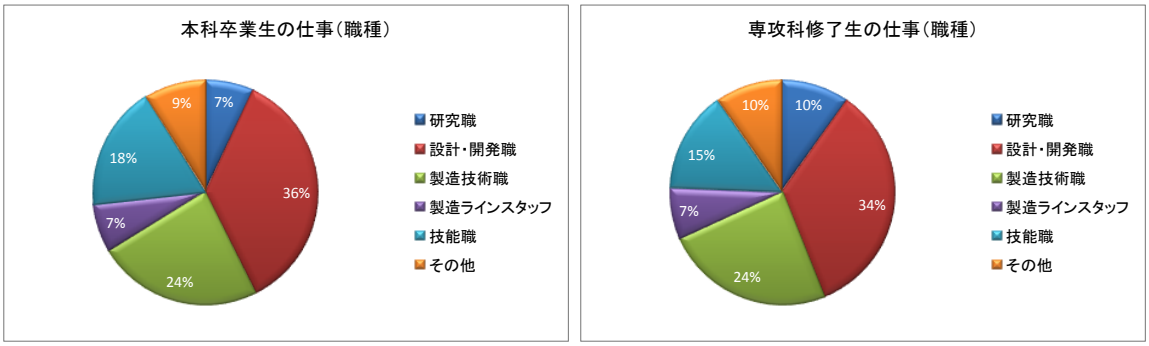
本校では，平成18～21年度の卒業（修了）生を対象に，学校として明確にしている卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力がどの程度身に付いているか，卒業（修了）後の成果について，アンケート調査を実施している。このほか，卒業（修了）生の就職先に，卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力がどの程度身に付いているかアンケート調査を実施している。

就職先企業のアンケート結果（資料６－１－⑤－１～４），卒業（修了）生によるアンケート結果（資料６－１－⑤－５～８）のどちらからも，準学士課程の卒業時に身に付けるべき「コミュニケーション能力」及び専攻科課程の修了時に身に付けるべき「国際的な受信・発信能力」についてはやや低い評価となったが，基礎学力に関する項目（準学士課程の卒業時に身に付けるべき「自然科学」「工学技術」及び専攻科課程の修了時に身に付けるべき「社会要請に応えられる工学基礎学力」「工学専門知識の創造的活用能力」）について高い評価を得た。また，卒業（修了）生によるアンケート結果において，総合的満足度の項目で９割近い卒業（修了）生が「十分満足」「ある程

度満足」と回答しており，中でも準学士課程４年生または５年生および専攻科課程で実施しているインターンシップが卒業後や修了後の進路を考えることに効果的であり（資料６－１－⑤－９～11），卒業（修了）生の総合的満足度の向上に寄与していることが示唆された。就職先企業のアンケート結果においても９割以上の企業が「普通」以上の高い評価をしている。

資料６－１－⑤－１

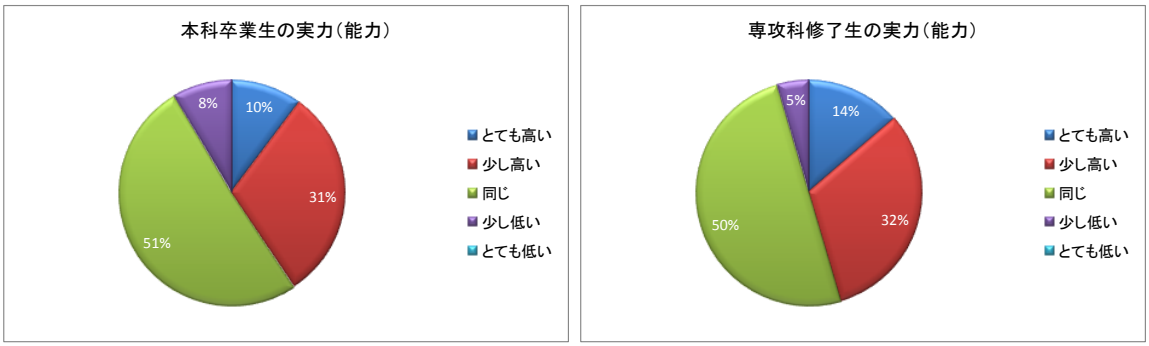
調査対象となった本科卒業生と専攻科修了生の職種



（出典　求人企業による本科卒業生と専攻科修了生に対するアンケート）

資料６－１－⑤－２

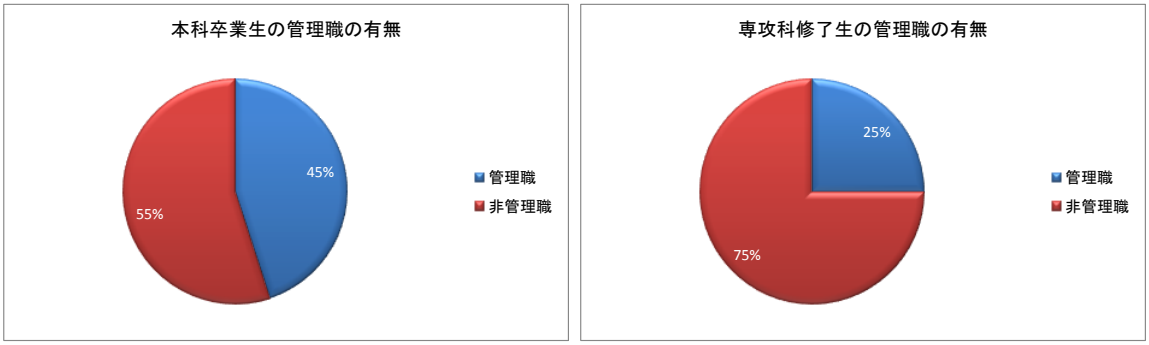
本科卒業生と専攻科修了生を大学学部卒業生と比較



（出典　求人企業による本科卒業生と専攻科修了生に対するアンケート）

資料６－１－⑤－３

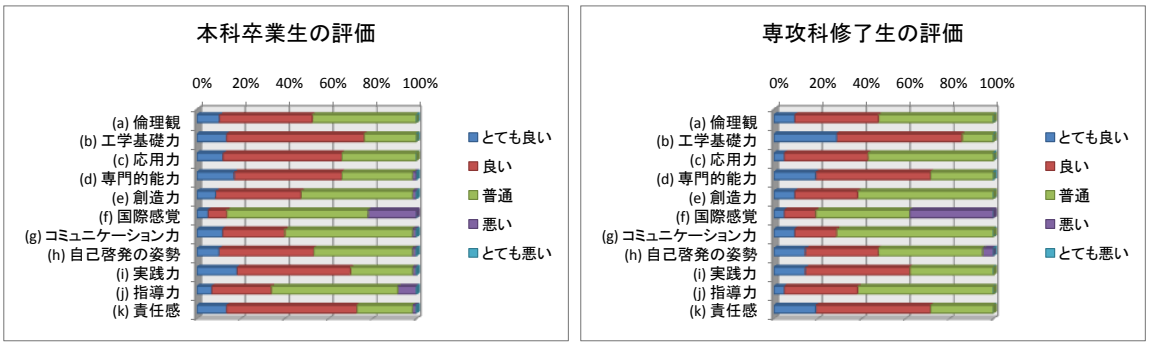
本科卒業生と専攻科修了生の管理職・非管理職の割合



（出典　求人企業による本科卒業生と専攻科修了生に対するアンケート）

資料６－１－⑤－４

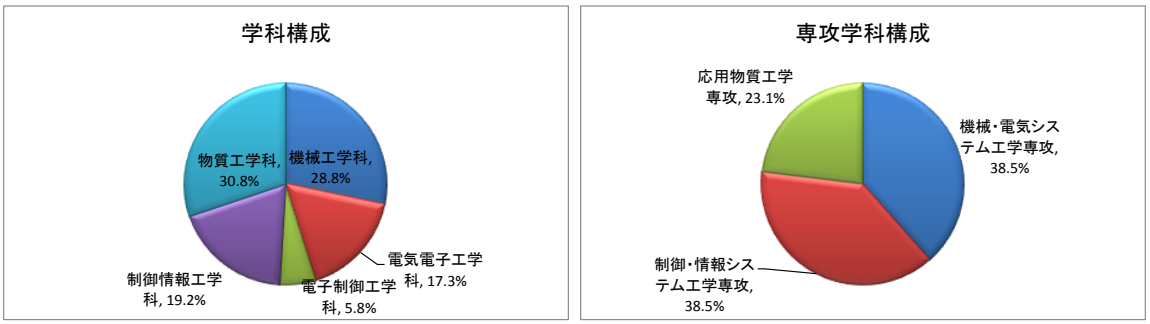
本科卒業生と専攻科修了生の評価



（出典　求人企業による本科卒業生と専攻科修了生に対するアンケート）

資料６－１－⑤－５

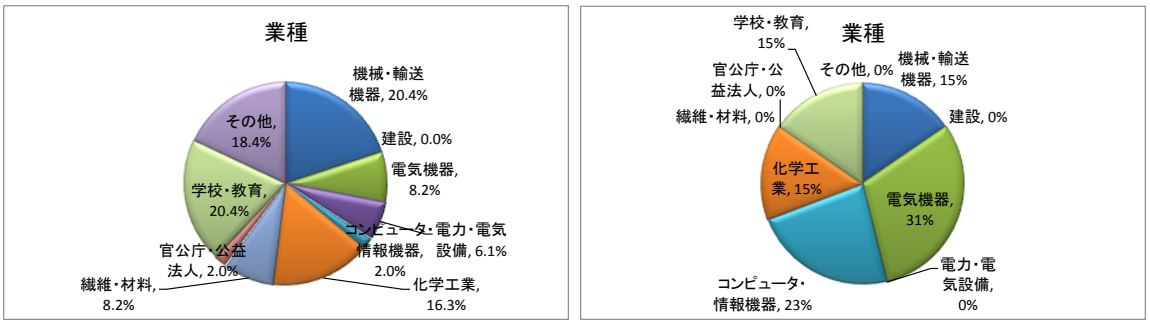
本科卒業生と専攻科修了生のアンケート対象者の学科構成



（出典　本科卒業生向けアンケートおよび専攻科修了生向けアンケート）

資料６－１－⑤－６

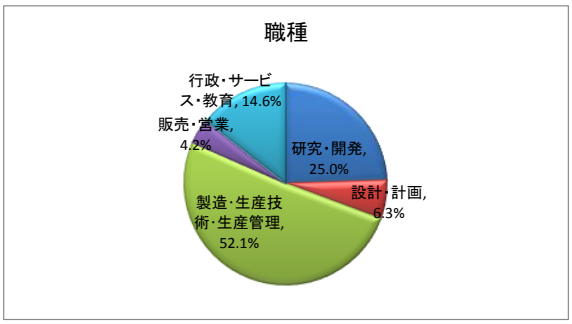
本科卒業生と専攻科修了生のアンケート対象者の業種

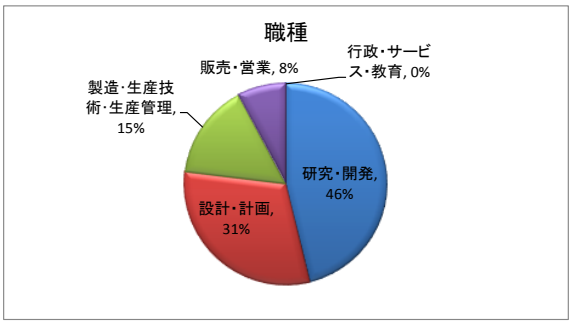


（出典　本科卒業生向けアンケートおよび専攻科修了生向けアンケート）

資料６－１－⑤－７

本科卒業生と専攻科修了生のアンケート対象者の職種

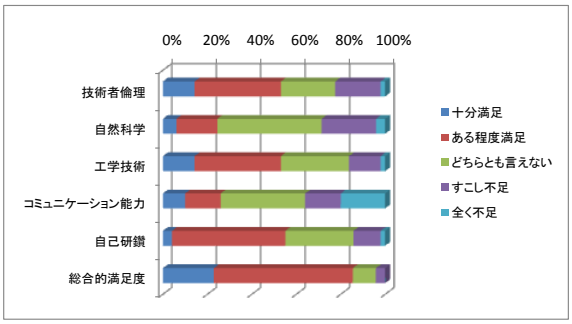


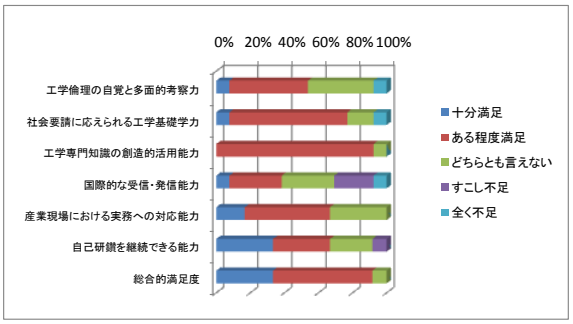


（出典　本科卒業生向けアンケートおよび専攻科修了生向けアンケート）

資料６－１－⑤－８

本科卒業生と専攻科修了生の本校の教育に対する満足度

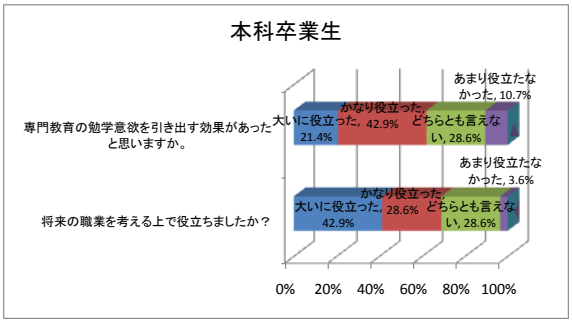


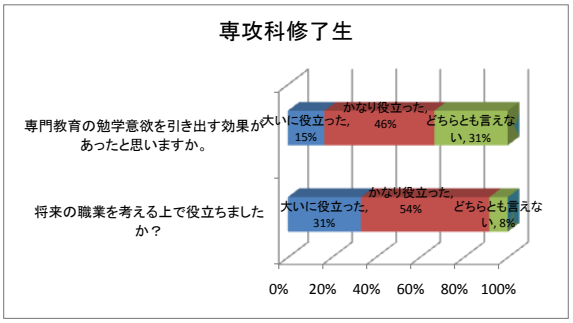


（出典　本科卒業生向けアンケートおよび専攻科修了生向けアンケート）

資料６－１－⑤－９

本科卒業生と専攻科修了生のインターンシップに対する意識





（出典　本科卒業生向けアンケートおよび専攻科修了生向けアンケート）

資料６－１－⑤－１０

本科卒業生のインターンシップに対する意見

- インターンシップでは，学校だけでは教わることのできないものを得ることが出来た。
- ぜひ続けて欲しい。経験できて良かった。
- インターンシップでお世話になった以降も，未だに出入りして勉強させて頂いている。
- 高専卒としてその企業に入社した場合にどのような受け入れ方をされるのか。という点が分かるようにインターンシップを行っていただける態勢を整える必要があると思います。大手企業では，高専生向けのインターンシッププログラムが用意されているところもありますが，自分の行った企業は，業界大手企業での受け入れのはずが，製造を担当している子会社に配属され，高専卒として働くことのイメージを掴むことが全く出来ませんでした。
- 実際に，受け入れ先の現場では，「高専の人はこんなところには来ないね」といったようなことを言っておられ，高専生としてのインターンシップである意味合いを感じることが出来ませんでした。
- 即戦力になれる人材育成のためにも，高専生としての受け入れ態勢を整えていただくことが重要だと感じています。
- ４年生で工場見学に行くけど，３年生で工場見学をしていろいろな職場を見てからインターンシップ先を選んだほうが幅が広がる。
- インターンシップをやらずに社会人になりましたが，「会社で働く」ということが概念すらわからず，最初に苦労しました。もっと積極的にインターンシップを推して行ったほうがいいと思います。
- 全員参加するべきだと考えます。就職せず，進学する人も体験していればためになると思う。
- インターンシップは必修単位にしてもいいと思います。
- よりインターンシップの告知等を増やし，そういった機会を増やしていく必要があると思います。
- 卒業後編入した大学で研究インターンシップというものに行ったが，これは通常のインターンシップより長期間で密度も濃いものだった。高専でもただ単に職場体験するようなインターンシップではなく，目的意識を持ってある程度の期間行ってくるようなものにできたらよいと思う。
- インターンシップでは，自分が興味を持っている企業に行くことができたので，関心を持って取り組むことが出来ました。そこで出会った企業の方や現場の雰囲気など多くの情報を吸収することができました。インターンシップでの経験が，今の進路選択に大きく影響しています。
- 就職希望の進路以外の学生も実施できるようにした方がいいと思います。
- インターンシップには高専時代行っていないが，大学で行き，インターンシップは行くべきであると思います。
- インターンシップでは，自分が将来働くということを，肌で感じることのできるいい機会でした。
- 仕事の雰囲気を感じ取ったり，仕事に対するイメージがより密度の高いものになれば十分だと思います。

（出典　本科卒業生向けアンケート）

資料６－１－⑤－１１

専攻科修了生のインターンシップに対する意見

- 短期（２週間程度）のインターンシップでは，企業にとって損になるだけではなく，学生と企業の結びつきも作ることができない。インターンシップの期間は少なくとも１か月以上であるべきだと思う。
- 専攻科生のインターンシップ先は，「①研究室とつながりがある企業」「②将来の就職先候補として挙げている企業」の２パターンがあると思われる。世間的にはインターンシップ先は②の企業であることが多いようであるが，専攻科では①の企業に行くパターンが多かったと思う。両パターンを別のものとして扱い，②にも参加できる機会があれば良かったと思う。
- インターンシップは社会勉強としては大変役に立つと思える．ただし，ほとんどが研究室で割り当てられていたので，もっと自主的に企業が行っているインターンシップにエントリーするべきだと思う。
- インターンシップ生を募集している企業をもっとわかりやすく，本科生・専攻科生共に自由に閲覧できる資料室が欲しい。
- モチベーションの高い学生には，国内だけでなくグローバルな就労体験を実施させても良いと思う。
- インターンシップに行くことで社会に出た時，他の会社の雰囲気も知っていることで自分の会社の評価が相対的に分かっていいです。

（出典　専攻科修了生向けアンケート）

（分析結果とその根拠理由）

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果に関して卒業（修了）生および進路先企業からアンケートにより意見を聴取する取り組みを実施しており，その結果から，本校として期待する教育の成果や効果がおおむね得られている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

専攻科課程において，学生の教育目標の達成は，学生便覧に明記された方法で数値化され、学習教育目標別の達成度が研究指導報告書にて指導教員から学生に周知されている。

「学生による学習到達度自己評価」をアンケート形式で３年生と５年生に対して実施し，「教員側から見た学生の学習到達度評価」を４年生と５年生に対して実施し，教育の成果や効果を把握している。

就職先企業から基礎学力に関する項目について，高い評価を得ている。また、９割近い卒業（修了）生が，総合満足度について「十分満足」「ある程度満足」と回答している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準６の自己評価の概要

本校は教育目標を達成するために必要なカリキュラム編成がなされており，そのカリキュラム編成に従って開講されている科目（単位）の大多数を修得することが卒業要件の一つとなっており，また学習目標の達成度評価も学生，教員がともに実施しており，その状況を把握・評価していることから，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているといえる。また，５年間の集大成である卒業研究については，いずれの学科も卒業論文と卒業研究発表会での内容，そして卒業研究指導教員による日常的な指導の中での質疑応答や観察から，卒業研究の成績評価の基準に沿って目的の達成度を把握・評価している。準学士課程および専攻科課程の各科目における評価基準はシラバスで明文化されており，またその成績評価資料や卒業研究報告書は適切に保管されている。

専攻科課程においては，専攻科企画運営委員会が定期的に開催・運営され，各科目の教育目標達成度の評価基準と評価方法について，各教科担当教員を支援している。また，教育点検の結果に基づき，本プログラムの教育目標の達成度の評価基準と方法等に関しての改善案を策定し，専攻科担当（プログラム）教員会議に提案する活動を行っているので教育目標の達成状況を把握・評価するための取組みは適切である。

就職率や進学率は高い水準を維持していることや就職先企業，卒業（修了）生を対象にして実施したアンケート結果でも高い評価を受けていることから，本校の教育の成果や効果が上がっている。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

入学・編入学予定者と保護者そして専攻科全学生には，学期開始前にオリエンテーションを行い説明を行っている（資料７－１－①－１～３）。準学士課程１年生は４月にも研修を行い，専門学科ごとの教育方針や学習方法，卒業後の進路について動機付けを行っている（資料７－１－①－４～６）。他の学年も年度当初に担任が，学科の現状や学級の運営方針を示している（資料７－１－①－７，８）。

資料７－１－①－１

合格者オリエンテーション資料(抜粋)

平成２３年 ２ 月２５日

合格者への連絡事項

１．入学説明会について

入学に関する説明会を下記のとおり行いますので、保護者同伴で出席してください。この説明会に出席しない者は、本校に入学の意思がないものとして合格を取り消します。

第２体育館で実施しますので、**「上履き（体育館シューズ）」**をご持参ください。

なお、本校への入学を辞退する者は、入学説明会までに辞退届を学生課入試係に提出してください。

記

（１）日　　程

平成２３年 ３ 月 ３ 日（木）

９：００ ～ １０：００　受 付　(同封書類の提出をお願いします。)

１０：００　校長挨拶

１０：０５　副校長(教務主事)、校長補佐(学生主事)、校長補佐(寮務主事)の話

教養科（英語、数学）からの話

１０：３０　事務部からの連絡事項

１１：２０　教育後援会・同窓会の説明

１１：３０　質　疑　応　答

１１：４５　自　由　時　間

１２：４５　学生寮案内（寮生会）

物品購入等（第１体育館）

以上、終了次第解散

（２）場　　所

沼津工業高等専門学校　第２体育館

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－①－２

編入学者オリエンテーション資料(抜粋)

平成２２年 ８月１８日

平成２３年度
編入学者選抜検査合格者　殿

沼津工業高等専門学校長
柳 下　福 蔵
[公印省略]

編入学のための説明会について

このことについて、下記のとおり実施しますので、必ず出席してください。

記

１．日　　時　　平成２２年８月２３日（月）
４学年合格者　　９時００分
３学年合格者　　１３時００分

２．場　　所　　沼津工業高等専門学校　講義棟１階西　Ｍ２教室

３．持 ち 物　　受験票・筆記用具

４．その他連絡事項
別添「入学誓約書」に記入押印の上、８月２３日（月）までに学生課入試係へ提出してください。(説明会当日持参可)

(出典　学生課作成資料)

資料７－１－①－３

専攻科入学者オリエンテーション資料(抜粋)

平成２２年１２月 １ 日

平成２３年度専攻科入学予定者　殿

沼津工業高等専門学校長
柳　下　福　蔵

専攻科入学説明会の開催について（通知）

このことについて、下記のとおり開催しますので必ず出席して下さい。

記

日　　時　　平成２２年１２月 ９ 日（木）１６：３０～

場　　所　　専攻科棟 視聴覚教室

(出典　学生課作成資料)

資料７－１－①－４

新入生オリエンテーション研修のしおり（抜粋）

平成２３年度
新入生オリエンテーション研修のしおり



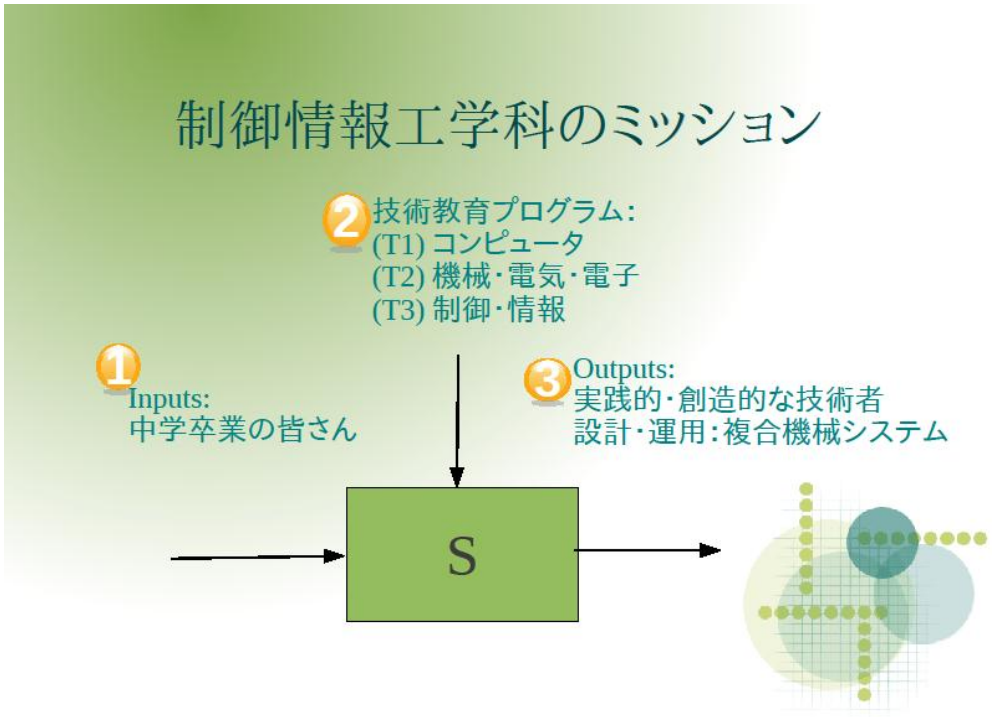
クラス	番　号	氏　名

沼津工業高等専門学校

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－①－５

制御情報工学科紹介資料（抜粋）



（出典　制御情報工学科ガイダンス資料）

資料７－１－①－６

機械工学科紹介資料（抜粋）

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

学科目標

知：工学基礎学力の涵養
徳：穏やかなで寛容な心
体：健全で丈夫な身体

安全

5S（整理，整頓，清掃，清潔，躾）

（出典　機械工学科ガイダンス資料）

資料７－１－①－７

電気電子工学科４年生ガイダンス資料

沼津高専電気電子工学科新5年生へ

2011．4．6．

H23年度クラス担任：〇〇〇〇

居室：E科棟0階E000

電話：055-926-0000

E-mail:xxxxx@numazu-ct･ac･jp

(1)5年生になって考えてほしいこと

･5年生は最上級生であり，卒業という出口に向かって進む重要な学年です．

･1年後は卒業して各自の進路に分かれています．その時，自分はどうなっていたいか考えて，これからの計画を立ててください．

･電気はエネルギーからエコロジーまで広く関わる分野です．電気電子工学科で学んだことをどのように活かしていくか，ということを意識して学修してください．

･夏休み頃までに進路が決まると気が緩みます．「就職が決まっていれば不合格にはならない，卒業できる」などという甘い考えは捨ててください．当たり前ですが，各教科の基準で評価され，不合格で単位が不足すれば留年です．

･5年では「卒業研究」があります．これまで電気電子工学科で学んだことを土台にして自由に研究し，大いに楽しんでください．

･5年生は成人になる年齢でもあります．自分の行動に責任を持つ，つまり，勉強も色々な活動もやらされているのではなく，自分で考えて行っていることなのです．

「人生は，各人が考えたようにしかならない」

(2)東日本大屋災にともなう対処について

通学に支障が予想されるが，可能な範囲で各自対処してください．

計画停電がある場合，授業を別紙の時間割に変更する．月曜実験が午前になる．

東海地震もいつ起きるかわからないので，非常時の行動や連絡方法を確認すること．

(3)学修･単位取得について

･選択科目を積極的に受講しよう．受講票は4月20日まで．

･再評価が必要な者は4月中に申請すること．

･H19年度以降入学者は，すべての必修科目を修得していることが必要です．

･就職活動や大学編入試験で休んでも公休にはなりません．事前に届け出てください．

･欠席･欠課届があれば時数補修が受けられます．その他いかなる場合も休む時は事前に担任に連絡してください．メールでも結構です．

（出典　電気電子工学科４年生ガイダンス資料）

資料７－１－①－８

制御情報工学科３年生ガイダンス資料(抜粋)

平成 23 年度　制御情報工学科第3学年　新年度ガイダンス資料

担任の連絡先（表題に名前を書いたメールを 4/8 までに担任へ送ってください）

学校の E-mail アドレス：xxxxxx@numazu-ct.ac.jp

学校直通の電話番号：０５５－９２６－００００

１．予定

【４月６日（水）】

8:50～新ホームルーム

9:20～始業式・対面式

10:20～ホームルーム・写真撮影・教科書販売等

（写真撮影は 11:25～：学生証に検印、場所は選択制教室４）

13:00～クラブミーティング

【４月７日（木）】

8:50 までに尿キットを教室で回収・その後保健室に提出（13 時に外部機関が回収）

【４月８日（金）】13:45 ぐらいまでは授業を受ける←昨年とは異なるので注意！

13:50～14:35 定期健康診断（歯科は 14:00～14:20：歯磨きをしておくこと）

２．通学について（ステッカー等の配布）

自転車・バイク通学が増えますが、安全には十分注意してください（防衛運転の実施）。必ず学校のルールを守ってください（無届の自転車やバイクでの登校は禁じられています）。長期休暇中に駅の駐輪場へ自転車やバイクを置いておくことも禁じられています（休暇前にアナウンスします）。ルールを破ると様々な権利を失ってしまうので気をつけて下さい。

３．提出物について

【重要】大人の社会では期日を過ぎたり内容に不備があったりすると、ほとんどの場合、提出物は受理されません。期日と内容の確認をこれまで以上に徹底してください（２年後には就職試験等があります）。また、これからは必要な情報は自分から収集することが求められます。

提出物	提出先	提出期限
宿所届（保険証のコピー：A4）	学級担任	5/9(金)
東海地震行動表	学級担任	5/9(金)
クラブ登録票	クラブ顧問	4/20(金)←例年より早い
（希望者のみ）		
高校奨学金書類	学生課学生係	4/25(月)
日本学生支援機構奨学金書類	学生課学生係	5/9(月)

（出典　制御情報工学科資料）

なお平成19年度より１年生に，平成21年度には２年生にも専門学科の教員を副担任として配置し，下級生と専門学科のつながりを強化し（資料７－１－①－９），学習を進める上でのクラスにおけるガイダンスを密にした。

授業初回には各科目担当教員がシラバスを配布し，授業の概要や目的，成績評価基準および，オフィスアワーの設置等を周知している（資料７－１－①－10，11及び前出資料５－６－②－３，４）。

資料７―１―①－９

平成 23 年度学級担任一覧

平成２３年度学級担任及び講義室一覧

クラス	担任名		ホームルーム				人数
	主	副	建　物　名	階数	場所	面積	
Ｍ１	澤井　洋	松田伸也	講義棟	3	東側	81㎡	41人
Ｅ１	勝山智男	西村賢治	講義棟	3	西側	81㎡	41人
Ｄ１	松澤　寛	大沼　　巧	電子制御工学科棟	2	北側	72㎡	43人
Ｓ１	駒　佳明	大久保進也	講義棟	4	東側	81㎡	42人
Ｃ１	渡邉志保美	後藤孝信	講義棟	4	西側	81㎡	43人
Ｍ２	平田陽一郎	宮内太積	講義棟	2	西側	81㎡	43人
Ｅ２	鈴木久博	江間　敏	講義棟	1	西側	81㎡	45人
Ｄ２	佐藤志保	青木悠祐	電子制御工学科棟	2	中程	71㎡	41人
Ｓ２	大久保清美	松本祐子	講義棟	BF１	西側	81㎡	44人
Ｃ２	佐藤　誠	藁科知之	物質工学科棟（高学年棟）	1	西側	72㎡	44人
Ｍ３	西田友久		講義棟	2	東側	81㎡	34人
Ｅ３	真鍋保彦		講義棟	1	東側	81㎡	41人
Ｄ３	舟田敏雄	出川智啓	電子制御工学科棟	2	南側	72㎡	43人
Ｓ３	芹澤弘秀		講義棟	BF１	東側	81㎡	43人
Ｃ３	稲津晃司		物質工学科棟（高学年棟）	2	西側	72㎡	50人
Ｍ４	永禮哲生		物質工学科棟（高学年棟）	3	東側	76㎡	46人
Ｅ４	野毛　悟		電子制御工学科棟	3		72㎡	41人
Ｄ４	江上親宏		電子制御工学科棟	4	南側	70㎡	43人
Ｓ４	鈴木康人		物質工学科棟（高学年棟）	1	東側	76㎡	41人
Ｃ４	古川一実		物質工学科棟（高学年棟）	3	西側	72㎡	39人
Ｍ５	三谷祐一朗		機械工学科棟	3		78㎡	35人
Ｅ５	佐藤憲史		共通棟	3		82㎡	37人
Ｄ５	長澤正氏		電子制御工学科棟	4	北側	72㎡	44人
Ｓ５	吉野龍太郎		物質工学科棟（高学年棟）	2	東側	76㎡	40人
Ｃ５	竹口昌之		物質工学科棟（高学年棟）	4		73㎡	43人
							1,047人

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料７―１―①－10

電子制御工学科シラバス（抜粋）

学科学年	D3	科目分類	工業力学 Engineering Mechanics	講義 必修	通年 2履修単位	学習教育目標 2	担当	大庭　勝久 OHBA Katsuhisa
概　要	運動の法則や原理を学ぶと共にそれらを用いて実際の問題を解決できる素養を身につける。主な講義内容は、運動の表記法、質点および質点系、剛体の運動の静・動力学である、実際の工学的問題例や米国FE試験問題などを取り入れ、内容習得の補助とする。							
科目目標（到達目標）	物理学を基礎にして、機械の静的および動的な運動を工学的に解析することができる。							
教科書器材等	入江敏博 他著「工業力学」理工学社、FE-Handbook							
評価の基準と方法	前期試験35%、後期試験35%、課題レポート20%、授業態度(ノート検査等)10%							
関連科目	物理学							
授業計画								
	参観	（授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。）						
第1回		前期ガイダンス　：工業力学とは、授業計画の説明、学修方法						
第2回		単位系、一点に働く力のつりあい・合成・分解						
第3回		力のモーメント、偶力とモーメント						
第4回		多くの力の合成（計算による方法）、着力点が異なる力のつりあい、支点と反力						
第5回		トラスー節点法と切断法(1)						
第6回		トラスー節点法と切断法(2)						
第7回	×	前期中間試験						
第8回		前期中間試験答案返却・復習問題、前期末までの学修のポイント						
第9回		立体的な力のつりあい：ベクトルとスカラー						
第10回		立体的な力のつりあい：ベクトルの内積と外積						
第11回		立体的な力のつりあい：力のモーメント						
第12回		立体的な力のつりあい：力の合成とつりあい						
第13回		分布力、線、平面、曲面、立体の重心(1)						
第14回		線、平面、曲面、立体の重心(2)、つりあいの安定度						
	×	前期期末試験						
第15回		試験答案の返却と解説・復習問題						
第16回		後期ガイダンス：授業計画の説明						
第17回		分布力ー梁(はり)および索(さく)（1）						
第18回		分布力ー梁(はり)および索(さく)（2）						
第19回		分布力ー静止流体の圧力、静止流体中の物体に働く浮力（1）						
第20回		分布力ー静止流体の圧力、静止流体中の物体に働く浮力（2）						
第21回		質点の平面運動、空間運動（1）						
第22回		質点の平面運動、空間運動（2）						
第23回		剛体の平面運動ー固定軸まわりの回転運動、一般的な平面運動						
第24回	×	後期中間試験						
第25回		剛体の平面運動ー往復機構						
第26回		質点の動力学ー運動の法則、直線運動						
第27回		空間における物体の自由落下						
第28回		質点の平面運動、空中に投射された物体の運動						
第29回		拘束された質点の運動						
	×	学年末試験						
第30回		試験答案の返却と解説						
オフィスアワー	木、金曜日15時から17時							
授業アンケートへの対応	この授業を学ぶ意義や授業進行について懇切丁寧に説明すると共に学生が質問をしやすい環境を整える。							
備　考	授業に関する質問は、　　@numazu-ct.ac.jpへのメールでも受け付ける。							
更新履歴	20110328新規							

（出典　本校公式ウェブサイトより抜粋）

資料７－１－①－11

機械工学科シラバス（抜粋）

Syllabus Id	syl.-112-547
Subject Id	sub.-112-101551
更新記録	110324
授業科目名	水力学　Hydraulics
担当教員名	手塚重久
対象クラス	機械工学科4年生
単位数	2学修単位（自学自習を含め90時間の学修をもって2単位とする）
必修／選択	必修
開講時期	通年
授業区分	基礎・専門工学系
授業形態	講義
実施場所	M4教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

生産現場における機械技術のうちで、古くギリシャ時代から活用され、現代でも発展が期待される大きな分野の一つが流体工学で、機械工学の中で重要な学問分野として位置付けられている。その応用は、気象学などの自然エネルギーの解析から、ポンプ、コンプレッサなどの流体機械、自動車、航空機のエンジンなどの設計、土木建築にまで広範囲に亘り、最近問題視されている地球環境問題にも深く関係する技術である。本講では、水力学として、流体工学に関する基礎的な知識と理論、応用について解説すると共に、問題演習も行い内容の確実な修得を目指す。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

微分・積分、ベクトル、力のバランス、液体・気体の物性

学習・教育目標

Weight	目標	説明
	A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
	B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
◎	C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	D	国際的な受信・発信能力の養成
	E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

B. 数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
C. 工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力
E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力、および自主的、継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格をもって当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

流体静力学、流体の運動について理解し、説明できる。
ベルヌーイの定理、連続の式、運動量の法則等の計算ができる。

授業計画（プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観ですが、参観欄に×印がある回は参観できません。）

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	プログラムの学習・教育目標、授業概要・目標、スケジュール、評価方法と基準等の説明	
第2回	流体の性質	流体の性質	
第3回	流体静力学 (1)	圧力	
第4回	流体静力学 (2)	パスカルの原理	
第5回	流体静力学 (3)	重力の場で静止している流体	
第6回	流体静力学 (4)	液柱計	
第7回	中間試験		×
第8回	流体静力学 (5)	固体壁に働く流体の力 (1)	
第9回	流体静力学 (6)	中間試験返却・解説　固体壁に働く流体の力 (2)	
第10回	流体静力学 (7)	固体壁に働く流体の力 (3)	
第11回	流体静力学 (8)	浮力	
第12回	流体運動の基礎 (1)	流線、連続の式	
第13回	流体運動の基礎 (2)	ベルヌーイの定理 (1)	

（出典　本校公式ウェブサイトより抜粋）

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制としては，科目担当教員，クラス担任・副担任がまずはその窓口となる。授業やクラス以外では，専攻科生が下級生の勉強を手助けしたり（資料７－１－①－12，13），何でも科目相談室として教務関係教員が質問に応じる機会を設けている（資料７－１－①－14，15）。寮においては，マテカと称した学生主体の勉強会を行っている（資料７－１－①－16，17）。

教員間では，平成19年度より担任連絡会議を設置し，学習支援に関する問題や情報の共有を行っている（資料７－１－①－18）。

資料７―１―①－12

専攻科生による学習支援

専攻科生による学習支援（勉強部屋）の報告書

作成者：藤田將喜

専攻科生による本科生への学習支援の第一段階として、6 月 17 日(木)～6 月 23 日(水)にかけて勉強部屋を開催した。本書は、その活動に関する報告書である。

目次

1. 概要
2. 参加者内訳(本科生)と支援した内容
3. 参加者内訳(専攻科生)
4. アンケート集計結果
5. 今後の展開

1. 概要

1-1. 支援体制

勉強部屋の実施期間中、専攻科生 10 名程度を支援学生として教室に待機させ、教室を訪れた本科の学生に対して勉強の指導等を行った。専攻科生は、本科 5 学科の出身者が必ず一人は待機しており、どの学科の学生が訪れても対応可能な体制を整えていた。

1-2. 実施期間および場所

- 実施期間：2010 年 6 月 17 日(木)～6 月 23 日(土)
- 実施場所：選択制教室 3・4

1-3. 広報活動

- 実施期間前に、担任を通じ各クラスにおいて勉強部屋の実施に関する連絡を行うとともに、各教室にポスターを掲示した。

（出典　専攻科生による学習支援（勉強部屋）の報告書）

資料７－１－①－13

専攻科生による学習支援

専攻科生による学習支援（継続的支援）の報告書

作成者：藤田將喜

専攻科自治会主体による勉強部屋の実施後、専攻科生による本科生への学習支援の第二段階である個人単位での継続的な学習支援を実施した。また、低学年対象の「数学を中心にした学習相談」にも、専攻科生が補助として参加した。本ドキュメントはこれらの活動の報告書である。

目次

1. 継続的な学習支援について
事例Ⅰ　E2 の学生に対する学習支援
事例 II　 C1 の学生に対する学習支援
2. 「数学を中心にした学習相談」への参加について

1. 継続的な学習支援について

事例Ⅰ　E2 の学生に対する学習支援

I-1.　経緯と概要

2010 年の 9 月初旬に、E2 の学級担任から専攻科自治会に対して、学習面で悩みを抱えている学生 1 名(E2)への学習支援の要請があり、E 科出身の専攻科生(1 名、ME 専攻 2 年)が担当学生として支援を行った。

I-2.　実施日時および場所

- 実施期間：2010 年 9 月 9 日(木)～9 月 17 日(金)(ただし、土・日、14 日(火)は除く)
- 実施時間：15:30~18:00
- 実施場所：E2 教室

I-3.　支援の様子

E2 の学生は電磁気学の支援を希望しており、教科書と演習問題を用いて理解が不十分である部分の支援を重点的に行なった。E 科出身の専攻科生にとっては、電磁気は既に本科において学習経験があり、学習上のポイントを押さえた支援がなされた様子であった。また、支援を受けた学生は、同じ学科の先輩による学習指導が学生に近い目線で分かりやすく、満足した様子であった。

（出典　専攻科生による学習支援（勉強部屋）の報告書）

資料７―１―①－14

何でも科目相談室のお知らせ

何でも科目相談室のお知らせ

試験が終わって，**「これはいかん！」**という人いませんか。
成績があがらない，勉強方法がわからない，授業のスピードについていけない・・・・。

「まあいいや」と放っておいて，学年末近くになってあわてて対策を立てても，なかなか思うようにはなりません。**学習につまずいたときは，早めに対策を立てて，立て直す**ことが大切です。

何でも科目相談室では，ベテランの教員（勝山ほか）が，あなたに合った，きちんとした勉強方法を一緒に考えます。一人で悩んでないで，相談に来ませんか。

何でも科目相談室

対象：学習に困っているすべての沼津高専生

日時：毎週木曜日の放課後（16:00 から 17:30 まで※）

期間：6/17（木）から夏休み前まで。
ただし，6/24 は 17:00 開室，7/1 は 17:00 閉室

場所：物理実験室　（　専攻科棟３Ｆ，Ｅ１の奥）

持ってくるもの：　相談したい科目のノートと教科書

※　上記の時間で都合がつかない方は物理の勝山までご相談ください。

（出典　何でも科目相談室案内資料より抜粋）

資料７―１―①－15

何でも科目相談室の活動報告

沼津工業高等専門学校研究報告第 44 号,2010 年 1 月, P313-316

何でも科目相談室における学習支援活動

勝山　智男[*1]，村松　久巳[*2]

An attempt at the support for students with difficulty in learning

Tomoo KATSUYAMA[*1], Hisami MURAMATSU[*2]

Students with difficulty in learning have increased in number in recent years. A new guidance room for such students was established. In this paper, we report on an attempt at the support in the room.

Key Words:　support in learning

1. 学習要支援者の増加

本校に入学した学生のうち，所定の教育課程を５年間で修得せず（またはできず），６年以上かかって卒業したり，途中で進路を変更したりする学生が，少なからずいる。こうした，標準の課程から外れた学生は，多かれ少なかれ，日常の学習に困難を感じていると思われる。平成 19 年度には，留年学生数がその前の年度に比べて倍増したため，翌 20 年度は，全学を挙げて補習教育に乗り出し，留年学生数をその前の年度のレベルまで押し下げた。しかし，留年者数は減ったものの，学習に困難を感じている学生の数は決して減ってはいないと思われる。こうした学生への学習支援は，本校にとって重要な課題となっている。

2. 学習要支援者の実態

学生が直面している学習困難の実態は多様であるが，その中には，多くの共通要素も見られる。一般に，留年に直面している学生は，特定のいくつかの科目が苦手なのではない。多くの科目で不合格点をとり，複数の教師から多くの課題を与えられて，アップアップになっていることが多い。課題をやらなくてはならないことはわかっているのだが，どこから手をつけてよいのかわからないのである。また，低学年では，そもそも勉強の仕方がわからないと言う学生も多い。中学生のときは，学校ではあまり難しい問題はやらなかったし，塾では，周到に用意されたドリルなどを，楽しい雰囲気の中でやってきた。高専に入学して，自分で勉強しろと言われても，どうしていいかわからないのである。そうこうしているうちに，勉強は遅れ，わからないところが雪だるま式に増えていき，自信がなくなる・・・。こうした困難に直面している学生には，特定の教科の「わからないところを教える」という形式の学習支援では効果はあがらないだろう。勉強の方法を確立し，自分に合った勉強スタイルを身につけさせなくてはいけないからである。

なお，学習要支援者が持つもう一つの典型的な特徴がある。それは，教師の指示を守らない，提出物が期日までに出せない，呼び出しに応じない，再試験を申し込まない，与えた課題をやってこない，あきらめが早い，努力しない・・・等々，教師から見てきわめて「だらしない」のである。このだらしなさが教師をあきれさせ，教師から突き放されてしまう大きな原因となっている。こうした，いわば社会性の欠如に対しては，勉強方法の確立とは違った視点での指導が必要と思われる。

3. 沼津高専の学習支援活動

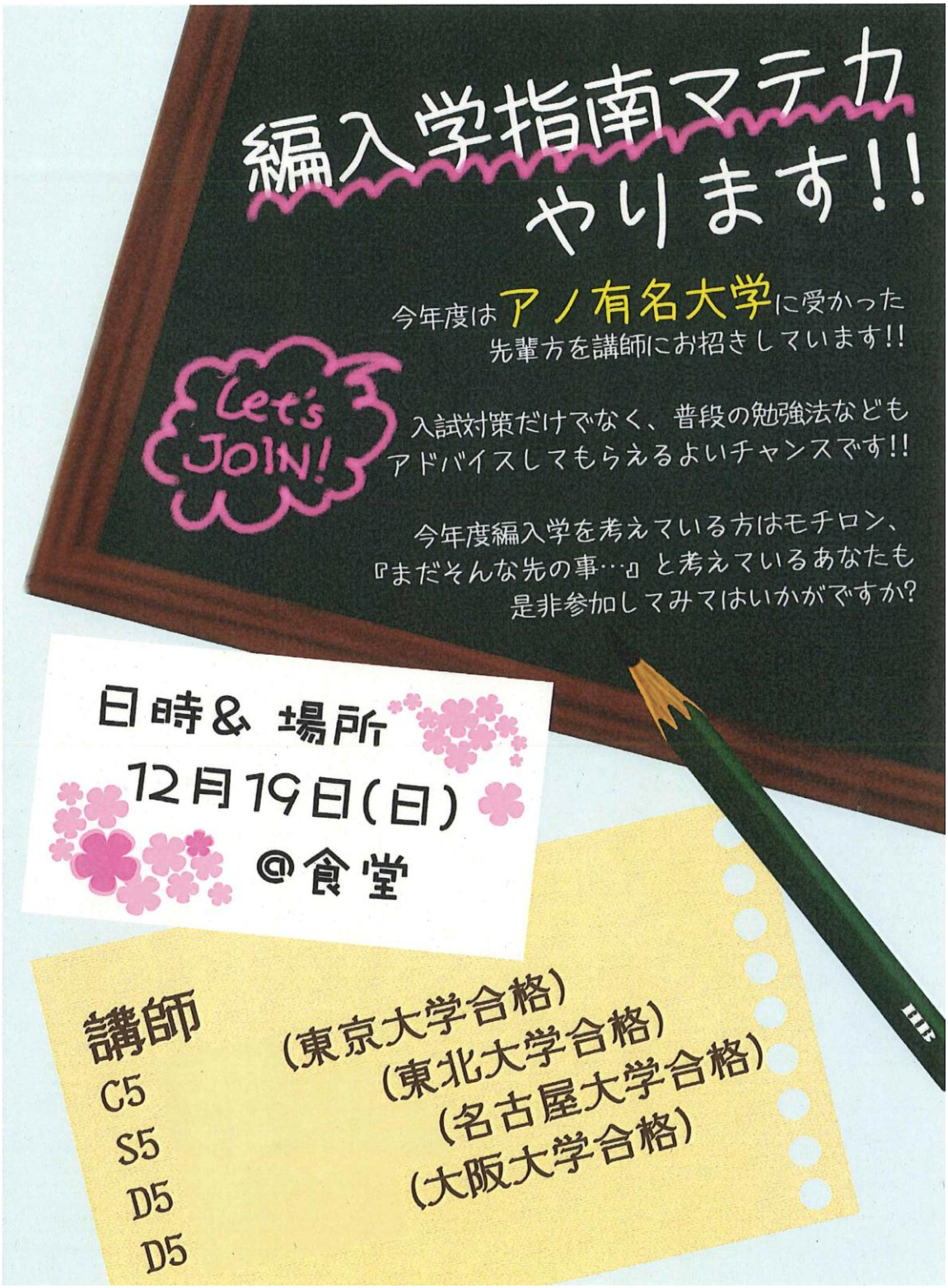
こうした，学習に困難を感じている学生に対して，表ではマテカ，学生生活支援室では勉強部屋および相談室，カウンセリングなどの学習支援活動が行われている。表のマテカや勉強部屋は，先輩学生が勉強を教えてくれるので，気軽に利用できる反面，深刻な学習困難には対応しにくい。かといって，学生生活支援室に相談に行ったりカウンセリングを受けたりするのは，一般学生にとっては敷居が高いようである。

*1: 教養科（物理）
Division of Liberal Arts
*2: 機械工学科
Department of Mechanical Engineering

（出典　本校研究報告第 44 号）

資料７－１－①－16

マテカ開催通知



（出典　寮生会マテカ委員会資料）

資料７－１－①－17

マテカ実施中の様子



（出典　寮生会マテカ委員会資料）

資料７－１－①－18

担任連絡会議開催通知

平成２３年 ６ 月 ６ 日

学級担任連絡会議委員　各位

副校長（教務主事）

学級担任連絡会議の開催について

下記のとおり開催しますのでご出席ください。
なお、出席できない場合は教務係へお知らせください。

記

日　時　平成２３年 ６ 月２０日（月）１６：３０～１７：００
場　所　選択制教室３・４
議　題
１．学習支援（特に１～３年生）について
２．再評価への取組みの指導について
３．電力 15%削減に対する学生指導について
４．その他

（出典　本校学内メール）

保護者に対する情報提供としては，保護者懇談会に加えて，平成21年度より授業参観日として一定期間，授業を公開し，同期間に各学科が１日ずつ学科説明会を開いて情報を発信している（資料７－１－①－19～21）。

学習に限らず，問題を抱える学生に対しては学生生活支援室を設置し，男性，女性のカウンセラー（非常勤）をそれぞれ１名が週１回（計２回），放課後から２０時までカウンセリングに当たるなど，担任以外の教職員からの支援が行われている。（資料７－１－①－22）。

資料７―１―①－19

保護者懇談会開催通知

平成２２年　６　月２９日

保　護　者　各　位

沼津工業高等専門学校長
柳　下　福　藏

保護者懇談会の開催について

初夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は、本校の教育事業にご協力とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、例年本校では、学生の生活・学習等について、前期中間試験成績を中心に学級担任と保護者が個別に面談し、今後の学生指導に資することを目的として、標記懇談会を行っております。

今年度についても、下記のとおり行いますので、ご案内申し上げます。

なお、面談日時を別紙のとおり割り振らせていただきましたが、ご都合の悪い場合には、開催日程中のご都合の良い時間帯に御来校いただいて差し支えありません。

また、その際に学校への連絡は不必要であることを申し添えます。

記

１．日　時　　平成２２年７月２８日（水）・２９日（木）
原則として、午前の部　9:00～10:10　10:20～11:30
午後の部　13:00～14:10　14:20～15:30

２．場　所　　各ホームルーム（裏面参照）

３．その他　　面談は原則として受付順とさせていただきます。
ご来校されましたら、面談会場(ﾎｰﾑﾙｰﾑ)前の受付簿にご記入後、番号札を取ってお待ち下さい。

（出典　学生課作成資料より抜粋）

資料７―１―①－20

保護者懇談会資料　電子制御工学科(抜粋)

第２１回保護者懇談会
第２回学科説明会
資料

２０１０年１１月１８日（木）

沼津工業高等専門学校

電子制御工学科

目次

１．はじめに
２．高専の目的と学業評価
３．就職指導
４．大学等編入学指導
５．沼津高専専攻科紹介
６．現４年生のタイム・スケジュール
７．おわりに.

（出典　電子制御工学科保護者懇談会資料より抜粋）

資料７―１―①－21

保護者懇談会資料　物質工学科(抜粋)

2010年度

秋季保護者懇談会

現5年生進路状況報告

2010.11.17

物質工学科・学科長　押川達夫

（出典　物質工学科保護者懇談会資料より抜粋）

資料７－１－①－22

学生生活支援室の活動状況

学生生活支援室の年間業務の変更について

年間を通じて

☆毎日の相談室担当　15:30～17:00
交替で常駐

☆カウンセラーへの対応
相談者の情報の事前提供
事後の確認・担当部署への連絡

☆学生支援のコーディネーター
相談者への支援を関係部署に連絡して協議

	従来の年間予定	来年度の方針と希望
4月		
5月	学生アンケートの作成	
	勉強部屋の計画立案	
6月	学生アンケート 1，2年生対象　記名で実施 結果をクラスごとに支援室で検討 各担任に報告、内容についての話し合い	*1 1～5年生に記名のアンケート（目的：いじめ、悩みを救い上げる） 実施方法　アンケート作成：支援室 実施：各クラスで担任に依頼 対応：問題点を担任から支援室に相談
	勉強部屋 中間テスト終了1週間後より1週間 担任に呼びかけ、「なんでも相談室」と連携して、 専攻科生の協力を得て実施	*2 教務に一本化してもらう 教務主導の補習、「なんでも相談室」設立のため 一本化が望ましい
	保護者アンケート 質問内容を検討し、作成、E 中間テストの結果とともに保護者に送付	*3 外部委託 統括：主事クラス
7月	保護者アンケートの回収：保護者懇談会	
8、9月	保護者アンケートの集計	
10月	学生アンケート 1～5年対象のアンケート検討、作成	*4 1～5年生対象 業者のメンタルヘルスチェック POMS,UPIテスト、J-SACL etc.
11月	学生アンケート実施 結果をクラスごとに検討 各担任に報告、内容についての話し合い	

*1　ここ数年実施している記名式のアンケートは、「いじめ」や「悩み」を吸い上げる手段として、担任にも浸透してきています。学生生活支援室本来の業務と通じるため、是非実施したい。時期については、例年通り中間テスト明けを希望します。

*2　ここ数年の学生の学力低下のため、教務の方で、非常勤講師による補習や「なんでも相談室」等の対策が取られてきています。以前は、成績不振者に対してそのような受け皿がなく、学生の悩みの多くが成績不振からきているものだったために、学生生活支援室で専攻科生の協力を得て「勉強部屋」を運営してきました。昨今の実情をふまえて、そろそろ学校として一本化してもいい時期にきたのではないと考えます。

*3　保護者の要望や質問は多岐にわたるため、どこにも属さない学生生活支援室が実施してきました。その処理に関しては多大な労力がかかることもさることながら、「特定業務担当」という学校全体を考えて動ける担当者ができたことを機に、学校が必要とするアンケート内容なり分析を専門業者に頼んだほうがいいと考えます。

*4 例年、高専祭明けに悩みを訴える学生は多い傾向にあります。しかし、全学年となると作成、集計に時間がかかり、学生に反映する時間が限らるため、業者への依頼を希望します。学生自身が自分を見つめなおす機会にもなると思います。

（出典　学生生活支援室資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生に対しては，適切にガイダンスを整備し実施している。学生の自主的学習を進める上での相談・助言のための窓口の整備や，勉強会が企画され実行されている。また保護者に対しては授業参観と学科説明会を実施し，学習の状況説明を行うとともに学生指導に関する相談を受けたり協力依頼等しており，ガイダンスの適切な実施と相談・助言の体制が整備され機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的学習環境としては，図書館，総合情報センター，各クラスのホームルーム，寮食堂，学科ごとの演習室などが整備されている。

図書館は，閲覧スペース，検索用のパソコンブース，雑誌コーナー，英語多読コーナー，特別コーナー，新着図書コーナーが設置され，学生の便宜を考慮し，平日は 20 時まで，土日も９時から 16 時まで開館され，有効に機能している（資料７－１－②－１，２及び後出資料８－２－①－７）。

資料７－１－②－１

図書館利用案内



学外者向け利用案内

・本校図書館は一般の方にも公開しており、希望があれば図書の貸出サービスも受けられます。

※研究室へ長期貸出中の図書や、帯出禁止資料等、貸出に応じられない場合もあります。ご了承ください。
また、受験勉強等の目的での机のみの利用はご遠慮願います。

・一般利用者の方が、図書貸出カードの交付を受けようとするときは、図書館利用願に身分を証明できる書類等（免許証、保険証）を添えて申請してください。

・交通案内（アクセスマップ）

・建物配置図　こちらの図の１６番の建物の２階です。

・**利用案内パンフレット**(PDF)のダウンロードはこちら

開館時間	**平 日　８：３０－２０：００** **ただし、夏季、冬季、春季の長期休業中は１７：００まで**
	土・日　９：００－１６：００ ただし１２：００～１２：４５は職員の昼休みのため一時閉館
休館日	祝日、振替休日、年末年始、**夏季、冬季、春季の長期休業中の土・日曜日**、年末・年始（１２月２８日から翌年１月４日）
貸　出	１人、同時に**５冊まで、２週間** 貸出の際には、学生の場合は学生証、教職員の場合は教職員証が必要
蔵書検索	蔵書の検索はこちら　（学外からもアクセス可能）

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料７－１－②－２

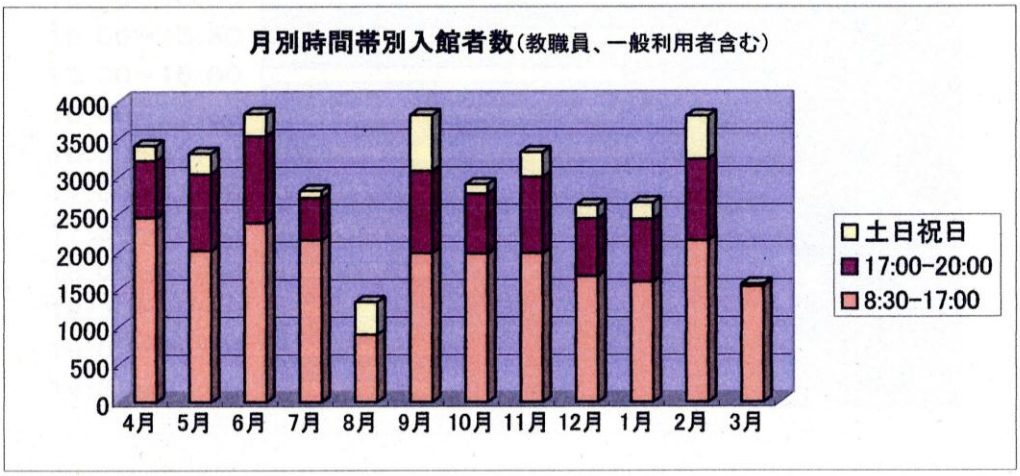
図書館利用統計

資料3

平成21年度図書館利用実態統計

2010年3月31日現在

蔵　書		※教職員が研究用で購入した図書・雑誌を含む	
1：蔵書冊数	76,478	（うち洋書冊数）	16,565
		（うち開架冊数）	38,123
2：年間受入図書冊数	1,020	（うち学生用）	461
3：年間受入雑誌タイトル数	112	（うち学生用）	33
サービス			
1：開館日数	307	（うち休日開館）	73
2：入館者数	35,434	（うち学外者）	131
3：貸出冊数	9,933	（うち学生）	9,337
4：相互貸借（ILL）	155	※本校に所蔵がない資料を他の図書館から取寄せた件数	



開館時間　　平日　　8：30-20：00
（長期休業中および授業のない日は8:30-17:00）

土日祝日　9:00-16:00
（長期休業中および定期試験終了直後の日曜日は臨時閉館）

（出典　平成 22 年度 7 月　図書委員会資料）

また，図書購入に際しては，学生の希望を受け付けているほか，教員からの推薦図書も積極的に購入している。総合情報センターは，第１演習室に50台，第２演習室に25台，雑誌閲覧室に６台の端末が整備されている。利用時間は，平日の８時半から１７時までとなっているが，授業で使用されていない時にはいつでも利用することができるようになっている。また，学内のほぼ全域で無線ＬＡＮシステムが整備され，インターネットへの接続が可能な状況となっている。それにより，e-learningシステムによる学生の学習支援がより円滑に行われるようになった（資料７－１－②－３及び後出資料８－１－②－４，６）。なお，平成23年度よりeラーニング環境をBlackBoardから費用負担の無いmoodleに変更した。

寮においては，学生の自主的学習支援活動として寮食堂が有効に活用されマテカが実施されている（資料７－１－②－４）。

厚生施設，コミュニケーションスペースとしては，尚友会館（資料７－１－②－５），課外活動用各施設（資料７－１－②－６），講義棟のリフレッシュコーナー等が整備され，学生や教職員に利用されている。

総合情報センターは日々の利用計画をWEB上やセンター入り口にて公開し，学生の自主学習に便宜を図っている（資料７－①－②－７）。教室以外からも随時自主学習が可能な環境を公開し，語学の自主学習等に役立っている(資料７－１－②－８)。

資料７－１－②－３

e-learning システムへのアクセス状況

NCT Blackboardのレポート

取得期間:2008/03/07 19:57:43-2011/02/24 01:57:22　　木 4月 07,2011 - 15:45:51に生成

統計の概要

サマリー

サマリー

ヒット数	
総ヒット数	34,374,196
訪問者ヒット数	34,374,196
スパイダーヒット数	0
平均ヒット数/日	31,681
平均ヒット数/訪問者	277.30
キャッシュあり要求	16,472,484
失敗要求	118,746
ページビュー数	
総ページビュー数	2,240,548
平均ページビュー数/日	2,065
平均ページビュー数/訪問者	18.07
訪問者数	
総訪問者数	123,960
平均訪問者数/日	114
総固有IP	21,660
バンド幅	
総バンド幅	259.33 GB
訪問者バンド幅	259.33 GB
スパイダーバンド幅	0 B
平均バンド幅/日	244.75 MB
平均バンド幅/ヒット数	7.91 KB
平均バンド幅/訪問者数	2.14 MB

（出典　総合情報センター）

資料７－１－②－４

マテカの概要

平成 23 年度マテカ執行部　活動概要

§１　経過

H21　11 月　　第 4 代マテカ執行部長決定（3 代 C3 上野→4 代 E2 松永）
　　↓　　引き継ぎ
H22　3 月　　寮生リーダー研修（特別参加）
　　・①ホワイトボード作成
　　・②マテカプリントデータベース化開始
　　4 月～　　平成 22 年度マテカ執行部本格的活動開始　※ 常時活動→（常）、特別活動→（特）
　　③マテカ説明会（特）　　200 人
　　④マテカおためし期間（特）　　50 人
　　5 月～6 月　⑤前期中間マテカ期間（常）　　その後は平均 10～20 程度で次第に減少傾向
　　6 月　　⑥全寮対象アンケート調査（特）
　　9 月　　⑦前期末マテカ期間（常）
　　⑧鬼テスト（特）
　　11 月　　⑨後期中間マテカ期間（常）　　減少
　　⑩第 5 代マテカ執行部長決定（4 代 E3 松永→5 代 C2 中村[長]M2 堀口[補佐]）
　　12 月　　⑪編入学指南（特）
H23　2 月　　⑫学年末マテカ期間（常）（現在進行中）
　　2 月一杯　　平成 22 年度マテカ執行部活動終了
　その他活動
　　⑬金曜会（常）（平成 23 年 1 月 21 日から導入）
　　⑭マテ会議（常）（不定期→マテカ長が必要だと思ったら行う）
　　⑮各種マテカ（常）（授業型マテカや自習型マテカ）

§２　各活動について

①ホワイトボード作成（写真：P1000134～P1000137）
寮生への連絡や一般寮生からの情報収集（授業やマテカプリントのリクエスト等）のために食堂にあるホワイトボードをひとつ借りてつくりました。祭り（高専祭、寮祭など）の前はほとんど動きがありませんが、テスト前になるとどっとリクエストが集中します。
写真は 2 月 8 日現在のホワイトボードの様子です。⑫学年末マテカ期間が進行中ということでシフト表が掲示されています。(P1000137)
写真にはありませんが、普段はマテカクイズというクイズコーナーを設けています。(週 1 更新)
食堂に並ぶ間、楽しんでもらうこととホワイトボードに注目してもらうことがねらいです。わかった人はその場でホワイトボードに答えを書き込むことができるようになっています。ほとんどの場合、出題した次の日には答えられています。
＜例＞　次の英文を四字熟語になおせ「A place for everything and in its place」　答え「適材適所」
(難) 半径 r の 5 次元の球の体積を答えよ　答え「$8\pi^2r^5/15$」←ちなみに出題 3 日目で答えられました。

(出典　寮生会作成資料)

資料７－１－②－４続き

沼津高専学寮内組織　マテカ執行部

§0 マテカの由来

「マテカ」とは英語の「数学」を表す言葉“mathematics”が由来となっています。

沼津高専はいわゆる「高専」であり、「数学」はどの学科であれ非常に高いレベルの教養を受けます。もちろん沼津高専に入学する人には数学が好きな人が多いです。そのため、私たちの組織は他の科目でなくマテカ（＝「数学」）と名付けられることになりました。

§1 マテカ執行部とは

～組織の目的～

マテカ執行部（以下マテカ）は沼津高専学寮の寮生の勉強面をサポートする組織です。勉学に困難を感じている学生や自ら進んで勉強をしようとする学生の力になり、「学ぶ楽しさ」「解ける達成感」を伝えています。

～構成～

マテカは寮生の中からボランティアとして募った学生のみで構成されています。これは、先生と生徒の関係でなく、先輩と後輩というより近い関係で勉強を教えることができる強みにつながっています。マテカに属する寮生はマテカ執行部員（以下マテカ員）と呼ばれます

～ポジション～

沼津高専学寮内の組織でありながら、寮生活の中心である寮生会とはほとんど独立しています。そのため、運営費用の点を除く運営・管理はすべてマテカ員で行っています。このことは他の役員と大差はありません。

§2 マテカ執行部の経過

マテカはまだできて間もない組織であり、マテカ執行部長（以下マテカ長）は私で４代目となります。

マテカのはじまりは、初代マテカ長の倉田将輝さん（E'科75期、寮長からマテカ長になる）がより学生間で教え合う場をつくろうとしたことがきっかけです。

そして、この数年間代替わりを交え、試行錯誤し組織としての輪郭を形作ってきています。

§3 活動

現在、マテカは主に次の活動を行っています。

a. 補習室（授業型マテカ）
b. 自習室（自習型マテカ）
c. 演習プリントの作成・提供

a. 補習室（授業型マテカ）

マテカ員が希望する寮生に対して、勉強を教えます。（＝授業をします）各々自分なりの教え方で授業をします。これは勉強を教えられることだけでなく、教える側も復習や新発見ができます。

b. 自習室（自習型マテカ）

自習できる環境を提供します。質問を受け付けるマテカ員が待機していて、気軽に質問をすることができます。

c. 演習プリントの作成・提供

学校の授業と対応する分野の問題を提供するためのプリントを作成しています。専門分野は問題が少なく、テキストにレベルにあった問題がないときもあります。そのようなときに重宝します。

作成：平成22年度マテカ執行部長　電気電子工学科３年　松永信之介

（出典　寮生会）

福利施設（尚友会館）の概要　　資料７－１－②－５

HOME ＞ 学校案内 ＞ 施設案内 ＞ 尚友会館



▶図書館 ▶総合情報センター ▶地域共同テクノセンター ▶機械実習工場 ▶尚友会館 ▶学生寮

尚友会館は，学生及び教職員の福利厚生を図ると共に，学生の課外活動を育成し，学生生活を豊かにすることを目的に建設された。

構造は，鉄筋コンクリート二階建てで，延べ面積は 723 ㎡である。

会館には，食堂・売店・理容室があり，学生・教職員の食事等に利用されている。



ロビー



食堂



売店



理容室

（出典　本校公式ウェブサイト）

平成 22 年度　学生食堂利用状況

項目	営業日数	A 定食	B 定食	丼	パスタ	カレー	蕎麦等	ラーメン	計
4 月	21	634	273	401	56	338	332	274	2308
5 月	18	645	244	376	41	271	341	159	2077
6 月	22	688	266	449	42	272	430	178	2325

（出典　尚友会館内学生食堂の利用実績）

資料７－１－②－６

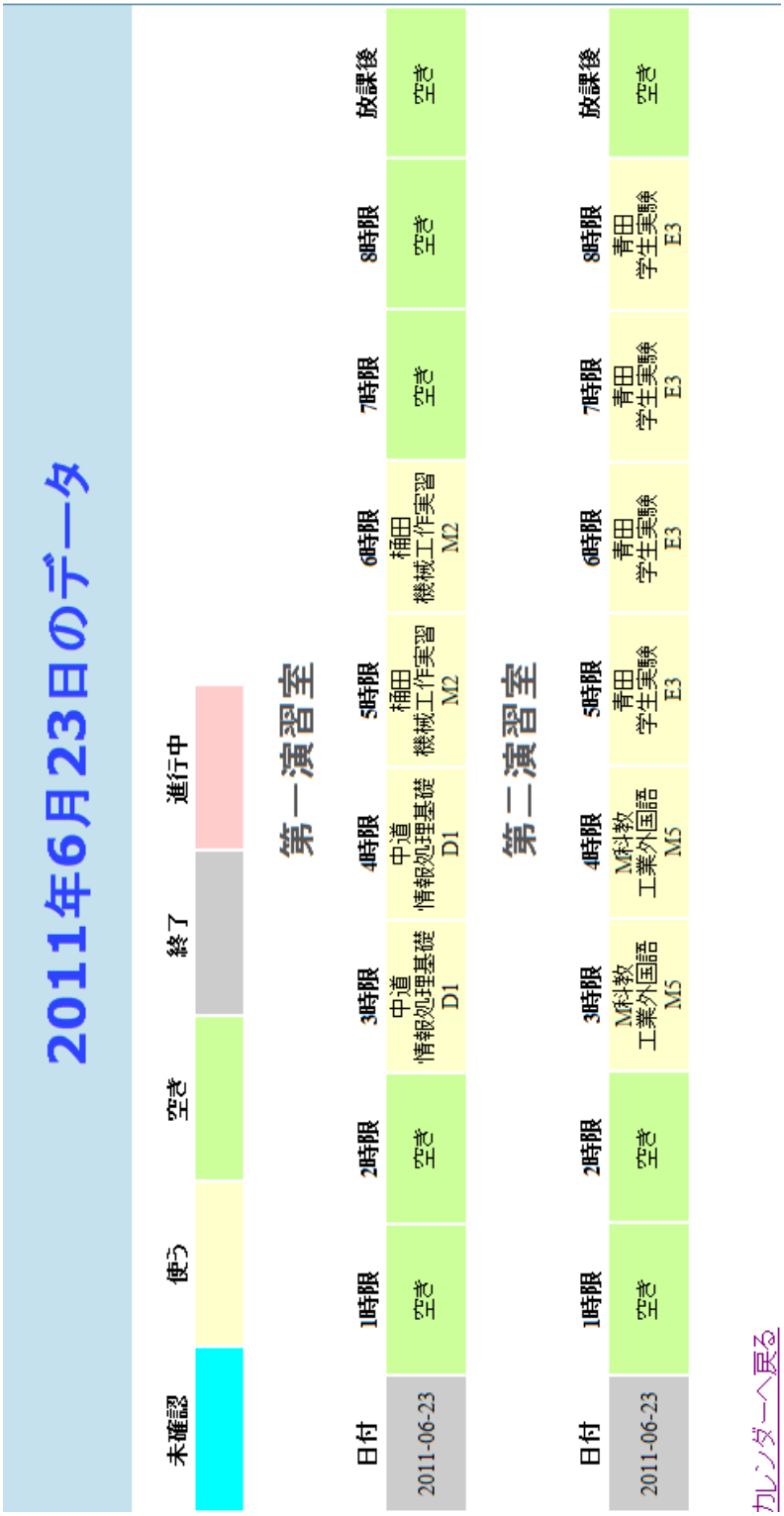
課外活動用各施設の概要



（出典　クラブ顧問会議資料）

資料７－１－②－７

総合情報センターの日々の利用計画



（出典　総合情報センター資料）

資料７－１－②－８

語学の自主学習環境



（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

図書館の開館時間が十分に確保され，有効に活用されている。総合情報センター，マルチメディア教室，各学科演習室において十分なＰＣ端末数が準備されているのみならず，無線ＬＡＮシステムの拡張により学内どこからでもe-learningシステムにアクセスし，自学自習することができる。また，寮生には，寮食堂を利用した学生主体の勉強会マテカが十分活用されている。学生生活に潤いを与える厚生施設として食堂や部室等が完備され，十分活用されている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生のニーズを把握する体制としては，科目担当教員，クラス担任・副担任がまずはその窓口となっている。何でも科目相談室として教務関係教員の学習支援チームが学生の相談に乗る中で，学生支援が必要と思われる学生に対して，平成23年度は積極的に学生と面接してニーズを把握している(資料７－１－③－１)。

資料７―１―③－１

学習支援会議

学習支援会議　　H２３．５．１７（火）１６：３０－１８：２０

於　第３会議室

出席者　村松，後藤，大庭，松澤，勝山（記）

（１）校長リーダーシップ経費の申請について

教務小委員会で提案された，水口先生作成の問題集解答編の印刷製本を校長リーダーシップ経費として申請するかどうかを話し合った。問題点として，著作権，使い方の２点がある。

市販問題集の解答編を教室で教師が配布するのは認められているようだが，学校で大々的に印刷製本するのは問題になるかもしれない。出版社に問い合わせてみてはという意見もあったが，学生がネットに掲示してしまうことなども考えられるため，消極的な意見が大半だった。

担当教師の指示と解答の書き方が異なる場合もあり，使用法についても，原稿を見てみないと何とも言えない。総合的に判断して，今回あわてて申請するのは見送ろうということになった。

（２）面談の集約

各面談者から，面談の様子が報告された。要旨は以下のとおり（学生名は伏せますが，前回送った面談者リスト順です)。

・副担任が面倒見ている。勉強の習慣づけ等を行なっている。
・春休み中に塾に。少しわかるようになって自信をつけた。
・呼んだときは前向きだったが，その後問題行動も。
・全くやる気が出ていない。進路変更を模索中。担任が本人・保護者と話し合う。
・やさしい問題を繰り返し解くことから始めてみる。
・勉強の習慣づけを行なう。遊ぶくせがあるので本人の決心だけで大丈夫かどうか・・。
・再評価数学の面倒を見るだけで精一杯。
・進路変更の意思が固い。具体的な進路をすでに決めている。
・元担任が綿密に面談していて，すでにやるべきことを自覚している。このままいけば大丈夫・・・と思うが。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

学生支援室では，毎年学生アンケートを実施し，その中で学生のニーズを把握している(資料７－１－③－２)。資格試験や検定試験の支援は，募集要項が公開されると，関係部署からその都度案内している（資料７－１－③－３）。特に工業英検は本校を会場として実施している（資料７－１－③－４）。TOEIC IP試験は３，４年生全員を対象に本校を会場にして受験させ，TOEIC公開試験については，本校は賛助会員となっており，割安の受験料で学生が受験できる体制を整備し，多くの学生が受験している(７－１－③－５)。TOEICは，成績に応じてを外部取得単位として認定することで，学習意欲を促進し，600点を越える学生もいる（資料７－１－③－６，７）。ドイツ語検定は数こそ少ないが，毎年数人の合格者が出ている（資料７－１－③－８）。

資料７－１－③－２

学生アンケート依頼文書

Subject: 支援室:学生アンケート実施のお願い
From:
Date:
To:

1,2,3年の学級担任の先生方
cc ： 教員のみなさま

学生生活支援室の　　です。日頃は支援室の活動にご理解とご協力を頂き，ありがとうございます。

さて，学生生活支援室では今年度も「学生アンケート」と称する，個々の学生が抱えている悩みを吸い上げることを主目的とするアンケートを，1，2，3年生を対象に実施したいと思います。

今年度はこの6月にQ-Uテストを実施するクラスも多いことと思いますので，そのようなクラスにおいては，Q-Uと一緒に実施してして頂けるように，準備しているところです。

具体的な事項については後日ご連絡させて頂きますが，先ずはご協力をお願いしたく，メールを出させて頂きました。

併せて，今年度のアンケート用紙（案）を添付ファイルでお送りします。準備時間の都合上，今年度分への反映は十分にできないかもしれませんが，もしもご意見があればお寄せください。

（出典　本校学内メール）

資料７－１－③－２続き

アンケート用紙より抜粋

2. 将来の目標に向けて、普段からあなたが心がけていることや、努力していることは何ですか。あてはまるものに○を付けてください。[複数回答可]

a) 学校を欠席しない
b) 予習・復習をする
c) 授業に集中する(寝ない)
d) ノートをしっかりとる
e) 新聞を読む
f) 図書館などで専門書に親しむ
g) 英語に力を入れている
h) 体力づくりをしている
i) (実験などの)グループ内での連携を大切にしている

3. あなた自身が困っていることや悩んでいることがあれば書いてください。もしも担任に知られたくないことがあれば、その旨を書いてください。

4. あなたの周りに、困っている人や悩んでいる人はいませんか。いればその内容について教えてください。可能であれば名前も書いてください。

5. その他、学生生活支援室の教員に伝えたいことがありますか。あれば書いてください。

6. この調査に書きづらく、今回書けなかった内容はありますか？ (はい ・ いいえ)

もしも書けない内容がある場合は、相談 BOX への投書も利用してください。相談 BOX は学生係前、学生生活支援室前、一般化学実験室前の３カ所にあります。

ご協力、ありがとうございます。

（出典　学生生活支援室資料より抜粋）

資料７―１―③－３

情報処理技術者試験案内



（出典　総合情報センター内掲示板）

資料７―１―③－４

工業英検案内通知



工業英検の案内

工業英検 2級･3級･4級の受験申し込みを受け付けます。
受験希望者は　大庭（電子制御工学科棟1階）、
または　大久保（制御情報工学科棟4階）まで、
検定料を添えて申し込んでください。

申込〆切は5月10日（火）13時です。
＜期限厳守で御願いします＞

第87回工業英検

試験日時：平成23年5月29日（日）
4級　9:20（試験時間　60分）
3級　10:40（　〃　70分）
2級　12:10（　〃　100分）

試験会場：本校（選択制教室Ⅰを予定）

検定料：4級　2，000 円
3級　4，600 円
2級　6，400 円

参考
本検定に合格した場合、申請すれば本校の単位としても認められます。
ただし平成16年度以降の入学生は、4、5年次で4級に合格しても
本校の単位としては認定されません。3級以上については学年を問いません
（学生便覧の「技能審査の合格に係る単位修得の認定について」を参照）。
合格発表は6月21日の予定です。

なお、受験生の総数が10名に満たない場合は本校での実施は
中止されます。ご承知おき下さい。
本年度の本校での工業英検の実施予定は、5月29日（2･3･4級）（今回）、
7月30日（3･4級）、11月13日（2･3･4級）、1月28日（3･4級）です。

（出典　工業英検の募集案内ポスター）

資料７－１－③－５

TOEIC の公開試験申し込み

Subject: 第162回のTOEIC公開テストの受験申込み者の名簿確認
From:
Date: Thu, 28 Apr 2011 12:32:36 +0900
To:
CC:

各位

　　です。

今日(4/28)の午前の郵便で「第162回のTOEIC公開テストの受験申込み者32名」の名簿が送られてきました。申込書番号とカタカナ氏名で、32名の受験登録を確認しました。
変更などがあれば、5/6までにＴＯＥＩＣ東京業務センターに連絡することになっています。
いまのところ、変更等はないので、何も連絡はしません。
登録と同時に、受験料の支払い義務が生じますので、ご了解下さい。

次の郵便で、受験料支払いの請求書が来ます。集金日は、前回連絡致しました通りです。
マルサン書店の方と打合せして、何か連絡があれば、お知らせします。

In message "Fwd: ＴＯＥＩＣ受験スケジュールの集金日変更について", Toshio Funada wrote
on Mon, 25 Apr 2011 17:25:07 +0900

> 各位
>
> 　　です。
>
> 今年度の「TOEIC公開テストの団体受験の受付けの予定」を添付fileのようにしたいと思います。手続きなど、間違い等ないよう、よろしくお願いします。
> 受験料の集金は受験申し込みの締切日となっています。マルサン書店の方に集金をお願いするので、集金に関して日程の調整や手続きの変更等があり得ますので、予め、ご了解下さい。
>
> 第162回のTOEIC公開テストの受験申込み者は、32名でした。内2名は、手渡しでの申し込みをせず、封筒に切手を貼ってありました。受験申込みで勝手なことをしないよう、よ
> ろしくご指導をお願いします。

（出典　本校学内メール）

資料７―１―③－６

TOEIC 申込書

TOEIC®テスト/TOEIC Bridge®IPテスト 申込サイト

STEP 1 ログイン > STEP 2 申込団体情報 > STEP 3 申込情報入力 > STEP 4 発送先入力 > STEP 5 申込の確認 > STEP 6 申込の完了

お申し込みが完了いたしました。

申込番号

印刷する

お申し込み時にメールアドレスをご入力いただいた場合には、ご指定のメールアドレス宛に申込完了通知メールが送信されますのでご確認ください。また申込番号は、お問い合わせの際に必要となりますので、メールアドレスをご指定されなかった場合には印刷して保管してください。
お申し込み終了時には、画面右下の「お申し込みを終了する」ボタンを必ず押してください。
試験官業務(有料)をご希望の場合は、画面右下の「試験官業務先入力」ボタンより試験官業務先情報を入力してください。

試験実施団体ID	
試験実施団体名称	沼津工業高等専門学校

試験申込団体情報

会社名・団体名	沼津工業高等専門学校
事業所・支店名	
部課名	学生課
郵便番号	410-8501
住所	沼津市大岡3600
電話番号	055-926-5732
実施予定日	西暦2010年10月23日

（出典　学生課作成資料より抜粋）

資料７－１－③－７

技能審査合格に係る単位習得の認定

H23 技能審査合格に係る単位修得の認定

学科	学年	番号	学生氏名	技能審査名	級・点数	合格年月日	新規
				工業英検	4級	2011年2月28日	
				工業英検	4級	2011年2月28日	
				工業英検	4級	2011年2月28日	
				工業英検	4級	2011年2月28日	
				工業英検	3級	2011年2月28日	
				TOEIC	740	2011年1月30日	
				TOEIC	925	2010年10月23日	

（出典　平成 23 年度教務委員会資料より抜粋）

資料７―１―③－８

ドイツ語検定合格者の推移

ドイツ語検定

年度	合格者(人)
平成19年度	4
平成20年度	4
平成21年度	3
平成22年度	7

（出典　教務委員会資料より作成）

豊かな国際感覚とコミュニケーション能力の養成をより図り易くする目的で，平成22年度より国際交流委員会規則を全面的に改定し，機能的な体制を整えた（資料７－１－③－９）。平成22年度の語学研修はイギリスで2週間の研修を実施した（資料７－１－③－10）。平成23年度は４月25日に説明会を開催し，９月４日～18日の日程で，シアトルでの実施が確定している（資料７－１－③－11）。

専攻科課程においても専攻科長が窓口となり、国際交流委員会と連携をとりながら、ISTS等の国際会議や高専機構の海外インターンシップ等に応募する学生の支援をしている。

資料７－１－③－９

国際交流委員会議事録

平成２２年度 第１回国際交流委員会議事要録

日　　時　　平成２２年１１月１６日（火）　１６：００ ～１６：４５
場　　所　　校 長 室
出 席 者　　柳下校長、大島副校長（教務主事）、蓮實校長補佐（学生主事）
遠藤校長補佐（寮務主事）、大久保校長補佐（特定業務担当）
小林学科長、高野学科長代行、舟田学科長、長谷学科長、押川学科長
西垣教養科長、奥野事務部長、布施総務課長、山添学生課長

議　　題

１．国際交流委員会規則の全部改正について
　大久保校長補佐から、資料１に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
２．国費留学生の奨学金支給期間延長申請について
　大久保校長補佐から、資料２に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
３．東海地区国立高専留学生交流会について
　大久保校長補佐から、資料３に基づき説明があり、外国人留学生及び引率教職員の参加について了承された。
４．シンガポール・ポリテク短期留学プログラムについて
　大久保校長補佐から、資料４に基づき説明があり、今後、短期留学生の受入要請があった場合は、可能な範囲内で出来るだけ受入を行う方針としたい旨の提案があり、了承された。

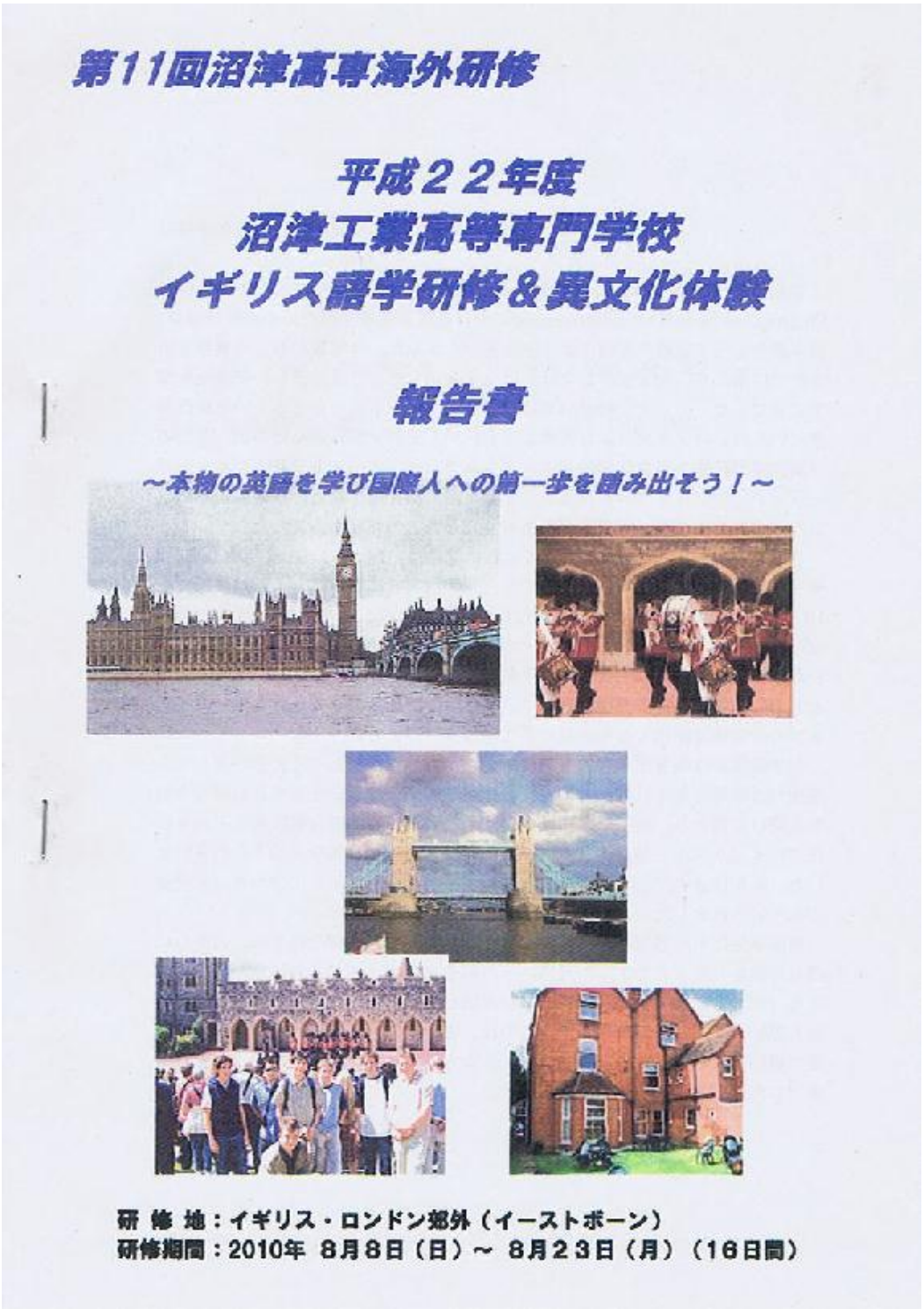
報告事項

１．英国語学研修＆異文化体験について
　大久保校長補佐から、８月に実施された海外研修の報告書を取り纏め、教職員限定ＨＰに掲載した旨の報告があった。
２．英語＆日本語スピーチコンテストについて
　大久保校長補佐から、資料５に基づき、沼津国際交流協会主催のコンテストにおいて本校外国人留学生が優秀な成績を収めた旨の報告があった。
３．ドイツ・ニュルンベルク応用科学大学との学術交流協定締結交渉（中間報告）について
　大久保校長補佐から、外国大学との交流協定締結交渉の進捗状況について報告があった。
４．留学生経費について
　学生課課長補佐から、資料６に基づき、今年度の執行状況について報告があった。
５．平成２３年度 受入予定留学生（国費）について
　学生課課長補佐から、資料７に基づき、来年度の国費受入予定留学生（昨年度受入決定済）について報告があった。
　なお、マレーシア政府派遣留学生については、例年１月頃マレーシア大使館から来年度の留学生の受入依頼があるため、連絡があり次第改めて委員会で受入の可否について審議することとした。
６．その他
　私費留学生、マレーシア政府派遣留学生及び海外インターンシップなどの動向について、

（出典　交際交流委員会議事録）

資料７－１－③－10

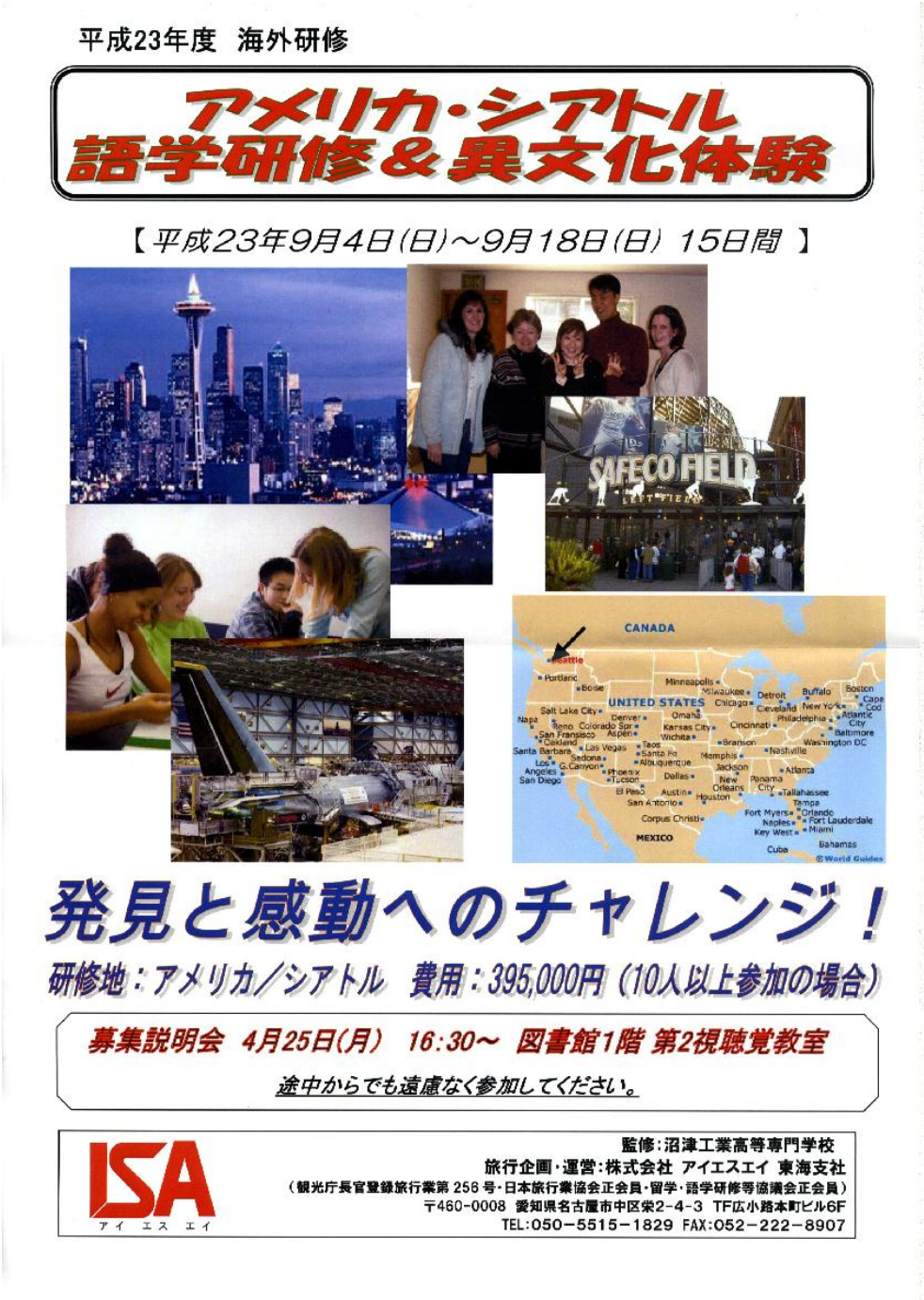
語学研修報告書(抜粋)



（出典　語学研修の報告書）

資料７－１－③－11

語学研修募集ポスター



（出典　語学研修の募集案内ポスター）

（分析結果とその根拠理由）

科目担当教員，クラス担任・副担任をはじめ，教務関係教員による学習支援チームや学生生活支援室が積極的に学生ニーズの把握に努めている。資格試験や検定試験の受験，外国留学の支援体制が整備され，機能している。検定試験は外部修得単位認定への申請が多くあることやTOEICでは600点を越える学生も出ていること等から，支援体制が整備され，機能していると判断する。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

本科の成績不振者へは専攻科生による学習支援や何でも科目相談室を設けて，参加を促している。特に１年生に対しては，定期試験毎に成績不振者を調べ，数学の補習を受講させている（資料７－１－④－１，２）。また副校長（教務主事）からも随時，学習支援を要請する通知がなされる（資料７－１－④－３）。

資料７－１－④－１

数学補習対象者の出欠状況

平成22年度　第1学年　数学補習　出席状況（出席:○　欠席:×　遅刻:遅　早退:早）

回数	実施日 月	日	曜	実施時間	クラス 出席番号 / 補習内容	1 M1	2 M1	3 M1	4 M1	5 E1	6 E1	7 E1	8 E1	9 D1	10 D1	11 D1	12 S1	13 S1	14 S1	15 C1	16 C1
第1回	6	30	水	14:50～16:20	2次方程式・2次関数・平方完成	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
第2回	7	7	水	14:50～16:20	2次関数のグラフ・最大値・最小値	○	遅	遅	遅	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	遅
第3回	7	21	水	14:50～16:20	2次関数と不等式	○	遅	×	×	○	○	×	○	×	○	○	遅	遅	遅	×	×
第4回	9	1	水	14:50～16:30	指数・指数関数・指数方程式・指数不等式	○	×	×	×	遅	遅	遅	遅	○	○	○	○	○	○	○	×
第5回	9	8	水	14:50～16:20	対数・対数関数・対数方程式・対数不等式	遅	遅	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	遅	×	×	×
第6回	9	15	水	14:50～16:20	三角比・三角関数	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×

平成22年度　後期　第1学年　数学補習　出席状況（出席:○　欠席:×　遅刻:遅　早退:早）

通算回数	実施日 月	日	曜	実施時間	クラス 出席番号 / 補習内容	1 M1	2 M1	3 E1	4 E1	5 E1	6 E1	7 E1	8 D1	9 D1	10 D1	11 D1	12 S1	13 S1	14 S1	15 C1
第7回	11	4	木	16:30～18:00	基礎数学 第2章 方程式と不等式 §1 方程式 (29～45ページ)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第8回	11	7	木	16:30～18:00	基礎数学 第5章 三角関数 §1 三角比とその応用 §2 三角関数 (111～139ページ)	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第9回	11	18	mh	16:30～18:00 (2名の質問あり 18:25終了)	基礎数学 第5章 三角関数 §2 加法定理とその応用 (140～149ページ)	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	遅

平成22年度　後期　第1学年　数学補習　出席状況（出席:○　欠席:×　遅刻:遅　早退:早）

通算回数	実施日 月	日	曜	実施時間	クラス 出席番号 / 補習内容	1 M1	2 M1	3 M1	4 E1	5 E1	6 E1	7 E1	8 D1	9 D1	10 D1	11 S1	12 S1	13 S1	14 S1	15 S1	16 S1	17 C1
第10回	1	6	木	16:30～18:00	基礎数学 第2章 方程式と不等式 §2 不等式 52～54ページ	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×
第11回	1	13	木	16:30～18:10	基礎数学 第6章 場合の数と数列 §1 場合の数 172～184ページ	○	遅	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×

（出典　数学補習資料出席簿）

資料７―１―④－２

数学補習課題(抜粋)

平成２２年度　後期後半　第05回（通算第14回）基礎数学　１年数学補習　平成２３年２月３日（木）１５：３０～１８：００
プリント　Ｎｏ１　第６章　図形と式　§１点と線　150～159ﾍﾟｰｼﾞ
学科.学年（　　）No（　　）Name（　　）

Keypoint !!　２点間の距離

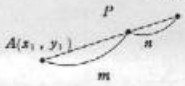
1　２点 $A(x_1, y_1)$，$B(x_2, y_2)$ の距離 $AB=\sqrt{(x_2-x_1)^2+(y_2-y_1)^2}$

2　原点 O と $B(x_2, y_2)$ との距離 $OB=\sqrt{(x_2-0)^2+(y_2-0)^2}$

Keypoint !!　内分点と外分点

２点 $A(x_1, y_1)$，$B(x_2, y_2)$ があるとき、

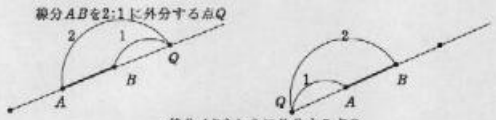
1　線分 AB を $m:n$ に内分する点 $P\left(\frac{nx_1+mx_2}{m+n}, \frac{ny_1+my_2}{m+n}\right)$



線分 AB の中点 $R\left(\frac{1x_1+1x_2}{1+1}, \frac{1y_1+1y_2}{1+1}\right)$

2　線分 AB を $m:n$ に外分する点 $Q\left(\frac{-nx_1+mx_2}{m-n}, \frac{-ny_1+my_2}{m-n}\right)$

この外分点の座標を求める公式は、m と n との大小関係なく求めることができるが、m と n との大小によって、外分点の位置が変わる。



線分 AB を 1:2 に外分する点 Q

Keypoint !!　１点を通る直線

1　１点 (x_1, y_1) を通り、傾き m のある直線

$y-y_1=m(x-x_1)$

2　１点 (x_1, y_1) を通り、傾きがない直線＜ y 軸に平行な直線＞

$x=x_1$

Keypoint !!　２点 (x_1, y_1)，(x_2, y_2) を通る直線

1　傾きがある直線

$y-y_1=\frac{y_2-y_1}{x_2-x_1}(x-x_1)$ でも $y-y_2=\frac{y_2-y_1}{x_2-x_1}(x-x_2)$ でもよい。

2　傾きがない直線＜ y 軸に平行な直線＞

$x=x_1$　でも　$x=x_2$　でもよい。

＜注＞　傾きの有無にかかわらず求めることのできる公式は、次の式であるが、普通は、余り使わない。

$(x_2-x_1)(y-y_1)=(y_2-y_1)(x-x_1)$

Keypoint !!　三角形 ABC の重心

３点 $A(x_1, y_1)$，$B(x_2, y_2)$，$C(x_3, y_3)$ を頂点とする三角形 ABC の

重心 $G\left(\frac{x_1+x_2+x_3}{3}, \frac{y_1+y_2+y_3}{3}\right)$

Keypoint !!　２直線の平行条件と垂直条件

1　傾きのある２直線 $y=ax+b$，$y=cx+d$ の平行条件

傾きが同じ　つまり　$a=c$

傾きのない直線＜ y 軸に平行な直線＞との平行条件

y 軸に平行な直線となり、$x=$数値 となる

2　傾きのある２直線 $y=ax+b$，$y=cx+d$ の垂直条件

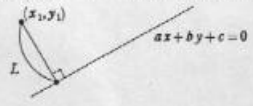
傾きをかけると $ac=-1$

つまり　垂直な直線の傾きは、直線の傾きの逆数にマイナスを付ければ、求めることができる。

傾きがない直線＜ y 軸に平行な直線＞との垂直条件

x 軸に平行な直線となり、$y=$数値 となる。

Keypoint !!　１点と直線との距離（最短距離）



$L=\frac{|ax_1+by_1+c|}{\sqrt{a^2+b^2}}$

-1-

[1]　２点 $A(2,3)$，$B(6,4)$ がある。このとき、次の点の座標を求めよ。

(1)　線分 AB を 3:1 に内分する点 P　(2)　線分 BA を 3:1 に内分する点 Q

(3)　線分 AB を 3:1 に外分する点 R　(4)　線分 AB の中点 S

[2]　次の各問いに答えよ。

(1)　３点 $A(3,3)$，$B(5,-1)$，$C(1,-3)$ を頂点とする $\triangle ABC$ はどのような三角形か。

(2)　２点 $A(1,-1)$，$B(4,2)$ から等距離にある y 軸上の点 P の座標を求めよ。

[3]　３点 $A(-5,-1)$，$B(0,7)$，$C(a,b)$ を頂点とする $\triangle ABC$ の重心の座標が $(-3,4)$ であるとき、定数 a，b の値を求めよ。

（出典　数学補習教材）

資料７－１－④－３

学習支援要請の通知

全教員の皆様
cc.柳下校長 殿
cc.教務係 殿

教務主事の[redacted]です。

学年末試験まで数週間となりました。
日頃学生の教育・指導に大変ご尽力頂いているところでありますが、この重要な時期にあたってなお一層学生を励まし、進級・卒業に向けて勉強に励むようご指導くださいますようお願いいたします。

特に低学年の留年・退学者を減らすべく、なんとか励まし頑張らせて進級させるよう御指導をお願いしているところですが、学年末試験に向けて、改めて「授業内容の重要ポイントの明示」、「事前の小テストや課題演習」、「質問受付時間の設定」、「試験準備のための勉強方法や計画の作成等に関するアドバイス」など、考えられる有効な手段を種々工夫され、事前指導をよろしくお願いいたします。

重なる面もありますが、以下の事項について特にご留意頂ければ幸いです。
・再評価成績の最終締め切りは１月３１日（月）です。
・時数補修によるフォローアップをお願いします。特に５年生の就職、進学活動に伴う欠席・欠課（欠席・欠課願の提出されているもの）につき、1/5 を超えるものについては時数補修をお願いします。
・前期終了の授業科目で不合格になっているものについても、可能な限りフォローアップをお願いします。
・学年末試験に向けて学生の叱咤激励をお願いします。特に学級担任の先生方におかれましては、進級に不安のある学生の成績状況を早期に把握し、適切なご指導をお願いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

（出典　本校学内メール）

外国人留学生に関する全体的なことは国際交流委員会で扱い，事務的支援は主として学生課で扱っている。具体的な支援は基本的には該当クラスの担任が指導教員となって行っている。さらに，学業および生活全般についての相談相手として学生チューターを配置している（資料７－１－④－４）。１年目に当たる３年次のチューターは寮生から選出し，寮生活の面倒も見ている。日本語の授業及び補講の他，３年次に日本事情の授業を設けている。日本文化の体験のため，留学生向け授業の日本事情を担当する社会科教員が引率して近くの施設見学も行っている（資料７－１－④－５）。

編入学生への学習支援としては，編入学前の補習課題として英語，数学，物理の課題を与え，定期的に提出させる等して事前指導を行っている（資料７－１－④－６）。編入学後は，学科により異なるが，授業科目を設けて集中講義などで編入学生の学習支援を行うか（前出資料５－１－①－２，４，５），必要に応じて科目担当教員が補習等を行っている。

留年生への特別な指導としては，前年度の成績を考慮して科目ごとに受講，もしくは定期試験の免除という制度を設けて，授業負担が軽くなるように配慮している（資料７－１－④－７）。２，３年生の留年生に対しては，教務関係教員の学習支援チームが支援を行っている。

資料７－１－④－４

留学生チューター一覧

平成２３年度 外国人留学生一覧

フリガナ 氏名	留学生 学年	学科	国籍	性別	区分	指導教員	チューター
	E4	電気電子工学科	マレーシア	男	マレーシア政府派遣		E4
	C4	物質工学科	ラオス	男	国費		C4
	M3	機械工学科	マレーシア	男	マレーシア政府派遣		M3
	E3	電気電子工学科	マレーシア	男	マレーシア政府派遣		E3
	E3	電気電子工学科	マレーシア	男	マレーシア政府派遣		E3
	S3	制御情報工学科	モンゴル	男	国費		S3
	C3	物質工学科	インドネシア	女	国費		C3
	C3	物質工学科	マレーシア	女	マレーシア政府派遣		C3

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－④－５

留学生の対応状況

学校としての留学生への対応

留学生向け授業（各教科での補習等を除く）
日本語（３年～５年）
すべて高澤先生（非常勤講師）担当
正規の時間割による授業のほか，ここ何年かは，土曜日に補講も実施（留学生経費による実施）
日本事情（３年・４年）
３年は佐藤と平田先生で担当，４年は野澤先生が担当

留学生の行事
見学旅行（１年に１回実施，ここ５年程度は佐藤が担当）
東海地区高専の留学生の交流会（１年に１回実施，スキー，専門学科が持ち回りで引率担当）

以下，佐藤の関係する分についてです。

日本事情（３年）
日本の文化・社会制度等について体系的に教えるというのではなく，留学生が沼津高専で学生生活を送っていく上で直面する問題等に柔軟に対応するようにしています。留学生とのコミュニケーションを取り，彼らが精神的に孤立したり，一人で問題を抱え込んだりすることがないようにと心がけており，少人数であることを活かし，会話中心の授業をしています。具体的には，調べ学習・発表形式より，日本の社会・文化・自然環境などについて学ぶことをしているほか，学校周辺地域を歩いたり，高専祭では留学生による展示をさせるなどの活動も多く取り入れている高専での展示については，その準備を日本事情の授業に組み込むことにより，各種の手続きや，多くの日本人とコミュニケーションを図ることに慣れさせることも意図している。また，学校近隣（門池公園），下土狩駅前，三島市中心部へ行き，街並みや寺社等を見学したり，買い物などについての情報を確認した。

留学生見学旅行
留学生経費により，１年に１回，日帰りの見学旅行を実施している。2010 年度は名古屋（名古屋城ほか），2009 年度は東京（浅草ほか），2008 年度は伊豆（修善寺温泉ほか）。
日本事情の授業と連携することで，単に見学するだけでなく，見学地の選定から留学生に関与させ，日本の地理等について学習させるほか，新幹線の切符の購入等も事前に各自でさせ，学割の申請の手続き，切符の種類や駅での切符の買い方について，体験的に学ばせるよう意図している。

（出典　日本事情担当者資料）

資料７－１－④－６

編入学生説明会についての連絡

平成２２年 ８ 月５日

副校長（教務主事）　殿
機械工学科長　殿
電気電子工学科長　殿
物質工学科長　殿
数学・英語・応用物理担当教員　殿
学生課長・課長補佐（学務担当）及び各係長　殿

校　　長

平成２３年度編入学生入学説明会について

標記のことについて、下記日程のとおり実施いたしますので、出席願います。
なお、各学科からの説明及び連絡については、学科毎に実施していただくことになっておりますので、MM教室からの引率及び各学科会場の準備方よろしくお願いします。
また、英語・数学・応用物理で課題等がある場合は、担当教員出席の上説明願います。
合格者の確定は、アドミッション委員会（８月１０日）での審議決定後ですが準備期間の関係上、予め準備を進めていただきますようお願いいたします。

※昨年度から、課題等の内容について、在籍高等学校に周知しておりますので、各学科、教科目における課題（補習）内容の概要を書面にまとめ説明会前日までに学生課入試係あて提出いただけるようお願いいたします。

記

日　時 ： 平成２２年 ８ 月２３日（月）

場　所 ： 講義棟１階 Ｍ２講義室及び共通棟３階 MM教室

日　程 ：
■４学年合格者
９：３０～ ９：４０　副校長（教務主事）からの話
９：４０～１０：１０　事務部（学生課）からの連絡
１０：１０～１０：５０　英語・数学・応用物理の課題等説明
◇ 英　　語（MM教室）能登路
◇ 数　　学　　谷
◇ 応用物理　　住吉
１０：４５　学科長 MM教室集合
１０：５０～　各学科に移動
１０：５５～　各学科からの説明及び連絡
（学科毎に解散）

※入寮希望者には、終了後に寮務係で手続き等の説明がありますので、寮務係への案内をお願いします。

■３学年合格者
１３：３０～１３：４０　副校長（教務主事）からの話
１３：４０～１４：１０　事務部（学生課）からの連絡
１４：１０～１４：５０　英語・数学・応用物理の課題等説明
◇ 英　　語（MM教室）能登路
◇ 数　　学　　谷
◇ 応用物理　　勝山
１４：４５　学科長 MM教室集合
１４：５０～　各学科に移動
１４：５５～　各学科からの説明及び連絡
（学科毎に解散）

※入寮希望者には、終了後に寮務係で手続き等の説明がありますので、寮務係への案内をお願いします。

【参考】
編入学受験者数　１２名（M科３名、E科３名、C科６名）

（出典　本稿学内メール）

資料７－１－④－７

留年生への学習支援(抜粋)

７．３年次の留年生の再履修と科目評価について

３学年までは学年制であり、原則として、留年生は３年次カリキュラムをすべて取り直さなければならない。ただし、留年生が一般学生の時間割と同等に履修する（空き時間を作らない）という条件のもとに、一部単位制の概念を取り入れる。

１　留年時の科目履修について

留年時の科目のうち成績佳良な科目の定期試験の免除を許可し、下記の処置を取る。

⑴　前年度に 70 点以上の評価を取得した者に限って、実技科目を除く科目の定期試験を、学生の願い出により、科目担当教員が免除することがある。

⑵　前項で定期試験を免除した科目の評価は、前年度の評価とする。ただし、欠課時数は授業時数の１/５以下であること。

⑶　定期試験免除の願い出は所定の用紙により、学級担任教員及び科目担当教員の承認を得て、副校長（教務主事）〔教務係〕に提出すること。届出期限は当該年度の４月末日までとする。

２　並列選択の科目履修について

⑴　並列選択の科目において、前年度に選択した科目の成績が 70 点以上であった学生は、その科目の単位取得を認められるという条件で、今年度、他の科目を選択し受講することができる。ただし、今年度に選択した科目の欠課時数が授業時数の１/５を超える場合は、前年度の科目の単位取得は認められない。

⑵　前項で、今年度履修した科目の成績も追加認定を受けることができる。

⑶　願い出は所定の用紙により、学級担任教員及び科目担当教員の承認を得て、副校長（教務主事）〔教務係〕に提出すること。届出期限は当該年度の４月末日までとする。

資料７－１－④－７の続き

８．４年次以上の留年生の既修得科目の履修について

進級・卒業判定基準によって原学年に留められた者に係る、既修得科目の単位とその再履修については次のように取り扱うことができる。この内規は、留まる学年が４、５学年の者に対して適用する。

① 単位は、取り消されることはなく、その科目を再度履修する必要はない。
② 再履修しない科目の評価点・単位は、留まった学年課程修了時に、その学年で履修したものとする。
③ 再度の履修を希望する科目のある者は、授業開始後２週間以内に当該科目担当教員に申請し承認を得ること。承認された時点で、その科目の前年度評価点及び修得単位は取り消される。但し、評価に当たっては、前年度の評価点を勘案することができる。
④ ４学年に留められた者が、特に上記①により再履修を免除された授業時間帯を有効に利用する為に、５学年の授業科目を履修することができる。
この場合、授業開始後２週間以内に当該科目担当教員に申請し承認を得ること。承認された時点で、その科目の履修については、５年生と同等に規定され、科目課程修了時の評価点・単位は、５学年課程修了時にその学年で履修したものとする。

（出典　平成 23 年度学生便覧より抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

外国人留学生，編入学生，成績不振者，留年生といった，異なる支援を要する学生に対して，それぞれに学習支援体制を整え，必要な支援を行っている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生のクラブ活動や学生会等の課外活動については，学生会会則（資料７－１－⑤－１）に基づき組織運営され，校長補佐（学生主事）を委員長とする学生委員会によって指導，監督及び主催がなされている。

資料７－１－⑤－１

学生会会則(抜粋)

１．学 生 会 会 則

第 １ 章　　総　　則

第 １ 条　本会は沼津工業高等専門学校学生会と称する。
第 ２ 条　本会は本校在学学生全員（以下会員と呼ぶ）をもって構成する。
第 ３ 条　本会の運営はすべて民主主義の精神に基づいて行い、自主的活動のもとに、豊かな教養と健全な趣味を培い、個性の伸長を図るとともに、会員相互の親睦を図り、心身の健康を助長し、将来よき社会人としての資質を養うことを目的とする。
第 ４ 条　本会の議決事項は、学校長の承認を得てから執行する。
第 ５ 条　会員は、この会則に定めてある権利と義務を有する。

第 ２ 章　　機関及び役員

第 ６ 条　第３条の目的を達成するために次の機関を置く。
総　　会
評 議 委 員 会
実 行 委 員 会
選挙管理委員会
ホーム・ルーム
クラブ及び同好会
第 ７ 条　各機関の会議は、その構成員の２/３以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数とする。ただし、会則改正については別に定める。
第 ８ 条　各機関は、必要に応じて関係者を呼び、参考意見を聞くことができる。
第 ９ 条　本会に次の役員を置く。

会　　長	会員の立候補制選挙によって１名選出
副 会 長	会長の指名により会員中より２名選出
委員長（局長を含む）	会長の指名により会員中より14名選出
副委員長(副局長を含む)	各委員長（局長を含む）の指名により会員中より14名選出
評 議 委 員	各ホーム・ルームから１名選出
選 挙 管 理 委 員	各ホーム・ルームから１名選出

第 10 条　会長は、本会を総括し、本会最高責任者とする。
２　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは会務を代行する。
第 11 条　役員の任期は、毎年４月当初に始まり、翌年３月末日に終わるものとす

(197)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

クラブ活動は，現在20の運動部と３文化部及び２つの文化・サークル連合が存在し，１教員１クラブ顧問制により一部の管理職教員を除く全教員体制で管理・指導が行われている（資料７－１－⑤－２）。

資料７－１－⑤－２

クラブおよびクラブ顧問一覧

平成２３年度　学生会・クラブ顧問教員

クラブ・同好会名	連絡責任者	顧問教員名				
陸上競技部	渡邉志保美	牛丸　真司	相良　誠			
ソフトテニス部	佐藤　崇徳	平田陽一郎	山根　説子			
バレーボール部	大庭　勝久	長澤　正氏	大久保清美			
バスケットボール部	遠山　和之	永禮　哲生	松本　祐子			
野球部	高橋　儀男	手塚　重久	高矢　昌紀	渡辺　敦雄	鈴木　正樹	市川　周一
卓球部	稲津　晃司	高野　明夫				
柔道部	松澤　寛	西垣　誠一				
剣道部	澤井　洋	鈴木　久博				
サッカー部	中道　義之	駒　佳明	江上　親宏	望月　孔二	大久保進也	
ラグビー部	井上　聡	小林　隆志	鄭　萬溶			
体操部	佐藤　誠	江間　敏				
水泳部	小林　美学	新冨　雅仁	西村　賢治			
合気道部	長谷　賢治	舟田　敏雄				
テニス部	竹口　昌之	古川　一実	後藤　孝信	西田　友久		
スキー部	嶋　直樹	川上　誠				
ハンドボール部	野毛　悟	松田　伸也				
弓道部	芳野　恭士	佐藤　憲史				
空手道部	芹澤　弘秀	宮内　太積				
バドミントン部	押川　達夫	藤尾三紀夫	大沼　巧			
トライアスロン部	三谷祐一朗	出川　智啓				
吹奏楽部	鈴木　茂樹	藁科　知之				
囲碁将棋部	待田　芳徳	勝山　智男				
ロボコン部	青木　悠祐	山中　仁				
学生会	鄭　萬溶	鈴木　茂樹				
文化サークル連合（科学技術）	鈴木　康人	村松　久巳	大川　政志			
文化サークル連合（文芸・文学）	真鍋　保彦	吉野龍太郎	大石加奈子			

文サ連（科学技術）機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン　　文サ連（文学・文芸）茶道・合唱・軽音楽・ＥＳＳ

（出典　クラブ顧問会議資料）

また，クラブ顧問会議において定期的に諸課題の報告・検討が行われている（資料７－１－⑤－３）。さらにクラブ活動の安全を確保するために，クラブ活動の安全対策マニュアルが作成され，それに基づいてクラブごとの安全マニュアルも作成されている（資料７－１－⑤－４）。そして，学生課学生係による事務的支援も行われている。また，外部コーチ制（資料７－１－⑤－５）が導入され，クラブ顧問ではできない専門的な指導を受けることも可能となっている。課外活動や学生会活動で特に顕著な業績を残した学生に対しては，卒業式などにおいて特別表彰も実施している（資料７－１－⑤－６）。これらの活動にかかる経費については，全学生から徴収した学生会費をはじめ，運営費交付金及び教育後援会からの援助も行われている（資料７－１－⑤－７～９）。

資料７－１－⑤－３

クラブ顧問会議に関する資料

[page: 01]

題名　　クラブ顧問会議の開催について(通知)
差出人

平成２２年 ２ 月２３日

クラブ顧問各位

校長補佐（学生主事）

クラブ顧問会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますので、各クラブから１名以上必ず出席願います。

記

日 時：平成２２年3月１１日（木）　１１：００～

場 所：管理棟３階　大会議室

議 題：１．平成２１年度クラブ強化費執行状況について
２．平成２２年度クラブ顧問について
３．平成２２年度クラブ登録手続きについて
４．平成２２年度クラブ物品要求手続きについて
５．平成２２年度クラブコーチ委嘱手続きについて
６．平成２２年度高専体育大会について
７．平成２２年度シャワー室清掃当番について
８．その他

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
沼津工業高等専門学校
学生課 学生係
Tel　055-926-
Mail　　@numazu-ct.ac.jp
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（出典　本校学内メール）

資料７－１－⑤－４

クラブ活動安全マニュアル（抜粋）

クラブ活動における安全対策等の手引き

―　安全第一方針に従うクラブ活動の指導指針 ―

内　　容

I.クラブ活動における安全対策
II.クラブ活動時の勤務体制
III.クラブ活動に関する各種提出書類
IV.クラブ活動等に関する諸規則，施設使用心得
V.緊急連絡網(全体)
VI.クラブ顧問・コーチ名簿
VII.各クラブの安全対策等

沼津工業高等専門学校
学生委員会

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料７－１－⑤－５

外部コーチ一覧表

平成23年度　クラブコーチ名簿

No.	クラブ名	コーチ名	郵便番号	住　所	TEL	勤　務　先	TEL
1	野球部	髙吉　文雄					
2	剣道部	谷　次雄					
3	文化サークル連合(天文)	望月　泰雄					
4	柔道部	青木　鶴佳					
5	弓道部	小柳出訓実					
6	陸上競技部	菊池　伸明					
7	テニス部	関　浩芳					
8	ソフトテニス部	小野　美英					
9	ソフトテニス部	吉村　貞幸					
10	バスケットボール部	鈴木　勝					
11	サッカー部	濱村　功					
12	サッカー部	坂井　徳尚					
13	バレーボール部	永井　腿					
14	バドミントン部	小川　重光					
15	合気道部	飯田　三郎					
16	水泳部	増山　和					
17	空手道部	原田　直敏					
18	空手道部	小柳津　哲					
19	スキー部	吉川　泰弘					
20	スキー部	髙橋　匠					
21	スキー部	佐藤　淳					
22	スキー部	清水　良平					
23	野球部	千葉　雅浩					
24	野球部	浜島　健					
25							
26							
27							
28							
29							
30							

H23.6.7 現在

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－⑤－６

表彰規定(抜粋)

１．表　　彰

学業成績、課外活動等において優れた実績を示し、かつ本校学生として他の模範となる学生に対し卒業時に表彰を行う（ただし、停学以上の懲戒処分を受けた者は原則として除かれる)。

教務関係

⑴　学業成績優秀賞

第３学年から第５学年までの成績が特に優秀な者

（第４学年への編入学生については第４学年から第５学年までの成績が特に優秀な者)。

⑵　出席皆勤賞

５年間（留学生については３年間）皆勤の者。ただし、各学年の年間欠課時間が２時間以内、かつ、５年間（留学生については３年間）で合計６時間以内（公休及び欠席・欠課願に基づき校長が認めた最大40時間以内の就職試験又は大学編入学試験関連の欠課を除く)。

⑶　研究活動功労賞

卒業研究及び科学技術に関する研究活動において功績顕著で本校の名誉を高めた者

学生関係

⑷　課外活動功労賞

課外活動に卓越した成果をおさめ、本校の名誉を高めた者

選考基準

クラブ活動(運動・文化部門)

ア　地区大会（高専体育大会及び各種地区大会)

（ア）個人種目で優勝１回以上又は準優勝２回以上した者

（イ）団体種目で優勝１回以上又は準優勝２回以上に貢献した者

イ　全国大会（高専体育大会及び各種全国大会)

（ア）個人種目で優勝１回以上又は準優勝１回以上した者

（イ）団体種目で優勝１回以上又は準優勝１回以上に貢献した者

ウ　その他団体部門で特に優秀な選手(者)として他の団体等に選抜された者

⑸　学生会活動功労賞

学生会の役員として、学生会の発展に貢献した者で選任された期間中の貢献度を加味し、３名以内を選定する。

⑹　社会活動功労賞

学生の模範として、人命救助など推奨できる行為のあった者

寮務関係

⑺　寮生会活動功労賞

寮生会の指導者として、リーダーシップを発揮し、規律ある有意義な寮生活の達成に貢献した者

(161)

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料７－１－⑤－７

学生の活動経費に関する資料

平成 22 年度学生会予算案

収入の部

項目	予算額	人数	小計
学生会費	￥　6,000	1039	￥6,234,000
入会金	￥　1,000	208	￥　208,000
前年度繰越金	￥3,525,350		￥3,525,350
コピー収入予定	￥200,000		￥　200,000
総計			¥10,167,350

支出の部

クラブ・同好会活動費内訳

	団体名	予算額
クラブ	合気道	¥3,720
	囲碁・将棋	¥500
	空手	¥9,600
	弓道	¥89,250
	剣道	¥10,502
	サッカー	¥143,480
	柔道	¥7,300
	吹奏楽	¥69,530
	水泳	¥70,000
	スキー	¥37,000
	軟式テニス	¥192,164
	体操	¥18,600
	卓球	¥82,630
	トライアスロン	¥18,035
	男子バスケット	¥25,371
	女子バスケット	¥11,690
	バドミントン	¥159,800
	男子バレー	¥27,600
	女子バレー	¥6,800
	硬式テニス	¥105,600
	ハンドボール	¥181,410
	野球	¥396,400
	ラグビー	¥77,175
	陸上	¥45,805
	ロボコン	¥4,258
同好会	合唱	¥23,000
	環境問題	¥0
	機械工学	¥8,500
	軽音	¥0
	茶道	¥11,000
	天文	¥19,400
	プロコン	¥0
	ESS	¥0
	活動費	¥1,856,210
	部活動予備費	¥860,000
	合計	¥2,716,210

全体

部署	項目	予算額
本部	全国高専交流会	¥150,000
	慶弔費	¥50,000
	雑費	¥50,000
	小計	¥250,000
企画	企画費用	¥250,000
	小計	¥250,000
文芸報道	USB 代	¥3,000
	文集対象景品代	¥40,000
	文集製作費	¥750,000
	雑費	¥5,000
	小計	¥798,000
体育祭	体育祭費用	¥333,600
実行委員会	小計	¥333,600
福祉美化	作業用具購入費	¥1,000
委員会	苗・肥料購入費	¥50,000
	ボランティア活動費	¥60,000
	雑費	¥5,000
	小計	¥116,000
応援団	合宿費	¥80,000
	応援諸経費	¥85,000
	小計	¥165,000
端末管理局	物品購入費	¥150,000
	紙代	¥130,000
	コピー機維持費	¥380,000
	小計	¥660,000
高専祭	高専祭	¥2,500,000
実行委員会	小計	¥2,500,000
部長会	クラブ・同好会活動費	¥1,856,210
	予備費	¥860,000
	小計	¥2,716,210
支出小計		¥7,788,810
予備費	予備費小計	¥2,378,540
	小計	¥2,378,540
総計		¥10,167,350

平成 22 年度会計長

平成 22 年度評議委員長

（出典　平成 22 年度学生会予算案）

資料７－１－⑤－８

教育後援会決算書

平成21年度 教育後援会決算書

収入の部

科目	項目	予算額 A	収入額 B	予算額との差 C=B-A	備考
1.正会員会費	1.入会金	3,015,000 円	3,000,000 円	△15,000 円	兄弟入学者1名見積相違
	2.過年度入会金	0	0	0	
	3.会費	23,994,000	23,832,000	△162,000 ＊	＊下記参照
	4.過年度会費	0	22,000	22,000 ＊	＊下記参照
	5.臨時会費	0	0	0	
2.賛助会員会費	1.賛助会員会費	300,000	375,000	75,000 ＊	＊下記参照
3.寄付金	1.寄附金	0	0	0	
4.雑収入	1.雑収入	10,000	2,658	△7,342	預金利息
5.繰越金	1.前年度繰越金	2,610,490	2,610,490	0	
6.積立金受入	1.積立金受入	0	0	0	
合計		29,929,490	① 29,842,148	△87,342	

【会費】9月修了者　△15,000円　　専攻科（@7,500円×2名）
休学者　△59,000円 本科（@11,000円×4名）　専攻科（@7,500円×2名）
申途退学者　△11,000円 本科（@11,000円×1名）
未納者　△77,000円 本科（前期@11,000円×3名、後期@11,000円×4名）

【過年度会費】H20年度会費　22,000円 本科（@11,000円×2名）

【賛助会員会費】会員数見積相違　75,000円（会員数75名－見積会員数60名＝15名増加）

支出の部

科目	項目	予算額 A	流用 増減(△)額 B	改予算額 C=A+B	支出額 D	残額 E=C-D	備考
1.事務費	1.諸給与	1,350,000 円	5,104 円	1,355,104 円	1,355,104 円	0 円	
	2.事務費	600,000	0	600,000	301,531	298,469	
	3.会議諸費	350,000	0	350,000	298,986	51,014	
2.事業費	1.教育援助費	3,910,000	0	3,910,000	3,859,959	50,041	
	2.課外活動援助費	3,596,000	0	3,596,000	3,095,609	500,391	
	3.体育大会経費	10,880,000	0	10,880,000	10,370,249	509,751	
	4.学生表彰・厚生補導費	449,000	37,353	486,353	486,353	0	
	5.学生保健衛生費	12,000	564	12,564	12,564	0	
	6.会員との連絡費	300,000	0	300,000	294,840	5,160	
	7.慶弔記念費	52,000	0	52,000	46,500	5,500	
	8.研究研修助成費	2,640,000	58,560	2,698,560	2,698,560	0	
	9.進路開拓及び職業進学指導費	160,000	0	160,000	116,719	43,281	
	10.学校紹介費	1,087,000	0	1,087,000	1,084,547	2,453	
	11.渉外補助費	50,000	0	50,000	22,310	27,690	
	12.環境整備助成費	150,000	0	150,000	129,072	20,928	
	13.卒業式関連諸経費	380,000	41,507	421,507	421,507	0	
3.積立金	1.積立金	300,000	0	300,000	300,000	0	
4.学生安全関係費	1.学生安全関係費	1,688,720	0	1,688,720	1,687,200	1,520	
5.予備費	1.予備費	1,974,770	△143,088	1,831,682	0	1,831,682	
合計		29,929,490	0	29,929,490	② 26,581,610	3,347,880	

平成22年度へ繰越額　①29,842,148－②26,581,610＝3,260,538

（出典　平成 22 年度教育後援会総会資料）

資料７－１－⑤－９

学生の活動経費に関する資料

平成22年度クラブ強化費予算配分方針(抜粋)

1. 保留額・・・・・・100, 000円

2. 予算の申請・配分を「基本経費」と「活動経費」に分けて行う。

3. 基本経費

下記①・②・③については「基本経費」として全体の強化費から予め差し引くこととし, 各クラブ・文化サークル連合の個別予算には計上しない。

なお, 登録費は「団体扱い」のみを対象とし, 「個人扱い」の場合は対象外とする。

① 協会登録などの一定の条件を満たした団体登録料

② 公式戦および公式戦に準ずる活動の参加料

・高専大会参加種目のクラブ・・・・・・・なし

・その他のクラブ・・・・・1大会(活動)のみ1/2負担(高校・大学等の区別なし)

※ 高専大会経費については強化費には含めない(別途予算)。

※ 個人登録費は全て個人払いとする。

※ 「基本経費」については申請項目以外への流用は認めない(学生係で一元管理)。

③ クラブ顧問の付添旅費(コーチ旅費も含む)

※ 年度当初の各クラブ強化費執行計画に基づいて配分。

4. 活動経費(標準配分額)・・・・・「活動経費」の「標準配分額」を以下のとおり算出する。

● 実質配分額・・・・・〔クラブ強化費〕－〔保留額〕－〔基本経費合計〕

● 固定配分額・・・・・実質配分額の50%を下記の比率で配分

運動部・吹奏楽部・囲碁将棋部・ロボコン部：1.0, 文化サークル連合：0.4

● 学生積算配分額・・・実質配分額の50%を学生の人数に比例して配分

※この予算配分のための部員数は年度当初のものとする。

●〔活動経費・標準配分額〕＝〔固定配分額〕＋〔学生積算配分額〕

※ 但し, 年度当初の強化費執行計画においてコーチ謝金, 参加費の申請がなかったクラブについては活動経費を0とし, 支給しないこととする。

5. 活動経費(予算決定)

各クラブの「活動経費」を以下のとおり決定する。

1)〔申請額〕≦〔標準配分額〕→〔申請額〕※差額合計(余剰金)は2)で再配分

2)〔申請額〕＞〔標準配分額〕→〔余剰額を超過額に応じて再配分〕

※ クラブ強化費予算額内訳

教育後援会クラブ強化費予算額2, 900, 000円

運営費交付金(謝金のみ支出可) 860, 000円

合計3, 760, 000円

（出典　クラブ顧問会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

校長補佐（学生主事）を中心とした学生主事補，学生委員，クラブ顧問教員，学生課職員などによる人的支援，学生会費・運営費交付金・教育後援会費による経済的支援，系統的な安全対策や外部コーチによる専門的指導などが整っており，学生が課外活動に取り組むための十分な環境が整っている。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活に関しては，準学士課程では学級担任（資料７－２－①－１，２），専攻科課程では指導担当教員（資料７－２－①－３，４）によって日常的に個々に対して行われるものが根幹である。

資料７－２－①－１

学級担任一覧

平成２３年度　校 務 分 掌

平成23年4月1日 現在

校長
柳下福蔵

副校長（教務主事）
教授 大島 茂
校長補佐（学生主事）
教授 蓮實文彦
校長補佐（寮務主事）
教授 遠藤良樹
校長補佐（専攻科長）
教授 遠山和之
校長補佐（特定業務担当）
教授 大久保清美
教授 押川逢夫
機械工学科長
教授 小林隆志
電気電子工学科長
教授 望月孔二
電子制御工学科長
教授 川上誠
制御情報工学科長
教授 長谷賢治
物質工学科長
教授 芳野恭士
教養科長
教授 西垣誠一
図書館長
教授 江間敏
総合情報センター長
教授 牛丸真司
(副)講師 中道義之
地域共同テクノセンター長
教授 藤尾三紀夫
(副)教授 相良誠
(副)准教授 稲津晃司
技術室長
教授 西田友久
技術長 石和嘉衛
学生生活支援室長
教授 小林美学
実習工場長
教授 小林隆志
事務部長
上原正宣
総務課長
五条寿久
課長補佐 露木弘充
課長補佐 影島義三
学生課長
山添均
課長補佐 室伏啓二

教務主事
教授 大島茂
教務副主事
＜欠員＞
教務主事補
教授 村松久巳
教授 高野明夫
教授 勝山智男

学生主事
教授 蓮實文彦
学生副主事
＜欠員＞
学生主事補
准教授 井上聡
准教授 鈴木茂樹
准教授 鄭萬溶
＜欠員＞

寮務主事
教授 遠藤良樹
寮務副主事
＜欠員＞
寮務主事補
准教授 西村賢治
講師 中道義之
准教授 佐藤崇徳

教科主任	
国語	
准教授	大石加奈子
社会	
准教授	佐藤崇徳
数学	
教授	待田芳徳
物理	
教授	勝山智男
化学	
教授	小林美学
体育	
教授	佐藤誠
英語	
教授	*塩谷三徳*
代行准教授	鈴木久博
ドイツ語	
教授	大久保清美

学級担任		
機械工学科		
M	1年	澤井洋
		松田伸也
	2年	平田陽一郎
		宮内太積
	3年	西田友久
	4年	永禮哲生
	5年	三谷祐一朗
電気電子工学科		
E	1年	代表 勝山智男
		西村賢治
	2年	鈴木久博
		江間敏
	3年	真鍋保彦
	4年	代表 野毛悟
	5年	代表 佐藤憲史
電子制御工学科		
D	1年	松澤寛
		大沼巧
	2年	佐藤志保
		青木悠祐
	3年	舟田敏雄
		出川智啓
	4年	江上親宏
	5年	長澤正氏
制御情報工学科		
S	1年	駒佳明
		大久保進也
	2年	大久保清美
		松本祐子
	3年	代表 芹澤弘秀
	4年	鈴木康人
	5年	吉野龍太郎
物質工学科		
C	1年	渡邉志保美
		後藤孝信
	2年	代表 佐藤誠
		薬科知之
	3年	稲津晃司
	4年	古川一実
	5年	竹口昌之

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料７－２－①－２

学級担任のためのレファレンスマニュアル(抜粋)

2011/03/31

学級担任教員のためのレファレンスマニュアル　（平成 23 年 4 月）

Ⅰ　本校の目的および目標

沼津高専の目的は、

1. 豊かな人間性を備え
2. 社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない
3. もって地域の文化と産業の進展に寄与すること

です。

この目的を実現するために、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標としています。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

Ⅱ　学級担任制度および学級担任の職務

Ⅱ－１ 学級担任制度

本高専準学士課程は，上記目標を実現するために,ホーム・ルーム制をとっています。つまり、全ての学生が学科、学年に対応した学級に属し、各学級には学級を指導する学級担任が配され、学級毎に教室が割り当てられています。

学級担任は、本高専の目的を実現し、学生が学習・教育目標を達成するために学生を援助し、指導する最前線に位置する重要な役割を担っています。学級担任制度こそは本高専における教育の屋台骨であるといえます。それ故、学級担任は当該学級の厚生補導、教務指導、特別活動指導、ホームルームの運営等々、学級に関する全てがその職務範囲に入ります。1996 年に制定された**「学級担任に関する内規」**には、学級担任の職務として以下のように定められています。

第4条　学級担任は、校長の命を受け、次の事項を行う。

(1) 当該学級の学生の教育指導、生活指導及び厚生補導に関すること。
(2) 当該学級の教務に関すること。
(3) 当該学級の学生の特別活動に関すること。
(4) その他当該学級の運営に関すること。

Ⅱ－２ 学級担任の職務

学級担任の職務に対して、教育指導・教務関連事項に関しては副校長(教務主事)が、厚生補導・特別活動等に関しては校長補佐(学生主事)が支援します。

副校長は長期休業中を除いて、学級担任に当該教室の管理権限を委譲します。学級担任には教室を管理する権限と、教室内を常に清潔・整頓された状態に保ち、学習環境を整えておく義務があります。また、学級担任は，当該学級員以外のホームルームへの学生の立ち入りを制限することができます。

校長補佐(学生主事)は学生の厚生補導に関して，当該学級担任と密接に連絡を取りながら指導に当たります。その際に当該学級担任は学生主事補と同等の権限が保障されます。

以下に、**「学級担任の職務の具体例」**を示しますが、これらは参考であり、実際の学級運営に当たっては、学科長・教養科長と綿密に連絡を取りながら、FD を通じた教員間の経験・交流や意見交換を積極的に進める姿勢が求められます。

各種届出・手続きの詳細については教務関係規則集・学生便覧ならびに担当係にて確認されたい。なお、諸届けの様式は、総合情報センター（学内専用ページ）＞資料集＞諸様式よりダウンロードでき、アドレスは下記の通りです。

http://www.ccst.numazu-ct.ac.jp/kyoumu/download/syoyousiki.htm

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料７－２－①－３

専攻科担当教員（専攻科企画運営委員）一覧

平成２３年 各種委員会委員名簿(1/2)

平成23年4月1日 現在

総務委員会
○ 柳下 福蔵
大島 茂
蓮實 文彦
遠藤 良樹
遠山 和之
大久保 清美
押川 達夫
小林 隆志
望月 孔二
川上 誠
長谷 賢治
芳野 恭士
西垣 誠一
江間 敏
牛丸 真司
藤尾 三紀夫
西田 友久
小林 美学
事務部長
◇ 総務課長
◇ 学生課長
（事務）総務係

学生委員会
○ 蓮實 文彦
遠藤 良樹
学生副主事（欠員）
井上 聡
鈴木 茂樹
鄭 萬溶
室長 小林 美学
山中 仁
嶋 直樹
江上 親宏
松本 祐子
大川 政志
鈴木 久博
◇ 学生課長
（事務）学生係

専攻科企画室運営委員会
○ 遠山 和之
新冨 雅仁
高野 明夫
大庭 勝久
鈴木 康人
竹口 昌之
藁科 知之
松澤 寛
（事務）教務係

総合情報センター運営委員会
○ 大島 茂
牛丸 真司
蓮實 文彦
遠藤 良樹
遠山 和之
小林 隆志
望月 孔二
川上 誠
長谷 賢治
芳野 恭士
西垣 誠一
江間 敏
藤尾 三紀夫
事務部長
（事務）総務係

寮務委員会
○ 遠藤 良樹
大島 茂
蓮實 文彦
西村 賢治
中道 義之
佐藤 崇徳
寮監 福木 洋一
1年 勝山 智男
2年 佐藤 誠
3年 芹澤 弘秀
4年 野毛 悟
5年 佐藤 憲史
青木 悠祐
出川 智啓
大沼 巧
山根 説子
平田 陽一郎
澤井 洋
鈴木 正樹
宮内 太積
松田 伸也
髙矢 昌紀
◇ 学生課長
（事務）寮務係

図書運営委員会
○ 江間 敏
松田 伸也
佐藤 憲史
大沼 巧
吉野 龍太郎
藁科 知之
平田 陽一郎
澤井 洋
学生課長
（事務）図書係

総合情報センター委員会
○ 牛丸 真司
中道 義之
三谷 祐一朗
真鍋 保彦
出川 智啓
鈴木 康人
藁科 知之
駒 佳明
青田 広史
原田 龍一
中村 玲治
桶田 真司
（事務）総務係

教務委員会
○ 大島 茂
勝山 智男
村松 久巳
高野 明夫
小林 隆志
望月 孔二
川上 誠
長谷 賢治
芳野 恭士
西垣 誠一
押川 達夫
遠山 和之
江間 敏
松澤 寛
三谷 祐一朗
大庭 勝久
後藤 孝信
◇ 学生課長
（事務）教務係

寮務運営委員会
○ 遠藤 良樹
大島 茂
蓮實 文彦
福木 洋一
事務部長
◇ 学生課長
（事務）寮務係

研究報告委員会
○ 江間 敏
小林 隆志
望月 孔二
川上 誠
長谷 賢治
芳野 恭士
西垣 誠一
（事務）図書係

技術室運営委員会
○ 西田 友久
大島 茂
遠山 和之
小林 隆志
望月 孔二
川上 誠
長谷 賢治
芳野 恭士
西垣 誠一
牛丸 真司
藤尾 三紀夫
MM 塩谷 三徳
石和 嘉衛
総務課長
（事務）技術室

地域連携・研究支援委員会
○ 藤尾 三紀夫
相良 誠
稲津 晃司
新冨 雅仁
野毛 悟
青木 悠祐
駒 佳明
事務部長
総務課長
◇ 山本 治利
◇ 筒井 正文
（事務）総務係

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

平成２３年 各種委員会委員名簿(1/2)

資料７－２－①－４

専攻科担当教員規定（抜粋）

専攻科担当教員規程

（趣旨）
第1条 この規程は、沼津工業高等専門学校専攻科担当教員の資格、認定等に関し必要な事項について定めるものとする。

（担当教員の資格）
第2条 専攻科担当教員の資格は、短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する(平成3年大学評価・学位授与機構規程第4号)第2条第1項第4号に規定する資格を有し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

（担当教員の認定）
第3条 専攻科担当教員の認定は、専攻科担当教員会議の審査に基づき校長が行う。

2. 前項の審査は、別記様式の教員個人調書により行うものとする。
3. 第1項の認定は、毎年度、実施するものとする。

（研究指導教員）
第4条 校長は、専攻科の学生に対する専攻科研究論文の作成等の指導並びに沼津工業高等専門学校学則第46の4(専攻科規則案第2条)に規定する教育目標を達成するために必要な支援及び指導を行うため、専攻科担当教員である教授又は助教授のうちから、当該学生ごとに研究指導教員を命ずる。

2. 校長は、前項の研究指導教員を命ずるに当たっては、専攻科担当教員会議の意見を聴くものとする。

（教育実施関係書類の提出）
第5条 専攻科担当教員は、各学期の開始前の所定の期日までに別に定める教育実施計画関係書類を、各学期の修了前の所定の期日までに別に定める教育実施報告関係書類を作成し、専攻科長に提出しなければならない。

（細目）
第6条 この規程に定めるもののほか、専攻科担当教員に関し必要な細目は、別に定める。

「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」

付則
この規程は、平成15年4月1日から施行する。

04年度専攻科規則集へ戻る。

教育実施計画書関係書類

i. シラバス
ii. 専攻科研究指導計画書
iii. 専攻科実習開始届
iv. その他

教育実施報告書関係書類

i. 授業実施報告書
ii. 専攻科研究指導報告書
iii. 専攻科実習証明書、実習概要及び報告書
iv. その他

1. 教員個人調書の書式は、「個人資料(JABEE仕様)書式要領」に従って定める。
2. シラバス、及び授業実施報告書の書式項目は「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録Aに記載する。
3. 専攻科研究指導計画書、及び専攻科研究指導報告書の書式項目は「専攻科の教育実施に伴う作成書式の整備に関する細則」の付録Bに定める。
4. 専攻科実習開始届、実習証明書、実習概要及び報告書それぞれの書式は「専攻科実習規則」に定める。

個人調書書式

1. 氏名(年齢):
2. 所属・職名：
3. 勤務形態(常勤・学内兼任・非常勤の別):
4. 最高学位(取得年):

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

学校全体としては，学生委員会が行うもの（資料７－２－①－３，５）と教職員，看護師，スクールカウンセラーから構成される学生生活支援室（資料７－２－①－６，７）が行うものが存在する。また，担任連絡会議（資料７－２－①－８）を通じて教員間における学生に関する情報共有もなされている。加えて，本校が属する地域の高等学校間の生徒指導連絡協議会である沼駿地区生徒指導研究協議会に加盟し，学生委員会のメンバーが街頭補導などに参加し，近隣高等学校との生徒指導に関する情報交換を行い，本校学生の生活指導や交通指導に生かしている（資料７－２－①－９）。

資料７－２－①－５

学生委員会による学生指導の体制

平成２３年度　学生委員会　業務分担（2011.4）

項　　目		主任	担　当
生活指導	生地研	嶋	江上
	生活アンケート		※学生生活支援室
	学内巡回	山中	大川
	クリーン活動	大川	山中
交通指導		井上	鈴木久 松本
研修　御殿場研修（１年生）			※2011 年度は中止（学内で実施）
	スキー研修（３年生）		江上　嶋
クラブ活動		松本	鈴木久 井上
学生会活動	学生会	鄭	鈴木茂
	高専祭	鈴木茂 鄭	
その他 学生支援総合センター			

平成２３年度　学生委員

主　　事	蓮実（C）		
主 事 補	井上（M）	鄭（D）	鈴木茂（S）
学生委員	鈴木久（L）	山中（M）	嶋（E）
	江上（D）	松本（S）	大川（C）

（出典　学生委員会資料）

資料７－２－①－６

学生生活支援室の概要

沼津高専 学生生活支援室

学生の皆さんへ

高専5年間の学校生活の間には、勉学、寮生活、課外活動、友人関係、家庭環境など全般において様々な変化があり、学生のみなさんはその中で考えたり悩んだりしながら人間的に成長していくことと思います。しかし時には、自分自身では解決の糸口が見つからないように見えることがあります。そんな時は、そのストレスが心、体、行動そして成績にも現れてくるでしょう。

「学生生活支援室」は，そういった学生の問題について、スムーズに解決できるように手助けをするための組織です.

たとえば...

- 友達や先輩、先生とうまくいかなくて困ったとき
- 将来に対して不安を感じたとき
- 成績がふるわなくて自信をなくしたとき
- 助けたい友達がいるとき
- 人に言えない悩みを抱えたとき

ぜひ、相談してください。学生の立場で一緒に考えていきます。

学生生活支援室は尚友会館2階にあります。保健室や教員室でも相談を受け付けますから、いつでも扉をたたいてください。みなさんのノックを待っています。

メンバー

役職	氏名	所属
室長	小林 美学	教養科教員
室員	能登路 純子	教養科教員
室員	坂本 信男	教養科教員
室員	塩谷 三徳	教養科教員
室員	大庭 勝久	電子制御工学科教員
室員	房間 貞	カウンセラー
室員	宇治 友子	カウンセラー
室員	牧野 初江	看護師

保護者のみなさまへ

学生の生活に関する事であれば，保護者のみなさまからの相談も承っています。お気軽にご相談ください。

m.kobayashi@numazu-ct.ac.jp (小林)

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料７－２－①－７

学生生活支援室による学生指導のための会議案内

校長	事務部長	学生課長	課長補佐	学生係長	担当者	起案	主事
／	／		／			決裁	
						発送	

以下のとおり　通知　してよろしいか伺います。

題名　　学生生活支援室全体会議の開催について(通知)
差出人　　学生課学生係

From:　　@numazu-ct.ac.jp (学生課学生係)
Date: Wed, 24 Feb 2010 16:18:31 +0900

平成22年2月24日

学生生活支援室メンバー各位

学生生活支援室長

第10回学生生活支援室全体会議の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催いたしますのでご参集願います。

記

1. 日時　　平成22年3月5日(金) 16:00～17:00

2. 場所　　学生生活支援室

3. 議題　　(1)情報交換
(2)その他

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－①－８

担任連絡会議による学生指導のための情報交換の一例

平成２３年 ６ 月 ６ 日

学級担任連絡会議委員　各位

副校長（教務主事）

学級担任連絡会議の開催について

下記のとおり開催しますのでご出席ください。
なお、出席できない場合は教務係へお知らせください。

記

日　時　平成２３年 ６ 月２０日（月）１６：３０～１７：００
場　所　選択制教室３・４
議　題
１．学習支援（特に１～３年生）について
２．再評価への取組みの指導について
３．電力 15%削減に対する学生指導について
４．その他

（出典　本校学内メール）

資料７－２－①－９

沼駿地区生徒指導研究協議会への参加

校長	部長	課長	課長補佐	係長	係
／	／		／	主事	

※ 先生に連絡すること
2/10 タクシー利用（行き）
3.4限授業の為

沼駿生地研第８号
平成２２年１２月１７日

関係高等学校長　様
関係特別支援学校長　様
沼津工業高等専門学校長　様

沼駿地区生徒指導研究協議会
会長　加地宗雄
（沼津市立沼津高等学校長）

第５回沼駿地区生徒指導研究協議会（生地研）の開催について（通知）

このことについて、下記により開催いたします。御多忙のところ誠に恐縮ですが、貴校の生地研担当教員の派遣につきまして御配慮をお願い申し上げます。

記

１　日　時　　平成２３年　２月１０日（木）　午後１時３０分から４時まで
２　会　場　　沼津市立沼津高等学校　誠花ホール（メディアセンター２階）
（沼津市三枚橋字鐘突免６７３番地）
３　内　容
（１）開会あいさつ（会　長）
（２）所管事項説明
ア　静岡県教育委員会　学校教育課
イ　静岡県総合教育センター　人づくり支援課
ウ　静岡県文化観光部文化学術局　私学振興課
エ　沼津警察署　生活安全課・交通第一課
オ　沼津市青少年教育センター
カ　沼津市交通対策課
キ　小・中生徒指導連絡協議会
ク　沼津市教育委員会　学校教育課
（３）質　疑
（４）情報交換
（５）連絡事項等
（６）「心の教育推進事業」講演会（午後３時から４時まで）
学校カウンセラー　蔭山　昌弘　氏
「生徒の心の闇とその対応」
（７）閉会のあいさつ（副会長）
（内容が一部変更することがあります。）
４　その他
（１）　配布物がありましたら、50部御用意ください。
（２）　日程終了後、懇親会を開催いたします。出欠の連絡をファクシミリにてお送り願います。場所等の詳細は当日連絡いたします。

担　　当
生徒指導主事
電　　話

沼津高専
22.12.20
学第611号

（出典　生地研開催案内文書）

学生生活支援室はメンタルヘルスを含めた学生のさまざまな問題に対する相談・援助を行っている。さらに，スクールカウンセラーを週２日委嘱する（資料７－２－①－10，11）とともに，看護師が常駐することにより，学生の健康面に関してはきめの細かい専門的な対応が可能となっている（資料７－２－①－12）。

資料７－２－①－10

カウンセラーによる学生相談の体制

平成２３年３月３０日

教員各位

学生生活支援室長
校長補佐（学生主事）

平成２３年度学生相談について

標記のことにつきまして、下記のとおり実施しますので、ご承知願います。

なお、クラス担任におかれましては、クラス掲示用を貴クラスに掲示していただくとともに、学生への周知をよろしくお願い申し上げます。

記

平成２３年度学生相談

カウンセラー　宇治　友子　先生　月曜日　１５：３０～１８：３０

カウンセラー（臨床心理士）　房間　貞　先生　金曜日　１５：３０～１８：３０

場　所：共通棟１階　カウンセリング室

☆　予約優先。１人１時間枠。相談を希望される場合は、事前に保健室にご連絡をお願いいたします。

実施日：下表のとおり

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
月			6	4		3		5		
金		6	10	8		7	11	9	6	3
月	11	9	13	11			14	12		6
金	15	13	17	15		14	18	16	13	
月	18	16	20	18		17	21	19	16	
金	22	20	24	22		21	25		20	17
月	25	23	27	25	26	24	28		23	
金		27			30	28			27	24
月		30				31			30	27
金										

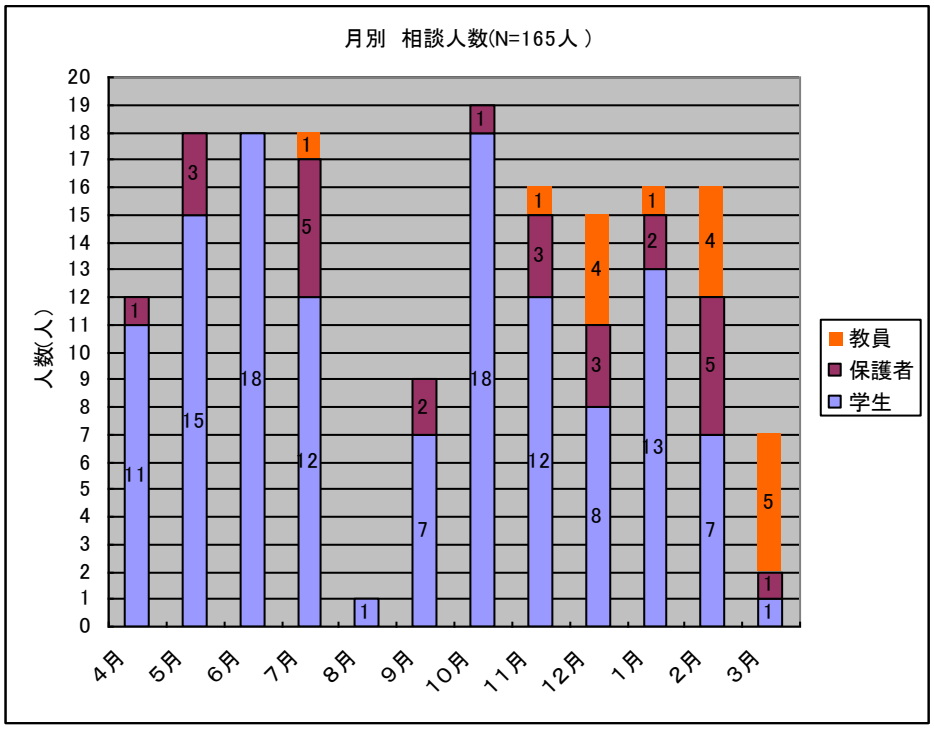
（出典　本校学内案内メール）

資料７－２－①－11

相談室の利用実績（抜粋）

平 成 22 年 度 学 生 相 談 集 計

カウンセリング件数の集計のみ記載



月	相談人数
4月	12
5月	18
6月	18
7月	18
8月	1
9月	9
10月	19
11月	16
12月	15
1月	16
2月	16
3月	7
合計	165

（出典　カウンセラー作成資料）

資料７－２－①－12

保健室の利用実績

平成22年度保健室利用状況

	疾病				メンタルヘルス				合計			
	学生		教員		学生		教員		学生		教員	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
４月	86	86	1	1	3	3	0	0	89	89	1	1
５月	109	109	1	1	4	4	0	0	113	113	1	1
６月	120	120	1	1	7	7	0	0	127	127	1	1
７月	80	82	2	2	13	14	0	0	93	96	2	2
８月	9	9	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0
９月	93	93	0	0	6	7	0	0	99	100	0	0
１０月	148	149	1	1	7	7	0	0	155	156	1	1
１１月	130	130	2	2	2	2	0	0	132	132	2	2
１２月	110	110	4	4	9	10	0	0	119	120	4	4
１月	203	203	3	3	28	29	0	0	231	232	3	3
２月	46	46	1	1	16	19	0	0	62	65	1	1
３月	13	13	5	5	3	3	0	0	16	16	5	5
合計	1147	1150	21	21	98	105	0	0	1245	1255	21	21

（出典　保健室作成資料）

学生の経済面に関しては，準学士課程１年から３年次については就学支援金，４年から５年次については授業料免除制度により支援が行われる（資料７－２－①－13）。また，日本学生支援機構などの外部奨学金制度や本校同窓会による奨学金制度なども整えられ，経済状況に応じて幅広く対応することが可能となっている（資料７－２－①－14）。奨学金等の情報は，ホームページを通し，常に最新の情報が学生，保護者に周知されている。

授業料免除による経済的支援の実績　　資料７－２－①－13

年度	区分	申請	全額免除	半額免除	基準外	備考
平成 18 年度	前期	57	32	17	8	
	後期	55	35	15	5	
平成 19 年度	前期	63	34	17	12	
	後期	57	36	17	4	
平成 20 年度	前期	72	39	19	14	
	後期	60	37	14	9	
平成 21 年度	前期	69	36	25	8	
	後期	69	41	25	3	
平成 22 年度	前期	24	16	7	1	４年生以上
	後期	23	16	6	1	４年生以上

（出典　学生課作成資料）

各種奨学金制度による経済的支援の実績　　資料７－２－①－14

No.	奨学金名	募集学年	金額	返還	利用者数	
					H21	H22
1	日本学生支援機構第１種奨学金	全学年	＊１	要	64	66
2	日本学生支援機構第２種奨学金	全学年	＊２	要	6	3
3	天野工業技術研究所奨学金	5 年生	年額 20 万円	不要	1	1
4	ウシオ育英文化財団奨学金	5 年生	月額 6 万円	不要	0	0
5	財団法人タミヤ奨学会	5 年生	月額 2 万 5 千円	不要	1	未定
6	熱海市育英事業奨学金	全学年	月額 1 万 9 千円以内	要	0	1
7	印野郷土振興協会奨学金	5 年生、専攻科 2 年生	月額 5 万円以内	要	0	0
8	沼津中央ライオンズ基金	本科1･2年生	月額 1 万 5 千円以内	不要	1	4
9	関育英会奨学金	本科 2 年生	月額 2 万円	要	0	1
0	スズキ教育文化財団	本科 2･3 年生	月額 2 万円	不要	1	2
11	交通遺児育英会奨学金	全学年	月額 2 万円、3 万円、4 万円から選択	要	1	1
12	あしなが育英会奨学金	全学年	月額 2 万 5 千円	要	1	0

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では学級担任・副担任，専攻科課程では指導担当教員がまずは窓口となって指導・相談・助言を行う。そのサポート体制として，学生委員会，学生係，学生生活支援室が整備され有効に機能している。また担任連絡会議は教員が横のつながりを持つことで，情報共有と学生指導における連携で有効に機能している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

外国人留学生の支援は，個別に割り当てられる担当教員及び学生チューターを中心として，学級担任教員，寮務担当教員，学生課職員，非常勤の日本語担当教員などが密接に連携することにより行われている（資料７－２－②－１）。

留学生の支援体制　　資料７－２－②－１

平成２２年度　在学 外国人留学生一覧

氏名（フリガナ）	留学生学年	学科	入学年月日	受入学年	国籍	生年月日(西暦)	性別	区分	指導教員	チューター	
	M5	機械工学科	20年 4月 8日	3	マレーシア		男	マレーシア政府派遣	手塚		
	D5	電子制御工学科	20年 4月 8日	3	マレーシア		男	マレーシア政府派遣	川上		
	S5	制御情報工学科	20年 4月 8日	3	インドネシア		男	国費	宮下		
	E4	電気電子工学科	21年 4月 7日	3	ラオス		男	国費	高野	E4	
	D4	電子制御工学科	21年 4月 7日	3	ベトナム		男	国費	鄭	D4	
	E3	電気電子工学科	22年 4月 5日	3	マレーシア		男	マレーシア政府派遣	高橋	E3	
	C3	物質工学科	22年 4月 5日	3	ラオス		男	国費	葉科	C3	

（出典　国際交流委員会資料）

留学生は，全員学生寮に入寮することから，学生寮においては留学生の文化的な事情等に対する整備も行われている（資料７－２－②－２）。学校全体としては，国際交流委員会によって留学生に関する支援が行われている（資料７－２－②－３）。

特別な配慮を必要とするような障害を持つ学生の入学例はないが，教務の申し合わせに「身体的ハ

ンディキャップを持つ学生には，クラス担任がクラス員からチューター学生（複数）を選び，対応する」がある。また，学生生活支援室，学生委員会，教務委員会，学級担任教員が連携して対応を考える体制が準備されている。
また，設備面に関しては計画的に整備が行われ，エレベーターの設置や障害者用トイレの設置などが完備しつつある（後出資料８－１－①－13）。

資料７－２－②－２

寮内の留学生専用施設



留学生の補食室　　留学生のシャワー

（※宗教の違いを考慮し，補食室とシャワー室はそれぞれ２室ずつある。）

（出典　認証評価ワーキンググループによる写真）

資料７－２－②－３

国際交流委員会による支援体制

[page: 01]

題名　　第1回国際交流委員会の開催について(通知)
差出人　　学生課課長補佐

平成２２年１１月 ９ 日

国際交流委員会委員　各位
（CC：総務係（総務主担当）、教務係）

校　　長

第１回国際交流委員会の開催について（通知）

標記のことについて、下記のとおり開催しますのでご参集願います。
なお、ご都合が悪く欠席される場合は、あらかじめ学生課教務係へご連絡願います。（委員会は、１時間程度で終了する予定としております。）

記

開催日時　平成２２年１１月１６日（火）１６時から

場　　所　校 長 室

議　　題　１．国際交流委員会規則の全部改正について
２．国費留学生の奨学金支給期間延長申請について
３．東海地区国立高専留学生交流会について
４．シンガポール・ポリテクの短期留学プログラムについて
５．報告事項
① 英国語学研修＆異文化体験について
② 留学生経費について
③ 平成２３年度 受入予定留学生（国費）について
④ その他

（出典　国際交流委員会開催案内メール）

今
学
ては

ま
内
い

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では低学年（１，２年生）全寮制（２年生に対しては弾力的な運用）を実施しており，指導寮生を含む高学年生も含め，本校全学生の約半数が寮で生活している（資料７－２－③－１）。本校の学習・教育目標，本校の養成すべき人材像に掲げる人間的素養の形成の場として学生寮は大きな役割を果している。学生の生活及び勉学の場として有効に機能させるため，学生の自主性を最大限に生かし寮生会を中心とした運営を行っている。寮務担当の教員組織として，寮務主事，専任寮監，寮務主事補，寮務委員の 15 名であたっており，寮生会をうまく機能させることを指導の中心に据えて寮運営を行っている。寮生会組織は，寮長，副寮長は全寮生の投票による選挙で選ばれ（資料７－２－③－２），その下に各種委員会が組織的におかれ、寮務担当教員との会合（木曜会）を通じて情報交換を行いながら円滑に寮運営を進めている（資料７－２－③－３，前出資料５－３－①－31，32）。学生の点呼当番が一日に３回の点呼を行い，学生の生活の安全と健康状態を確認し，宿直教員に報告をしている。20:00～22:00 を静粛時間（学習時間）と定め学習に専念させ（資料７－２－③－４），多くの学生は消灯まで学習している。学生による自主的な勉強会マテカ（前出資料７－１－①－17）では，上級生が下級生に勉強を教えている。寮祭を始め，種々の行事を寮生会で企画し実行しており，近隣の長泉北中学校へ学習支援に寮生が出かけて中学生に勉強を教える活動（後出資料 11－４－①－３）や，他高専の寮生会との交流も行っている（資料７－２－③－５）。平成 22 年度には一関高専及び釧路高専の２校と交換寮生を実施した（資料７－２－③－６）。本校の学生寮の運営体制は他高専からも高く評価されており，平成 22 年度には米子高専，沖縄高専，豊田高専の３高専から寮務関係教職員及び寮生が視察に訪れた（資料７－２－③－７）。

資料７－２－③－１

在寮学生の人数

2011 年度第 3 回総務委員会寮務主事報告

①. 現員報告

563 名（男子：490 名　女子：73 名）

1 年：209（34）　2 年：160（19）　3 年：115（16）　4 年：60（3）

5 年：19（1）

専攻科：0（0）　留学生：10（2）　（括弧内は女子人数）

5/22(日) 栄峰１年 S、入寮免除願提出（退寮）

（出典　平成 23 年度第３回総務委員会寮務主事報告より抜粋）

資料７－２－③－２

寮生会選挙細則

５．寮生会選挙細則

第 １ 条　この細則は寮生会会則第 51 条に基づき、寮長１名及び副寮長２名を公選する選挙制度について規定するものである。

第 １ 節　　選挙権及び被選挙権

第 ２ 条　選挙権は寮生会員全員がこれを有する。

第 ３ 条　被選挙権は１年、２年、３年、４年の寮生会員全員がこれを有する。但し、選挙管理委員はこれを有しない。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料７－２－③－３

木曜会開催通知メール

寮務関係の先生方へ（Cc：寮務係）

[　　]です

標記会議を下記の要領で開きますので、ご出席ください。よろしくお願い致します。

記

第３回木曜会（教員会議＋合同会議）

日時：2011 年 5 月 12 日（木）　16：30-17:15（寮務担当教員会議）

17：15-18:30（教員と寮生会本部役員との合同会議）

場所：寮管理棟集会室（教員会議）、合宿所大部屋（合同会議）

Ⅰ．寮務担当教員会議

（１）現員報告

564 名（男子：491 名　女子：73 名）

1 年：210（34）2 年：160（19）3 年：115（16）　4 年：60（3）5 年：19（1）

専攻科：0（0）　留学生：10（2）　　（括弧内は女子人数）

（２）活動報告

4 月 24 日(日) 親睦会（前日雨天のため）

4 月 25 日(月) 自転車持ち込み説明会（親睦会延期のため）

4 月 26 日(火) 第１回寮生総会

4 月 28 日(木) 防災訓練（福木寮監、佐藤崇徳主事補、待田教員、遠藤）

4 月 29 日(金) 閉寮 10:00

（出典　本校学内メールより抜粋）

資料７－２－③－４

（1） 日課

平日は、下記の日課に従って生活する。なお、テスト期間生活時間の変更をする場合もある。

区分	時限	寮生留意点
起床	6:55	起床時刻を厳守し、寝具の整頓を速やかにする。
点呼	7:00	居室前で点呼を受ける。不在者・病人の有無を確認する。（8:00 までに点呼用紙を寮事務室に提出。）
清掃	7:00～7:30	
朝礼	7:00	原則として１ヵ月に１回、月曜日に行う。
朝食	7:30～8:30	8:15 までに食堂に入ること。
登校	8:30	服装を整え、定刻までに登校する。
施錠	8:30	
授業	8:50	欠席・欠課の場合は、必ず事前に寮監に申し出て承認を受ける。本人がいない場合は階長が代理となり欠席・欠課願を提出する。（8:40 までに提出）
昼食	11:45～13:00	短縮授業中・テスト期間中は 11:30～13:00
開錠	13:15	
夕食	17:00～19:00	18:50 までに食堂に入ること。
入浴	17:00～19:50	
点呼・門限	20:00	居室前で点呼を受ける。当番は風呂掃除を行う。
静粛時間	（20:00 以降）	雑談、放歌等は禁止する。
学習時間	20:00～22:00	学習に専念する。
点呼	22:00	居室前で点呼を受ける。不在者、病人の有無を確認する。
施錠	22:00	点呼後、棟外の外出禁止。点呼当番が帰寮後、玄関を施錠する。
消灯・就寝	23:00	１・２年生
	1:00	３年生以上　　（詳細は次頁表１・２参照）

〈注意〉　※　土曜日・日曜日・祝日・臨時休業日等は朝の点呼なし。
※　登校時間中は、寮内への出入りは禁じる。特別の事情がある場合には寮務関係教員又は担任教員の許可を受けて出入りする。

（出典　寮生活の手引き）

資料７－２－③－５

寮生会活動状況

平成22年度総評

校長補佐（寮務主事）
遠　藤　良　樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度もすばらしい寮生会の協力のもとスタートしましたと前号でお知らせいたしましたが、期待通りの活躍をみせてくれまして年度末を迎えております。長年寮務関係携わってまいりましたが、これほど寮生会が頼りになる存在であることを知りませんでした。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

４月：25日に新入生歓迎のための親睦会が行われました。

５月：寮最大のイベント寮祭が16日に行われました。寮祭の成功は保護者の皆様のご協力がなければ達成できませんお礼申し上げます。

６月：今年も長泉北中学習支援が始まりました。寮で行われているマテカの拡張版と捉えています。

７月：10日に夏祭りが行われました。今年は企画長の発案で花火師を招いて打ち上げ花火を行いました。

８月：28日から30日にかけて夏季寮生リーダー研修を行い、この研修中に長泉消防署において多くの指導寮生が救命救急講習を受けました。

９月：10日に４月に行われました地震想定の防災訓練と別に火災想定の避難訓練を実施しました。29日には沖縄高専から寮務主事と指導寮生４名が本校寮を視察に来られました。

10月：昨年度新型インフルエンザの影響で中止されました一関高専との交換寮生を13日から17日にかけて実施しました。同時期、釧路高専からも指導寮生２人が本校寮に宿泊体験を行っています。

11月：10月から始まった来年度寮長選挙とこの月に行われた同副寮長選挙により来年度寮生会３役が決まりま

（出典　高専だより 98 号）

資料７－２－③－６

交換寮生日程表

一関高専交換寮生日程表

○ 10月13日（水）
1－2時限授業
10:35 帰寮、着替え、準備（棟内入室許可）
11:35 昼食（荷物は寮事務に置いておく）
12:10 最終確認
12:20 タクシーで三島駅へ
13:19 三島駅発（新幹線こだま648号）
14:17 東京駅着
14:40 東京駅発（新幹線やまびこ57号）
17:13 一ノ関駅着
19:30 交換寮生紹介（寮食堂）その後、
学生：中央委員会見学
教員：同上（ホテル泊）

○ 10月14日（木）
学生：授業。放課後、校長と面談。校内・クラブ活動見学
夜、寮生会主催の歓迎会・懇談会
教員：午前中校長と面談、学内・寮内見学等。その後沼津に戻る。

○ 10月15日（金）
授業。その後自由懇談

○ 10月16日（土）
見学会（平泉方面観光）

○ 10月17日（日）
夕方までに寮に戻れるように一ノ関駅出発（この日の外出届は不可）

＊ なお一関での日程は予定で、変更もあります。先方の指示に従って下さい。
＊ 10月13日(水)3時限以降の公休を申請して下さい。公休は13日だけです。
理由は「一関高専交換寮生派遣のため」として下さい。
＊ 10月14日、15日は一関の授業を本校の授業と振替えますのでこちらの授業
は出席していると見なします。

（出典 寮務主事資料）

資料７－２－③－７

沖縄高専の交換寮生報告書

視察の感想

沼津高専学生寮を視察して、主に二点、沖縄高専学生寮との違いがあった。
一つ目は「寮生の主体性」である。沼津高専では寮生会を中心に様々な企画や行事を実施しており、それが実にうまく機能しているのである。その原因の一つに寮生会への参加人数の違いが挙げられる。沖縄高専は寮生会役員の数十名が中心に寮生会を機能させているが、沼津高専では、寮生の約半数が何らかの形で寮生会に関わっており、それによって連携などがうまくいき、学生でだけで実にうまく寮生会を機能させていた。特に帰省の確認まで寮生会で行っているという点や、寮生会紙の完成度の高さには驚いた。
二つ目は「寮内の雰囲気」である。沼津高専は「躾」というものが非常に徹底しており、上級生から下級生まで非常仲良くやりつつ、下級生は上級生に対してしっかりと礼儀を守っている。これらの様子は寮内にあるホワイトボードのにぎやかな感じや、寮生の自然な挨拶から伺えた。沖縄高専では下級生が上級生にあっても特に挨拶をすることはないのでこういった「躾」は沼津高専を見習ってしっかりと行ったほうがよいと思った。
最後に、沼津高専を丁寧にご案内くださった、寮務主事の方及び寮生会役員の方々に深く御礼申し上げたい。（[redacted]）

（出典　寮務主事資料）

一部管理職教員等を除く全教員で学生の生活の安全を維持するために宿直を行い，巡回しながら学生を指導し，日誌で様子を報告している（資料７－２－③－８）。日中は寮生活の指導を行う専任寮監を配置し，日々の寮生指導と情報の集約，そして木曜会での情報提供や寮生会との連携に努めている。また平日は毎日，寮生の欠席状況をメールで全教員に連絡し，寮生の行動を全教員と共有している（資料７－２－③－９）。

資料７－２－③－８

寮生指導日誌

寮生指導日誌

寮務主事	寮監

平成　年　月　日（　曜日）

宿直教員名　　印

・入室時刻　　時　　分　　・退室時刻　　時　　分

遅刻・早退の場合、その理由：

・点呼報告（外出・外泊者の確認、点呼時不明者の所在確認等）

・巡視報告

巡視時間：

巡視箇所：

観察・指導内容：

・その他

（出典　寮生指導日誌）

資料７－２－③－９

欠席・欠課通知メール

教員(校長を除く)・教務係・寮務係・技術室・保健室　各位

寮監[　　]です。

5 月 12 日(木)の寮生の欠席・欠課をご連絡します。

◎欠席
Ｄ２[　　]（栄峰寮２１３室）：体調不良(発熱)

◎欠課
Ｃ３[　　](翔峰寮５０４室）：通院(腹痛)のため１２・３４限を欠課
Ｃ３[　　](明峰寮３０１室）：体調不良のため１２限を欠課

なお、上記の寮生以外で授業に出席していない学生(寮生)がありましたら、
寮務係(内線 5736)まで電話またはメールにてご連絡いただけますよう
お願いいたします。

（出典　本校学内メール

（分析結果とその根拠理由）

学生寮は教職員と寮生会役員によって円滑な運営体制を確立し，本校の学習・教育目標，養成すべき人物像に掲げる人間的素養の形成の場として大きな役割を果たし，学生の生活および勉学の場として有効に機能している。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

就職に関する取り組みは，就職委員会（資料７－２－④－１）を中心として行われている。ここでは，定期的な委員会で就職状況の把握と問題点の洗いだし，これへの対応策の検討が行われている。就職（面接）試験対策研修会（資料７－２－④－２）やキャリアアップセミナー（資料７－２－④－３），個別の学生へのキャリアカウンセリングが行われている。

資料７－２－④－１

就職委員会の構成員

平成２３年度 各種委員会委員名簿(2/2)

平成23年4月1日 現在

地域連携・研究支援委員会 知的財産専門部会
○藤尾　三紀夫
相良　誠
稲津　晃司
新冨　雅仁
野毛　悟
青木　悠祐
駒　佳明
（事務）総務係

自己点検・評価委員会
○柳下　福蔵
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
大久保　清美
押川　達夫
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
（事務）総務係

就職委員会
○柳下　福蔵
蓮實　文彦
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
三谷　祐一朗
佐藤　憲史
長澤　正氏
吉野　龍太郎
竹口　昌之
野毛　悟
事務部長
学生課長
（事務）学生係

安全衛生委員会
○大島　茂
渡辺　敦雄
相良　誠
稲津　晃司
牧野　初江
杉山　賢一
（事務）人事係
（事務）施設係

国際交流委員会
○大久保　清美
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）学生課課長補佐
（事務）総務係

環境保全委員会
○蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
江間　敏
事務部長
課長補佐（会計担当）
（事務）用度係

組換えDNA安全委員会
蓮實　文彦
竹口　昌之
古川　一実
鈴木　猛
総務課長
（事務）総務係

毒劇物管理委員会
○芳野　恭士
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
西垣　誠一
事務部長
課長補佐（会計担当）
（事務）用度係

動物実験委員会
芳野　恭士
押川　達夫
後藤　孝信
藁科　知之
小林　美学
総務課長
鈴木　猛
（事務）総務係

尚友会館会館運営委員会
○蓮實　文彦
大島　茂
遠藤　良樹
事務部長
総務課長
学生課長
課長補佐（会計担当）
◇学生係長
（事務）学生係

施設整備計画委員会
○柳下　福蔵
大島　茂
蓮實　文彦
遠藤　良樹
遠山　和之
小林　隆志
望月　孔二
川上　誠
長谷　賢治
芳野　恭士
西垣　誠一
事務部長
総務課長
学生課長
課長補佐（会計担当）
（事務）施設係

レクリエーション委員会
○事務部長
総務課長
課長補佐（会計担当）
手塚　重久
高橋　儀男
青木　悠祐
市川　周一
大川　政志
大石　加奈子
滝田　昌稔
岡本　ちづ子
中村　玲治
（事務）人事係

広報委員会「高専だより」
○坂本　信男
大石　加奈子
宮内　太積
高橋　儀男
長澤　正氏
松本　祐子
山根　説子
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）総務係

広報委員会「学校要覧」
三谷　祐一朗
高橋　儀男
江上　親宏
相良　誠
渡辺　敦雄
佐藤　崇徳
事務部長
総務課長
学生課長
（事務）総務係

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料７－２－④－２

就職（面接）試験対策研修会の概要

就職活動におけるビジネスマナー研修会スケジュール

開　催　日　：　平成２３年　３　月１１日（金）

場　　所　：　沼津工業高等専門学校
集合（第一視聴覚教室）
（Ａ組）　講義棟１階Ｍ３教室
（Ｂ組）　講義棟１階Ｍ２教室
（Ｃ組）　講義棟２階Ｓ３教室
（Ｄ組）　講義棟２階Ｓ２教室
（Ｅ組）　講義棟３階Ｍ１教室

日　　程　：　9：00～ 9：10　全体説明、講師紹介他
（第１視聴覚教室）
9：20～12：20　研　　修

12：20～13：00　昼　　食

13：00～17：00　研　　修

17：00　　各組ごとに終了後解散

全体説明等内容（進行：　　）
９：００　　蓮実校長補佐挨拶（本研修会の開催意義について）
講師紹介　Ａ組担当　石川　端真　（いしかわ　なおみ）講師
Ｂ組担当　大塚　友子　（おおつか　ともこ）講師
Ｃ組担当　中根　きみ絵（なかね　きみえ　）講師
Ｄ組担当　平泉　由美　（ひらいずみ　ゆみ）講師
Ｅ組担当　釈　　左枝　（しゃく　さえ　　）講師

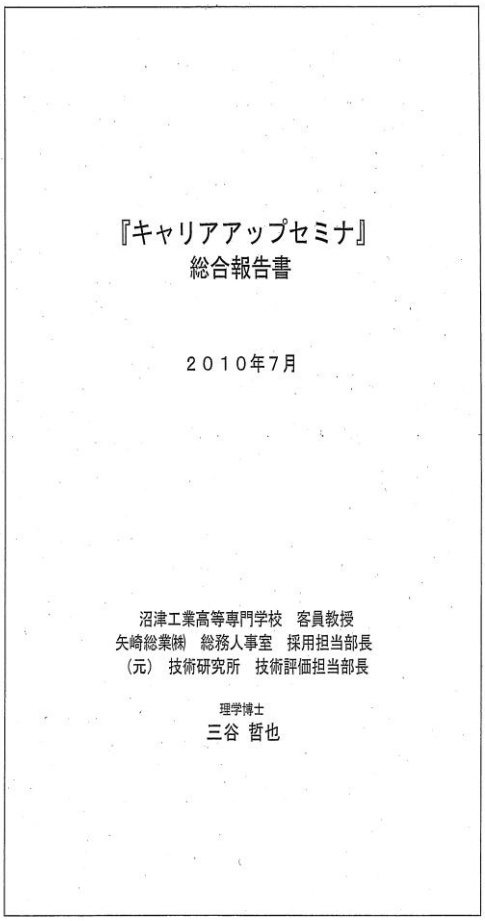
配布資料確認
・研修スケジュール
・研修テキスト
・名簿
・教室の配置図

※９：２０から研修が始まりますので、各自名簿等を確認して開始時間に遅れる事が無い様に研修会場へ異動してください。

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－④－３

キャリアアップセミナーの概要

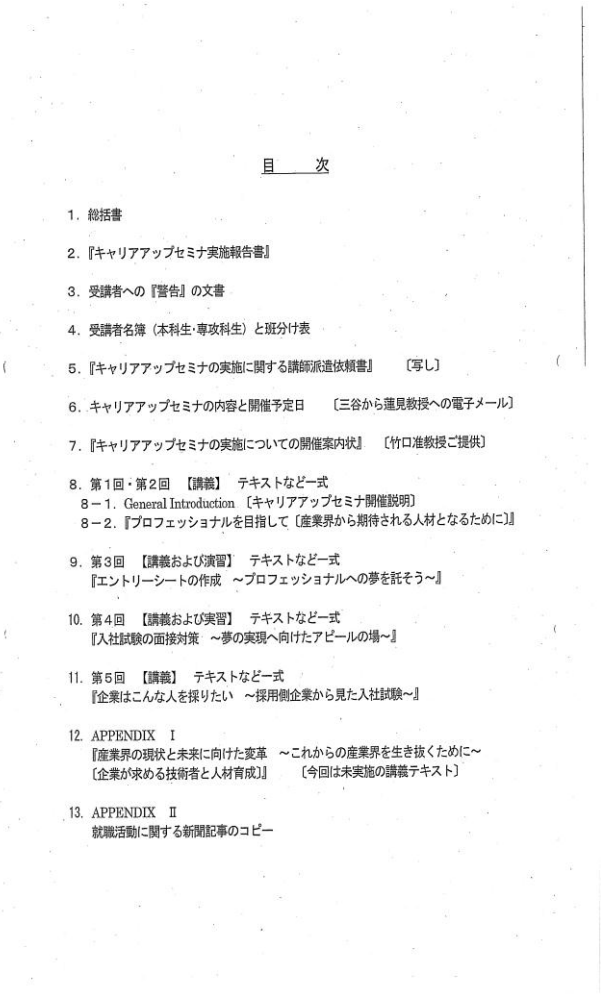


『キャリアアップセミナ』
総合報告書

２０１０年7月

沼津工業高等専門学校　客員教授
矢崎総業㈱　総務人事室　採用担当部長
（元）　技術研究所　技術評価担当部長

理学博士
三谷 哲也



目　次

1. 総括書
2. 『キャリアアップセミナ実施報告書』
3. 受講者への『警告』の文書
4. 受講者名簿（本科生・専攻科生）と班分け表
5. 『キャリアアップセミナの実施に関する講師派遣依頼書』　〔写し〕
6. キャリアアップセミナの内容と開催予定日　〔三谷から蓮見教授への電子メール〕
7. 『キャリアアップセミナの実施についての開催案内状』　〔竹口准教授ご提供〕
8. 第１回・第２回　【講義】　テキストなど一式
   8－1. General Introduction 〔キャリアアップセミナ開催説明〕
   8－2. 『プロフェッショナルを目指して〔産業界から期待される人材となるために〕』
9. 第３回　【講義および演習】　テキストなど一式
   『エントリーシートの作成　～プロフェッショナルへの夢を託そう～』
10. 第４回　【講義および実習】　テキストなど一式
    『入社試験の面接対策　～夢の実現へ向けたアピールの場～』
11. 第５回　【講義】　テキストなど一式
    『企業はこんな人を採りたい　～採用側企業から見た入社試験～』
12. APPENDIX　I
    『産業界の現状と未来に向けた変革　～これからの産業界を生き抜くために～
    〔企業が求める技術者と人材育成〕』　〔今回は未実施の講義テキスト〕
13. APPENDIX　II
    就職活動に関する新聞記事のコピー

（出典　学生課学生係）

進学に関しては教務委員会が中心となって方針の決定を行い，進学のためのガイドブックを作成し学生に配布している（資料７－２－④－４）。個々の学生に対する具体的な指導は，準学士課程においては，各学科をベースとし，専門学科長・就職担当教員・学級担任教員などにより行われ（資料７－２－④－５），これら担当教員の周知は，４ 年次の学級担任により口頭で学生にアナウンスされている。専攻科課程においては専攻科長・専攻科学生支援室・出身学科の就職担当教員などにより行われている（資料７－２－④－６）。そして，就職，進学に関する各学科の方針や状況については，学科ごとの保護者懇談会を通じて保護者にも説明がなされている（資料７－２－④－７）。平成２３年度からは学生キャリア支援室が設置され，キャリアカウンセラーによるきめの細かい支援がなされる予定となっている（資料７－２－④－８）。また，このような体制がしっかりと機能し，それが実績として現れている（資料７－２－④－９）

資料７－２－④－４

教務委員会が作成した進学指導に関する資料

進学のためのガイドブック

平成 23 年２月

沼津工業高等専門学校

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－④－５

就職担当教員一覧

平成23年度 就職関係担当教職員一覧表

沼津工業高等専門学校
〒410-8501
沼津市大岡３６００
(URL) http://www.numazu-ct.ac.jp/
(データベース → 就職担当者一覧（ＰＤＦ））

学科名	職名	氏名	ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ	FAX (055) 926-	E-Mailｱﾄﾞﾚｽ □□□numazu-ct.ac.jp	備考
機械工学科	就職担当	小林　隆志	5791	5791	kobayash@	
	学科長					
電気電子工学科	就職担当	望月　孔二	5815	5815	mochizuki-k@	
	学科長					
電子制御工学科	就職担当	長澤　正氏	5852	5830	nagasawa@	
	学科長	川上　　誠	5840	5840	kawakami@	
制御情報工学科	就職担当	相良　　誠	5704	5800	sagara@	
	学科長	長谷　賢治	3710	-	hase@	
物質工学科	就職担当	押川　達夫	5804	5804	oshix@	
	学科長	芳野　恭士	5861	5861	k-yoshino@	
事務部	学生係長	神田　貴由	5734	5882	gakusei@	
	◎学生係	杉山　迪政				

※太字が主担当になります。

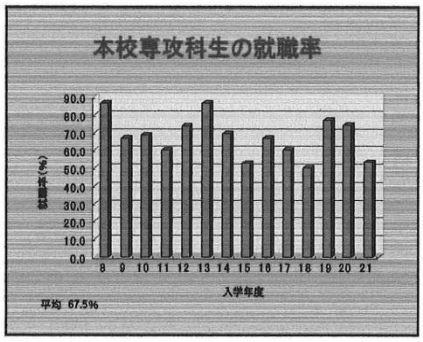
ダイヤルイン ５番台は　０５５－９２６－□□□□
３番台は　０５５－９２０－□□□□

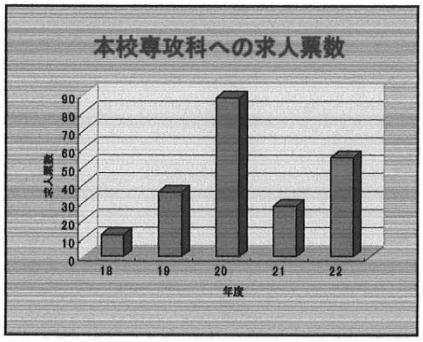
（出典　本校公式ウェブページ）

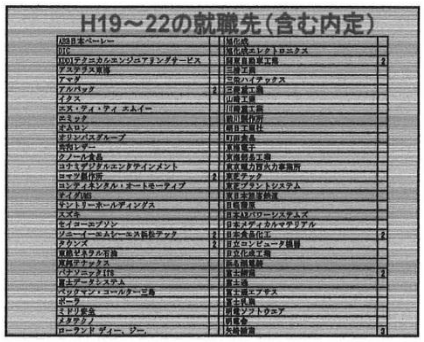
資料７－２－④－６

専攻科の進路指導の概要

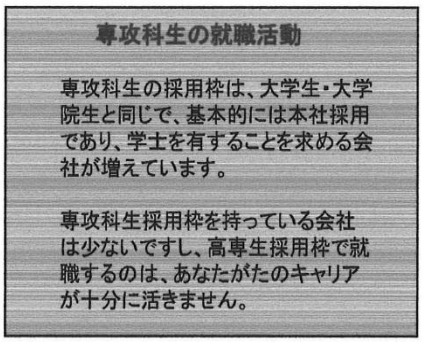












1

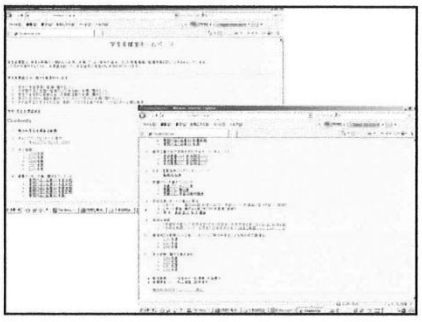
資料７－２－④－６　続き

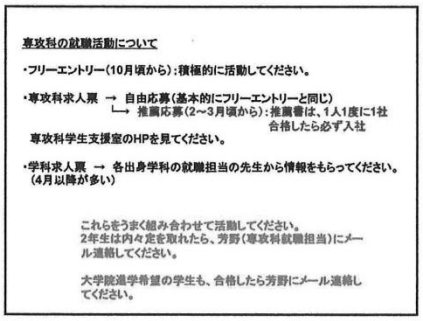
2010年度　就職支援活動リスト

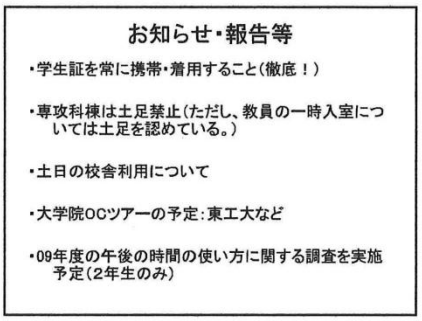
平成23年1月21日現在

・3月8日（月）就職（面接）試験対策研修会
・5月～7月：本科合同キャリアアップセミナー
・6月　インターンシップ先紹介（申し込み期限ごとに随時）
　山梨大学大学院，TTD，MS，ITキャンプ等
・6月25日(金)　専攻科実習(インターンシップ)事前研修　工学倫理担当教員
・10月22日（金）：専攻科就職活動説明会（1年生20名が参加）









資料７－２－④－６　続き

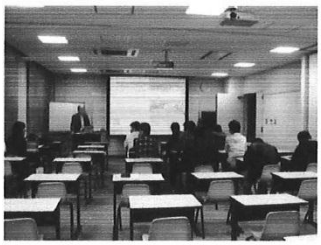
2010 年度大学院説明会リスト

平成 23 年 1 月 21 日現在

・４月１５日（木）　山梨大学大学院説明会：２名参加
・５月８日（土）　東京工業大学大学院すずかけ台オープンキャンパス：３０名程参加



・７月１日(木)　NAIST 大学院説明会：２名参加
・７月２０日（火）　JAIST 大学院説明会：専攻科長対応
・１０月４日（月）　JAIST 大学院説明会：６名参加
・１０月２９日（金）　名古屋大学大学院説明会：８名参加
・１１月１９日（金）　東京工業大学大学院説明会：７名参加
・１２月３日（金）　NAIST 説明会：　10 名参加



・１２月１０日（金）　筑波大学大学院，豊橋技術科学大学説明会：学生２名参加
・１月２８日（金），２月４日（金）　東京工業大学大学院説明会予定

（出典　専攻科長資料）

資料７－２－④－７

学科ごとの保護者懇談会

第２１回保護者懇談会
第２回学科説明会
資料

２０１０年１１月１８日（木）

沼津工業高等専門学校

電子制御工学科

目次

１．はじめに

２．高専の目的と学業評価

３．就職指導

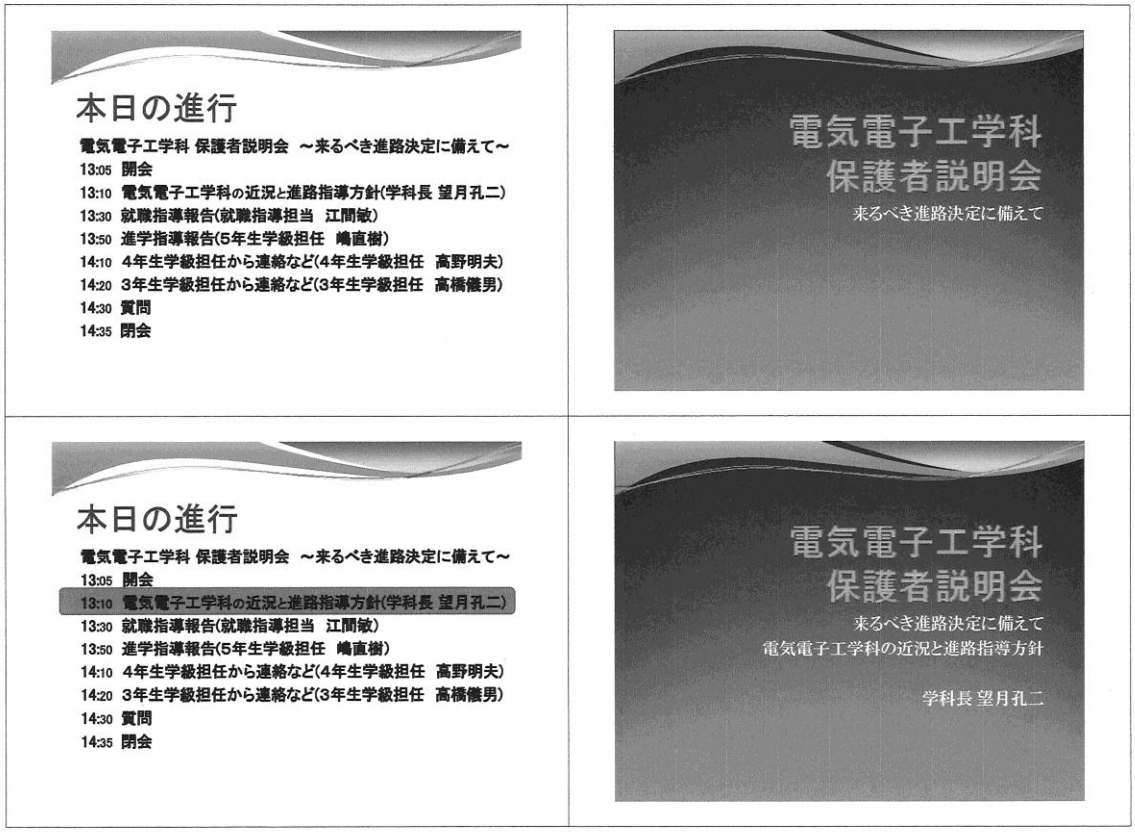
４．大学等編入学指導

５．沼津高専専攻科紹介

６．現４年生のタイム・スケジュール

７．おわりに.

資料７－２－④－７　続き



（出典　電子制御工学科長，電気電子工学科長作成資料）

資料７－２－④－８

沼津工業高等専門学校学生キャリア支援室規則

○沼津工業高等専門学校学生キャリア支援室規則

（平成23.6.8制定）

（設置）

第１条　沼津工業高等専門学校に、学生キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（業務）

第２条　支援室は、次に掲げる業務を行う。

（１）学生のキャリア支援及び職業意識の啓発の総括に関すること。

（２）ガイダンス等就職支援事業に関すること。

（３）学生のキャリア相談への対応に関すること。（各学科において対応するものを除く。）

（４）学生の就職（インターンシップを含む。）に係る資料収集、整理及び分析に関すること。

（組織）

第３条　支援室は、次に掲げる支援室員で組織する。

（１）室長

（２）各学科及び専攻科就職担当教員　各１名

（３）キャリアコーディネーター

（４）キャリアカウンセラー

（５）その他室長が必要と認めた者

（任期）

第４条　前条第２号及び第５号に掲げる者の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（室長）

第５条　支援室の室長は、校長補佐（学生主事）をもって充てる。

２　室長に事故あるときは、あらかじめ室長の指名した学生主事補がその職務を代行する。

（任務）

第６条　室長は、支援室の業務を統括する。

２　室長以外の支援室員は、室長の命を受け、支援室の業務に従事する。

（報告及び協力）

第７条　室長は、必要に応じて運営状況を校長に報告する。

２　支援室員は、必要に応じて関係教職員に協力を求めることができる。

（事務）

第８条　支援室の事務は、学生課において処理する。

（雑則）

第９条　この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成２３年７月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料７－２－④－９

学生の進路状況

平成２０年度～平成２２年度進路状況

【本科】

年度	卒業者 (A)	就職					進学				その他	備考
		就職希望者 (B)	就職希望率 (B/A)	就職者 (C)	就職内定率 (C/B)	求人企業数	進学希望者 (D)	進学希望率 (D/A)	進学者 (E)	進学内定率 (E/D)		
２０年度	199	109	54.8%	109	100.0%	2,203	90	45.2%	88	97.8%	2	帰国１，専門学校１
２１年度	200	89	44.5%	89	100.0%	1,177	111	55.5%	107	96.4%	4	進学希望３，専門学校１
２２年度	186	87	46.8%	86	98.9%	1,370	99	53.2%	95	96.0%	5	就職希望１，進学希望３，研究生１
計	585	285	48.7%	284	99.6%	4,750	300	51.3%	290	96.7%	11	

【専攻科】

専攻名	修了者 (A)	就職					進学				その他	備考
		就職希望者 (B)	就職希望率 (B/A)	就職者 (C)	就職内定率 (C/B)	求人企業数	進学希望者 (D)	進学希望率 (D/A)	進学者 (E)	進学内定率 (E/D)		
２０年度	30	23	76.7%	23	100.0%	175	7	23.3%	6	85.7%	1	専門学校１
２１年度	33	24	72.7%	24	100.0%	63	9	27.3%	9	100.0%	0	
２２年度	28	17	60.7%	17	100.0%	114	11	39.3%	10	90.9%	1	研究生１
計	91	64	70.3%	64	100.0%	352	27	29.7%	25	92.6%	2	

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では，専門学科長・就職担当教員・学級担任が，専攻科課程では，専攻科長・専攻科学生支援室・出身学科の就職担当教員が直接学生の指導・相談・助言を行う体制となっており，きめ細かい進路指導が行われている。そのサポート体制として，就職に関しては就職委員会と学生係，進学に関しては教務委員会と教務係があり，有効に機能している。平成23年7月からは「学生キャリア支援室」を設置し，より充実した体制整備が図られつつある。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学生の自主性を最大限に生かし寮生会を中心とした寮運営組織を構築し、本校教育方針に掲げられている「全人教育」の観点からも，人間形成の面で有効に機能させ成果を上げている。

校内のほぼ全域で無線LANを使用できる環境を整備し，eラーニングの利用や図書・文献検索を容易にし，併せて図書館の夜８時までの開館や土日曜日開館等により，学生の自主学習を支援している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準７の自己評価の概要

学生に対し適切にガイダンスを整備し実施している。自主的学習を進める上での相談・助言のため窓口として，教務関係教員による学習支援チームが機能している。総合情報センターや各学科演習室は授業時間外の使用を認め，図書館の夜間開館や土，日の開館，そして，校内のほぼ全域で無線 LAN を使用できる環境を整備する等，学生の自主的学習環境が整えられ利用されている。科目担当教員，学級担任・副担任はもとより，学習支援チーム及び学生生活支援室等が積極的に学生のニーズの把握に努めている。資格試験や検定試験の受講や外国留学のための支援体制も整備され機能している。外国人留学生，編入学生，成績不振者，留年生等，特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備され，機能している。

学生の部活動，学生会活動等は，校長補佐（学生主事）を中心に組織的に支援しており，人的・経済的支援，安全対策や外部コーチの委嘱など，適切に機能している。生活や経済面に係わる指導・相談・助言等は学級担任・副担任，専攻科課程では指導担当教員が窓口となって行い，学生委員会，学生係，学生生活支援室等がそれをサポートしている。外国人留学生に対する支援は，国際交流委員会を中心に十分な体制を整え実施している。障害を持つ学生の受け入れ態勢は整備しているが，これまでに受け入れの実例はない。就職・進学の指導に関しては，専門学科長・就職担当教員・学級担任，専攻科長・専攻科学生支援室・出身学科の就職担当教員・指導担当教員等が行っており、就職委員会と学生係，教務委員会と教務係等がそれぞれサポートしている。平成 23 年度からキャリア支援センターが設置され，より充実した体制が整えられつつある。

本校は低学年（1,2 年生）全寮制を実施しており，学生の自主性を最大限に生かし寮生会を中心とした寮運営組織を構築し，人間形成の面で有効に機能させ成果を上げており，他高専からも高く評価されている。

基準８　施設・設備

（１） 観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

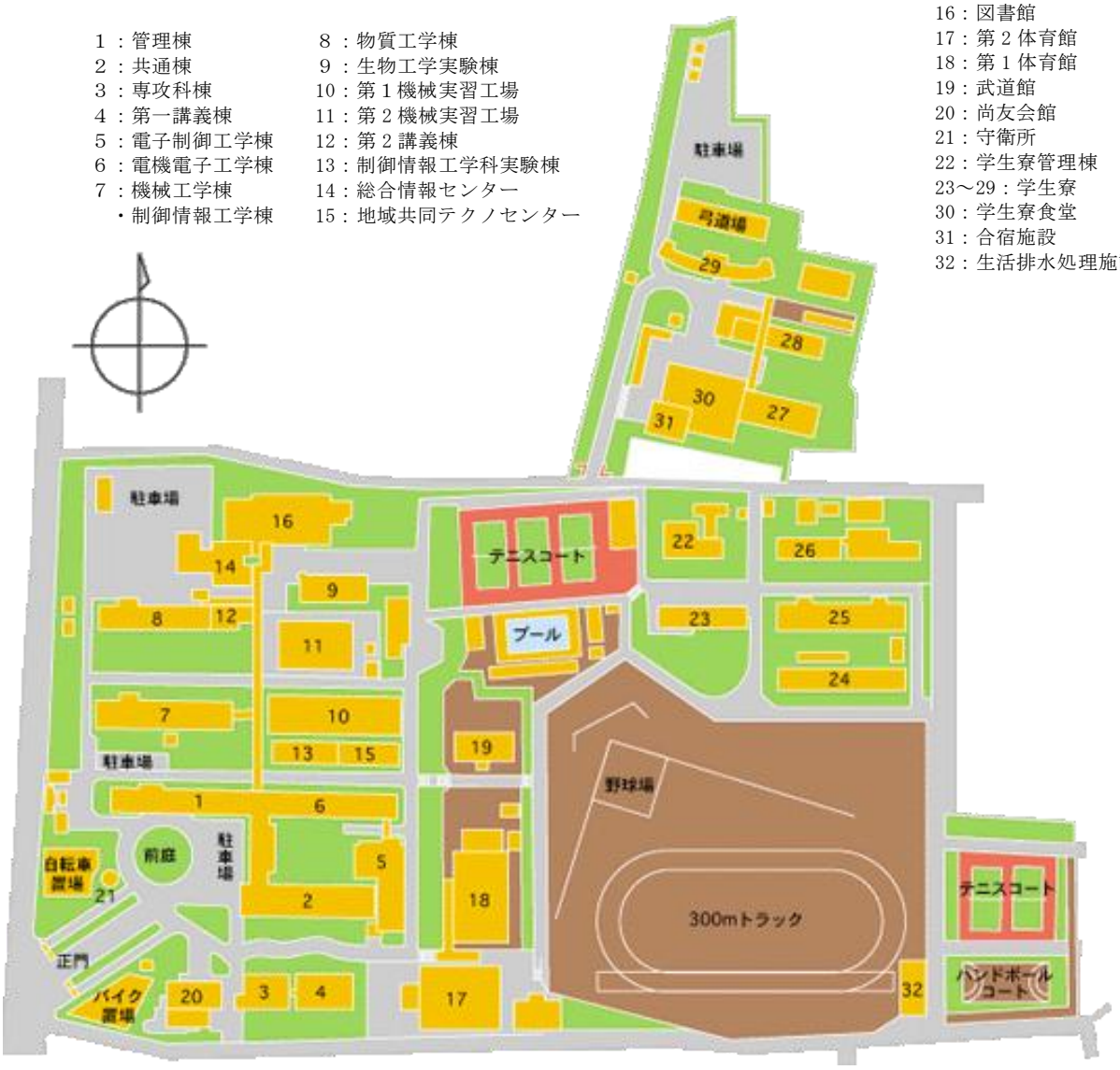
（観点に係る状況）

本校の施設概要は，資料８－１－①－１，２に示すとおりであり，校地，各種施設など高等専門学校設置基準の第６章「施設および設備等」の条件を満足している。また，施設・設備は，平成12年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に整備・充実が図られている（資料８－１－①－３）。

８－１－①－１

施設配置図資料

１：管理棟
２：共通棟
３：専攻科棟
４：第一講義棟
５：電子制御工学棟
６：電機電子工学棟
７：機械工学棟
　・制御情報工学棟
８：物質工学棟
９：生物工学実験棟
10：第１機械実習工場
11：第２機械実習工場
12：第２講義棟
13：制御情報工学科実験棟
14：総合情報センター
15：地域共同テクノセンター
16：図書館
17：第２体育館
18：第１体育館
19：武道館
20：尚友会館
21：守衛所
22：学生寮管理棟
23～29：学生寮
30：学生寮食堂
31：合宿施設
32：生活排水処理施設



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料８－１－①－２

●調査単位別現状整備率　　平成23年3月末現在

施設調査単位	必要面積(㎡)	保有面積(㎡)	要整備面積(㎡)	現状整備率(%)
高専教育・研究施設	17,847	17,236	611	96.58
高専図書館	1,600	1,565	35	97.81
高専体育施設	2,385	2,655	▲ 270	111.32
高専支援施設	1,546	1,392	154	90.04
高専宿泊施設（職員宿舎除く）	11,556	10,281	1,275	88.97
高専管理施設	1,829	1,749	80	95.63
高専設備室等	660	660	0	100.00
合　計	37,423	35,538	1,885	97.19

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－３

国立学校施設長期計画書（表紙と目次）

目　　次

（1）施設整備の基本方針
（2）キャンパス計画図
（3）計画施設配置図
（4）説明資料
①教育・研究体制の概要
②キャンパスの概要
a．キャンパスの位置図
b．キャンパスの現状
c．現状施設配置図
③施設整備の問題点と課題
⑥キャンパスのインフラストクラチャー
⑦施設利用の考え方

門学校　国立学校施設長期計画書　平成12年度）

平 成 １２ 年 度

本校では，各教室及び実験・実習室，演習室，研究室，運動場，図書館（資料８－１－①－４）などの一般的な施設のほか，総合情報センター（資料８－１－①－５）とマルチメディア教室（資料８－１－①－６）が整備され，それぞれ情報処理学習と語学学習に効果を発揮している。また，全教室には，ビデオ付きテレビと天井吊下げタイプの液晶プロジェクタが設置され，パソコンやビデオを用いた授業が簡単に行える環境を提供している。さらに，梅雨時や夏季などの学習環境を改善するために，全教室にエアコンが設置されている。

資料８－１－①－４

図書館の設備状況

昭和４５年新築　鉄筋コンクリート造２階建　　1,645 ㎡

主な部屋　閲　覧室 396 ㎡　視聴覚室 205 ㎡　第２視聴覚室 78 ㎡　セミナー室他 146 ㎡

書庫他 193 ㎡

閲覧隻数　　１００席　検索端末２台

開館時間　　平日８：３０－２０：００　土曜日１０：００－１５：００

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－５

総合情報センターの設備状況

昭和４６年度	鉄筋コンクリート造２階建	146 ㎡
昭和４９年度	鉄骨増平屋建（増築）	148 ㎡
昭和４６年度	鉄筋コンクリート造２階建（増築）	150 ㎡　合計　延面積 444 ㎡
主な部屋	電子計算機室 60 ㎡	
	第１演習室 96 ㎡（学生卓 46 席）	第２演習室 86 ㎡（学生卓 24 席）
	オンライン実験研究室 56 ㎡	教官室等 146 ㎡
開館時間	平日　８：３０－１７：００	

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－６

語学学習のための施設の整備状況

MM 教室	１室　120 ㎡
LL 装置	学生卓　４６席　１式
入力装置	VTR，LD，DVD，パソコン，オーバーヘッドカメラ，カセットテープ
出力装置	プロジェクタ，モニターTV

（出典　総務課作成資料）

また，本校には機械実習工場が設置されている（資料８－１－①－７）。機械実習工場は１・２・３学年次の機械工作実習教育用以外に，卒業研究及び教員研究用実験装置の製作等にも対応し，CAD/CAM/DNCを基盤にした最新鋭の数値制御工作機械などが設置されている。５名の専任技術職員と教員とが連携して，全設備が学習内容に有機的に活用されている。本工場は機械工学科の学生だけではなく，電気電子工学科，電子制御工学科，制御情報工学科，物質工学科の学生に対しても機械工学の基礎教育用施設として利用されている（資料８－１－①－８）。

資料８－１－①－７

機械実習工場の設備状況

第１機械工場

昭和 39 年新築　鉄骨造平屋建　　759 ㎡

主な部屋　鋳造実習室 115 ㎡　鍛造実習室 83 ㎡　溶接・板金・手仕上げ 177 ㎡　塑性加工室 34 ㎡

共同工作加工室 38 ㎡，創造設計演習室 109 ㎡他

実習時間　　平日

第２機械工場

昭和 47 年新築　鉄骨造平屋建　　603 ㎡

主な部屋　工作機械工場 373 ㎡，　機械工作実験室 77 ㎡　蒸気原動機実験室 77 ㎡他

実習時間　　平日

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－８

機械実習工場の授業利用状況

■平成23年度時間割

■前期

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M３		M３			
火					M１			
水		E３(前期5/11～)						
木					M２			
金	C５(前期4/8～)				卒研			

■後期

曜日	1	2	3	4	5	6	7	8
月			M３		M３			
火					M１			
水		S３						
木					M２			
金		D２			卒研			

（出典　本校機械実習工場ウェブサイト）

平成19年度に，施設整備計画委員会において，全ての施設・設備について利用状況などの調査を行い，その結果が施設の点検・評価報告書にまとめられている。その報告書によれば，身障者対応施設の不備など若干の問題点とそれへの改善案が示されているが，施設・設備に関しては概ね有効な利用が図られているといえる（資料８－１－①－９）。

また安全性に関しては，安全衛生点検結果報告書を各学科が作成し，これにより安全衛生委員会のチェックにより常に実験室等の安全性の改善を図っている（資料８－１－①－10）。

バリアフリーに関しては平成22年にバリアフリー対策事業全体計画図を作成し，エレベータ等を設置し車椅子で移動可能な領域の拡大を図っている（資料８－１－①－11～13）。

資料８－１－①－９

教育研究施設点検・評価表

教育・研究施設点検・評価表（部屋別）

建物名称　講義棟　　棟番号：　056　　作成日　平成　19年　1月　31日

ページ番号	部屋番号	階	学科名	部屋名称	管理者	使用者	分類 大	分類 中	分類 小	床面積	使用人数 教員	使用人数 事務	使用人数 学生 学科学生	使用人数 学生 専攻科生	使用人数 学生 留学生	使用人数 その他	使用人数 計	基準面積	利用的評価 ①使用率評価	②稼働率評価	③不要物品処理評価	④共同利用率評価	⑤使用実態評価	①～⑤合計 利用的評価合計	①～⑤平均 利用的評価平均(A)	狭隘度評価(B)	評価点 A×B×100	要調査
15	1	B	制御情報工学科	教室（S3）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	42				43	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
15	2	B	電気電子工学科	教室（E3）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	40		2		43	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
16	9	1	機械工学科	教室（M3）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	49				50	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
16	10	1	制御情報工学科	教室（S2）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	41				42	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
17	10	2	講義棟	学生ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	学生課長	学生課長	B	8	ヴ	18		80				80	18	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.0	1.00	0.9	90	
17	11	2	電気電子工学科	教室（E2）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	43				44	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
17	12	2	機械工学科	教室（M2）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	42				43	80	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.0	1.00	0.9	90	
18	8	3	講義棟	学生ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	学生課長	学生課長	B	8	ヴ	18		80				80	18	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.0	1.00	0.9	90	
18	9	3	電気電子工学科	教室（E1）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	40				41	80	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	4.6	0.92	0.9	82	
18	10	3	機械工学科	教室（M1）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	43				44	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
19	12	4	講義棟	学生ﾘﾌﾚｯｼｭｺｰﾅｰ	学生課長	学生課長	B	8	ヴ	18		80				80	18	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	5.0	1.00	0.9	90	
19	13	4	物質工学科	教室（C1）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	43				44	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	
19	14	4	制御情報工学科	教室（S1）	学生課長	学生課長	B	1	ヱ	81	1	42				43	80	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	4.8	0.96	0.9	86	

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－10

実験室安全衛生点検結果報告書

平成　　年　　月　　日

実験室安全衛生点検結果報告書

実験室等の安全衛生点検結果について，下記のとおり報告します。

記

点検実施年月	学　科　名	実験室安全管理推進者	学科長
平成　　年　　月		印	印

区分番	点検項目	○：良好 ×：要改善実験室有の場合 ※対象無は斜	特記事項及び要改善実験室名・内容等
1	整理整頓		
2	職場の労働環境		
3	耐震対策		
4	電気設備の管理		
5	実験時の安全確保		
6	化学薬品管理		
7	廃棄物管理		
8	高圧ガス管理		
9	火気管理		
10	研究室名表示 防災表示および危険表示		

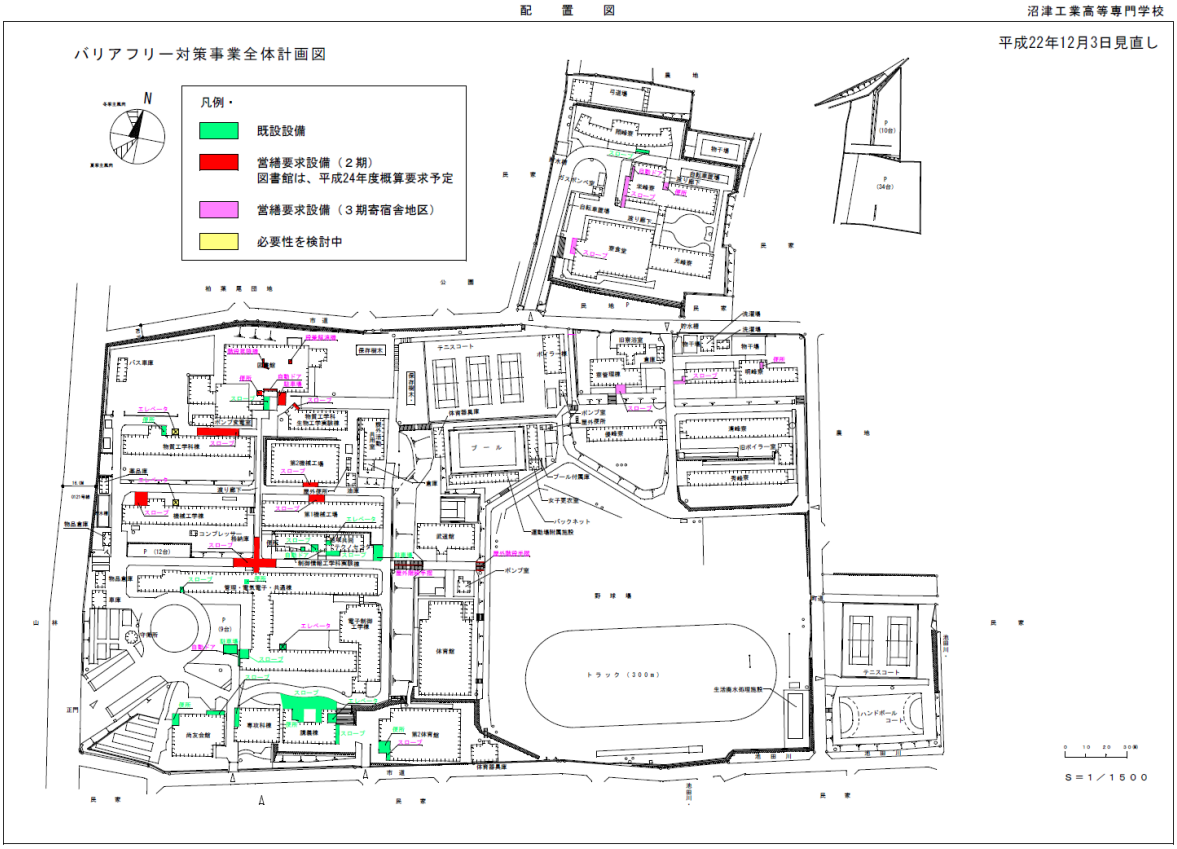
※以下安全衛生委員会記入欄

安全衛生委員長	安全管理者	衛生管理者	備考
印	印	印	

（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－11

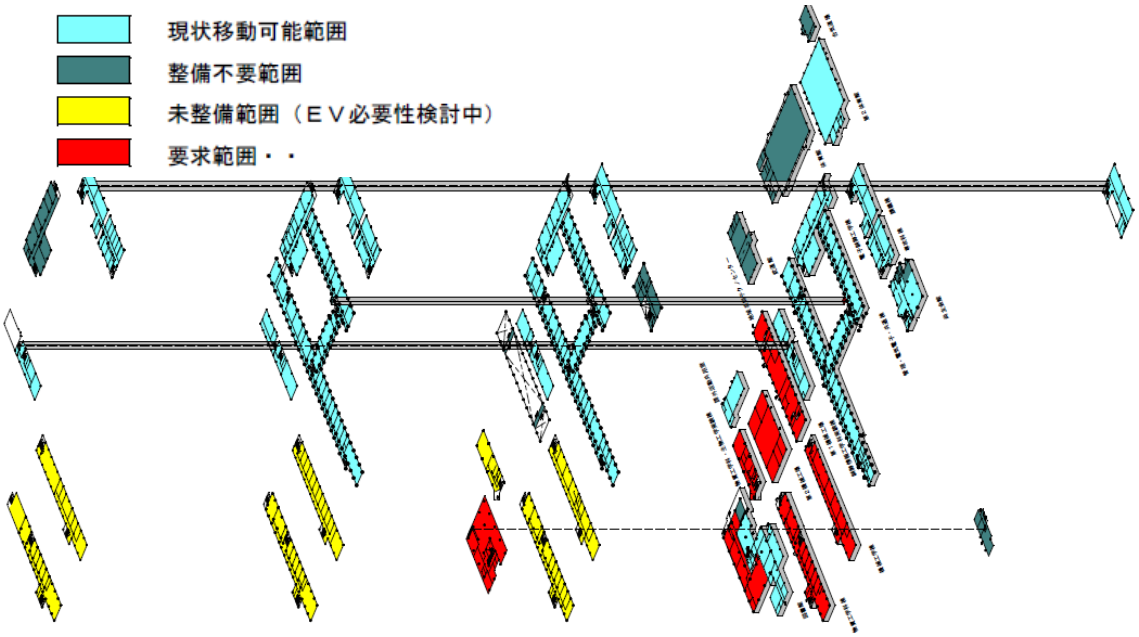
バリアフリー対策事業全体計画図



（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－12

バリアフリー鳥瞰平面図



（出典　総務課作成資料）

資料８－１－①－13

身障者対策予算年度計画

身障者対策について（予算年度計画）

●沼津工業高等専門学校　　（千円）

建物名称等	対応策	整備済み		23年度	24年度	25年度	26年度	緊急度	備考
管理・電気電子・共通棟	エレベーター設置	●	22,000						
電子制御工学棟	学生課スロープ設置	◎	116						
	管理棟スロープ設置	○	92						
	多目的便所設置	●	1,102						
	身障者用駐車場設置	○	98						
	自動扉設置	●	2,000						
	管理・電気電子・共通棟北側スロープ設置				1,304			A	
第1機械工場	北側スロープ設置				1,520			A	
機械工学棟	エレベーター設置					30,000		C	必要性を検討中
	西側スロープ設置				544			A	
物質工学棟	エレベーター設置						30,000	C	必要性を検討中
	北側スロープ設置				1,360			A	
	多目的便所設置	●	10,124						
図書館	エレベーター設置				15,000			A	
（H24年度図書館改修	玄関スロープ設置	○	315						
概算要求提出予定）	段差解消機設置				900			A	
	多目的便所設置				1,850			B	
	身障者用駐車場設置				200			B	
	自動扉設置				1,750			A	
第2機械工場	南側スロープ設置				1,520			A	
第2体育館	南側スロープ設置	●	1,365						
	多目的便所設置	●	6,193						
尚友会館	玄関スロープ設置	◎	945						
	多目的便所設置	◎	893						
生物工学実験棟	玄関スロープ設置				1,544			A	
制御工学実験棟	エレベーター設置	◎	14,280						
地域共同テクノセンター	玄関スロープ設置	◎	552						
	多目的便所設置	◎	1,176						
	身障者用駐車場設置	◎	53						
	自動扉設置	◎	1,617						
専攻科棟	エレベーター設置	◎	14,700						
講義棟	玄関スロープ設置	◎	1,365						
	1階東側出入口	○	997						
	多目的便所設置	◎	1,260						
外部階段	手すり設置			800				B	
寮管理棟	玄関スロープ設置				650			A	
	身障者用駐車場設置				200			A	
明峰寮	玄関スロープ設置				900			A	
	多目的便所設置				2,500			A	
寮食堂	玄関スロープ設置				2,800			A	
栄峰寮	玄関スロープ設置				800			A	
	多目的便所設置				2,500			A	
	自動扉設置				2,400			A	
翔峰寮	玄関スロープ設置	◎	683						
小計			81,926	800	40,242	30,000	30,000		

緊急度：高↑ A…支障があるため、要改善
B…支障はあるが、迂回等で対応可
低↓ C…応急措置のため、今後徐々に改善予定

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の施設・設備は，長期計画に基づき整備され高専設置基準を満たしており，平成19年度に本格的な点検評価が行われ，身障者対応施設の拡充を図っている。ほとんどの施設・設備は，有効に活用されていることが確認されている。以上の結果，相応である。

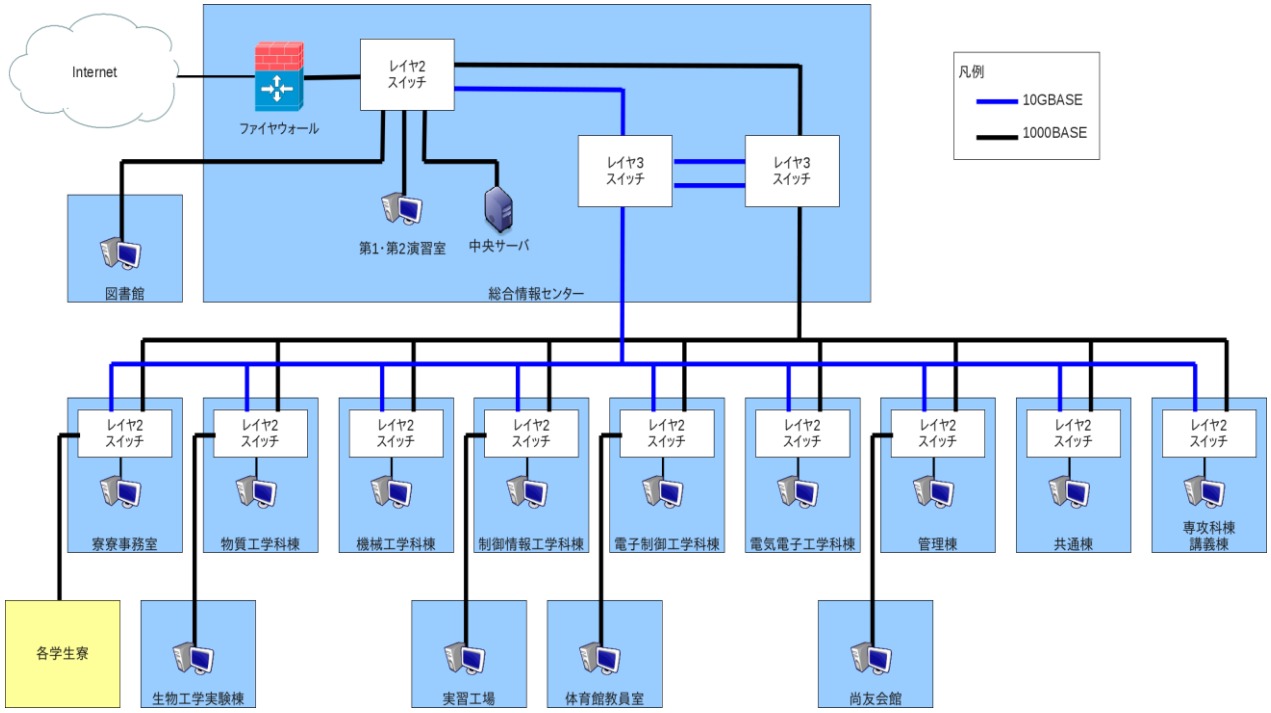
観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校は，光ケーブルとレイヤ3スイッチによる基線10Gbps，支線1Gbpsの校内LAN（ローカルエリアネットワーク）が構築されており（資料８－１－②－１），校内全域から総合情報センター等に設置されている各種サーバを利用することが可能であり，ネットワーク利用の基本ルール（資料８－１－②－２）のもとに教育・研究に活発に利用されている。また，本校LANは，ファイアウォールを介して100Mbps（ベストエフォートであり，実効20Mbps程度）　の専用回線でインターネットに接続され，教育・研究に有効に利用されている（資料８－１－②－３）。また，教室や図書館等，構内の全域をカバーする無線LANによるネットワーク接続環境を整備し，学生の利用の便宜を図っている（資料８－１－②－４）。

資料８－１－②－１

ローカルエリアネットワークの構成



（出典　総合情報センター作成資料）

資料８－１－②－２

沼津工業高等専門学校ネットワーク利用に関する基本ルール

沼津工業高等専門学校ネットワーク利用に関する基本ルール

（利用目的）

１．　本校のコンピュータネットワークは、教育、学術研究及び学校業務における利用を目的とする。

（禁止事項）

２．　次の各号に掲げる一切の行為を禁止する。

１）　法律に違反する行為

・　日本国法律等に反するネットワーク上での全ての行為。

２）　クラッキング行為

・　パスワードを盗聴すること。
・　通信内容を盗聴すること。
・　コンピュータウィルスを意図的に配布すること。
・　セキュリティーホールを攻撃すること。
・　アカウントのないホストへ不正侵入すること。
・　IP アドレス、ユーザ名を詐称すること。

３）　通信を妨害する行為

・　IP アドレスを不正使用すること。
・　チェーンメールを発信すること。
・　その他、通信を妨害する目的で、不要なトラフィックを意図的に流す行為。

４）　人権侵害に属する行為

・　ホームページ、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上へ個人を誹謀・中傷するような
内容の記事を発信すること。
・　相手が不快に思うメールを送ること。

５）　営利行為

・　ホームページ、ネットニュース、メーリングリストなどを通じて、ネットワーク上に営利目的の情報を発信すること。

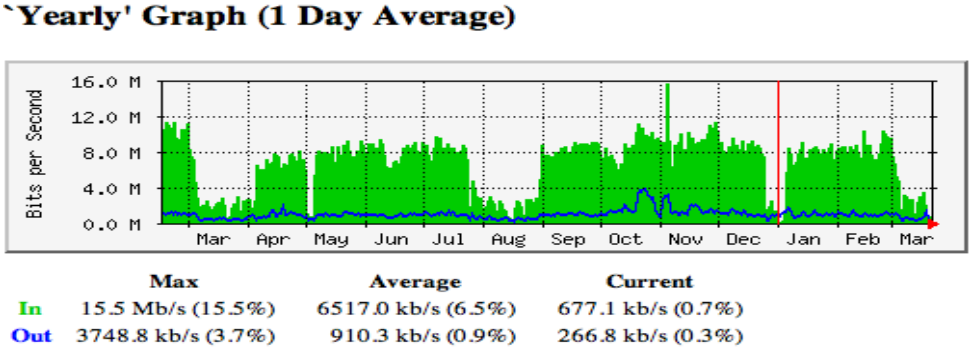
（罰　　則）

上記２の行為を行った場合は、アカウント停止、剥奪などの罰則を課する。
また、その行為が学則や社会規範に反するようなものである場合は、 別途学校による処罰を課するほか、告訴する場合もある。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料８－１－②－３

学外回線の使用状況（平成22年３月～平成23年３月）



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料８－１－②－４

総合情報センター利用の手引き抜粋

12. 総合情報センターの利用

１．目　　的
２．概　　要
３．演習室利用に関するルール
４．無線 LAN システム利用規定

１．目　　的

総合情報センターはコンピュータを使った教育・演習を行うための学内共同利用の施設である。

当センターの目的・役割は以下のようになる。

- 低学年学生向けコンピュータおよび情報モラル教育
- インターネットを利用した情報検索環境の提供
- 高学年学生および教職員の研究・校務を補助する高度な計算環境の提供
- 公開講座などを通じての地域社会への貢献

（出典　総合情報センター作成資料）

総合情報センターでは，２つの演習室に計75台のPCを設置している。また電子制御工学科演習室の46台，制御情報工学科演習室の30台，図書館の８台のPCについても統合して管理しており，利用者はどのPCを利用しても同じ環境・データを利用できるようになっている。

教育については，１年次より全学科の学生を対象にコンピュータを利用した情報倫理・情報処理教育を行っている。２年次以降においても各学科の専門科目に関連した情報処理教育を実施し，本校の教育目標の一つである「情報処理に強い技術者」の育成に中心的な役割を担っている。センターの演習室の授業での利用は，前後期とも毎週32時間におよんでいる（資料８－１－②－５）。総合情報センターのサーバおよびPCは，４～５年に一度システムのリプレースを行って，最新のハードウェア・ソフトウエア環境を提供している。学生のコンピュータ・ネットワーク利用環境整備は，それぞれの学科および学生寮においても進められている。

教養科ではマルチメディア教室に46台のPCを設置し，英語のリスニングの授業だけでなく，政治経済，地理情報学などの授業に利用されている。機械工学科では，機械実習工場に24台のPCを設置し，CAD/CAMなどの実験・実習に利用されている。

さらに，卒研室や実験室にも，総計360台を超えるパソコンが設置され，卒業研究や学生実験で利用されている（資料８－１－②－６）。学生寮にも，各棟にコンピュータルームが用意されインターネット利用可能なPCを配置し，さらに，無線LANによるネットワーク接続環境を整備し，寮での学習の便宜を図っている。

資料８－１－②－５

総合情報センター演習室時間割（平成23年度版）

平成 23 年度演習室時間割表（前期）

総合情報センター第１演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1	C1　情報処理基礎	S4　数値解析	S1　情報処理基礎	M4　数値解析	E2　プログラミング
2					
3	専攻科　アルゴリズムとデータ構造		M2　プログラム演習	D1　情報処理基礎	
4					
5	S4　文学特論		C1　物質工学入門	M2　機械工作実習	M1　情報処理基礎
6					
7	S4　図形処理	E1　情報処理基礎			M1　機械工学入門
8					

総合情報センター第２演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1	専攻科　化学情報学			D4　文学特論	
2					
3				M5　工業外国語 I	
4					
5	C4　材料工学実験	C4　材料工学実験		E3　電気電子工学実験	
6					
7					
8					

電子制御工学科情報処理演習室

曜日 / 時限	月		火	水	木	金
1	D3　C 言語基礎		D5　JavaII	D4　制御工学	D5　工業英語	E5　電子回路設計
2						
3	D5 D 工学実験		D3　計算機工学	D2　UNIX 入門	D4　D 工学実験	
4						
5		D3 D 工学実験	D4　C 言語応用演習	D2　D 工学実験		D4　電子機械設計製作 I
6						
7						
8						

制御情報工学科コンピュータ演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1	S5　システム工学				
2					
3	S5　ソフトウェア工学			S5　制御工学	S4　OS
4					
5	S3　演習 III	S2　演習 II		S5　工学実験 II	S1　演習 I
6					
7					
8					

資料８－１－②－５　続き

平成 23 年度演習室時間割表（後期）

総合情報センター第１演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1	M5　情報工学	E1　情報処理基礎		S4　図形処理	S1　情報処理基礎
2					
3	D1 情報処理基礎	D2 プログラミング入門	M3　電子計算機	S3　情報処理	M1　情報処理基礎
4					
5	S4　数値解析		C1　物質工学入門	C1　情報処理基礎	
6					
7	M2　プログラム演習	E3　CAD 回路シミュレーション	5 年　産業特別		E2　プログラミング
8					

総合情報センター第２演習室

曜日 / 時限	月		火	水	木	金
1			専攻科　音響工学		C2　国語	
2						
3			E2　国語	S2　国語	M4　創造デザイン演習	
4						
5	E2 電気電子工学実験	D2　国語	M2　物理実験	M2　国語	E3　電気電子工学実験	
6						
7		D2 物理実験	E2　物理実験			
8						

電子制御工学科情報処理演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1	D4　JavaI	D5 品質工学		D5/S5 計算機シミュレーション	D2　D 工学実験
2					
3	D3　計算機工学	D5　通信工学	D3　電機基礎	D4　D 工学実験	
4					
5	D4 電子機械設計製作 II	D3　D 工学実験			D4 電子機械設計製作 II
6					
7					
8					

制御情報工学科コンピュータ演習室

曜日 / 時限	月	火	水	木	金
1		S5　データベース		D5/S5 計算機シミュレーション	S4　OS
2					
3	S5　ソフトウェア工学				
4					
5	S3　演習 III	S2　演習 II		S5　工学実験 II	S1　演習 I
6					
7					
8					

（出典　総合情報センター作成資料）

各学科での学生のコンピュータ利用環境及び利用状況（2010年）　資料８－１－②－６

	コンピュータ設置台数		コンピュータ演習室の授業での利用状況	
学科	演習室	研究室等	年間単位数	主な科目
機械	24	42	21	工学実験、卒業研究
電気電子	－	60	－	－
電子制御	46	137	68	UNIX 入門、プログラミング入門、C 言語基礎、電子機械設計製作　など
制御情報	30	76	46	制御情報工学演習、プログラミング、計算機シミュレーション　など
物質	－	50	－	－
（計）	100	365		

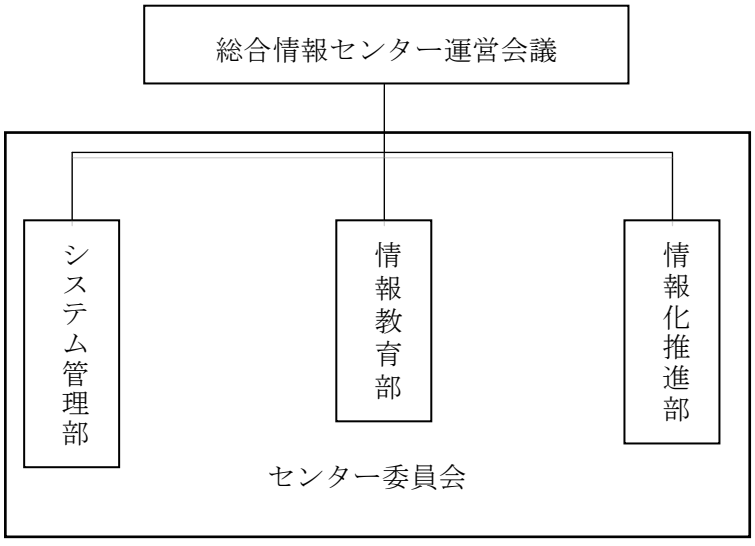
（出典　総合情報センター作成資料）

セキュリティ管理を含む校内LANの管理は，総合情報センター企画会議を意思決定機関として，総合情報センターシステム管理部門によって管理運用されている（資料８－１－②－７）。

具体的なセキュリティ対策としては，インターネットと校内LANの境界にファイアウォールを設置し，学外から学内のサーバのアクセスは明示的に許可したホストとサービスのみとすることで，学外からの不正侵入の危険性を最小限にとどめている（資料８－１－②－８）。さらにアクセスログの管理により不正アクセスに関する調査を可能にしている。また，ウィルス検知・駆除ソフトをサイトライセンスとして一括購入し，ネットワーク接続された全情報端末への導入を行っている。

資料８－１－②－７

総合情報センター組織図



（出典　総合情報センター作成資料）

資料８－１－②－８

ファイアウォール運用ポリシー

ファイアウォールに関する情報

インターネットサービスの登録申請について

運用ポリシー

沼津高専では、外部からの不正なアクセスを制限することを目的に、2001年12月にインターネット境界にファイアウォールを導入しました。ファイアウォールの運用ポリシーは以下のとおりです。

1. 外部（インターネット）からの内部（沼津高専内）のホストへのアクセスは、内部から通信が確立したもと 2 で示すもの以外は、拒否する。
2. 登録申請のあったホストとそのサービスに対しては、IPアドレスと ポート番号の組合わせで、外部からのアクセスを許可する。
3. 内部から外部へのアクセスに対しては、問題あることがわかっているポート以外は、制限を設けない。
4. ファイウォールを通過する全てのパケットのログを残す。

（出典　本校公式ウェブサイト）

さらに，ウィルス駆除機能を持つスパムファイアウォールが導入されており，メールによるウィルス感染のリスクを最小化している。情報システムのセキュリティポリシーは平成17年度に作成された学内サーバセキュリティ管理基準（資料８－１－②－９）に加え，平成23年度に下記の情報セキュリティ関連の規則が整備されている。

情報セキュリティ管理規則（資料８－１－②－10），情報セキュリティ管理細則（資料８－１－②－11），情報セキュリティ推進規則（資料８－１－②－12），情報セキュリティ推進細則（資料８－１－②－13），情報セキュリティ教職員規則（資料８－１－②－14），情報セキュリティ教職員細則（資料８－１－②－15）。

資料８－１－②－９

学内サーバセキュリティ管理基準

サーバセキュリティ管理基準

制定　平成19年5月9日　総合情報センター運営会議

- **サーバセキュリティ管理基準**
  外部にサービスを公開しているサーバの OS および該当のサーバソフトは、そのセキュリティホールが 1 ヶ月以上放置されることのないように管理すること。そのために、以下のような管理が実施されていること。

  1. ベンダー（またはディストリビュータ）のセキュリティアップデートサポートが継続している OS に関しては、月1回以上の頻度でアップデートがされていること（一日一度程度の自動アップデートが望ましい）。
  2. ベンダー（またはディストリビュータ）のセキュリティアップデートサポートが終了している OS に関しては、サービスを提供しているサーバソフトのセキュリティ情報を月 1 回以上確認し、セキュリティ上の問題がある場合は迅速にバージョンアップ等を行うこと。

- **サーバセキュリティ管理の確認手順**
  1. 年 1 回、サーバ管理者に対して、サーバのセキュリティ管理に関する実態調査を実施する。
     - 実態調査で、セキュリティ管理基準を満たしていないと判断される場合は、ネットワーク管理者は改善を勧告し、サーバ管理者は迅速にそれに対応する。
     - 実態調査で、セキュリティ管理基準を満たしているか確認できない場合は、ネットワーク管理者は再度詳細な報告を依頼し、サーバ管理者は迅速にそれに対応する。
  2. 1 を行った上で、最終的に上記基準に対応できない場合、あるいは、セキュリティ管理基準を満たしていると判断できない場合は、ファイアウォールのサービスポートを閉じる。
  3. ネットワーク管理者は、必要に応じて、ポートスキャンツールを用いて、サーバソフトのバージョン情報を収集し、しかるべきセキュリティ管理が行われているかをチェックする。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料８－１－②－10

情報セキュリティ管理規則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ管理規則

目次

第１章　総則（第１条－第９条）
第２章　情報システムの利用（第１０条－第１４条）
第３章　情報の取扱い（第１５条－第１７条）
第４章　物理的及び環境的セキュリティ対策（第１８条－第２２条）
第５章　教育（第２３条）
第６章　情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第２４条・第２５条）
第７章　調達、ソフトウェア開発及び外部委託（第２６条－第２８条）
第８章　違反と例外措置（第２９条・第３０条）
第９章　評価、見直し及び監査協力（第３１条－第３３条）
第１０章　その他（第３４条－第３９条）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）に基づき、独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項及び管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

２　情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規則による。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料８－１－②－11

情報セキュリティ管理細則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ管理細則

（目的）

第１条　この細則は、沼津工業高等専門学校情報セキュリティ管理規則（以下「管理規則」という。）における情報セキュリティ対策に関する事項を定め、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の情報セキュリティについて、円滑に維持・運用することを目的とする。

（定義）

第２条　この細則における用語の定義は、この細則に定めるもののほか、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）、独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第９９号。）及び管理規則の定めるところによる。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料８－１－②－12

情報セキュリティ推進規則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ推進規則

目次

第１章　総則（第１条・第２条）
第２章　情報システムのライフサイクル
　第１節　設置時（第３条－第１１条）
　第２節　運用時（第１２条－第１８条）
　第３節　運用終了時（第１９条・第２０条）
　第４節　PDCAサイクル（第２１条・第２２条）
第３章　要保護情報及びそれを取り扱う情報システム（第２３条－第２５条）
第４章　アクセス制御（第２６条－第２８条）
第５章　アカウント管理（第２９条－第３２条）
第６章　証跡管理と通信の監視（第３３条－第３５条）
第７章　その他（第３６条）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）に基づき、独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項について定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料８－１－②－13

情報セキュリティ推進細則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ推進細則

（目的）

第１条　この細則は、沼津工業高等専門学校情報セキュリティ推進規則（以下「推進規則」という。）に基づき情報セキュリティ対策に関する事項を定め、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の情報セキュリティについて、円滑に維持・運用することを目的とする。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料８－１－②－14

情報セキュリティ教職員規則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規則

目次

第１章　総則（第１条－第８条）
第２章　情報システムの利用（第９条－第１７条）
第３章　情報の取扱い（第１８条－第２６条）
第４章　物理的及び環境的セキュリティ対策（第２７条－第２９条）
第５章　教育（第３０条）
第６章　情報セキュリティインシデント対応（第３１条）
第７章　調達、ソフトウェア開発及び外部委託（第３２条）
第８章　違反と例外措置（第３３条・第３４条）
第９章　自己点検及び見直し（第３５条）
第１０章　管理的業務（第３６条－第４０条）
第１１章　その他（第４１条－第４２条）

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第９８号。以下「対策規則」という。）に基づき、独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために本校の教職員が遵守すべき事項を定めることを目的とする。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料８－１－②－15

情報セキュリティ教職員細則（抜粋）

○沼津工業高等専門学校情報セキュリティ教職員細則

（目的）

第１条　この細則は、沼津工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規則（以下「教職員規則」という。）における情報セキュリティ対策に関する事項を定め、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の情報セキュリティについて、円滑に維持・運用することを目的とする。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，教育方針の一つとして「情報技術に強い実践的技術者の養成」を掲げており，常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており，総合情報センター及び各科の演習室，実験室，研究室を合わせて，授業等で利用する充分な数の情報端末が整備されている。また，ネットワーク管理体制も整い，相応なセキュリティ管理がなされている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

教育研究に必要な図書，学術雑誌は，本校図書館を中心に整備されている。本校図書館の蔵書数は，平成23年３月末現在，80,182冊で，教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく，社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている（資料８－２－①－１）。図書館で購入する図書選定は年度始めの図書室運営委員会で行い（資料８－２－①－２），随時図書の追加を行っている。この数年の図書の購入冊数は，平成19年216冊，平成20年700冊，平成21年1,020冊，平成22年591冊と増加傾向にある（資料８－２－①－３）。図書以外では，学術専門雑誌14誌，一般及び自然科学雑誌25誌のほか，新聞６紙，白書等の政府刊行物等も自由に閲覧できるようにしている（資料８－２－①－４）。

資料８－２－①－１

図書館の蔵書数

図　書　　単位：冊

区　分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和漢書	4,836	2,462	5,050	4,168	15,844	17,545	432	2,236	3,134	7,253	62,960
洋　書	493	425	347	274	9,923	3,301	10	169	1,569	711	17,222
計	5,329	2,887	5,397	4,442	25,767	20,846	442	2,405	4,703	7,964	80,182
%	7	4	7	5	32	26	0	3	6	10	100

雑　誌　　単位：種類

区　分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	計
和雑誌	9	3	9	11	44	102	2	18	8	5	211
洋雑誌	10	4	19	9	139	155	0	17	3	3	359
計	19	7	28	20	183	257	2	35	11	8	570

平成23年3月31日現在

（出典　学生課作成資料）

資料８－２－①－２

図書館運営規則抜粋

図書館運営規則（抜粋）

〇沼津工業高等専門学校図書館運営規則

（昭和46.6.1制定）

最終改正　平成16.4.14

（目的）

第1条　この規則は，沼津工業高等専門学校則第11条の規定に基づき，沼津工業高等専門学校に図書館を置き，その円滑な運営を図るために必要な事項を定めることを目的とする。

（定義）

（図書室運営委員会）

第10条　図書館運営委員会に，第2条第2項の図書室の運営に関する事項を処理するために，図書室運営委員会を置く。

（出典　本校図書館運営規則）

資料８－２－①－３

過去５年間の新規蔵書数の推移

年　　度	H18	H19	H20	H21	H22
新規蔵書数	256 冊	216 冊	700 冊	1,020 冊	591 冊

（出典　学生課作成資料）

資料８－２－①－４

図書館閲覧雑誌と視聴覚資料

専門学術雑誌

No	雑　誌　名
1	ツールエンジニア
2	機械と工具
3	化学
4	電気学会誌
5	電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌
6	電気学会論文誌. B, 電力・エネルギー部門誌
7	電気学会論文誌. C, 電子・情報・システム部門
8	電気学会論文誌. D, 産業応用部門誌
9	I/O
10	Mono：モノ・マガジン
11	National geographic
12	ビジネスアスキー
13	科学
14	航空ファン

一般および自然科学雑誌

No	雑　誌　名
1	月刊生徒指導
2	キネマ旬報
3	スクリーン
4	月刊 新聞ダイジェスト
5	週刊朝日
6	新潮
7	文藝春秋
8	暮しと健康
9	旅
10	鉄道ファン
11	日経サイエンス
12	数学セミナー
13	Newton
14	Nature
15	ソフトテニスマガジン
16	サッカークリニック
17	ラグビーマガジン
18	SWIMMING MAGAINE
19	テニスマガジン
20	空手道マガジンJKFan
21	バドミントンマガジン
22	Band Journal
23	月刊バレーボール
24	近代柔道
25	月刊スキージャーナル

視聴覚資料一覧

No	資料名（DVD）
1	制御システムの知識　1巻～3巻
2	制御システムの知識　テキスト
3	金属の知識　1巻～2巻
4	金属の知識　テキスト
5	機械の知識　1巻～3巻
6	機械の知識　テキスト
7	電気の知識　1巻～3巻
8	電気の知識　テキスト
9	メカトロニクスの知識　1巻～4巻
10	メカトロニクスの知識　テキスト1巻～4巻
11	実践!ビジネスマナーのすべて
12	初歩からの数学 '08 1巻～15巻
13	初歩からの数学 '08　テキスト
14	初歩からの化学 '08 1巻～15巻
15	初歩からの化学 '08 テキスト
16	初歩からの物理学 '08 1巻～15巻
17	初歩からの物理学 '08 テキスト
18	初歩からの生物学 '08　1巻～15巻
19	初歩からの物理学 '08 テキスト

（出典　学生課作成資料）

図書館業務の電算化により，蔵書は全てバーコード管理され，貸出・返却手続きの効率化が図られ，学生の貸し出し件数は，年間約5000件となっている（資料８－２－①－５）。現在のシステムでは貸出し件数のみが記録され，貸出し冊数は記録されない。また，図書館には情報端末を２台設置し，本の検索と貸出し状況のチェックなどが出来るようにしている。さらに，学内のどこからでもウェブサイトでの蔵書の検索が行えるサービスを提供している（資料８－２－①－６）。

資料８－２－①－５

図書貸出し統計

平成22年度利用統計　（利用回数）

月	学生	教職員	合計
4	533	24	557
5	650	29	679
6	638	31	669
7	505	32	537
8	122	19	141
9	384	22	406
10	470	13	483
11	395	27	422
12	489	20	509
1	517	24	541
2	358	29	387
3	134	22	156
計	5,195	292	5,487

過去5年間の利用統計　（利用回数）

年度	学生	教職員	合計
18	5,112	6,896	12,008
19	5,874	8,288	14,162
20	7,554	956	8,510
21	9,337	596	9,933
22	5,195	292	5,487
計	33,072	17,028	50,100

（出典　学生課作成資料）

資料８－２－①－６

図書検索システム

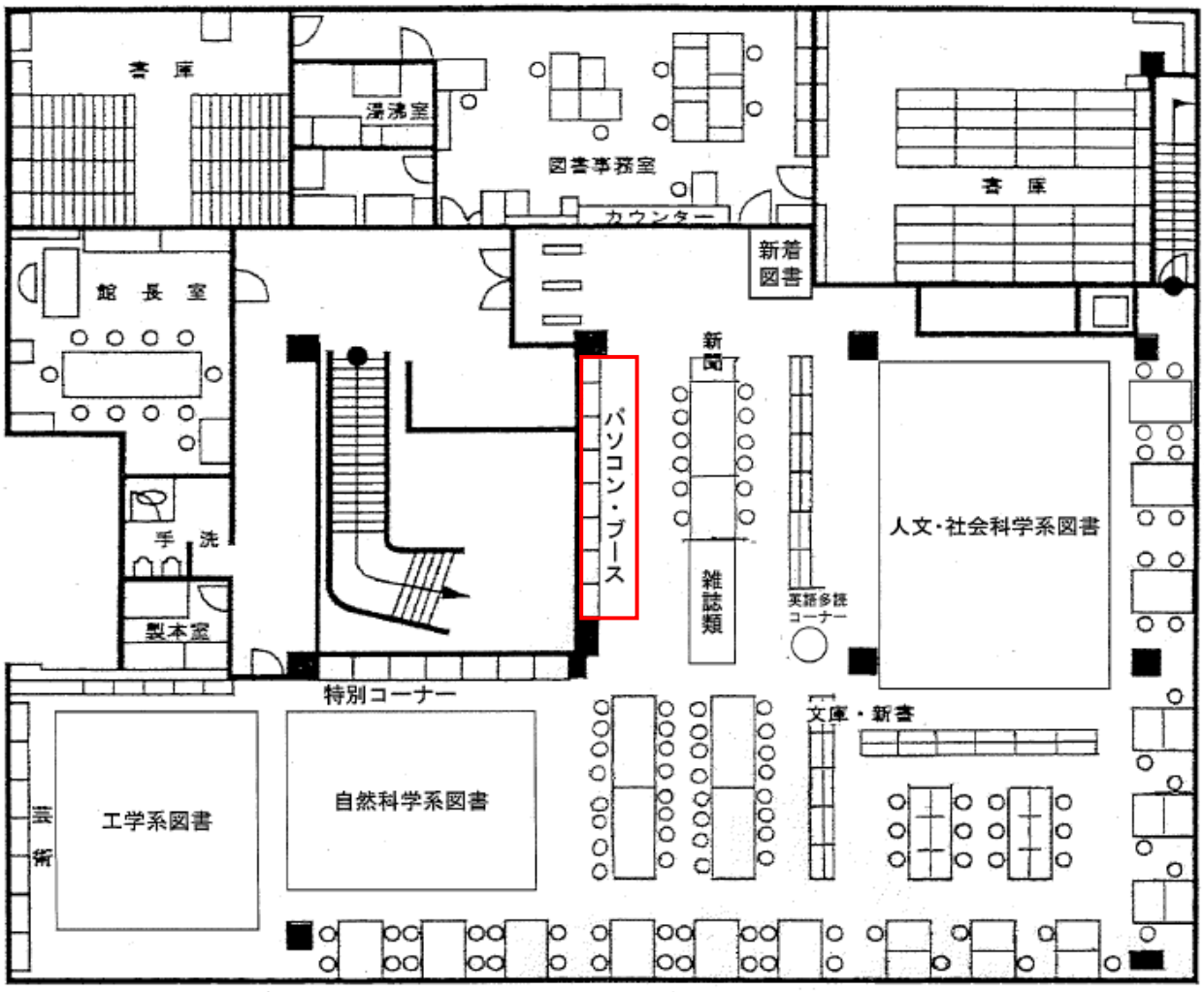


（出典　本校図書館ウェブサイト）

図書館は，学校全体の学習センターとしての役割を果たすべく，平成16年９月より閉館時間を20時までに延長し，その後授業期間中の土曜・日曜日昼間の開館を実施した。また，平成22年からハイブリッド図書館と称しDVD等の視聴覚資料を見ることのできる８台のパソコンブースを設けた（資料８－２－①－７）。視聴覚資料として，「初歩からの数学」「メカトロニクスの知識」などのDVDを図書館が19テーマ保有している（前出資料８－２－①－４）。

資料８－２－①－７

図書室配置図



（出典　学生課作成資料）

図書館には，１階に視聴覚教室（１・２），ゼミナール室（１・２），共用ゼミナール室が付属し，音楽をはじめとする授業，卒業研究などの研究発表会，各種講習会等で活用されている。また，談話コーナー，ホールなども整備され，休み時間等に利用されている。

研究活動をサポートする目的で，長岡技術科学大学の提供する文献検索サービス（JdreamⅡ），国立情報学研究所の提供する文献検索サービス（CiNii）と文献複写サービス（ILL）を利用できるように，学校単位での契約を行っている。さらに，アメリカ数学協会のオンライン文献システムMathSciNetとも契約している。ILLを利用した文献複写件数は平成22年度で137件となっている。

（分析結果とその根拠理由）

本校図書館は，約８万冊の蔵書を持ち，図書館内の情報端末だけでなくオンラインでの検索システムを提供して学生の利便を図っている。また，閲覧机等設備面にも配慮し，開館時間の延長措置と合わせて，学生が資料を有効活用できる体制を整えており，この点では優れている。一方で，視聴覚資料の配備・充実を図り，パソコンブースを設けDVD等の視聴覚資料も閲覧できるよう改善を進めている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の施設・設備は現在平成12年に作成された長期計画に基づき整備が続けられており，平成19年度の施設整備計画委員会が行った自己点検において，既存施設・設備は有効に活用されていることが確認された。学内情報ネットワークの整備は，総合情報センターを中心として常に最先端の情報ネットワークを維持するよう努めており，総合情報センター及び各科での学生のコンピュータ利用環境が十分に整備されている。

（改善を要する点）

教育に必要な視聴覚資料の整備と活用についてさらなる改善を要する。

（３）基準８の自己評価の概要

本校の校地，各種施設（各教室及び実験・実習室，演習室，研究室，運動場，図書館など）は，高等専門学校設置基準の第６章「施設および設備等」の条件を満足している。平成12年度に作成された「国立学校施設長期計画書」に基づいて継続的に施設・設備の整備・充実が図られ，授業環境改善のための全教室への液晶プロジェクタとエアコンの設置，総合情報センターの設備更新，機械実習工場への最新鋭の数値制御工作機械などの設置，マルチメディア教室の整備などが進められてきた。平成19年度の施設整備計画委員会において，全ての施設・設備について利用状況や安全性などの調査が行われ，概ね有効な利用が図られているといえることが確認された。

また，ギガビットの校内LANが整備され，校内全域から教育及び業務サービスを提供する各種サーバをストレスなく利用することが可能となっており，ネットワーク利用の基本ルールのもとに，教育・研究に活発に利用されている。本校ネットワークは，ファイアウォールの設置，ウィルス対応ソフトの普及，ネットワーク管理体制の整備により，必要な情報セキュリティの確保を行っている。学生が利用できる情報端末は，総合情報センター，各科演習室，研究室等に設置され，全学で500台を超える PC が利用可能となっており，演習，実験，卒業研究等で有効に利用されている。

教育研究に必要な図書，学術雑誌は，本校図書館を中心に整備され，平成23年３月末現在の蔵書数は約８万冊となっており，教育及び研究に必要な技術・自然科学の専門書だけでなく，社会科学や芸術など豊かな情操を養うための教養書も多く蔵書されている。図書以外に，学術専門雑誌14誌，一般及び自然科学雑誌25誌などを購読し，学生が自由に閲覧できるようにしている。また，蔵書のバーコード管理による貸出・返却手続きの効率化，閲覧室の整備，開館時間の延長，オンラインでの蔵書検索サービスの提供など利用環境整備が継続的に行われている。

このように，教育課程に対して十分な施設・設備が整備され，概ね有効活用されている。また，視聴覚資料の整備・活用について改善が進んでおり，図書館を中心として教育研究に必要な図書，学術雑誌の整備が相応に行われている。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育科目一覧は，準学士課程・専攻科とも毎年４月に発行される学生便覧に記載されており（資料９－１－①－１），科目毎の教育内容の詳細（シラバス）はウェブサイトで公開されている（資料９－１－①－２）。授業の実施状況は，準学士課程においては年度末に学生課に提出している学級日誌から，専攻科においては授業完了報告書から，それぞれ把握が可能である（資料９－１－①－３）。また，授業の実施日と学生の出欠は出席簿に記録され，授業完了時に学生課に提出される（資料９－１－①－４）。

各科目の成績は，準学士課程においては定期試験毎に成績管理システム「キャンパスアシスト」に担当教員が成績データを入力し，管理している（資料９－１－①－５）。専攻科においては，授業完了報告書の入力ページから担当教員が成績データを入力し，管理している（前出資料９－１－①－３）。また，試験答案や課題レポートなどの成績評価の根拠資料は，準学士課程においては各教員が保管管理し，専攻科においては授業完了報告書の添付資料として提出を義務付け，学生課が保管している（訪問調査時閲覧可）。

資料９－１－①－１

教育科目一覧（抜粋）

別表第２
専門科目　**機械工学科**　（平成23年度現在第１～５学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修	応用数学Ａ		2				＊②		
	応用数学Ｂ		2				＊②		
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ		2				＊②		
	機械工学入門		1	1					
	図学		1	1					
	情報処理基礎		2	2					
	金属材料学Ⅰ		2		2				
	工業力学		2			2			
	材料力学Ⅰ		2			2			
	材料力学Ⅱ		2				＊②		
	熱力学		2				＊②		
	水力学		2				＊②		
	力学演習		2				2		
	機械工作法Ⅰ		2				＊②		
	機械設計法Ⅰ		2				②		
	自動制御		2				②		
	機械工作実習Ⅰ	●	3	3					
	機械工作実習Ⅱ	●	3		3				
	機械工作実習Ⅲ	●	3			3			
	機械設計製図Ⅰ	●	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	●	2		2				
	機械設計製図Ⅲ	●	2			2			
	機械設計製図Ⅳ	●	3				③		
	機械設計製図Ⅴ	●	3					③	
	機械工学実験Ⅰ	●	3				＊③		
	機械工学実験Ⅱ	●	3					＊③	
	創造デザイン演習		1				1		
	技術表現演習		1					1	
	卒業研究	●	8					⑧	
選択	プログラム演習		2		2				
	電気工学		2		2				
	金属材料学Ⅱ		1			1			必ず履修しなければならない
	機構学		2			2			
	電子計算機		1			1			
	電子工学		1			1			
	数値解析		1				1		
	伝熱工学		1					＊1	
	振動工学		1					＊1	
	情報工学		1					＊1	
	弾性力学		1					＊1	

(26)

	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
	塑性力学		1					＊1	
	油空圧工学		1					1	
	機械工作法Ⅱ		1					1	
	機械設計法Ⅱ		1					1	
	計測工学		1					1	
	トライボロジー		1					1	
	メカトロニクス		1					1	
	現代物理学		1					1	
	工業外国語Ⅰ		1					1	
	工業外国語Ⅱ		1					1	
	機械工学演習Ⅰ		2				2		留学生と編入生のみ
	機械工学演習Ⅱ		2					2	留学生のみ
	学外実習Ⅰ		2				2		２単位以内で自由に選択して履修できる
	学外実習Ⅱ		1				1		
	学外実習Ⅲ		1					1	
専門	必修科目合計		69	9	7	11	27	15	学外実習，留学生・編入生対象科目を除く
	選択科目合計		24	0	4	5	1	14	
	開講単位数合計		93	9	11	16	28	29	
一般科目合計			81	26	23	18	8	6	
合計			174	35	34	34	36	35	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
（注３）単位数の前に＊印がついた科目は学修単位科目であり，自学自習を含め45時間の学修をもって１単位とする。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成 23 年度学生便覧）

資料９－１－①－２

シラバス閲覧のウェブサイト



HOME > シラバス(授業計画)

シラバス(授業計画)

● 国立沼津工業高等専門学校 教授要目(シラバス)

はじめに
この「シラバス(授業計画)」には、授業科目ごとに、講義の内容と目標、各週の授業項目、学習に必要な教科書・参考書、評価方法、学生が質問に行きやすいように授業担当教員のオフィスアワー等が掲載されています。
このシラバスは、これまでに実践した授業の結果等を、教員自らが更に点検・評価を行い、毎年度更新しているもので、本校の自己点検・評価の一環として公刊しているものであります。
一般科目・専門科目の教育課程については本文に示すとおりであって、一般科目については学科によって単位数の学年別配当に違いがあります。また、専門の選択科目開講の単位数についても、各学科・コースによって差があり、中には集中講義によって履修する選択科目も設けてあります。
工業高等専門学校における学修は、技術・研究を志す学生にとって学習の第一歩であり、自学自習の精神を培うよい場であります。
このシラバスの内容を把握して年間の学習計画を立てて履修に努めれば、より良き理解が得られるものと信じます。
人間性豊かな、人柄の良い技術者を目指して、このシラバスを有効に活用し、学業に成果をあげることを期待します。
●各学科のシラバス(平成23年度版)
教養科　機械工学科　電気電子工学科　電子制御工学科　制御情報工学科　物質工学科
産業特別

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料９－１－①－３

専攻科授業完了報告書（抜粋）

授業完了報告書

版数	改定日	改定者	改定内容
1版	2010-09-15 18:29:14		

Id	1765
教科コード	869
科目名	燃焼工学
科目名(英文)	Combustion Engineering
担当者名	新富 雅仁
担当者名(英文)	Masahito SHINTOMI
学習・教育目標	B:数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢を身につける。 目標達成への実践指針 1. 代表的な物理・化学現象を、数学または情報処理の知識を用いて解析し、その応用例を示すことができる。 2. ワープロ、表計算ソフト、データベースソフト、プレゼンソフトを活用して、学習・研究上の資料を処理し、管理することができる。 3. 実験/計算/フィールドワークを通して自然現象を観測し、そこから現象の法則性を抽出することができる。 4. 自然現象をモデル化し、工学技術的な応用を前提として、シミュレーションすることができる。
対象学年	学年を問わない
単位数	2
必修/選択	選択
開講時期	2010年度、前期
授業区分	社会科学等区分 - 基礎能力区分 - 工学基礎区分 力学・数理・解析系 工学専門区分 専門工学系(機械工学)
授業形態	講義
実施場所	第2ゼミ室
受講者数	4
授業実施時間	0時間 (内訳: 講義 0時間、演習 0時間、その他 0時間)

学生別学習保証時間	学籍番号	氏名	時間
	[redacted]		21
	[redacted]		21
	[redacted]		16
	[redacted]		22.5

学生による授業評価

評価	評価項目	重み[%]	分布[人] A	B	C	D
	総合評価	100	1	2	0	1
	レポート	20	3	0	0	1
	調査発表	20	3	0	0	1
	筆答試験	50	1	0	1	2
	自己評価	10	3	0	0	1
	学生の自己評価		3	0	0	0

学習・教育目標の達成　本教科の単位取得者は、「実践指針」に基づく目標達成度検査において、合格し、本教科が掲げる学習・教育目標を達成した。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料９－１－①－４

出席簿

平成22年度　専攻科出席簿　－2

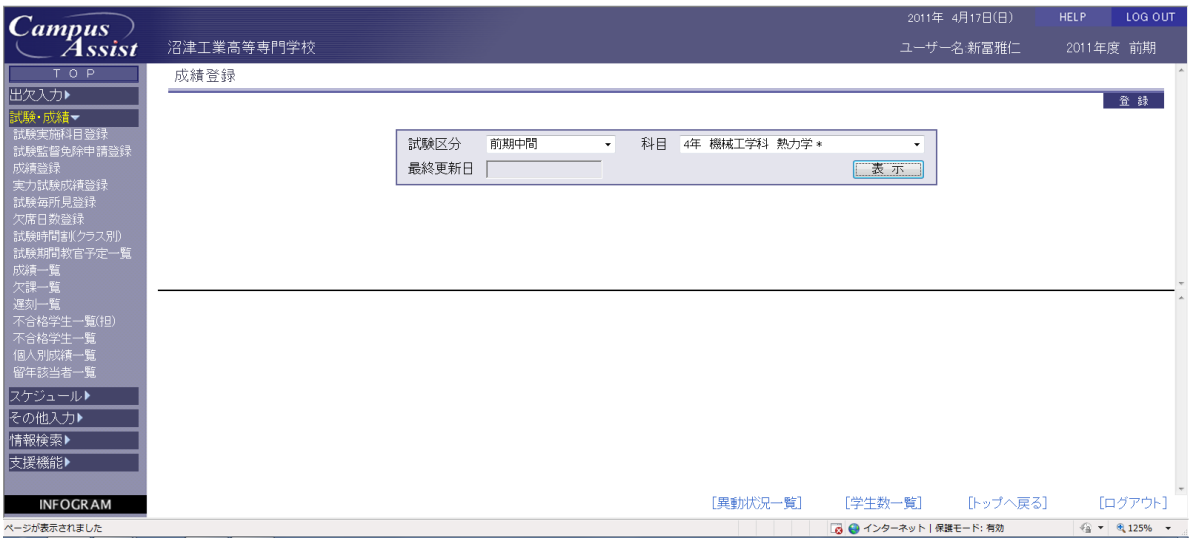
授業科目	燃焼工学										担当教員名	新冨 雅仁					印	
実施回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	授業実施時間数
実施月日	4・12	4・19	4・26	5・10	5・17	5・24	5・31	6・7	6・10	6・14	6・21	6・28	7・5	7・12	9・6			22.5 時間
曜日	月	月	月	月	月	月	月	月	木	月	月	月	月	月	月			
実施時限	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			合計出席時間
実施時間数	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5			備考
1																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○			21
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			21
19																		
20																		
21																		
22	○	○	○		○	1.0	○			○	○	○	○	○				16
23																		
24																		
25																		
26																		
27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			22.5
28																		
29																		
30																		
31																		
32																		
33																		
34																		
35																		
36																		
37																		
38																		
39																		
40																		
41																		
42																		
43																		
44																		
45																		
46																		
47																		
48																		
49																		
50																		
51																		
52																		
53																		
54																		

記入要領　：出席－○印　遅刻－時間(分)記入　　実施時間は実時間(1H＝60分)
注：出席簿は、学期末に提出する成績表に添付してください

(出典　学生課資料)

資料９－１－①－５

キャンパスアシスト成績登録画面



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

教育活動の全般的な自己点検・評価は，年度当初に策定する「年度計画」（資料９－１－①－６）に基づき，校長を委員長とする総務委員会がその達成状況等を検証することで実施している（資料９－１－①－７）。また，自己点検・評価報告を年度毎に作成し，公開している（資料９－１－①－８）。

資料９－１－①－６

平成 23 年度 年度計画（抜粋）

（２）教育課程の編成等

①　平成 22 年度の将来構想ＷＧの検討結果に基づいて、平成 24 年度入学生より１年次混合学級、２年次ミニ研究、３年次以降の学際教育導入に向けてカリキュラム改正案を作成する。平成 24 年度、１年生に共通実験、２年生にミニ研究を実行するための実施体制を整備する。

専攻科においては、専攻科複合実験に加え、複合領域の教育を充実するための科目の策定を行う。　平成２２年度高専機構の特別教育研究経費による専攻科に「医用機器開発エンジニア養成のコース制導入」についての調査結果を踏まえ、コース制導入について具体的な検討に入る。

科学技術振興調整費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」が３年目に入り、３期生の入学と同時に、１期生、２期生の修了を迎えるため、その成果物の創出に注力し、併せて事業内容の充実を図る。また、JST の中間審査に対応するための準備を進める。

②　平成 24 年度、１年生に共通実験、２年生にミニ研究を実行するための実施体制を具体化する。平成２４年度に入学する１年生の教育課程表の策定及び１年次混合学級の導入に向けての実施体制の整備と教務上の規則（進級・卒業判定基準など）の改正と整備を図る。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料９－１－①－７

総務委員会議事要録（抜粋）

平成23年度　第1回総務委員会議事要録

1．日　　時　　平成23年 4 月13日（水）　15時00分～17時12分

2．場　　所　　校長室

3．司　　会　　校　長

6．議　　題

（1）平成22年度年度計画自己点検評価表（案）について

総務課長から資料1に基づき、本件は平成22年12月から本委員会で審議を重ねてきた旨の経過説明を加え、今回の案が最終案である旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、機構本部に提出することとなった。

（出典　総務委員会議事要録）

資料９－１－①－８

平成 22 年度 年度計画 自己点検評価表（抜粋）

沼津工業高等専門学校 平成22年度 年度計画 自己点検評価表

沼津高専第２期中期計画	沼津高専 平成22年度 年度計画	担当部署	年度計画実施状況	自己評価点
	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項			
(1)入学者の確保 ① 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの組織との懇談を実施するなど、広報体制の充実を図るとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。	(1)入学者の確保 ① 沼津市教育長や中学校校長会会長に、本校の運営諮問会議委員を委嘱するなど、近隣市町村の教育委員会との連携を深め、中学校理科教員への支援策などの検討を含め、更なる中学校との連携強化を図り、中学校に対する広報戦略としての広報体制の充実を引き続き検討する。 沼津高専独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川県、山梨県）の中学校等への広報活動を引き続き積極的に行う。	・アドミッション委員会	沼津市教育長や中学校校長会会長（沼津市立原中学校長）に引き続き、平成22年度の運営諮問委員を委嘱した。また、近隣中学校への新たな教育支援として教員派遣及び教材提供（11月実施）するなど中学校との連携強化を図った。 入試広報用パンフレット「NCT Today INTRODUCTION」を6万5千冊作成し、県内(265校)、山梨県(93校)及び神奈川県西部(70校)の各中学校に送付（3年生全員への配布を依頼）した。また、入試広報用冊子「NCT Today 2010」を1万2千冊作成し、県内外（477校）の各中学校（各10冊～20冊）に送付し、説明会を依頼した。	A
②中学生が沼津高専の学習内容を体験できるよう、入学説明会、体験入学及びオープンキャンパスを充実させ、特に女子学生の志願者増に向けた取り組みを推進する。	② 受験生の確保の観点から、静岡県以外でなく募集の出ない近隣県（神奈川県、山梨県）なども含む、効果的な入学説明会を実施する。女子学生の志願者増策の観点から、女子を対象とした卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を重視的に多く盛り込むなどの作成や機構本部作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。	・アドミッション委員会	7月に富士宮市（山梨県）、沼津高専（県内／3回実施）、9月に御殿場（神奈川県）、島田市（県内）、浜松市（県内）、静岡市（県内）、10月に沼津高専（県内／中学校教員対象）、11月に沼津高専（県内／2回実施）で進学説明会（参加者総数693名）を実施した。 また、11月の進学説明会（高専祭同時開催）に併せ中学生向け企画として2日間にわたりミニ体験授業（各学科毎に午前・午後実施／総実施回数24回）を実施した。 女子学生からの紹介（授業、寮生活・寮生会、就職活動、クラブ活動、専攻科における学生生活と研究活動）のページや女子学生の進路先データを掲載した入試広報用冊子「NCT Today 2010」を作成し、HPにも掲載を行った。 本校作成の入試広報誌を高専機構に提供した。また、機構本部から提供された資料（キラキラ高専ガールになろう！、KOSENナビ、新日中学生ウイークリー）を本校進学説明会などにおいて積極的に活用した。	A
③ 中学生やその保護者を対象とする学校が共通的に活用できる広報資料作成において、本校が提供できる資料等があれば、積極的に高専機構に提供する。	③入試広報専門の学内体制を強化し、中学校訪問、進学説明会、１日体験入学、出前授業、公開講座、ミニ体験授業及びキャンパスツアー等各種入試広報活動の内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方（集中と選択）を検討する。中学生やその保護者を対象とする広報資料作成において、高専機構に提供できる資料等を積極的に提供する。	・アドミッション委員会	欠員であった入試係長を新たに配置するなど学内体制の強化を図り、志願者確保の観点から県内だけでなく高専のない近隣県（神奈川、山梨）を含む、昨年度の内容をさらに充実（訪問中学校の増加、配布資料等の拡充など）させて実施した。 また、より効果的な入試広報の在り方（１日体験入学の複数回実施、公開講座の集中実施など）について検討を進め、次年度は10月初旬に「中学生のための体験授業」を実施することを決定した。	A
④ ものづくりに関心と適性を有する若者など沼津高専の教育方針にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。	④ 入学者の質の検証の観点から、入試データだけでなく入学後の学力及び生活状況等との相関についても引き続き検討を進める。	・アドミッション委員会	入学者の質の検証の観点から、入試データだけでなく入学後の学力及び生活状況等との相関について分析を行い、入試方法の改善方策（募集り地元競制度など）についても引き続き検討を進めた。	A
⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、入学志願者が減少している学科においては、昨年度の志願者の分析結果に基づき、入学志願者の確保（広報活動の充実）について引き続き改善策を検討し、努力する。	⑤ 入学者の学力水準を維持するために、入学志願者が減少している学科においては、昨年度の志願者の分析結果に基づき、入学志願者の確保（広報活動の充実）について引き続き検討し、努力する。	・アドミッション委員会	入学志願者の確保（広報活動の充実・改善、選抜方法の在り方、学科構成の見直しなど）について引き続き検討を進めた。 また、小中学生を対象とした公開講座（32講座）の実施、各種イベント等への出前授業の積極的参加、キャンパスツアーの複数回実施（9月～12月と旬の金曜日）、各中学校主催の進路説明会等への積極的参加、進学説明会（１日体験入学・高専祭）に向う高校からの資料送付・入学者の選抜、近隣中学校への放課後学習支援、入試広報ノベルティ（ボールペン、シャープペン、蛍光ペン、クリアファイル、焼き菓子）の作成など様々な入試広報活動を行った。様々な入試広報を行うなど入学志願者の確保について努力したが、学力選抜においては、前年度の入学志願者数を大幅（50名減）に下回る結果となった。	B
(2)教育課程の編成等 ① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、静岡県東部における地域性や特色・立地条件等に応じ、個性ある多様な教育を目指し、自主的・自律的な改革を進める。地域事情に合わせた学科構成を検討し、学生の就職・進学状況や学科・コース構成に則した革新的な整備・充実を検討する。	(2)教育課程の編成等 ① 産業構造が、環境、エネルギー、福祉、医用等の方向に変化していることを踏まえ、また運営諮問会議における委員からの助言の指摘に対応するために、「将来検討WG」を設置し、「沼津高専教育課程における新たなコース制導入に関する答申」をまとめた。同WGでは、産業構造の変化や技術の高度化に対応できるように学科横断型共通専門科目の設定（コース制の導入）及び低学年の混合学級・共通実験・ミニ研究の春学期を含む）を検討し、平成24年度入学生よりコース制導入を行うための実施案を作成した。さらに、平成24年度(4年生より)ミニ研究を実施するための具体的な対応案を審議・決定した。専攻科においては、専攻科

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校における教育活動の全般的な自己点検・評価は，年度当初に策定する「年度計画」（前出資料９－１－①－６）に基づき，その達成状況等を総務委員会においてチェックすることで実施している。この自己点検・評価は，就職・進学先の関係者などを含む学外関係者および学内関係者からなる運営諮問会議（資料９－１－②－１）において検証を受け，運営諮問会議報告書として毎年公表されている（資料９－１－②－２）。

資料９－１－②－１

運営諮問会議規則（抜粋）

（設置）
第１条　沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（目的）
第２条　諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。

（任務）
第３条　諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。
（１）本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
（２）本校の教育及び研究活動に関する重要事項
（３）その他、本校の運営に関する重要事項

（組織）
第４条　諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。
（１）大学等高等教育機関の関係者
（２）産業・経済界の関係者
（３）本校が所在する地域の関係者
（４）本校の支援団体等の関係者

２　諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

（議長）
第５条　諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。
２　議長は、諮問会議の会務を総括する。
３　議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。

（任期）
第６条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（出典　本校規則集）

資料９－１－②－２

平成 22 年度運営諮問会議報告書（表紙と目次）

沼津工業高等専門学校

運営諮問会議報告書

（平成 22 年度）

－平成21年度年度計画自己点検評価の検証／平成22年度年度計画－

平成22年11月

沼津工業高等専門学校
運　営　諮　問　会　議

目　　次

Ⅰ．はじめに …… 1
Ⅱ．沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則 …… 2
Ⅲ．沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿 …… 3
Ⅳ．概要説明
　１．沼津工業高等専門学校概要（Power Point 資料） …… 5
　２．将来構想 WG 中間報告　－沼津高専教育課程におけるコース制導入について－ … 17
Ⅴ．審議事項
　１．平成 21 年度年度計画　自己点検評価の検証
　　１）沼津工業高等専門学校 平成 21 年度 年度計画 …… 21
　　２）平成 21 年度 年度計画　自己点検評価表 …… 29
　　３）平成 21 年度 年度計画　評価シート（運営諮問会議委員） …… 37
　　４）平成 21 年度 年度計画　評価シート意見対応表 …… 47
　２．平成 22 年度年度計画について
　　１）沼津工業高等専門学校 平成 22 年度 年度計画 …… 61
　　２）平成 22 年度 年度計画意見表（運営諮問会議委員） …… 73
　　３）「平成 22 年度 年度計画意見表」に対する対応表 …… 83
Ⅵ．平成２２年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議議事録 …… 95
（平成 22 年７月 30 日（金）本校３Ｆ大会議室）

（出典　平成 22 年度運営諮問会議報告書）

なお，自己点検・評価の実施にあたっては，以下に示すように，多方面からの意見の聴取を行っており，それらが反映されている。

教員からの意見聴取は，年度当初に提出される教員個人調書（資料９－１－②－３）により行っている。この調書には，教員が実施した授業改善の効果を記すことになっており，教員自身の自己点検結果も含まれている。また，平成22年度からは，教員による相互の授業参観を実施しており，報告書により他の教員の意見を知ることができ，自己点検に活かすことができる（資料９－１－②－４）。

資料９－１－②－３

教員個人調書書式（抜粋）

教員個人調書記入用紙

新年度4月1日現在

	邦　　名	ローマ字	生年月日（年齢）
（フリガナ）			
氏　名			

	科目名、学年、学期、単位数、担当教員数(本人を含む)
高専本科4, 5年 担当教科目 （新年度）	
昨年度実施した授業改善とその効果	
その他　教育に関する自己アピール	

（出典　教員個人調書）

資料９－１－②－４

授業参観報告書表紙

平成２２年 ８ 月 ５ 日

新宮雅仁　様

副校長（教務主事）
大　島　　茂

授業参観報告書について

標記のことについて、６月２８日（月）から７月２３日（金）にかけて実施しました、教員相互の授業参観に伴い、貴殿の授業に対する報告書を別紙のとおり配布しますので、今後の授業にお役立ていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（出典　授業参観報告書添付書類）

学生による授業評価アンケートは，平成12年度より準学士課程，専攻科とも全科目を対象に実施している（資料９－１－②－５）。授業評価アンケート結果は，科目毎に集計され，本校学内限定ウェブサイトに開示されている（資料９－１－②－６）。また，学生自身による学習到達度の自己評価と学業成績に基づく教員側からの到達度評価（ＧＰＡ評価）を比較分析することにより，改善点の洗い出しを行っている（前出資料６－１－④－１）。

資料９－１－②－５

授業アンケート実施要綱

教務主事

授業アンケートの目的
- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲
- 個々の科目の基礎データ(授業毎にまとめたデータ)に関しては、学内公開とする。
- 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲
- 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目
- 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期
- 科目担当の教員が最終の授業（試験を含む）時間の中で実施する。
- 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教員が判断する。

アンケートの配布と回収
- アンケート実施要綱、質問用紙、コード表、マークシート記入要綱を、教務係から担当教員に事前に配布する。
- 質問用紙、マークシート記入要綱、マークシートを、アンケート実施の際に学生に配布する。
- アンケート終了後、配布した用紙を全て回収する。
- マークシートの回答は、定められた期限までに、教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- マークシート以外の用紙は、必要なら繰り返し利用する（教務係への返却は必要ない）。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料９－１－②－６

授業アンケート結果（抜粋）

平成22年度 学年末 学科別集計結果（機械工学科）

沼津工業高等専門学校

	熱力学 ＊				新富 雅仁			M4		回答数:		32									
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	62.5%	65.6%	59.4%	71.9%	78.1%	78.1%	71.9%	87.5%	71.9%	68.8%	68.8%	68.8%	71.9%	78.1%	68.8%	84.4%	75.0%	75.0%	71.9%	62.5%	75.0%	81.3%
良い	34.4%	31.3%	40.6%	28.1%	21.9%	21.9%	25.0%	12.5%	28.1%	25.0%	31.3%	28.1%	28.1%	21.9%	28.1%	15.6%	25.0%	21.9%	28.1%	28.1%	25.0%	15.6%
あまり良くない	3.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	9.4%	0.0%	3.1%
悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32

	水力学 ＊				手塚 重久			M4		回答数:		33									
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
非常に良い	72.7%	72.7%	63.6%	69.7%	60.6%	60.6%	60.6%	57.6%	60.6%	60.6%	69.7%	66.7%	78.8%	69.7%	75.8%	66.7%	72.7%	69.7%	75.8%	69.7%	65.6%	75.8%
良い	27.3%	27.3%	36.4%	30.3%	36.4%	36.4%	36.4%	33.3%	30.3%	36.4%	30.3%	27.3%	21.2%	30.3%	24.2%	30.3%	27.3%	27.3%	24.2%	30.3%	31.3%	24.2%
あまり良くない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	3.0%	3.0%	9.1%	9.1%	3.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%
悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	33

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

平成20年度より授業参観期間（１週間）を設けており，期間中，保護者は自由に授業を見学できる。また，学科毎の学科説明会を実施しており，保護者からの意見を直接聴取することも行っている（資料９－１－②－７，８）。

資料９－１－②－７

機械工学科説明会資料（抜粋）

日時：平成 22 年 11 月 19 日（金）13：05～14：30
場所：沼津高専　第１視聴覚教室（図書館棟１階）

日頃，機械工学科における教育･運営にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。早いもので後期中間試験を目前に控え，各学年において進級・卒業に向けての大切な時期を迎えております。学生には授業や担任を通じて学業面・生活面における指導を行っているところではありますが，学校における指導だけでは不十分な点が多々あります。保護者の皆様と情報を共有し，ご協力を得ることで，今後の指導を円滑にしてまいりたいと考えています。本日は学科の概要をご説明するとともに，各学年の担任から現状をご報告いたします。　　学科長　小林

－次第－

開会（司会：井上）
1. 教員・担任紹介（学科長　小林）
2. 学科説明（学科長　小林）
3. 教務上の説明（教務副主事　村松）
4. 学生指導について（学生主事補　井上）
5. 寮生活について（寮務主事補　永禮）
6. クラスの状況報告
   ・Ｍ１（担任　坂本）
   ・Ｍ２（担任　勝山）
   ・Ｍ３（担任　西田）
   ・Ｍ４（担任　三谷）
   ・Ｍ５（担任　手塚）
7. 進路指導・状況
   ・進路指導（学科長　小林）
   ・就職状況（就職指導担当　小林）
   ・進学状況（５年学級担任　手塚）
   ・専攻科状況（専攻科担当　新冨）
8. 質疑応答
   閉会

1. 教員紹介

【機械工学科教員】
教授　　小林隆志（学科長），手塚重久（Ｍ５担任），西田友久（Ｍ３担任），
　　村松久巳（教務副主事）
准教授　宮内太積（Ｍ１副担任），井上　聡（学生主事補），
　　三谷祐一朗（Ｍ４担任，教務委員），新冨雅仁（専攻科担当），
　　山中　仁（学生委員）
講師　　永禮哲生（Ｍ２副担任，寮務主事補）
助教　　松田伸也（寮務委員）

【クラス担任】
Ｍ１：教授　坂本信男（教養科国語），副担任：宮内太積
Ｍ２：教授　勝山智男（教養科物理），副担任：永禮哲生
Ｍ３：西田友久
Ｍ４：三谷祐一朗
Ｍ５：手塚重久

（出典　機械工学科作成資料）

資料９－１－②－８

機械工学科説明会におけるアンケート（抜粋）

平成２２年度　機械工学科　学科説明会アンケート

平成 22 年 11 月 19 日

質問１：あなたのご子弟は機械工学科の何年生ですか。

1) Ｍ1，　2)Ｍ2，　3)Ｍ3，　4)Ｍ4，　(5)Ｍ5

質問２：学科説明会の内容についてどう思いますか。

(1)良い　　2)まずまず　　3)良くない　　4)よくわからない

自由記述：

いっしょくれん説明があり、校内の様子・先生方の考え方がわかりました。

5年間・かかさず出席しましたが、大事な会だと思います。

質問３：授業についてどう思いますか。

(1)良い　　2)まずまず　　3)良くない　　4)よくわからない

自由記述：

質問４：学生指導についてどう思いますか。

(1)良い　　2)まずまず　　3)良くない　　4)よくわからない

自由記述：

個人を尊重し・かつ厳しい目で、みていただいております。

質問５：学科の進路指導についてどう思いますか。

1)良い　　(2)まずまず　　3)良くない　　4)よくわからない

自由記述：

本人に(か)ませていただいておりますが、もうすこし保護者参加型にしてほしいと思います。

その他：ご意見等あればお願いいたします。

就職活動中は、たいへんお世話になりました。

精神面などいろいろと相談にのって下さり、感謝しております。

私も勉強になりました。

ありがとうございました。

（出典　機械工学科作成資料）

卒業生・修了生からは，アンケートを実施することにより意見聴取を行っている（資料９－１－②－９及び前出資料６－１－⑤－１～11）。また，外部有識者の意見は，前述した運営諮問会議の委員より聴取している（資料９－１－②－10）。

資料９－１－②－９

修了生向けアンケート（抜粋）

修了専攻＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　修了年度＿＿＿＿＿＿＿＿
御名前＿＿＿＿＿＿＿＿

1．個人基礎データに関する質問					回答欄
【問1】あなたが修了後最も長く所属した勤務先（自営も含む）の業種を，次の中から1つ選択して下さい。					
①機械・輸送機器	②建設	③電気機器	④電力・電気設備	⑤コンピュータ・情報機器	
⑥化学工業	⑦繊維・材料	⑧官公庁・公益法人	⑨学校・教育	⑩その他	
【問2】会社等においてあなた自身が修了後，最も長く在職した職種について該当するものを1つ選択して下さい。					
①研究・開発	②設計・計画	③製造・生産技術・生産管理	④販売・営業	⑤行政・サービス・教育	
【問3】最も長く在職した職種の勤務年数を選択して回答して下さい。					
①１年未満	②１年以上２年未満	③２年以上４年未満	④４年以上６年未満	⑤６年以上	
2．業務に必要な知識，専攻科で学んだ知識に関する質問					
以下では，本専攻科が掲げる教育目標の5項目について専攻科教育の達成度（満足度）と，職場での必要度をお尋ねします。関連するご意見，ご提案は最も相応しい設問の自由記述欄にご回答下さい。					
「社会的責任の自覚と、地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力(工学倫理の自覚と多面的考察力)」についてお尋ねしま					
【問4】あなたの職場では上記の自覚，及び考察力が必要とされますか？					
①大いに必要	②ある程度必要	③どちらとも言えない	④あまり必要ない	⑤全く不要	
【問5】上記の自覚，及び考察力に関して専攻科で受けた教育は，業務を遂行する上で十分ですか？					
①十分満足	②ある程度満足	③どちらとも言えない	④すこし不足	⑤全く不足	
【問6】工学技術者として「工学倫理の自覚」の重要性について，いつ頃理解が深まったとお考えですか？					
①高専専攻科入学以前	②専攻科在学中	③専攻科修了後の職場での実務体験をとおして	④あまり認識していない	⑤その他	
【問7】工学技術者として「多面的考察力」の必要性について，いつ頃理解が深まったとお考えですか？					
①専攻科入学以前	②専攻科在学中	③専攻科修了後の職場での実務体験をとおして	④あまり認識していない	⑤その他	
「数学、自然科学、情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢(社会要請に応えられる工学基礎学力)」について					
【問8】あなたの職場では上記の能力が必要とされますか？					
①大いに必要	②ある程度必要	③どちらとも言えない	④あまり必要ない	⑤全く不要	
【問9】工学技術者として「社会の要求に応える姿勢」の重要性について，いつ頃理解が深まったとお考えですか？					
①専攻科入学以前	②専攻科在学中	③専攻科修了後の職場での実務体験をとおして	④あまり認識していない	⑤その他	
【問10】専攻科で習得した上記の能力は，業務を遂行する上で十分ですか？					
①十分満足	②ある程度満足	③どちらとも言えない	④すこし不足	⑤全く不足	
【問11】前問で不足(④⑤)と回答された方はそれを補う努力を専攻科修了後，何らかの方法で実践されていますか？					
①会社の社員教育に参加・大学院で習得	②学協会が実施する講習会に参加	③独学	④何もしていない	⑤その他	
「工学的な解析・分析力、及びそれらを創造的に統合する能力(工学専門知識の創造的活用能力)」についてお尋ねします。					
【問12】あなたの職場では上記の能力が必要とされますか？					
①大いに必要	②ある程度必要	③どちらとも言えない	④あまり必要ない	⑤全く不要	
【問13】「工学的な解析・分析力」に関して専攻科で受けた教育は，業務を遂行する上で十分ですか？					
①十分満足	②ある程度満足	③どちらとも言えない	④すこし不足	⑤全く不足	
【問14】「創造的に統合する能力」に関して専攻科で受けた教育は，効果があったと思われますか？					
①大いに効果があった	②ある程度効果があった	③どちらともいえない	④あまり効果がなかった	⑤全く効果なかった	
「コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力(国際的な受信・発信能力)」についてお尋ねします。					
【問15】あなたの職場では「コミュニケーション能力」が必要とされますか？					
①大いに必要	②ある程度必要	③どちらとも言えない	④あまり必要ない	⑤全く不要	
【問16】上記の能力に関して専攻科で受けた教育は，業務を遂行する上で十分ですか？					
①十分満足	②ある程度満足	③どちらとも言えない	④すこし不足	⑤全く不足	

（出典　修了生向けアンケート）

資料９－１－②－10

運営諮問会議委員による意見（抜粋）

(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて	(中村委員長) JABEE、PBLなど、教育改善に努力されていることを高く評価します。なお、学校では得られない有形無形の経験ができる「ものづくりステップアップ実践教育」の一層の展開を望みます。また、学生にコミュニケーションの道具としての英語の重要性を早期から気づかせるような努力を望みます。 (橋本委員) ⑥、⑦「ものづくりステップアップ実践プログラム」は素晴らしい内容で本資料に添付すべきです。(個人的に資料を送付して頂きました)この中でも実施しているインターンシップについてもう少し詳しく触れて頂けないでしょうか。以前にもお話をしましたが、4年生の夏休みの短期間だけでなく、3 ヶ月(学校での授業の合間も利用)程度の期間も検討すべきと思います。 ⑨eーラーニングについては最初から高いハードルを設けるのではなく、自学自習のツールとして、古いパソコン、スタンドアローン、コンテンツも自前で用意する程度からスタートしては如何ですか。(5)②とも連携します。 (青木委員) GP などの教育プロジェクトの獲得により積極的にチャレンジしてほしい。教育のプロジェクト化は問題も多いと思うが，高専の顔づくりには一役買っているところもあるように思われる。ただし，ある程度の実績を積んだ取組みを発展させるような姿勢が望ましい。

（出典　平成 22 年度運営諮問会議報告書）

（分析結果とその根拠理由）

学校の構成員及び学外関係者からの意見聴取は多岐にわたって実施され，データの収集は適切に行われており，これらの意見が自己点検・評価に十分反映されている。また，得られたデータの分析は十分に行っており，改善策の検討にも活かされている。

以上のことから，自己点検・評価は適切に行われていると判断できる。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価報告書はウェブサイトを通じて一般に公開されることになっており（資料９－１－③－１），授業評価アンケートの結果については，教員は学内限定ウェブサイトを通して確認することができる（資料９－１－③－２）。学内においては，業務改善運営ループにしたがって，総務委員会より担当部局に改善の指示がなされるシステムが整備されている（資料９-１-③-３）。

これらの結果をもとに，教育課程の見直し等の検討は，準学士課程においては各学科を主体に行われ，カリキュラムの変更などが教務委員会の審議を経て行われる（資料９－１－③－４）。平成19年度には，修得単位数の変更など全学的な教育課程の見直しが行われた（資料９－１－③－５）。

資料９－１－③－１

自己点検・評価報告閲覧のウェブページ（抜粋）



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料９－１－③－２

授業アンケート結果閲覧のウェブページ

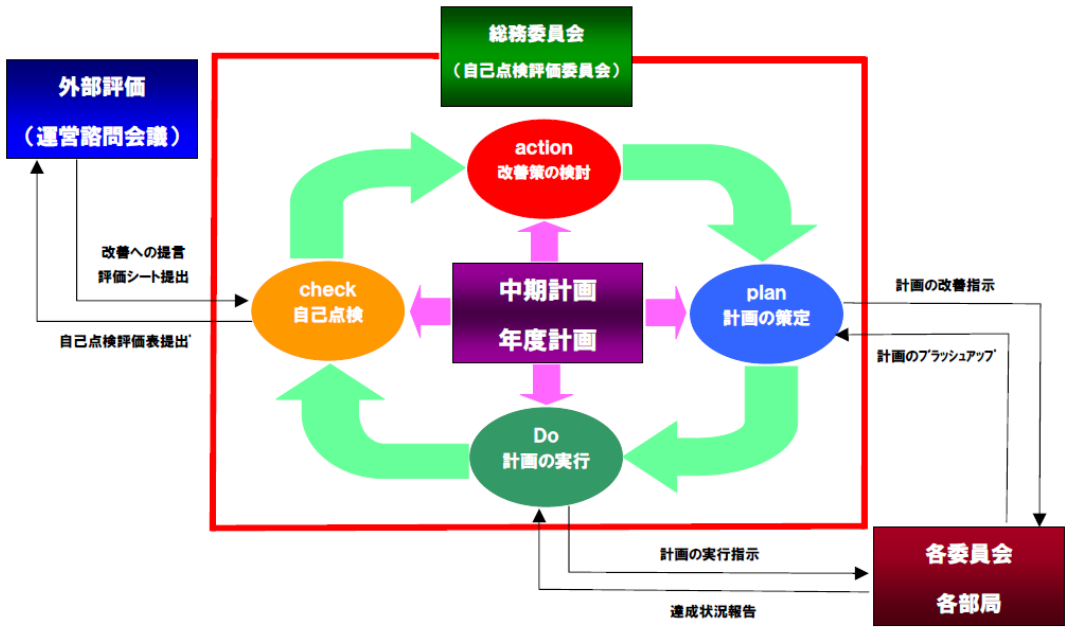


（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料９－１－③－３

沼津工業高等専門学校　業務改善ループ運営図

－ 自己点検評価システム －



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料９－１－③－４

教務委員会規則（抜粋）

（昭和49.4.1制定）
最終改正 平成20.2.13

第１条 沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）をおく。
（組織）
第２条 委員会は、次の委員をもって組織する。
(1)副校長（教務主事）
(2)教務副主事
(3)教務主事補
(4)学科長、教養科長及び専攻科長
(5)図書館長
(6)本校教員で校長が任命した者
（審議事項）
第３条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。
(1)教育課程及び授業時間割の編成に関すること。
(2)学校行事に関すること。
(3)学生の教科履修に関すること
(4)入学、退学、編入及び転科等に関すること。
(5)指導要録等教務記録に関すること。
(6)その他教務に関し必要と認められること。

（出典　本校規則集）

資料９－１－③－５

教育課程見直し前後の教育課程表

見直し前

専門科目　**機械工学科**　（平成22年度現在第５学年に在学する者に適用）

	授業科目			単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修	応用数学A			2				*②		
	応用数学B			2				*②		
	応用物理Ⅰ			2			2			
	応用物理Ⅱ			2				*②		
	図学			1	1					
	機械工学入門			1	1					
	機構学		■	2			2			
	工業力学		■	2			2			
	金属材料学Ⅰ		■	2		2				
	金属材料学Ⅱ			1			1			
	材料力学Ⅰ		■	2			2			
	材料力学Ⅱ			2				*②		
	熱力学		■	2				*②		
	水力学		■	2				*②		
	力学演習			1				1		
	機械工作法Ⅰ		■	2			2			
	機械工作法Ⅱ			2				*②		
	情報処理基礎			1	1					
	プログラム演習			1		1				
	電子計算機			1			1			
	数値解析			1				*1		
	電気工学			1		1				
	電子工学			2			2			
	機械工作実習Ⅰ	●		3	3					
	機械工作実習Ⅱ	●		3		3				
	機械工作実習Ⅲ	●		3			3			
	機械設計法Ⅰ			2				*②		
	機械設計法Ⅱ			1					1	
	機械設計製図Ⅰ	●		2	2					
	機械設計製図Ⅱ	●		2		2				
	機械設計製図Ⅲ	●		2			2			
	機械設計製図Ⅳ	●		3				③		
	機械設計製図Ⅴ	●		3					③	
	自動制御		■	2					*②	
	電子計測			1					1	
	伝熱工学		■	1					*1	
	流体機械			1					1	
	機械計測			1				*1		
	数値制御			1				*1		
	経営工学			1					1	

	授業科目			単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修	油空圧工学			1					*1	
	振動工学		■	1					*1	
	情報工学			1					*1	
	弾性力学			1					*1	
	塑性力学			1					*1	
	機械工学実験Ⅰ	●		3				③		
	機械工学実験Ⅱ	●		3					③	
	工業外国語Ⅰ			1					1	
	工業外国語Ⅱ			1					1	
	卒業研究	●		8					⑧	
選択	機械要素学			1					*1	いずれかの科目を選択し、履修しなければならない。
	トライボロジー			1					*1	
	現代物理学			1					1	
	メカトロニクス			1					1	
	機械工学演習Ⅰ			2				2		編入生、留学生が履修できる。
	機械工学演習Ⅱ			2					2	留学生が履修できる。
	学外実習Ⅰ			2				2		2単位以内で自由に選択して履修できる
	学外実習Ⅱ			1				1		
	学外実習Ⅲ			1					1	
専門	必修科目合計			90	8	9	19	26	28	学外実習、留学生・編入生対象科目を除く
	選択科目合計			3					3	
	履修科目合計			93	8	9	19	26	31	
一般科目合計				79	27	22	18	6	6	
合計				172	35	31	37	32	37	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。
（注２）■印の科目から14単位以上を修得しなければ卒業できない。
（注３）「丸付き数字」の科目は主要科目を表す。
　　単位数の前に＊印が付いた科目は学修単位、付いていない科目は履修単位を表す。
（注４）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

見直し後

別表第２

専門科目　**機械工学科**　（平成22年度現在第１・２・３・４学年に在学する者に適用）

	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修	応用数学Ａ		2				＊②		
	応用数学Ｂ		2				＊②		
	応用物理Ⅰ		2			2			
	応用物理Ⅱ		2				＊②		
	機械工学入門		1	1					
	図学		1	1					
	情報処理基礎		2	2					
	金属材料学Ⅰ		2		2				
	工業力学		2			2			
	材料力学Ⅰ		2			2			
	材料力学Ⅱ		2				＊②		
	熱力学		2				＊②		
	水力学		2				＊②		
	力学演習		2				2		
	機械工作法Ⅰ		2				＊②		
	機械設計法Ⅰ		2				②		
	自動制御		2				②		
	機械工作実習Ⅰ	●	3	3					
	機械工作実習Ⅱ	●	3		3				
	機械工作実習Ⅲ	●	3			3			
	機械設計製図Ⅰ	●	2	2					
	機械設計製図Ⅱ	●	2		2				
	機械設計製図Ⅲ	●	2			2			
	機械設計製図Ⅳ	●	3				③		
	機械設計製図Ⅴ	●	3					③	
	機械工学実験Ⅰ	●	3				＊③		
	機械工学実験Ⅱ	●	3					＊③	
	創造デザイン演習		1				1		
	技術表現演習		1					1	
	卒業研究	●	8					⑧	
選択	プログラム演習		2		2				必ず履修しなければならない
	電気工学		2		2				
	金属材料学Ⅱ		1			1			
	機構学		2			2			
	電子計算機		1			1			
	電子工学		1			1			
	数値解析		1				1		
	伝熱工学		1					＊1	
	振動工学		1					＊1	
	情報工学		1					＊1	
	弾性力学		1					＊1	

	授業科目		単位数	学年別配当 1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択	塑性力学		1					＊1	
	油空圧工学		1					1	
	機械工作法Ⅱ		1					1	
	機械設計法Ⅱ		1					1	
	計測工学		1					1	
	トライボロジー		1					1	
	メカトロニクス		1					1	
	現代物理学		1					1	
	工業外国語Ⅰ		1					1	
	工業外国語Ⅱ		1					1	
	機械工学演習Ⅰ		2				2		留学生と編入生のみ
	機械工学演習Ⅱ		2					2	留学生のみ
	学外実習Ⅰ		2				2		2単位以内で自由に選択して履修できる
	学外実習Ⅱ		1				1		
	学外実習Ⅲ		1					1	
専門	必修科目合計		69	9	7	11	27	15	学外実習、留学生・編入生対象科目を除く
	選択科目合計		24	0	4	5	1	14	
	開講単位数合計		93	9	11	16	28	29	
一般科目合計			81	26	23	18	8	6	
合計			174	35	34	34	36	35	

（注１）●印の科目は該当学年において修得しないと進級・卒業できない。

（注２）「丸付き数字」の科目は主要科目である。
単位数の前に＊印が付いた科目は学修単位科目、付いていない科目は履修単位科目である。

（注３）上記の教育課程表以外に各学年で開講される「産業特別」は所定の単位を修得することができる。

（出典　平成 22 年度学生便覧）

専攻科においては，企画運営委員会を中心に検討が行われ，カリキュラムの変更は専攻科担当教員会議の審議を経て行われる（資料９－１－③－６）。

資料９－１－③－６

専攻科担当教員会議規則

○沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則
（平成15.6.11制定）
最終改正 平成19.3.14
（設置）
第１条 沼津工業高等専門学校専攻科に専攻科担当教員会議（以下「会議」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 会議は、校長の諮問に応じ、専攻科に関し、次に掲げる事項を審議する。
(1)教務に関する事項
(2)厚生補導に関する事項
(3)入学者の選抜に関する事項
(4)自己点検・評価に関する事項
(5)専攻科担当教員の資格審査に関する事項
(6)日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の審査・認定に関する事項
(7)大学評価・学位授与機構の審査に関する事項
(8)その他専攻科の運営に関し、専攻科長が必要と認める事項
（組織）
第３条 会議は、次に掲げる教員をもって組織する。
(1)専攻科長
(2)専攻科担当教員（本校専任の教授、准教授、講師及び助教に限る。）
（議長）
第４条 会議に議長を置き、専攻科長をもって充てる。
２ 議長は、会議を主宰する。
３ 専攻科長に事故があるときは、あらかじめ専攻科長の指名する教員がその職務を代行する。
（議事）
第５条 会議は、３分の２以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
２ 会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（企画・運営委員会）
第６条 会議の円滑な運営を図るため、企画・運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２ 委員会は、専攻科長及び第３条第２号の構成員のうちから専攻科長が指名する者をもって組織する。
（意見の聴取）
第７条 議長が必要と認めるときは、関係教員に会議への出席を求め、その意見を聴くことができる。
（事務）
第８条 会議に関する事務は、総務課及び学生課において処理する。
（細目）
第９条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な細目は、別に定める。
附 則
１ この規則は、平成１５年６月１１日から施行する。
２ 沼津工業高等専門学校専攻科委員会規則（平成１４年３月１３日制定）は、廃止する。
附 則
この規則は、平成16年４月14日から施行し、同年４月１日から適用する。
附 則
この規則は、平成18年４月１日から施行する。
附 則
この規則は、平成19年４月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

さらに，運営諮問会議において，学外有識者から教育内容の点検と改善に向けた意見を聴取したのち，指摘を受けた事項については，改善に向けた対応を直ちにとっている（資料９－１－③－７）。なお，平成21年度の運営諮問会議において，外部有識者から指摘を受けた産業構造の変化への対応について（資料９－１－③－８）は，高専機構の中期目標においても改革が求められているものでもある（資料９－１－③－９）。そこで，平成22年度に校長特命の「将来構想ＷＧ」（資料９－１－③－10）を組織して一年間の審議の結果，社会経済環境の変化に対応して，医療・福祉分野，環境・エネルギー分野，新機能材料分野の学際教育を行う「教育課程改定（案）―混合学級及び学際教育の導入―」を策定した（詳細は訪問調査時に提示する）。現在は，平成24年度入学生から新教育課程を適用できるように，校長補佐（学際教育担当）が運営する「学際教育導入ＷＧ」が中心になって具体的教育課程の編成等を進めている。

資料９－１－③－７

運営諮問会議 平成 21 年度 年度計画 評価シート意見対応表（抜粋）

(2)教育課程の編成等について **(中村委員長)** 時代の要請に応じたエンジニア教育についてのカリキュラムの検討がBと自己評価されておりますが、教育は10年スパンで考えるべきものですので、進捗状況としてはB＋ないしA―ではないかと思います。 授業評価が、授業終了時となっておりますが、途中で実施し、すぐに反映させることも考えてはいかがでしょうか。 ロボットコンテストなど、リーダーシップや組織力、協調性など、学生同士で自主的に学ぶことができる事業に積極的に参加していることを、高く評価します。今後も積極的に実施するようお願いします。 **(橋本委員)** ①時代の変化・進展に応じた教育課程の検証は極めて重要である。本科 5 学科、3 専攻科を基本として、時代の要請がある例えば環境工学、エネルギー工学などの複合研究領域に対しての教育課程の工夫（例えばカリキュラムの構成など）を検討すべきと考える。「富士山麓・・・養成プログラム」の後継としての社会人専攻科の必要性云々の記述の意味がよく理解できない。文書の説明・流れが必要である。 ④全体に言えるが、自己評価では PDCA を廻すことが求められているが、本実施状況では Check までの記載が多く、Action に繋がる説明が弱い。例えば、改善点が明確にできた→・・等の改善点が明確にできた、と繋げて頂きたい。 ⑤ボランテイア活動は強制ではなく自発的な取り組みが重要である。クラス単位での清掃活動の実施だけでは学校としての取り組みが弱い。サークル活動を通しての慰問活動など、学生との対話を続け、色々なアイデアを出してみては如何でしょうか。 **(名倉委員)** ③PDCAサイクルを回して欲しい。 ④具体的な分析内容が読めませんでした。 ⑤今後も継続して欲しい。 **(青木委員)** 年度計画には，「専攻科での複合領域の教育について検討を行う」とあるが，この中身が見えない。専攻科の複合的な教育が成果を上げているかどうかは、ぜひ何らかの形で評価してほしい。特に、大学進学者との違い、本科卒業生との違い、などの視点で教育の成果を長期的に検証していく必要があると思われる。 コース制や共通授業等は、将来的に「くくり入試」などにつながっていくとも考えられるが、専攻科の複合教育と合わせて考えると，高専における専門教育が“広く・浅く”の方向に向かっているように思える。特定の専門分野に対する技術者としての責任や自信を涵養する教育のあり方について、ぜひ高専には考えていただきたい。 **(安達委員)** ⑥について、“学内外のクリーン活動”等については、是非「やらされる活動」から「何か課題を持ち提案できる活動」になるような仕掛けがあると良いと思う。 （例えば「何故、そこに、こんなゴミがあるのかを考える」等）	**＜各担当部署＞** **○副校長** 産業構造の変化、技術の高度化等に対応して教育課程の編成等を見直すために「将来検討WG」を発足させ検討を開始した。産業構造が、環境、エコ、福祉、医用を重視する方向に変化していることを踏まえ、具体的には （1）機械実習工場の実習テーマの見直し （2）機械設計製図教育内容・方法の見直し （3）演習・実習の内容の見直し （4）工学実験の内容の見直し 等を含め、学科の大括り化、コース制の導入、新分野の学科の設置、改組・再編・整備などの必要性について平成22年9月末までを目途に検討を進めています。 各学科間で共通に実施できる可能性のある科目について検討し教務主事に報告する方法で調査した結果、機械工学科学科長から貴重な提案があり、平成 22 年度の教務委員会で検討することとしました。上記の将来検討WGの検討内容とも関連する事項であり、連携を図り検討を進めます。 英語力のレベルを客観的に把握しやすくするため、平成 22 年度より 1,2 年生で行う統一テストを ACE から TOEIC Bridge に変更し 3,4 年の TOEIC IP テストとの連続性を得るようにしました。今後数年かけて学年を追って学生達の英語力向上の度合いを調査し、英語教育にフィードバックします。 数学、物理の到達度試験結果から、各問題についての正答率、誤答率、他高専との比較等の分析を行い、学生達の理解度が低い単元や学習項目を把握し、演習課題や定期試験への出題方法等の工夫により理解度をあげる対策を講じています。到達度試験結果の分析結果を教員FD研修会で全教員に報告し、全教員が共通認識をもつことで、専門科目の授業を通じても数学、物理の力を伸ばすべく連携を図ることを進めています。 3 年生と 5 年生の学習到達度自己評価と 4 年生と 5 年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価の結果を分析した結果、本校の教育目標の A.技術者の社会的役割と責任を自覚する態度、B.自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力、D.豊かな国際感覚とコミュニケーション能力について、学生は比較的高い評価をしているのに対して、成績から算出した教員側による評価では比較的低い評価でした。社会系の分野、数学、物理等の工学基礎系分野、及び英語力を含めたコミュニケーション能力に関連する分野の能力向上を図る改善の必要性が把握できました。社会系の知識や思考力、社会や地球環境を考えることができる姿勢、幅広い教養等の強化策として、一つは企業技術者等を活用した共同教育を実践しています。本校では社会系の授業は少ないため、自学自習で学べる e-ラーニングの教材を整えることも検討している。数学、物理においては学生の能力と理解度に合った適切な演習課題を作成し充実することに重点をおいて対策を進めています。英語力は TOEIC Bridge, TOEIC IP テストによる英語力レベルの客観的把握と、その受験を目標に据え英語学習に対するモチベーションの高揚を図ること、英語を母国語とする外国人非常勤講師を採用し、外国人と会話する機会を多く設けることなどを対策として進めています

（出典　平成 22 年度運営諮問会議報告書）

資料９－１－③－８

沼津高専第２期中期計画 と 平成 21 年度 運営諮問会議 議事要録（抜粋）

（２）教育課程の編成等

① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、静岡県東部における地域性や特色・立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。地域事情に合わせた学科構成を検討し、学生の就職・進学状況や学科・コース構成に則した専攻科の整備・充実を検討する。

② 地域産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応するため、コース制の可能性や複数学科による共同授業など、弾力的な授業実施形態の導入について検討する。また、地域や学生のニーズにあった科目編成となるよう改善を図り各学科の特色を際立たせる。

２．教育課程の編成等

議　　長　　次に、「教育課程の編成等」の項目ですが、全部で６項目の記述がありますが、これらについては、地域企業の視点から安達委員にご意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

安達委員　　正直、この中期計画の文書を見ただけでは、どこまで掘り下げたのか、背景がどうなっているのか等が分かりませんので、参考となるところだけ使っていただければ結構かと思います。

教育課程の編成というところでは、①で、「産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる・・・」、「地域事情に合わせた学科構成を検討し・・・」や、②で、「地域産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応するため、・・」という記述がありますが、具体的に、変化の把握とか地域事情の把握と言われる、この把握の仕方というのはどのようにやっているのか、ここからは読みとれません。もし、きちんと仕組みを持ってやっているのであれば、その辺を具体化して、把握結果に基づいた計画というものに繋げていくと非常に分かりやすいと感じました。

（出典　平成 21 年度運営諮問会議報告書）

資料９－１－③－９

国立高等専門学校機構 第２期中期計画（抜粋）

（２）教育課程の編成等

① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中，各高等専門学校がそれぞれの地域性や特色，立地条件等に応じ，個性ある多様な発展を目指し，自主的・自律的な改革を進める。このため，学科構成を見直し，地域の要請に即応した新分野の学科の設置や改組・再編・整備を適切に進めるとともに，地域や各高等専門学校の実情に応じ専攻科の整備・充実を行う。また，中央教育審議会答申の趣旨や入学志願者の動向，ニーズ等を踏まえ，高等専門学校の配置の在り方について地域の要望に即した見直しを行うものとし，宮城，富山，香川及び熊本の４地区にある高等専門学校の統合を着実に進める。さらに，必要な外部有識者や各学校の参画を得た調査研究を行い，その成果を活用する。

② 産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応した学科の大括り化やコース制の導入などについて検討を行う。

（出典　国立高等専門学校機構ウェブサイト）

資料９－１－③－10

将来構想ＷＧ中間報告（抜粋）

・ 将来構想 WG 委員

新富准教授（機械工学科）、野毛准教授（電気電子工学科）、大庭准教授（電子制御工学科）、芹澤准教授（制御情報工学科）、勝山教授（教養科）、藤尾教授（制御情報工学科・副主査）、押川教授（物質工学科・主査）

・ 基 本 方 針

産業構造の変化等を踏まえ、「想像力に富み」、「人間性豊かな技術者の育成」という視点にたって、教育内容も不断に見直す必要がある（第２期中期計画）。このために教育課程の編成等の見直しが必要である。

・ 背　　景

昨今の急速な産業構造の発展を踏まえ、例えば石油を燃料とする自動車から電気自動車または燃料電池車へと移り変わるであろう様々な技術発展の過渡的時代に我々は位置している。中学校卒業から早期の年齢で「ものづくりキャリア教育」を目指し、各学科が「導入教育」と称して１年生に専門導入基礎実験（座学を含む）を実施してきた。近年の飛躍的な技術開発の発展に伴い、低学年でのエンジニアの基礎となるものづくり体験、教育すべき基幹科目以外の専門科目・実験実習テーマの見直し、および優秀な受験生を継続的に確保する少子化対策が必要となってきた。さらに社会情勢が大きく変化する中で、現行の学科縦割り教育カリキュラム体制を維持することにリスクを伴うと判断され、平成 24 年度に創立 50 周年を控える我校としてカリキュラム体制を再考する必要があった。

（出典　平成 22 年度運営諮問会議報告書）

（分析結果とその根拠理由）

各種の評価は速やかに学内外に公表されており，具体的なカリキュラムの変更が実施されている。

以上のことから，各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムは整備されており，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートの結果は，各教員が分析し，授業改善策の検討を行っている。準学士課程においては，シラバスに前年度の授業アンケートへの対応を明記することが義務付けられている（資料９－１－④－１）。また，専攻科においては，授業完了報告書に「授業に対する学生からの要望」と「次回の授業計画に生かせる事項」を記入し，受講学生（代表者）に承認を得るシステムが構築されている（資料９－１－④－２）。また，特に効果的な取り組みについては「新し

い教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」として報告され，学内のウェブサイトで全教職員が閲覧することができる（資料９－１－④－３）。さらに，各教員は，教育の改善のために必要な経費を校長リーダーシップ経費に申請することができ，校長によるヒアリングの後，毎年多くの改善提案に対して経費が配分されている（資料９－１－④－４）。このように，授業内容等は継続的に改善が行われている。なお，各教員は個人調書（前出資料９－１－②－３）を年度当初に学校に提出するが，平成23年度より調書には前年度に実施した授業改善の効果を記すよう改善を図った。

資料９－１－④－１

シラバス（抜粋）

Syllabus Id	Syl-110371
Subject Id	Sub-110103650
更新履歴	20110322
授業科目名	伝熱工学　Heat Transfer
担当教員名	新冨雅仁　SHINTOMI Masahito
対象クラス	機械工学科5年生
単位数	1学修単位(自学自習を含め、45時間の学修をもって1単位とする)
必修／選択	選択
開講時期	前期
授業区分	
授業形態	講義
実施場所	機械工学科棟3F M5HR
授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味) 伝熱工学は、熱移動の形態と移動速度を考えるもので、4年生で学んだ熱力学とともに、熱工学上の重要な分野である。伝熱工学の歴史は比較的古く、19世紀初頭にフーリエにより熱伝導の研究が開始された。現在、家庭や学校のエアコンの性能を大きく左右する熱交換器、自動車やオートバイのラジエータ、コンピュータ内部のCPU冷却などに加え、温暖化に代表される環境問題など、伝熱工学がかかわる事象は多岐にわたっており、重要な役割を担っている。本講義では、熱伝導、対流熱伝達、放射伝熱の熱移動の三形態について基本的な事項を学ぶ。	

教科書等	伝熱学の基礎、吉田駿著、理工学社
先修科目	熱力学
関連サイトのURL	日本伝熱学会 http://www.htsj.or.jp/index-j.html
授業アンケートへの対応	AV教材の利用を増やし、視覚的に理解しやすくするよう努める。
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE 、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料９－１－④－２

専攻科授業完了報告書（抜粋）

授業実施状況	1. 授業の工学的、社会的意義をどのように説明したか。 現在，環境問題が地球規模の関心事項になっている．中でも二酸化炭素排出に起因すると考えられている地球温暖化問題は深刻である．二酸化炭素の排出はそのほとんどが燃料を燃焼させることによるものであるため，各種燃料の性質や燃焼形態を学ぶことは環境保全において重要であることを説明した．また，学生自ら省エネ・低公害化技術について調査発表を行うことで，意識を高めることを目的とすることも説明した． 2. OHP(or プレゼン・ソフト)、AV等、補助教材をどのように活用したか。 火炎の構造に関する基礎的な部分はDVD教材を用いて説明したが，それ以外の部分は板書を主として授業を行った．なお，学生自身による調査発表ではプレゼンテーションソフトを用いて発表を行ってもらったが，まとまりのある良い発表であった． 3. 宿題の質と量は適切であったか。 合計5回の課題提出があった．少し難しい問題が含まれていたため，再提出を求めることが多かったが，内容を理解する上では質・量ともに適切であったと考える． 4. 学生からの質問の質と量はどのように判断するか。 オフィスアワーを利用しての質問はなかったが，調査発表における調査対象の選択にあたっての質問があり，課題に対して真剣に取り組む姿勢がうかがえた． 5. 全体的に見た場合、学生の成績はどうであったか。 概ね優秀であるが，筆答試験ではやや点数が低い傾向があった．調査発表では，現状や問題点も含め的確に捉えた発表が多く，評価できる．また，発表会における学生同士の質疑応答も多く，その質もきわめて高かった． 6. 次回の授業計画に活かせる事項は何か。 燃焼というこれまであまり触れたことのない事項についての授業であり，学生にとって理解が困難な部分が多少あった．実演や簡単な実験を通して理解させることも検討課題である．
授業に対する学生からの要望	教科書を決めてほしいとの要望があった．
備考	

上記報告を承認します

学生署名　　印

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料９－１－④－３

新しい教育方法の試み閲覧のウェブサイト



（出典　本校学内限定ウェブサイト）

資料９－１－④－４

平成 22 年度校長リーダーシップ経費採択課題一覧

機械工学科	小林　隆志	パンタグラフ式ジャッキを題材とした設計教育の高度化の取組み
機械工学科	三谷祐一朗	専攻科実験実施機材の補充と機械工学実験Ⅱ(M5)の実施内容改善
機械工学科	新冨　雅仁	レゴを用いた機械工学科関連授業の改善
機械工学科	永禮　哲生	設計教育の高度化および実践的技術者養成の為の授業改善
電気電子工学科	望月　孔二	PBL教育高度化のための評価環境の整備
電子制御工学科	牛丸　真司	組込みソフトウェア開発教育の高度化
電子制御工学科	大庭　勝久	エンジニアリングデザイン教育の高度化・複合化のための非線形振子実験装置の開発
物質工学科	押川　達夫	有機化合物の立体化学と光学活性物質の理解を深めるために
物質工学科	大川　政志	固体材料化学教育への 3 次元モデルの導入
総合情報センター	中道　義之	総合情報センター第 1 演習室における情報提示環境の改善

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

個々の教員の授業改善の取り組みは，シラバス・授業完了報告書などに記されており，継続的に行われている。また，個々の教員の改善活動状況は，教員個人調書にも記載されており，学校として把握されている。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員は活発な研究活動を行っており，著作物の刊行，各学協会における論文発表や口頭発表などで，その成果を社会に還元している（資料９－１－⑤－１）。これらの研究活動の一部は，卒業研究（準学士課程）及び専攻科研究として実施されているものであり，学生の教育に活かされている（資料９－１－⑤－２）。また，多くの学生が学協会における研究発表を行っており（資料９－１－⑤－３），コミュニケーション能力の向上にもつながっている。

資料９-１-⑤-１

研究活動の記録（抜粋）

本校教員の研究活動の記録(抄)

○校　長

柳　下　福　蔵

A　校長インタビュー「異分野有融合の共同研究で教育と社会貢献に取り組む」、文部科学教育通信、No.228、2009.9.28、pp.10-15.

A　第2回研究室訪問　地域共同テクノセンターの今一活発な地域との連携一、文教施設36、2009秋号、pp.25-30.

A　地域密着型テクノセンターの中小企業ものづくり支援、文部科学時報、No.1613、2010.6、pp.46-47.

C　航空機用CFRP積層体の穴あけ加工技術の開発、第4回CFRP加工技術研究会、平成21年11月27日、大田区産業プラザ

D　東海工業教育協会理事を委嘱される(平成23年総会開催日まで)

D　静岡県東部生産性協議会理事を委嘱される(平成20年5月より継続)

D　高等専門学校情報処理教育研究委員会の委員長を務める(平成22年4月1日から平成24年3月31日まで)

D　全国高等専門学校体育協会の理事を委嘱される(平成21年4月1日から平成23年3月31日まで)

D　(独)国立高等専門学校機構の広報委員を委嘱される(平

小　林　隆　志

A　コンパクトフランジに関するJIS開発に関する調査研究成果報告書(日本バルブ工業会),(澤(広島大学)，辻(東京電機大学)，永田(東洋エンジニアリング)，馬渕(千代田化工建設)と共著)，経済産業省委託　平成21年度社会環境整備・産業競争力強化型規格開発事業(個別産業技術分野に関する標準化)，2010年2月.

A　日本高圧力技術協会規格　高温における管フランジ用ガスケットの密封特性試験方法HPIS Z105 2010(日本高圧力技術協会研究委員会委員20名と共著)，2010年3月.

B　低呼び圧力フランジ締結体へのうず巻形ガスケットの適用可能性について,(中田(住友化学)，江西(日本バルカー工業)，菊池(出光興産)，澤(広島大学)と共著)，圧力技術，第48巻第4号，2010年7月，pp.205-212.

B　ジョイントシートガスケット特性の経時変化,(糸井,長瀬(ニチアス),澤(広島大)と共著),圧力技術,第48巻第4号,2010年7月,pp.200-204.

B　Sealing Performance Test of Slip-On Type Pipe Flange Connections Subjected to Internal Pressure and Bending Moment,(永田(東洋エンジニアリング),辻(東京電機大学)，澤(広島大学)と共著)，ASME PVP 2010 Conference, PVP2010-25239, 2010年7月，アメリカ(Bellevue)，CD-ROM.

（出典　本校研究報告第44号）

資料９－１－⑤－２

専攻科研究発表会プログラム（抜粋）

プログラム

【専攻科研究発表会】

2011 年 1 月 15 日（土）

9:00～　　開会の挨拶　　専攻科長　芳野 恭士

9:05～10:41　　研究発表　セッション I
－化学・生物工学－　　座長：藁科 知之

演題番号

I -1　*Cronobacter sakazakii* NCTC11467 の水素生産能に与えるガス組成と pH の影響
鈴木 一玄，竹口 昌之

I -2　サラシアのマウス I 型アレルギー抑制作用に関する研究
岸 由紀乃，芳野 恭士

I -3　フィトステロールおよびミソのマウス血中脂質上昇抑制作用に関する研究
後藤 はるな，芳野 恭士

I -4　触媒アンモニア合成を用いる沸騰水型原子炉溶融事故時の水素除去
広田 望，稲津 晃司

（出典　平成 22 年度本校専攻科研究発表会論文集）

資料９－１－⑤－３

学生の研究発表（抜粋）

学生の研究活動（2010. 5. 1～2011. 4. 30）

機械工学科　論文発表（機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む）

（学生が第二著者等であってもすべて記載。）

学　科	著者名（共著含）（筆頭著者に○）	論文誌名、巻号　（年）　頁	論　文　題　名	指導教員
M５	○Takashi KOBAYASHI Kiichi MASUI Kengou NISHIURA Hideshi SHIBATA	ASME PVP 2010 Conference, PVP2010-25614, CD-ROM	Method to Estimate the Bolt Loads to Satisfy Tightness Criteria for Gasketed Bolted Flanged Connections	小林隆志

機械工学科　講演発表（機械工学科及び機械・電気システム工学専攻の機械コース含む）

（登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が４頁程度であっても講演発表に含める。）

学　科	学生氏名	学　会　名	講演発表題名（共同研究者名）	会　場	発 表 日	指導教員
ME１	佐野裕樹	富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010	工学教材としての簡便性を考慮した小型磁気浮上装置の開発	キラメッセぬまづ	2010. 12. 15	三谷祐一朗
ME１	佐野裕樹	日本機械学会東海学生会第42回学生員卒業研究発表講演会	制御工学教材として複数台製作することを想定した小型磁気浮上装置の製作	豊橋技術科学大学	2011. 3. 13	三谷祐一朗

（出典　本校高専だより 98 号）

また，教員の研究には教育方法に関するものも多く，これらは「沼津高専研究報告」や国立高等専門学校機構が発行する論文集「高専教育」に発表されている。たとえば，「高専教育」第33号には，電子制御工学科及び教養科の教員による「技術者教育の評価・改善のためのスパイラルアップシステムの構築」と題した論文が発表されており，教育の質の改善が実施されていることを示している（資料９－１－⑤－４）。

資料９－１－⑤－４

教育論文の一例

技術者教育の評価・改善のためのスパイラルアップシステムの構築

大庭　勝久[*1]，川上　誠[*1]，舟田　敏雄[*1]，遠藤　良樹[*2]

A Practice of Spiral-up System for Evaluation and Improvement of Engineering Education

Katsuhisa OHBA, Makoto KAWAKAMI, Toshio FUNADA and Yoshiki ENDO

The problems of Mathematics IC and IIC, which are released after the entrance examination at the advanced engineering course, Numazu National College of Technology, are used as the practice of engineering education for the lower grade students. Achievement Test of Mathematics and Physics provided by the Institute of National Colleges of Technology, Japan was made for the third grade students at all national colleges of technology. Engineering Mathematics Test (EMaT) has also been made for higher grade students since 2006. The mathematics is widely recognized as the basic skills of the engineering education, and it is important to keep the improvement of the spiral-up system along the Plan-Do-Check-Action. Then, these tests are taken here into account to evaluate students' level and provide further effective information to activate well.

KEYWORDS : engineering education, spiral-up education system, Engineering Mathematics Test

1. はじめに

早期体験型の教育システムによる技術者の養成を担う高専５年制の教育課程は，工学の体験的学習を基盤とする工学専門教育の早期導入を特長とし，実践的・創造的技術者の養成を目指している．現在は，本科４年から専攻科２年までの４年間の技術者教育課程が高専教育における中核と位置付けられている．それに伴い，専門科目に相応の数学的素養が必要となるが，近年の傾向として，数学全般に関する学力の低下が進行しており，その結果，専門教育にも影響が現れている．国立高等専門学校機構の 2009 年度の年度計画の教育に関する事項にも記述されているように，各学校における学力水準の維持，さらには質的向上を目指した高度化のため，それぞれの継続的な教育システムの改善の努力が必要とされている．そのための取り組みの一つとして，基幹的な科目である「数学」と「物理」に関し，学生の学習到達度を測定するために，全国国立高専において「学習到達度試験」を実施して学生の学力を把握し，試験結果を踏まえ教育の改善を図るように示されている．そのような状況の中で，学生の学習到達度を客観的に把握し，自己分析した結果をその後の学習指導に活用することは必須である．

*1 沼津工業高等専門学校電子制御工学科(Dept. of Digital Engineering, Numazu National College of Technology)
〒410-8501　静岡県沼津市大岡 3600　E-mail: ooba@numazu-ct.ac.jp
*2 沼津工業高等専門学校教養科(Division of Liberal Arts, Numazu National College of Technology)

（出典　論文集「高専教育」第 33 号）

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究活動は，卒業研究や専攻科研究を通して学生の教育に活かされている。また，教育方法の研究も盛んで，教育の質の改善が具体的に行われている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

教育の質の向上を目指したファカルティ・ディベロップメント（以下「ＦＤ」という。）は，平成16年度より２ヶ月に一度開催される教員会議内における，教育に関する研究成果発表という形で開始されたが，平成22年度からは校長補佐（国際交流・教員ＦＤ担当）が中心となり企画・立案し，教員会議とは別に年間４回実施することとした（資料９－２－①－１）。資料９－２－①－２は，平成22年度のＦＤ実施状況で，多くの教職員が参加している。また，同じく平成22年度からは，教員による相互の授業参観を実施しており，多くの教員が，優れた授業を参観することで自らの授業の改善に役立てる取り組みも始まっている（資料９－２－①－３）。また，「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」として報告された実践事例は，学内限定ウェブサイトで全教職員が閲覧することができる（資料９－２－①－４）。

資料９－２－①－１

教員 FD 研修会実施要綱

平成２２年度第１回教員ＦＤ研修会

１．テーマ　　一般科目の教育方法を考える（低学年生の教育方法を考える）

２．日　時　　平成２２年５月２６日（水）１５：００～１７：００

３．会　場　　管理棟３階大会議室

４．参加者　　沼津高専教職員

５．プログラム

（総合司会）	教員ＦＤ担当校長補佐	大久保清美
15：00	開　会	
15：00～15：05	校長あいさつ	柳下　福蔵
15：05～15：45	基調講演 『低学年生の教育方法に関して －よりよい授業を求めて－』 講師：元静岡県立教育研修所教科研修部授業研究室長 本校非常勤講師	水口　好美
15：45～15：55	『３年生到達度試験結果報告（数学）』 Ｈ２１年度数学科主任	遠藤　良樹
15：55～16：05	『３年生到達度試験結果報告（物理）』 物理科主任	勝山　智男
16：05～16：15	『理系科目（物理･化学）意見交換会報告』 化学科主任	小林　美学
16：15～16：55	パネルディスカッション 『一般科目の教育方法を考える （低学年生の教育方法を考える）』 司会（コーディネータ）副校長（教務主事） パネリスト ：元静岡県立教育研修所授業研究室長 ：教養科長 ：平成２１年度数学科主任 ：物理科主任 ：化学科主任 （質疑応答 10 分）	大島　　茂 水口　好美 西垣　誠一 遠藤　良樹 勝山　智男 小林　美学
16：55～17：00	閉会あいさつ（校長）	柳下　福蔵
17：00	閉　会	

（出典　平成 22 年度第 1 回教員 FD 配布資料）

資料９－２－①－２

平成 22 年度教員 FD 参加状況

	実施日時	テーマ	参加者数			
			教員	事務職員	技術職員	合計
第１回	平成 22 年 5 月 26 日 15：00～17：00	一般科目の教育方法を考える	62	3	6	71
第２回	平成 22 年 7 月 7 日 15：00～17：00	クラス経営・生活指導 （担任の指導力向上策を考える）	53	5	2	60
第３回	平成 22 年 10 月 20 日 15：30～17：00	キャリア教育	60	5	2	67
第４回	平成 23 年 3 月 11 日 15：00～17：00	メンタルヘルス	40	4	2	46

（出典　学生課作成資料）

資料９－２－①－３

教員相互の授業参観報告書の一例

ＦＤのための教員相互の授業参観報告書

提出年月日：平成２２年 7 月 16 日
提出者　所属学科：物質工学科
氏　名：竹口昌之

授業参観 年月日（曜日）、時限	平成２２年 7 月 16 日（金）、1･2 時限 9:20 ～ 10:05 参観
授業科目名・（クラス）	伝熱工学 ・ M5
授業担当教員氏名	新冨雅仁 先生

授業の概要

放射伝熱(3) 放射熱交換
・使用教科書　伝熱学の基礎，吉田駿著，理工学社
・講義内容
1) 黒体の放射伝熱量
特定波長の放射能(プランクの法則)，放射能分布(ウィーンの変位則)
全放射能(ステファン・ボルツマンの法則)，ある面に到達するエネルギー(ランバートの法則)
2) 黒体面間の放射伝熱
$\dot{q} = A_1\sigma(T_1^4 - T_2^4)F_{12} = A_2\sigma(T_1^4 - T_2^4)F_{21}$，$A_1F_{12} = A_2F_{21}$
形態係数の物理的意義とその利用法について

参考となった良い点

・物質工学第3学年，第4学年の「基礎化学工学」，「化学工学Ⅰ」で伝熱工学を担当している。そのため、化学科で同講義内容を講義されている新冨先生の講義を参観させて頂いた。講義単元は物質工学科と同一であったが、機械工学科のほうが内容も深く解説し、演習等を含めて丁寧に行われていた。物質工学科4年生の数学力の問題があるが、物質工学科の学生に受講させたい講義であった。
・講義に流れ(「解説」→「まとめ」→「演習」)があり、理解しやすい講義であった。
・黒板の板書がよく整理されていた。また、教科書に沿って進行しているため、ノートと教科書で、講義後の復習がしやすいよう工夫されていた。
・常に実際の問題が念頭において講義されており、この講義の必要性を理解させる工夫がされていた。

以上

提出の際は、教務係（kyoumu@numazu-ct.ac.jp）へメール添付で送付してください。

（出典　学生課資料）

資料９－２－①－４

「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」報告の一例

「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」

（１）報告者氏名

小林　隆志

（２）該当科目の名称、実施学年、単位数、必修・選択の別

機械設計製図Ⅳ、Ｍ４、３単位、必修

（３）新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの概要

・パンタグラフ式ジャッキの設計・製作を元ホンダの技術者の高松先生に指導していただいた。（後期１５週）

８グループに分かれて，５～６名の小グループでジャッキの強度設計を行った。設計したジャッキを，実習工場で製作し，完成したジャッキの強度試験を実施した。最後に，問題点をまとめ，発表した。

（４）得られた教育的効果

・チームで協力して作業する体験ができた。

・実際に自分の設計したものを製作することにより，設計とともに製作上の問題点を認識することができた。

・強度試験を行うことにより，設計上の問題点を身をもって体験することができた。

・設計・製作上の問題点を整理して，まとめることができた。

（５）他の教科への応用可能性

機械系科目では，実際に機能する製品を設計・製作する体験をすることが大切であるが，製作の時間的制約があるので，多くの科目で実施することは困難である。

（６）今後の改善予定

・ジャッキ製作前の図面の最終確認が十分でなかったので，全体の時間配分を検討したい。

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

平成16年度より実施されてきたＦＤの取り組みは，平成22年度に大きく改善された。「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」の報告からは，効果が現れていることが分かり，ＦＤが適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると判断する。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

平成22年度から年間４回行っているＦＤ研修会は，全教職員を対象にした取り組みであり，技術職員や学生課の事務職員などの教育支援者も参加している（前出資料９－２－①－２）。

実験・実習などの科目において教員支援を行う技術職員は技術室に配属されており（資料９－２－②－１），技術室内部講習会の実施や学外で行われる研修会への職員派遣を積極的に行っている（資料９－２－②－２）。また，事務部に所属する職員についても，学外で行われる研修会へ積極的に参加している（資料９－２－②－３）。

資料９－２－②－１

技術室規約（抜粋）

（設置）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第４号）第１２条の規程に基づき，沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，技術室を置く。
（目的）
第２条　技術室は，本校の学科等の要請に基づき，技術・技能を要する専門業務を行うことにより，本校における教育研究等の業務を支援する。
（業務）
第３条 技術室は，次に掲げる業務を行う。
(1) 実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。
(2) 教育研究に必要な技術業務，技術開発及び教材作成に関すること。
(3) 情報システム基盤の維持・管理に関すること。
(4) 地域共同テクノセンター，総合情報センター，スペース・コラボレーション・システム，マルチメディア教室に関すること。
(5) 実験室，実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
(6) 地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。
(7) 技術の継承・保存に関すること。
(8) 技術職員の研修の企画，立案及び実施に関すること。
(9) 技術職員の養成に関すること。
(10) 学校行事への準備及び支援に関すること。
(11) 本校の業務の技術支援に関すること。
(12) その他技術室に関すること。
（組織）
第４条　技術室は，技術室長，技術長，技術専門員，技術専門職員及び技術職員（建物及び施設の営繕，保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）をもって組織する。
（技術室長）
第５条 技術室長は，本校の教授の中から校長が任命する。
２ 技術室長は校長の命を受け，技術室の業務を総括する。
３ 技術室長の任期は２年とし，再任を妨げない。
（技術長）
第６条 技術長は，技術専門員または技術専門職員の中から校長が任命する。
２　技術長は技術室長の命を受け，技術室の技術職員の業務を総括するとともに，必要に応じ，連絡調整，技術職員の技術的な指導，育成を行う。

（班・班長）
第７条 技術室に，専門的技術の内容と必要に応じて，班および班長を置く。
(1) 実習工場班（主に機械実習工場に関する業務を行う。）
(2) 機械系班（主に機械工学科及び制御情報工学科に関する業務を行う。）
(3) 電気・電子・情報系班（主に電気電子工学科，電子制御工学科及び総合情報センターに関する業務を行う。）
(4) 物理・化学系班（主に教養科及び物質工学科に関する業務を行う。）
２　班長は上司の命を受け，班の業務を統括し，円滑な業務遂行に努め，必要な連絡調整を行う。
（運営委員会）

（出典　本校規則集）

資料９－２－②－２

技術室職員の研修

活　動　報　告

平成２０年度

研修会・発表会	班・参加数	日程
職員基礎研修	E ,1	5/22-23
ザイトス・KOALA 使用管理に関する説明会	E ,1	6/5-6
東海北陸地区技術職員研修	E ,1	7/30-8/1
騒音・振動技術講習会	C ,1	8/4
IT 研修専門部会	E ,1	8/19
東海北陸地区技術長会議	技 ,3	8/25-26
西日本地区技術職員研修	K ,1	8/27-29
高専情報処理教育研究会	E ,3	8/28-29
騒音計測技術セミナー	C ,1	10/24
ナスカプロワイヤーコース	K ,1	2/12
京都大学総合技術研究会	技 ,3	3/9-10
ナスカプロ 2D コース	K ,1	3/11-12

公開講座	班・参加数	日程
ものづくり体験	K ,5	7/24-25
光通信に挑戦	C ,1	12/7
自転車をこいで発電しよう	技 ,5	8/8
青少年のための科学の祭典	C ,1	8/16
パンの科学	C ,1	8/25
原子力体験セミナー	C ,1	8/27
中学生のための化学実験講座	C ,1	10/11,11/15,12/13
年賀状講座	技 ,8	12/7

技術室内部講習	班・参加数	日程
Visual Basic 講座	技 ,11	9/25
年賀状作成講座のための内部講習	技 ,8	12/3

安全衛生	班・参加数	日程
プレス機械作業主任者能力向上教育	K ,1	12/4

平成２１年度

研修会・発表会	班・参加数	日程
初任者研修	M ,1	6/10-12
東海北陸地区技術職員研修	技 ,3	8/5-7
東海北陸地区技術長会議	C ,1	8/25-26
西日本地区技術職員研修	E ,1	8/26-28
高専情報処理教育研究会	E ,2	8/27-28
東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修	E ,1	9/2-4
制御システム開発研究部門設立記念シンポジウム	E ,1	9/29
メカトロテックジャパン 2009	K ,2	10/16
人材育成セミナー	E ,1	1/28
三重大学技術報告会	M ,1	2/12
琉球大学総合技術研究会	技 ,2	3/3-5

公開講座	班・参加数	日程
野菜や果物で電気をおこそう	技 ,6	8/3
パンの科学	C ,1	8/25
ものづくり体験	K ,5	8/27-28
中学生のための化学実験講座	C ,1	10/10,11/14
年賀状講座	技 ,7	12/6

技術室内部講習	班・参加数	日程
Solid Works 講座	技 ,12	7/29

安全衛生	班・参加数	日程
プレス機械作業主任者技能講習	K ,1	6/15
研削といし取替等特別教育	技 ,2	8/6-7
有機溶剤作業主任者技能講習	C ,1	8/20
動力プレスの金型等取扱特別教育	K ,2	8/26
粉じん作業特別教育	K ,1	9/14

M: 機械系　E: 電気・電子・情報系
C: 物理・化学系　K: 実習工場　技：技術室

（出典　技術室報告第３号）

資料９－２－②－３

職員の研修一覧（抜粋）

No.	研修名称	主催者	実施日時	参加者数
1	平成 22 年度新任教職員オリエンテーション	沼津高専	H22.4.1 ～ H22.4.2	6
2	平成 22 年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	名古屋大学	H22.5.20 ～ H22.5.21	3
3	東海･北陸･近畿地区学生指導研修会	名古屋大学	H22.5.27 ～ H22.5.27	1
4	平成22年度独立行政法人国立高等専門学校機構 初任職員研修会	高専機構本部	H22.6.9 ～ H22.6.11	1
5	平成 22 年度 技術移転に係わる目利き人材育成プログラム 事務部門コース A 課程	(独)科学技術振興機構	H22.7.6 ～ H22.7.6	1
6	平成 22 年度東海･北陸地区国立高等専門学校技術職員研修	岐阜高専	H22.8.4 ～ H22.8.6	1
7	平成 22 年度東海地区国立大学法人等係長研修	名古屋大学	H22.8.25 ～ H22.8.26	1
8	平成 22 年度東海地区国立大学法人等中堅職員研修	豊橋技術科学大学	H22.8.26 ～ H22.8.27	1
9	平成 22 年度東海･北陸地区国立高等専門学校係長級事務研修会	富山高専	H22.9.8 ～ H22.9.10	3
10	平成 22 年度簿記研修(初級)	高専機構本部	H22.10.4 ～ H22.10.7	1
11	平成22年度独立行政法人国立高等専門学校機構 新任課長補佐･係長研修会	高専機構本部	H22.10.12 ～ H22.10.14	1
12	平成 22 年度独法簿記研修	高専機構本部	H22.10.20 ～ H22.10.22	2
13	平成 22 年度東海地区国立大学法人等目的別研修研修	岐阜大学	H22.10.27 ～ H22.10.28	1
14	平成 22 年度東海･北陸･近畿地区学生指導研究会第 33 回東海地区部課長研究会	東海･北陸･近畿地区学生指導研究会	H22.10.29 ～ H22.10.29	1
15	平成 22 年度 国立高等専門学校機構知的財産に関する講習会	高専機構本部	H22.11.10 ～ H22.11.10	1
16	平成 22 年度 東海･北陸地区学生指導研修会	東海･北陸･近畿地区学生指導研究会	H22.11.16 ～ H22.11.17	1
17	平成22年度独立行政法人国立高等専門学校機構 中堅職員研修会	高専機構本部	H22.11.18 ～ H22.11.19	1
18	平成 22 年度学務関係職員研修会	高専機構本部	H22.12.9 ～ H22.12.10	1
19	知的財産に関する講習会①	沼津高専	H23.2.2 ～ H23.2.2	13
20	知的財産に関する講習会②	沼津高専	H23.2.16 ～ H23.2.16	5

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

学内ＦＤに参加する教育支援者は多数おり，また，技術職員については内外で実施される研修会へ積極的に参加している。このことから，教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断できる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教員相互の授業参観を制度化することにより，各教員はより効果的な授業改善を図ることが可能になった。また，年４回実施している学内ＦＤ研修会は，専門家の講演なども含み，内容は多岐にわたっており，教育の質の向上に寄与している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準９の自己評価の概要

科目毎の教育内容の詳細（シラバス）はウェブサイトで公開されており，授業の実施状況は学生課において，準学士課程は学級日誌，専攻科は授業完了報告書として適切に保管している。

学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取は，教員個人調書，学生による授業評価アンケート，保護者を対象とした学科説明会ならびに運営諮問会議において行われ，教育活動の全般的な自己点検・評価が，校長を委員長とする総務委員会にて実施されている．この結果は，毎年作成する自己点検・評価報告書に記載され，ウェブサイトを通じて一般に公開される。さらに，自己点検・評価報告書は運営諮問会議にて検証を受け，教育内容の点検と改善に向けた意見を聴取している。

これらのチェック機構により課題となった事項は，業務改善ループに従って担当部署が改善策の検討を行っている。このうち教育課程に関するものは，準学士課程においては各学科を主体に，専攻科においては企画運営委員会を中心に検討が行われ，教務委員会や専攻科企画運営委員会の審議を経て，見直しが行われている。さらに，学際教育導入ＷＧが新教育課程の実施に向けた取り組みを行っている。

個々の教員は，学生による授業評価アンケート結果などを基に授業改善に取り組んでおり，個人調書により学校に報告することになっている。また，特に効果が上がった取り組みについては，「新しい教育方法の試み、効果的な取り組みの事例」として報告され，学内限定ウェブサイトで全教職員が閲覧することができる。

教員は活発な研究活動を行っているが，この一部は卒業研究（準学士課程）及び専攻科研究として実施されており，学協会における学生の研究発表などによりコミュニケーション能力の向上に役立っている。また，教員の研究には教育方法に関するものも多く，これらは国立高等専門学校機構が発行する論文集「高専教育」などに発表され，教育の質の改善につながっている。

ファカルティ・ディベロップメントは，平成22年度より年４回実施する形式に改められ，専門家の講演聴講やパネルディスカッションの実施などにより学校全体の教育の質の向上を目指している。このファカルティ・ディベロップメントは，全教職員を対象に実施され，教員だけでなく学生に接することの多い技術職員や学生課事務職員も参加している。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校における教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を，平成16年度の法人化に伴って国から継承して有している。平成23年３月末現在におけるその資産現在額は，固定資産の取得状況一覧（資料10－１－①－１）のとおりである。

資料 10－１－①－１

固定資産の取得状況一覧

区　分			平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末
不動産	土地	㎡	89,599	89,599	89,599	89,599	89,599
		百万円	3,984	3,984	3,984	3,984	3,984
	建物	延㎡	35,508	35,508	35,538	35,538	35,538
		百万円	2,086	1,953	1,871	1,778	1,684
	構築物	百万円	189	165	134	115	122
	小計	百万円	6,259	6,102	5,989	5,877	5,790
動産	車両運搬具	百万円	2	1	1	2	2
	工具器具備品	百万円	163	169	141	230	258
	小計	百万円	165	170	142	232	260
その他有形固定資産		百万円	9	9	9	9	9
無形固定資産		百万円	2	1	1	1	1
合計		百万円	6,435	6,282	6,141	6,119	6,060

（出典　総務課作成資料）

また，貸借対照表（資料10－１－①―２）が示すように，機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており，平成23年３月末現在の未払金は，主に人件費・退職手当であり，実際に未払いとなっている債務はない。

資料 10－１－①－２

貸借対照表

貸借対照表

（平成２２年４月１日～平成２３年３月３１日）　　単位：円

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
資産の部	6,086,686,964	負債の部	649,441,993
流動資産	26,353,353	流動負債	272,487,380
現金及び預金	11,811,957	運営費交付金債務	0
未収学生納付金収入	84,600	授業料債務	0
棚卸資産	9,214,465	預り施設費	0
未収入金	5,223,750	預り補助金等	0
前払費用	18,581	預り寄附金	39,772,985
固定資産	6,060,333,611	前受受託研究費等	13,166,700
有形固定資産	6,058,913,134	前受受託事業費等	0
建物	2,630,325,208	短期借入金	0
建物減価償却累計額	−946,665,864	未払金	201,313,590
構築物	336,137,466	未払費用	9,163,380
構築物減価償却累計額	−214,097,753	前受金	0
車両運搬具	6,720,757	預り金	8,494,148
車両運搬具減価償却累計額	−4,872,088	引当金	576,577
工具器具備品	552,801,502	その他の流動負債	0
工具器具備品減価償却累計額	−295,019,094	固定負債	376,954,613
土地	3,984,400,000	資産見返負債	375,773,753
建設仮勘定	0	資産見返運営費交付金等	247,738,286
その他の有形固定資産	9,183,000	資産見返補助金等	95,073,852
無形固定資産	1,399,307	資産見返寄附金	11,704,809
電話加入権	87,000	資産見返物品受贈額	19,944,499
特許権仮勘定	1,312,307	特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,312,307
投資その他の資産	21,170	長期前受受託研究費等	1,050,000
長期前払費用	9,080	引当金	130,860
その他の投資その他の資産	12,090	純資産の部	5,654,981,875
		資本金(政府出資金)	6,770,713,419
		資本剰余金	40,972,501
		損益外減価償却累計額	−1,163,402,330
		損益外減損損失累計額	−203,000
本支店勘定	217,736,904	損益外固定資産除売却差額	−494,035
「本支店」機構本部	217,736,904	当期未処分利益	7,395,320
合　　計	6,304,423,868		6,304,423,868

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

固定資産の取得状況一覧に示すように，教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有している。また，貸借対照表が示すように，機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており，実質的に未払いとなっている債務はない。

以上のことから，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有し，債務も適正である。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

主な経常的収入である運営費交付金は，国から高専機構を通じて効率化係数対前年度１％減ではあるが今後も継続的に交付されるため，安定的に確保されている。また，その他の経常的収入である授業料・入学検定料・入学料のほか，財産貸付料等の自己収入についても，継続的に確保されている（資料10－１－②－１）。なお，事業遂行に必要な経費から収入額を差し引いたものが，高専機構から「運営費交付金」として措置され，配分されている。

資料 10－１－②－１

収入の確保等の状況

単位：千円

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
運営費交付金	1,356,217	1,420,639	1,268,540	1,134,764	1,160,550
施設整備費補助金	33,327	26,719	0	16,317	0
授業料	245,108	247,676	251,001	247,636	251,560
入学料及び検定料	28,111	28,648	28,248	28,356	26,653
その他自己収入	13,864	14,507	14,689	13,176	12,853
産学連携等研究収入	18,681	29,556	54,316	55,914	31,082
寄附金収入	5,519	12,669	14,231	8,350	31,455
その他補助金	0	0	0	116,851	54,789
収入計	1,700,827	1,780,414	1,631,033	1,621,364	1,568,942

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の主な経常的収入である運営費交付金については，国から高専機構を通じて継続的に交付されており，安定的に確保されている。さらに，学生からの諸納付金（授業料・入学検定料・入学料等）についても，継続的収入を確保している。

以上のことから，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入は，継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

科学研究費補助金については，校内歳出予算配分方針において，科研費申請者に教育研究実施経費の保留分から再配分を行い，さらに，校長リーダーシップ経費で申請の可能性のある研究等について追加配分をする等の支援を行うことにより，申請意欲の向上を図っている。その他，企業からの受託研究費，共同研究費，寄附金等の外部資金の受入れにも努力しており，補助金として平成21年度より５年間，文部科学省科学技術振興調整費「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」が採択された。また，平成22年度より寄附金で新たに「寄附研究部門」を近隣企業から受け入れているなど、学校をあげて推進している（資料10－１－③－１）。

資料 10－１－③－１

外部資金受け入れ状況

単位：千円

	平成 18 年度		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科学研究費補助金	9	11,570	9	11,230	18	22,035	20	17,150	14	16,914
補助金	0	0	1	70	2	150	3	43,515	4	49,466
共同研究	21	7,830	25	13,285	36	39,168	42	39,124	37	25,152
受託研究	3	10,551	6	14,081	6	10,934	5	13,130	3	2,396
寄附金	19	5,519	13	12,669	15	14,231	8	8,350	10	27,970
合計	52	35,470	54	51,335	77	86,518	78	121,269	68	121,898

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

科学研究費補助金について，予算の再配分や校長リーダーシップ経費からの支援により申請意欲の向上を図っている。また，学校をあげて共同研究等の外部資金の受入れにも努力している。その結果，金額・件数とも安定した収入確保の一助となっている。

以上のことから，外部の財務資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するための財政上の基礎としての中期目標・中期計画（資料10－２－①－１）は，独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画を踏まえて策定している。

資料 10－２－①－１

沼津工業高等専門学校中期計画（抜粋）

沼津工業高等専門学校中期計画

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む。）

１， 収支計画及び資金計画

外部資金（共同研究，受託研究，奨学寄附金，科学研究費等）の獲得に積極的に取り組み自己収入の増加を図る。

（出典　本校中期計画）

本校の予算配分は，中期目標・中期計画及び予算配分方針（資料10－２－①－２）に基づき作成され，総務委員会において審議された予算配分額（資料10－２－①－３）が総務委員会委員（各学科長等）より学科会議等を通じて教職員に明示され周知されている。

資料 10－２－①－２

平成 23 度予算配分方針（抜粋）

H23.4.13

平成２３年度校内歳出予算配分方針について（案）

1. 基本方針

(1) 教育研究実施経費（学科等配分経費）は、高専機構配分単価を基礎として、引き続き傾斜配分方式にて積算する。

なお、教育研究にかかる施設等基盤経費及び管理運営費の充当分を確保の上配分を行う。

また、科学研究費の申請者を対象として、教育研究実施経費の留保分から再配分を行うなど、競争的資金の獲得を推進していく。

(2) 機構本部からの当初予算額は、固定的経費（教員研究実施経費、入試・教務・厚生補導等学生関連経費、附属施設経費、施設等基盤経費、管理運営費）へ先に充当し、その残額及び追加配分額は、競争的経費（校長リーダーシップ及び学内マスタープラン）等に充てる。

2. 経費別配分方針

平成22年度	平成23年度
１．人件費（教職員給与、非常勤講師手当等） ●人件費に係る経費は事務部で一括経理する。	１．人件費（教職員給与、非常勤講師手当等） ●同左
２．教職員旅費 (1) 一般旅費 ●事務部において一括経理する。	２．教職員旅費 (1) 一般旅費 ●同左
(2) 教員研究旅費 ●教育研究実施経費に含めて配分する。 ●教員共通旅費は前年度1%減とする。	(2) 教員研究旅費 ●同左 ●同左
３．講師等旅費 ●事務部において一括経理する。	３．講師等旅費 ●同左
４．諸謝金 ●事務部において一括経理する。	４．諸謝金 ●（削除：各該当経費にて支出する。）
５．教育研究実施経費（教員研究相当分） (1) 教育研究基盤校費（教員数積算分） ①各学科へ高専機構配分単価の60%を現員に応じて配分する。	４．教育研究実施経費（教員研究相当分） (1) 教育研究基盤校費（教員数積算分） ①各学科の現員に応じて、高専機構配分単価の60%を基礎として傾斜配分を行い、その剰余分を学科長裁量経費に充当する。 ②科研費申請者の留保分を10%確保する。
②40%は、次の共通経費に優先配分し、残りを管理運営費に充当する。	③同左
●研究報告出版費　450千円	●同左
●学校案内パンフレット　2,000千円	●広報活動経費　3,000千円
●設備費補助(校長ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ経費の財源	●同左

（略）

（出典　総務委員会資料）

資料 10－２－①－３

平成22度決算及び平成23年度校内歳出予算配分一覧

（単位：千円）

No.	予算科目	22年度当初	22年度決算	23年度配分額	配分内訳（円）	予算内訳	備　　考
	【人件費】	1,041,242	1,075,158	42,149	42,149,000		
1	教職員人件費）常勤	916,537	902,527			常勤教職員人件費	機構積算額
						超過勤務手当	機構積算額
2	教職員人件費）退職金	82,532	116,691			退職金	機構積算額
3	教員人件費）非常勤	25,500	32,425	29,190	29,190,000	非常勤講師等手当	機構積算額
4	非常勤講師等旅費	3,673	2,140	3,359	3,359,000	講師等旅費	機構積算額△3%
5	職員人件費）非常勤	13,000	21,375	9,600	9,600,000	パート職員等給与	再雇用職員分減額（機構負担）
	【物件費】	292,377	335,435	285,450	285,449,678		
6	管理運営旅費	3,086	2,991	2,993	2,993,000	職員旅費	機構配分方針により対前年度△3%
7	赴任旅費	684	759	759	759,000	赴任旅費	前年度実績額
8	教員共通旅費	2,381	2,124	2,310	2,310,000	教員旅費	機構配分方針により対前年度△3%

（中略）

32	教育研究実施経費	45,487	56,921 (LS経費含)	45,424	290,000	校長研究費	配分方針
					6,331,939	機械工学科経費	配分方針＋前年度繰越
					5,695,338	電気電子工学科経費	配分方針＋前年度繰越
					6,370,702	電子制御工学科経費	配分方針＋前年度繰越
					6,323,304	制御情報工学科経費	配分方針＋前年度繰越
					6,367,366	物質工学科経費	配分方針＋前年度繰越
					14,045,779	教養科経費	配分方針＋前年度繰越
33	専攻科経費	5,603	185 △5,460 (教育研究経費へ)	5,705	5,000,000	専攻科教員分	配分方針
					105,000	JABEE認定維持料	配分方針
					600,000	その他物件費等	配分方針
34	教員FD研修会経費			78	78,000	教員FD研修会	見込額
35	技術室経費	1,350	1,351	1,350	1,350,000	技術室経費	配分方針
36	情報センター運営経費	8,012	8,068	8,015	2,471,000	総合情報センター経費	配分方針＋前年度繰越
					5,544,000	教育用電算機借料	
37	実習工場経費	1,150	1,825	1,150	1,150,000	実習工場	配分方針
38	地域共同テクノセンター	1,500	2,653	1,500	1,500,000	産学官連携経費	配分方針
39	施設等基盤経費	68,321	110,049 (営繕事業含22,385)	66,272	10,272,000	教）維持管理（工事・修繕等）	機構積算額＋配分方針、 対前年度△3%
					6,600,000	教）業務委託・保守（暖房設備等）	
					1,500,000	教）寄宿舎（修繕等）	
					250,000	支）維持管理（工事・修繕等）	
					19,750,000	一）維持管理（工事・修繕等）	
					18,000,000	一）委託・保守（排水処理等）	
					9,900,000	一）委託・保守（消掃・警備・産廃等＜用度＞）	
40	校長リーダーシップ経費	21,157	36,994	19,000	19,000,000	校長LS経費、臨時経費	機構積算額+配分方針
41	学内マスタープラン経費			9,312	9,312,000	学内マスタープラン経費	配分方針
42	科研費保留分			2,291	2,291,000	科研費申請による再配分	配分方針
43	内地研究員経費			833	832,670	内地研究員経費	機構積算額
44	在外研究員等旅費	3,000	3,000	0	0	在外研究員等旅費	機構積算額
	学内配分額	1,333,619	1,410,593	327,599	327,598,678		
	予備費	7,703		6,656	6,655,967		
	予算額計	1,341,322	1,410,593	334,255	334,254,645		H22決算額は追加配分により増

※予備費の使途
1）収入減があった場合の補填
2）緊急を要する経費等、予定外の支出に対する準備金
3）最終的に年度末予算残へ合算して執行

（出典　総務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校中期計画は，独立行政法人国立高等専門学校機構中期目標・中期計画を踏まえ，本校における中期目標・中期計画及び具体的な教育研究活動の方針を総務委員会において審議し，運営している。また，予算配分においても総務委員会委員（各学科長等）より学科会議等を通じて教職員に明示し周知している。

以上のことから，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されている。

観点10－２－②：　収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

支出については，財務会計システムで一元管理されており，損益計算書（資料10－２－②－１）で示すように支出超過はない。

資料 10－２－②－１

沼津工業高等専門学校損益計算書（抜粋）

損益計算書

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	234,389,424		
教育研究支援経費	32,648,729		
受託研究費	6,711,442		
共同研究費	27,021,360		
受託事業費	0		
教員人件費	735,428,594		
職員人件費	350,112,214	1,386,311,763	
一般管理費		132,415,953	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			1,518,727,716
経常収益			
運営費交付金収益		1,105,381,483	
授業料収益		235,389,450	
入学金収益		20,438,800	
検定料収益		6,213,800	
受託研究等収益		32,184,226	
受託事業等収益		0	
補助金等収益		22,540,273	
寄附金収益		22,133,579	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	31,704,128		
資産見返補助金等戻入	15,267,126		
資産見返寄附金戻入	5,215,581		
資産見返物品受贈額戻入	5,211,797	57,398,632	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	12,700,481		
間接経費収入	3,834,000		
助成金等収入	50,000		
その他の雑益	3,274	16,587,755	
経常収益合計			1,518,267,998
経常利益			-459,718
臨時損失			2,016,904
臨時利益			9,871,942
当期純利益(純損失)			7,395,320
当期総利益(総損失)			7,395,320

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

損益計算書で示すように，収支決算については財務会計システムで一元管理されており，支出超過はない。

以上のことから，収支は適正に管理されており，支出超過はない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

教育・研究に充てられる予算については，総務委員会で審議の上，予算配分方針に基づき予算配分計画を決定している。

特別経費のうち「校長リーダーシップ経費」については，教員，各学科等から申請要領に基づき申請された事業について，校長，副校長，事務部長によるヒアリングを行い，必要性を審査し，採否を含め配分額を決定している（資料10－２－③－１）。

さらに，本校のマスタープランを策定し，計画的に予算配分を行っていく（資料10－２－③－２）。また，大型の施設・設備の整備に必要な予算については，機構本部にマスタープランで予算要求等を行っている。

資料 10－２－③－１

校長リーダーシップ経費申請要項（抜粋）

平成２３年度校長リーダーシップ経費の配分基準について

平成 23 年　4 月 25 日
校　　長　　裁　　定

このことについては、下記の配分基準等により配分する。

記

１　配分基準

配分対象経費を次のとおり区分し、別紙「配分基準」によりそれぞれの配分額を決定する。

Ａ．教育高度化推進経費
Ｂ．研究活動活性化経費
Ｃ．学校運営活性化経費
Ｄ．その他校長が必要と認めた経費

２　配分申請

（１）配分を希望する者は、本校における将来の発展に資する事業で、既定経費では実施に支障のある事項を厳選し、経費配分申請書（別紙様式１）の教育・研究目的を具体的に記入し作成の上、各所属長に提出する。

なお、教育・研究設備の更新・新規要求については、別添学内マスタープランにて要求するものとする。

（２）各所属長は、教員又はグループから提出された申請書を順位付けし、学科等の順位一覧（別紙様式２）を作成の上、併せて校長に申請するものとする。

なお、複数学科にまたがる申請については、主たる教員の所属長から提出するものとする。

（３）申請期限：平成２３年 ５月２０日（金）

３　配分決定

（１）　採択及び配分額の決定については、校長が副校長と協議し、学科等の順位一覧を基に申請者とのヒアリングにより決定する。また、結果については総務委員会で報告する。

（２）配分確定後、予算の残が生じた場合は以下の事項への配分について、校長が決定する。

①予備費への充当
②次点以降の申請事項からの選択

（略）

（出典　総務課作成資料）

資料 10－２－③－２

設備整備マスタープラン導入希望調査

平成２３年　４月２５日

教　職　員　　各位

校　　長

平成２３年度　設備整備マスタープラン導入希望調査について（照会）

標記のことについて、学内の教育・研究設備の充実に向けて、長期的な視野に立ち計画的な整備を実施していきます。
ついては、老朽化設備の更新又は新規設備の導入を希望する場合には、下記要件等をご確認の上申請願います。
なお、先にご提出いただいた別添学内マスタープランについても、再度見直し順位付けの上提出願います。（機構へ申請済のマスタープランについては、対象外とします。）

記

【設備対象要件】
１．更新対象設備　　原則として、取得価格３００万円未満の教育研究設備で耐用年数を経過し、老朽化しているもの。
２．新規導入設備　　カリキュラムの編成など教育研究上新たに必要となる設備で、原則として、取得見込価格が３００万円未満のもの。

３．申請対象年度　　平成２３年度～平成２６年度

（略）

（出典　総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

予算配分については，総務委員会において予算編成方針及び予算配分案が示され，その内容は総務委員会委員（各学科長等）より学科会議等を通じて教職員に明示されており，教育研究を助長するシステムを構築している。また，特別経費等は，教員，各学科等から申請要領に基づき申請された全ての事業について，校長，副校長，事務部長によるヒアリングを行い，必要性を審査し，採否を含め配分額を決定している。さらに，学内マスタープランを作成し，長期的な視野に立つ計画的な整備を実施している。

以上のことから，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

学校を設置する独立行政法人国立高等専門学校機構の財務諸表は，官報及び機構ホームページにおいて公表している（資料10－３－①－１，２）。

また、本校では収入・支出決算額を，沼津工業高等専門学校「学校要覧」及び本校公式ウェブサイト等において適正に公表している（資料10－３－①－３）。

資料 10－３－①－１

独立行政法人通則法第３８条第４項

（財務諸表等）

三十八条　独立行政法人は，毎事業年度，貸借対照表，損益計算書，利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し，当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し，その承認を受けなければならない。

２（略）

３（略）

４ 独立行政法人は，第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは，遅滞なく，財務諸表を官報に公告し，かつ，財務諸表並びに第二項の事業報告書，決算報告書及び監事の意見を記載した書面を，各事務所に備えて置き，主務省令で定める期間，一般の閲覧に供しなければならない。

（出典　機構本部公式ウェブサイト）

資料10－３－①－２

財務諸表等（抜粋）

財 務 諸 表

第6期事業年度

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

独立行政法人 国立高等専門学校機構

目　　次

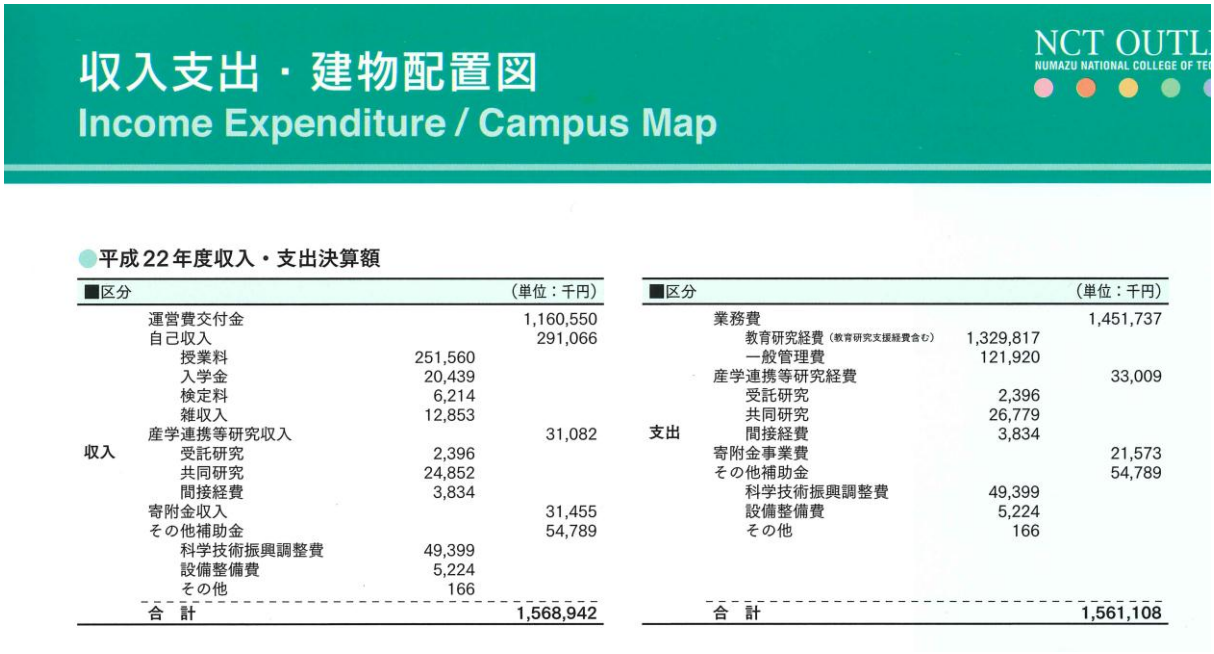
財務諸表
1 貸借対照表
2 損益計算書
3 キャッシュ・フロー計算書
4 利益の処分に関する書類（案）
5 行政サービス実施コスト計算書
6 注記事項
7 附属明細書
(1) 固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第86 特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失の明細
(2) たな卸資産の明細
(3) 有価証券の明細
(4) 長期貸付金の明細
(5) 長期借入金及び債券の明細
①長期借入金の明細
②債券の明細
(6) 引当金の明細
(7) 貸付金等に対する貸倒引当金の明細
(8) 退職給付引当金の明細
(9) 法令に基づく引当金等の明細
(10) 保証債務の明細
(11) 資本金及び資本剰余金の明細
(12) 積立金の明細
(13) 目的積立金の取崩しの明細
(14) 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細
①運営費交付金債務の増減の明細
②運営費交付金債務の当期振替額の明細
(15) 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細
①施設費の明細
②補助金等の明細
③長期預り補助金等の明細
(16) 役員及び教職員の給与の明細
(17) 開示すべきセグメント情報
(18) 前記以外の主な資産、負債、費用及び収益の明細
①業務費及び一般管理費の明細
②寄附金の明細
③受託研究の明細
④共同研究の明細
⑤受託事業等の明細
⑥科学研究費補助金の明細
⑦現金及び預金の明細
⑧未払金の明細

1

（出典　機構本部公式ウェブサイト）

資料10－３－①－３

財務諸表等（収入・支出決算額）



収入支出・建物配置図
Income Expenditure / Campus Map

NCT OUTL
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TE

●平成22年度収入・支出決算額

■区分		（単位：千円）
収入 運営費交付金		1,160,550
自己収入		291,066
授業料	251,560	
入学金	20,439	
検定料	6,214	
雑収入	12,853	
産学連携等研究収入		31,082
受託研究	2,396	
共同研究	24,852	
間接経費	3,834	
寄附金収入		31,455
その他補助金		54,789
科学技術振興調整費	49,399	
設備整備費	5,224	
その他	166	
合　計		1,568,942

■区分		（単位：千円）
支出 業務費		1,451,737
教育研究経費（教育研究支援経費含む）	1,329,817	
一般管理費	121,920	
産学連携等研究経費		33,009
受託研究	2,396	
共同研究	26,779	
間接経費	3,834	
寄附金事業費		21,573
その他補助金		54,789
科学技術振興調整費	49,399	
設備整備費	5,224	
その他	166	
合　計		1,561,108

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表等については，国立高等専門学校機構本部で官報に公告する等，独立行政法人通則法に基づき適正に公表している。また、本校においても適正に公表している。

以上のことから，適切な方法で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

毎年，高専相互内部監査（資料10－３－②－１）を実施し，監査報告書（資料10－３－②－２）の指摘により改善を図っている。

資料10－３－②－１

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（抜粋）

独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３４号
制定　平成１６年４月１日
一部改正　平成２０年１２月２４日

（略）

第７章　内部監査及び責任
（内部監査）
第４５条　理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。
２　内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

（略）

（出典　国立高等専門学校機構公式ウェブサイト）

資料10－３－②－２

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	沼津工業高等専門学校
監査実施日	平成２２年１１月１８日　～　１１月１９日
監査担当者	鳥羽商船高等専門学校　総務課長　○○　○○ 総務課課長補佐　○○　○○ 総務課調達係長　○○　○○
【監査結果の詳細】 被監査部署及び対応者名：総務課　○○総務課長、○○総務課課長補佐、○○財務係長　他 ①被監査部署の現状 ・総務課には、課長の他、課長補佐２名と専門員１名及び５係が配置されている。 ・会計を担当する職員は、予算決算、収入支出を担当する財務係４名(うち再雇用職員１名)、契約事務を担当する用度係４名(うち再雇用職員１名)、施設係２名の３係、計１２名（課長、課長補佐を含む）となっている。	
②監査結果により把握された重要な問題点と所見 ・別添「高専相互会計内部監査チエックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認等を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。	
③発見事項及び指摘事項 ④のとおり	
④指摘事項等（指示、考究） ・別添「高専相互会計内部監査チエックリスト」のとおり 指示（改善を求めたもの）・・・・４件	
⑤被監査部署の意見等 ・上記の指摘事項についは、速やかに対応を検討し、業務の改善を図りたいとのことであった。	
⑥関係資料等（徴収資料等） ・組織図、「会計機関の補助者等の指定について」、「会計機関の事務の一部委任について」、「公印規則」、「公的マイレージ取得・使用等一覧表」を参考のため聴取した。 その他特になし	

（出典　総務課作成資料）

また，平成21年度においては，監査法人監査（資料10－３－②－３）を受検し，平成22年度においては，高専機構監事監査及び内部監査（資料10－３－②－４）を受検し，適正な財務執行管理を図っている。

資料 10－３－②－３

国立高等専門学校監査法人監査報告書（抜粋）

沼津工業高等専門学校　監査講評 MEMO

2010.1.27（水）

（全般的事項）

１．予算執行と損益業績との整合性分析（利益分析）

独立行政法人は，年度末に決算報告書の作成を義務付けられており，この開示には，国の時代（法人化前）より踏襲される予算執行状況と発生主義会計による損益計算書情報の双方が含まれることがポイントとなります。

よって，当該両情報のギャップの分析を実施することが必要不可欠です。貴高専における第１期から第６期事業年度（中間）における利益分析推移表は別紙の通りとなります。

そのうち，第 6 期事業年度（中間）における収入支出決算上の収支差額（経営努力認定の対象額）と会計上の利益との差異は以下の通りです。

（以下　略）

（出典　総務課作成資料）

資料 10－３－②－４

監事監査及び内部監査講評（会計関係）

監事監査及び内部監査

2010.12.20～12.21

講評（会計関係）

１．工事について
高専相互内部監査において指摘された、契約書及び予定価格の作成基準については、規則に則って対応していくよう指示があった。

２．入札関係
①　入札公告等において、「郵便による入札は不可」との表示があるが、今後、郵便による入札も可とするよう、本部から通知する予定である。
②　競争参加資格について、Ａ～Ｄを認めているが、規則に則って対応するように指示があった。
例：規則に則り資格を限定したため、応札者がない場合において、再度（５日に短縮して）公告する。

３．予定価格の算出方法について
役務関係（派遣、警備、清掃等）の積算において、前年度実績を根拠に積算しない方が望ましいとの指示があった。（前年度と状況が変化しているため）

４．自動車購入について
自動車購入については、最低価格方式で競争しているが、今後「総合評価」で契約するよう指示があった。

（出典　総務課作成資料）

さらに，外部評価委員による運営諮問会議（資料 10－３－②－５）において，財務に関する意見を聴取し，改善を図っている。

資料 10－３－②－５

沼津工業高等専門学校　運営諮問会議委員
平成 21 年度年度計画評価シート意見対応表（抜粋）

2. 研究に関する事項	学校側の対応等について
（中村委員長） 地域を意識した産学連携を基本とした研究を行っていることを高く評価します。また、産学連携を通じて学生を教育しようとしている地域共同テクノセンター長はじめ、教員の方々の努力に敬意を表します。 （橋本委員） ①外部資金獲得に向けた取り組みで、沼津高専は平成 20 年度実績では共同・受託研究で全高専中 3 位、科研費補助金では 17 位となっています。決して少ない訳ではありませんが、まだ貪欲さが足りないと思います。私自身の話で申し訳ありませんが、弊社がスポンサーとなっている財団での最近の助成金応募では、高専からの件数が少しずつ増加しています。国だけではなく民間の財団にも積極的に応募することも奨励されては如何でしょうか。 （名倉委員） ③他校と比較して如何だったのでしょうか？ （青木委員） 実績欄に記載がないが，豊橋技術科学大学が提供する「高専連携教育研究プロジェクト」により，沼津高専と技科大の間で 19 年度 5 件，20 年度 4 件，21 年度 6 件の共同研究が走っている。今後も積極的に教育連携や共同研究のプロジェクトに応募していただきたい。	＜担当部署＞ ○地域共同テクノセンター長 これまで積極的に、科研費、豊橋技科大や長岡技科大との連携プロジェクト、NEDO 等の公募情報を学内の HP に公開してきました。また、この HP では国以外の財団の情報も公開していますが、何件かの応募申請はあるものの充分ではありません。また、興味のある先生方自らがそのページにアクセスするというスタイルでしたので、充分効果を上げることができていなかったのも事実です。 本年度からは、公募情報のHP公開と同時にメールにて全教員に更新情報の発信を行う予定です。また、外部講師等により講演会の開催も積極的に行い申請・採択件数の増大を図る予定です。さらに共同研究案件につきましても、全学内にメールで情報公開し、共同研究件数の増大を図る予定です。 他校との比較に関しましては詳細情報が公開されていないこともあり、難しいですが、公開されている情報である科研費件数と取得額、共同研究・受託件数等については引き続き情報を取得していく予定です。

- 56 -

（出典　平成 22 年度運営諮問会議報告書）

（分析結果とその根拠理由）

毎年，高専相互内部監査を実施し，機構本部より随時に監査法人監査，高専機構監事監査及び内部監査を受検することにより，適正な財務執行管理を図っている。

さらに，外部評価委員による運営諮問会議において，財務に関する意見を聴取し改善を図っている。

以上のことから，会計監査等が適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では，総務委員会において予算配分方針を決定し，その内容を教職員に明示した上，教育研究活動を助長するシステムを構築しているとともに，それに基づいた予算を適正に配分している。

校長リーダーシップ等の特別計画経費は，教員，各学科等から申請要領に基づき申請された全ての事業について，校長，副校長，事務部長によるヒアリングを行い，必要性を審査し，採否を含め配分額を決定している。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準10の自己評価の概要

本校では，教育研究活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有しており，債務はない。

本校の経常的収入は，運営費交付金については，国から高専機構を通じて継続的に交付されており，安定的に確保されている。さらに，科学研究費補助金，受託研究費等の外部資金の受入れにも努力している。

本校中期計画は，独立行政法人国立高等専門学校機構中期目標・中期計画を踏まえ，本校における中期目標・中期計画及び具体的な教育研究活動の方針を総務委員会において審議し運営している。

収支は適正に管理されており，支出超過はない。

予算配分については，総務委員会において予算編成方針及び予算配分案が示され，その内容は総務委員会委員（各学科長等）より学科会議等を通じて教職員に明示されており，教育研究を助長するシステムを構築している。また，特別経費等は，教員，各学科等から申請要領に基づき申請された事業について，校長，副校長，事務部長によるヒアリングを行い，必要性を審査し，採否を含め配分額を決定している。さらに，学内マスタープランを作成し，長期的な視野に立つ計画的な整備を実施している。

財務諸表等については，国立高等専門学校機構本部で官報に公告する等，独立行政法人通則法に基づき適正に公表している。また、本校においても適正に公表している。

毎年，高専相互内部監査を実施し，機構本部より随時に監査法人監査，高専機構監事監査及び内部監査を受検することにより，適正な財務執行管理を図っている。

さらに，外部評価委員による運営諮問会議において財務に関する意見を聴取し改善を図っている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

校長の役割については，学校教育法第120条第３項の規定に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第５条第２項で「校長は，校務をつかさどり，所属教職員を監督する。」と定められている(資料11－１－①－１)。

資料 11－１－①－１

独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（抜粋）

（学校）

第５条　各学校に，校長，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

２　校長は，校務をつかさどり，所属教職員を監督する。

３　第１項に掲げるほか，仙台高等専門学校，富山高等専門学校，香川高等専門学校及び熊本高等専門学校に，副校長２人を置く。

４　第１項及び前項に掲げるほか，各学校に，必要に応じ，副校長その他の校長を補佐する職又は校務を分担する主事等を置くことができる。

５　前２項の職は，教員をもって，これに充てる。

６　第１項，第３項及び第４項に掲げる主事等の任期は２年とし，欠員が生じた場合の主事等の任期は，前任者の残任期間とする。

７　前各項及び次条に規定するほか，学校の内部組織，職制及び事務の分掌については別に定める。

（出典　国立高等専門学校機構規則集）

副校長（教務主事），校長補佐（学生主事及び寮務主事）の役割については，学則（資料11－１－①－２）及び教員組織規則（資料11－１－①－３）で定めている。また，更に校長補佐（専攻科長），校長補佐（国際交流・ＦＤ担当）及び校長補佐（学際教育担当）を加え，校長を補佐する体制を構築している。

資料 11－１－①－２

沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第９条　本校に副校長(教務主事)・校長補佐(学生主事及び寮務主事)を置く。

２　副校長(教務主事)は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

３　校長補佐(学生主事)は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。

４　校長補佐(寮務主事)は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

（出典　本校規則集）

資料 11－１－①－３

沼津工業高等専門学校教員組織規則（抜粋）

（副校長）
第４条　機構組織規則第５条第３項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に副校長を置く。
２　副校長は、本校の教授の中から校長が任命する。
３　副校長は、校長を補佐し、本校の校務を掌理する。
４　副校長は、校長が不在のときはその職務を代行する。
５　副校長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、副校長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

（校長補佐）
第５条　機構組織規則第５条第３項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に校長補佐を置く。
２　校長補佐は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
３　校長補佐は、校長の職責遂行を助ける。
４　校長補佐の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、校長補佐に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

第５条の２　前条に定めるもののほか，本校に臨時の校長補佐を置くことができる。

（主事）
第６条　学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）第１７５条、機構組織規則第５条第１項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）を置く。
２　独立行政法人国立高等専門学校機構の主事等の任免に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６１号）の規定に基づき、教務主事については本校の教授の中から、学生主事及び寮務主事については本校の教授又は准教授の中から、それぞれ校長の推薦を受けて独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が任命する。
３　主事は、それぞれ学則第９条第２項から第４項までに掲げる職務を掌理する。
４　主事の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、当該主事に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

（出典　本校規則集）

本校の運営に関する組織として運営会議（資料11－１－①－４），総務委員会（資料11－１－①－５），教員会議（資料11－１－①－６）及び各種委員会等がある。運営会議は校長，副校長，校長補佐，事務部長，各課長を構成員とし，総務委員会に諮る事項の事前審議及び管理運営上の重要な事案について協議する場として毎月定期的に開催している。総務委員会は，校長，副校長，校長補佐，各学科長，各施設長等及び事務部長を構成員として組織され，校長が議長を務め，教育・研究・管理運営等の総括責任者として提案議題について審議し，学校の方針を決める最高意思決定機関として，毎月１回開催している。教員会議は，校長及び全教員が構成員となり，意思の統一及び情報の共有を図っている。また，各種委員会等については，各委員会規則（資料11－１－①－７）に基づき，専門的分野での見知から効果的な運営が行われている。

資料 11－１－①－４

沼津工業高等専門学校運営会議規則

（設置）
第１条　沼津工業高等専門学校に、沼津工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。
（任務）
第２条　運営会議は、全校的視野に立った機動的な学校運営を推進するために必要な連絡調整を図ることを任務とする。
（組織）
第３条　運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。
(1)　校長
(2)　副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
(3)　事務部長
(4)　総務課長及び学生課長

(5)　その他校長が必要と認める者
（議長）
第４条　運営会議に議長を置き、校長をもって充てる。
（会議の開催）
第５条　運営会議は、原則として毎月２回開催する。ただし、議長が必要と認めるときは、臨時に開催することがある。
（意見の聴取）
第６条　議長が必要と認めるときは、第３条に規定する者以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。
（事務）
第７条　運営会議の事務は、総務課において処理する。
（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか、運営会議の運営に関し必要な事項は、運営会議が別に定める。
附　則
この規則は、平成１６年５月１２日から施行する。
附　則
この規則は、平成１８年４月　１日から施行する。
附　則
この規則は、平成２１年４月１７日から施行し、平成２０年８月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成２２年４月１４日から施行し、同年４月１日から適用する。

（出典　本校規則集）

資料 11－１－①－５

沼津工業高等専門学校総務委員会規則
（目的）
第１条　沼津工業高等専門学校の管理運営の円滑を図るため,総務委員会(以下「委員会」という。)を置く。
（組織）
第２条　委員会は、校長が主宰し、次の委員をもって組織する。
(1)　副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）
(2)　学科長、教養科長及び専攻科長
(3)　本校教員で校長が任命した者
(4)　事務部長
（審議事項）
第３条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。
(1)　教育の方針に関すること。
(2)　学校の管理運営に関すること。
(3)　その他必要と認められること。
（会議）
第４条　委員会は毎月１回校長がこれを招集する。ただし、必要あるときは、臨時にこれを招集することができる。
２　校長に事故あるときは、副校長（教務主事）がその職務を代行する。
（委員以外の者の委員会への出席）
第５条　校長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見をきくことができる。
（幹事）
第６条　委員会に幹事をおき、会務を整理する。
２　幹事は、総務課長及び学生課長をもって充てる。
（委員会の事務）
第７条　委員会の事務は、総務課において処理する。
（雑則）
第８条　この規則の改廃の必要あるときは、委員会の審議を経て校長が定めるものとする。
附　則
この規則は、昭和 49 年２月 25 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 10 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 11 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年４月 14 日から施行し、同年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成 17 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 18 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は平成 21 年 4 月 17 日から施行し、平成 20 年 8 月 1 日から適用する。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料 11－１－①－６

沼津工業高等専門学校教員会議規則

（目的）
第１条　沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教務・厚生補導及びその他に関する校長の諮問事項を審議するため教員会議(以下「会議」という。)を置く。
（組織）
第２条　会議は、校長が主宰し、本校専任の教授・准教授・講師・助教・助手をもって組織する。
(教員以外の者の会議への出席)
第３条　校長が必要と認めるときは、その都度前条以外の者を会議に出席させ、その報告及び意見を求めることができる。
（会議）
第４条　会議は校長がこれを招集し、毎月１回開催することを原則とする。ただし、必要あるときは臨時にこれを招集することができる。
２　会議の司会及び進行は、校長の指名する教員がこれにあたる。
（常置委員会への審議事項の付託）
第５条　会議の審議事項について必要と認められたものは、常置の委員会にその審議を付託することができる。
２　常置委員会の委員長は、付託された審議事項の審議結果を会議に報告するものとする。
（会議の事務）
第６条　会議の事務は、総務課において処理する。
（雑則）
第７条　この規則の改廃の必要あるときは、会議の審議を経て校長が定めるものとする。
附　則
この規則は、昭和 50 年２月 12 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年４月 14 日から施行し、同年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成 18 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 19 年４月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料 11－１－①－７

沼津工業高等専門学校規則集一覧（抜粋）

沼津工業高等専門学校規則集

第1章　諸規則

第2節　組織･運営

〇沼津工業高等専門学校教員組織規則
〇沼津工業高等専門学校事務組織規程
〇沼津工業高等専門学校事務分掌細則
〇沼津工業高等専門学校技術室規程
〇沼津工業高等専門学校運営会議規則
〇沼津工業高等専門学校総務委員会規則
〇沼津工業高等専門学校教員会議規則
〇沼津工業高等専門学校教務委員会規則
〇沼津工業高等専門学校学生委員会規則
〇沼津工業高等専門学校寮務委員会規則
〇沼津工業高等専門学校寮務運営委員会規則
〇沼津工業高等専門学校就職委員会規程
〇沼津工業高等専門学校国際交流委員会規則
〇沼津工業高等専門学校自己点検･評価委員会規則
〇沼津工業高等専門学校専攻科担当教員規程
〇沼津工業高等専門学校専攻科担当教員会議規則
〇沼津工業高等専門学校専攻科担当教員間連絡ネットワーク組織規程
〇沼津工業高等専門学校学科長、教養科長及び専攻科長に関する内規
〇沼津工業高等専門学校教務副主事、学生副主事及び寮務副主事に関する内規
〇沼津工業高等専門学校学級担任に関する内規

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

校長，副校長，校長補佐，委員会等の役割は学則等で明確に定められている。重要な管理運営事項については，校長が主宰し，定期的に開催している運営会議や総務委員会において，校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取及び情報の共有が図られ，校長のリーダーシップの下で，学校の目的を達成するために効果的な意思決定を行える態勢となっている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

学校の管理運営に関する組織は，学則（資料11－１－②－１）及び教員組織規則（資料11－１－②－２），事務組織規程（資料11－１－②－３）において定められている。管理運営に関する重要事項については，総務委員会で審議されるが（資料11－１－②－４），その決定方針等について，教員会議や各種委員会等へ反映すべく，校内意見の調整を行い，校長が効率的に意思決定を行えるよう運営されている（資料11－１－②－５）。

総務委員会は，関係主事（副校長及び校長補佐），各学科・各施設等の代表委員及び事務部長で構成され，教員会議は，校長及び専任の教員で構成されているため，関係者の意見を十分くみ取り，各事項についての効率的な意思決定とその周知徹底が図られ，効果的な運営ができる態勢となっている。

資料 11－１－②－１

沼津工業高等専門学校学則（抜粋）

第８条　本校に、校長・教授・准教授・講師・助教・助手・事務職員及び技術職員を置く。
２　職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるところによる。

第９条　本校に副校長(教務主事)・校長補佐(学生主事及び寮務主事)を置く。
２　副校長(教務主事)は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３　校長補佐(学生主事)は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
４　校長補佐(寮務主事)は、校長の命を受け、学生寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

第１０条　本校に事務を処理するため、事務部を置く。

第１１条　前条に規定するもののほか、本校の組織に関する事項は、別に定めるところによる。

（出典　本校規則集）

資料 11－１－②－２

沼津工業高等専門学校教員組織規則（抜粋）

（趣旨）
第１条　この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号。以下「機構組織規則」という。）第５条第６項及び沼津工業高等専門学校学則（昭和３７年４月１日制定。以下「学則」という。）第１１条の規定に基づき、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の組織に関する事項を定め、もつて教員の責任体制を確立し、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

（定義）
第２条　この規則において「教員」とは、学則第８条第１項に規定する教職員のうち、教授、准教授、講師及び助教で、本校に常時勤務する者をいう。
２　この規則において「専門学科」とは、学則第７条第１項に定める学科をいう。
（教員組織）
第３条　本校に専門学科のほか教養科を置き、原則として、教員は専門学科及び教養科（以下「学科等」という。）のうちいずれかの組織に属するものとする。

（副校長）
第４条　機構組織規則第５条第３項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に副校長を置く。
２　副校長は、本校の教授の中から校長が任命する。
３　副校長は、校長を補佐し、本校の校務を掌理する。
４　副校長は、校長が不在のときはその職務を代行する。
５　副校長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、副校長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

（校長補佐）
第５条　機構組織規則第５条第３項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に校長補佐を置く。
２　校長補佐は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。
３　校長補佐は、校長の職責遂行を助ける。
４　校長補佐の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、校長補佐に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

第５条の２　前条に定めるもののほか，本校に臨時の校長補佐を置くことができる。

（主事）
第６条　学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）第１７５条、機構組織規則第５条第１項及び学則第９条第１項の規定に基づき、本校に教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）を置く。
２　独立行政法人国立高等専門学校機構の主事等の任免に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第６１号）の規定に基づき、教務主事については本校の教授の中から、学生主事及び寮務主事については本校の教授又は准教授の中から、それぞれ校長の推薦を受けて独立行政法人国立高等専門学校機構理事長が任命する。
３　主事は、それぞれ学則第９条第２項から第４項までに掲げる職務を掌理する。
４　主事の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、当該主事に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。
（以下省略）　（出典　本校規則集）

資料 11－１－②－３

沼津工業高等専門学校事務組織規程（抜粋）

第１章　総則
（趣旨）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）及び沼津工業高等専門学校学則に基づく沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務は、この規程の定めるところによる。
（事務部、課）
第２条　本校に事務部を置き、総務課及び学生課を置く。
（事務部長）
第３条　事務部に事務部長を置く。
２　事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を総括する。
（課長）
第４条　総務課及び学生課にそれぞれ課長を置く。
２　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
(課長補佐)
第５条　総務課に総務課課長補佐（総務担当）及び総務課課長補佐（会計担当）を、　学生課に学生課課長補佐を置く。
２　総務課課長補佐（総務担当）は上司の命を受け、総務に関する高度の専門的知識を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
３　総務課課長補佐（会計担当）は上司の命を受け、会計に関する高度の専門的知識を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
４　学生課課長補佐は上司の命を受け、学務に関する高度の専門的知識を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
５　総務課課長補佐（総務担当）、総務課課長補佐（会計担当）及び学生課課長補佐の分掌事務は、別に定める。
（専門員）
第６条　総務課に、専門員（法規担当）を置く。
２　専門員は上司の命を受け、法規に関する高度の専門的知識を必要とする事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
３　専門員（法規担当）の分掌事務は、別に定める。
（係）
第７条　課に係を置き、係の名称及び分掌事務は別に定める。
（係長）
第８条　係に係長を置き、事務職員をもってあてる。
第９条　係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

（以下省略）　（出典　本校規則集）

資料 11－１－②－４

総務委員会議事要録（例）（抜粋）

平成２３年度　第１回総務委員会議事要録

１.日　　時　　平成２３年 ４ 月１３日（水）　１５時００分～１７時１２分
２.場　　所　　校長室
３.司　　会　　校 長
４.出 席 者　　校長　副校長(教務主事)　校長補佐(学生主事)　校長補佐(寮務主事)
校長補佐(専攻科長)　校長補佐(国際交流・ＦＤ担当)　校長補佐(学際教育担当)
機械工学科長　電気電子工学科長　電子制御工学科長　制御情報工学科長　物質工学科長
教養科長　総合情報センター長　地域共同テクノセンター長　技術室長　事務部長
（幹事）総務課長　学生課長
（陪席）総務課長補佐(総務担当)　総務課長補佐(会計担当)　学生課長補佐

会議の冒頭、校長から東日本大震災に伴う義援金について、2,186千円を４月８日（金）に機構本部に納入した旨の報告と御礼のことばがあった。また、平成２３年度の各部署の目標は、年度計画をもって目標とする旨の報告があり、特に今年度は入学志願者確保に重点を置き、志願者数を２倍程度に目標をもつとの報告があった。

５.議事要録確認　平成２２年度第１１回議事要録の確認
前回の平成２２年度第１１回議事要録（案）を原案のとおり承認した。

６.議　　題

(1) 平成２２年度年度計画自己点検評価表（案）について
総務課長から資料１に基づき、本件は平成２２年１２月から本委員会で審議を重ねてきた旨の経過説明を加え、今回の案が最終案である旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、機構本部に提出することとなった。

(2) 平成２３年度年度計画（案）について
総務課長から資料２に基づき、本件は平成２２年１２月から本委員会で審議を重ねてきた旨の経過説明を加え、今回の案が最終案である旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、４月２８日（木）までに機構本部に提出することとなった。

(3) 名誉教授選考について
総務課長から資料３に基づき、選考基準の内容を加えての説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(4) 平成２３年度校内歳出予算配分方針（案）について
総務課長から資料４に基づき、基本的には平成２２年度の配分方針を踏襲している旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 平成２３年度防災訓練実施要領（案）について
総務課長から資料５に基づき、今年度の夏季休業の時期が例年の時期から変更になったことに伴い、本防災訓練の実施日を５月に変更したことを付け加えて、実施要領の全般についての説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(6) 情報セキュリティー管理体制について
総合情報センター長から資料６に基づき説明があり、審議の結果、後日担当者を各学科等に照会し、次回５月の総務委員会で報告することとした。

７.報　　告

(1) 校長報告について

校長から資料７に基づき以下のとおり報告があった。
国立高等専門学校機構校長・事務部長会議について
①全国高等専門学校体育協会
②高等専門学校連合会
③中央教育審議会答申(キャリア教育・職業教育の在り方)
④専攻科修了者に対する学位・修了要件
他

(2) 教務主事報告について
教務主事から資料８に基づき以下のとおり報告があった。
①学生現員報告
②教務関連実施事項
1)教務小委員会
2)学級担任連絡会議
3)BACEテスト
③今後の予定
④その他

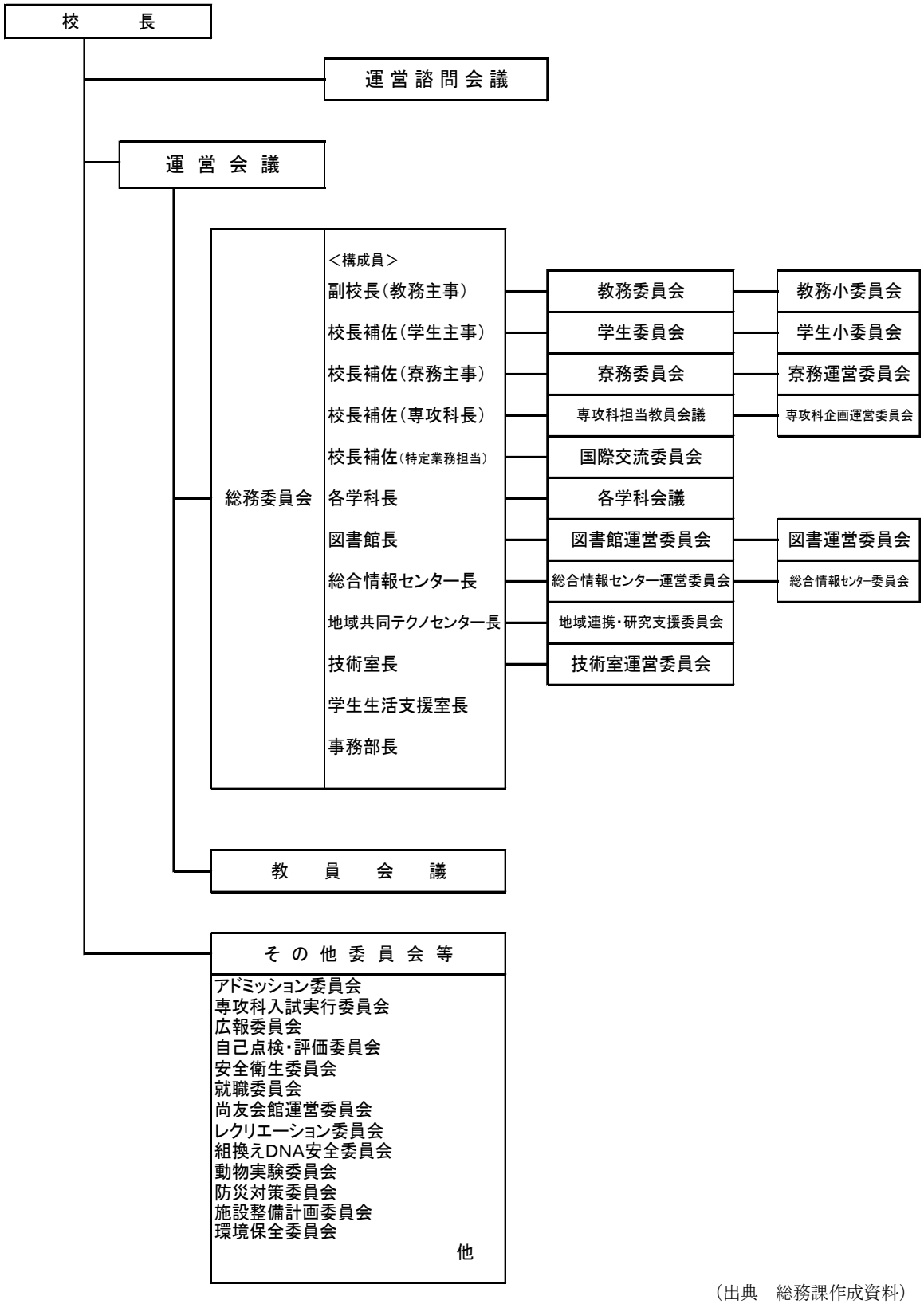
(3) 学生主事報告について
学生主事から資料９に基づき以下のとおり報告があった。
①業務報告
②学生指導
③これからの業務

（以下省略）

（出典　総務委員会議事要録）

資料11－１－②－５

沼津工業高等専門学校運営組織図



（出典　総務課作成資料）

事務組織は，事務部長の下に，総務課・学生課の２課を配置し，各所掌業務を行う体制となっている（資料11－１－②－６）。また，部課長，課長補佐，専門員で構成する事務連絡会(資料11－１－②－７）を月１回開催し(資料11－１－②－８），管理運営事項の連絡調整と意思疎通を効率的に行える態勢となっている。各委員会規則には担当課が明記され（資料11－１－②－９規則例添付），事務職員も委員として参画する等，必要に応じて直接校務を分担し，機能的に活動している。

資料 11－１－②－６

沼津工業高等専門学校事務分掌細則（抜粋）

第１章　総則

（趣旨）
第１条　沼津工業高等専門学校事務組織規程第５条から第７条までの規定に基づく分掌事務並びに第８条の規定に基づく係の名称及び分掌事務は、この細則の定めるところによる。

第２章　課の係等

（総務課）
第２条　総務課に総務課課長補佐（総務担当）、総務課課長補佐（会計担当）、専門員（法規担当）、総務係、人事係、財務係、用度係及び施設係を置く。

（課長補佐）
第３条　総務課課長補佐（総務担当）においては、次の事務を分掌する。
(1)　総務事務の業務統括補佐並びに連絡調整に関すること。
(2)　将来計画に関すること。
(3)　自己点検評価及び外部評価に関すること。
(4)　研究助成に関すること。
(5)　その他総務に関する事務のうち、重要な企画及び調査に関すること。

第４条　総務課課長補佐（会計担当）においては、次の事務を分掌する。
(1)　財務係、用度係及び施設係の業務統括補佐及び連絡調整に関すること。
(2)　会計検査及び会計監査の総括に関すること。
(3)　防災及び防火対策に関すること。
(4)　国立高等専門学校機構損害保険プログラムの総括に関すること。
(5)　その他会計に係る事務のうち、重要な企画及び調査に関すること。

（専門員）
第５条　専門員（法規担当）においては、次の事務を分掌する。
(1)　学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
(2)　独立行政法人国立高等専門学校機構の規則等の整備に関すること。
（総務係）

第６条　総務係においては、次の事務を分掌する。
(1)　学校の事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　儀式及び会議に関すること。
(3)　渉外に関すること。
(4)　個人情報保護及び情報公開に関すること。
(5)　学術団体等との連絡に関すること。
(6)　公印の管守に関すること。
(7)　郵便物の接受、配布、発送、整理、編集及び保存に関すること。
(8)　郵便切手類の受け払いに関すること。
（以下省略）

（出典　本校規則集）

資料 11－１－②－７

沼津工業高等専門学校事務連絡会設置要項

（設置）
第１　沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務を円滑に運用・実施するために、事務連絡会を置くものとする。

（目的）
第２　事務連絡会は、本校の業務を円滑に行うため、事務的な実施方法等を検討・協議することを目的とする。

（組織）
第３　事務連絡会は、以下に掲げる者をもって組織する。
1)　事務部長
2)　総務課長及び学生課長
3)　各課長補佐及び専門員
4)　その他、事務部長が特に必要と認めた者

（議長）
第４　事務連絡会の議長は、事務部長とする。
２　議長に事故あるときは、総務課長又は学生課長がその職務を代行する。

（事務連絡会の開催）
第５　議長は定期的（月１回程度）に事務連絡会を開催する。ただし、議長が特に必要と認めた場合、臨時の事務連絡会を開催することができる。

（ワーキンググループの設置）
第６　議長が特に必要と認めた事項について、検討させるためのワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置し、検討させることができる。
２　WGは、議長から与えられた事項について検討し、事務連絡会に報告しなければならない。
３　議長が特に必要と認めた場合、事務連絡会の構成員以外の者をWGの構成員とすることができる。ただし、WGの長は、事務連絡会の構成員の中から議長が任命するものとする。
４　WG長は、WGに構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

第７　事務連絡会の事務は、総務課総務係が行うものとする。

第８　その他、この要項に規定しない事項については、事務連絡会の審議を経て、議長が決定するものとする。

附　則
この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則
この規則は、平成２３年５月９日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－８

平成23年度　第1回事務連絡会

1. 日　時　　平成23年４月11日(月)　10:35～12:00(予定)

2. 場　所　　第2会議室

3. メンバー　　事務部長
総務課長　学生課長
総務課長補佐(総務担当)　総務課長補佐(会計担当)　学生課長補佐　専門員(法規担当)

4. 議題等

		運営会議	総務委員会
(1) 事務部関連			
○事務部長			
① 校長・事務部長会議について	【口　頭】	―	―
○総務課関係	説明者		
① 平成22年度年度計画自己点検評価表(案)について	(総務課長)【資料1】	議題	議題
② 平成23年度年度計画(案)について	(総務課長)【資料2】	議題	議題
③ 名誉教授選考について	(総務課長)【口　頭】	議題	議題
④ 平成23年度校内歳出予算配分方針(案)について	(総務課長)【資料3】	議題	議題
⑤ 平成23年度防災訓練実施要領(案)について	(総務課長)【資料4】	議題	議題
⑥ 平成23年度定例会議開催予定日について	(総務課長)【資料5】	報告	報告
○学生課関係			
① 平成24年度専攻科入学者選抜試験について	(学生課長)【資料6】	―	―

(2) 運営会議について

別紙事項書のとおり　【資料7】

(3) 総務委員会について

別紙進行要領のとおり　【資料8】

(4) その他

次回事務連絡会:平成23年５月９日(月)　10:35　～

(出典　事務連絡会議資料)

資料 11－１－②－９

沼津工業高等専門学校教務委員会規則（担当課等明示例）

第１条　沼津工業高等専門学校の教務に関する重要な事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）をおく。
（組織）
第２条　委員会は、次の委員をもって組織する。
(1)副校長（教務主事）
(2)教務副主事
(3)教務主事補
(4)学科長、教養科長及び専攻科長
(5)図書館長
(6)本校教員で校長が任命した者
（審議事項）
第３条　委員会は、校長の諮問に応じ、次の事項を審議する。
(1)教育課程及び授業時間割の編成に関すること。
(2)学校行事に関すること。
(3)学生の教科履修に関すること
(4)入学、退学、編入及び転科等に関すること。
(5)指導要録等教務記録に関すること。
(6)その他教務に関し必要と認められること。
（委員の任期）
第４条　委員は、校長が任命し、その任期は１年とする。ただし、再任は妨げない。
２　補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会の委員長は、副校長（教務主事）とする。
２　委員長に事故あるときは、教務副主事がその職務を代行する。
（委員会の開催）
第６条委員長は、必要と認めたとき委員会を開催し、その議長となる。
（小委員会）
第７条　委員長が必要と認めたときは、適時に小委員会をおき、委員長から委嘱された者は、指定された事項について調査及び研究し、委員会に報告するものとする。
（委員以外の者の委員会への出席）
第８条　委員長が必要と認めたときは、その都度委員以外の者に委員会への出席が求め、その意見をきくことができる。
（校長への報告）
第９条　委員長は、委員会で審議された事項を、校長に報告するものとする。
（幹事）
第１０条　委員会に幹事をおき、会務を整理する。
２　幹事は、学生課長をもってあてる。
（委員会の事務）
第１１条　委員会の事務は、学生課教務係において処理する。
（雑則）
第１２条　この規則の実施について、この規則の規定によりがたいときは、委員会の審議を経て、委員長が定めるものとする。

附　則
この規則は、昭和 49 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 10 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 11 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 16 年４月 14 日から施行し、同年４月１日から適用する。
附　則
この規則は、平成 17 年４月１日から施行する。
附　則
この規則は、平成 20 年４月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

危機管理体制については，あらゆる危機管理事態に対応するため，リスク管理室を設置し、その下に対策本部及び対策本部連絡会議を設置する等、組織的な対応をするための危機管理規則（資料11－１－②－10）が明確に定められ，初動体制・連絡体制等を明記した危機管理対応マニュアル（資料11－１－②－11）も作成するなど，危機管理に係る体制整備を図っている。

資料 11－１－②－10

沼津工業高等専門学校危機管理規則

（目的）
第１条　この規則は、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）において、円滑な管理運営に支障をきたすことが想定される様々な事象に対し、迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制及び対処方法を定めることにより、本校の学生、教職員及び近隣住民等（以下「学生等」という。）の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

（危機管理の事象）
第２条　この規則において、危機管理の対象とする事象（以下「危機管理事象」という。）は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
1)　教育研究活動及び業務運営に関する重大な事態
2)　学生等の安全に関する事態
3)　施設管理上の重大な事態
4)　社会的影響のある重大な事態
5)　その他、前各号に相当するような事態であって、全校的に対処することが必要と考えられる事態

（危機管理のための校長等の責務）
第３条　校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
２　副校長は、校長を補佐し、危機管理の推進に努めなければならない。
３　学科長、専攻科長、図書館長及び各センター長は、当該学科、専攻科、図書館及び各センター（以下「学科等」という。）における危機管理責任者であり、全校的な危機管理体制と連携し、当該学科等の危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
４　教職員は、その職務の遂行に当たり、危機管理に努めなければならない。

（リスク管理室の設置）
第４条　本校に、危機管理を総合的かつ計画的に推進するため、リスク管理室を置く。
２　リスク管理室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
1)　校長
2)　副校長
3)　事務部長
4)　総務課長及び学生課長
5)　その他、校長が必要と認めた者

（リスク管理室の業務）
第５条　リスク管理室は、次の各号に掲げる業務を行う。
1)　危機管理事象への対処に関すること。
2)　危機管理事象に関する情報の収集分析及び周知に関すること。
3)　危機管理ガイドライン及び危機管理マニュアルの策定並びに周知に関すること。
4)　危機管理に関する教育、研修及び訓練等の実施に関すること。
5)　危機管理対策の評価及び見直しに関すること。
6)　緊急時の組織体制及び情報伝達方法の整備並びに周知に関すること。
7)　危機管理に関し、機構本部リスク管理対策本部と相互連携を図ること。

（対策本部の設置）
第６条　校長は、危機管理事象に対し、緊急に全校的な対応が必要と判断した場合は、リスク管理室の下に、沼津工業高等専門学校危機管理対策本部（以下「対策本部」という。）を設置するものとする。
２　対策本部は、緊急の危機管理事象に対し、組織的かつ迅速に対応するため、第７条で規定する沼津工業高等専門学校危機管理対策本部連絡会議（以下「対策本部連絡会議」という。）の招集の可否及び具体的な対処方法について協議・決定する。
３　対策本部に本部長及び副本部長を置き、本部長は校長をもって充て、副本部長は副校長をもって充てる。
４　対策本部の構成員は、次の各号に掲げる運営会議構成員とする。
1)　本部長（校長）
2)　副本部長（副校長）
3)　校長補佐（学生主事）、校長補佐（寮務主事）及び校長補佐（専攻科長）
4)　事務部長

5)　総務課長及び学生課長
6)　その他、校長が必要と認めた者
５　本部長に事故あるときは、副本部長がその職務を代行する。

（対策本部連絡会議の招集）
第７条　対策本部は、危機管理事象に対し、対策本部の決定した事項の迅速な周知及び実施を行うために必要と認めた場合は、対策本部連絡会議を招集する。
２　対策本部連絡会議は、原則として次の各号に掲げる総務委員会構成員とする。
1)　校長
2)　副校長
3)　校長補佐（学生主事）、校長補佐（寮務主事）及び校長補佐（専攻科長）
4)　学科長及び教養科長
5)　各施設長
6)　事務部長
7)　その他、校長が必要と認めた者

（権限）
第８条　学生及び教職員は、対策本部の指示に従わなければならない。
２　対策本部は、当該危機管理事象の処理に当たり、本校の諸規定等により必要と定める手続きを省略することができる。また、当該危機管理事象の処理に当たり、対策本部の行う決定は、他のいかなる委員会等の決定よりも優先する。

（機構本部リスク管理本部等との連携）
第９条　対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、機構本部リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

（秘密保持の義務）
第 10 条　本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

（事務）
第 11 条　危機管理に関する事務は、総務課において処理する。

（雑則）
第 12 条　この規則に定めるもののほか、危機管理に関する必要な事項は、別に定める。

附　則
この規則は、平成２１年６月１０日から施行する。

附　則
この規則は、平成２３年５月１１日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料11－１－②－11

危機管理対応マニュアル

○ 沼津工業高等専門学校における危機管理対応マニュアル

○目　的

沼津工業高等専門学校における災害及び事故事件等様々な緊急事態に対し、教職員及び学生の安全を最優先に考え、組織的かつ迅速に対応することを目的として危機管理対応マニュアルを定める。

○ 緊急事態とは

（１）自然災害（地震・台風・大雨等）による被害

（２）インフルエンザ等の疾病・感染症・食中毒の集団発生

（３）学校施設内における火災・盗難

（４）その他の事件事故

教職員及び学生の死亡、不審者の侵入及び人質立てこもり等

Ⅰ.危機管理体制

１．リスク管理室の設置及び役割

校長、副校長、事務部長及び各課長を構成員とするリスク管理室を設置し、日常的なリスク管理から緊急性を有するリスク管理まで幅広く対応するための対処方法について協議・決定する。

＜リスク管理室の主な役割＞

（１）危機管理事態への対応策の決定

（２）情報の収集・整理・分析

（３）対策本部の招集の可否決定

（４）関係機関との連絡調整

２．対策本部の設置及び役割

緊急性を有する危機管理に対し、組織的かつ迅速に対応する目的で、リスク管理室の下に、校長、副校長、校長補佐、事務部長及び各課長の運営会議の構成員で組織する対策本部を設置し、対応について協議・決定する。

＜対策本部の主な役割＞

（１）緊急対応方針及び対応策の決定

（２）対策本部連絡会議の招集及び対応策の指示

（３）関係機関との連絡調整

３．対策本部連絡会議の招集及び役割

対策本部が必要と認める場合は、総務委員会の構成員で組織する対策本部連絡会議を招集し、具体的な対応措置を実施する。

＜対策本部連絡会議の主な役割＞

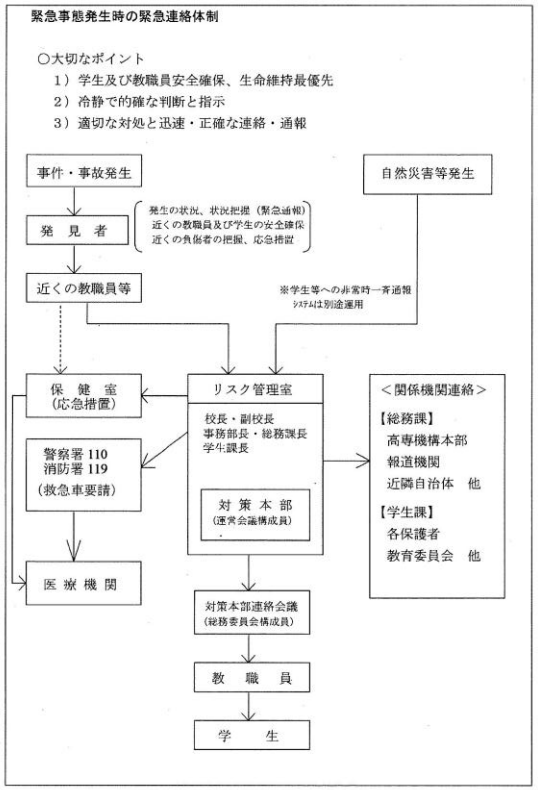
（１）対策本部から示された具体的な対応措置を各構成員に指示し、実行する。

（２）各部局の役割分担の確認

（３）各部局構成員への情報伝達

Ⅱ.緊急時対応決定のフローチャート

Ⅲ. 緊急時連絡のフローチャート



Ⅳ. 緊急事態時の基本対応マニュアル

緊急事態には、冒頭で示した（1）～（4）のような場合が想定され、その個々のケースにより対応も異なるが、基本対応行動として、関係職員が「共通意識を持って対応」していくことが必要である。

1．緊急対応における要点とその心構え

（1）冷静な対応

マニュアルに示された手順・内容に従い、「最優先とする対応」は何かを意識しながら、冷静に対応する。

（2）管理職のリーダーシップ

危機発生時、管理職は状況を判断し、全教職員に「緊急対応を行う」旨を明確に伝え、役割分担等について的確な指示を行う。また、教職員からの報告・連絡が円滑に行えるよう、管理職は所在を常に明らかにしておく。

（3）正確な情報収集及び情報の共有化

自然災害や事件・事故発生時、報道情報や各関係者等から可能な限り正確な情報を入手し、対策本部において収集・整理し、要点を文章化する。そして、実施本部を通じて教職員にもその情報を伝達し、「情報の共有化」を図る。

（4）組織的な対応

対策会議での決定事項については、実施本部に的確に指示を出し、その構成員である教職員が、速やかに他の教職員に指示・伝達し、学校全体で組織的に対応できる体制をつくる。また、混乱した状況では、教職員の臨機応変な対応が必要となる場合も想定されるが、個人の判断で対応することは極力避ける。やむを得ず個人の判断で対応した場合は、必ず事後に報告する等、「報告・連絡・相談」の徹底を図る。

（5）保護者・地域社会との連携

後援会役員や地域の関係者と協力して危機の解決に当たるとともに、学校の教育活動を守る体制づくりに努める。

（6）国立高等専門学校機構本部、文部科学省及び関係機関との連携

国立高等専門学校機構本部、文部科学省（以下「高専機構等」という。）及び警察、消防等関係機関と連携を図り、指導及び助言等を仰ぎ、学校としての適正な対応を検討する。

（7）通信手段の確保

保護者や報道機関等からの問い合わせ等が殺到し、学校の電話が使用できなくなった場合には、「非常用の通信手段を確保する」必要がある。緊急用電話の設置やファクシミリ、電子メール等がその手段として有効であるが、学校所有の公用携帯電話（校長・事務部長・総務課・警備員用）を非常用電話として利用することも考えられる。（自然災害等の場合には携帯電話は役に立たないことも認識しておく。）

（8）報道機関への対応

報道機関の取材等を受ける場合、誤った対応を避けるため、対応者又は対応窓口を一本化するとともに高専機構等からの助言を受けながら適切に対応する。（対応者又は対応窓口は、対策本部で決定する。）

２．危機対応の具体的内容と手順

以下の各事項については、順番に行うということでなく、臨機応変に複数の対応を同時に行うケースもあるので留意すること。

（１）個別的対応事項

① 先ず頭の中に入れておくこと

ア．　自分の安全をまず確保すること。

イ．　学校内の関係箇所に、第一報を連絡する。

ウ．　負傷者等を発見した場合は、出来る範囲の応急措置を施すとともに、近くに協力者がいないか確認し、協力要請を行うこと。（複数で対応すること。）

エ．　不審物件がある場合…触れるな・踏むな・蹴飛ばすな。

オ．　明らかに悪戯と思われる場合であっても、安全の確保が確認出来るまでは慎重に対応すること。（最悪のケースも想定しつつ、教職員及び学生の安全確保に努める。）

（２）一般的対応事項

① 通報（警察、消防、教育委員会、近隣、保護者等）

② 指揮命令・情報伝達・連携体制の整備（対策本部設置）

③ 避難措置（対策本部→実施本部→教職員及び学生）

④ 立入禁止措置（対策本部→実施本部）

⑤ 時系列表の作成（対策本部）

⑥ 広報体制の確立（対策本部）

⑦ 報道対策（対策本部）

⑧ 規制解除（対策本部）

⑨ 外部からの電話への応答（窓口の一本化）

Ⅴ．高専機構等との連携

１．高専機構等への支援要請

緊急事態発生時においては、さまざまな対応が必要となり、学校だけでは対応出来ないことも想定されるため、その場合には、高専機構等に助言を求め、職員の派遣を要請する等、支援要請も検討する。

２．高専機構等の支援

学校への支援については、次のようなことが考えられる。

（１）学校への指導・助言

学校は対応の当事者として余裕がなく、必要な対応を見落とす可能性がある。状況を客観的に把握し、高専機構等の持つ経験・知識を生かした、指導・助言等により、学校の対応を支援し、学校と共に問題の早期解決を図る。

（２）　関係機関との連絡・調整

学校が、高専機構等及び警察・消防等の専門機関と円滑な連携が図れるように、学校と共同体制を確立し、連絡・調整を行う。

（３）専門家の派遣等

事件・事故発生後、学生の心のケア等が必要となる場合がある。

高専機構等職員の派遣だけでなく、臨床心理士等の専門家の派遣等を検討する。

Ⅵ　学生等への非常時一斉通報

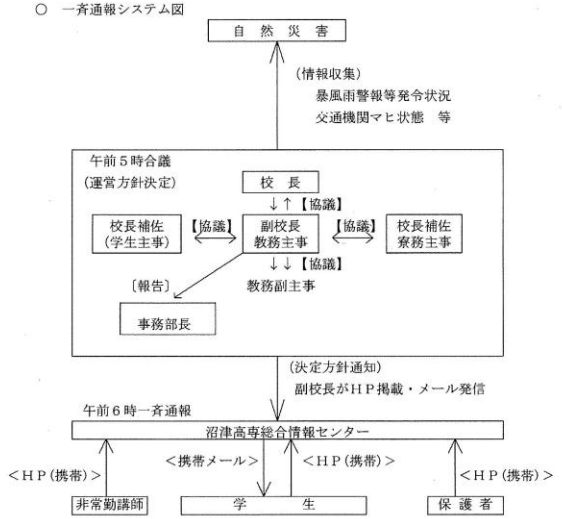
台風等の自然災害に対し、臨時休業等、学生に対する危機回避措置が必要な場合は、学生に対して速やかに連絡する必要があり、パソコン及び携帯メール等を利用した非常時一斉通報を行う。

○ 主な手順

１）臨時休業等の必要があると判断される当日の午前５時頃に方針決定を行い、午前６時に一斉通報を行う。

２）具体的な手順としては、教務主事が、校長、学生主事、寮務主事及び教務副主事との携帯電話合議により当日運営方針を決定、そして速やかに教務主事自宅から「校長名」の方針を電子情報により学生等へ運営方針を伝達する。また、運営方針の結果は事務部長にも即時に連絡される。

○　一斉通報システム図



※この非常時一斉通報システムについては、学生便覧により全学生に周知している。

Ⅶ その他

自然災害及び重大な事件・事故発生時の対応ポイント

（1）外部との対応

① 現場の状況把握に努め、緊急車両等（救急車・消防車等）の要請の可否について迅速に判断

② 関係機関（警察署、消防署等）との対応

③ 国立高等専門学校機構及び文部科学省との対応

④ 鉄道機関等との対応

（2）情報の収集

① 災害の状況や事件・事故の概要等、状況把握に努める

② 被災した教職員及び学生の状況把握

③ 学内及び通学路等の安全確保

（3）教育再開準備

① 実態に即した指導計画作成

② 施設、教材等の準備

③ 指導体制の整備

（4）再発防止対策の実施

① 安全管理の充実（施設整備等の充実、マニュアルの見直し）

② 安全教育（防犯）の充実

（5）救護活動

① 負傷者の全容把握

② 健康状態の把握

③ 心のケア

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校の管理運営に関する各種委員会等は，その趣旨，目的，組織等が規則に明記され，適切な役割分担と責任体制が確立し，効果的に活動している。事務組織は，事務部長の下，事務分掌に従い，組織間の意思疎通と連携を保ち，効率的な管理運営を行っている。更に，委員会等の構成員として加わるなどして学校運営に参画し，適切に役割を分担し効果的に活動している。

危機管理体制については，危機管理に係る事態に，迅速かつ的確に対応するために，危機管理規則を定めるとともに，危機管理対応マニュアルを作成し，統一的かつ迅速な対応ができる体制を整えている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校教育法第109条第1項に規定された総合的な自己点検・評価を毎年実施している。特に，独立行政法人化後は，高専機構本部の中期計画及び年度計画を踏まえ，本校独自の計画を立案し目標を定め，その目標の下，健全な学校運営が図られている（資料11－２－①－１）。

本校独自の年度計画については，教育・研究・社会連携・管理運営等の区分により，全部で62項目にも及ぶ観点により，より具体的にそれぞれの目標が定められており，これらの目標に対する達成状況を把握することで学校全体の総合的な自己点検・評価を行っている。具体的には，総務委員会（自己点検評価委員会）において，各部局毎の進捗状況について審議され，評価点（ＡＢＣＤ評価）を付して自己点検・評価を行っている（資料11－２－①－２）。また，これらの結果については，本校公式ウェブサイトや「運営諮問会議報告書」にも掲載しており，広く一般に公表している（資料11－２－①－３）。

資料11－２－①－１

沼津工業高等専門学校 平成23--年度 年度計画

沼津工業高等専門学校 平成23年度 年度計画

（前文）

独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の中期目標・中期計画を踏まえ策定した沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の計画（第２期中期計画）に基づき、平成２３年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

① 近隣市町村の教育委員会などとの連携を深め、中学校理科教員への支援策等の検討を含め、更なる中学校との連携強化を図るとともに本校独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川・山梨県）の中学校への広報活動を引き続き積極的に行う。「中学生のための体験授業」を本年度新たに企画し、１０月に実施して入学志願者の増加を目指す。

また、本校創立５０周年記念事業（２０１２年）の開催に向けて近隣の産官との連携を一層緊密にするとともに、効果的な広報活動のあり方について引き続き検討を進める。

② 受験生確保の観点から、県内だけでなく高専のない近隣県（神奈川・山梨県）なども対象とした効果的な入学案内等を実施する。

女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を意識的に多く盛り込む）などの作成や高専機構作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。広報誌及びホームページには、平成２４年度入学生から適用する「学際教育－混合学級とミニ研究の導入－」を明記して志願者増につなげる。

③ 入試広報部門の学内体制を強化し、各種入試広報活動の内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方（選択と集中）を検討する。

中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料を作成するとともに高専機構に広報資料を提供する。

高専機構作成の広報資料の有効活用を行う。

④　入学者確保の観点から、入試データと入学後の学力との相関について分析した結果に基づいて、入試方法を改善する。具体的には、推薦基準の見直し、学力選抜方法の見直しを行う。

⑤　入学者の学力水準を維持して、志願者が前年度の人数を下回らないよう努力する。また、過去３年間の推薦選抜、学力選抜の志願者数の推移と内訳を検討し、それらを踏まえ、推薦基準及び学力試験科目等についての見直しを行う。

（２）教育課程の編成等

①　平成 22 年度の将来構想ＷＧの検討結果に基づいて、平成 24 年度入学生より１年次混合学級、２年次ミニ研究、３年次以降の学際教育導入に向けてカリキュラム改正案を作成する。平成 24 年度、１年生に共通実験、２年生にミニ研究を実行するための実施体制を整備する。

専攻科においては、専攻科複合実験に加え、複合領域の教育を充実するための科目の策定を行う。　平成２２年度高専機構の特別教育研究経費による専攻科に「医用機器開発エンジニア養成のコース制導入」についての調査結果を踏まえ、コース制導入について具体的な検討に入る。

科学技術振興調整費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」が３年目に入り、３期生の入学と同時に、１期生、２期生の修了を迎えるため、その成果物の創出に注力し、併せて事業内容の充実を図る。また、JST の中間審査に対応するための準備を進める。

②　平成 24 年度、１年生に共通実験、２年生にミニ研究を実行するための実施体制を具体化する。平成２４年度に入学する１年生の教育課程表の策定及び１年次混合学級の導入に向けての実施体制の整備と教務上の規則（進級・卒業判定基準など）の改正と整備を図る。

③　英語の学力を学年の推移を追って客観的に把握するため、1,2 年生で TOEIC Bridge テスト、3,4 年生で TOEIC IP テストを全学生に受験させることを継続する。３年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」に継続的に参加することにより、該当科目の修得状況の把握に活用すると共に、試験結果の分析を行う。その結果を教員ＦＤ研修会等で全教員に周知して、共通認識を持つことで、専門学科と連携して数学、物理の力を伸ばすなど、教育改善に役立てる。

資料11－２－①－１の続き

④　学生による授業評価アンケートの設問項目を改善し、各科目で設定した教育目標の達成度についても評価させる。授業評価アンケートの結果を教員の授業改善に反映させ、改善の実施状況について把握できる仕組みを作る。３年生と５年生による学習到達度自己評価の結果と４年生と５年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価は継続して実施し、教育課程の改善や教材の充実等に役立てる。卒業生による学校評価の継続的実施について、頻度や実施方法について検討する。

⑤　高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。また、高専フォーラム・シンポジウムや各学会及び各協会の発表会、近隣大学との共同発表会などにおいて、学生の研究発表を積極的に進めるための支援を行う。

専攻科では、例年と同様、近隣大学間共同学生研究発表会や高専シンポジウム等、学会への所属を要せず参加できる研究発表の機会について、学生への情報提供に努め、研究発表を奨励する。

⑥　学校内外での清掃、スキー研修などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等、ボランティア活動への参加を推進するとともに取り組みを支援する。

工場見学など生産現場を見学する機会に、実際の社会での「清掃」や奉仕の精神の重要性を学ぶ場を増やすよう努力する。

校外清掃などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等やボランティア活動への学生の参加を推進するとともに取り組みを支援する。

（３）優れた教員の確保

①　教員の採用は公募制を原則とする。昨年度と同様、本校外の勤務経験や１年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として 60%を下回らないようにする。

②　豊橋技術科学大学へ制御情報工学科教員１名を人事交流で送り出し、豊橋技術科学大学から教員１名を制御情報工学科に受け入れる。

③　昨年度と同様、専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。

④　女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。また、寮においては、引き続き女性教員の要望に基づき、女子寮巡回日（曜日）を設定して実施する。

⑤　教員相互の授業参観を昨年度に引き続き実施する。昨年度の反省をもとに、より効果的な方法となるよう改善を図る。
前年度に引き続き、教員FD研修会を最低年４回（５月、７月、１０月、１２月予定）実施し、教員個々の教育力向上に資するための取り組みを継続する。静岡県総合教育センターを利用した教員研修の有効性を調査検討する。

⑥　引き続き、優秀な教員への意識の高揚の観点から、機構本部で実施する教員顕彰制度について、優秀な教員を表彰対象者として積極的に推薦していく。

⑦　引き続き、教員の国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進するとともに、それらの円滑な遂行に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。教養科教員１名（物理）を高エネルギー物理学研究所へ10ヶ月間派遣する。

（４）教育の質の向上及び改善のためのシステム

①　機構が主催する「全国高専教育フォーラム」や各種シンポジウム等に積極的に参加する。平成２０年度から引き続き開催されている「高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ」及び「ＰＢＬ方式の学生による３次元ディジタル設計造形コンテスト」に参加し、設計教育に対する学生のモチベーションの向上に努める。高等専門学校情報処理教育研究委員会の委員長校として、鹿児島大学を会場として８月に開催予定の第３１回高等専門学校情報処理教育研究発表会の企画運営を行う。

資料11－２－①－１の続き

「高専と地域が連携したエコタウンづくり―門池の水質改善と水力発電を通した環境教育―」のプロジェクトを高専機構の改革推進経費に申請し、全学科の教員が参加協力 して環境教育やエンジニアリングデザイン教育の充実を図る。

② 資格取得の実績データをまとめ、資格取得の推進に役立てる。
専攻科においては、平成２１年度受審の JABEE の審査結果に基づき、引き続き学習教育目標の達成度評価方法の明瞭化等の改善策について、専攻科企画・運営委員会を中心に検討を進める。

③ 教育研究交流協定を締結している東京工業大学及び静岡大学との具体的交流の実現を図る。学生会、寮生会を通じた行事等において、他高専学生等との交流活動を積極的に推進する。寮については、平成２３年度も他高専との交換寮生制度を積極的に推進し、実施する計画である。

④ 本校教員による授業の工夫実践例を継続的に調査収集し、本校の Web 上に公開する。全教員で情報共有し互いの授業改善に有効活用するとともに、工夫実践を促す体制作りを進める。全国高専で実践している 新しい教育方法の試み、効果的な取り組み事例を継続して調査し、効果的な事例を全教員に情報提供し教育改善に役立てる。

⑤ 大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価を受審する。６月末日までに自己評価書を作成し提出する。機関別認証評価の自己評価書に係る書面審査及び秋に実施される訪問調査等に組織的に対応するための体制整備を図る。

⑥ 企業技術者等を活用した「ものづくりステップアップ実践プログラム」の一部を改編し、本校ＯＢをアドバイザーに依頼してキャリア教育のプログラムを新たに作成して試行する等、キャリア教育の強化及びインターンシップの活性化等、地域企業との「共同教育」の推進を図る。キャリア教育、インターンシップ等を支援する組織として「学生キャリア支援室」の必要性について検討する。

⑦ 本校ＯＢをアドバイザーに依頼してキャリア教育のプログラムを新たに作成して試行する。

⑧ 教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした具体的取組を実践する。本校の制御情報工学科教員１名が豊橋技術科学大学で、豊橋技術科学大学教員１名が本校制御情報工学科で

それぞれ１年間行う教育・研究の体験を通して互いの連携を一層深める。大学ネットワーク静岡に継続して所属し、県内大学との連携・情報交換を継続して行う。

⑨　高専ＩＴ教育コンソーシアムのメディア教材の活用も視野に入れつつ、Moodleで利用可能な他のコンテンツの利用も含めて学内 e-ラーニングコンテンツの充実を図る。高専機構が進めているＩＣＴ活用推進事業に積極的に協力する。

⑩　総合情報センター、電子制御工学科、制御情報工学科の情報処理演習室の教育用計算機システムにおいて、ソフトウェア環境を最新の状態に保ち、質の高い計算機環境を提供する。

⑪　一般科目と専門科目の教授内容等に関する情報交換の機会を継続的に持ち、学科の枠を越えた教員相互の授業参観を実施する。

全学科教員が参加する年４回開催予定の教員ＦＤ研修会を活用して教員の教育力向上と教育の質の向上を図る。

（５）学生支援・生活支援

①　メンタルヘルスに関する学生支援、キャンパスハラスメント、AED を含む救命救急に関する講習会等を継続して実施する。独立行政法人日本学生支援機構の主催する学生支援、就職・キャリア支援等の研修会やメンタルヘルス研究協議会に教員を派遣して学生支援体制の充実に努めるとともに、全ての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員 FD 研修会にて実施する。また、「友人づくり支援」を念頭に１年生、３年生の宿泊研修を活用する。

学生生活支援室においては、週日 15：30 から 17：00 または 18:30 まで，学生生活支援ゾーン（相談室・学生生活支援室）に学生生活支援室員（週３日）または外部カウンセラー（週２日）が待機し、学生の多様な悩みに対応する。学生の個々の悩みの吸い上げの手段として、学生アンケートを実施。全学生にメンタルヘルスチェックの実施。各種メンタルヘルス関連の研修会、協議会に出席。教職員に対しての更なるメンタルヘルスに関するＦＤを行う。

寮では春季および夏季寮生会リーダー研修において救命救急講習を実施する。

②　ハイブリット図書館構想の一環として、２年前に増設した情報検索用端末を有効に活用すると共に、図書館における自主学習スペースのさらなる充実を図る。開館時間は平日は８：３０～２０：００（長期休業中は１７：００）、土・日曜日

は９：００～１６：００（年末年始等除く）で学習サポート体制を維持する。今後は利用実態 の調査分析について検討し、充実した体制をめざしていく。

③　各種奨学金に関する情報を集約した学内限定ホームページの情報の更新を行う。同窓会奨学金の活用並びに産業界等の支援による奨学金制度創設の可能性について調査する。

④　従来の各学科における進路指導を継続的に行うことに加え、キャリア教育の立案、キャリアカウンセリング、さらに就職・進学に関する詳細情報を整理し各学科へ配信を行うなどの業務をワンストップで行う「学生キャリア支援室」の創設に向けた調査・検討を継続して行う。

⑤　昨年度に引き続き、他高専における学生に対する福利厚生施設の運営状況を調査し、本校尚友会館の運営の在り方について検討する。

（６）教育環境の整備・活用

①　全学的な視点に立った施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として施設管理に係るコストを把握し、整備計画に基づきメンテナンスを実施する。

教室・ゼミ室・実験室等の老朽化・稼働率等の状況を確認し、本校の施設的課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施していく。

本校の「ものづくり」教育の拠点である機械実習工場再編に向けて、平成 23 年度も引き続き第１機械実習工場改修を概算要求していく。（平成 23 年度評価結果：総合評価Ｓ）また、第１・第２機械実習工場を改修し、「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」の自立化に向けて教育環境の整備・改善・充実を図る。

②　施設の老朽度・狭隘化、耐震性、稼働率、ユニバーサルデザイン等の導入状況の実態を調査・分析した上で本校のマスタープランを再構築する。今後、そのプランに基づき、施設整備を推進・実現できるような全体計画を策定する。

また校舎等の省エネ・Ｃｏ２削減などエコ対策事業についても、本校の「エネルギーの使用状況及び省エネルギーの方策」に基づき、実施していく。今年度は、寮の日照調整フィルム・武道館等の屋根遮熱塗料塗り・電力監視システム（第３期）・外灯の省エネ化等の省エネ事業を実施する。

③　現在行っている安全衛生管理のための年二回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。平成２２年度に作成した安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を積極的に派遣する。

2　研究に関する事項

①　引き続き高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する競争的資金の獲得に向けて積極的に応募すると共に、学校間の共同研究に関する情報を得るため、広域の産学連携関連イベント（科学・技術フェスタ in 京都，全国高専テクノフォーラムなど）に積極的に参加する。

また、地域産業界に研究成果を公開する「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」を昨年度に引き続き主催する。

さらに、外部資金獲得に向けた説明会を開催すると共に、メール配信や Web 掲載により教員への通知の促進を図る。

②　昨年度に引き続き、県・市町村や商工会議所のイベントに積極的に参加し技術相談を行うと同時に、本校教員の研究活動や設備等を積極的に紹介して、共同研究・受託研究の受入につなげるとともに、テクノセンターニュースの発行、教員の研究シーズ集の内容更新を行い、積極的に情報を発信する。

③　昨年度に引き続き、技術科学大学が公募する共同研究に積極的に応募する。「スーパー地域産学連携本部」が主催する催しに参加するとともに、KNTnet（技術マッチングシステム）も活用し教員の研究成果の社会還元を推進する。また、引き続き新ＴＬＯ（静岡ＴＴＯ）への協力も含め、研究成果の幅広い社会還元を検討する。

3　社会との連携、国際交流等に関する事項

①　静岡県の東部地域再生計画に基づき、引き続き「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業を主催し、医用機器開発技術者の養成を行うことにより地域貢献を推進する。

②　広報誌の発行、産学連携行事を引き続き実施すると共に、昨年度刊行した本校教員の研究・技術シーズ集の内容更新を行い、昨年度リニューアルしたテクノセ

ンターホームページ及び教員が登録しているKNTnet（技術マッチングシステム）と併せて研究シーズを積極的に発信する。また、引き続き「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」や「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を主催し及び積極的に参加し、共同研究等の成果を発信する。

③　近隣市町の教育委員会に働きかけ、中学校教員との情報交換や中学校理科教員の支援などについて検討する。中学生を対象とした体験授業を新たに企画して10月に実施する。

④　公開講座は、平成２３年度からは、社会人対象の講座を中心に実施することとし、そのためのニーズや内容について引き続き検討を行う。

⑤　本校創立50周年記念事業の立案・実施に向け、同窓会とのより一層の連携を深める。また、卒業生に関する情報収集の方法について検討する。機構本部が推進する他高専の同窓会との連携に引き続き協力する。

⑥　高専機構が推進するシンガポールのポリテクとの国際交流事業等に積極的に参加する。学生の語学研修や異文化体験事業を推進する観点から、アメリカ（シアトル）にて語学研修を実施する。

⑦　前年度に引き続き、機構主催の「海外インターンシップ・プログラム」に専攻科生を応募させる。

⑧　引き続き、留学生の受け入れに必要な施設として、留学生・専攻科生用寄宿舎新設の予算要求を行う。高専機構が主催する私費留学生の受入を前向きに検討する。

⑨　在籍する留学生を対象とした見学旅行を前年度に引き続き実施する。また、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する。

４．管理運営に関する事項

①　昨年度に引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングを行い、戦略的かつ計画的な配分を行う。

資料11－２－①－１の続き

② 東海・北陸地区国立高等専門学校校長会議及び国立高等専門学校教員出身校長研究会等に参加し、積極的な情報収集を行うとともに、それらを踏まえて本校の管理運営の在り方について、更に検討を進める。また、主事クラスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教員研修【管理職研修】に積極的に参加 して検討を進める。

本校の外部評価機関である「運営諮問会議」をさらに充実し、本校の円滑な運営を図る。

③ 高専機構において示された「事務マニュアル」に基づき運営業務を実践し、業務の効率化を図る。

④ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。

技術職員については、東海・北陸地区高等専門学校技術職員研修会及び西日本地域国立高等専門学校技術職員特別研修等に参加させる。また、技術職員の能力向上および地域貢献のため、その他の研修会や研究発表会に積極的に参加するとともに、技術職員が積極的に参画した公開講座や出前授業の実施についても検討する。

⑤ 昨年度に引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校間などの人事交流を積極的に推進する。技術職員の人事交流についてはこれまで同様、技術長会議等で積極的に検討する。

⑥ 平成 22 年度に総合情報センターに移行したｅ－ラーニングシステムと専攻科の業務システムを、管理面と利用者の利便性の面からカスタマイズする。「業務情報ポータルサイト」についても、より利用しやすくするために、ページ構成などの調整を行う。

⑦ その他

昨年度に引き続き、本校の目的に適合するように各種委員会及び諸規則の見直しを行うとともに、各会議時間の短縮等効率的な会議の運営を実践する。

５．その他

昨年度に引き続き、本校の創立５０周年記念事業の実施に向けて準備を進める。創立５０年史編集委員会を設置して編集を進める。

法人格を有する「静岡県東部地域産学官連携振興会（仮称）」 の設立準備を推進する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

一般管理費（人件費相当額を除く。）については３％，その他は１％の業務の効率化を図る。

引き続き、リーダーシップ経費等の戦略的かつ計画的な配分を行うとともに、契約に当たっては、原則として一般競争入札等によるものとし、競争性、透明性を確保する。

引き続き、高専機構で実施する高専相互会計監査を受審する。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む。），収支計画及び資金計画

引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。

Ⅳ 短期借入金の限度額

（該当無し）

Ⅴ 重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画

本校所有の土地の譲渡を検討する。

香貫宿舎団地（静岡県沼津市南本郷１４－２７）・・２８８．１９㎡

Ⅵ 剰余金の使途

（該当無し）

Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

１ 施設・設備に関する計画

教育研究の推進や学生の福利厚生の改善に必要な施設整備の一環として、実習工場の改編や昨年度完成した学生支援ゾーン内への「学生キャリア支援室」の設置を検討するとともに、尚友会館の利活用整備等について具体的に計画をし、実施していく。教室・ゼミ室・実験室等の老朽化・稼働率等の状況を確認し、本校の施設的課題を盛り込んだ利活用整備計画案を策定し、実施に向け調整していく。

資料11－２－①－１の続き

２ 人事に関する事項

（１）方　針

教員の技術科学大学及び高専間交流を活用するなど、教職員の人事交流を積極的に進め、多様な人材の育成を図ると共に、各種研修に積極的に参加し資質の向上を図る。また、事務職員の他県の機関との人事交流を検討する。

（２）人員に関する計画

常勤職員の職務能力向上のため、「機構職員の業務改善目標等実施要領（平成２０年７月１７日制定）」に基づき、各自の業務改善に係る達成目標を明確に設定させ評価を実施する。また、引き続き再雇用制度を活用した有効な人事配置を計画し実施する。

３ 積立金の使途

（該当無し）

以 上

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－２－①－２

沼津工業高等専門学校 平成22年度 年度計画自己点検評価表

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

沼津高専第２期中期計画	沼津高専 平成22年度 年度計画	担当部署	年度計画実施状況	自己評価点
	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置			
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項			
(1)入学者の確保 ① 近隣地域の中学校長や中学校PTAなどの組織との関係を緊密にするとともに、マスコミ等への広報活動を積極的に行う。	(1)入学者の確保 ① 沼津市教育長や中学校校長会会長に、本校の運営諮問会議委員を委嘱する等、近隣市町村の教育委員会との連携を深め、中学校理科教員への支援策などの検討を含め、更なる中学校との連携強化を図り、中学校に対する沼津高専としての広報強化策を引き続き検討する。 沼津高専独自の広報資料を作成し、県内及び近隣県（神奈川県、山梨県）の中学校等への広報活動を引き続き積極的に行う。	・アドミッション委員会	沼津市教育長や中学校校長会会長（沼津市立原中学校長）に引き続き、平成22年度の運営諮問委員を委嘱した。また、近隣中学校への新たな教育支援として教員派遣及び教材提供（11月実施）するなど中学校との連携強化を進めた。 入試広報用リーフレット「NCT Today INTRODUCTION」を6万8千部作成し、県内（265校）、山梨県（93校）及び神奈川県西部（70校）の各中学校に送付（3年生全員への配布を依頼）した。また、入試広報用冊子「NCT Today 2010」を1万2千部作成し、県内外（477校）の各中学校（各10部～20部）に送付し、周知を依頼した。	A
②中学生が沼津高専の学習内容を体験できるよう、入学説明会、体験入学及びオープンキャンパス等を充実させ、特に女子学生の志願者増に向けた取り組みを推進する。	② 受験生の確保の観点から、静岡県だけでなく高専のない近隣県（神奈川県、山梨県）なども包含し、効果的な入学説明会を実施する。女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を意識的に多く盛り込む）などの作成や機構本部作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。	・アドミッション委員会	7月に富士吉田市（山梨県）、沼津高専（県内／2回実施）、9月に小田原市（神奈川県）、島田市（県内）、浜松市（県内）、静岡市（県内）、10月に沼津高専（県内／中学校教員対象）、11月に沼津高専（県内／2回実施）で進学説明会（参加者総数693名）を実施した。 また、11月の進学説明会（高専祭同時開催）に併せ中学生向け企画として2日間にわたりミニ体験授業（各学科毎に午前・午後実施／総実施回数24回）を実施した。 女子学生からの紹介（授業、寮生活・寮生会、就職活動、クラブ活動、専攻科における学生生活と研究活動）のページや女子学生の進路先データを掲載した入試広報用冊子「NCT Today 2010」を作成し、HPにも掲載を行った。 本校作成の入試広報誌を高専機構に提供した。また、機構本部から提供された資料（キラキラ高専ガールになろう！、KOSENナビ、朝日中学生ウイークリー）を本校進学説明会などにおいて積極的に活用した。	A
③ 中学生やその保護者を対象とする各学校が共通的に活用できる広報資料作成において、本校が提供できる資料等があれば、積極的に高専機構に提供する。	③入試広報部門の学内体制を強化し、中学校訪問、進学説明会、1日体験入学、出前授業、公開講座、ミニ体験授業及びキャンパスツアー等各種入試広報活動の内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方（集中と選択）を検討する。中学生やその保護者を対象とする広報資料作成において、高専機構に提供できる資料等を積極的に提供する。	・アドミッション委員会	欠員であった入試係長を新たに配置するなど学内体制の強化を図り、志願者確保の観点から県内だけでなく高専のない近隣県（神奈川、山梨）を包含し、昨年度の内容をさらに充実（訪問中学校の増加、配布資料等の拡充など）させて実施した。 また、より効果的な入試広報の在り方（1日体験入学の複数回実施、公開講座の集中実施など）について検討を進め、次年度は10月初旬に「中学生のための体験授業」を実施することを決定した。	A
④ ものづくりに関心と適性を有する者など沼津高専の教育方針にふさわしい人材を的確に選抜できるように入試方法の見直しを行う。	④ 入学者の質の検証の観点から、入試データだけでなく入学後の学力及び生活状況等との相関についても分析を行うと共に、入試方法の改善方策（最寄り地受験制度など）についても引き続き検討を行う。	・アドミッション委員会	入学者の質の検証の観点から、入試データだけでなく入学後の学力及び生活状況等との相関について分析を行い、入試方法の改善方策（最寄り地受験制度など）についても引き続き検討を進めた。	A
⑤入学者の学力水準の維持に努めるとともに、入学志願者数が、前年度の人数を下回らないよう、努力する。	⑤ 入学者の学力水準を維持すると共に、入学志願者が減少している学科においては、昨年度の志願者の分析結果に基づき、入学志願者の確保（広報活動の充実）について引き続き改善策を検討し努力する。	・アドミッション委員会	入学志願者の確保（広報活動の充実・改善、選抜方法のあり方、学科構成の見直しなど）について引き続き検討を進めた。 また、小中学生を対象とした公開講座（32講座）の実施、各種イベント等への出前授業の積極的参加、キャンパスツアーの複数回実施（9月～12月上旬の金曜日）、各中学校主催の高校説明会等への積極的参加、進学説明会（1日体験入学・高専祭）に伴う浜松駅からの無料送迎バスの運行、近隣中学校への放課後学習支援、入試広報ノベルティ（ボールペン、シャープペン、蛍光ペン、クリアファイル、焼き菓子）の作成など様々な入試広報活動を行った。様々な入試広報を行うなど入学志願者の確保について努力したが、学力選抜においては、前年度の入学志願者数を大幅（50名減）に下回る結果となった。	B
(2)教育課程の編成等 ① 産業構造の変化や技術の高度化などの時代の進展に即応した対応が求められる中、静岡県東部における地域性や特色・立地条件等に応じ、個性ある多様な発展を目指し、自主的・自律的な改革を進める。地域事情に合わせた学科構成を検討し、学生の就職・進学状況や学科・コース構成に則した専攻科の整備・充実を検討する。	(2)教育課程の編成等 ① 産業構造が、環境、エネルギー、福祉、医用等の方向に変化していることを踏まえ、学科の大括り化、コース制の導入、新分野の学科の設置、改組、再編、整備等の必要性について、将来検討WGを設置し、同WGにおいて調査・審議し、9月末日までに検討結果を纏める。 また、専攻科では本科で修得した領域工学の能力を基にして、複合領域の工学教育について検討を行う。科学技術振興調整事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」により育成するエンジニアが静岡県東部の地域再生計画に貢献する度合を調査しつつ、専攻科における「医用機器開発エンジニア養成コース」の必要性と可能性について調査する。	・教務委員会 ・専攻科 ・地域共同テクノセンター長 ・将来検討WG	産業構造が、環境、エネルギー、福祉、医用等の方向に変化していることを踏まえ、また運営諮問会議における委員からの同様の指摘に対応するために、「将来検討WG」を設置し、「沼津高専教育課程におけるコース制導入に関する答申」をまとめた。同WGでは、産業構造の変化や技術の高度化に対応できるように学科横断型共通専門科目の新設（コース制の導入）及び低学年の混合学級・共通実験・ミニ研究の骨子案を作成し、教員会議にて趣旨とその方針について説明した。また、平成24年度入学生よりコース制導入を行うための実施案を作成した。さらに、平成24年度2年生よりミニ研究を実施するための実施案を臨時教員会議にて説明した。教務委員会においては、コース制導入WGと協力して、平成24年度2年生よりミニ研究を実施するための具体的な対応策を審議・決定した。専攻科においては、専攻科複合実験により複合領域の教育を実施しており、その教育効果の検証結果を担当者が報告書としてまとめ、実務における異なる専門分野のスタッフによるグループワークの重要性について学生が強く認識したことを確認した。 また、科学技術振興調整事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は計画通り進行しており、専攻科における「医用機器開発エンジニア養成コース」の必要性と可能性について、平成22年度高専機構の特別教育研究経費を活用して調査・検討を進めた。	A

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

② 地域産業界における人材需要や学生のニーズの変化等に対応するため、コース制の可能性や複数学科による共同授業など、弾力的な授業実施形態の導入について検討する。また、地域や学生のニーズにあった科目編成となるよう改善を図り各学科の特色を際立たせる。	② 将来検討WGの検討結果に基づき、産業構造の変化や技術の高度化に対応できるように学科の大括り化・コース制の導入等の具体策を検討する。	・教務委員会 ・将来検討WG	平成24年度から2年生のミニ研究を導入すべく、平成23年度1年生の教育課程等の変更について第5回教務委員会で審議し第6回教務委員会で決定した。 また、将来検討WGを学際教育導入推進WGと改め、平成24年度1年生のカリキュラム策定及び1年生混合学級の導入に向けての具体策検討を開始した。	A
③ 各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し、教育課程のさらなる改善に役立てる。具体的には、全国高専学習到達度試験に参加する。また英語については、外部英語試験を積極的に活用しその評価を参考にしながら、技術者として必要とされるコミュニケーション能力を伸長させる。	③ 各学年に対応した外部英語試験の実施や、3年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」への継続的参加により、該当科目についての修得状況の把握に活用すると共に、試験結果の分析を行い、その結果を教員FD研修会等で全教員に周知し、全教員が共通認識を持つことで、専門科目を通じて数学、物理の力を伸ばすべく連携を図るなど、教育改善に役立てる。 英語力のレベルを学年の推移を追って客観的に把握しやすくするため、1,2年生でTOEIC Bridgeテスト、3,4年生でTOEIC IPテストを全学生が受験する体制を整え実行する。	・教務委員会	英語に関しては、1,2年生でTOEIC Bridge テスト、3,4年生でTOEIC IPテストを全学生が受験する体制を整え、10月に実施した。数学に関しては、4年生全員に工学系数学統一試験(EMaT)2010を12月に受験させた。3年生全員に全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」を1月にさせた。工学系数学統一試験(EMaT)2010の結果の分析結果については、教員会議で数学科教員より報告された。全国高専学習到達度試験結果についても、担当教員から全教員に対してメールで報告した。	A
④ 学生による適切な授業評価・学習到達度評価を実施し、その結果を教育課程の改善に活用する。卒業生による学校評価の方法について検討し、推進する。	④ 各期末に行っている学生による授業評価アンケートの改善を図り、教員の授業改善に反映させる取組を継続して行う。3年生と5年生による学習到達度自己評価の結果と4年生と5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価は継続して実施し、結果を比較分析し、教育課程の改善及び教材の充実等に役立てる他、このPDCAサイクルを継続して実行する。 また、卒業生による学校評価の方法について同窓会や近隣企業の協力のもとに、実施する方向で計画する。	・教務委員会	授業評価アンケートに関しては来年度から変更するべく、本科生と専攻科生用の設問内容の調整を進め、改善案を策定した。 4年生と5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価は4月に実施した。3年生と5年生による学習到達度自己評価は2月に実施し、その結果は総務委員会で報告した。 卒業生・修了生による学校評価は2011年1月にアンケート調査を実施した。	A
⑤ 高専体育大会などの全国的な競技会やロボットコンテストなどの全国的なコンテストに、積極的に参加する。	⑤ 高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。また、高専シンポジウムや各学会及び各協会の発表会、近隣大学との共同発表会などにおいて、学生の研究発表を積極的に進めるための支援を行う。	・学生委員会 ・教務委員会 ・専攻科 ・総合情報センター長	高専体育大会東海大会では、4競技(野球、卓球、弓道、空手道)、全国大会では水泳競技において会場校として大会の運営を担った。ロボコン東海北陸地区大会にA・B2チームが参加した。プログラミングコンテストには自由部門と競技部門に各1チームが参加した。英語プレゼンテーションコンテストに初めて1チームが参加した。デザインコンペティションにS科学生チームが参加した。ETロボコン(組込みソフトウェアデザインロボットコンテストにD科学生チームが参加し、総合順位4位となり、チャンピオンシップ大会に出場した。第3回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップの中で開催された「学生のディジタル設計造形コンテスト(課題:ビーズポンプ)」にM科学生チームが参加した。16高専中で4位(SolidWorks賞)の成績を収めた。第1回原子力・エネルギーに関する課題研究コンクールのC科学生チームが参加し全国大会に臨んだ。このように多くのことに積極的に学生を参加させた。静岡県東部地域の4大学、1専門学校、2工業技術支援センターと本校とで開催した「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010」では、開催運営にも積極的に参加(副実行委員長など)し、また、専攻科生及び本科5年生が参加し102件のポスター発表を行った。専攻科だけで見ると、平成22年12月15日実施の近隣大学間共同学生研究発表会である「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010」及び平成23年1月22日実施の「第16回高専シンポジウムin米子」への学生の参加を呼びかけ、「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010」には42名の学生が、「第16回高専シンポジウムin米子」には5名の学生が参加した。その成果として、「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010」では7名の学生がベストポスター賞優秀賞を受賞した。その他、日本機械学会流体工学部門講演会優秀講演表彰、日本機械学会・東海支部卒業研究講演会Best of presentation賞、電気学会東京支部電気学術奨励賞を、学生各1名が受賞した。	A
⑥ ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の実績を踏まえ、その実施を推進する。	⑥ 校外清掃などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等、ボランティア活動への参加を推進するとともに取り組みを支援する。 工場見学など生産現場を見学する機会に、実際の社会での「清掃」の重要性を学ぶ場を増やすよう努力する。	・学生委員会 ・アドミッション委員会	いずれも沼津市が主催したゴミフェスタin千本浜(6/20実施)、市内一斉清掃活動(11月)に学生会を中心として参加し清掃活動を通じて地域貢献を行った。また、10/2には沼津特別支援学校運動会の大会運営にボランティアとして本校ラグビー部員が協力し、交流を深めた。小中学校を対象とした出前授業を始め、市町村などが主催する各種イベントにも体験実験補助スタッフ等として多くの学生が活動を行った。	A
(3)優れた教員の確保 ① 多様な背景を持つ教員組織とするため、公募制の導入などにより、教授及び准教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。	(3)優れた教員の確保 ① 教員の採用は公募制を原則とする。昨年度と同様、本校外の勤務経験や1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を、採用・昇任にあたって重視し、教授・准教授については、これらの経験を持つ者が、全体として60%を下回らないようにする。	・校長 ・教務主事	教員の採用は全て公募で行った。教養科の教員、英語(准教授)1名、数学(准教授)1名及び電子制御工学科の教員、准教授1名、助教1名を公募し、複数の応募者の中から書類選考により選出した2～3名の応募者に模擬授業、一次面接、二次面接を課して平成23年4月1日付けで採用を内定した。教養科の教員、准教授(化学)及び講師(物理)の教育実績、学生指導実績、研究実績を評価して平成23年4月1日付けで教授及び准教授に昇任を内定した。また、電子制御工学科の准教授1名についても同様の評価を行い、平成23年4月1日付けで教授に昇任を内定した。	A
② 教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、採用された学校以外の高等専門学校などに1年以上の長期にわたって勤務し、またもとの勤務校に戻ることのできる人事制度を活用するほか、高等学校、大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。	② 教員が積極的に他機関との人事交流に参加できる環境を整えるために、研究・研修期間中(特に長期の場合)の非常勤講師人件費の予算立てをする。	・校長 ・教務主事	高専機構の人事交流制度により、香川高専へ教養科教員1名(H22～H23の2年間)、豊田高専へ電気電子工学科教員1名(H22～H23の2年間)を出した。在外研究員として物質工学科教員1名を英国のレスター大学へ(H22の1年間)派遣した。当該教員の所属学科に対し必要な非常勤講師人件費を手当てした。 H23年度には豊橋技術科学大学へ制御情報工学科教員1名を人事交流で送り出し、豊橋技術科学大学から教員1名を制御情報工学科に受け入れることとした。	A
③ 専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。	③ 昨年度と同様、専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や高等学校等における教育経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。	・校長 ・教務主事	平成23年4月1日付けで採用を内定した教養科・英語(准教授)1名、数学(准教授)1名及び電子制御工学科・准教授1名、助教1名はいずれも採用要件を満たしている。 専門科目担当の教員については全体として70%以上、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%以上が必要要件を満たしている。	A
④ 女性教員の比率向上を図るため、必要な制度や支援策について検討を行い、働きやすい職場環境の整備に努める。	④ 女性教員への面談等を実施し、女性教員の働きやすい職場環境に配慮しつつ、現場教員の要望を反映できるような体制整備を図る。	・校長 ・3主事	今年度中に女性教員との面談を行って改善すべき点等について聴取する予定であったが全女性教員の意見聴取まで至らなかった。育児休業から復帰する女性教員に対して、要望に基づき、3歳児以下の幼児養育を配慮して学力選抜入学試験監督を免除する等の配慮をした。 寮においては、女性教員の要望を聞き、女子寮巡回日(曜日)を設定している。	B

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

⑤ 中期目標の期間中に、全ての教員が参加できるようにファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生涯教育などに関する研修のため、地元教育委員会主催の講習、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣や、リカレント教育に積極的に参加するよう努める。	⑤ 年度当初に計画した学内教員FD研修会（年4回開催：9月、7月、10月、12月）を実施し、教員自身の教育力向上を目的とした研修を実施する。また、特に一般科目や生涯教育などに関する研修のため、地元教育委員会主催の講習、高等学校の教員を対象とする研修等に派遣や、リカレント教育に積極的に参加するよう努める。	・校長 ・主事 ・特定業務担当校長補佐	教員FDの研修会を4回（6月、7月、10月、3月）実施した。5月には学年生の教育方法に関して、7月には担任の教育力を上げる方策について、10月にはキャリア教育、3月にメンタルヘルスに関するテーマにした教員FD研修会を実施した。 6～7月に教員相互の授業参観を実施し、延べ55回の授業の参観を行った。	A
⑥ 環境本部に対し、教育活動や生活指導などに関して関連する研修が提供されるよう教員や教務グループを各年度末に表彰対象者として推薦する。	⑥ 環境本部への意識の高揚の観点から、環境本部で実施する教員表彰制度について、積極的に推薦していく。	・校長 ・主事	昨年度に続き、今年度も環境本部の教員表彰制度に教職員の表彰１名を推薦した。	A
⑦ 期間中に、5名以上の教員に長期海外研修や国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加を推進するとともに、それらの研修成果に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。	⑦ 教員の国内外の大学等での研究又は研修等への積極的な参加及び推進をするとともに、それらの研修成果に向けての学内体制（非常勤講師等の予算措置等）の整備を図る。	・校長 ・教務主事	国内で開催される各種学会の学術講演会・シンポジウム・講習会等へ参加及び大学教員との研究打合せ以上により、海外で開催される国際会議への参加を奨励してより、出張旅費及び参加費等については教員に配分された運営費交付金で対応を図っている。また、非常勤講師で対応している。在外研究員として物質工学科教員１名を英国レスター大学へ１年間派遣した。当該学科に対し必要な非常勤講師人件費を当てた。	A
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 高専機構が実施する独立高等専門学校の特性を踏まえた教育プログラム」や各技術者教育プログラム」に積極的に参加する。平成20～22年度から引き続き開催されている高専における技術者教育のための学習教育プログラム」が2年目に入り、本校においても2年目の講師をシンプスト」に派遣し、設計教育に対する学びのモデベーションの向上に努める。 「高専と産業界との連携によるコミュニケーション（リーダー育成のための双方向型教育プログラム」の開催を図る。 ディベロップメント全学的の教員が参加し、PBL方式の教育やエンジニアリングデザイン教育の充実を図る。	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ① 機構が主催する独立高等専門学校の特性を踏まえた教育プログラム」や各技術者教育プログラム」に積極的に参加する。平成20～22年度から引き続き開催されている高専における技術者教育のための学習教育プログラム」が2年目に入り、本校においても2年目の講師をシンプスト」に派遣し、設計教育に対する学びのモデベーションの向上に努める。 「高専と産業界との連携によるコミュニケーション（リーダー育成のための双方向型教育プログラム」の開催を図る。 ディベロップメント全学的の教員が参加し、PBL方式の教育やエンジニアリングデザイン教育の充実を図る。	・校長 ・教務主事	長岡技術科学大学を会場にして開催された高専機構が主催した「全国高等教育フォーラム」には多数の教職員が出席し、教育教員研究集会、情報処理教育研究集会など に出席した。また、豊橋高専で平成23年1月に開催された「第9回高専におけるPBL教育のための産学連携ワークショップ」及び「PBL方式の学生による設計・製作」と題した「エコラジコン（リ－チ）」作品の水深測定と力の発電量と通信機構 －10プロジェクトについては、来年度の高専機構の改革推進経費の獲得に向けて準備を進めた。 年度計画には記載しなかったが、高等専門学校情報処理教育研究委員会の委員長校として第30回高等専門学校情報処理教育研究発表会（会場：長岡技術科学大学、8月開催）の企画運営及び高専における次世代情報処理教育教材作業部会の運営を行った。	A
② 実践的技術者養成の観点から、実験教材を推進するとともに、日本技術者教育認証機構JABEEの認定を維持し、これを通じて教育の質の向上を図る。	② 平成21年度に受審したJABEEの継続審査の結果を踏まえ、学習教育目標の評価及び評価方法の明確化等、「総合システム工学」プログラムの教育内容の一層の改善を図るとともに、また、実践している総合実験の科目について、その教育効果に関する評価を行う。 引き続き、取得可能な資格を調査し、カリキュラムとの対応について検討する。	・教務主事 ・専攻科長	取得可能な資格の調査とカリキュラムとの対応に関する検討は審議できなかったが、ディジタル技術検定やOS(Office Specialist)の受験を積極的に推進した。教育科目については、平成21年度受審のJABEEの審査結果に基づき学習教育目標の達成度評価方法の明確化等の改善策について、教育改善・運営委員会において検討を行った。その結果、今後、必修科目を中心として学習教育目標との関連性をさらに明確とすることや、授業アンケートを利用して達成度評価を行うなどの案が出され、その実施の可能性について今後も検討を継続していく予定である。授業アンケートについては、本科と専攻科での内容をすり合わせた案の作成作業が進んだ。	A
③ 毎年度サマースクールや国内留学などの多様な方法で学校の枠を越えた学生の交流活動を推進する。	③ 学生会、寮生会を通じた行事等において、他高専学生等との交流活動を積極的に推進する。	・教務主事 ・学生主事 ・寮務主事	高専生との卒業生による プレゼン型技術知識会議である「高専カンファレンス」が12月に本校を会場にして開催され、他高専の卒業生も含め学生間の交流活動が行われた。 静岡県沼高専留学生交流会に7名の留学生を参加させた。　高専シンポジウム本校で開催した他、静岡県部の4大学、1専門学校、2工業技術支援センターとで、研究成果を発表しあう「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2010」(A&Sフェア)を共同開催した。207件の発表の内、沼津高専からの発表は約半数の101件を発表した。 寮については、9月29日(水)沖縄高専寮務主事、寮生会長、副寮長と本校寮生会との情報交換及び交流会を本校学寮で実施した。 10月3日(水)～10月17日(日)－開おおよび創造高専との交換寮生実施。1月15日(土)豊田高専寮務関係教員、寮生会役員約20名が本校寮生会との情報交換および交流会を実施するために本校学生寮を訪問した。	A
④ 特色ある教育方法の取り組みを促進するため、学内で行われている新しい試みや、効果的な事例を積極的に公開する。また、新しい教育方法の試みを行い、やさしい体制に整備する。	④ 全校高専で実施している新しい教育方法の試み、効果的な取り組み事例を積極的に公開するとして教育改善に役立てる。	・教務主事	「全国高等教育フォーラム」の中で開催された教育教員研究集会に「環境寮務主事として教務主事に比較検討」を分担した。他高専の新しい教育実践例や効果的取組み事例を調査した。本校教員の授業の工夫実践例（昨年度収集）23件を本校のWeb上に掲載し全教員で情報共有できるようにした。その中の2件について、東海工学教育協会高専部会2010年度シンポジウムで発表した。	A
⑤ 平成23年度に大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価を受ける。	⑤ 平成23年度に受審を予定している大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価に向けWGを立ち上げて準備作業を開始する。	・校長 ・教務主事	認証評価WGを立ち上げ、基準ごとの分野分担の決定及び各基準毎の骨子を取り纏めた「三段表」を作成し、自己評価書作成の基本的作業を開始した。また、大学評価・学位授与機構から提示された「学内説明会全般」説明し、自己評価書作成に係る留意点等について周知を図った。自己評価書の作成を組織的に進め、定期的にWGの会合を開き進捗状況を把握しつつ作業を進めた。	A

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

⑥ インターンシップの取組を継続し、産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育推進の実施体制を整備する。	⑥ 企業技術者等を活用した「ものづくりステップアップ実践プログラム」の継続的実施、キャリア教育の強化及びインターンシップの活性化等、地域企業との「共同教育」の定着を図る。	・教務主事 ・学生主事	本年度も「ものづくりステップアップ実践プログラム」を継続的に実施し、1年生から5年生の本科生と専攻科生に企業の製造現場見学(6社)や第一線の技術者による講義(25名)を行った。その中で、技術者としての職業観育成、企業見学による現場の理解、インターンシップによる実体験などキャリア教育的側面の整備を図った。4,5年生のインターンシップ参加者は昨年度とほぼ同数の73名であった。就活直前の4年生に対しては企業人事部長を講師とした5回シリーズの「キャリアアップセミナー」も実施した。	A
⑦ 企業の退職技術者など、知識・技術をもった意欲ある企業人材を教育に活用する体制を構築する。	⑦ 退職技術者等を活用する教育について、同窓会で構築を進めている人材バンク等の協力を仰ぐなどして、学校としての取組体制の充実を図る。	・教務主事	本校OBの企業退職者の協力を得て、特にキャリア教育の面で支援を仰ぐ体制整備を開始した。	B
⑧ 近隣の理工系大学等との教育・研究に関する連携協定の締結を行う等、有機的な連携を推進する。	⑧ 昨年度、教育研究交流協定を締結した東京工業大学及び静岡大学をはじめ、豊橋技術科学大学等との連携を生かした取組の実践を推進する。	・校長 ・教務主事	7月に、東京工業大学 大倉副学長の記念講演を依頼し本校にて実施した。記念講演後に本校との連携を生かす具体的方策についての意見交換を行った。12月に、豊橋技術科学大学 榊学長の特別講演を本校にて実施した。講演前の懇談会で、両校の連携の可能性などに関する意見交換を行った。包括協定を締結している東京工業大学及び静岡大学との連携については、具体的活動の実現に向けて情報交換を行っている。静岡県理工系教育機関連携推進協議会に加盟した。	B
⑨ 高専IT教育コンソーシアムのメディア教材の活用を図るとともに、学内の e-ラーニングコンテンツの充実を図る。	⑨ e-ラーニングについては、現行のBlackboard からフリーソフトのシステムへ移行するため、ソフトウェア及びハードウェアの変更と更新を行う。高専IT教育コンソーシアムの教材の活用は継続して検討しつつ、他の利用可能なコンテンツの調査を進め、学内 e-ラーニングコンテンツの充実に取りかかる。	・教務主事 (e-LearningWG)	e-ラーニングについては、現行のBlackboard から Moodle へ移行するため、ソフトウェア及びハードウェアの変更と更新を行った。両者を併行して運用しながら、適宜 Moodle の使用方法説明会を開き移行を推進した。来年度より Moodle に全面切換えするための準備を完了した。 高専IT教育コンソーシアムの教材の活用は継続して検討しつつ、他の利用可能なコンテンツの調査も含め、今後学内 e-ラーニングコンテンツの充実に取りかかる体制を整備した。	A
⑩ 教育用計算機環境の充実を図る。	⑩ 平成21年度に統合した総合情報センター、電子制御工学科、制御情報工学科の情報処理演習室の教育計算機システムにおいて、質の高い計算機環境を提供する。また、マイクロソフト包括ライセンスを活用するための環境を整備する。	・総合情報センター長	年に4回以上の高頻度でソフトウェアのアップデートや新規ソフトウェアのインストールを実施し、最新の計算機環境を提供した。 マイクロソフト包括ライセンスの活用については、教職員用には、学内ポータルサイトを通じて情報提供を行い、積極的な利用をサポートした。学生向けには、学内でメディア購入の受付をおこなっており、これまでに500ライセンス以上の利用があった。	A
⑪ 教育の質の向上に学科等の枠を越えて取り組み教育内容と方法の改善を図る。	⑪ 一般科目と専門科目の教授内容等に関する情報交換の機会を増やし、学科の枠を越えた共同教育・教員相互の授業参観等を推進し、教員FD研修会の場も活用して教員の教育力向上と教育の質の向上を図る。	・教務主事 ・特定業務担当校長補佐	4月に理科系(物理、化学)教員と専門科目教員との情報交換会を開催した。また、教員FD研修会を、5月「低学年生の教育方法に関して」、7月「担任の教育力を上げる方策について」、10月「キャリア教育」及び3月「メンタルヘルス」のテーマ下で、年4回開催し、全学科教員参加のもとで講演とパネルディスカッションを実施した。 教員の資質の向上の観点から計画された教員相互の授業参観では、学科を越えた参観を積極的に実施した。	A
(5)学生支援・生活支援等 ① 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、半数以上の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、中期目標の期間中に全ての教員が受講できるように、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会等を実施する。	(5)学生支援・生活支援等 ① 昨年度に引き続き、メンタルヘルスに関する学生支援、キャンパスハラスメント、AEDを含む救命救急に関する講習会等を継続して実施する。独立行政法人日本学生支援機構の主催する学生支援、就職・キャリア支援等の研修会やメンタルヘルス研究協議会に教員を派遣して学生支援体制の充実に努める。 すべての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員FDにて実施する。 「友人づくり支援」を念頭に1年生、3年生の宿泊研修を活用する。	・学生主事 ・寮務主事 ・学生生活支援室長	救命救急に関しては、プロのライフセーバーを講師に迎え4月、12月の2回、すべてのクラブの代表部員とクラブ顧問を対象に講義と実習(実技)を行った。9月には東海北陸地区のメンタルヘスル研究協議会に学生主事、学生支援室長が参加し、それぞれの立場に関する研修を受け、学生の現状に即した学生支援の在り方について研修を受けた。11月と12月に日本学生支援機構が実施した全国学生指導者研修会およびインテーカーセミナーに学生主事が参加し、就職支援やメンタルヘルスに関する最新の情報を得ると同時に、様々な事例について学んだ。2月にはメンタルヘルスをテーマとした教員FDを実施する予定である。4月、1年生全員を対象とした1泊2日の研修を御殿場の国立中央青少年交流の家で開催し、学校での学習や生活について学ぶと同時にクラスメイトや他学科の級友と交流を深めた。 学生支援室においては、週日、15:30～17:00 学生生活支援室員が相談室に待機し、学生の相談に応じる体制を整えており、週2日、カウンセラーに学生のカウンセリングを行ってもらう1，2年生を対象に学生アンケートを実施し、学生の生活状況を把握するとともに、記述式でいじめや悩みの吸い上げを行った。 その他、平成22年度東海・北陸地区メンタルヘルス協議会や第48回全国学生相談研修会に参加した。 寮については、8月30日(月)寮生会役員夏季研修において長泉消防署で約30名の役員が救命救急講習を受講。3月4日(金)来年度寮生会役員春季研修において長泉消防署で約30名の役員が救命救急講習を受講した。	A
② 図書館の充実や寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。また図書館において、電子資料やネットワーク資源と紙媒体資料の双方を有効利用できるハイブリット図書館構想を推進する。	② ハイブリット図書館構想の一環として、昨年度増設した情報検索用端末を有効に活用すると共に、図書館における自主学習スペースの充実を図る。また、図書館の利用実態を調査分析することで学生のニーズの把握に努める。 また、留学生・専攻科生用の学生寮の増築およびシャワー室を拡充するための予算要求を行う。	・図書館長 ・寮務主事	ハイブリット図書館構想の一環として、昨年度増設した情報検索用端末を有効に活用するとともに、図書館における自主学習スペースの充実を図った。また、図書館の利用実態を調査分析することで学生のニーズの把握に努めた。	A

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

③ 本校学生が利用している各種奨学金制度などの学生支援に係る情報の提供体制を充実させるとともに、同窓会・産業界等の支援による奨学金制度の創設に向けた可能性について検討を行う。	③ 学生が利用している各種奨学金に関する情報を集約し、学内限定ページに掲載する。同窓会奨学金および企業による奨学金の活用状況の調査を行った。	・学生主事	本校ホームページ上に学生が利用できる各種奨学金お応び入学料・授業料免除に関する情報をまとめ、学生が見やすい（たどり着きやすい）位置に掲載した。また、同窓会奨学金および企業による奨学金の活用状況の調査を行った。	A
④ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。	④ これまでの説明・進学に関する新規情報は、従来どおり各学科で整理して学生の進路指導に活用できるように努める。学生支援業務を効率よく、かつ効果的に運用できるよう、学生相談室、保健室、カウンセリング室等、学生支援関連施設を一カ所に集約した「学生支援ゾーン」を新たに整備し、教職員間の連携強化を図る。また、求人情報の全学的集約や学生の就職対策指導等への体制整備として「学生キャリア支援室」の設置について検討を始めた。	・学生主事系・事務部長	今年度、学生支援事業を効率よく、かつ効果的に運用できるよう、学生課、保健室、カウンセリング室等、学生支援関連施設を一カ所に集約した「学生支援ゾーン」を新たに整備し、教職員間の連携強化を図る。また、求人情報の全学的集約や学生の就職対策指導等への体制整備として「学生キャリア支援室」の設置について検討を始めた。	A
⑤ その他 学生に対する福利厚生の充実を図る。	⑤ 学生寮における学生に対する福利厚生施設の運営状況を調査し、本校独自の施設の整備のあり方について検討する。	・学生主事	9月、岐阜高専を世話校として視察された高専機構理事長、学生担当理事、学生担当副理事、学生部長、寮務主任、寮務副主任、寮務係長、寮務係の7名が、学生寮の現状と課題について意見交換を行った。 情報収集した、1月、学生委員会メンバーを中心とした「尚友会館のあり方に関するWGワーキンググループ」を設け、平成内の組織要求などに、作業に入った。	A
(6) 教育環境の整備・活用 ① 全学的な視点に立った施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として、施設管理に係るコストを把握した施設・設備の有効活用や適切な維持保全・運用管理を実施する。	(6) 教育環境の整備・活用 ① 全学的な視点に立った施設マネジメントの充実を図るとともに、施設・設備についての実態調査を基礎として、施設管理に係るコストを把握した施設・設備の有効活用や適切な維持保全・運用管理を実施する。 本校の特色づくり（教育の質の向上）及び機能強化（第三期中期目標・中期計画）を踏まえ、施設整備計画を策定するとともに、機械第一、第二実習工場を改編し「創造工学センター」を設置し、「創造工学センター」を中心とした施設の運営状況や利用状況を評価し、老朽化施設・機器の更新や新たな教育研究環境の整備・改善に努める。	・施設整備計画委員会	本校の実習教育環境整備計画を作成し、今年度の計画的執行経費の決定に沿った教育環境整備を実施している。 S)補正予算での工事に対応できるよう、来年度以降の工事実習カリキュラムの組替えを行い、設計の体制にかかっている。 老朽化した機械実習工場の再構築するため、専門部会立ち上げ準備の上、施設整備費等要求書を提出した。（平成23年度概算要求枠価格前において、総合評価B	B
② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の保持及び学生・サークル活動の多様化等に対応した施設・設備の有効活用及び学生寮等の快適な環境を確保する。また、エコ対策の導入について、教育環境の向上に資するとともに、省エネCo2削減など エコ対策を推進する。	② 高校の進学指導等の進学作業の効率化を図り、また、ユニバーサルデザインの導入状況の実態を把握・分析し、その結果について、本校全体のエネルギーの方策を策定し、教育方針及び年次計画に反映させている。省エネルギー推進する エコ対策に関する教育研究を推進するため、総合工学科の新たな教育研究組織の編成を踏まえて、建築物系分野の新たな教育研究組織の整備を図り、建築工学科・創造工学科・情報電子工学科棟、機械工学科・電気電子工学科棟の改修計画を策定する。 また、エコ対策の導入について、教育環境の向上に資するとともに、省エネルギー推進する エコ対策に関する教育研究を推進するため、総合工学科の新たな教育研究組織の整備を図り、建築物系分野の新たな教育研究組織の整備を踏まえて、建築物系分野の新たな教育研究組織の整備を図り、建築工学科・創造工学科・情報電子工学科棟、機械工学科・電気電子工学科棟の改修計画を策定する。 科棟空調整備を盛り込んだ。	・施設整備計画委員会	本校の施設管理に必要な現状管理図やデータを収集し、それらを分析した結果に沿って、整備方針及び年次計画を策定している。 エコ対策については、本校全体のエネルギーの方策を策定し、教育方針及び年次計画に反映させている。省エネルギー推進する エコ対策に関する教育研究を推進するため、総合工学科の新たな教育研究組織の整備を図り、建築物系分野の新たな教育研究組織の整備を踏まえて、建築物系分野の新たな教育研究組織の整備を図り、建築工学科・創造工学科・情報電子工学科棟、機械工学科・電気電子工学科棟の改修計画を策定する。 科棟空調整備を盛り込んだ。	B
③ 中期目標の期間中に老朽化目の環境に対応する全ての教員・技術職員が快適であるように、現行の安全な学習環境の調査委員会組織して実施する。また、外部の各種講習会に職員を派遣する。	③ 現在行っている安全衛生管理のための年二回の講習会を継続して実施する。	・安全衛生委員会	7月に第一回、12月に第二回安全衛生セミナーを実施し、教職員の意識向上を図った。 安全衛生に関する教育等取得者のデータベース化を行った。それに基づき、今後5年間を見通した各種講習会への教職員派遣計画を策定し、それに沿って今年度の派遣を行った。	A
2. 研究に関する事項 ① 高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する研究資金に引き続き積極的に応募するとともに、また、技術科学大学が公募する共同研究のテーマに積極的に参画し、研究成果等についての情報交換会に参加する。科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。	2. 研究に関する事項 ① 高専機構及び技術科学大学が公募するプログラム並びに文部科学省等が公募する研究資金に引き続き積極的に応募するとともに、また、技術科学大学が公募する共同研究のテーマに積極的に参画し、研究成果等についての情報交換会に参加する。科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催する。 また、外部資金獲得に向けた説明会を開催する。	・地域連携・研究支援委員会	競争的資金への公募のため競争的研究資金の仕組みとNEDO申請のポイント(5/25JST)とJST A-STEP説明会(6/3JST)と科研費説明会(9/22総務)と科研費4種類各説明会(6/28東海大)とJST A-STEP説明会(3/2JST)を開催した。また、外部資金獲得のため、公募案件について全てメールで教員に配信するとともに、学内のグループウェアに掲載し、公募情報の具体的な公開に努めた。2/22日現在、その年度は34件まであるとともに、学校間の共同研究を実施するため制度作るため産学官連携推進会議(6/5沼津)とNEDO申請のポイント

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

③ 新TLO準備会、「大学ネットワーク静岡」TLO分科会に積極的に参加すると同時に、本校にて得られた研究成果の知的資産化のために新TLO準備会等の体制整備に継続的に協力する。	③ 昨年度に引き続き、技術科学大学が公募する共同研究テーマに積極的に応募する。「スーパー地域産学連携本部」が主催する催しに参加すると共に、教員の研究成果の知財化を推進する。また、新TLO（静岡TTO）への参加に向けて、本校の取組方法を検討する。	・校長、地域連携・研究支援委員会	昨年度に引き続き、技術科学大学が公募する共同研究テーマに積極的に応募した。「スーパー地域産学連携本部」が主催する催しに積極的に参加すると共に、教員の研究成果の知財化を推進している。技術科学大学が公募する共同研究テーマに7件申請し、7件が採択となった。また富山高専が開催する知的財産協議会や「エコプロダクツ2010(12/9-11:東京)」「全国高専テクノフォーラム」での展示に協力した。新TLO(静岡TTO)については、運営委員に校長及び技術移転促進会議メンバーとしてテクノセンター長等が参加した。 知財については機構本部の発明CDと特許情報活用支援アドバイザーによる講演を2/2,2/16の2回開催した。また、静岡TTOに業務従事者として参加した。	A
3 社会との連携や国際交流に関する事項 ① 地域共同テクノセンターの施設や設備の充実を計画的に推進する。地域共同テクノセンターは、平成21年度から5年間実施する「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業の運営を支援することにより、静岡県及び静岡県東部地区における医工連携の中心となる機能の強化を図る。	3 社会との連携や国際交流に関する事項 ①「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」事業を積極的に展開し、医用機器開発技術者育成を行うことにより地域貢献を図る。 沼津市の総務省受託事業「緑の分権改革」との共同事業である、一高専と地域が連携したエコタウンづくり一事業に積極的に取り組む。	・地域共同テクノセンター長	「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(Fmet)」事業については、講義等が順調に進んでいる。来年の「医用機器開発実習」におけるテーマ選定に向けて「静岡がんセンター」「静岡医療センター」「市立病院」その他からニーズを収集した。高専と地域が連携した「エコタウンづくり事業」については、沼津市とのヒアリングを行い、本校の協力体制について確認した。	A
② 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう、現行の広報体制を充実する。	② 産学連携関連ホームページの更新の検討、広報誌の発行、産学連携行事を引き続き実施すると共に、昨年度刊行した本校教員の研究シーズ集の内容充実を図り、研究シーズを積極的に発信する。「静岡県東部テクノフォーラin沼津高専」や「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事に積極的に参加し、共同研究等の成果を発信する。	・地域連携・研究支援委員会	ホームページに関しては新たに事務補佐員を採用し、全面的な更新を行った。広報誌は7月に「テクノセンターニュース」として発行し、関係各所、各種イベントにて配布した。研究シーズについては、新任教員や技術職員、複数件持つ教員に対して原稿依頼を行った。 地域での情報発信として「静岡県東部テクノフォーラin沼津高専」や「富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア」に積極的に参加した。	B
③ 小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、地域の小中学校との連携を強化する。	③ 近隣市町村の教育委員会との連携を深め、中学校理科教員への支援などの方策を検討する。	・アドミッション委員会 ・地域連携・研究支援委員会	「教職員研修において講義等が可能な大学教員等の一覧」をもとに静岡県教委から中学校教員に対する研修の講師派遣依頼を受け、当該教員を派遣できることとした。 沼津市教育長や中学校校長会会長（沼津市立原中学校）に引き続き、平成22年度の運営諮問委員を委嘱した。また、近隣中学校理科教員への新たな教育支援として教員派遣及び教材提供（11月実施）するなど中学校との連携強化を進めた。	A
④ 満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として公開講座の充実を図る。	④ 平成21年度の公開講座について、満足度に関する傾向を分析して平成22年度実施の参考資料とすると共に、平成23年度から始まる社会人対象の公開講座のニーズや内容を検討する。	・地域連携・研究支援委員会	小中学生向けの公開講座については、名称を変えて、アドミッション委員会に移管する予定であるが、アンケートによる満足度調査を行い、受講生のニーズについて分析を行った。社会人向けの公開講座のニーズについては「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」にてアンケートを取ったが具体的な案件が出てこなかった。このため、引き続き各学科1件程度を目途に募集した。一方、企業からの要請を受けて、本年から社会人向けに「エレクトロニクス基礎講座」を開講した。	B
⑤ 本校の卒業生の動向を把握するとともに、卒業者のネットワーク作りとその活用を図る。	⑤ 昨年度に引き続き、同窓会との連携を深め、卒業生に関する情報収集の方法について検討する。機構本部が推進する他高専の同窓会との連携に協力する。	・校長 ・3主事	地域連携・研究支援委員会と同窓会が連携してOBデータバンクの構築作業が進行中であり、OBに卒業生の情報収集、学生の教育及び産学連携等に組織的に参画を依頼した。 機構本部が主催する他高専の同窓会との連絡会に本校同窓会役員に出席いただき情報交換を行った。 年度計画には記載してないが、同窓会の全面的な協力のもとに平成24年の創立50周年記念事業の準備を進めている。同窓会は、退職後の会員を対象とした「人材バンク」用のホームページ(HP)を立ち上げた。学校はこの取り組みを支援し、学校側から同窓会会員に支援してもらう業務内容（非常勤講師、作業ボランティアなど）をHPに掲載して頂くなど、一層の連携強化を行った。	A
⑥ 安全面への十分な配慮を払いつつ、学生や教員の海外交流を促進するため海外の教育機関との国際交流やインターンシップを図る。高専機構が推進する学生や教員の海外交流事業、インターンシップ、JICA（国際協力事業団）を通じた海外への技術協力について前向きに取り組む。	⑥ 国際交流推進のため、海外の教育機関との学術交流協定締結を目的とした調査を行う。さらに学生の海外インターンシップの可能性を探るための調査を行う。 学生の語学研修や異文化交流体験事業を積極的に推進するという観点から、イギリスにて語学研修を実施する。	・国際交流委員会 ・特定業務担当校長補佐	ドイツのニュルンベルク応用科学大学（旧専門大学）との学術交流協定締結交渉（学生の海外インターンシップ条項を含む）を行ったが、不調に終わった。現在、他の応用科学大学との交渉を模索中である。また、H22年8月8日～23日の間、7名の学生がイギリスにて語学研修を行った。	B
	⑦ 昨年度に引き続き、機構の募集する海外インターンシップなどに積極的に応募するよう学生を指導する。	・国際交流委員会 ・特定業務担当校長補佐	研究指導教員の仲介で専攻科1年生がJICAケニア事務所でインターンシップを行った。また、機構主催第3回「海外インターンシップ・プログラム」に応募した専攻科1年生がH23年3月6日～27日の間、スイス（森精機製作所）に派遣された。	A
⑦ 留学生の受入れ拡大に向けて留学生向けの施設の充実に努める。	⑧ 留学生の受け入れに必要な施設整備として、留学生・専攻科生用寄宿舎の設置のための予算要求を行う。また、高専機構が提供する研修会などに積極的に協力し、参加する。	・校長 ・寮務主事	留学生の受け入れに必要な施設整備として、留学生・専攻科生用寄宿舎の設置のための予算要求を行った。また、高専機構が提供する研修会などに積極的に協力し、参加した。	A
⑧ 在籍する留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行などを企画、立案、実施する。また、東海地区高専留学生交流会の運営に積極的に参画する。	⑨ 在籍する留学生を対象とした見学旅行を昨年度に引き続き実施する。また、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加する。	・国際交流委員会 ・特定業務担当校長補佐	H23年6月、名古屋市内への見学旅行を実施した。また、H23年12月23日～25日、東海地区高専留学生交流会（スキー研修）に参加した。	A
4 管理運営に関する事項 ① 限られた予算の中で、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	4 管理運営に関する事項 ① 昨年度に引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングを行い、戦略的かつ計画的な配分を行う。	・校長	昨年度に引き続き、校長リーダーシップ経費配分の際に、全ての申請者からのヒアリングを行い、戦略的かつ計画的な配分を行った。	A

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

②　本校の管理運営体制に関し、外部有識者の意見を取り入れるために、「運営諮問会議」を設置する。その他、諸種の業務を行う研修会等に積極的に参加する。	②東海・北陸地区国立高等専門学校校長会議及び国立高等専門学校校長出席校長出席会議及び研究科（課程）の長で構成した学校運営、教育課題等に関する教育研修等に積極的に参加させ検討を進めている。運営諮問会議については、各外部委員の意見を学校運営に反映させるシステムの構築を図るべく、平成21年度年度計画の検証を行い、それを平成22年度年度計画に反映させる等、更なる充実に向けた取り組みを実施した。	・校長	東海・北陸地区国立高等専門学校校長会議及び国立高等専門学校教員出席校長懇談会において、各学科ブロスを対象とした学校運営、教育課題等に関する教育研修等に積極的に参加させ検討を進めている。運営諮問会議については、各外部委員の意見を学校運営に反映させるシステムの構築を図るべく、平成21年度年度計画の検証を行い、それを平成22年度年度計画に反映させる等、更なる充実に向けた取り組みを実施した。	A
③　規模の実務する事務の効率化・合理化を図るため、共通システムマニアルの効率的な運用方法についてOA技術を行うとともに、事務マニュアルの充実を図る。	③高規模課において決定された「事務マニュアル」に基づき運営業務を実施し、業務の効率化を図る。	・事務部長	規模本部で推進している「業務改善」に関する取り組みを積極的に行うと共に、既に事務に適用している変形労働時間制を事務職員及び技術職員にも適用する等、業務の効率化を図った。	A
④　事務職員や技術職員の能力の向上のため、企業に広く文系科学者などが主催する研修や企業・地方自治体などにおける実務研修会に参加させる。	④ 群馬県には引き続き、事務職員や技術職員の能力向上を図るため、講義、国立大学法人、国立大学法人も含む大学などが主催する研修会等に参加させる。 ・静岡県には引き続き、事務職員や技術職員研修会及び技術職員研修会及び近隣日本地域国立高等専門学校技術職員研修会に参加させる。	・事務部長、技術室長	事務職員は、機構本部や大学法人等が主催する階層別研修（初任職員研修・中堅職員研修・新任課長補佐（係長研修等）、業務者向け研修（独法簿記研修・学務関係職員研修等含む）、資質向上を目的とした研修等）等に積極的に職員を参加させた。（参加者延べ18名） 技術職員は、東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修会、国立高等専門学校情報処理教育研究発表会等に積極的に職員を参加させた。（参加者延べ6名）	A
⑤　事務職員及び技術職員については、国立大学との間や高等専門学校間などの人事交流を図る。	⑤ 群馬県には引き続き、事務職員及び技術職員については、国立大学法人や高等専門学校のなどとの人事交流を積極的に推進する。	・事務部長 ・技術室長	事務職員は、平成22年度から遠距学習究所との人事交流を行うこととし、6名を出向させ、1名を受け入れている。また、中央青少年交流の家に1名を出向させ、静岡県との出向者を4名受け入れており、他機関との人事交流を積極的に行っている。 技術職員については、全国高専教育フォーラムにおいて、技術職員の人事交流を担当しているところから、技術職員の人事交流について技術系会議等でも検討されているが、具体的な人事交流は困難であることから他の方法での交流を検討した。	B
⑥　本校が管理する計算機システムの運用管理の効率化を図る。	⑥ e-Learningシステムについては、Moodleへのシステムの移行準備を完了し、半年間従来のシステムと並列運用して利用者の移行を進めた。その為の講習会を2回実施した。利用者の声については、アンケート結果に基づき改善を進めた。 ・「情報科学センター」内の学内ネットワークについては、利用者へのアンケートを行った。アンケート結果に基づき改善を進めた。 ・情報科学センターの学内ネットワークについては、利用者へのアンケートを行った。アンケート結果に基づき改善を進めた。 ・「高専機構統一認証システム」を導入し、学内ネットワークシステムの利用者の一元管理を行うシステムの構築を図る。	・総合情報センター長 ・総務主事 ・専攻科長	e-Learningシステムについては、Moodleへのシステムの移行準備を完了し、半年間従来のシステムと並列運用して利用者の移行を進めた。その為の講習会を2回実施した。利用者の声については、アンケート結果に基づき改善を進めた。 ・「情報科学センター」内の学内ネットワークについては、利用者へのアンケートを行った。アンケート結果に基づき改善を進めた。 専攻科においては、専攻科の業務システムを総合情報センターのサーバへの移行を終了し、より高いセキュリティーと安定なサーバ運用が可能な環境となった。	A
⑦　その他 ・本校の目的に合わせて、各種委員会及び規則の見直しを行う。 ・会議等の運営について、効率的な運営を図る。 ・高専教育の充実に向けた教育研究等効率的な会議の運営について検討する。 ・地域社会の発展に寄与するため、地域連携センターを中心とした産学官連携を図る。 ・本校の目的に合わせて、各種委員会及び規則の見直しを行う。 ・会議等の運営について、効率的な運営を図る。 ・高専教育の充実に向けた教育研究等効率的な会議の運営について検討する。 ・地域社会の発展に寄与するため、地域連携センターを中心とした産学官連携を図る。	⑦ その他 本校の目的に合わせて、各種委員会及び規則の見直しを行う。 会議等の運営について、効率的な運営を図る。 高専教育の充実に向けた教育研究等効率的な会議の運営について検討する。 ・学生及び保護者からの意見を聞き入れる仕組みとした「沼津高専意見箱」を設置し、敏速に対応する等、学校運営に資するための休憩時間を図るとともに、実際に「意見箱」に投書された事案について素早に対応した。	・校長 ・総務委員会	本校の目的に合わせて、各種委員会及び規則の見直しを随時、行った。また、総務委員会・教務委員会・教育FD委員会の会議等の会議時間の短縮等効率的な会議運営について実施した。また、今年度、教職員、学生及び保護者からの意見を聞き入れるために「沼津高専意見箱」を設置し、敏速に対応する等、誠全な学校運営に資するための休憩時間を図るとともに、実際に「意見箱」に投書された事案について素早に対応した。	A
5　その他 ・本校の創立50周年記念事業実施に向けての準備を行う。 ・校舎の老朽化対策と施設・設備の充実に努めるとともに、学内の産官地域連携学習施設機関会（仮称）の設立準備を推進する。	5　その他 本校の創立50周年記念事業実施に向けての準備を行う。 法人格を有する仲間高専応援基金準備委員会（仮称）の設立準備を推進する。	・校長	同窓会及び教育後援会の発足のために創立50周年記念事業協賛金を設立し、学内には創立50周年記念事業準備委員会を設置して卒業生及び企業からの募金、創立50周年記念式典・記念講演等の準備を始めた。法人格を有する仲間高専応援基金準備委員会（仮称）」の設立準備を継続して推進するよう努力した。	A
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ・中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費（人件費相当経費を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 ・契約に当たっては、原則として一般競争入札によるものとし、企画競争や公募を行う場合において競争性、透明性の確保を図る。 ・東海・北陸地区高専仲間会計監査を引き続き実施する。	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 一般管理費（人件費相当経費を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。 引き続き、契約の適正化に向けて一般競争入札等による。	・校長 ・事務部長	一般管理費（人件費相当経費を除く。）については3%、その他は1%の業務の効率化を図るとともに、外部資金の獲得に向けて積極的に努力した。リーダーシップ経費等の戦略的かつ計画的な配分を行った。 今年度、東海北陸地区高専相互会計監査や12月に実施された高専機構監事監査を受審し、業務の適正な運営に努めた。	A
Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画 引き続き、外部資金（共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金等）の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	・地域連携・研究支援委員会	今年度実績は、共同研究（52件、24,852千円）、受託研究（3件、2,395千円）、科学研究費補助金（16件、16,914千円）、寄付金（11件、31,455千円）となっている。特に共同研件数は、全国2位の昨年度実績と同程度の実績を上げており、積極的な外部資金獲得に向けて事業展開を図った。	A
Ⅳ 短期借入金の限度額 （該当無し）	Ⅳ 短期借入金の限度額 （該当無し）			
Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 （該当無し）	Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 （該当無し）			

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－２－①－２の続き

沼津工業高等専門学校　平成22年度　年度計画　自己点検評価表

Ⅵ 剰余金の使途 （該当無し）	Ⅶ 剰余金の使途 （該当無し）			
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 教育研究の質の向上のための計画的な施設・設備の改善に関する計画 老朽化の著しい施設・設備の改善に関する計画 安全管理に関する計画 人間力教育の充実に関する計画 学生寮の整備に関する計画 施設・設備の有効活用及び維持管理に関する計画 施設・設備の利用に関する計画 施設・設備の安全管理に関する計画 施設・設備の整備・活用・保全の外部資金、寄附金その他の自己収入の活用に関する計画 キャンパス・アメニティの充実に関する計画 環境保全に関する計画 キャンパスの整備に関する計画 キャンパスの防災・安全管理に関する計画 2 人事に関する計画 (1) 方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。 (2) 人員に関する計画 常勤職員については、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等により、事務の合理化を進める。 3 積立金の使途 （該当無し）	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化対策や安全管理等の改善に必要な施設・設備に関する設備計画を策定し、計画的に実行する。また、ESCO事業の導入の可能性について検討する。 2 人事に関する計画 (1) 方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に積極的に参加し、資質の向上を図る。 技術職員については、技術の継承と高度化を図るため、技術部組織の活用を含めた効果的な人事交流を検討する。 事務職員の幹内の交流を進め、教員の職務との交流を検討する。 (2) 人員に関する計画 常勤職員については、その職務能力を向上させるとともに、アウトソーシング等により、事務の合理化を進める。また、再配置制度を活用した有効な人員配置計画を検討する。 3 積立金の使途 （該当無し）	・施設委員会 ・事務部長	共通講1棟に「学生支援ゾーン」を計画し、今年度予定通り整備を完了した。ESCO事業については、東京電力を招き検討したが、設備規模が小さいため実施することはできないとの判断に至った。	A
		・校長 ・事務部長	機構の推進する教員の技術科学大学・高専間交流人事を活用して、平成23年度に本校制御情報工学科・准教授1名を豊橋技術科学大学に派遣し、豊橋技術科学大学から本校制御情報工学科に教授1名を受入れ1年間の教育・研究活動を行うための手続きを完了した。	A
		・校長 ・事務部長	科学技術振興機構委託事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」については、その経費から、コーディネータ及び事務技術員を採用し対応する等、常勤職員の事務合理化等に努めている。また、教員及び事務職員の再雇用制度を適切に適用して、特定の教員及び事務職員に過大な業務負荷がかからないよう配慮した。	A

<自己評価点（ABCD／4段階評価）について>
A … 年度計画どおり実行した。　B … 100%ではないが、ほぼ年度計画に沿った取組が出来た。
C … 年度計画どおりには進んでいないが、現在進行中。　D … 全く実行していない。

（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－２－①－３

自己点検・評価報告 公式ウェブサイト掲示項



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
NUMAZU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

サイトマップ
ENGLISH
お問い合わせ

HOME　産官学交流　データベース　中期計画・評価等　証明書申請　シラバス　教育プログラム　教員・職員採用　リンク　広報誌　保護者の方へ

学校案内　学科案内　専攻科案内　入試案内　キャンパスライフ　オープンキャンパス

HOME > 自己点検・評価報告

業務改善運営ループ図

業務改善運営ループ図(PDFファイル　58KB)

中期計画・年度計画

中期計画

第2期中期計画(PDFファイル　408KB)

第1期中期計画(PDFファイル　74KB)

年度計画

平成23年度年度計画(PDFファイル　231KB)

平成22年度年度計画(PDFファイル　580KB)

平成21年度年度計画(PDFファイル　354KB)

外部評価

平成22年度運営諮問会議報告書(PDFファイル　15.7MB)

平成21年度運営諮問会議報告書(PDFファイル　4.5MB)

平成19～20年度外部評価報告書(PDFファイル　3.9MB)

平成18年度外部評価報告書(PDFファイル　1.8MB)

平成17年度外部評価報告書(PDFファイル　4.2MB)

機関別認証評価

平成17年度高等専門学校機関別認証評価

自己点検・評価報告

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告　(平成22年度)～PDFファイル(0.2MB)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告　(平成21年度)～PDFファイル(0.2MB)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告 <第一期中期計画期間中(平成16年度～平成20年度)>～PDFファイル(0.7MB)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告　(平成17年3月)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告書(平成14年3月)～PDFファイル (1MB)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告書(平成13年3月)～PDFファイル (1.1MB)

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告書(平成12年3月)～PDFファイル (364kb)

※閲覧にはAdobe Readerが必要です。

Copyright (C) 2005 Numazu National College of Technology. All Rights Reserved.

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校の総合的な状況に関する自己点検評価は毎年実施されており，その結果も公表されている。本校の自己点検評価については，教育・研究・学生支援・社会連携・管理運営等学校全般に渡っての具体的な目標を定めた年度計画の項目に沿って，その達成状況に基づき行われており，総合的な観点からの適切な自己点検評価システムを構築している。また，その自己点検評価結果は，公式ウェブサイトにも掲載し，また，自己点検評価の検証を行った外部評価会議（運営諮問会議）でも議論され，その内容を取り纏めた「運営諮問会議報告書」にも掲載し，広く一般に公表している。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，外部有識者による「運営諮問会議」を開催し，毎年，外部評価を行っており，その審議事項の一つに「自己点検評価の検証」を入れている（資料11－２－②－１）。具体的には，各委員に，自己点検・評価表を送付し，その内容について確認した上で，「評価シート」に指摘事項等の意見を記載し提出する（資料11－２－②－２）。また，これらの意見に対しては，意見を聴取するだけでなく，それらの意見に対する学校側の回答として「評価シート意見対応表」を作成している（資料11－２－②－３）。これらの資料を元に，運営諮問会議で自己点検・評価に関する審議・検証を行う形で進めている。この内容については，「運営諮問会議報告書」において掲載し，公表している。

資料 11－２－②－１

運営諮問会議報告書（目次）

目　　次

Ⅰ．はじめに …… 1

Ⅱ．沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則 …… 2

Ⅲ．沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿 …… 3

Ⅳ．概要説明

１．沼津工業高等専門学校概要（Power Point 資料） …… 5

２．将来構想 WG 中間報告　―沼津高専教育課程におけるコース制導入について― …… 17

Ⅴ．審議事項

１．平成 21 年度年度計画　自己点検評価の検証

１）沼津工業高等専門学校 平成 21 年度 年度計画 …… 21

２）平成 21 年度 年度計画　自己点検評価表 …… 29

３）平成 21 年度 年度計画　評価シート（運営諮問会議委員） …… 37

４）平成 21 年度 年度計画　評価シート意見対応表 …… 47

２．平成 22 年度年度計画について

１）沼津工業高等専門学校 平成 22 年度 年度計画 …… 61

２）平成 22 年度 年度計画意見表（運営諮問会議委員）…… 73

３）「平成 22 年度 年度計画意見表」に対する対応表 …… 83

Ⅵ. 平成２２年度沼津工業高等専門学校運営諮問会議議事録 …… 95

（平成 22 年 7 月 30 日（金）本校３Ｆ大会議室）

（出典　運営諮問会議報告書）

資料11－２－②－２

平成21年度 年度計画 評価シート（運営諮問会議委員意見）

沼津工業高等専門学校　運営諮問会議委員
平成21年度年度計画　評価シート

1. 教育に関する事項	コメント欄
(1)入学者の確保について	(中村委員長) 工学系への志望が減少する中で、沼津地域に留まらず、神奈川県、山梨県で入学説明会を開催した努力していること、また、入試と入学後の分析を実施しそれを入試の配点にフィードバックすることなど、入学者の確保に努力していることを高く評価します。 (橋本委員) ②今までのデータを分析し、他県での入学説明会と県内での説明会をどう優先付けするか検討する必要があるのではないか。(山梨県は本当に必要か？)。女子学生の応募を多くするとの計画では、データによると県内の東部・中部での活動を積極的にすべきと考える。 (名倉委員) ①来期は沼津だけでなく、もう少し輪を広げて欲しい。 ②入学者の数値に対して数値表現をした方が明快 ④内申評価点が倍以上になっているのはなぜか。 ⑤高専祭のPRをもう少し積極的に、見学人数のデータ化 (青木委員) 学力選抜の合否判定基準のうち内申点の占める割合を2倍以上に変更しているが、学力選抜と推薦選抜の性格づけが薄れるのではないかと危惧する。学力試験の内容を再検討する等、選抜方法を再考する必要もあるのではないか。 (安達委員) ①について、“教員による中学校授業参観”は、非常に素晴らしいと思う。通常は、②に示す“入学説明会”のように、相手を呼び込む行動に終わりがちだが、まずは自らが“出向く”、“外に目を向ける”という、姿勢が伺える。 (芹澤委員)＜海野委員代理＞ 入学者の確保について 高専の情報は、あまり保護者には知られていません。 *子供が配布物を保護者に渡していない。 *母親が父親に知らせていない。(他の情報を含め、ほとんどの情報) *先輩・友人を通しての口コミ情報が、子供たちを動かしている。 *高専を受験する子、入学した子は、中学1～2年の時から、準備をしている子が多い。 *保護者が聞かない限り、教職員が、動かない。 以上の項目が、原因ではないかと考えます。 沼津第一校区では、中学・小学校の広報紙を、回覧板で回し、地区の子供たちの活動を、地域の住民が知ることができます。こんな形で広報紙が活用されているので、マスコミも結構ですが、広報紙に掲載してもらうように、PTA会長に依頼してみることも重要ではないかと思います。 小学生高学年・中学生の保護者も知ることとなれば、中3への資料配布や、学校説明会などが、生きてくると思います。また、中学校の担任は持ち上がりで、3年周期でまわる事が多いと思いますので、少なくとも3年に1回は、中学校への訪問、1年に1回の資料送付は、手渡しで行うなどすれば教職員の意識が変わると思います。

資料11－２－②－２の続き

(2)教育課程の編成等について	(中村委員長) 時代の要請に応じたエンジニア教育についてのカリキュラムの検討がBと自己評価されておりますが、教育は10年スパンで考えるべきものですので、進捗状況としてはB＋ないしA—ではないかと思います。 授業評価が、授業終了時となっておりますが、途中で実施し、すぐに反映させることも考えてはいかがでしょうか。 ロボットコンテストなど、リーダーシップや組織力、協調性など、学生同士で自主的に学ぶことができる事業に積極的に参加していることを、高く評価します。今後も積極的に実施するようお願いします。 (橋本委員) ①時代の変化・進展に応じた教育課程の検証は極めて重要である。本科 5 学科、3 専攻科を基本として、時代の要請がある例えば環境工学、エネルギー工学などの複合研究領域に対しての教育課程の工夫(例えばカリキュラムの構成など)を検討すべきと考える。 「富士山麓・・・養成プログラム」の後継としての社会人専攻科の必要性云々の記述の意味がよく理解できない。文書の説明・流れが必要である。 ④全体に言えるが、自己評価ではPDCAを廻すことが求められているが、本実施状況ではCheckまでの記載が多く、Actionに繋がる説明が弱い。例えば、改善点が明確にできた→・・等の改善点が明確にできた、と繋げて頂きたい。 ⑤ボランテイア活動は強制ではなく自発的な取り組みが重要である。クラス単位での清掃活動の実施だけでは学校としての取り組みが弱い。サークル活動を通しての慰問活動など、学生との対話を続け、色々なアイデアを出してみては如何でしょうか。 (名倉委員) ③PDCAサイクルを回して欲しい。 ④具体的な分析内容が読めませんでした。 ⑤今後も継続して欲しい。 (青木委員) 年度計画には,「専攻科での複合領域の教育について検討を行う」とあるが, この中身が見えない。専攻科の複合的な教育が成果を上げているかどうかは、ぜひ何らかの形で評価してほしい。特に、大学進学者との違い、本科卒業生との違い、などの視点で教育の成果を長期的に検証していく必要があると思われる。 コース制や共通授業等は、将来的に「くくり入試」などにつながっていくとも考えられるが、専攻科の複合教育と合わせて考えると, 高専における専門教育が“広く・浅く”の方向に向かっているように思える。特定の専門分野に対する技術者としての責任や自信を涵養する教育のあり方について、ぜひ高専には考えていただきたい。 (安達委員) ⑥について、“学内外のクリーン活動”等については、是非「やらされる活動」から「何か課題を持ち提案できる活動」になるような仕掛けがあると良いと思う。 (例えば「何故、そこに、こんなゴミがあるのかを考える」等)

(3)優れた教員の確保について	(中村委員長) 教育には、教員の資質が第一です。その点で、優れた教員の確保を公募、また、男女共同参画の観点から、働きやすい環境を作ることに努力されていることを高く評価します。 なお、人的余裕があれば、教員を海外に派遣することも計画してはいかがでしょうか (橋本委員) ④女子学生の増加とは違い、女性教員の増加は人事案件であり(定員の問題等)、もっと戦略が必要と考えます。個人的な意見ですが、女性教員の増加より、人物本位が重要と考えます。 ⑥表現が曖昧。「予算立てを検討し」→「予算を確保し」、さらに「研究又は研修へ」→「研究及び研修へ」と表現すべきです。実施項目ですから。 (名倉委員) ①全体像を目視化して、教員の計画があると良いと思います。(既にあると思いますが) ⑥選定するシステムの再検討結果はどうなったのでしょうか？ (青木委員) 教員の国際化は学生に国際感覚を芽生えさせる上で重要と思われる。海外派遣のための予算の獲得や確保に、さらに努力していただきたい。 (安達委員) ②について、"実施状況"の表現では良く判らないが、 "教員の他機関との人事交流"については、非常に重要と考える。(企業での人事ローテーションの重要性と同じように)
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて	(中村委員長) JABEE、PBLなど、教育改善に努力されていることを高く評価します。なお、学校では得られない有形無形の経験ができる「ものづくりステップアップ実践教育」の一層の展開を望みます。また、学生にコミュニケーションの道具としての英語の重要性を早期から気づかせるような努力を望みます。 (橋本委員) ⑥、⑦「ものづくりステップアップ実践プログラム」は素晴らしい内容で本資料に添付すべきです。(個人的に資料を送付して頂きました)この中でも実施しているインターンシップについてもう少し詳しく触れて頂けないでしょうか。以前にもお話をしましたが、4年生の夏休みの短期間だけでなく、3 ヶ月(学校での授業の合間も利用)程度の期間も検討すべきと思います。 ⑨eーラーニングについては最初から高いハードルを設けるのではなく、自学自習のツールとして、古いパソコン、スタンドアローン、コンテンツも自前で用意する程度からスタートしては如何ですか。(5)②とも連携します。 (青木委員) GP などの教育プロジェクトの獲得により積極的にチャレンジしてほしい。教育のプロジェクト化は問題も多いと思うが，高専の顔づくりには一役買っているところもあるように思われる。ただし，ある程度の実績を積んだ取組みを発展させるような姿勢が望ましい。

(5)学生支援・生活支援等について	(中村委員長) 将来技術者として活躍する生徒にとって書籍と情報検索ツールは必須の道具ですので予算が厳しい中で図書館を充実させている努力を評価します。 (橋本委員) ②学会誌などの電子化が進められている中で、ハイブリッド図書館機能は重要です。特に海外の学術雑誌に対してコストアップを押さえられる可能性があります。 (名倉委員) ②利用図書に経費を絞った事は有効だったと思います。 ⑤ハード面の改善は何をしたのが明確でない。 (青木委員) 友達とうまく付き合えない若者が増えているように思われうる．学生どうしのつながりが育まれるような支援や環境整備がこれから益々必要になってくるのではないか？ (安達委員) ①のメンタルヘルスに関しては、企業でも重要課題になっている事であり、生い立ちの中で集団行動の機会が重要と感じている。寄宿舎生活での主体的な活動の仕掛けを更に期待したい。 (芹澤委員)＜海野委員代理＞ また、生活一般として保護者の立場から1～3年は、素行・生活など気になる事柄は多々ありますが、高校 PTA のような地区会がないので、情報は学校・子供からのみで、不安な部分があります。 市補導員をしているので、覚せい剤・変質者などの犯罪情報を知ると、学校では情報が配信されているのか不安になります。沼津署・富士署管内は、覚せい剤犯罪が、県内でトップ、全国的にも上位です。 くだらない過去の話ですが、私の友人が国士舘大学に通っているころ、頻繁に下校時間になると、校内放送で、「拓大生が、〇駅周辺で待ち伏せているので、避けて下校するように」など流れたそうです。今は、携帯メールなどが普及しているので、犯罪ほか生活に関する情報をリアルタイムで情報提供できると思いますので、検討してみてはいかがでしょうか? また、授業において法律・経済など、義務教育では教えない被害に遭わないための一般常識を取り込んでいただければ有難いと思います。 生活支援について、実施していないようであれば、他大学の学生会などが、卒業・引越しシーズンになると不用物などを後輩のために無料やフリーマーケットみたいにして、譲りあい、誰でも気軽に利用できるそんな仕組みがあればいいと思います。さらに、寮生が近くで、日常的にできるアルバイト等など、学業に差し支えない程度の紹介をしてもらえばと思います。

(6)教育環境の整備・活用について	(中村委員長) 教育環境では、安全がもっとも重要と思います。その点で安全衛生セミナーを２回開催し、啓蒙活動を行っていることを評価します。私の経験から、安全メガネの着用で防げる事故が多くありますので参考にしてください。 なお、情報機器についてシートに触れられておりませんが、日進月歩ですので、リースにするほうが教育としてもよいと思います(念のため)。 (橋本委員) ③高専においても企業と同様、運用面で各種国家資格(有機溶剤作業 etc)が必要でしょうか？必要ならば教職員の皆様の資格取得・スキルレベルのデータベース化と維持・メンテをしっかりと行う必要があるでしょう。 (名倉委員) ①機械実習工場は時代にあった機械設備を計画して欲しい。 ②環境改善も目視化、数値化が大事だと思います。

2. 研究に関する事項	コ メ ン ト 欄
	(中村委員長) 地域を意識した産学連携を基本とした研究を行っていることを高く評価します。また、産学連携を通じて学生を教育しようとしている地域共同テクノセンター長はじめ、教員の方々の努力に敬意を表します。 (橋本委員) ①外部資金獲得に向けた取り組みで、沼津高専は平成 20 年度実績では共同・受託研究で全高専中３位、科研費補助金では 17 位となっています。決して少ない訳ではありませんが、まだ貪欲さが足りないと思います。私自身の話で申し訳ありませんが、弊社がスポンサーとなっている財団での最近の助成金応募では、高専からの件数が少しずつ増加しています。国だけではなく民間の財団にも積極的に応募することも奨励されては如何でしょうか。 (名倉委員) ③他校と比較して如何だったのでしょうか？ (青木委員) 実績欄に記載がないが，豊橋技術科学大学が提供する「高専連携教育研究プロジェクト」により，沼津高専と技科大の間で 19 年度 5 件，20 年度 4 件，21 年度 6 件の共同研究が走っている。今後も積極的に教育連携や共同研究のプロジェクトに応募していただきたい。

3. 社会との連携や国際交流に関する事項	コ メ ン ト 欄
	(中村委員長) 地域との連携は十分成果が挙がっていると思います。 学生の海外派遣については、英語力の問題なのか、苦労したくないといった内向き思考なのか、その原因を調べる必要があるのではないでしょうか。 (名倉委員) ③公開講座、地域の生涯学習と連携して開催して欲しい。公開講座のPRを推進して継続すると良いと思いました。 ⑥海外からの学生が増加して良かったと思います。 ⑦沼津高専生の海外留学を積極的作って欲しい。数年後は海外で活躍する生徒が増加すると思います。

	（青木委員） 公開講座については，参加費で運営できる，あるいは収益を上げることができるような内容で自律的に実施することが重要ではないか？地域サービスとして継続するには限界がある。 学生の海外インターンシップや国際交流は，何らかの資金援助を受けられるようなプロジェクトの立ち上げ，外部資金の獲得を目指す必要があるのではないか？ （安達委員） ⑦の“海外インターンシップの応募学生がゼロだった”事について、「何故か？」の掘り下げが重要と感じる。 「何故か？」が判ると、単に“海外インターンシップ”の問題だけではなく、種々の課題に対する壁が見えてきて、今後の教育に役立つ場合がある。

4. 管理運営に関する事項	コ メ ン ト 欄
	（中村委員長） 校長のリーダーシップの下でうまく運営されていると思います。特に事務マニュアルの作成、成績管理システムの導入など、学生へのサービス向上に繋がる努力が為されていると思います。 （青木委員） 科学研究費等外部資金については、教員個々の努力だけでなく，高専内外との連携による戦略的な取組みが必要ではないか。技術科学大学との共同研究も、ぜひ発展的に利用していただきたい。 教員の人事交流については、交流自体が目的化しているように思われるところもある。これは高専機構への要望となるが、交流によって生まれる成果を明確にした人事交流のプログラムを企画してほしい。

5. 総合所感
（本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください）

（中村委員長）
沼津工業高等専門学校からは、これまで優れた人材が輩出されておりますので、これまでの教育に自信をもって頂きたいと思います。なお、世の中が変化し、多くの分野でパラダイムシフトが起きています。その辺りを卒業生を活用して把握して教育に反映させていくことが大切だと思います。
国、企業等、どこでも人財がすべてです。貴校の益々の発展を期待しております。

（橋本委員）
1. 平成 21 年度　年度計画　自己評価表について
60 項目以上の各アイテムについて丁寧な実施状況が記述されています。しかしながら、PDCAを廻す観点から言えばチェックまでで、次年度のプランに続けるアクションの記述が不足しているようです。「・・した。」だけではなく、具体的な課題について幾つかの例を挙げるだけでも判り易いのですが。
2. 次年度計画について
前述のように 60 項目以上の管理は大変だと推察します。すべてをB以上、出来ればAを評価したいのは判りますが、項目が多いため全体に分散してしまう感があります。5から10項目の重点管理項目（例えば：ものづくりステップアップ実践プログラムなど）を決め、これを重点的に管理する。評価シートも重点項目だけを 1 枚に纏める。その他の項目も管理はするが、エネルギーは抑えるべきです。
2～3 年に跨る計画についての記述がありませんが、60 項目もあれば長期に亘る計画があっても可笑しくないと思います。この項目は 3 年間の 2 年目の計画というような表現をして頂き、期間中の評価をすればよいと思います。
3. その他
就職氷河期と言われるこの時期、高専卒の就職（内定）率は大学卒よりもはるかに高いものと推察しております。良いか悪いかは解りませんが、この就職（内定）率は高専PRの絶好の機会と捉えられないでしょうか。高専機構では頭が固く古いでしょうから沼津高専で高専全体の就職内定率（例えば8月、12月、3月時点）のデータなどを取り、中学校での説明会に使用されては如何ですか。

資料11－２－②－２の続き

（名倉委員）
1．色々な事に着実に取り組んでいる事に関心致しました。先日、高専機構の全国同窓会連絡会に出席して、他高専の同窓会の現状を聞かせていただき、沼津高専の同窓会は良く遣っているほうだと思いました。これはひとえに学校の協力があることだと思いました。
2．沼津高専はどちらかと言うと田舎の学校という気が致します。素朴でよい面はありますが、他高専との交流、その他で環境に負けないような取り組みをお願いします。
3．評価方法で、できる限り目視化、数値化をして表現するとわかり易いのかと思いました。

（廣瀬委員）
私自身、7月の運営諮問会議に参加させていただけたことは、たいへん有り難く思っております。それ以来同じ市内にありながら、どちらかといえば「近くて遠い存在」と感じていた高専が身近に感じられ、新聞・テレビで報道されますと、つい引き込まれる自分を発見しました。
評価シートの個々の項目については、コメントを控えさせていただきますが、自らの課題に積極的に取り組まれ、どの項目も着実に成果を上げておられる貴校の実践に脱帽です。貴校の歩みは、必ずや、学生・保護者・地域の方々・関係諸機関に理解されるものと思います。
貴校のますますのご発展を祈念いたします。

（青木委員）
沼津高専独自の中期計画，中期目標を掲げて計画的に教育や学校運営等の改善を行っている点は，非常に高く評価できる．事務作業量が多くなるが，ぜひ今後も継続していただきたい。
可能ならば，年度計画を達成度で評価するのでなく，改善度で評価するようにし，目標はなるべく高く掲げるようにすることはできないか？法人の評価等外部評価の多くは達成度評価であるため，ともすれば，目標期間内に達成できるようなやや低めの目標を設定しがちである。これでは，むしろ改善の阻害要因になる場合もあるであろう．自主的な取組みであるが故に，形式や結果にとらわれない，実質的な改善の取組みにチャレンジしていただきたい。

（安達委員）
（1）全体として「前向きで積極的に学校改革に取り組んでいる」事が伺える。私が運営諮問会議委員を引き受けた時に想定した事よりも、遥かに種々の改善努力をしており、頼もしく感じている。
（2）産業構造の変化や技術の進捗が激しくなればなる程、
　－ その為の対応
　－ だからこそ基礎教育が重要（基礎学問があって、初めて応用能力の可能性を作る）
の2面的見方と行動策が重要と考える。
（3）年度計画と実施状況から感じる「更に期待したいキーワード」
　1．目的と手段の一貫性（つながり）
　　－ その手段で目的・目標に到達できるのか？
　2．教員としての視野拡大
　3．学生の「指示待ち体質」→「提案型・応用型体質」へ
　4．2面的（両面的）ものの見方
　5．グローバル化への下地作り

（芹澤委員）＜海野委員代理＞
基本的には何も問題は無く、教育内容・組織・校長先生はじめ全職員の姿勢、日々努力され、とてもすばらしいと思います。息子が高専に入れた事を誇りに思います。いつもお世話になり、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

（工藤委員）
平成21年度年度計画に係る実施状況及びそれに対する自己評価表等を拝見し、より良い学校運営に資するため、いろんな取組を実践されているという印象を持っており、高く評価しております。項目毎には、特にコメントすることはありません。

（出典　運営諮問会議報告書）

資料11－２－②－３

平成21年度 年度計画 評価シート意見対応表

沼津工業高等専門学校　運営諮問会議委員
平成21年度 年度計画　評価シート意見対応表

2010. 6. 4

1. 教育に関する事項	学校側の対応等について （校長、副校長、4校長補佐及び該当の各委員会委員長等の意見）
(1)入学者の確保について **(中村委員長)** 工学系への志望が減少する中で、沼津地域に留まらず、神奈川県、山梨県で入学説明会を開催した努力していること、また、入試と入学後の分析を実施し、それを入試の配点にフィードバックすることなど、入学者の確保に努力していることを、高く評価します。 **(橋本委員)** ②今までのデータを分析し、他県での入学説明会と県内での説明会をどう優先付けするか検討する必要があるのではないか。(山梨県は本当に必要か？)。女子学生の応募を多くするとの計画では、データによると県内の東部・中部での活動を積極的にすべきと考える。 **(名倉委員)** ①来期は沼津だけでなく、もう少し輪を広げて欲しい。 ②入学者の数値に対して数値表現をした方が明快 ④内申評価点が倍以上になっているのはなぜか。 ⑤高専祭のPRをもう少し積極的に、見学人数のデータ化 **(青木委員)** 学力選抜の合否判定基準のうち内申点の占める割合を2倍以上に変更しているが、学力選抜と推薦選抜の性格づけが薄れるのではないかと危惧する。学力試験の内容を再検討する等、選抜方法を再考する必要もあるのではないか。 **(安達委員)** ①について、“教員による中学校授業参観”は、非常に素晴らしいと思う。通常は、②に示す“入学説明会”のように、相手を呼び込む行動に終わりがちだが、まずは自らが“出向く”、“外に目を向ける”という、姿勢が伺える。 **(芹澤委員)＜海野委員代理＞** 入学者の確保について 高専の情報は、あまり保護者には知られていません。 ・子供が配布物を保護者に渡していない。 ・母親が父親に知らせていない。(他の情報を含め、ほとんどの情報) ・先輩・友人を通しての口コミ情報が、子供たちを動かしている。 ・高専を受験する子、入学した子は、中学1～2年の時から、準備をしている子が多い。 ・保護者が聞かない限り、教職員が、動かない。 以上の項目が、原因ではないかと考えます。 沼津第一校区では、中学・小学校の広報紙を、回覧板で回し、地区の子供たちの活動を、地域の住民が知ることができます。こんな形で広報紙が活用されているので、マスコミも結構ですが、広報紙に掲載してもらうように、PTA会長に依頼してみることも重要ではないかと思います。 小学生高学年・中学生の保護者も知ることとなれば、中3への資料配布や、学校説明会などが、生きてくると思います。また、中学校の担任は持ち上がりで、3年周期でまわる事が多いと思いますので、少なくとも3年に1回は、中学校への訪問、1年に1回の資料送付は、手渡しで行うなどすれば教職員の意識が変わると思います。	**＜担当部署＞** **○副校長** **【21年度　入学者確保対策】** 入学者確保について平成21年度に実施した事項をお知らせするためにデータを含めて概要を以下に記します。 ・校長、教員による中学校訪問(県内128校、県外22校)を実施した。今年度から新たに山梨県南部の中学校訪問(10校)を追加 ・入試広報用リーフレットを県内(291校)、山梨県(94校)及び神奈川県西部(78校)の各中学校に送付し、3年生への配布を依頼した。(61,620部) ・入試広報用冊子を県内、山梨県及び神奈川県西部(436校)の各中学校(各10部～20部)に送付し、周知依頼を行った。 ・今年度から新たに在学女子学生の対談記事や女子学生の主な進路先など、女子中学生にアピールする内容を掲載した。 ・1日体験入学案内及びポスターを県内、山梨県及び神奈川県西部の各中学校に送付し、周知を行った。 参加者総数1,007名(中学生535名、保護者466名、中学校教諭6名) ・進学説明会(10回:小田原、富士吉田、静岡県内)を実施した。 参加者総数809名(中学生344名、保護者399名、中学校教員66名) ・1日体験入学、高専祭開催時に今年度から新たに浜松駅－沼津高専間の無料送迎バスを運行した。 ・中学生向け広報活動として、キャンパスツアー、出前授業、公開講座の他、今年度から新たにミニ体験授業を実施した。 ・新たに入試広報用ノベルティ(校名入ボールペン、クリアーホルダー、焼き菓子)を作成し、進学説明会などで配布した。 ・本校HPに1日体験入学案内、進学説明会案内、入試広報誌などの各種データを掲載し、広く周知を行った。 ・中学校及び地区教育委員会主催の高校説明会に積極的に参加した。 ・入試及び入学後のデータなどを分析し、志願者確保だけでなく優秀な入学者獲得の方策として平成23年度入試から合否判定基準の見直し(内申点比重を大きくするなど)を行った。 **【今後の対策】** ・基本的には志願者確保の観点から静岡県だけでなく高専のない近隣県(神奈川県、山梨県)を包含し、昨年度の対策内容を、さらに充実させて実施します。 具体的には高専をより身近な進学先学校として認知されるよう中学校訪問における同一教員による広報業務の一貫性を継続するなど中学校の進路指導教員との信頼強化を図るとともに1日体験入学、進学説明会、キャンパスツアー、出前授業、公開講座及びミニ体験授業などの内容を見直し、より効果的な入試広報の在り方(集中と選択)を検討します。

資料11－２－②－３の続き

	・女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びHPなどの作成や機構本部の女子中学生用パンフレットの有効活用を行います。 ・近隣市町村の教育委員会との連携を深め、中学校理科教員への支援などの方策を検討します。 ・入学者の質の検証の観点から、入試データだけでなく入学後の学力及び生活状況等との相関についても分析を行うとともに、入試方法の改善方策（最寄り地受験制度など）についても引き続き検討を行います。 ・入学者の学力水準を維持するとともに、入学志願者が減少している学科においては入学志願者の確保（広報活動の充実）について引き続き改善策を検討します。 （入学志願者数が前年度を下回らないよう努力します。）

資料11－２－②－３の続き

(2)教育課程の編成等について (中村委員長) 時代の要請に応じたエンジニア教育についてのカリキュラムの検討がBと自己評価されておりますが、教育は10年スパンで考えるべきものですので、進捗状況としてはB＋ないしA―ではないかと思います。 授業評価が、授業終了時となっておりますが、途中で実施し、すぐに反映させることも考えてはいかがでしょうか。 ロボットコンテストなど、リーダーシップや組織力、協調性など、学生同士で自主的に学ぶことができる事業に積極的に参加していることを、高く評価します。今後も積極的に実施するようお願いします。 (橋本委員) ①時代の変化・進展に応じた教育課程の検証は極めて重要である。本科5学科、3専攻科を基本として、時代の要請がある例えば環境工学、エネルギー工学などの複合研究領域に対しての教育課程の工夫(例えばカリキュラムの構成など)を検討すべきと考える。「富士山麓・・・養成プログラム」の後継としての社会人専攻科の必要性云々の記述の意味がよく理解できない。文書の説明・流れが必要である。 ④全体に言えるが、自己評価ではPDCAを廻すことが求められているが、本実施状況ではCheckまでの記載が多く、Actionに繋がる説明が弱い。例えば、改善点が明確にできた→・・等の改善点が明確にできた、と繋げて頂きたい。 ⑤ボランテイア活動は強制ではなく自発的な取り組みが重要である。クラス単位での清掃活動の実施だけでは学校としての取り組みが弱い。サークル活動を通しての慰問活動など、学生との対話を続け、色々なアイデアを出してみては如何でしょうか。 (名倉委員) ③PDCAサイクルを回して欲しい。 ④具体的な分析内容が読めませんでした。 ⑤今後も継続して欲しい。 (青木委員) 年度計画には,「専攻科での複合領域の教育について検討を行う」とあるが,この中身が見えない。専攻科の複合的な教育が成果を上げているかどうかは、ぜひ何らかの形で評価してほしい。特に、大学進学者との違い、本科卒業生との違い、などの視点で教育の成果を長期的に検証していく必要があると思われる。 コース制や共通授業等は、将来的に「くくり入試」などにつながっていくとも考えられるが、専攻科の複合教育と合わせて考えると,高専における専門教育が"広く・浅く"の方向に向かっているように思える。特定の専門分野に対する技術者としての責任や自信を涵養する教育のあり方について、ぜひ高専には考えていただきたい。 (安達委員) ⑥について、"学内外のクリーン活動"等については、是非「やらされる活動」から「何か課題を持ち提案できる活動」になるような仕掛けがあると良いと思う。 (例えば「何故、そこに、こんなゴミがあるのかを考える」等)	**<各担当部署>** **○副校長** 産業構造の変化、技術の高度化等に対応して教育課程の編成等を見直すために「将来検討WG」を発足させ検討を開始した。産業構造が、環境、エコ、福祉、医用を重視する方向に変化していることを踏まえ、具体的には (1)機械実習工場の実習テーマの見直し (2)機械設計製図教育内容・方法の見直し (3)演習・実習の内容の見直し (4)工学実験の内容の見直し 等を含め、学科の大括り化、コース制の導入、新分野の学科の設置、改組・再編・整備などの必要性について平成22年9月末までを目途に検討を進めています。 各学科間で共通に実施できる可能性のある科目について検討し教務主事に報告する方法で調査した結果、機械工学科学科長から貴重な提案があり、平成22年度の教務委員会で検討することとしました。上記の将来検討WGの検討内容とも関連する事項であり、連携を図り検討を進めます。 英語力のレベルを客観的に把握しやすくするため、平成22年度より1,2年生で行う統一テストをACEからTOEIC Bridgeに変更し3,4年のTOEIC IPテストとの連続性を得るようにしました。今後数年かけて学年を追って学生達の英語力向上の度合いを調査し、英語教育にフィードバックします。 数学、物理の到達度試験結果から、各問題についての正答率、誤答率、他高専との比較等の分析を行い、学生達の理解度が低い単元や学習項目を把握し、演習課題や定期試験への出題方法等の工夫により理解度をあげる対策を講じています。到達度試験結果の分析結果を教員FD研修会で全教員に報告し、全教員が共通認識をもつことで、専門科目の授業を通じても数学、物理の力を伸ばすべく連携を図ることを進めています。 3年生と5年生の学習到達度自己評価と4年生と5年生の学業成績に基づく教員側からの到達度評価の結果を分析した結果、本校の教育目標のA.技術者の社会的役割と責任を自覚する態度、B.自然科学の成果を社会の要請に応えて応用する能力、D.豊かな国際感覚とコミュニケーション能力について、学生は比較的高い評価をしているのに対して、成績から算出した教員側による評価では比較的低い評価でした。社会系の分野、数学、物理等の工学基礎系分野、及び英語力を含めたコミュニケーション能力に関連する分野の能力向上を図る改善の必要性が把握できました。社会系の知識や思考力、社会や地球環境を考えることができる姿勢、幅広い教養等の強化策として、一つは企業技術者等を活用した共同教育を実践しています。本校では社会系の授業は少ないため、自学自習で学べるe-ラーニングの教材を整えることも検討している。数学、物理においては学生の能力と理解度に合った適切な演習課題を作成し充実することに重点をおいて対策を進めています。英語力はTOEIC Bridge, TOEIC IPテストによる英語力レベルの客観的把握と、その受験を目標に据え英語学習に対するモチベーションの高揚を図ること、英語を母国語とする外国人非常勤講師を採用し、外国人と会話する機会を多く設けることなどを対策として進めています。 **○学生主事** ボランティア活動について 本年度より、学生会を中心としたボランティア活動を学校として協力に支援しています。例えば、地域からのボランティア要請情報を学生会に提供することや、併せて、教員によるボランティア支援(引率等)も実施しています。すでに2件の要請(沼津市、沼津特別支援学校)に対応中です。 これらの活動についても、実施後、反省会を実施し、次の活

資料11－２－②－３の続き

	動の改善につなげるよう(PDCA 回転)進めています。 学内外のクリーン活動について “学内外のクリーン活動”とは「感謝する心」、「奉仕を欲びと感じる心」の醸成と位置付け、活動の前後に活動の趣旨を考えさせる場をホームルームの時間に設けています。 ○専攻科長 主に、橋本委員及び青木委員のご指摘に回答させていただきます。沼津高専では、現在、機械工学・電気電子工学・情報工学・応用化学・生物工学の分野について基礎的な能力を持つ技術者の養成を行っています。 そのうえで、複合研究領域を視野に入れた教育課程の一部を専攻科で実施していますが、一方で大学評価・学位授与機構で学士取得を行うため、上述のオーソドックスな工学分野ごとの能力の向上を目指す教育課程も提供しています。 従って、本校専攻科の修了生は、本科卒業生と異なり、大学評価・学位授与機構での学士審査をクリアできる能力レベルのそれぞれの「得意」分野を持っていることになります。 また、他の専攻・分野の学生との共同 PBL 実験等や他の専攻・分野の基礎実験を体験することで、工学の各種分野の違いによる基礎知識、思考方法、手法等の相違を理解し互いのグループワークに活かすことを体験しています。特に、他の専攻・分野の学生との共同 PBL 実験は一昨年より試行し始めたものであるため、その教育効果の評価については青木委員のご指摘の通り今後行っていかなければなりませんが、受講学生のアンケート調査では、技術者としての視野の広がりを実感したという感想が多く挙げられています。 ところで、現在は他の工学分野を覗いてみるというレベルで実施している専攻科の教育課程ですが、橋本委員のご指摘にあるような「環境工学」「エネルギー工学」「医用工学」といった明確な複合工学分野を特定してのカリキュラムの設定は行っていません。学士取得のための各専門分野の学習は必要ですので、今後、これらの複合工学分野の教育は、専攻を越えた「コース制」カリキュラムで対応する予定です。 本校では、すでに地域技術者(社会人)を対象とした「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」を実施していることから、この教育課程を原資としてまずは「医用工学」のコースを専攻科に設置する可能性について、検討を始めたところです。今後の地域社会のニーズを把握しながら、これらの検討を継続していく予定です。 ○地域共同テクノセンター長 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」は社会人を対象に2年間かけて育成する事業です。受講対象者は，高専卒業程度(専攻科入学基準)としています。この事業は平成 21-25 年度まで国からの予算付けがありますが、将来(H26 以降)は独立して運営することが義務づけられています。この将来の運営案として、本校では専攻科に「社会人コースの設置」を掲げていますので、専攻科に「社会人専攻科が必要」と記載しています。 しかし、専攻科内に社会人コースを設置した専攻科は全国にもなく、規則的にも難しい面もあり、代替え案の検討も含めて行っていく予定です。

資料11－２－②－３の続き

(3)優れた教員の確保について (中村委員長) 教育には、教員の資質が第一です。その点で、優れた教員の確保を公募、また、男女共同参画の観点から、働きやすい環境を作ることに努力されていることを高く評価します。 なお、人的余裕があれば、教員を海外に派遣することも計画してはいかがでしょうか。 (橋本委員) ④女子学生の増加とは違い、女性教員の増加は人事案件であり(定員の問題等)、もっと戦略が必要と考えます。個人的な意見ですが、女性教員の増加より、人物本位が重要と考えます。 ⑥表現が曖昧。「予算立てを検討し」→「予算を確保し」、さらに「研究又は研修へ」→「研究及び研修へ」と表現すべきです。実施項目ですから。 (名倉委員) ①全体像を目視化して、教員の計画があると良いと思います。(既にあると思いますが) ⑥選定するシステムの再検討結果はどうなったのでしょうか？ (青木委員) 教員の国際化は学生に国際感覚を芽生えさせる上で重要と思われる。海外派遣のための予算の獲得や確保に、さらに努力していただきたい。 (安達委員) ②について、"実施状況"の表現では良く判らないが、 "教員の他機関との人事交流"については、非常に重要と考える。 (企業での人事ローテーションの重要性と同じように)	＜担当部署＞ ○副校長 教員の国際化の観点から、平成 22 年度には、物質工学科教員(女性)1名を、イギリスのレスター大学 (University of Leicester)へ1年間の研修に派遣しており、今後も教員の国際感覚の高揚に向けた取組を検討していきます。
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステムについて (中村委員長) JABEE、PBL など、教育改善に努力されていることを高く評価します。なお、学校では得られない有形無形の経験ができる「ものづくりステップアップ実践教育」の一層の展開を望みます。また、学生にコミュニケーションの道具としての英語の重要性を早期から気づかせるような努力を望みます。 (橋本委員) ⑥、⑦「ものづくりステップアップ実践プログラム」は素晴らしい内容で本資料に添付すべきです。(個人的に資料を送付して頂きました)この中でも実施しているインターンシップについてもう少し詳しく触れて頂けないでしょうか。以前にもお話をしましたが、4 年生の夏休みの短期間だけでなく、3ヶ月(学校での授業の合間も利用)程度の期間も検討すべきと思います。 ⑨e－ラーニングについては最初から高いハードルを設けるのではなく、自学自習のツールとして、古いパソコン、スタンドアローン、コンテンツも自前で用意する程度からスタートしては如何ですか。(5)②とも連携します。 (青木委員) GP などの教育プロジェクトの獲得により積極的にチャレンジしてほしい。教育のプロジェクト化は問題も多いと思うが，高専の顔づくりには一役買っているところもあるように思われる。ただし，ある程度の実績を積んだ取組みを発展させるような姿勢が望ましい。	＜担当部署＞ ○副校長 「ものづくりステップアップ実践プログラム」は持続し易い形に改善し平成22年度も実施する。1年生に対しては前期2回、後期2回の講義、2年生に対しては前期1回、後期1回の工場見学を実施する形に変更し、3～5年生に対しては昨年度と同様の形態で実施する計画で準備を進めています。 このプログラムの中で、企業からの多くの講師により英語の重要性、コミュニケーション力の重要性をお話し頂いている。全学生に TOEIC IP テストを受験させることで、企業等で必要とされる英語力のレベルを定量的に TOEIC スコアで学生に知らせることができるようになった。1,2 年生全員には TOEIC Bridge テストを受験させ、低学年のうちから英語によるコミュニケーション力の必要性を意識させる努力をしています。 インターンシップに関しては、本校では専攻科生は必修であるため1年生全員がインターンシップに参加し、本科生は選択制で主に 4 年生の希望者が参加しています。4 年生の参加者人数の変化が各年の変化に現れ、H19 年度まで微増を続け、H20 年度で急増したものが H21 年度では減少しました。全国の多くの高専が共通の傾向を示していることから、大きな要因は全国規模の不況の影響があると考えます。受け入れ企業側は、近年の教育機関におけるインターンシップの活性化に伴い、受入れをシステム化する傾向にあります。すなわち、公募して書類選考する企業が増えているように思います。したがって就職試験と同様に、説得力のある履歴書やエントリーシートを書かなければ、希望しても受け入れてもらえないという状況が発生しています。企業技術者の協力を得て行っているキャリア教育とうまく連携を図り、インターンシップの有益性を学生に深く理解させ、4 年生に広く呼びかけることで参加人数の増加を図ります。 3 ヶ月(学校での授業の合間も利用)程度の期間のインターンシップに関しては、企業との共同研究の中で実施している例

資料11－２－②－３の続き

	はあります。しかし、多数の学生が参加できるシステムとするには、受け入れ先企業の確保、現行カリキュラムの大幅変更等の問題があり、長期的な視野に立った検討が必要です。 e-ラーニングについては、平成 23 年度より、現在運用している Blackboard からフリーソフトのシステムに変更し、運用経費の大幅縮減を図ります。コンテンツに関しては自作のみならず、科学技術振興機構（JST）の技術者 Web 学習システム（無料）の活用等も含め、利用可能なコンテンツの調査、収集により充実を図ります。 GPに相当するものとして、平成 22 年度特別教育研究経費（高等専門学校改革推進経費）へ下記の3件の教育プロジェクトを申請しています。 「高専と地域が連携したエコタウンづくり－門池の水質改善と水力発電を通した環境教育－」「医用機器開発エンジニア養成を目指した専攻科コース制の開発」「ドイツ専門大学との学術交流を軸とした国際性豊かな人材の養成－ドイツ語教員による海外インターシップ・プログラムの開発－」 **○学生主事** 「ものづくりステップアップ実践教育」について 「ものづくりステップアップ実践教育」に低学年から学生の自主的取り組みを組み入れ、就労意識を早期に醸成するよう、このプログラムの改善を行います（就職委員会を中心として）。 インターンシップについて 「3 ヶ月程度の期間も検討すべき」とのご意見を頂きました。検討を要する事項ですが、現在も企業との共同研究に学生が参画し、1年間に渡って企業に出向いて研究させて頂いたり、企業の技術者が来校されご指導を頂く形式での長期インターンシップを行っています。この形式のインターンシップ修了生がその共同研究企業先に就職する例が増えています。

資料11－２－②－３の続き

(5)学生支援・生活支援等について （中村委員長） 将来技術者として活躍する生徒にとって書籍と情報検索ツールは必須の道具ですので予算が厳しい中で図書館を充実させている努力を評価します。 （橋本委員） ②学会誌などの電子化が進められている中で、ハイブリッド図書館機能は重要です。特に海外の学術雑誌に対してコストアップを押さえられる可能性があります。 （名倉委員） ②利用図書に経費を絞った事は有効だったと思います。 ⑤ハード面の改善は何をしたのが明確でない。 （青木委員） 友達とうまく付き合えない若者が増えているように思われうる．学生どうしのつながりが育まれるような支援や環境整備がこれから益々必要になってくるのではないか？ （安達委員） ①のメンタルヘルスに関しては、企業でも重要課題になっている事であり、生い立ちの中で集団行動の機会が重要と感じている。寄宿舎生活での主体的な活動の仕掛けを更に期待したい。 （芹澤委員）＜海野委員代理＞ また、生活一般として保護者の立場から1～3年は、素行・生活など気になる事柄は多々ありますが、高校 PTA のような地区会がないので、情報は学校・子供からのみで、不安な部分があります。 市補導員をしているので、覚せい剤・変質者などの犯罪情報を知ると、学校では情報が配信されているのか不安になります。沼津署・富士署管内は、覚せい剤犯罪が、県内でトップ、全国的にも上位です。 某私大の話ですが、友人が○○大学に通っているころ、頻繁に下校時間になると、校内放送で、「○○大学生（別の私大生）が、○駅周辺で待ち伏せているので、避けて下校するように」など流れたそうです。今は、携帯メールなどが普及しているので、犯罪ほか生活に関する情報をリアルタイムで情報提供できると思いますので、検討してみてはいかがでしょうか? また、授業において法律・経済など、義務教育では教えない被害に遭わないための一般常識を取り込んでいただければ有難いと思います。 生活支援について、実施していないようであれば、他大学の学生会などが、卒業・引越しシーズンになると不用物などを後輩のために無料やフリーマーケットみたいにして、譲りあい、誰でも気軽に利用できるそんな仕組みがあればいいと思います。さらに、寮生が近くで、日常的にできるアルバイト等など、学業に差し支えない程度の紹介をしてもらえばと思います。	＜担当部署＞ ○図書館長 平成 21 年度にはハイブリッド図書館として6台のパソコンを購入、設置した結果、学生の利用もかなりあり、順調である。スペース、利用状況をみながら今後の増設等検討していきます。 利用図書については統計を見ながら、今後も必要に応じて進めていきます。 図書館のハード面については6台のパソコンを設置したことにより一部レイアウトの変更をしました。今後は老朽化した空調設備、窓（一部開かない）等、リニューアルの必要があります。 ○学生主事 本校では寮、クラブ活動での仲間づくりを支援してきたが、今年度は学生会より様々なボランティア活動を紹介し、その都度、参加者を募集し、この活動を通じての仲間作りを支援していきます。 青木委員からのご指摘と同様に、学生会より様々なボランティア活動を紹介し、その都度、参加者を募集し、この活動を通じて学生の精神的な健全性育成を支援していきます。 生徒指導に関する情報は、本校も高校の生徒指導の研究会である沼駿地区生徒指導研究協議会（生地研）に加盟しており、この研究会より地域の最新情報を入手しています。地域の補導活動も警察や地域の高校の先生方と共に行い、生徒指導に関する地域の最新情報を入手しています。 また、警察からも犯罪やその危険性を知らせる最新情報が入り、校内放送で伝達しています。 ○寮務主事 寮では棟ごとに学生どうしのつながりが深まるような企画を立案、実施している。また全寮生対象にこのような企画も実施している。具体的には棟別杯と言われるスポーツを中心とした企画や夏祭り、クリスマスパーティー、書初めなどである。また新入生歓迎親睦会、寮祭なども実施しています。 メンタルヘルスについて女子寮生に対しては看護師の資格をもった臨時女性職員を採用し、週に2日 17 時から 22 時の間女子寮を巡回、寮生の体調管理を行いながら女子寮生から話しを聞いています。 全寮生に対しては学生支援室と連絡を取り合い必要とあればカウンセリングを受けるよう寮生に助言しています。 教育寮であるのでアルバイトの紹介は行わない。但し、生活費のため必要ならば週2回のアルバイトは学業に差し支えない範囲で許可制により認めています。

資料11－２－②－３の続き

(6)教育環境の整備・活用について	＜担当部署＞
(中村委員長) 教育環境では、安全がもっとも重要と思います。その点で安全衛生セミナーを2回開催し、啓蒙活動を行っていることを評価します。私の経験から、安全メガネの着用で防げる事故が多くありますので参考にしてください。 なお、情報機器についてシートに触れられておりませんが、日進月歩ですので、リースにするほうが教育としてもよいと思います(念のため)。 (橋本委員) ③高専においても企業と同様、運用面で各種国家資格(有機溶剤作業 etc)が必要でしょうか？必要ならば教職員の皆様の資格取得・スキルレベルのデータベース化と維持・メンテをしっかりと行う必要があるでしょう。 (名倉委員) ①機械実習工場は時代にあった機械設備を計画して欲しい。 ②環境改善も目視化、数値化が大事だと思います。	○安全衛生委員会(副校長) 安全衛生に関する資格について、法的または運用上の訴求かを踏まえて、戦略的取得計画が達成されるよう、必要な場所、作業及び資格を明確にし、資格取得者等をデータベース化することにしました。併せて、安全意識の向上のため、安全管理者選任時講習を毎年1～2名ずつ教員に受講させ、数年のうちに各学科に1名は受講者が配置されるよう計画することとしました。 ○事務部長 第一次補正予算の配分により、実習工場をはじめ各実験室のうち16件の設備を更新することができ、その一部をHPで紹介したところです。引き続き、自助努力も含め陳腐化した設備の更新に努めたいと思います。また、今後概算要求事業において、実習工場の改修整備を優先的に要求していくこととしています。 ○総合情報センター長 総合情報センターで管轄する教育用計算機システムについては、5年のリース契約で定期的にシステムを更新しており、平成22年度から、電子制御工学科および制御情報工学科演習室を含め、計160台のPCがリース契約で定期更新の対象となっています。

2. 研究に関する事項	学校側の対応等について
(中村委員長) 地域を意識した産学連携を基本とした研究を行っていることを高く評価します。また、産学連携を通じて学生を教育しようとしている地域共同テクノセンター長はじめ、教員の方々の努力に敬意を表します。 (橋本委員) ①外部資金獲得に向けた取り組みで、沼津高専は平成20年度実績では共同・受託研究で全高専中3位、科研費補助金では17位となっています。決して少ない訳ではありませんが、まだ貪欲さが足りないと思います。私自身の話で申し訳ありませんが、弊社がスポンサーとなっている財団での最近の助成金応募では、高専からの件数が少しずつ増加しています。国だけではなく民間の財団にも積極的に応募することも奨励されては如何でしょうか。 (名倉委員) ③他校と比較して如何だったのでしょうか？ (青木委員) 実績欄に記載がないが，豊橋技術科学大学が提供する「高専連携教育研究プロジェクト」により，沼津高専と技科大の間で19年度5件，20年度4件，21年度6件の共同研究が走っている。今後も積極的に教育連携や共同研究のプロジェクトに応募していただきたい。	＜担当部署＞ ○地域共同テクノセンター長 これまで積極的に、科研費、豊橋技科大や長岡技科大との連携プロジェクト、NEDO等の公募情報を学内のHPに公開してきました。また、このHPでは国以外の財団の情報も公開していますが、何件かの応募申請はあるものの充分ではありません。また、興味のある先生方自らがそのページにアクセスするというスタイルでしたので、充分効果を上げることができていなかったのも事実です。 本年度からは、公募情報のHP公開と同時にメールにて全教員に更新情報の発信を行う予定です。また、外部講師等により講演会の開催も積極的に行い申請・採択件数の増大を図る予定です。さらに共同研究案件につきましても、全学内にメールで情報公開し、共同研究件数の増大を図る予定です。 他校との比較に関しましては詳細情報が公開されていないこともあり、難しいですが、公開されている情報である科研費件数と取得額、共同研究・受託件数等については引き続き情報を取得していく予定です。

資料11－２－②－３の続き

3. 社会との連携や国際交流に関する事項	学校側の対応等について
（中村委員長） 地域との連携は十分成果が挙がっていると思います。 学生の海外派遣については、英語力の問題なのか、苦労したくないといった内向き思考なのか、その原因を調べる必要があるのではないでしょうか。 （名倉委員） ③公開講座、地域の生涯学習と連携して開催して欲しい。公開講座のPRを推進して継続すると良いと思いました。 ⑥海外からの学生が増加して良かったと思います。 ⑦沼津高専生の海外留学を積極的作って欲しい。数年後は海外で活躍する生徒が増加すると思います。 （青木委員） 公開講座については，参加費で運営できる，あるいは収益を上げることができるような内容で自律的に実施することが重要ではないか？地域サービスとして継続するには限界がある。 学生の海外インターンシップや国際交流は，何らかの資金援助を受けられるようなプロジェクトの立ち上げ，外部資金の獲得を目指す必要があるのではないか？ （安達委員） ⑦の“海外インターンシップの応募学生がゼロだった”事について、「何故か？」の掘り下げが重要と感じる。 「何故か？」が判ると、単に“海外インターンシップ”の問題だけではなく、種々の課題に対する壁が見えてきて、今後の教育に役立つ場合がある。	＜担当部署＞ ○地域共同テクノセンター長 現状の公開講座は学校方針として「公開講座は，入試倍率向上のために中学生対象に実施する」があげられていますので、34 件中 1 件のみが社会人を対象とした公開講座で、生涯学習とはリンクしていませんでした。 H23 年からは、公開講座を中学生向けと社会人向けに分ける予定ですので、社会人向けについては生涯学習と連携を検討したいと思います。 また社会人(高校生を含む)に対しての公開講座の場合は参加費を徴収しますので、収益を上げることが可能となります．完全自立化については、H23 以降の実施結果を見て検討する予定です。 ○専攻科長 専攻科における海外インターンシップに関する問題点として、現段階では特定の受入れ海外施設の設定が十分でなく、定常的な実施が難しいことが挙げられます。　また、学生の経費負担の問題もあります。事例としては、MSOE での海外インターンシップの実施例、及び正規のインターンシップではありませんが、カナダ国立研究所での 1 年間にわたる研修例等があります。今後、定常的受け入れ先としてドイツの専門大学との検討を進めることと、学生の経済援助の検討を行う計画があります。 ○校長補佐（大久保） 海外インターンシップ等について ・ドイツの専門大学と学術交流協定を結び、さらに交換留学生の海外インターンシップの可能性を探るための調査を行います。 ・8 月に 16 日間の予定でイギリスにて語学研修を行います。

4. 管理運営に関する事項	学校側の対応等について
（中村委員長） 校長のリーダーシップの下でうまく運営されていると思います。特に事務マニュアルの作成、成績管理システムの導入など、学生へのサービス向上に繋がる努力が為されていると思います。 （青木委員） 科学研究費等外部資金については、教員個々の努力だけでなく，高専内外との連携による戦略的な取組みが必要ではないか。技術科学大学との共同研究も、ぜひ発展的に利用していただきたい。 教員の人事交流については、交流自体が目的化しているように思われるところもある。これは高専機構への要望となるが、交流によって生まれる成果を明確にした人事交流のプログラムを企画してほしい。	＜担当部署＞ ○事務部長 本校が作成した「年間業務スケジュール表」と機構が公表する「事務マニュアル」を有効に活用し、さらなる業務の効率化を図るとともに、引き続き、職員を各種研修会へ積極的に派遣し、スキルアップを図りたいと考えています。

資料11－２－②－３の続き

5. 総合所感 （本校の教育研究・運営体制等全般に関して、どのような事でも構いませんので、ご自由にご記入ください）	学校側の対応等について
（中村委員長） 沼津工業高等専門学校からは、これまで優れた人材が輩出されておりますので、これまでの教育に自信をもって頂きたいと思います。なお、世の中が変化し、多くの分野でパラダイムシフトが起きています。その辺りを卒業生を活用して把握して教育に反映させていくことが大切だと思います。 国、企業等、どこでも人財がすべてです。貴校の益々の発展を期待しております。 （橋本委員） 1. 平成 21 年度　年度計画　自己評価表について 60 項目以上の各アイテムについて丁寧な実施状況が記述されています。しかしながら、PDCAを廻す観点から言えばチェックまでで、次年度のプランに続けるアクションの記述が不足しているようです。 「・・した。」だけではなく、具体的な課題について幾つかの例を挙げるだけでも判り易いのですが。 2. 次年度計画について 前述のように 60 項目以上の管理は大変だと推察します。すべてをB以上、出来ればAを評価したいのは判りますが、項目が多いため全体に分散してしまう感があります。5から 10 項目の重点管理項目（例えば：ものづくりステップアップ実践プログラムなど）を決め、これを重点的に管理する。 評価シートも重点項目だけを 1 枚に纏める。 その他の項目も管理はするが、エネルギーは抑えるべきです。 2～3 年に跨る計画についての記述がありませんが、60 項目もあれば長期に亘る計画があっても可笑しくないと思います。この項目は 3 年間の 2 年目の計画というような表現をして頂き、期間中の評価をすればよいと思います。 3. その他 就職氷河期と言われるこの時期、高専卒の就職（内定）率は大学卒よりもはるかに高いものと推察しております。良いか悪いかは解りませんが、この就職（内定）率は高専PRの絶好の機会と捉えられないでしょうか。沼津高専で高専全体の就職内定率（例えば 8 月、12 月、3 月時点）のデータなどを取り、中学校での説明会に使用されては如何ですか。 （名倉委員） 1. 色々な事に着実に取り組んでいる事に関心致しました。先日、高専機構の全国同窓会連絡会に出席して、他高専の同窓会の現状を聞かせていただき、沼津高専の同窓会は良く遣っているほうだと思いました。これはひとえに学校の協力があることだと思いました。 2. 沼津高専はどちらかと言うと田舎の学校という気が致します。素朴でよい面はありますが、他高専との交流、その他で環境に負けないような取り組みをお願いします。 3. 評価方法で、できる限り目視化、数値化をして表現するとわかり易いのかと思いました。 （廣瀬委員） 私自身、7月の運営諮問会議に参加させていただけたことは、たいへん有り難く思っております。それ以来同じ市内にありながら、どちらかといえば「近くて遠い存在」と感じていた高専が身近に感じられ、新聞・テレビで報道されますと、つい引き込まれる自分を発見しました。 評価シートの個々の項目については、コメントを控えさせていた	＜担当部署＞ ○学生主事 「卒業生を活用して把握して教育に反映させて」とのご指摘につきまして、現在、卒業生（特に退職されたOB）を中心とした人材バンクの準備が進んでいます。学校側が支援して欲しい事柄について、適するOBにご支援を頂ける仕組み作りに、学校側としても積極的に参画し、支援させて頂きます。 ご指摘の内容は、すでに、受験生勧誘のための中学校訪問の折、紹介させて頂いております。昨年度の就職希望学生の17倍の求人があり、内定率 100%でした。このデータの更なる有効利用法を探ります。 OB人材バンクの創設など、卒業生のご要望にお応えすべく、学校として努力させて頂きます。 ○寮務主事 一関高専との交換寮生（互いの寮に4日間宿泊する）を数年前から行っている。今年度は釧路高専からも寮生が本校に体験入寮する。また寮生会本部メンバー（核となる役員）が他高専の寮へ研修に行くことも年1回実施している。また他高専から本校寮への研修も可能なかぎり受け入れています。 ○校長補佐（大久保） 教員FDについて ・年4回（5月、7月、10 月、12 月）、教員FD研修会を開催します。 グローバル化への下地作りについて ・ドイツの専門大学と学術交流協定を結び、さらに交換留学生の海外インターンシップの可能性を探るための調査を行います。 ・8月に16 日間の予定でイギリスにて語学研修を行います。 ○事務部長 限られた経費の戦略的かつ計画的な配分を行うとともに、施設・設備の実態調査を実施し、学生支援や教育研究推進のためのさらなる整備改善を今後も推進していきます。

資料11－２－②－３の続き

だきますが、自らの課題に積極的に取り組まれ、どの項目も着実に成果を上げておられる貴校の実践に脱帽です。貴校の歩みは、必ずや、学生保護者・地域の方々・関係諸機関に理解されるものと思います。 貴校のますますのご発展を祈念いたします。	
（青木委員） 沼津高専独自の中期計画、中期目標を掲げて計画的に教育や学校運営等の改善を行っている点は、非常に高く評価できる. 事務作業量が多くなるが、ぜひ今後も継続していただきたい。 可能ならば、年度計画を達成度で評価するのでなく、改善度で評価するようにし、目標はなるべく高く掲げるようにすることはできないか？法人の評価等外部評価の多くは達成度評価であるため、ともすれば、目標期間内に達成できるようなやや低めの目標を設定しがちである。これでは、むしろ改善の阻害要因になる場合もあるであろう。自主的な取組みであるが故に、形式や結果にとらわれない、実質的な改善の取組みにチャレンジしていただきたい。 （安達委員） （1）全体として「前向きで積極的に学校改革に取り組んでいる」事が伺える。私が運営諮問会議委員を引き受けた時に想定した事よりも、遥かに種々の改善努力をしており、頼もしく感じている。 （2）産業構造の変化や技術の進捗が激しくなればなる程、－ その為の対応 － だからこそ基礎教育が重要（基礎学問があって、初めて応用能力の可能性を作る） の2面的見方と行動策が重要と考える。 （3）年度計画と実施状況から感じる「更に期待したいキーワード」 1. 目的と手段の一貫性（つながり） － その手段で目的・目標に到達できるのか？ 2. 教員としての視野拡大 3. 学生の[指示待ち体質] →[提案型・応用型体質]へ 4. 2面的（両面的）ものの見方 5. グローバル化への下地作り （芹澤委員）＜海野委員代理＞ 基本的には何も問題は無く、教育内容・組織・校長先生はじめ全職員の姿勢、日々努力され、とてもすばらしいと思います。息子が高専に入れた事を誇りに思います。 いつもお世話になり、ありがとうございます。 これからもよろしくお願いします。 （工藤委員） 平成21年度年度計画に係る実施状況及びそれに対する自己評価表等を拝見し、より良い学校運営に資するため、いろんな取組を実践されているという印象を持っており、高く評価しております。項目毎には、特にコメントすることはありません。 以 上	

（出典　運営諮問会議報告書）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価の結果については，毎年，運営諮問会議において検証が行われている。

検証方法も自己点検・評価結果に対する外部委員の意見を聴取するだけでなく，これらの意見に対する学校側の対応表も作成し，それらを踏まえ，双方が意見交換をすることで，より実のある検証が行われる体制を整えている。

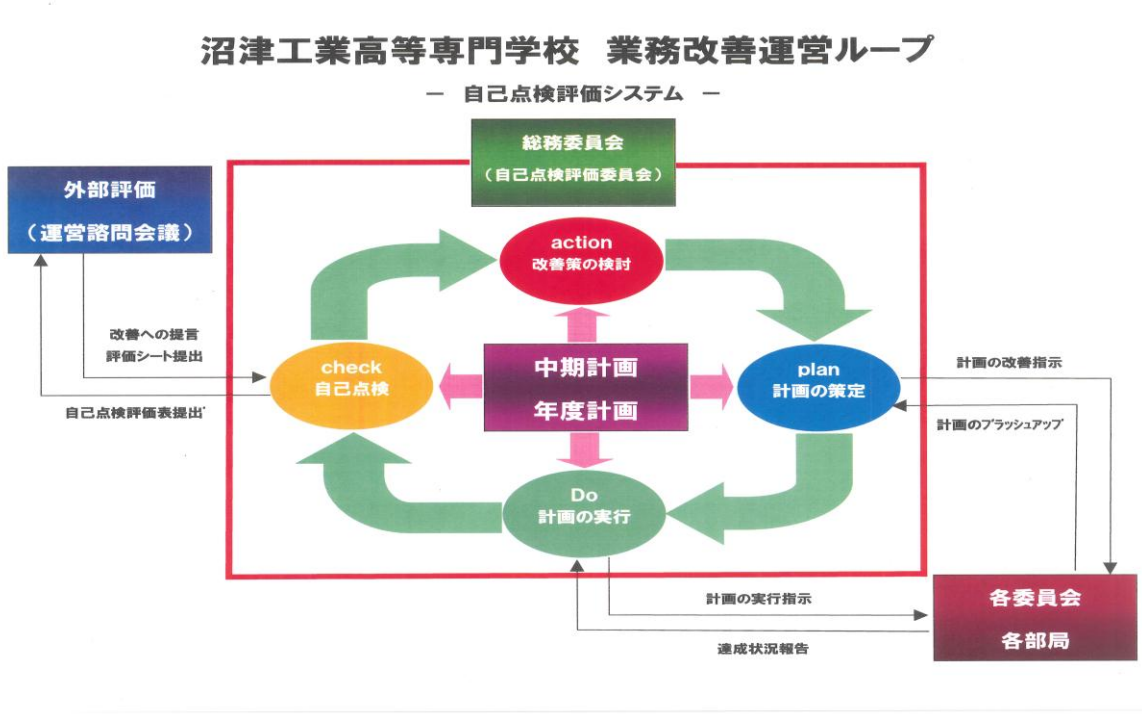
観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検評価の評価結果については，ウェブサイトに掲載し公表するとともに，その内容について総務委員会で報告することによりフィードバックされている。具体的には，総務委員会での報告を受け，各事項を所掌する部局毎に，自己点検評価結果を持ち帰り，同結果を踏まえ，次年度の年度計画策定に反映すべく，新たな改善点や新たな目標設定等に役立てている。これらのシステムを循環させることにより，より効率的かつ効果的な学校運営に係る改善を図る仕組みが構築されている（資料11－２－③－１）。

実際に管理運営上の改善に結び付いた取組事例としては，学校全体の計算機システムの一元化に絡んで，業務情報の一元化も図る必要があるとの提案があり，平成22年度から「業務情報ポータルサイト」（資料11－２－③－２）を新たに導入し，今まで別々に運用していた，総務，会計，学生にかかる業務情報サイトの一元化を図り，学校全体の業務情報を効率よく取り扱うシステムの構築を実現する等，有効に運営されている。

資料11－２－③－１



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－２－③－２

沼津高専　業務情報ポータルサイト 画面



・公式HP関係資料
・各種報告等

○教務関係資料

○教育支援
・共用教室等予定表
・教務関係
・教員FD研修会
・入試関係
・国際交流
・プログラム担当教員会議
・インターンシップ情報共有

○学生生活支援
・学生厚生
・進路指導
・授業料・諸経費
・学生寮
・課外活動
・保健衛生
・授業料免除・奨学金
・警察・生地研
・学生生活支援室情報

○学術情報基盤
・情報セキュリティWG
・図書管理
・情報処理教育

○実験実習支援
・技術室

○研究協力
・助成金公募情報
・科研費
・外部資金・研究契約手続
・知的財産管理

○企画運営・評価
・事務連絡会議
・運営会議資料
・総務委員会資料
・教員会議資料
・企画・地域貢献
・評価・認証
・自己点検・評価報告書

○人事労務
・人事・服務
・労務管理
・出張・研修
・福利厚生
・人事だより

○財務経理
・給与支給・謝金・年末調整
・予算執行
・決算
・監査・検査

○調達役務／資産管理
・調達・役務
・物品管理・廃棄
・工事・施設管理

○各種委員会
各委員会は表示しない

○関係団体
・沼津高専教育後援会
・沼津高専親睦会
・沼津高専同窓会
・財団法人静岡県教職員互助組合

○機構本部関連

新着情報（ポータルサイト内全て）

最新 1日分

表示すべき新着情報はありません。



○沼津高専意見箱



平成22年8月1日運用開始

Powered by NetCommons2 The NetCommons Project

（出典　本校学内限定ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

自己点検評価結果については，ウェブサイトに公表するとともに，総務委員会において報告され，同結果を踏まえ，各部局で次年度年度計画策定に際して反映していくシステムを整備し，実際に目的達成のための改善に役立ており，有効に運営されている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

前回（平成17年度）受審した機関別認証評価自己評価書の中で，「改善を要する点」として挙げた事項に，「外部有識者の意見を学校運営の改善に結び付けるシステムが整備されていない」と自己評価したが，これについては，抜本的な改善を図っている。

本校では，教育・研究・学生支援・社会連携・管理運営等学校全般に渡っての具体的な目標を定めた年度計画及びその自己点検評価について，外部有識者から意見・提言を求め，今後の学校運営の改善に活かすことを目的として「運営諮問会議」を毎年開催している（資料11-３-①-１）。本校の外部評価システムについては，年に１回開催の「運営諮問会議」だけではなく，年度計画策定時及び自己点検評価表作成時において，「年度計画意見表」（資料11-３-①-２）及び「評価シート」（資料11-２-②-２）による意見聴取を行う等，一年を通して効果的に外部評価を受けている。各委員からの意見・提言については，資料（資料11-３-①-３）に示したとおり，実際に年度計画に反映されており，本校の学校運営の改善に活かされている。

外部評価の位置付けは、前述の業務改善運営ループ資料（資料11-２-③-１）に示したとおりであり，これらのシステムを循環させることにより，より効率的かつ効果的な学校運営に係る改善を図る仕組みが構築されている。

資料 11－３－①－１

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

沼津工業高等専門学校運営諮問会議規則

（設置）
第１条　沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に本校以外の有識者による沼津工業高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。
（目的）
第２条　諮問会議は、本校の学校運営全般について、指導及び助言を行い、本校の健全な学校運営を支援することを目的とする。
（任務）
第３条　諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言を行うものとする。
（１）本校の中期目標、中期計画及び年度計画に関する重要事項
（２）本校の教育及び研究活動に関する重要事項
（３）その他、本校の運営に関する重要事項
（組織）
第４条　諮問会議の委員は、人格識見が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者で、次の各号に掲げる者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。
（１）大学等高等教育機関の関係者
（２）産業・経済界の関係者
（３）本校が所在する地域の関係者
（４）本校の支援団体等の関係者
２　諮問会議は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。
（議長）
第５条　諮問会議に議長を置き、その議長は委員の互選をもって充てる。
２　議長は、諮問会議の会務を総括する。
３　議長に支障があるときは、あらかじめ議長が指名した委員が職務を代行する。
（任期）
第６条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
（事務）
第７条　諮問会議の事務は、総務課において処理する。
（雑則）
第８条　この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会議が別に定めるものとする。

附　則
１．この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
２．この規則の施行後、最初に委嘱された委員の任期は、第６条第１項の規定に係わらず平成２３年３月３１日までとする。

沼津工業高等専門学校運営諮問会議委員一覧

氏　　名	現　　職	規　則　根　拠
やなぎさわ　ただし 柳　澤　　正	静岡大学 理事（社会・産学連携担当） 副 学 長	規則第4条第1項第1号委員
わかはら あきひろ 若　原　昭　浩	豊橋技術科学大学 学長補佐 高専連携室長	規則第4条第1項第1号委員
あ だち　　ひろし 安　達　　弘	株式会社リコー沼津事業所 沼津事業所長	規則第4条第1項第2号委員
はしもと くにお 橋　本　国　生	矢崎総業株式会社　取締役相談役	規則第4条第1項第2号委員
く どう たつ ろう 工　藤　達　朗	沼津市教育委員会　教　育　長	規則第4条第1項第3号委員
うち だ たく お 内　田　卓　雄	沼津市小学校・中学校長会会長 沼津市立原中学校校長	規則第4条第1項第3号委員
せりざわ のぶゆき 芹　澤　啓　行	沼津工業高等専門学校 教育後援会会長	規則第4条第1項第4号委員
な ぐら みつ お 名　倉　光　雄	沼津工業高等専門学校 同窓会会長	規則第4条第1項第4号委員

（出典　運営諮問会議報告書）

資料 11－３－①－２

運営諮問会議委員年度計画意見表

運営諮問会議委員平成 22 年度 年度計画意見表例

＜H22 年度年度計画意見表＞
【　氏名：　柳沢　正　】

全体的にはよく練られた計画であり、それが十分に実行されることを期待しています。
以下の点について確認させていただきます。

１．平成 22 年度年度計画項目
○優れた教員の確保
②他機関との教員人事交流の実績はどれくらいか。もし少ない場合の障害は何か（非常勤講師の確保が出来ないからか・・・・。）
④女性教員に関連し、現場教員の要望を反映できるような体制整備とは具体的に何か。
⑤教員の FD に関し、授業参観の機会を設けることが望ましい。
⑥教員顕彰制度への応募状況及び実績は如何か。

○研究に関する事項
①科学研究費の応募や採択の状況は如何か。説明会の開催だけでなく、申請内容や書類についてアドバイザー体制(実績ある教員 OB の活用)をとってみてはどうか。
・教員の研究時間は確保されているか。

○社会との連携や国際交流に関する事項
③近隣市町村の教育委員会との連携を深めることと、中学校理科教員への支援をすることのどちらに重点があるのか。
　もし後者の場合には、その目的をはっきりとさせて取組む必要があるではないか。（教育委員会からの要請／小学校教員含む理科教員のスキルアップ／先生を通じた生徒の理科系マインドの啓発／高専入学生の確保対策）
⑥海外の教育機関との学術交流協定の実績はどれくらいあるか。学術交流協定に基づいて、双方の学生の交流機会を広げていくのが現実的であろう。学生の海外インターンシップについては、自前の可能性を探るよりも、まず機構の募集に応募することを優先させる方が良いのではないか。
⑧留学生の受入れに関する目標（人数や達成時期や等）と受入れ体制の充実（寄宿舎の設置見通しや事務の整備）は整合性をもって計画されているか。

○その他意見
・教育研究交流協定締結（東京工業大、静岡大）の後の進捗状況は如何でしょうか。
・コース制導入について：3～5 年次のコース制に関し、所属学科の基幹科目とコース制専門科目の両方の受講が学生にとって負担超過とならないか。

＜ 平成２２年度年度計画意見表 ＞
【 氏　名 ：　若　原　昭　浩　 】

１．平成２２年度年度計画項目
○入学者の確保
中学への広報の中身について、父兄や中学教員に対して、高専を出ると高校で学ぶのと違う能力を体得できることを明確に説明する必要がないか？
単に、広報活動をふやしても、効果は少ない。高い向上意欲を持った学生を取れるような方策が必要では？
大学全入時代の現在では、高校では身につけることのできない能力（複眼視的に物事を捕らえ、教科の枠を越えた発想で企画・立案・開発できる能力を身につけることが、受験生個人はもとより日本が世界で生き抜いていくために不可欠。

○教育課程の編成等
コース制導入に際しては、育成すべき（輩出を求められている）人材像をクリアにし、その人材像に基づきコース設定・カリキュラムを検討することが重要。人材像（体得する能力）を明確にすることで、入学者の確保、学生の自発的学習意欲の維持など良い面を引き出せるはず。
ここを間違うと、負の面が強く現れリスクが大きい。
専攻科での複合領域の工学教育については、複合領域での教育で陥りがちな「広く浅く」ではなく、本科での専門能力をベースに、ウイークポイントを強化して数段階ステップアップする事を目指して欲しい。
基礎学力の向上を専門と連携して行うことは、学生が学習目的を明確に意識できるため効果が高いので、推進して欲しい。
卒業後を見据えて、自ら考え、意見発信できる技術者としての自覚と自信を涵養する教育について検討していただきたい。

○優れた教員の確保
助教などは、採用時点では十分な経験を積んでいるとは言えないため、学内・学科内での若手教員の指導・育成の取り組みを行うことで、高専の教育の本質を良く理解し、また、外部機関等への派遣（短期・中期）することで、広い視野をもち技術者教育に熱意を持った教員の育成を目指すべきでは？

○学生支援・生活支援等
友達と幅広い視点でのコミュニケーションができない若者が増えている。自分に興味のある点と点を結ぶだけのコミュニケーションではなく、コミュニケーションを通じて、新しいものを作り上げる楽しみが芽生える様な環境整備・支援が必要では？

○研究に関する事項
技科大 の高専連携プロジェクトに多数応募頂いていますので、教員を通しての共同研究に加えて、大学の共同利用設備・施設を積極的に活用していただき、外部資金の獲得につなげられるよう、教員の支援を御願いしたいと思います。

○社会との連携や国際交流に関する事項
③に関しては、学会等で進めている理科教室（応用物理学会などでは、小中学校教員向けのリメディアル教育を推進）などと連携することで、ノウハウ、教材・支援内容の共有などを図れば、投入する労力が少なくて成果が上げられる可能性があるので、検討されては如何か？

○そ の 他
高校教員も指摘しているが、ゆとり教育を受けた学生は、「ゆとり→甘え」の構図に陥っている。高専での５年間を通して、自信を持たせる教育を継続することで、外に向かって発信したくない内向き志向の学生を、外向き（ポジティブ志向、アクティブ志向）に誘導できれば、高専教育の新たな強みを出せるので、検討していただきたい。 但し、高専の環境は、アットホームになりやすいので、過保護にならないよう教員側が常に留意することも御願いします。

（出典　運営諮問会議報告書）

資料 11－３－①－３

沼津工業高等専門学校平成２２年度年度計画（抜粋）

※赤字表記の部分は、「年度計画意見表」及び「評価シート」による運営諮問会議委員の意見を反映した箇所です。

（1）入学者の確保

② 受験生の確保の観点から、静岡県だけでなく高専のない近隣県（神奈川県、山梨県）なども包含し、効果的な入学説明会を実施する。
女子学生の志願者確保の観点から、女子在校生及び卒業生の情報を基に、女子中学生を意識した広報誌及びホームページ（女子の卒業生の情報を意識的に多く盛り込む）などの作成や機構本部作成の女子中学生向けパンフレットの有効活用を行う。

（２）教育課程の編成等

① 産業構造が、環境、エネルギー、福祉、医用等の方向に変化していることを踏まえ、学科の大括り化、コース制の導入及び新分野の学科の設置・改組・再編・整備等の必要性について、将来検討ＷＧを設置し、同ＷＧにおいて調査・審議し、９月末日までに検討結果を纏める。
また、専攻科では本科で修得した領域工学の能力を基にして、複合領域の工学教育について検討を行う。科学技術振興調整事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」により育成するエンジニアが静岡県東部の地域再生計画に貢献する度合を調査しつつ、専攻科における「医用機器開発エンジニア養成コース」の必要性と可能性について調査する。

③ 各学年に対応した外部英語試験の実施や、３年の全国高専学習到達度試験「数学」、「物理」への継続的参加により、該当科目についての修得状況の把握に活用すると共に、試験結果の分析を行い、その結果を教員ＦＤ研修会等で全教員に周知し、全教員が共通認識を持つことで、専門科目を通じて数学、物理の力を伸ばすべく連携を図るなど、教育改善に役立てる。
英語力のレベルを学年の推移を追って客観的に把握しやすくするため、1,2 年生で TOEIC Bridge テスト、3,4 年生で TOEIC IP テストを全学生が受験する体制を整え実行する。

⑥ 校外清掃などの体験活動を積極的に推進していく。また、学外における地域のイベント・出前授業等、ボランティア活動への参加を推進するとともに取り組みを支援する。
工場見学など生産現場を見学する機会に、実際の社会での「清掃」の重要性を学ぶ場を増やすよう努力する。

（３）優れた教員の確保

⑤　年度当初に計画した学内教員ＦＤ研修会（年４回開催 － ５月,７月,10 月,12 月）を実施し、教員個々の教育力向上に資するための取組を積極的に展開すると共に、教員同士の授業参観等を新たに企画し実施する等、教員の意識改革・自己啓発を促す学内システムの構築を図る。

（４）教育の質の向上及び改善のためのシステム

②　平成２１年度に受審したＪＡＢＥＥの継続審査の結果を踏まえ、学習教育目標の達成度評価方法の明瞭化等、「総合システム工学」プログラムの教育システムの一層の改善を図る。また、実施している複合領域の科目について、その教育効果に関する評価を行う。
引き続き、取得可能な資格を調査し、カリキュラムとの対応について検討する。

⑨　e-ラーニングについては、現行の Blackboard からフリーソフトのシステムへ移行するため、ソフトウェア及びハードウェアの変更と更新を行う。高専ＩＴ教育コンソーシアムの教材の活用は継続して検討しつつ、他の利用可能なコンテンツの調査を進め、学内 e-ラーニングコンテンツの充実に努める。

（５）学生支援・生活支援

①　昨年度に引き続き、メンタルヘルスに関する学生支援、キャンパスハラスメント、AED を含む救命救急に関する講習会等を継続して実施する。独立行政法人日本学生支援機構の主催する学生支援、就職・キャリア支援等の研修会やメンタルヘルス研究協議会に教員を派遣して学生支援体制の充実に努める。
すべての教員を対象としたメンタルヘルス講習を教員 FD にて実施する。
「友人づくり支援」を念頭に１年生、３年生の宿泊研修を活用する。

（６）教育環境の整備・活用

③　現在行っている安全衛生管理のための年二回の講習会を継続して実施する。
安全衛生に関する資格等取得者のデータベース化を図り、それに基づき、外部の各種講習会に教職員を積極的に派遣する。

３　社会との連携、国際交流等に関する事項

③　近隣市町村の教育委員会との連携を深め、中学校理科教員への支援などの方策を検討する。

⑥　国際交流推進のため、海外の教育機関との学術交流協定締結を目的とした調査を行う。さらに学生の海外インターンシップの可能性を探るための調査を行う。
学生の語学研修や異文化交流体験事業を積極的に推進するという観点から、イギリスにて語学研修を実施する。

⑦　昨年度に引き続き、機構の募集する海外インターンシップなどに積極的に応募するよう学生を指導する。

（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者等の意見を適切な形で管理運営に反映させている。

外部評価機関である「運営諮問会議」を開催し，外部有識者から学校の運営全般に渡っての意見・提言を受けている他，年度計画策定時及び自己点検評価表作成時においても外部有識者から意見聴取を行う等，積極的に外部有識者の意見を取り入れ，また，それらの意見を反映し，実際の学校運営の改善に役立てるシステムを構築している。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

本校では，外部の教育資源の積極的な活用に関して，様々な取組を行っている。高等教育機関との連携協定は地元の静岡大学をはじめ東京工業大学とも締結し（資料11－３－②－１），両大学の理事を招いて講演会を行う等，積極的に交流を図っている。また，実社会で技術者としての豊富な経験を持つ企業技術者等の協力を得て行う共同教育の一環として実施している「ものづくりステップアップ実践プログラム」（資料11－３－②－２）を平成20年度から開講し，学生に対する教育効果を上げている他、企業で人材育成の経験を積んだ本校ＯＢをキャリアコーディネータとして委嘱し、学生キャリア支援室を本年７月１日から発足させ、更なるキャリア支援業務の体制強化を図ることとした（資料11－３－②－３）。その他に，地元沼津市の「緑の分権改革」推進事業「エコタウンづくり」（総務省委託事業）（資料11－３－②－４）や沼津商工会議所と連携した「ものづくり人材能力開発事業」（資料11－３－②－５）等に積極的に参画し，科学技術振興調整費採択事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」（資料11－３－②－６）を主宰する等，地元産業界の活性化に寄与する取組等の共同教育事業を積極的に推進しており，多様な連携による共同教育の更なる充実に向けて事業展開を図っている。産学連携も積極的に取り組んでおり，企業との共同研究においては，平成21年度の実績では，受入件数及び受入金額とも全国高専第２位と実績を上げている(資料11－３－②－７）。また，本校の学生による学外における地域のイベント参加・校外清掃等の体験活動・特別支援学校の催事支援等のボランティア活動等を積極的に推進するなど，外部の教育資源の積極的な活用を図っている。

資料11－３－②－１

大学との包括協定書事例

静岡大学と沼津工業高等専門学校との間における
教育研究交流に関する協定書

国立大学法人静岡大学（以下「甲」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校（以下「乙」という。）は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意する。

第１条　甲乙は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次の交流を行うものとする。
(1)　授業及び共同研究等の実施とこれに伴う学生及び教員等の交流
(2)　甲乙が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
(3)　(1)以外の学生及び教員等の交流

第２条　本協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度甲乙で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　本協定は、甲乙の代表者による署名完了の日に効力を生じるものとし、５年間有効とする。なお、甲乙は６か月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６か月前までに甲乙により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　本協定に定めるもののほか、必要な事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　本協定に定める事項に疑義が生じた場合及び改訂の必要がある場合は、甲乙が協議の上処理するものとする。

甲乙は、上記協定締結の証として、本書２通を作成し、甲乙記名捺印の上、それぞれ各１通を保有するものとする。

平成21年10月21日

甲　国立大学法人静岡大学

学　長　興　直孝

乙　独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校

校　長　柳下福藏

東京工業大学と沼津工業高等専門学校との間における
教育研究交流に関する協定書

国立大学法人東京工業大学（以下「甲」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校（以下「乙」という。）は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するために、ここに教育研究交流協定を締結することに合意するものである。

第１条　甲と乙は、それぞれが教育及び学術研究を推進する上で必要とする分野において、次により交流を行うものとする。
1　講義及び共同研究等の実施とこれに伴う学生及び教員の交流
2　甲乙両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換
3　上記１以外の学生及び教員の交流

第２条　この協定に基づく交流を実施する際に必要となる事項については、その都度甲乙両者で意見の交換を行い調整するものとする。

第３条　この協定は、甲乙両者の代表者による署名完了の日に効力を生じるものとし、５年間有効とする。なお、甲乙両者は６ケ月前の文書による通知により、本協定を終了することができるものとする。また、本協定が有効期限内に廃止されない場合は、本協定の有効期限満了日の６ケ月前までに甲乙両者により本協定の更新について協議するものとする。

第４条　この協定書に定めるもののほか、必要な事項については、別途「覚書」を取り交わすものとする。

第５条　この協定に定める事項に疑義が生じた場合、若しくは改訂の必要がある場合は、甲乙両者が協議の上処理するものとする。

上記協定の証として、協定書を２通作成し、甲乙両者がそれぞれ１通保有するものとする。

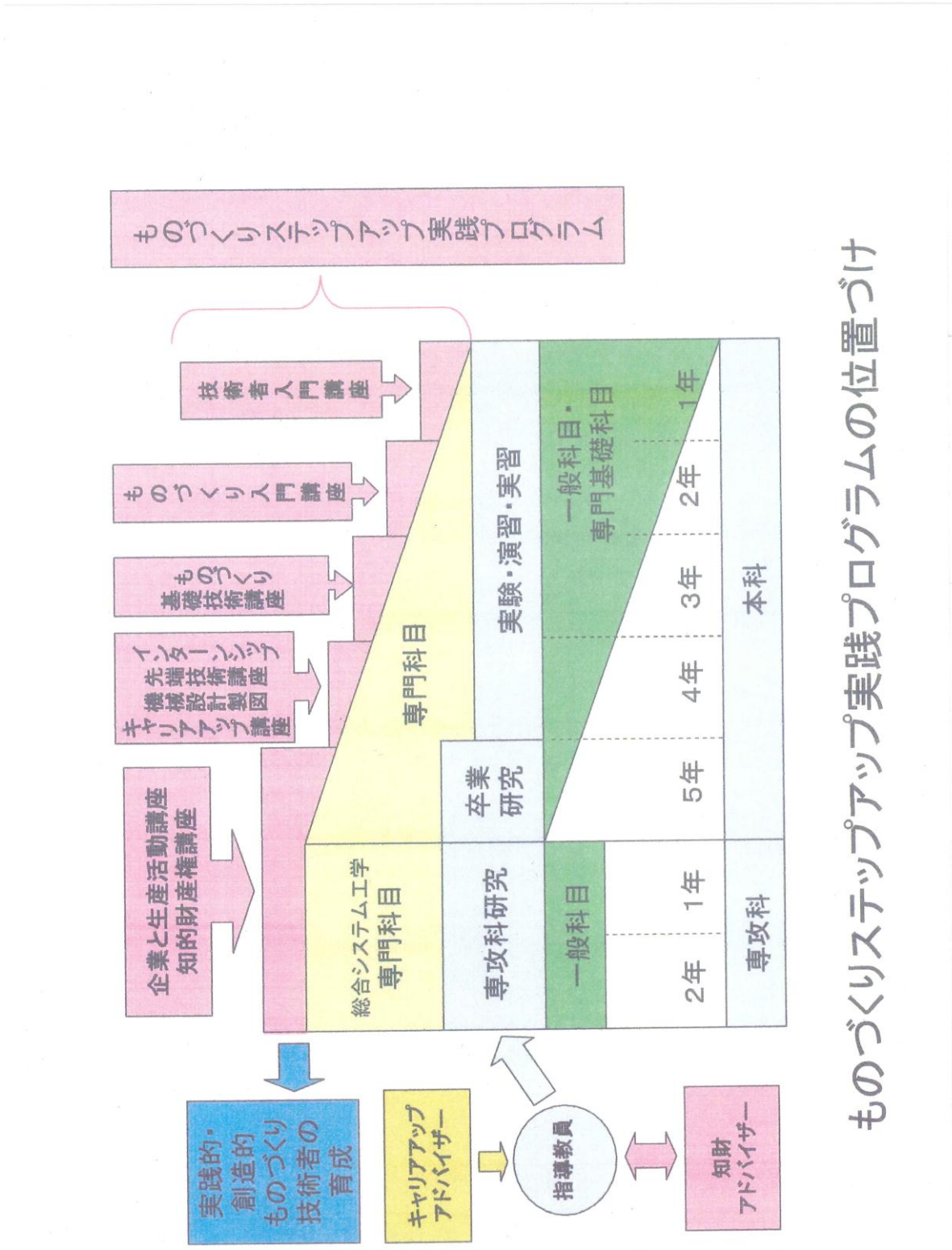
平成21年12月1日
国立大学法人
東京工業大学長
伊賀 健一

平成21年12月1日
独立行政法人
国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校長
柳下福藏

（出典　大学との教育研究交流に関する包括協定書写）

資料11－３－②－２

ものづくりステップアップ実践プログラム内容



別表１　平成２２年度実施プログラム全体の概要

対象学年・講座名	実施内容
１年生・ 技術者入門講座 （特別教育活動の時間を使用）	特別教育活動の時間を使用して前期２回、後期２回の講義を行う。 一般科目が大半を占める１年生に、ベテランの企業技術者が体験に基づき技術者の夢と喜びを語ることで、技術者となる意識を早くから持たせ将来のキャリア形成に対するモチベーションを高めさせる。
２年生・ ものづくり入門講座 （特別教育活動の時間を使用）	特別教育活動の時間を使用して、各学科で前期１回、後期１回の工場見学を組み、訪問先企業で企業技術者の講義を聴講し、併せて工場施設の見学を行う。 工場見学先の現場で、より身近に、具体的にものづくりの面白さと奥深さを学ばせることで、技術者としての夢と期待をより具体的に描かせる。
３年生・ 地域産業とものづくり講座 （既存授業あるいは特別教育活動の時間を使用）	各学科で３コマずつ既存授業あるいは特別教育活動の中で、各分野の専門基礎技術に関連する現役技術者による講義を行う。 地域企業で活躍している現役技術者を招き、現在取組んでいる仕事について話していただくことにより、地域企業の技術力を知らせると同時に、学校で学んでいる専門基礎科目の重要性を認識させる。
４年生・ 先端技術講座 （３０単位時間）	「産業特別」の授業時間に実施し、各分野の先端技術の動向について講義を行う。１単位の選択科目として実施する。 東部地域産業技術振興協会のメンバー企業に講師派遣を依頼し、設計・開発・研究等を担う技術者を講師として招き、各分野の先端技術に関連した講義をしていただくことにより専門科目に対する学習意欲の向上を図る。
５年生、専攻科生・ 企業と生産活動講座 （６０単位時間）	「産業特別」の授業時間に実施し、マーケティング・経営について講義を行う。２単位の選択科目として実施する。 社長として企業経営を経験した企業ＯＢを講師として招き、講義と工場見学および演習を組み合わせて、製造業のビジネスシステムにおいて利益を生み出すための具体的な取組みを紹介していただくことにより経営者的立場の考え方を習得させる。
５年生、専攻科生・ 知的財産権講座 （３０単位時間）	「産業特別」の授業時間に実施し、特許による技術の権利化について演習を含めた実践的な講義を行う。1単位の選択科目として実施する。 （財）浜松科学技術研究振興会特許管理部マネージャーを講師に招き、特許による技術の権利化について演習を含めて講義していただくことで、知的財産権の重要性を理解させ経営者的立場の考え方を習得させる。

（出典　学生課作成資料）

資料11－３－②－３

沼津工業高等専門学校学生キャリア支援室規則

○沼津工業高等専門学校学生キャリア支援室規則

（平成23.6.8制定）

（設置）

第１条　沼津工業高等専門学校に、学生キャリア支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（業務）

第２条　支援室は、次に掲げる業務を行う。

（１）学生のキャリア支援及び職業意識の啓発の総括に関すること。

（２）ガイダンス等就職支援事業に関すること。

（３）学生のキャリア相談への対応に関すること。（各学科において対応するものを除く。）

（４）学生の就職（インターンシップを含む。）に係る資料収集、整理及び分析に関すること。

（組織）

第３条　支援室は、次に掲げる支援室員で組織する。

（１）室長

（２）各学科及び専攻科就職担当教員　各１名

（３）キャリアコーディネーター

（４）キャリアカウンセラー

（５）その他室長が必要と認めた者

（任期）

第４条　前条第２号及び第５号に掲げる者の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（室長）

第５条　支援室の室長は、校長補佐（学生主事）をもって充てる。

２　室長に事故あるときは、あらかじめ室長の指名した学生主事補がその職務を代行する。

（任務）

第６条　室長は、支援室の業務を統括する。

２　室長以外の支援室員は、室長の命を受け、支援室の業務に従事する。

（報告及び協力）

第７条　室長は、必要に応じて運営状況を校長に報告する。

２　支援室員は、必要に応じて関係教職員に協力を求めることができる。

（事務）

第８条　支援室の事務は、学生課において処理する。

（雑則）

第９条　この規則に定めるもののほか、支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

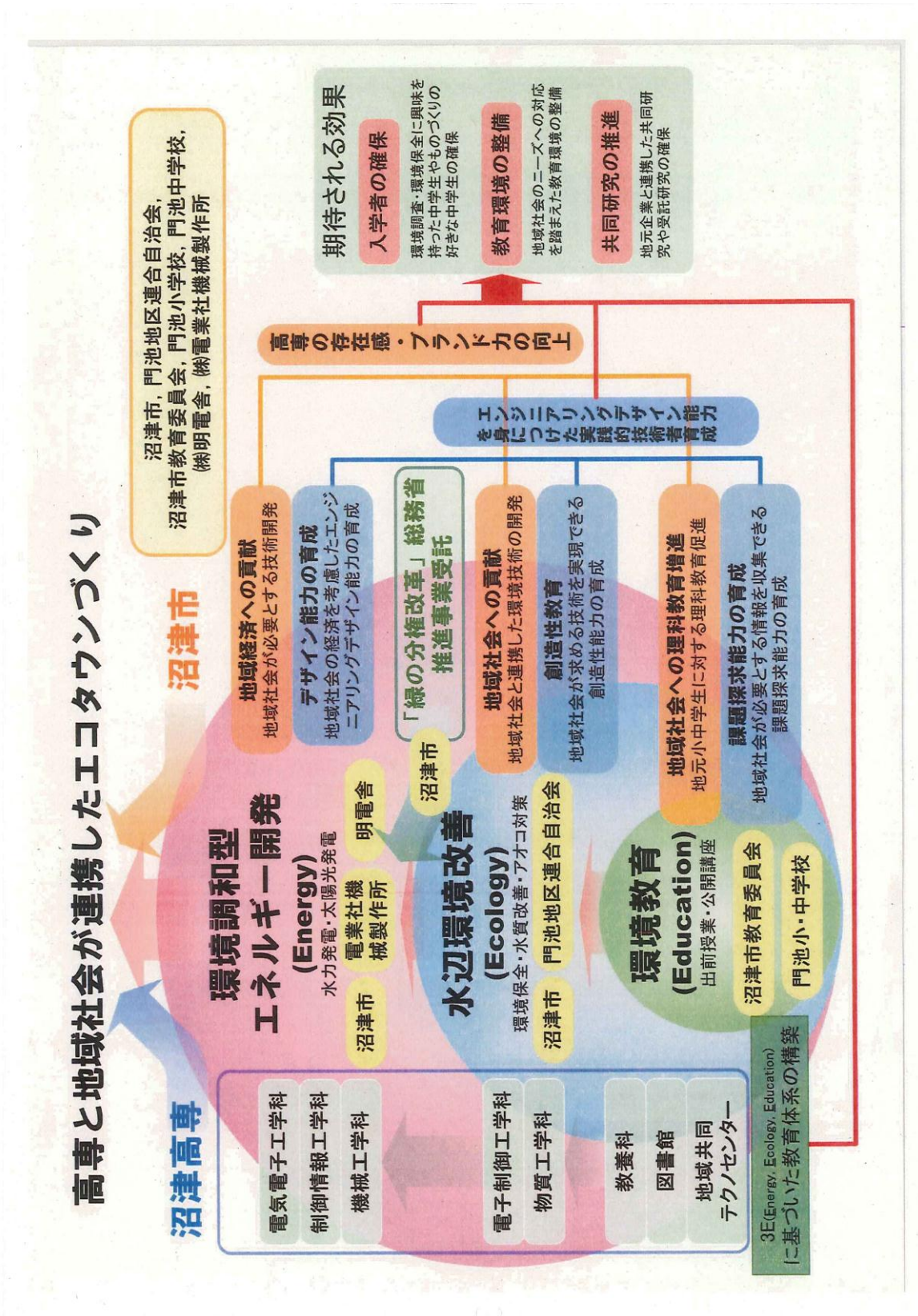
附　則

この規則は、平成２３年７月１日から施行する。

（出典　本校規則集）

資料 11－３－②－４

沼津市の「緑の分権改革」推進事業「エコタウンづくり」（総務省委託事業）



（出典　沼津市「エコタウンづくり」事業資料）

資料11－３－②－５

ものづくり人材養成開発事業内容

平成22年度 ものづくり人材能力開発事業 受講者募集!

受講料は無料です

主催：沼津商工会議所

求職者も応募できます





この事業は全国中小企業団体中央会補助事業「平成22年度ものづくり分野の人材育成・確保事業」の補助を受けて実施するものです。

【支　援　機　関】 沼津工業高等専門学校、静岡県立沼津技術専門校、沼津工業技術支援センター、沼津公共職業安定所

【講師・協力企業】 相良　誠（沼津工業高等専門学校）、髙松洋至（髙松開発設計事務所）
㈱電業社機械製作所、㈱明電舎、オムロン㈱、㈱リコー、臼井国際産業㈱

講義と実習を通じて、ものづくりに役立つ技術の基礎を学びます。

基礎コース

(1) 計測技術の基礎と応用

【講　師】相良　誠氏（沼津工業高等専門学校教授）他　【募集定員】8名
【開講日】7月26日㈪（講義17:15～20:15 実習は班により異なります）【会　場】沼津高専他
【日　数】12日間（7/26,27,28,8/2,3,4,9,10,11,19,20,23）

(2) 機械設計の基礎と応用

【講　師】髙松洋至氏（髙松開発設計事務所所長）　【募集定員】10名
【開講日】9月8日㈬（講義16:30～19:30）　【会　場】沼津高専他
【日　数】20日間（9/8,15,17,22,29,10/1,13,15,20,22,27,29,11/10,12,17,19,24,26,12/1,15）

応用実習コース

(1) 回転機械 軸受(すべり)の調整

【講　師】㈱電業社機械製作所　【募集定員】4名　【会　場】㈱電業社機械製作所
【開講日】9月13日㈪　【日　数】4日間（9月13日～9月16日まで）9:00～16:00

(2) 材料・部品の故障解析・信頼性評価技術

【講　師】㈱明電舎　【募集定員】2名　【会　場】㈱明電舎
【開講日】11月15日㈪　【日　数】5日間（11月15日～11月19日まで）8:10～16:45

(3) 制御機器入門（学習キットによる自動制御ラインの構築）

【講　師】オムロン㈱　【募集定員】15名　【会　場】オムロン㈱
【開講日】11月1日㈪　【日　数】2日間（11月1日～2日まで）10:00～17:00

(4) ビルディングブロック型PLC基礎（学習キットによる自動制御ラインの構築）

【講　師】オムロン㈱　【募集定員】15名　【会　場】オムロン㈱
【開講日】11月9日㈫　【日　数】2日間（11月9日～11月10日まで）10:00～17:00
【要　件】「制御機器入門」修了または同等レベルでWindowsの操作ができる

(5) 装置産業における工程の可視化

【講　師】㈱リコー　【募集定員】3名　【会　場】㈱リコー
【開講日】11月9日㈫　【日　数】4日間（11月9日～11月12日まで）9:30～15:40

(6) ろう付け技術の習得

【講　師】臼井国際産業㈱　【募集定員】3名　【会　場】臼井国際産業㈱
【開講日】11月8日㈪　【日　数】5日間（11月8日～11月12日まで）9:00～16:45

受講料：無料。
対象者：いずれも高校卒業程度の学力を有する者で、企業在職者（大企業を除く）及び求職者。
募　集：申込後の審査によりお断りする場合もございます。コースにより要件がございますのでご確認下さい。
その他：応用実習コースを受講された方は、平成23年1月開催予定の成果報告会にご参加頂きます。
応用実習コース受講にあたって同意書のご提出を頂きます。

問い合わせ・申し込み　沼津商工会議所 経営支援課
〒410-0832 沼津市御幸町14-5　TEL：055-931-1111　FAX：055-931-1115

（出典　ものづくり人材養成開発事業リーフレット）

資料11－３－②－６

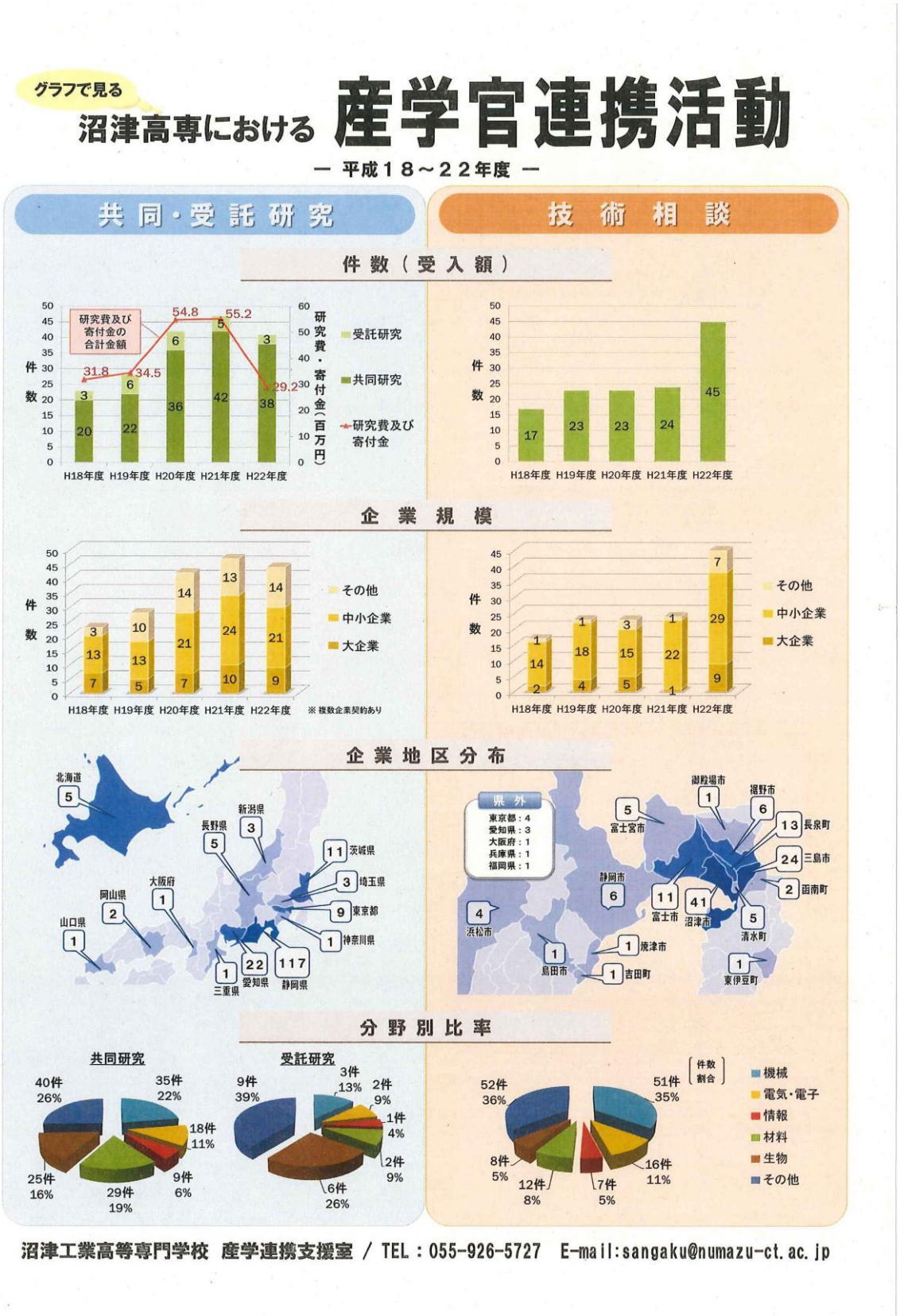
富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム事業内容



（出典　富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム事業リーフレット）

資料11－３－②－７

沼津高専における産学官連携活動状況



（出典　本校公式ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

外部の教育資源の活用という観点では，企業技術者を活用した「ものづくりステップアップ実践プログラム」により教育効果の高揚を図る等の実践例を挙げているとおり，本校は，静岡県をはじめ地元市町村，商工会議所，高等教育機関及び地元企業等との連携を強く持ち，多様な連携による共同教育の取組を実践しており，今後も更なる充実に向けた事業展開を図っている。その他，産学連携や地域の催事・多様な交流体験等にも積極的に取り組んでおり，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

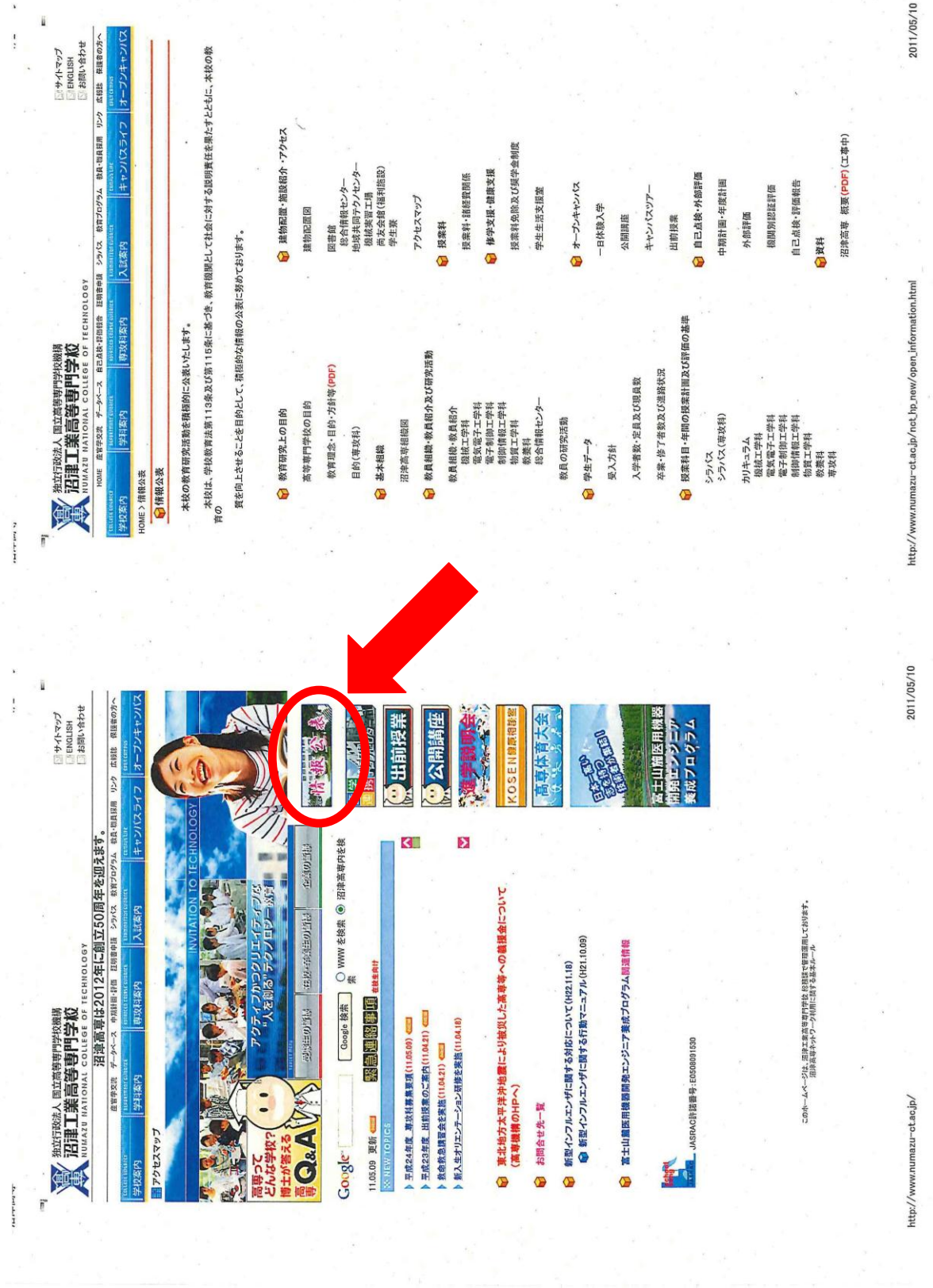
（観点に係る状況）

本校の教育研究活動等の状況については，学校教育法第113条及び第115条に基づき，本校公式ウェブサイトへ掲載することにより公表されている。学校教育法の改正を踏まえ，本校の教育研究活動等の状況をより分かりやすく公表するという観点から、公式ウェブサイトのトップページに「情報公表」のバナーを新設し、そこから容易に内容を確認出来るよう工夫をするとともに、施行規則第172条の２に規定されている項目については，学校概要，高専の目的，教育理念，組織，施設等の基本事項及び学科案内や入試案内等の情報を掲載し，広く分かりやすく一般社会に発信している（資料11－４－①－１）。また，最新情報については，公式ウェブサイトのトップページに『NEW TOPICS』として掲載し，常に新しい情報について，簡単にアクセスできるよう工夫をしている（資料11－４－①－２）。

更に，ウェブサイトによる情報発信だけでなく，新聞・テレビ等のマスメディアへの情報提供も積極的に行っており，本校の教育研究活動の状況・各種行事・イベント等の本校関連の情報については，事前に記者クラブ等に説明文書を配布し，テレビ放映及び新聞記事等への記事掲載依頼を行う等広く一般社会への情報発信に努めている（資料11－４－①－３）。また，研究活動においては，本校教員の「研究・技術シーズ集」（資料11－４－①－４）や「地域共同テクノセンターニュース」（資料11－４－①－５）を刊行し，地元企業をはじめ，共同研究先企業に配布したり，各種イベントの際に配布する等，情報提供を活発に行い，地元企業からも好評を得ており，技術相談や共同研究の件数の増加にも結び付いている。

資料11－４－①－１

沼津工業高等専門学校公式ウェブサイト　情報公表ページ



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－４－①－２

沼津工業高等専門学校公式ウェブサイト　トップページ(NEW TOPICS)



（出典　本校公式ウェブサイト）

資料11－４－①－３

新聞記事掲載内容例

（出典　　）

資料11－４－①－４

沼津工業高等専門学校 研究・技術シーズ集事例



（出典　本校 研究・技術シーズ集）

資料11－４－①－５

地域共同テクノセンターニュース表紙

沼津高専の産学連携　地域共同
テクノセンターニュース
第6号
2010.07.30
発行／沼津高専地域共同テクノセンター

沼津高専の人財探訪 1

今回より、本校の"財産"である研究者を広く皆様に紹介するため、巻頭シリーズ企画「沼津高専の人"財"探訪」と題し、本校教員や研究室をクローズアップしインタビューした生の声を掲載します。
第１弾として、本校若手教員のホープ、物質工学科の竹口昌之准教授にご登場いただきました。



見た目よりも熱いんです。

物質工学科准教授　竹口　昌之先生

竹口先生は、生物化学工学・微生物工学・生物無機化学をご専門とされ、生物機能を利用した有用物質生産に関する研究をされています。現在は、これら専門を活かした廃棄物からの有用生産や新規な生体機能測定法の開発にも取り組まれており、ある地方の農協とのデンプン精製プラントにおける排水有効利用に関する共同研究や、アルコール測定器メーカーとの人体呼気ガス分析方法確立による新製品開発の共同研究に力を入れておられます。これら研究テーマは、指導学生の卒業研究、専攻科研究に取り入れられ、まさに今企業が必要としている製品開発に即戦力と成りうる人材を育成されています。

"廃棄物"は存在しない、全て有効資源

また、地域貢献にも積極的に取り組まれ、本校近隣にあり地元住民のシンボルとなっている灌漑用池「門池」について地元自治体と連携した水質調査や、本校教養科の先生と連携し地元の小中学生を対象とした門池の地理・歴史・自然環境を学ぶ本校公開講座"門池環境調査隊！"を企画されるなど、地域の理科教育増進にも取り組まれています。

地元に根付く活動を

これら業績は学内外でも高い評価を受けており、竹口先生の題目「学生のための高専教員であるための取り組み」は昨年度、全国 51 高専で学生教育や地域貢献に功績があった教員に贈られる教員顕彰の国立高等専門学校機構理事長賞（若手）を受賞されました。

さて、先生と一緒に写っている装置は、メタンガスを食べて生育する微生物を培養する装置です。廃棄物からのエネルギー物質や工業原料生産にも応用が利く装置のため、この分野について、企業との共同研究も募集しているそうです。

気さくで物腰も低く礼儀正しい印象の先生ですが、言葉の端々から、内にあふれる熱い思いが感じられました。

（インタビュアー：総務課総務係）

（出典　地域共同テクノセンターニュース第６号）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動の状況については，学校教育法に基づき，主に本校公式ウェブサイトに掲載し，広く一般社会に情報発信している。また，積極的な情報発信手段として，ウェブサイトだけでなく新聞等のマスメディアにも情報発信を行っている他，本校の研究シーズ集発行等，研究に関する資料も作成し情報発信する等，活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校においては，「社会と共に次世代の技術者を育成する」という共同教育に力を入れており，静岡県をはじめ地元市町村，商工会議所及び地元企業等との連携を強く持ち，多様な連携による共同教育の取組を実践しており，今後も更なる充実に向けた事業展開を図っている。

外部評価については，自己点検・評価の検証も含め，運営諮問会議等を通じて，各委員からの意見及び提案を積極的に取り入れ，それらの提案を次年度の年度計画に反映させる等，継続的に改善を行うための体制整備を図っている。

（改善を要する点）

該当なし。

（３）基準11の自己評価の概要

本校では，校長，副校長，校長補佐及び各種委員会等の役割が明確に規定されており，学校の目的を達成するために，各種委員会等で検討・提案された事項は運営会議で審議された上で，最高意志決定機関である総務委員会に諮られ決定されており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える体制となっている。管理運営に関する各種委員会及び事務組織等においても，その役割を規定に定め，適切に役割を分担し，効果的な運営がなされている。また，危機管理については，あらゆる危機管理に組織的に対応するための危機管理規則を定め，各部局の役割分担等を明記した危機管理対応マニュアルを作成する等，危機管理に係る体制整備を図っている。

自己点検・評価については，教育・研究・学生支援・社会連携・管理運営等学校全般に渡っての具体的な目標を定めた年度計画の項目に沿って，その達成状況に基づき行われており，総合的な観点からの適切な自己点検・評価を行っている。また，その結果を次年度の年度計画に反映させ，継続的に改善を行うための体制が整備されている他，同結果については，本校公式ウェブサイト等により広く一般に公表している。

外部評価については，外部評価機関である「運営諮問会議」を開催し，外部有識者から学校の運営全般に渡っての意見・提言を受けている他，年度計画策定時及び自己点検評価表作成時においても外部有識者から意見聴取を行う等，積極的に外部有識者の意見を取り入れ，また，それらの意見を反映し，実際の学校運営の改善に役立てるシステムを構築している。

本校は，静岡県をはじめ地元市町村，商工会議所，高等教育機関及び地元企業等との連携を強く持ち，多様な連携による共同教育の取組を実践しており，今後も更なる充実に向けた事業展開を図っている。その他，産学連携や地域の催事・多様な交流体験等にも積極的に取り組んでおり，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

最後に，本校の教育研究活動の状況については，学校教育法に基づき，主に本校公式ウェブサイトに掲載し，広く一般社会に情報発信している。また，積極的な情報発信手段として，ウェブサイトだけでなく新聞等のマスメディアにも情報発信を行っている他，本校の研究シーズ集発行等，研究に関する資料も作成し情報発信する等，活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信している。